監督のつぶやき？ぼやき！

５２０話　２０２５．１２．２４

「なぜ？なんで軟式野球から硬式野球に変わったんですか？」と会う人全ての人に聞かれます。そんなに大きな問題なのでしょうか。
みなさん考えてみて下さい。少年時代のスポーツは何のためにやるのでしょう。私達の時代は、学校の部活動が必修でした。今は学校から離れ、本格的にする人からレクリエーション感覚でする人まで様々なスポーツをしている子供達がたくさんいます。（部活動も含め）何のために？
私は、社会に出て戦う為の基本的な能力を養うためだと思っています。人として生活していく為に一番必要なものは健康です。これがなければ、活力的に働く事も楽しむ事も１００%難しくなります。（色々と制限があるという事）
「いや、全ての人がそれなりに出来ます」なんて言葉の上げ足を取る様な意見はいりませんよ。そんな事は百も承知で分かりやすく書いているだけですから。
次は心の強さです。人は生きていれば苦しい事や辛い事、難しい事など様々な壁に当たります。その度に逃げていては前に進めません。転職のコマーシャルだらけの世の中、本当に正しいと思います？〈br〉
スキルを身に付け、アップしていく転職を出来る人が何%いるのでしょう。様々な困難に立ち向かう事なく、逃げまくる人だらけの国。真面目な国になる訳ないですよ。
少年期のスポーツは体と心を鍛え、社会の荒波を乗り越え家庭を築き、家族を養い育て、国のために役に立つ人材を育てるためにあると私は思っています。プロの選手にはなれません。（ほんの数%の人がその世界で食べていけるだけです）
試合に勝つ事や全国大会に出る事、ましてプロになるためではないのです。勝つ事が目的、勝つチームが優秀、勝つためには手段を選ばない。勝つ事が全て、そんな野球がつくづく嫌になりました。自分のチームが勝てば良いではなく、指導者なら野球をやっている子供達全てを好きになるべきです。
どのチームでやっていようと皆同じ野球少年です。勝つ為にインコースのボールをよけないとか、ランナーが捕手のサインを盗むとか、中心バッターにスクイズやヒットエンドランを出すとか。ランナーが出たらベンチ全員で大きな声を出して「ゴーゴー」とピッチャーを威嚇してプレッシャーをかけるとか。（ルール違反です）
練習試合で点差が開き試合はもう決まっている中で、下級生のバッテリーから２盗３盗するとか心の無い野球を見るのに何年もうんざりしていました。
これ全ての事に意味はありますか？本当に子供達のためになりますか？野球大好きになりますか？
日本は勝つ事を褒め過ぎです。だから大人が勝つ事に拘り過ぎた野球をします。
高校野球は商売なので（学校の宣伝広告媒体）、お金をかけて良い選手を集め（野球だけ出来れば良い）、勝つためだけの野球をするのは、大人がお金を稼ぐ為に致し方無いと少し思います。特に私学は少子化の中で生き残る為にしょうがないかと思います。
しかし、学校の部活動としては本来の目的から大きくずれていますよね。高校野球連盟の偉い人達、そう思いませんか？
話を戻しますと、小・中学生のスポーツは商売になってはいけません。あくまで本来の目的、体と心を鍛え社会で戦える人間を育てる為にあるべきです。そのために厳しさは当然必要になります。鍛えるわけですから。
私が硬式野球に舵を切った理由の一つ、本来の目的の為に野球をする人達とちゃんと野球をしたいです。

やってみなければわかりませんが、「やらない後悔よりやった後悔」を選びました。
硬式で練習を始めて１ヶ月が過ぎ、少しずつ強度を上げてきました。まだ数人は少しボールを恐がって正しいスイング、キャッチングが出来ないですが覚悟を持った選手はどんどん上達してきています。私の予定よりは少し早く硬球に慣れてきたようです。
決して焦る事なく、じっくりと基本を身に付けていきたいと思っています。
何も分からない中ですが、今は楽しみが不安を少し上回っています。
たくさんの方々に支援、協力いただき硬式で練習が出来ています。心から感謝致します。ありがとうございます。
今後も変わらぬ応援よろしくお願いいたします。

５１９話　２０２５．１２．６

段原少年野球クラブは、段原野球クラブポニーとなり、軟式野球から硬式野球のリーグに参入します。
1994 年から 30 年以上、中学生と軟式野球をやってきた私がなぜ硬式野球に舵を切ったのか？様々な理由があり全てを書くことは出来ませんが、1 番は時代ということです。
私は今でも中学生は軟式野球でしっかりとした基本を身に付ければ、十分に高校で通用する選手になれると思っています。ではなぜ？　一言で言うと「おもしろくない」からです。日々の練習も試合も連盟の考え方も、特にこの所の数年間は全てがおもしろくありません。
時代の流れから、少子化の中での硬式野球チームの増加。当然、モチベーションやフィジカルが高い選手は硬式野球チームに流れる傾向が強く、軟式野球チームで一緒に野球をやっておもしろい選手は減少します。
段原クラブのみならず、広島中の軟式野球チームのレベルは低下しています。
「やりがい」と言っても、私は野球の上手い選手と野球をしたいと言っているのではありません。意識・モチベーション・目的・目標の高い親子と野球をしたいと言っているだけです。時間や労力をかける「やりがい」です。
年々低下し続けグラウンドに出る楽しみがなくなっていました。私は 66 歳です。あと何年グラウンドに立てるのかわかりませんが、野球人生の最後、本気の子ども達と思い切り大好きな野球がしたい。お遊びではなく本気で野球がしたい。ただそれだけです。
ポニーリーグの勝利至上主義ではない考え方は大好きですし、勝つためだけのつまらない野球にもうんざりしていたので、最後のチャンスだと思いチャレンジする事にしました。ありがたい事に、選手全員が私に付いて来てくれます。
この選手達の為にも、残りの野球人生の全てを賭けて本気で野球をやっていこうと思っています。
「やらぬ後悔よりやった後悔」
今までたくさんの方々にお世話になりました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。
新しいステージで全力で野球をする覚悟です。是非これからも皆様、応援よろしくお願いいたします。
最後にもう一度言っておきます。私が言っているレベルの低下とは、技術の話しではなく「意識の話し・野球に対する思い」の事です。野球の優先順位の高い選手と野球がしたいという事です。

５１８話　２０２５．４．１６

隠れ段原ファンの方からインスタに投稿がありましたので、監督室また書かせていただきます。段原ファンが隠れなければならないのが私の人望のなさ、嫌われ者ですいません。日本という国は本当のことを口にすると嫌われる国だと、ある著名な評論家の方が言っていましたが、本当にその通りです。思っていることをはっきり言ってあげることが、その選手のためになると信じていますが、言い方を考える必要はありそうですね。
例えば、「野球に向いていない」。これは野球というスポーツはとても難しいスポーツで、フィジカルの高さはもちろんのこと、器用さも必要ですし、脳力も必要なのでなかなか向いている選手はいません。フィジカルが弱く、不器用で、脳力も低いとなると、当然向いていないということになります。では「野球をやめろ」ということなのかというと、そうではありません。自分が向いていないことを理解しなさいと言うことです。
ではどうするのか、向いている人より多くの練習をしなければいけませんし、工夫も必要ですし、考える時間も必要ですよ、今のままでは良い結果に近づくことは難しいですよ、ということを私は言っています。全部言わないと伝わらないのでしょうか。「皆まで言わなくてもわかる」が日本人だと私は思っていましたが、今は日本人の良さがなくなってきているようですね。

センバツが終りました。前回言った通り、中心選手がインコースのストレートを捌けないチームは、平均以上の能力のある投手は打てないでしょう。インコースを捌くには技術が要りますが、その技術が分かりますかね。高校野球は解説者も含め、ことあるごとにセンターから反対方向に打つようなことしか言わないので、アマチュアの人たちはバッターの 1 番重要な能力はストレートに遅れることなく引っ張れることだ、ということを理解していません。ストレートを遅れずに引っ張れない選手は上のレベルで通用しにくいです。間に合うということが野球で 1 番大事です。

広島商業と智弁和歌山の試合を見ましたか？野球というスポーツの捉え方が全く違うチームなので、やること（練習内容等）全てが違います。違うスポーツをやっているように見えましたね。それは仕方のないことです。選手たちは、指導者の考えに従わなければならないので、指導者の野球というスポーツの捉え方次第で、子供達は、好む・好まざるにかかわらず、そのチームの野球をやるしか、試合に出る方法がありません。チーム選びは野球選び。どんな野球がしたいのか、どんな野球が自分に合っているのか、野球人生の頂点をどこで迎えるのか等、しっかり考えて学校（チーム）を選ばないといけないのではないでしょうか。

私は何が正しくて何が間違っているという話は一切していませんし、誰も否定していません。野球に正解はないと思います。ただ、私が思う「子供たちの夢に寄り添う野球」は私の中にはあります。それを段原クラブの中で子供たちのためにやり続けているつもりですが、なかなか伝わらないことが今は多くて、苦労しています。
やりたい野球ができるチーム（それは練習・試合ともに）をしっかり見て考え・選択することが、自分の野球人生を納得できるものにするために必要なことです。

「出会い」選手と指導者、野球を共感・共有できると良いですね。

段原クラブは、選手と最後まで野球をします。3 年生がすべての大会が終わって、卒団式をした後も、選手が望む限り、高校に行く前日まで一緒に野球をします。新チームの選手中心での練習になり、3 年生が

グランドの隅で練習をしたり、新チームの練習のお手伝いのようなことをすることはありません。
何なら 3 年生の練習に私は付き合うことの方が多いくらいです。ここは他のチームと絶対的に違うところだと思います。他のチームの話を聞くと、わざわざお金を払って、遠くの野球教室に行ったりしている選手がいるそうです。なんでそんなことになるのか。勝つことが目的だからです。勝つために大会の終わった3年生に指導者は興味がなくなります。今年は、4月6日日曜日、井崎(海田高校)、小田(広島商業)が高校に行く前の最後の練習に参加し、卒業生全員を高校に送り出しました。
だから段原クラブの選手たちは卒団後も成長し、高校野球で活躍する確率が高く、大学まで野球を続ける選手が多くなります。当たり前のことです。

私は特別な才能を親から貰いました。中学・高校で他の選手たちより努力した覚えはありませんが、誰よりも打てましたし、投げられました。
甲子園にも行けましたし、プロ野球にドラフトで指名されました。しかし、努力をしない選手はそこまでです。自分の努力が足らず、二流の選手で終わり、後悔しています。ことあるごとに、何度も何度もやり直したいと思います。すべての選手がプロ野球選手になれないなんてことは、百も承知しています。ほとんどの選手がプロになりません。問題はそこではありません。本人の納得ができる野球人生を送って欲しいのです。

言い方を変えると、やり切ってほしい、自分の持って生まれた器よりも、少しでも上に、そのためのお手伝いをするのが私の仕事と捉えています。だから耳障りなことを言うことは当然あります。
「鍛える」「心と体」を。たくさん練習できる、強い心と体。苦しかったり辛かったりは当たり前、「鍛える」とはそういうものだと私は信じています。

後悔しない、納得した野球人生のお手伝い。そのために段原クラブと私がいます。まぁまぁ役に立てると思っています。

５１７話　２０２５．３．２５

緊急提言
監督室約半年ぶりです。なぜアップしなかったのか？
昨秋新チームになってから私の約 60 年の野球人生の中で、見たことない、聞いたこともないような野球が目の前で毎週起き、私の精神が正常を保つことが難しい状態が続き、多分不適切な表現をアップすることになり、多くの方に迷惑をかけることになりかねないと思ったのと、もう一つこれだけ何もできないチームの監督が意見を言うのも恥ずかしいし、説得力もゼロだしねと言うことでやめていました。
今の時代文字より映像だと思い、春からネットを使って発信していこうと思っていますが、今の段原クラブにはなかなかこの実力もなくできるかな？できないかな？なんて思っています。
では、なぜ今書こうと思ったか。私は生まれて初めて、センバツ高校野球の開会式を生で見ました。本当は試合を見てみたいと思ったのですが、日程が無理なので開会式を観ました。ついでに試合を見てみたのですが、全国大会に出ているチームの強豪校と言われているはずの野球脳の低さにびっくりして、これほどまでに高校野球は野球の技術や基本的考え方を指導する人材がいないのかと言う事実に驚いたので、これは言っておかないとと思って書いています。

段原クラブでは、基本、土日祝、それも試合が多く、しっかり時間をかけて、野球を学ぶ時間がなかなか取れませんが、それでもできるレベルの話です。例年なら甲子園に出場するような野球強豪校はたっぷり時間があると思われますので、指導力不足なのか、そもそも指導していないのかだと思われます。私が言いたいのは、甲子園出場をするような選手なら、教えれば誰でもできるレベルの話です。
私は今まで全国大会に出るためだけの野球は選手のためにならず、選手を大きく長く野球をするためにそれほど必要なものとは思っていませんでした。
開会式を見て保護者のために全国大会は必要だと思いました。
出場してくる選手は全員とは言いませんが、小学生の頃から保護者(両親)と人生のすべてをかけて野球に集中してきた家族だと思います。
子供のために全力で頑張ってきた保護者のご褒美のために全国大会は必要かな？と感じました。私も全力で努力してきた。私も同じように 1 人の選手を見るために行ったのですが、良いものを見せてもらってありがたいなと言う感謝の気持ちになりました。ただ同じように頑張っても、いろいろな条件でその舞台に立てない選手は数限りなくいるということも言っておきます。運も必要だと言うことです。

さて、私がとても気になったプレーをいくつか書きます。

〇ファーストベースへのヘッドスライディング。これは滑ることによって遅くなることや、危険(怪我のリスク)など分かり切っていることなのに、高校野球からなくならない。わからないです。
〇 1 塁ランナーが良いスタートを切って、明らかにスチールが成功すると思われるのに、バッターがスイングしてファールする。(もちろん右バッター)ヒットエンドランと思われる方がいるかもしれませんが、それでもスティールが成功するスタートが切れていたら、見逃すくらいの事はできなくてはいけないと思います。
〇打順が何番であれ、(4 番でも) 無死 1 塁や無死 2 塁は、ほぼ送りバント。なら打順は、打てる順でいいです。送りバントをダメと言っているわけではなく、状況判断、場面次第ですし、みんな 3 割 4 割打っているのではないかなって思いました。プロ野球選手より打率が良いのになんでバントが多いのか不思議です。
〇 1 死 2、3 塁で、大きなセンターフライで守備側がホームにボールをつなぎ、2 塁ランナーを 3 塁に行かせる。初めからショートは 3 塁につなぐ指示をするべきだし、そのカットに入っていれば 3 塁進塁は防げていました。ホームは全く間に合わな大きなセンターフライをバックホームする理由は見つからない。
〇これは高校野球で本当によく見るプレーです。ランナー2 塁でヒット、守備側がバックホーム、ホームベース上でタッチプレイ。もしくはタッチしなくてもホームまでボールが帰っているのに、打者走者が 1 塁ベース上にいるひどい選手はガッツポーズしている。
特に 2 死でホームがアウトになる確率が高いと判断した場合はおとりになるためにも、打者走者は 2 塁に行くべき。それを見て守備側がカットしてくれれば得点になるわけですから、ボールをホームまで投げさせない走塁が必要、そういう指導がほぼない。
〇右の大型バッターに多い、腕力だけで外めのゆるいボールを遠くに飛ばす中心打者、一度スイングを見れば、インコースのストレートは言って投げても芯に当ててフェアゾーンに打つ技術は無い事はわかるはずなのに、追い込んで中途半端な変化球を投げて打たれる。今どきアナライザー？分析班のようなものがあるようですが？
〇高校野球のレベルでは、大抵の場合、右の大型バッターはインコースをさばくことはできません。私もその中の 1 人でしたが、ただ、ありがたいことに体が大きく中心を打っていると、ほとんどのピッチャーは逃げてくれて、得意なアウトコースに遅いボールを投げてくれて打てました。それで私は打率を稼いで

いたわけですが、ほとんどの右の大型バッターにも当てはまると思います。それはバッテリーが試合の中のスイングでわかるように指導する必要があると思います。

話は変わりますが、今やっているのはセンバツ、選ばれた高校が出ています。夏の大会と違って負けた高校も出ています。問題は選考です。高校野球連盟の偉い方々が話し合って選んでいるのでしょうが、なぜコールドゲームのような試合があるのでしょうか。コールドゲームとはあなたたちの実力では９回までやる資格がありません、もっと練習をしておいでと言う意味だと私は解釈しています。違ったらすみません。全国大会ではコールドゲームが採用されていませんが、なぜ長年高校野球に携わっておられた方々が何人も集まって選考されてこんな試合になるのでしょう。地域格差？ひと冬越して差がついた？いろいろ理由はあるのでしょうが難しいですね。
私は 1 回戦で 1 対 0 で負けましたが、相手が優勝しましたので、冗談で「準優勝だよね」なんて言っていましたが、全国大会も 1 回勝つか負けるかは抽選の運も大きいと言う事ですね。
そんなこんなで書いてきましたが、これは悪口ではありません。高校野球に限らず、子供たちの野球に携わっている方々は、まぁまぁ子供たちに厳しいことを言うのでしょうし、子供たちはそれを聞く以外ないのでしょうから、子供たちにだけ努力をしているのではなく、指導者もしっかり勉強する必要がありませんか？ということを言いたいのです。
私も今の段原クラブの基本的身体能力に恵まれず、練習する体力・精神力の乏しい選手をどう変えていけるのか日々悩んでいます。今まで経験のない試合内容の中で心が折れますが、やめるわけにもいかず苦しい日々です。
何とか毎日努力する癖をつけてもらうか、技術の向上のため工夫してもらうか、野球脳を高めてもらうか、いろいろなアプローチをしたいと思います。ただ、いかんせん、基本的身体能力の、強いボールを投げる（遠くにも含む）、速く走る、筋力がある、打った打球が遠くに飛ぶなど、あまりに低い場合には簡単ではありません。野球強豪校は宝の山です。ダイヤの原石がゴロゴロ転がっています。後は磨くだけ、うらやましい限りです。ただ、強豪校ですか指導をしたことのない人は、ダイヤモンドと思っていないのかもしれません。いちど、本当に普通の能力の選手と野球をやってみれば、いかに自分が恵まれた指導者が分かりますよ。ダイヤモンドは磨いて次のステージに上げてあげましょう。責任だと思います。私も他人の事ばかり言っているわけではありません。全力で石を磨いてピカピカに出来るように勉強していきたいと思います。石でも磨かないダイヤモンドより光るかもしれませんから。

（追伸）
エナジックスポーツが 1 回戦勝ちました。野球はほぼ 100%近くピッチャーが良いチームが勝つので不思議なことではありませんが、慶応高校が優勝して一気に丸刈りの高校が減ったのと同じように、通信制及び午後から野球をやる学校が増えていくと思われます。大会前から勉強せずに野球をやっている等と、いろいろな意見が出ていますが、これは今に始まったことではありません。数十年も前からずっとそんな高校だらけでやっているのが甲子園と呼ばれる全国大会です。偏差値が高いと思われている高校にだって野球部はほぼ別枠が当たり前ですし、何なら県立の全国誰もが知っている名門校も野球に特別な才能があれば合格します。午後から体育の授業と称し野球をやっている学校はエナジックだけではなく、数限りなくあります。文武両道？全国大会に出場してくる学校にはほぼないのが当たり前、これが高校野球の現実なのは今も昔も変わっていません。今更エナジックのことをグズグズ言っている意味が分かりません。文科省が高等学校認可しているのだから、何も言う事は無いよね。ただこれから高校野球にこの流れは来ると思います。何年も経って高校野球が終わった後、どうなっているのかを検証しなければ、何が良いのか分かりません。これは中学のクラブチームも同様だと思います。卒業生がどんな人生を歩んでいるかが、その

チームや学校の価値だと思います。
ノーサイン野球がどうのこうのと言われていますが、メジャーのフライボール革命も、タテ振りと呼ばれるバットを下から出すようなスイングも、私は 20 年以上前からずっと言い続けてきましたし、やり続けています。やっと今、野球界が私に追いついてきた感じです。ただタテ振りは反対です、私はボールの高さやスピード、キレによってスイングが変わるべきだと思っています。ボールのラインに長くバットの芯が走るスイングが確率を上げる方法だと思っています。それを瞬時に使い分けられるバッターが優秀なバッターです。とても難しいですが、できるできないは別にして、バッティングとはそういうものだと理解して練習するのと、1 つのスイングしかできないのとでは、結果は変わってくるのは必然です。
ダウンでもレベルでもアッパーでもなく、ボールによってスイングを使い分けるのが正しいと理解すべきだと思います。ですから、すべてのスイングが正しくて、すべてのスイングが間違っていることもあるということです。
野球は相手があるスポーツなので、相手によってやることは変わらないなければなりません。バッティングとはその応用力がある人が、確率よく打つ人です。
今回は久しぶりなので、とても長い文章になりました。
私も含めて全国の子供たちに携わっている指導者の皆さん、野球の技術に頂点はありませんし、日々変化・進化しています。毎日が勉強です。子供たちが 1 日でも長く好きな野球ができるために、大人たちの責任は重いと私は感じています。
勝てばそれに越した事は無いのでしょうが、勝てばそれで他のことも良し、となるのは違うと思います。学生は野球だけやっていれば良し、勝てれば良しではありません。

５１６話　２０２４．１０．１５

段原カップが終わり、卒団試合卒団式が終わり３年生の段原クラブでの軟式野球が終了しました。段原カップ、卒団式、文部県大会にあたり数多くの OB の方々からお気持ちをいただきました。段原クラブから離れた後もいつまでも応援、ご支援いただきありがとうございます。心から御礼申し上げます。子供達の成長、活躍期待しています。
　３年生はこれから、勉強にシフトする人、より野球に集中する人に分かれます。その区切りのために今、卒団式をやります。
　文部の広島市予選で城北中学校にかろうじて勝った瞬間、私は県大会でのコールド負けを予想しました。それは、スチールをアウトに出来ない。内外野とも守れないからです。私がチームの中で重要だと思っている３つのポジション、ピッチャー、キャッチャー、ショートが県大会に出場するレベルにありません。逆に言えばこの３つのポジションが高いレベルにあればチームはなんとかなります。この３つのポジションは特に高い身体能力を必要とします。新チームは全ての選手が中学１、２年生の平均レベルに投げる力と走る力が届いていません。そのため、技術を伝えても練習を重ねても試合の結果に結びつくのは難しいのが現状です。
　予選から１ヶ月キャッチャーを徹底的に鍛えてみましたが、とてもなんとかなるレベルではありませんでした。体の力をつけるのは時間がかかります。来年の４月まで６ヶ月、まずスチールをアウトに出来るキャッチャーとピッチャーが打ち取ったゴロをアウトにできる内野手３人をなんとかしなければいけません。これだけで勝てるようになるとは思いませんが、なんとか試合になるようにしなければ、相手の練習にもならないようでは、対戦相手に失礼です。まず、中学生の平均レベルの体作りに集中したいと思います。これは、食事や睡眠も含めて家庭の協力も必要なので、保護者の意識の変化をお願いしなければいけません。

段原クラブは、入部して３年いるだけで自動的に上達するわけもなく本人、家族の努力がなければ変わり用はありません。体作りは家族の仕事だと私は思っています。土日だけの短い練習時間で、“技術も体力も“はとても難しいです。練習のない日の過ごし方、段原クラブの練習時間以外で何をするか、どの程度時間をかけるか、この辺りが差になってくると思います。まあ、今の所自分に厳しくできる子供はあまりいそうにないので、ある程度グランドで強制的にやってもらう必要があるように思っています。選手、保護者のみなさん、私はみじめに負けるのは嫌いです。これから、少しきびしくなるのは当然だと思ってください。野球の技術をのばすのは、私は専門家ですので段原クラブで３年間本人が正しく努力すればある程度何とかなります。

今、段原クラブでは野球以外のめんどくさいことが次々起こります。これは、家庭のしつけの問題が大きいと思います。私は、野球の専門家しつけや勉強は親と学校の仕事、野球ができないのはこれから本人が本気になれば３年生までに私ならなんとか出来ますが、それ以外のわずらわしい事は勘弁してほしいです。保護者のみなさんしっかりして下さい。

疲れました。本当に疲れました。休みたいです…。疲れました。野球だけを本気でやりたいです。やらせて下さい。

高校、大学と好きな野球を長く続けてもらうためにある段原クラブですし、そのために私は嫌われようと周りに何を言われようと、正しいと信じている野球を子供達に伝えてきました。何を言われようと段原クラブの卒団生がどこより長く野球を続けているのは事実です。そのためにも、私にグランドでしっかり野球をやらせて下さい。段原クラブの活動は全て自由参加です。気持ちが集中できない選手は休んでもらった方が全ての人のためになります。グランドに出るからには全力を尽くす、全力を尽くさないのなら休む簡単な話です。野球を上達させるためのチームです。矯正施設ではありませんし、学校の部活動でもありません。野球をしっかりやるためにそれ以外の面倒なことがなくなる事を祈ります。

お願いします。も一疲れた！！

５１５話　２０２４．９．１１

疲れました。先週はとても疲れました。

土曜日は段原カップで使用する吉川グラウンドの草刈り草むしり、日曜日は朝から３年生のさとやま大会、午後は移動して文部（新人県大会）の広島予選疲れました。

クラブチームを運営していくために必要なものは、まずお金これは保護者からの会費・OB や様々な方々からの寄付やお祝いなどです。

次に労力、コーチや保護者などがチームのために動いてくれる労力（お金のかわり）、それから言葉が必要です。例えば土曜日の草刈り、お金を払えば業者がやってくれます。試合の審判や荷物運びもお金で解決できます。しかし、それでは保護者の金銭的負担が大きすぎるのでいろいろな人たちの労力を出していただいています。しかし、すべての保護者がこれをできるとは限りません。仕事だったり、幼い弟妹がいたりさまざまな理由で労力を提供することができない保護者もいます。それは何の問題もありません。出来る人だけで運営していけば良いです。無理する必要はありません。ただ、一声言葉は必要です。

「お世話になってありがとうございます」「なかなかお手伝いできなくてすみません」感謝やねぎらいの言葉一つでみんなが幸せになれます。しかし、これが無いとチームがギスギスすることに

なります。段原の保護者のみなさんは大人なので当然できていると思いますが、少し気になることがありましたので、みなさんお願いしますね。
３年生のさとやま大会１試合目はとても良い内容でした。不満を言えばきりがありませんが、158㎝の小さい投手が丁寧に低めに投げて頑張りましたし、相手投手の普通のストレートはしっかりスイングできました。しかし、２試合目はそれができません。今年のチームは１年間この繰り返しです。
1日２試合集中した試合が出来ない、体力の問題なのか集中力の問題なのかどちらにしても中学３年生としてのレベルに達していない。このまま、高校に進むと痛い目に合う可能性が高い、中学のレベルで１日２試合もつ体力と集中力できたら２日間、これが高校で勝負できる最低条件だと思います。中体連だった頃のエースは１日２試合普通に完投していました。それに比べると今年の３年生は、まだまだ努力をする必要があります。しっかり反省するべきだと思います。それからもう一つ、見ている人間が変わるとやることが変わる選手は上に上がれません。今のところ残念です。

　新人戦は、相手チームの選手と一人一人比べると全敗0-9です。しかし、この試合は理由は言えませんが、勝たなければいけない理由が私の中にありました。そのため、何年振りか何十年振りか記憶にないのでわかりませんが、勝つためだけの試合をしました。
勝つためだけというのは選手の事は何も考えず先の事も考えず、ただ試合に勝つことだけを考えて私が選手を動かすということです。私がやりたく無い野球です。
まず、相手能力がわからないので相手投手の観察、背番号１をつけている、本日は１試合のみだということはチームで１番の投手である。投球練習を見るとストレートは普通、ストライク率は50%、カーブはとても良い曲がりをするがストライク率は約30%、この情報で考えることは出来るだけ早くエースをマウンドから下ろすことができれば勝つ確率が上がる。そのためには、１人のバッターが５球以上投げさす事ができれば5-6回で100球に達し、交代して力の落ちる投手が出てくる可能性が高い。何とかそれまで点差がつかないようにねばる。私はそのためファーストストライクを全員に見逃すことを命じました。今の１、２年生は追い込まれてカーブが来れば、ほぼ全員三振ですが、三振するということは球数を投げさす事ができるという事なので目的は達しています。2死1,2塁から3盗させたのもバッターが打てる確率が１割も無い中、スチールで相手がミスする確率が１割を超えていると判断したからです。野球は確率のスポーツです。本来作戦とか、状況判断とかいうのは全て確率にもとづいた考え方です。試合に勝つことを考えれば、守備の下手な高校以下の野球でゴロを打つという事も確率として正解なのかもしれません。ただ、私はそれでは選手の能力が伸びることはなく個の力で勝負できる選手になれず、高校から先のレベルで勝負できず野球人生が終わってしまいます。そのため試合に勝つことを優先順位の１番にすることなく、個の能力を伸ばす事を常に考えて子ども達と野球をやっています。
今回、新人戦は私の信念を曲げてでも勝たなければならないものが私の中にありましたのでプライドも信念も何もかも捨てました。結果として勝ちましたが、ただそれだけです。
今私は、１ヶ月後の県大会でみじめな試合にならないようにやらなければいけないことがはっきりと見えていますので大手術が必要です。簡単ではありませんが、やらないとまたやりたくもないつまらない野球をしなければならなくなります。ただ、今回気が付いた事があります。高校野球で勝つことを求められている指導者のみなさんは、毎回こんなつまらない野球を仕事だからやらなければならないのですね。辛くないのかな、なんて思いました。
学生野球は終点ではなく通過点なので、選手の力で指導者が勝たせてもらう方が楽しいですよ。

今週は３年生の最後の試合、段原カップです。
参加していただくすべてのチームの選手、スタッフ、保護者もちろん段原クラブの関係者のみんな満足していただける大会になるよう全力で取り組みます。みなさんよろしくお願いします。
全員で段原プライドです。
３年生のみなさん終わりよければ全て良し
期待しています

５１４話　２０２４．８．２８

夏の高校野球が終わり、段原クラブも愛知（知多）大会・瀬戸内大会が終わり３年生の試合が終わりに近づいてきました。(9 月 14 日・15 日の段原カップが最後の大会)
　段原クラブ史上最も弱い３年生と言われていた今年のチームですが、愛知４試合、瀬戸内大会４試合、計８試合　７勝１敗。強くはないですが、どことやっても試合になるチームになってきました。(当然投げるピッチャーによって変わりますが)
前から言っている通り、無四球、無失策だと良い試合になります。これはどのチームも一緒だと思いますが、これが難しい。夏になって明らかにスイングが力強くなり、数多く振り込んできたものが形になってきました。段原クラブが目指している正しいスイングで、ボールを上げるが出来るようになってきたように思います。
　高校野球に目を向けると私の懸念が現実になりました。低反発の金属バットになり、正しく打たないとボールが遠くに飛ばなくなり今まで以上に「ころがせ」が増えるのではないかと心配していましたが現実になりました。
　本来野球は、ピッチャーはゴロを打たせるか空振りさせるために努力し、バッターはゴロを打たないために努力するものです。しかし、何故か日本のアマチュア野球は昔から上から叩いてゴロを打てと言う指導者が存在していました。「ゴロを打つと何か有るから」と言う、自分の力ではなく相手のミスで試合に勝とうとするさもしい考え方の指導者がたくさんいました。トレーニングやサプリで高校生の体格やパワーが変わり、そんな考え方のチームは全国大会で勝ち上がれなくなり、しっかりスイングするチームが少しずつ増えてきましたが、残念ながら正しいスイングをして打つのではなく、体を大きくしてパワーでボールを遠くに飛ばす打ち方なので大学・社会人・プロと木製バットでは通用しない選手が数多くいました。そして低反発、バッティングの時代は 40 数年さかのぼり、私達が高校野球をやっていた昭和 50 年代に戻りました。ランナーが出たら、バントかエンドラン、スチールを使い、１死ランナー３塁を作り、スクイズで１点をとる、まさに昭和 50 年代の野球です。なぜ 40 数年進んでもバットが変わっただけで時代が戻ってしまうのでしょう。高校の指導者が進歩していないからです。まず正しいスイングがわからない。低反発のバットでも正しく打つとフェンスを越えます。外野に飛んだ打球が失速するのは、正しい形で正しい芯で打っていないからです。バットを腕で振り、下半身の力をボールに伝えられるインサイドアウトのスイングが出来る選手は数少ないのが現実です。腕ではボールを遠くに飛ばすことはできません。低反発のバットにも芯はあります。そこで打つ技術がないだけです。指導者がわからないので伝えることは不可能です。もうひとつ、高校生の守備

レベルの低さです。これも試合をたくさんしますが、高校生は基本練習が足りません。毎日毎日コツコツ積み重ねてやらなければいけない基本練習、土・日・祝、試合ばかりでは出来る日は来ないに決まっています。そのためびっくりするほど守備がヘタです。
「当然ゴロを打ったら何かある」になります。エラーでも記録がヒットになるのも子ども達のためになりません。島根の大社高校が勝ち上がりましたが、神がかり的に相手がミスを重ねてくれました。今年の野球の典型的なパターンです。当然、いいピッチャーがいるのは最低条件です。勝ったというより相手がこけた。大阪桐蔭、智弁、健大高崎などが敗退したのも体もパワーもありますがいかんせん、バッティングの正しい技術がないので甲子園に出てくるピッチャーに対すると、低反発のバットでは対応できないとうことです。バッティングは技術です。パワーはあるにこしたことはありませんが、木製バットで打つためには技術が必要です。
残念ながら上からたたいてゴロを打つは間違っています。
子ども達のために指導者は勉強するべきです。
なぜなら１８才が野球の頂ではありません。
頂上は、もっともっと先にあります、そのために正しい考え方で野球をしなければ終わります。
　段原クラブは、大学野球継続率が他チームに比べて圧倒的に高くなっています。今年の高校３年生は９人全員が大学で野球を続けます。なぜ他チームと違うのか、野球の難しさを難しいからこそ楽しいということを伝えているからだと思います。
その難しさや楽しさは正しい野球、正しい技術があってこそのものです。頂のない野球技術をずっと上を目指してのぼっていくことが段原の野球です。目の前の試合に勝つことを目的にしていません。
京都国際高校の監督が、個の能力を伸ばすことを目的にしてずっとプロ野球選手を輩出してきましたが、今年はバットが変わり小さい勝つための野球に変えたようなことを言っていました。
日本は、「勝てば官軍」なので甲子園出場でいいのかもしれませんが、子ども達の夢は本当に１８才が頂点なのでしょうか？私は、木製バットでやる野球が野球だと思いながら子ども達と野球をやっています。
みなさん正しく打つと低反発のバットでもヒットもホームラン打てますよ。
ゴロを打てと言っている監督もホームランを打つと「ナイスバッティング」と言いますよ。ヒットを打つために練習しましょうよ。
ヒットとは内野手の頭上を越えていく打球のことです。
ゴロで内野手の間をぬけたヒットは運が良かっただけですよ。
人生ずっと運だけでのぼっていけますか。
長く野球を続けることのできる通行手形は技術です。

５１３話　２０２４．７．２５

高校野球の県予選が各県で進み、代表校が少しずつ決まってきています。私は高校野球というものにほぼ興味は無いのですが、段原クラブの OB・特に高校３年生の事は気になりますのでネットなどで確認します。
　今年の３年生は７人、段原クラブに入部した時から７人。当時では入部数最少人数でしたし、試合ができるようになるのかとても心配なメンバーでした。段原クラブはもちろん、高校３年ま

でひとりも辞める事なく続けてくれました。いつもの事ですが、段原クラブの卒団生達は、高校に行ってやらかす事なく全員３年間野球を全うしてくれます。当たり前の事なのですが、今どきこの当たり前の事が出来ない子どもが多い中、段原クラブの子ども達はしっかりしています。最近は～ハラだとかだらけで指導者や保護者が尻込みしがちで躾が出来ませんが（私もその中のひとり）、今の高校３年生の選手達には厳しく接していましたから全員が野球部の中で自分のポジションを掴み、最後まで仕事を全うする事が出来たのだと思います。段原クラブのＯＢとして当然と言えば当然です。これからはわかりませんが？
高校３年生の７人のみんな。私は勝ち負けに興味はありませんが、君達の高校３年間は賞賛に値します。心から拍手を送ります。そしてお礼を言います。よく頑張りました。素晴らしいです。ありがとうございました。次のステージを目指している選手は休んでいる暇はありませんよ。たくさんのお金を使うことになるのですから、今まで以上の努力を望みます。遊びに行くのなら大学で野球をする必要はありません。資格を取った方が人生の役に立ちます。親のお金を無駄にしないように今から本気で取り組んでください。
まずはご苦労様でした。（まだ勝ち残っている選手がいますが）

　話は変わりますがとても腹が立っていることがあります。
ある選手が先発で出ました。１回裏、守備につきます。自チームの投手がメッタ打ち、投手交代となります。新しい投手がマウンドに上がります。投げていた投手をベンチに下げず、守備につかせたため、１回裏の途中で外野を守っていた選手は一度も打席に入ることなく交代、高校３年の最後の夏が終わりました。こんな終わり方あります？
私は何を怒っているのでしょう。まず、先発ピッチャーは背番号１、誰が決めたかと言えば監督、先発を決めたのも監督、その投手が１回もたなかった。誰の責任かと言えば監督、もしくは先発した投手です。なのになぜレフトを守っていた選手が割を食わなければならないのですか、実力の世界だから？だったら先発した投手は、それを決めた監督は実力があったの？その高校は進学校で甲子園など夢のまた夢、初回の失点で勝負アリです。変えられた選手には何の責任もなく、他の人がやらかしたことなのにその選手が痛い目に遭わなければならないのか理不尽にも程があります。私は常々高校野球と書いてりふじんと読むと思ってきましたが、その通りだと今回あらためて思いました。
指導者のみなさん、しっかり考えて下さい。あなた達は来年も夏の大会があります。その次も、その次も、何年も何回かチャンスがあります。しかし子ども達の高校３年の夏は一生に一度です。考えたことがありますか。これは中学生も小学生も同じですが、高校３年は特別です。なぜなら９０％以上の選手が野球を辞めるからです。最後の野球、最後のプレー。がこれですか？
高校野球は全国で１チーム以外全て負けて終わります。負けるためにやっていると言っても良いです。ですから負ける事はかまいいません。ただ、負け方は考えましょう。それが指導者の仕事です。
　選手達、高校３年生には次がないのですよ。本当にわかっている人がこんな使い方をするとは思えません。技術は無くとも良いですが、心が無いはありえない。私は納得出来ません。教育者なのですから、その選手はこの出来事で大学でも野球を続けることを決意したそうです。こんな終わり方では終われないよね。「見返してやろう」私は全力でサポートしたいと思っています。
「勝てば官軍」この考え方は教育の一環である。
学校の部活動にすぎない野球ではすてるべきだと、私は考えます。勝ったチーム、監督、選手をほめすぎです。学校によって天と地ほど環境の差がある中で同じ大会に参加すること自体がとて

も無理があり、有望な選手を何十人も集め、すばらしい練習環境の中、勉強をないがしろにすれば勝つ確率が上がるのは誰でもわかる、それほど難しいことではありません。だれでもできる当たり前のこと（有望な選手を集めるが指導者の素晴らしい能力なのかもしれません。それをほめるのならわかります）をほめる世間の考え方は、私にはわかりません。
　このあたりを変えていかないと高校野球の理不尽はなくならないのだと思っています。学校の部活動です。高等学校であって野球専門学校になってはいけないと思います。
７／２５（木）広島大会の準決勝を少しだけ見ました。投手のレベル通りの勝敗になりました。広商対尾道は、野球脳で広商が上、広陵対呉港は投手力が広陵が上だったという事だと思います。少し気になったのは広陵の高尾投手、ストレートを待っているバッターにストレートを投げると、ことごとく前に飛ばされていた（ファールでカウントがとれない）のでストレートの切れを欠いていると思われます。今の状態は少し心配です。２番手・３番手の出来が大事だと思いました。まったく打たれていないのに四球を出す２番手も不安ですね！
それより気になったのは、打球がランナーに当たった問題、きれい事を言います。たぶん、映像を見て当たったと判断したので当たっているのでしょう。その検証の間、当たったとされたランナーは、サードベース上で何くわむ顔で立っていました。きれい事ですが、本人が当たったと言えば簡単な問題でした。全国の高校球児で、自ら当たったと言う選手はいないのでしょうが、高校野球連盟の旗のⒻはフェアプレーのⒻだそうです。ならば、そこで自ら当たったと言える選手を育てるのが学校の部活動、教育の一環、携わっている教育者の方々の仕事ではないのでしょうか。見ていて違和感もったのは私だけ？きれいごとですかね。
まあ、甲子園が全てだと思っている人がいるんだと思いますね！！

第５１２話／２０２４．７．８

今年のチームは試合でなかなか良い結果（勝利）が出ません。１試合完投出来る力のある投手がいないので当たり前なのですが、平均以上の投手を打つことが出来ません。なぜなのでしょう。
　段原クラブのバッティングの基本的考え方はまずストレートに遅れない、ストレートを狙って打つ場合、芯に当たる当たらないの前に遅れない事が一番だと教えています。そして変化球は泳ぎながら（ずらされた中で）打つ事をやっていますが、今年はまずこのストレートに間に合いません。振り遅れます。平均以上のスピードがあるとほとんど遅れます。バッティングのイロハのイが出来ないので始まりません。
７/7（日）の田布施中学のエースは１２０㎞/h を超えるストレートを投げるピッチャーでした。いつものように振り遅れだらけ。速いストレートの打ち方は教えていますが、全員覚えていない。今年の選手の問題は全てここにあります。
「覚えていない」これに尽きます。理由は様々だと思いますが、とにかく野球脳が薄いのか、私を信用していないのか、ほぼ全ての大事な野球技術を覚えられません。
試合中にもう一度ストレートに遅れない方法を伝えました。全て今までに教えた事がある事です。その後は結果を見てもらえればわかります。正しいことをやれば当然正しい結果が出ます。
今年は一事が万事、こういう事です。私は伝えていない事はありません。伝えていますが、聞いていないか覚えていない、段原クラブの恥がインスタのストーリーに出ています。
ランナーがホームインする時、次打者がホームコーチをします。スライディングを指示していますが、そこにはバットが、ホームコーチはバットを取り除くことなくスライディングの指示をしています。滑れませんし、そこにスライディングをしたらケガをする可能性があります。気がついたのは他の選手、情けな

い映像です。あげた保護者は野球を何もわからない人なので何も感じないと思いますが、これは段原クラブの恥を世間に晒しています。当然教えていますが、覚えられないのか、レギュラーなのに出来ません。これが今年のチームの現実です。
　野球脳はテストの点をとる脳とは違うと思います。本当に野球が好きで向上心が口に出していることと同じようにあれば必ず身につくものだと思います。その点で今年の選手にはその辺り口で言っている程野球が好きではないのでしょう。

第５１１話／２０２４．７．５

先月 27 日で私は 65 歳になりました。誕生日にあたりたくさんの方々から心をいただきました。ありがようございました。特に３年生の保護者の方々には、私のために時間やお金を使っていただき心から感謝いたします。３年生は、卒団まで約３ヶ月。試合に勝つために野球をやっている訳ではありませんが、勝った方が試合数が多くなります。お互いに全力を尽くしましょう。これからの君達に期待しています。
いろいろな雑念をなくして野球に集中して、本当に持っている能力を試合で発揮してほしいと思います。
「段原クラブは最後が一番強い」勝負はこれからです。

５１０話／２０２４．６．２１

６/１６（日）プロ野球界の大先輩　二宮至さん（広島商業―駒沢大学―読売ジャイアンツ）現星槎道都大学硬式野球部監督（本年度も大学選手権出場）と広島で食事をさせていただきました。その席で私は、野球を指導していく上での悩みなどを相談させていただきました。指導者として柱となる信念を持つこと、これが状況でブレてはいけない。例えば軟式離れ、少子化時代の流れなどによる部員の減少などで、指導者がブレてはダメ！！もうひとつは、野球のクラブチームなので野球の技術を指導することは当たり前だが、その前に躾が大事、挨拶や言葉遣い、全力疾走、ここを厳しくしなければ子供達は成長しないし、クラブチームとしての価値が半減するということを言われました。私は今まで野球のクラブチームは野球の技術を伸ばす事が一番で、躾の部分は親の仕事だと思っていました。しかし時代は変わり、今、親も教師も～ハラに怯え、子供に嫌われることを恐れ、言わなければならないことがなかなか言えなくなっています。私もその中のひとりでした。「全力疾走しない選手は試合に出さなきゃいいじゃん」私も数年前まではやっていた事でしたが、部員の減少を恐れたり負けることに怯えたりして当たり前の事をしない選手を試合に出していました。「人がいなきゃ１年生を出せばいいのよ」簡単な答えです。これは厳しい事ではなく当たり前の事、こんな事すらわからなくなっていた指導者では良いチームになるはずがありません。「この本読んでみろ」と言われた本もあるので早速図書館に行って借りてきました。まず自分がしっかりしてチームの再生に向けて努力していきたいと思います。二宮さんありがとうございました。
　同級生が母校の愛工大名電野球部が女子部員を入部させたことの載っている新聞記事を LINE で送ってきました。私はここ数年母校の野球部が高校のクラブ活動の域を逸脱して野球専門学校になってしまっているように思い、悲しく感じていました。そしてこれ！！全く理解出来ません。

「女子野球部を発足させました」なら何とも思いませんが、女子部員は全く別の話です。これは数年前（だいぶ前）だと思いますが、明治大学と東京大学が女子部員を入れてリーグ戦に出場させた時に書いたかどうか分かりませんが、この時も私は怒りを覚えたことを思い出しました。理由を書きます。筋力とスピードが必要なスポーツは、男子と女子が戦うことは理にかないません。だからほとんどのスポーツは男子と女子に分かれて戦います。当たり前です。そもそも物理的に人類学的に無理なのです。ただ小学生は筋力・スピードにそれほど差が無い（筋力の高い）女子がいるので野球もソフトボールも同じチームで戦うことは人によっては可能です。中学生以上になり、男の子が男性ホルモンの分泌が増し、筋力が上がりスピードがついてくると男子と女子は勝負にならなくなります。危険です。次に愛工大名電の野球部は入部に制限があります。入試に合格すれば希望者が全員入部できるわけではありません。例え小学生の時から愛工大名電野球部に憧れ努力を重ねてきた子でも、選ばれなければ野球部に入部することは許されません。今まで何百人という選手が断られたことでしょう。私の教え子も知り合いの選手も現監督に断られました。ひとりは東海大菅生に声をかけていただいた程優秀な選手、もうひとりは全国大会に出場したチームのエースでした。なのに何故女子が入部できるの？何か大人の都合のにおいがプンプンします。努力を重ねてきた男子の夢を摘んでまでしなきゃいけないことですかね。
これは明治大学と東京大学の話ですが、その女子は何とリーグ戦に出場しました。その選手の実力が出場するのに値するのなら何も言うことはありませんが、そんな訳はありません。そのために何が起こるかと言えば、小さい頃から努力を重ねてきた男子選手の出場機会を奪うと言うことです。大人の話題作りのためにです。そのあたり明治大学は数年低迷したはずです。子供の野球を利用して大人が何らかの利益を得ることになります。日本の少年野球や学生野球ではよくあることですが、本来あってはならないことです。小学生から大学生までのアマチュア野球、ましてや高校・大学は教育の一環であるはずのクラブ活動です。その中で飛び交う大人の都合とお金、現実はこういうことです。私たちがやっている中学軟式の組織も時々大人の都合が見え隠れします。本当に寂しくなります。
私は愛工大名電出身ということに誇りを持って今まで野球に携わってきました。残念ですが、数年前からお金で勝ちを買っているようにしか見えず、OB 会の会費も甲子園出場の寄付もしておりません。野球部 OB という立場を辞退しています。今回の記事を見て判断が正しかったと思っています。学校関係者、野球部関係者の皆さん、早く気づいてください。野球の夢に向かって努力している子ども達をお金のために利用しないでください。高校生の女子の子が男の子と一緒に野球をして、女の子のためにも男の子のためにもどちらのためにもなりません。必ず誰かがつらく悲しい思いをすることになります。どうしてもなら女子野球部を作るべきです。
誰かが声を上げるべきです。関係者の中にまともな人はいないのですか。

　段原クラブのユニフォームはわかりにくいのですが、赤いトラがついています。なぜタイガースでもないのにトラなのか、トラは群れないからです。１匹で生活して、１匹で勝負します。野球はチームプレーだとかチームスポーツだとか言われます。確かにその側面はあります。送りバントをしたり、進塁打を打ったり、チームが勝つために必要な場面は確かにあります。しかし極端に言いますと、全員が４割打てば勝てますし、ピッチャーがヒットを 1 本も打たれなければ勝ちます。私はそういう野球を段原クラブで目指しています。なぜなのか高校野球（次のステージ）で活躍するためです。個の力が全員つけば良いだけの話、今までの段原クラブはその考え方で県の４強くらいにはなれました。今勝てないのは個の力が弱いということです。チームプレーって何？バッターはヒットを打てば良いし、守備はアウトをとれば良い。ピッチャーはアウトをとれ

ば良い。そしたらチームは勝てるのです。逆に個の力が無ければ高校野球で勝負できません。だから私はトラが好き、群れるのは嫌いです。
傷を舐め合うのはやめましょう。上のステージに上がれませんよ。

第５０９話／２０２４．５．１５

全軟終わりました。1 対 4 の 1 回戦で、完敗被安打 1 で 4 失点。野球というゲームでなかなか考えられない、計算の合わない負け方です。しかし完敗、何が完敗なのか、バッテリーが完敗でした。身体能力だけでなく精神力も含め全てが負けていました。前にも書いたことがありますが、チーム力は投手力、投手力とはキャッチャーを含めたバッテリーの力のことです。私は今年のチームに春から県大会勝つためには、無四死球、無失策が必要だと言い続けてきました。１安打で 4 失点ということは誰でも想像できますが、それが全くできなかったということです。バント守備のミス、キャッチャーのファースト送球のミスも含めバッテリーの力不足が明らかでした。ただ、バッティングも含め当然、今回出たミスは徹底的に練習してきました。段原クラブですし、私なので当然です。それでも、ここ 1 番でそれが出来ないのは、アマチュアのみなさんが良く言う精神力（心の弱さ）となるのでしょう。しかし、私はそうは思っていません、ただ力（技術）が無いだけだと考えます。練習やトレーニング、ミーティング、練習試合などの活動は全て公式戦で良い結果を残すためにやります。個々の技術力および試合での応用力など公式戦で発揮するためです。練習や練習試合で出来るのに、ここ１番の大舞台（県大会を私は大舞台だと思っていませんが）では、力を出せないとすぐ精神力のせいにする人達が多いのですが、違います。技術と野球脳がたらないのです。悪い言い方をすると下手ということです。だって、ここ１番の舞台でもっている力を発揮できないのなら、その力をもっていても無駄じゃ無いですか。言い方を変えれば持っていないということです。単純に力が無いという事になります。被安打１、４失点 1–4 で負け、番付け通りその程度のチームだった、その程度の選手達だったという事です。
大事なのは、その現実をしっかり理解できるかどうかです。本当は力を持っているのに、たまたま出せなかっただけだと思っている選手や保護者がいるとしたらその選手の成長はありません。
たまたまだろうが何だろうが、公式戦で出せない力は無いのと同じ、しっかり脳にきざみ込んで欲しいと思います。それから、次に進むべきだす。どうしますか、あきらめますか？
決めるのもやるのも全て本人です。それはどちらでも構いません。
今、中学生の野球は軟式離れが急速に進んでいます。広島全体の軟式クラブチームは部員減に悩まされています。理由はたくさんあると思いますが、連盟の発信のしかたにも大きな問題があると思います。今どきホームページを持っていないとか、全国予選の県大会なのに球場ではなく多目的グランドでやるとか（各支部の予選も含めて）、どしゃぶりの雨の中でも無理やり試合をやらせたり、試合内容がバント、エンドラン、スクイズ、内野ゴロなどで得点しようとしてつまらない。言い方を変えれば、野球が小さい。子供達はこのような現状に魅力を感じません。連盟はもちろんのこと、軟式野球の関係者全てが危機感を持ち全員で変わろうと努力しなければ中学の軟式野球クラブチームは無くなります。
私はそう思っています。現実に２年程前からチームの硬式移行を真剣に考えています。今回の県大会の監督会議の中でも言いたい事はたくさんありましたが、連盟側の話しを聞いている中で、雨が降ってもグランド側が利用を認めれば試合をやると要項に書いてあるのを見た時に、この人達に何を言っても無駄だと思い何も言いませんでした。
そもそも多目的グランドが会場だったり、予備日が設定されていなかったり、子供ファースト

では無いことが多すぎて誰のためにこの人たちが役員をしているのかわかりませんでした。子供達の野球は子供達のもので、子供達のため以外にやる理由はないのにそこに大人の都合が多すぎてうんざりする事だらけです。
野球の内容も、インコースのボールによけずに当たって塁に出たり、さっきも書いたようにバント、内野ゴロ、エンドラン、スクイズでしか得点しない野球それで勝てば官軍、本当にこんなことやっていて現代の子供達がそれを選ぶと思っているのでしょうか。
これは、軟式野球というスポーツで野球ではありません。子供達は野球をやりたいのです。小学生のソフトボールも軟式野球も高校野球その先の木のバットを使った本当の野球に進むための通過点です。ソフトボールや軟式野球、高校野球にたずさわられている大人の皆さんしっかり考えてみて下さい。
たかだか 18 才が野球の終着点ではありません。まして小学生や中学生のわけありません。木のバットでボールを打って戦うのを野球と言います。その世界に辿り着けるように、子供達に大人が協力するのが子供達の野球だと私は思っています。長く先を見て努力できる子供が一人でも増えることを望みますし、その邪魔を大人がしないようにも望みます。
段原クラブの選手達、今の自分の現実をしっかり理解し次に進みましょう。
その考えの無い人は、グランドに出てくる必要はありません。
段原クラブを応援していただいた全ての人に感謝申し上げます。
ありがとうございました。期待に答えることが出来ず申し訳ありませんでした。チームは監督の器以上になることはないので、私の器を少しでも大きくできるように努力いたします。

第５０８話／２０２４．５．６

生名合宿、新入生歓迎会、香川遠征と終わり今週末いよいよ全軟県大会です。例年より約１ヶ月早いですしグラウンドも言い方は悪いですが県大会で使うグラウンドですか？って感じでいろいろと思うところはありますが、軟式野球連盟に所属している以上、従わざるをえないので仕方ありません。ただ、考え方を聞いてみたい事はあります。連盟が本気にならないと、それほど時間がかからずに中学生の軟式クラブチームは半減することでしょう。野球を本気でやろうとする子供は硬式のチームに流れていくことになるのは想像ができます。中学生にとって軟式野球のメリットをアピールしていかないと今後、消滅する可能性すら感じます。
段原クラブは今年１２人の新入生を迎えることが出来ましたが、今後継続のためには今まで以上の努力が必要になると思っています。高校野球につなげるためにボールではなく、チームのやり方の問題です。段原クラブは、今保護者も選手もスタッフもとても良い状態になってきました。全員とは言いませんが、努力を続けることのできる選手が増えてきています。そうなると当然ですが、結果が変わってきました。もちろん、私の目から見て文句の無い状態であるはずはありませんが、確実に成長していることは事実です。
香川遠征は２日間で４試合、結果的に全て勝ちましたがもちろん出来たことと出来なかったこと両方ありました。良い結果の出なかった、失敗した次の考え方の切り替えや指示されたことの理解、状況判断にもとづいた守備位置、走塁、スイングの仕方、配球など課題はまだまだ多いですが。チャンスの場面でのスイングスピード、打球の速さ、負けている状況からの反撃、内野のスローイングの向上など成長を見せてくれました。天気もよく良いグラウンドで良いチーム、良いピッチャーと対戦する事ができとても意味のある遠征になりました。協力いただいた香川のみなさん、保護者の方々に感謝いたします。

ありがとうございます。来年も行けたら良いですね。
ゴールデンウィークは、スタッフ全員の協力があり１年生も数多く練習できました。入部から１ヶ月が過ぎ少しずつ力強くなっている１年生を見て、しっかり指導してくれているコーチ陣に感謝です。１年生はゴールデンウィーク明けから平日練習も始まり本格的にチーム内の競争ということになります。
全軟という大きな大会はもちろん大切なのですが、３年生はその後の高校野球に向けた戦いがもっと重要です。高い目標をたてそこを目指してやり続ける、継続する、体力と精神力を期待します。今、段原クラブは、良い方向に動き出したと感じています。
みんなありがとう。全軟、勝てるか負けるか神のみぞという感じですが、やることはやったなってひさしぶりの感覚を今感じています。
楽しみです。

第５０７話／２０２４．４．４

本日（4/3 水）午前の仕事中とても嫌なものを見ました。大手町あたりでしたが、たぶんコンビニで万引きをしたのだと思いますが、逃げる人それを追うコンビニの店員、逃げる人は見るに 40 代生活が苦しいのだろうと思われる服装、店員は２０代なのですぐに追いつかれました。万引きをしたと思われる人は捕まっても全力で逃げようとします。しかし、近くにいた４、５人の男の人に押さえられました。それでもあきらめず抵抗し続けていました。私は、それを見ながらなぜか「逃げろ」と思いました。というか逃がして欲しかった。間違っているでしょう。捕まえた店員、押さえるのを手伝った人達が、当然正義なのでしょう。それでも、ずっと「逃がしてやれよ」と思っていました。なんでだろうとずっと考えました。私の知らない所に、理由はそれぞれでしょうが。食べる物を買うことが難しい人がいる。その人がそうだったのかはわからない。でも、40 過ぎた大人の男が全力で走って逃げようとして、若者に捕まっても、4、5 人に男に押さえたれても逃げようともがいている姿を見た時に「良いじゃん逃がしてやれば」と思っている自分がいました。店員も手助けした人達も、正しい事をした正しい人達なのはわかっていても、そんなにみんなで弱い者に対さなくても良いのに、警察呼んだろうな。パトカー何台か来て大事になるんだろうな、お腹すいて盗っただけなのに。なぜみんなで、こんな大きなことにしてこの人の人生を終わらすんだろうな。なんて思ってしまいました。間違っているのかな、そんなことをずっと考えていた 1 日でした。あんな大事になってなかったら「私がお金払って終われたのにな」・・・・？何が正しいのかわかりません。
春の選抜高校野球が終わりました。私は、高校野球が大好きという訳ではないのであまり見ませんでしたが、バットが変わるとこんなに打たないの？というぐらい高校生は打たなくなりました。私が常に言っている上半身の力で金属バットを振り回し、バットのどこに当たっても外野まで飛んでいくからヒットになる、なんてバッティングでは木製になったら通用しない。反発係数が下がった金属バットでも通用しなくなりました。パワーは当然あるに、こしたことはありませんが、バッティングに１番必要なのは技術です。この部分が高校野球に欠けているのでバットの能力によって確率が変わります。ある関西の強豪チームの選手が、高校卒業後伸びないと言う話しをよく聞きますが、その試合を少し見ました。中心選手が腕力だけでバットを振ってインコースのボールをとんでもない方向にファウルを打っている姿を見ると、これでは木製バットでは苦しいはずだなとよくわかります。対戦相手は、頭の部分で上をいっていました。よく考えて野球をやっているチームに見えました。

小・中・高とメーカーが競って開発したどこに当たっても遠くに飛んでいくバットを使い、トレーニングにより体を大きくし能力の落ちるアウトコースを狙ったボールが真ん中あたりに投げ損なったピッチャーのボールを腕の力で引っ張って遠くに飛ばすバッターが良いバッターと言われ強豪校に進学し、そのままの技術で木製バットに変われば何もできなくなるのは必然です。
高校野球でよく聞く「アウトになってもランナーを進めてアウトになれ」私はこれの意味がさっぱりわかりません。「ゴロを打ってアウトになれ」と言うことですか？ 「ヒットを打つな」「長打を打つな」「ホームランを打つな」と言うことですか？ だったらバントのサインを出しましょう。サインがないということは、バッターが塁に出るということです。アウトになろうとして打つわけがないでしょ。ヒットを打とうとすればフライになることもあるし、三振することもあります。どうしても三振して欲しくない場面なら、打席に入る前に伝えるか、ミーティングで野球スタイルを伝えておくべきです。

下半身のパワー（重さ×スピード）を使ってそれを上半身の柔軟性によってボールをとらえ、ボールとバットの芯をとらえる、これがバッティングです。ただその前に、ピッチャーの投げるボールに合わせる、とても大切なタイミングというものがあります。この部分が選手に伝えるのが難しい所です。人それぞれ違う感覚、これが教えられない所で難しい所、そして１番大切な所だと思います。だからバッティングは難しい、だから数やらなければいけないし、頂点がないから楽しいし苦しいのです。野球選手は重さ（大きさ）・スピード・技術・野球脳、この４つの能力で勝負します。全てがトップレベルなのが大谷です。あなたはどれで勝負しますか？４つとも無いと良い結果を出すのは難しいです。この 4 つを伸ばすために練習します。今どれをやっているのかわかって練習しなければ効率の良い練習とはいえません。だから、自ら考えてやる練習が重要だということです。練習中 4 つのどれをやっているのか常に頭の中にあると良いですね。

またまた、話は変わりますが学校の先生に聞いた所、今学力の２極化が進んでいるらしい。ひと昔前は３つに分けると平均点あたりの人数が多く、出来る人出来ない人が少数だったのが、今は真中（平均）あたりの人数が少なく出来る人と出来ない人の２極化だそうです。当然そうなります。私たちの時代は、日本中が真面目に勤勉に大人から子供まで頑張っていた時代休むことは悪い事ぐらいの考え方で、みんな頑張らなければいけないような感覚の時代、言い方を変えると先生も親も厳しかった時代。今のように多様性だとか自由だとか、なんとかハラだとか物がとても言いにくく、あまり本気で人と関わらない方が安全な時代になれば、勉強もスポーツも自分に自分で厳しく出来る人間だけが伸び、ほとんどの自分に甘い人間は取り残されることになります。格差が大きく広がっていくのは、ごくごく当たり前の結果です。本当にみんなは、今の考え方でいいと思っているのでしょうか？本当はそろそろまずいぞと気づいているのに言い出せないのではないですか。人間はそんなに素晴らしくないです。自分で自分に厳しく出来る人は限られた人だと思いますけど！！私は、子供にきびしく接することが本当の優しさだと思っています。選手をあずかった責任がありますから、当然です。

第５０６話　２０２４.３.８

段原クラブは試合中、監督からサインはありません。選手達は、1.イニング、2.点差、3.アウトカウント、4.ランナー、5.打順プラスボールカウント。この情報を頭に入れて何をやるか決めて

プレーをします。考えることで野球脳を鍛え、本当の野球を憶え操り人形ではない野球選手になってもらうのが目的です。ただ、これは簡単ではありません。もちろん、野球は数学の答えのように正解がひとつではないですから難しいに決まっています。（監督が出しているサインも正解かな？）ただ、小学生でもわかるようなあたり前の事はわかって欲しいと思います。たとえば、審判のストライクゾーンがとてつもなく広く見逃し三振が連発していた試合でファーストストライクから打っていかないと難しいからワンスイングで前に飛ばす技術と集中力が必要だと言った時、0対0で試合の中盤、先頭バッターが3ボールからスイングしたり、みなまで言わんとわからん？これも試合の中盤、0対0の無死2塁で下位バッターがバントや進塁打がまったく頭にうかばず内野フライを打ったり、最終回0対2で負けている状況で無死2・3塁レフト前ヒットで3塁コーチが 2 塁ランナーをホームに回してタッチアウトになったり、あまりに幼稚な頭のミスを今年の選手はします。学校の勉強が苦手な子が多いのは事実ですが、それにしてもあまりにひどいミスです。昨年から野球脳の弱い選手が多いので、今まで以上に座学（ミーティング）をやってきましたし、グラウンドでもことあるごとに話をしています。それでも、なかなか考えてプレーするクセがつきません。簡単なところでは、1死ランナー1塁で「長打ケア」を指示、外野は下がります。その後、2死2塁になっても外野手は同じ位置にいたりします。1点取られたくないから長打ケアだったら 2 死２塁になったらワンヒットで 2 塁ランナーを返さない位置に守らなければいけません。こんなことをいちいち、ベンチから指示しなければならない外野手さびしいですね。本当に野球が好きなのでしょうか。そんなに難しいことですか。中学生ができないものですか？？

打つ、投げる、捕る、走る。野球選手には当然必要な能力です。技術はもちろん伝えます。ただこれには身体能力も必要です。体が大きい、力が強い、足が速い、そんな選手が有利になります。野球脳はこの身体能力の無さを補います。

前にも書きましたが、段原クラブは体という素材に恵まれた選手が集まってくるチームではありません。それでも、3 年生になったら勝負できたり、高校、大学まで野球を続けられる選手が多いのは、正しい技術と正しい野球の考え方を身に付けるからです。体は高校で追いつきます。新２・3 年生のみなさん、あなた達は残念ながら人がうらやむような体、身体能力を持って生まれてきていません。そのため、段原クラブで正しい技術と考え方を身につけないと野球人生がつまらなく短いものになってしまいます。スポーツですから、体を使うのはあたり前ですが、もっともっと今までの数倍、頭を使って野球をやって下さい。試合でやらかしている頭のミスはすべて教えています。身（頭）に入っていないだけです。これから先、後悔する時がきますよ。長く野球をするために、楽しい野球人生にするために、技術・体力・頭（野球脳）がいります。練習方法から頭です。自主練習を自分で考え自分という選手を客観的に見て、何が出来て何が出来ないのか、今何の練習をどのくらい必要なのか。じゃあ、これをやろう。自分は、どんな選手になりたいからこの練習をしよう!など、常に考えて行動できる選手と、監督やコーチ指示されないと動けない選手ではどんどん差がついていきます。「野球は頭と足でやるスポーツ」私はずっと前から言い続けています。今年のチームは、考える、憶えるなどが今のところ弱点です。変わって欲しいと思います。変わらなければ野球人生短くなります。決めるのは自分自身です。

第５０５話/２０２４．３．１

2月23（祝）24（土）25（日）の3連休に２つの招待試合があり、3日間で６試合をしました。五

日市観音、レイワンズのみなさんありがとうございました。良い球場で良い相手と試合することが出来、選手の力になりました。心から感謝いたします。これからもよろしくお願いいたします。

結果は 4 勝 2 敗、得点はある程度取ることができるようになりましたし、ピッチャーも少しづつ失点が減ってきました。しかし、四死球、エラー、長打、まだまだバッテリーが当たり前のことをミスします。ただその中で、前回のスターズ招待よりは、2 年生 3 人のピッチャーは少し成長を見せてくれました。ひとりひとり、私とのキャッチボールの中でボールを効率よく投げるために体をどう使うべきなのかとか、力をどこにいつ入れるべきなのかとか話をしました。本当に少しですがわかりつつあるのかなと思うピッチングを見せてくれました。身体能力の劣るピッチャーがアウトをどうとっていくのか毎日毎日考えながら練習してくれるともっと数字が良くなると思います。伸びしろだらけのピッチャーに期待します。考えて練習です。

バッティングは、昨秋から数多く振り込んできたものが出てきました。ストライクをとりにくる変化球が振れないとか、レベルの高いピッチャーから点がとれないなど、不満を言えばきりがありませんが、普通のピッチャーからはある程度バッティングが出来るようになりました。『上達するためには正しいことを数多くやる』本当にその通りです。まだまだ、トップレベルのピッチャーから点を取れる技術はありませんがこれからです。安心することなく努力を続けてくれているので楽しみです。

今回６試合やった相手の中に、今の 2 年生が 1 年生の 5 月に練習試合をして 2 試合で 27 対１、大人と子ども段違いのレベルだったチームに今回は、野球の試合になりました。これが段原クラブです。1 年生の時まともに試合にならない相手に 3 年生になったら勝てるようになる。まさに、正しい事を数多くやれば誰でも上達する証明です。それが出来るのが段原クラブなのですから。

小学生時、ピッチャー経験者がいなくても、チームの中心選手がいなくても、能力ある小学生に声をかけて集めなくても必ず 3 年生時には勝負出来るチームになります。勝つか負けるかは時の運もありますが、技術的に負けることはありません。なぜなら、私はプロの技術屋です。野球は、体・技・心。その中の技術を伝えるのが私の仕事です。正しい技術と正しい野球の考え方。試合になれば正しい状況判断にもとづいたプレーを自分で考えて出来る選手を目指す。監督のサインでしか動けない操り人形では上レベルで勝負できません。高校野球を含めて、1 日も早く監督がベンチであちこちさわって子ども達の考える作業を奪うことをしない、少年野球会になることを望んでいます。

段原クラブはサインがありませんから子どもたちは間違いますが、それによって身に染みて覚えてくれると信じています。負けても選手が成長すればプラスです。バッテリーのサインまでベンチから出しているチームがありますが、監督が正しいと思っているのはおごりではないでしょうか。私は、子ども達より当然野球を詳しく知っていますが、試合の中で全て自分が正しいと思ったことはありません。グラウンドに立っている選手達の、現場の感覚を大事にしたいと思っています。

毎年毎年、身体能力に恵まれた選手がなかなか入部してはきませんが、その選手達が硬式チームの選手や小学生の時から有名だった選手達と高校で立派に戦える選手に育っていくのが段原クラブです。もちろん高校では勉強を中心にする選手もたくさんいます。今年の新入部員も、体験時良いものを持っているなと見えた選手達は段原クラブ（軟式）ではなく硬式チームを選んだ人が多いようですが、後悔のない（失敗を他人のせいにしない）ように正しい努力をして下さい。私は、段原クラブを選んでくれた選手達を、今名もなき選手達ですが、高校野球では堂々と戦うことができる選手になれるように、ひとりひとり向き合いながら練習し一緒に成長していきたいと思っています。

広島には、宝のような小学生がたくさんいます。その子達が、中学の時か高校の時かわかりませんが普通の選手になってしまいます。レベルの高い選手を預かった指導者の皆さん、最低でもその選手の立ち位置が下がることのないように責任を持って次のステージに上げてあげましょうよ。努力しない選手が成長しないのはどうでも良いですが、頑張っている選手は長く野球ができるように指導者も勉強しましょう、預かった責任です。みんなで成長ですよ。

第５０４話/２０２４．２．１５

2 月 11 日(日)、12 日(月・祝)の２日間でスターズ大会に参加させていただきました。まず、御礼申し上げます。スターズの関係者の方々、審判、対戦相手、全ての方々に感謝です。ありがとうございました。実りある２日間でした。

２日間で 4 試合、結果は 2 勝２敗。練習試合なので、勝敗はもとよりどうでもいいのですが、ピッチャーとして練習をまあまあやっている４人のピッチャーがひとり１試合ずつ投げて、対戦相手を見て私の予想は１勝３敗でしたので勝敗としてはまあまあでした。しかし、失点が４、３、５、２で計 14 点、８０分ゲームではとられすぎです。

相変わらず四死球、ワイルドピッチから失点と２死 3 塁がふんばれません。ランナーを出してはいけないとは言いませんが、2 死から打たれて失点するピッチャーは勝てません。ランナー3 塁で一番いいボールを投げられるピッチャーになって欲しいと思います。何をしますか？

得点は 7、２、３、７計 19 点。昨秋に比べれば、打球が強くなり点は取れました。しかし、まだまだサードゴロが多く、手の力でスイングすることが多くあり、これから変化球が増えてきた時の対応に不安が残ります。走塁ミス（送球の間の走塁など）も目立ち、やらなければいけない事が多くあります。しかし、私がイメージをしていたより少し良い内容だったように思います。そうでなかった選手もいますが、段原クラブの決まり事の大きな声、全力で走る、ベースカバーに入るなどは他チームに比べ出きていました。中継プレーやベースカバーができないチームが数チームあったので、打つとか捕るだけではなく誰でもできる当たり前のことはしっかり指導しないとこれから先、野球人生で困ることになります。選手のために厳しくした方が良いと思います。野球はまず誰でもできることをあたり前にやることから始まります。

ただひとり、たて続けのつまらないミスで交代した後、コーチャーボックスで大きな声を出すこともなく立っていた選手がいました。こんなことで選手として終わっていくのですが、わかっていますかね、２度とない事を望みます。

今年のピッチャー達は、身体能力に恵まれていません。そのためスピードがどうしても不足です。では、その中でどうやってアウトをとっていくのかコントロール、変化球、は当たり前です。それだけでなく、闘争心だったり、駆け引きだったり、間だったり、さまざまな方法があります。もちろん、原点能力のアウトコース低目に投げられる事は必須です。7 回で 21 個のアウトをどうとるのか、ひとりひとりピッチャーによって違います。

自分なりのアウトのとり方を考えてみてください。もちろん、キャッチャーや他の選手の協力も必要です。やる事がたくさんあります。たくさんあるという事は、それだけ伸びしろがあるという事です。可能性大やるかやらないのか、それがあなた達の野球寿命を決めます。

長く野球を続けるために、自分のために考える、考える。どうしてもわからなければ聞きにくる。私は、引き出しをあなた達よりもかなり多く持っています。段原クラブの野球は、予測と準備が大切だと教えています。打球が飛んでくる所がわかる。相手投手の投げてくるボールがわかる。

相手のやってくる事がわかる。結果が良くなります。ちなみにこの４試合、相手のエンドラン、盗塁、スクイズ私は全てわかりました。これからの試合でひとつでもわかるように考えながら試合をしましょう。試合中に私は教えませんよ。考えるクセをつけるのはあなた達です。野球がより面白くなります。
私はほぼ全ての試合結果を当てることが出来ますが、2 日目の２試合目だけははずれました。なぜ外したのか。先発した小さな左ピッチャーが私の思っていた以上の力を最後ふりしぼって出したからです。昨秋は 1 イニングすら無失点で投げられなかった選手が、コツコツ努力をつみ重ね、少しずつ成長しほんとに少しずつですが心も強くなり 4 回ですがヘトヘトになった 2 死満塁、誰もが押し出しだと思った所で最後の力をふりしぼりピンチをしのぎました。その後は、精も根も尽き果て、試合後の練習もできる状態ではありませんでした。たった 4 回ですが、30kg 台で入部してきた子です。昨秋は 1 回も投げられなかった子が私の予想をくつがえすピッチングをしてくれました。2 日間のスターズ大会、このシーンだけで私にとって実りある 2 日間になりました。ありがとうございました。
段原クラブは正しい野球をやっています。努力は必ず実になります。今まで以上の努力を全員に期待します。
あなた達は恵まれた環境にいるのですから。頑張りがいがあるはずです。

第５０３話/２０２４．２．２

今チームにとって、とても大切な新入部員募集の時期なので、静かにじっとしていようかと思ったのと、このページの意味を見失っていたので約２ヶ月やめていました。時間があったのと、どうしても伝えたいことがあったので書いてみようと思いました。

子供達は，野球を始めた時大きな夢を持っています。それがいつか、試合に出るとか、ヒットを打つとか、とても小さな夢に変わっています。これはなぜなのでしょう。指導者や保護者が小さいからです。中学 1 年生といえば 12、3 才、プロ野球のドラフトにかかる可能性は２５才ぐらいまであります。中学１年生から 12、3 年、この時期をずっとプロ野球選手になるために体作り、技術の修得、試合経験など指導者と保護者、本人が一体になり計画的に努力していけばなれるような気がしませんか？しかし、現実はそうはいきません。指導者や親の目の前の結果を求めるエゴのため、基本をおろそかにし、体も計画的に作ることなく、ただただ目の前の試合に勝つ事だけを求められ、守備に難のある選手は試合出場の機会を与えられず消え、スピードはあるがコントロールと変化球に難のある選手も同じように消えていく。上の世界を目指すために必要なのは、野手はバッティング、投手はスピード。なのに・・・。
そのために体が必要です。身長がなくても筋力を高め、体の正しい使い方を身に付ければ勝負できます。今の小・中・高校生は、毎週、毎週試合ばかりして試合に勝つ為に確率の良いプレーをし、勝つ為に確率の良い選手がレギュラーになるようなことをしていては、大きな選手が育ちにくいと思います。正しい練習が必要です。基本練習と体作りです。特に、甲子園出場にこだわっている高校のレギュラーは、守備優先の傾向が強いように思います。私は、野球のレギュラーは打てる者から使うべきだと思っています。守備はプロ野球選手になってからでも数多く練習すれば守れるようになります。守備は練習でなんとかなります。野球で上の世界に上がる為には、野手はバッティング、投手はスピードなのに、中・高野球を見ていると試合（トーナメント）に勝

つ（甲子園）ためだけに、守備の確率の良い選手から使っているように見えます。選手の評価は数字です。野球選手の評価を、数字以外でするべきではないと思います。バッターなら、OPS などいろいろな数字がありますし、投手なら当然防御率、数字以外のイメージで選手を使っている監督、特にいらないのは気持ち（アピールや元気や闘争心など）重要な試合を決めるような場面で、良いピッチャーを相手にどんなバッティングが出来るかが全てで、勝つに決まっている三流ピッチャーが打てたり、三流チームを抑えられたり、そんな相手で盗塁が出来ても意味はありません。一流チーム相手に何が出来るかが選手の力です。

もう一度、書きます。
子供達は野球を始めた時、大きな夢を持って始めます。どこかで大人が邪魔をして夢を捨てます。目の前の試合ではなく、その選手の 5 年後、10 年後を想像して選手に寄り添う指導者がいたらいいですね。10 年ちゃんと頑張ると上のレベルに上がっていけると思いませんか。どこか、木製バットで試合する高校ありませんかね。高野連もグリップスプレー許可しましょうよ。段原クラブも高いバットを買ってそれを頼りにヒットを打とうとしている選手がたくさんいますが、今年私はサイン無し、木製バットで試合ができるといいなと思っています。ただ、残念なことに軟式の木製バットはあまり種類がないんですよね～。野球は、子供達のためにあり、彼らの夢の応援をするのが大人の仕事です。

18 才甲子園で終わり、でいい子はそれでもいいですけど？日本は小・中・高・大、ステージが変わると指導者が変わります。どこかで、“この人”という人に出合えるといいですね。長く野球ができ、いつまでも夢を追いかけられるように体と正しい技術です。それを、応援出来る保護者、指導者でありたいですね。野球人生の勝者は、全国大会ではなく長く野球を続けた人です。そのために、中学・高校はとても大切な時間だと思います。ちなみに段原クラブの卒団生は大学まで野球を続ける選手が 50%を越えています。（全国平均 10%以下）高校 3 年生のベンチ入りはほぼ 100%、3 年間継続率もほぼ 100%、このことからも野球の正しい技術と考え方、そして練習の取り組み方など理解してくれている選手が多いと思っています。なにより、野球を好きになってくれています。心と体が壊れないで、体を作り、正しい技術を身に付ければ長く野球ができます。中学、高校もあくまで野球人生の通過点だと考えませんか。
　選手を中心にしてものを考える例を言うと、広陵の真鍋君がドラフト漏れをしました。彼は、多分ずっとプロ志望だったはずです。だとすればチームが勝つためにファーストを守ることがベストなのでしょうか。本人のためにかサードか外野をやらすべきだと思います。例えば、松井（星稜）、清宮（早実）などは、高校時代ファースト以外にチャレンジしています。1 塁手でドラフト上位は、特別な怪物でなければとても難しいです。1 年生からサードで鍛えておけばドラフト上位だった可能性は十分にあったと思います。インコースをさばく技術も必要ですが。高校野球の場合、特にキャッチャー、ショート、セカンドを守備重視で選ぶ傾向がありますが選手の将来を考えた時には、私はバッティング重視で選ぶべきだと思います。ただ、勝つ確率だけ考えると甲子園に行くために安全策を取りたいですね。

私はただ子供たちが口に出したりしている言葉応じて対応しているだけです。例えば、舟入高校で野球をしたいと言えばまず勉強が先です。野球ばかりやっていては入学出来ません。その選手に練習量など厳しく言うわけありません。広陵に行って甲子園に出たいですと言う選手が体も無い、技術も無いとなれば質も量もだれよりも多く練習しなければいけません。語っている夢に応

じて対応するのですから。「メジャーリーガー」って言いながら努力しないは無いでしょ。「言ったことはやりましょう」グラウンドに来たらちゃんとやりましょう。（全力を尽くす）ちゃんと出来ないのなら休みましょう。私が言っているのは、ただそれだけ厳しいですか？あたり前の事だと思うのですが。段原クラブは厳しいとか、入部するには覚悟がいるとか耳にしました。何を言っているのか、さっぱり訳がわかりません。

まず、段原クラブは練習も試合も全て自由参加です。連絡さえあれば休むことは OK です。理由もいりません。私は常々子供たちの夢や目標の応援をすると言っています。例えば、メジャーリーガーやプロ野球選手、野球強豪校に入って甲子園出場などと夢を語って、練習中てを抜いたり、集中しなかったり、練習量が足りなかったりする選手がいればどうしますか？大きな夢を語っているのですから、当然注意しますよね。それだけの事です。だいぶ前の話ですが、野球は中学までで高校ではやらないという選手がいました。私は、1 度も厳しく接した事はありません。中学野球を楽しくやってもらえればいいだけですから。

最後に、1 月 2 日の OB 戦は 100 人を越える人達が集まってくれました。初めて硬式で試合をしてみましたが、さすがに高校３年生や大学生は力があります。当然ですが、後輩は見て勉強になることがたくさんありました。感じた選手とそうでない選手がいたかもしれませんが意味はあったと思います。参加してくれた人は、もちろんですが準備から頑張ってくれた現役の方々にも全ての人々に心から感謝します。ありがとうございました。これからもたくさんの人に喜んでもらえる OB 戦にするために考え、努力していきたいと思います。

みんなありがとう。

第５０２話／２０２３．１０．２１

　みなさんは試合の中で「アウトになってもランナーを進めてアウトになれ」という言葉を聞いた事、言われた事がありますか。私は無死ランナー２塁、左打者、点差がない場面でバッターに要求したことはあります。なぜかと言うとこれからの野球人生の中で必要になってくる技術だと思うからです。
しかし発展途上の中学生・高校生には、それ以外の所でゴロを打ってランナーを進めるバッティングはいらないと思います。ランナーを進めてほしいのならバントのサインを出せばいいのであって、何もサインがなければバッターはヒットを打つために全力をかたむけるのですから、ホームランを打つこともあれば内野フライや三振にたおれることもある事を監督は承知しなければいけません。
なんで、こんな事を書くのかといえば、学生野球でこの言葉を本当に多く聞くからです。そしてなんでそんな必要があるのだろうと常々思っていたからです。

　「甲子園」高校野球にとってとてつもなく大きな物のようです。
これをつかむためなら何でもする。甲子園常連校からはそんな気配がただよってきます。たとえば有力な中学生の勧誘だったり、睡眠時間を削ってまでの朝練だったり。勝つ為の作戦・戦略(前に書いたランナーを進めてアウトになるバッティングなど)偏った選手の使い方などです。成長期

の高校生にとっても大事な３つは、練習・栄養・睡眠です。練習は時間をかけてやればいいのではなく、人それぞれ能力・体力に差があるのでそれによって内容も時間も違うべきです。栄養は当然です。高校野球で１番足りないのが睡眠です。８時間しっかりとれている野球部員はいないのではないでしょうか。私もそのひとりでした。毎日眠くて授業中は睡魔との闘いでした。
体・技・心　体がまず１番なのですから、それを妨げる朝練は「百害あって一利なし」だと思います。しっかり寝て、しっかり食べて、しっかり練習する。成長するためにはこれが必要です。

　甲子園に出るための野球と、個の力を伸ばして野球人生を高く、長くするための野球は少し違うように思います。
調べてみました。甲子園出場回数、勝利数、プロ野球選手数。たくさん甲子園に出場した方が当然勝利数は多くなりやすいのですが、勝率は少し違いますし、プロ野球まで進んだ選手の数はまた違ってきます。いちいち学校名は書きませんが、ちなみに我が母校愛工大名電は、出場回数は全国４８位、勝利数は６０位。甲子園であまり勝てていませんが、プロ野球選手になった人数は２９人で２７位です。
現監督になってから、甲子園出場回数は伸びていますが、プロ野球選手になる確率は下がっています。現監督になる前の愛工大名電は細かい野球はあまりせずなかなか甲子園に行けませんでしたが、イチローや工藤といった名球会に入る選手や山崎などすばらしい選手がたくさん出ています。いろいろ考えてみると、〃甲子園に出るための野球〃と〃高いレベルを目指し個の力を伸ばす野球〃は明らかに違うようです。その中で広島の広陵、神奈川の横浜、東海大相模、大阪の大阪桐蔭、東京の日大三高、宮城の東北、そしてなくなってしまいましたが大阪の PL 学園は甲子園に出場する。プロ野球選手もたくさん輩出する数少ない野球部です。〃甲子園に出場するだけの学校〃と〃高いレベルに上がっていける学校〃。何かが違うはずです。しっかり考える必要がありそうです。なぜなら子どもたちはどちらの夢が大きいのでしょうか。甲子園で終わるのを望んでいますかね。大人の都合ではなく、子どもたちの都合で野球ができるといいですね。

　常々思っているのですが、『うちの高校は甲子園出場に興味はありません。「大学」「社会人」「プロ」。その先目指している野球部です。そのため木製バットを使います』とか『先を見た野球をします』とか言う高校がないのはなぜなのでしょう。高野連からにらまれるのかな？それともそれでは選手が集まらないのかな？
私が親なら（選手なら）そんな野球部で野球をやりたいと思うのですが。
みなさんはどう思うのでしょう。やはり勝つ事・甲子園が全てですか？なんか違うと思います。中学野球も含めて操り人形を作っても先がないと思うのですが。大好きな野球なのなら少しでも長く続けたいと思うはず、そのために必要なのは個の能力だと思うのですが、違いますかね。

　私は大好きだった野球が高校入学と同時に、毎日毎日苦痛に変わりました。今の高校野球は私の時代とは大きく変わっていると思いますが、甲子園という場所のチャンスすらなかったり、小さな選手になってしまったり、心か体が壊れてしまったり、持っているものより早く野球人生を終えてしまう選手が数えきれないほどいるのではないかと、心が痛みます。自分が正しいと思う自分の野球と思い切り出来る環境の中で勝負ができたら、悔いのない野球人生を送れる可能性が高くなるはずです。
みんなが思い切ってバットと腕を振ろうよ。自分と仲間のために。
これしか大好きな野球人生を長くする方法はないのですから。

全員に引退の日が来ます。私は２８歳、あなたは何歳までやりたいですか。３０歳までやれたらすごいですよ。大人が足を引っ張らないようにしましょう。

第５０１話／２０２３．１０．１２

「段原カップ」、「文部県大会」、「卒団式」が終わり、段原クラブの本年度は主だった行事が終わりました。この３つの行事には、現役の保護者はもちろんのこと、OB の方々の多大なご協力とお気持ちをいただきました。卒団した後も段原クラブを気にかけていただき、行動に移していただいている OB の方々に心より御礼を申し上げます。ありがとうございます。

今年は「試合に勝つ」という期待にはなかなか応えることが出来ませんでしたが、少しずつですが選手達は人としても野球人としても成長しています。大きな夢はまだまだ先の先にありますが、これからも近づく努力をし続けてくれるものと思っています。全員というのは無理な話ですが、一人でも二人でも本当の「野球大好き」な選手が出てくることを願って、日々子ども達と歩いていこうと思います。OB のみなさん、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

私の野球人生は後悔だらけなのですが、今回の文部県大会でも一つ大きな間違いを犯しました。タイブレーク表に２点を取られた裏の攻撃、無死１，２塁の送りバントです。試合の勝敗にこだわった事、中心選手を信じることが出来なかった事、段原の野球をしなかった事。野球人生を長く続けるための力を付けるためにある段原クラブなのに、目の前の勝ちを欲しがった自分に腹が立ちます。こんな事をしていては段原クラブが段原クラブでなくなってしまう。１年間、思っている野球がなかなか出来ない中で、私は自分の信じる野球を忘れていたようです。

確かに選手の数だったり、器だったりで勝敗は大きく左右されます。それが無い中で、段原クラブは今まで正しく戦ってきました。つまらない大人の都合があったり、戦力が落ちたりした中で、私は私のやらなければならない野球から少しずれて行っていたようです。私がずっと思い続けている、個の力を伸ばし高校から先で戦える準備をする。段原クラブ本来の目的を忘れていたようです。

毎年毎年、OB は高校で、その先で野球を続けてくれています。先日、ＪＦＥの坂本はカープの久里投手から２塁打を打ちました。立派です。「段原クラブの野球」、２度と忘れることのないように私がちゃんとしなければいけません。

先日、グランドにある県立高校の監督さんがご挨拶に来られました。その方は高校野球の監督になり２０数年、色々な高校で指導され、２校 甲子園に導いています。色々お話をさせていただきましたが、監督になりたての頃、全国の野球強豪校と言われている学校へ勉強のため、何校か行かれたそうですが、何一つ参考になる、勉強になることはなかったそうです。その後、県立高校で、優秀な選手を勧誘することなく、良い成績を残している学校に行くと、教えられることや、参考になること、勉強になることが山のようにあったそうです。そりゃそうでしょ。優秀な選手を数多く集めて、恵まれた環境で野球が出来、試合に勝ち、甲子園に出場する。そして勝ち上がる学校が野球強豪校です。そのために指導者の指導力はそれほど必要ではありません。

優秀な選手（モノ）と恵まれた環境（グランドや寮など）があれば高校野球は勝てます。それは、強豪校と言われている学校は全て、必死で優秀な選手を集めているのを見れば明らかです。指導力があれば、必死で優秀な選手をたくさん集める必要はないのですから。勉強に行っても勉強になる訳はありません。それより優秀な選手が集まらない中、環境に恵まれない中で懸命に努力されている公立高校の指導者の方々から得るものが多いのは当然です。

練習の最初から最後まで見て帰られたので、色々なお話をすることが出来ました。元プロ野球選手と甲子園を目指している高校野球の監督では、野球観が違う所が多々あったと思いますが、一つでも二つでもこれからの指導に生きるものがあり、選手達のためになってくれたら幸いです。これから縁があれば段原クラブの選手がお世話になることがあるかもしれません。その時はよろしくお願いします。

とても勉強熱心な監督さんでした。良い野球を子ども達に伝えてほしいと思います。私も子ども達を信じて段原クラブの野球を貫けるように心を鍛えていきたいと思います。指導者の器を大きくしなければ良いチームにはなりません。すみません！！

第５００話／２０２３．９．２７

この監督室はとうとう５００話を迎えました。何かインパクトのあることを書こうと考えているうちに１カ月たってしまいました。５００話というと約１０年。段原スポーツ少年団を発足させてからもう少しで３０年。長くやってきたものです。いろんな事を考えましたが、長くやってこられたのはなぜなのか。たくさんの子どもたちが段原クラブを選んでくれて、もっとたくさんの方々が力を貸してくれて、たくさんのチームの方々が段原クラブと付き合ってくれて約３０年。監督室で言いたいことをわがままに書き続けてこられたのは、数え切れない方々の力添え、協力、応援のおかげです。まず言わなければならないのは”感謝”。みなさんありがとうございました。今まで段原クラブに携わっていただいた、選手、保護者、スタッフ、関係者の方々、全ての人に感謝です。心からありがとうございました。そして、これからもよろしくお願いいたします。本当にありがとうございました。

９月２３日（祝）２４日（日）２日間の段原カップに参加していただいたチームの皆さま、応援、支援していただいたＯＢの方々、準備から全力を尽くしてくれた保護者の方々、スタッフ、そして全チームの選手たちみなさんのおかげで良い大会になりました。お礼申し上げます。ありがとうございました。段原クラブはこの大会をより良く発展させて続けていきたいと思っていますので、これからも協力、支援、応援、よろしくお願いいたします。

３年生はこの大会で段原クラブでの試合を終えました。コロナ、大人のいざこざ、波風の中、最後まで続けてくれたことに感謝します。ありがとう。ただ、その中で言いたいことはたくさんあります。いつもいつもこの中でも書いていますが、野球というスポーツの本質「状況判断」「予測と準備」「当たり前の事を当たり前に」など段原クラブの野球の根幹の部分を理解し習得するにはほど遠い状態で３年生の試合を終えることになりました。試合に勝つ負けるは３年生６人（１人は女性）という中でそんなに簡単ではないのは分かりますが、同じ失敗を繰り返したり、技術

的なミスではなく、考え方のミスを多くしたり、当たり前のバントや走塁ができなかったり。段原クラブの３年時には身に付けていなければならない所まできていない事が多くあり、高校で野球を続けるにあたり、今のままでは難しいのでは？と思うことが多くあります。

　これからの半年で変わるために努力を重ねるか、進む高校を自分のレベルをしっかり考えて選ぶかするべきだと思います。厳しいようですが、高校野球は中学までと違い、試合に出ることができない選手の方が多い世界です。学校のレベルにもよりますが、強い学校は特に、学年という概念がなかったり、「３年生だから試合に使う」はなかったり。何なら練習も同じようにできません。

　長い間、何百人という選手を見てきて私なりの考えを書きます。
本当に上のレベルに上がっていく選手は、自分で自分がやらなければならない事を知っています。そのため、どこであろうと誰が見ていようと見ていまいと、やらなければならないことを１人でもやります。当然上達します。ただ、このレベルの選手は、残念ですがほとんどいません。私はもちろんできませんでした。

　大多数の選手は、例えば、監督が見ているときと見ていないときに同じ事ができません。ほとんどの選手がこれです。だから当然、トップレベルまで上がっていくことはできません。だからプロまで行けない。確かに持って生まれた身体能力、これも重要なのでしょうが、本当に勝ち上がっていくための能力は、自分で自分のやらなければいけない練習をしっかりできる能力だと思います。どんな環境でも。私は自分ができなかった選手なので、できる選手を尊敬しますし、そんな選手と野球がしたいと思っています。楽しいだろうな。

　横浜高校の監督が暴言でたたかれています。もちろんスポーツの中で暴言、体罰は厳禁です。そんなことは分かった上であえて聞きます。
　誰か教えてください。何十回何百回優しい言葉で伝えようとして一切伝わらない人にどうやって伝えたらいいのですか？例えば暴走族に「交通ルールを守ろうよ」「スピード出したら危ないよ」「他人に迷惑がかかっているからやめようよ」と言い続けたらやめるのでしょうか？やめないから警察がいるのではないでしょうか。

　たくさんいる部員の中で、その子だけに多くの時間をかけることもできません。勉強もスポーツも言葉で伝わらない子は切り捨てるということなのでしょうか。

　段原クラブは選手にその気があれば切り捨てることは絶対にしません。しかし難しいですね、伝え方が。子どもたちの能力は、体も頭もみんな一緒ではないのですから。伝え方もいろいろあるのではないでしょうか。

　団体スポーツの野球は、１人の力で勝つことは難しいですが、１人のミスで負けることがあるスポーツです。試合に出る選手には責任があります。だから私は正しい野球を伝えようと思います。優しい言葉でみんなが分かって正しい努力をしてくれたらどんなに良いのでしょう。１人のいいかげんな人間のために、選手の野球人生が変わってしまう事があるのが高校野球です。心してやるべきだと思います。

第４９９話／２０２３．８．２３

先日、草津球場での練習に高校３年生が１０人集まってくれました。中学生との試合の相手になってくれてとてもありがたい１日でした。全員はっきりとした進路があり安心しました。全国平均の倍以上の選手が大学で野球を続けるそうです。さすが段原クラブの卒団生たちです。野球を続けても続けなくても自分の人生を豊かなものにするために努力を続けてほしいと思います。また時間があれば段原クラブの選手たちのため自分自身のために、グラウンドに顔を出してください。待っています。ありがとうございました。

全国高等学校野球選手権が終わり、慶応高校が優勝しました。私はほとんど高校野球は見ないので、ここまでの力を持っているとは思いませんでしたが、常々言い続けている「野球は頭と足でするもの」を立証してくれました。これもずっと言い続けていますが、監督がベンチで座ってニコニコしていたら県大会で優勝しました。そんなチームが理想なのですが、そのためには頭（野球脳）が絶対に必要です。ある程度勉強ができないと入学できない学校の選手が、体があり、環境があり、努力すれば強くなるのは野球というスポーツでは当然です。詳しいことは分かりませんが、今、全国で戦うためには、中学時代に実績を残した選手や素材に恵まれた選手を集め、良い野球環境の中で努力をしなければなかなか勝利につながりません。多分、慶応高校はその何かを今までとは変えたのでしょう。そして、考える力を持っている選手が努力をすれば上達するのはしごく当然のことです。エンジョイ・ベースボールとか自主性とか昭和の私たちがやっていた野球とは全く違う野球をやっているように見えますが、全ての高校がこれで上達し、チームが強くなるのかと言えば違うと思います。自ら考え、自らで行動する能力、自分自身を客観的に見ることができ、自らを律することができる能力。選手たちだれでもが持っている能力ではありません。髪型などは本当はどうでも良いのですが、これも自由と言うとはき違えてしまう選手もいます。私は慶応レベルの選手だから可能だったと思っています。批判を覚悟で悪い言い方をすれば、偏差値の低い選手を集めて慶応と同じやり方をしても上達は難しいと思います。身体能力が同じなら、「脳力」が高い選手が必ず上に行きます。なぜなら野球というスポーツは技術を習得したり、試合で良い結果を出すために脳の力が必要だからです。だから私は常々「野球は頭と足でする」と言い続けているのです。これから日本の学生野球は、慶応が優勝したことにより、一気に流れていきます。誰もが慶応高校がやっていた自由で楽しそうな野球を求めるようになります。ただそれだけでなく、慶応高校の選手たちがここにくるまでどれだけの努力を積み重ねてきたのか、毎日毎日勉強、野球をどれほど頑張ってきたのかというところをしっかり見る必要があります。

私は段原クラブでいつも言っています。「野球ができる（うまい）などというものは、たくさんある人としての能力の一つにすぎない。野球ができれば他のことは少々おろそかにしても良いという考えは間違っている」。これから高校野球の関係者皆さんが、野球ができれば成績が少々足りなくても良いよ、などと言って入学させたり試合に出したり、全国大会に出場するためだけに選手を集めたりすることが減ってきたら良いなと思います。

今の高校野球は、学校の１クラブ活動の域を超えた野球専門学校のような学校が増え、全国出場チームはほとんどそんなチームばかりで、本来、学校のクラブ活動の一つであるはずのものが、違うところに行っているように思います。私立の学校の企業努力ということなのでしょうが、野球部員が多すぎて野球がやりたくて野球部に入部しているのに練習や試合の機会も与えら

れない部員が多く、１００人を超えているようなチームを見ると、お金（学校運営）のための野球部なのかな、と思ってしまいます。
　大人は常に子どもたちに何を提供するべきなのか、子どもたちのために特に大きな組織になればなるほど大人の都合は無しで考えるべきではないでしょうか。高校野球はとても良いもののはずですが、問題も山積。やり直しがない高校生活なので早く早く考えるべきです。子どものために。

第４９８話／２０２３．８．２

　全軟広島県大会が終わって２カ月、私はこの監督室を書けませんでした。理由はさまざまありますが、私のやる気が起きなかったということで…。段原クラブは結成した時からずっと「高校の練習に行く前日が１番うまい」。高校野球につなげるためにチームがあると言い続けてきましたし、先輩たちも全軟が終わっても３年生の試合が全て終了した後も全員ではない（高校受験のため勉強にシフトする子もいるので）ですが、高校野球に対して思いのある選手は変わりなく努力を続け成長し続け、高校野球につなげてきました。
　段原クラブの３年生は９月いっぱい試合がありますので、チームとしては９月が１番強いはずです。例年はそうです。しかし今年は例年のように伸びてきません。なぜなのでしょう。各自がしっかり考えるべきことだと思います。成長期の、何をやっても全てが伸びる時期に野球の技術と体力と精神力が伸びてこない、つくづく不思議なことです。
　高校野球夏の選手権大会各県の予選が終わり、代表校が全て決まりました。段原クラブの卒団生もたくさんの選手が試合に出場し全力でプレーしてくれました。高校野球は１校を除いて全ての高校が最後負けて、高校野球を終えるシステムなので、負けることは全く問題はありません。多分、悔いのない負けというのもほぼないでしょうから、何らかの悔いが残っているはずです。野球を続ける選手と終わる選手がいるのですが、続ける選手のみなさん、高校野球もたいがいのお金がかかりますが、大学はその比ではなくもっとかかります。本当にあなたの野球がそれだけのお金をかけてまでやる価値がありますか？　お金を出してくれる人に対して、金額以上のものを返すことができますか？　まず今までの野球で考えてみてください。小・中・高校と野球を続けて、たくさんのお金を使ったはずです。あなたはそれだけのものを得ましたか。そしてお金を出してくれた人にそれだけのものを提供できましたか。やりたいからやる。それだけでいいのでしょうか。たくさんの人たちのおかげで野球をやらせていただいている感謝の心。持っていて当然の感覚、備えていますか。高校の指導者の方々もこの話は当たり前にしているはずです。１度しっかり考えてみましょう。中学生も同じです。
　私は試合の勝ち負けやできること、できないことがあるのは当然分かっていますので、どちらでも大きな問題だとは思いません。ただ試合をするたびに同じ失敗を繰り返す選手に対しては？と思います。それも技術のミスではなく考え方のミス。中学生なので立派な反抗期ですし、自分の意見、考え方があるでしょう。しかし練習しても良い方向に進まない、試合で良い結果が出ない、ということを繰り返していれば、あれ？「俺間違ってたか」と思わなければいけません。前にも書いたことがありますし、選手たちには何度も言ってきたことですが、結果を変えるためには、まず頭の中を変える。考え方が変わればやること（練習や技術）が変わる。やることが変われば結果が変わる、です。ということは、頭の中（考え方）が変わらなければ何も変わらないということだと思います。

今年の選手が成長してこないのは、こういう所に問題があるように思います。みんな大きな夢を語るのですから、そのために行動、努力をしなければ、「うそつき」「ほら吹き」ということになってしまいます。まず言っただけのことはやる。話はそこからです。

高校３年のみんな、高校野球どうでしたか。楽しく苦しくいろいろなことがあったでしょう。逃げることなく全うしてくれたみんな、よくやりました。これからあなたたちは大人の仲間入りです。今まで以上に自分に厳しく、自分の行動に責任を持たなければいけません。素晴らしく大きくなった君たちと会える日を楽しみにしています。後輩に「カツ」を入れに来てください。ご苦労さまでした。次のステージに向けて準備です。

第４９７話／２０２３．５．３１

全軟が終わりました。今年は点が取れないので（アウトコースのボールが打てないから）、万が一勝てるとしたら１対０しかないと思っていましたが、初回に２点取られ終わりました。結果は４対０で敗戦。思っていた通りに点は取れませんでした。全軟の県大会は、段原クラブ以外は何らかの予選をやって勝ち上がったチームが参加します。勝ち上がるということは、ピッチャーはアウトコースにストレートと変化球がストライクゾーンにだいたい投げられます。今年の段原クラブは、そのボールをセンター方向に打ち返すことができません。引っ張った打球（真ん中のボール）しかヒットにならない選手たちなので、平均以上のピッチャーから得点することはとても難しいチームです。これは新チームになってからずっとそうですが、変わることは今のところありません。段原クラブ野球心得の中にある、チャンスでアウトコースのボールをセンター方向に打てる、ストライクを取りに来た変化球を振れる、がまったくできるようになっていないので、仕方がありません。この原因は上半身の早い開きにあるのですが、その早い開きの原因は欲にあります。遠くに飛ばしたい欲です。遠くに飛ばすイコール引っ張る。引っ張りたいから早く開く。こういうことです。自分の身の丈を知ることなく遠くに飛ばすことに喜びを求め、右バッターはレフトのポール、左バッターはライトのポールめがけてスイングしていくと誰でも分かる理屈です。アウトコースのボールは届かなくなりますし、変化球はスイングすることもできなくなります。私がストレートに振り遅れないのが、まずバッターの第一だと言っていることも、選手たちは引っ張ると解釈しているのかもしれません。ストレートに遅れないはポイントの話で角度の話ではないのですが、今年の選手の野球脳では理解が難しいのかもしれません。

常々選手たちに言い続けている試合で、勝つための当たり前にやらなければいけないことと、やってはいけないことがほぼできませんでした。結果として４対０で負けたのは当然と言えば当然です。

イニングの先頭打者を四死球で出すと失点の確率は８０％。まずこれを初回にやって２失点。内野手はバッターの芯に当たった打球を捕るのではなく、ピッチャーが討ち取った打球をアウトにするのが仕事なので内野安打はなし。これもできませんでした。捕ってもアウトにできないライン際の打球はファールになるかもしれないので捕らない。これもできず失点。

バッティングはアウトコースのストレートとストライクを取りに来る変化球に対応できず無得点。どれもこれも全て段原クラブに入部以来ずっと言われ続け、試合に出るのならできるようになっていなければいけないことです。段原クラブのレギュラーとしての基準を満たしていない選手が数多く出ていれば結果が良くないのは当たり前。ただ私の予想では、１回の表裏を終わった時点でコールドもあるのかなと思ったので、ガタガタいかなかったのは、段原クラブの選手が踏ん張ったのかな。と思っていませんけど、そうしましょう。

大事なのは、この結果を受けて選手たちがこれからどうするのかです。

まあ変わらなければ試合に出場するチャンスを下級生に譲るようになるだけですから、自分の野球人生

をどう送るのかは、自分自身で決めることなので、あくまで私はお手伝いをするだけですから、やりがいのある選手とグラウンドで楽しみたいと思います。１、２年生の皆さん、チームに力がないときは大チャンスです。今やらないはない、と思います。志が高い人のお手伝いは、私は大好きですよ。「やります」とか「頑張ります」とかただ言うだけで行動が伴わなかったり、保護者だけがやる気があったりでは、私は動きません。私の時間を使うのなら覚悟が要ります。なぜなら私は野球があなたたちより大好きですから。

最後にたくさんのＯＢ、関係者の方が球場に応援に来ていただいたり、お祝いや差し入れをいただいたりしました。段原クラブをいつまでも心に留めていただき、とてもありがとうございます。なかなか期待に応えることができず申し訳なく思っています。残念ながら今は少ないですが、大志を持って日々努力を重ねている選手もいます。段原クラブはそういう選手のためにあり、これからも頑張ります。

段原クラブを心に留めて応援してくださる方々、アンチとして批判してくださる方々。気にしていただける全ての方々に感謝申し上げます。ありがとうございます。本気で野球に取り組む選手がこれからひとりでも増えるために、そういう選手が良い思いをできるチームになれるように努力していきたいと思います。

第４９６話／２０２３．５．１７

人間は地球上の全ての生き物の中で最低な生き物です。

欲は限りなく、他人のものでも何でも欲しがりますし、満腹でも食べ物を手に入れようとします。自分の欲を満たすためには他の人や他の生き物がどうなるかなどあまり考えません。地球上から人間さえいなくなれば素晴らしくきれいな星になることでしょう。何が言いたいかというと、人間（子ども）に時間（暇）とお金を与えるとロクなことにならないということです。

私が小中学生の時代は土曜日は授業がありましたし、中学生の時にはクラブ活動が必修で、家に帰るのは午後7時8時。ほとんどゆっくりする時間はありませんでした。今の小中学生は全員とは言いませんが、何か（スポーツ、勉強、芸術）に打ち込み、毎日毎日寸暇を惜しんでやり続けている子もいると思いますが、ほとんどの子は、週休2日と、いろいろなものが自由という名のもとに強制されなくなり、ゆとりという名のもとに甘やかされ、体罰や暴言が厳しく罰せられることにより（私は体罰や暴言が必要だと言っているわけではありません）、大人が子どもを叱れなくなり、一部の子を除くと頑張り続けたり、辛抱したり、我慢したり、協力したり、自分以外の人のことを考えたり、言うだけではなく行動したり、集中したりなど人として大切な能力が足りないように私には見えます。夢は語りますが行動が続かない、うまくいかないと諦めが早い、自分自身で考えない、すぐ人に頼る、教えてもらいたがる。人から与えられたものはすぐになくなります。野球の技術や考え方も、自分で考え、苦しみ努力し、自ら身に付けたものは一生消えません。そういう努力のできる選手がなかなか見当たりません。段原クラブだけではないと思います。

ここ数年、中学生の野球を見ていると「もったいないな」と思うことが多くあります。「こんなもんじゃないのに」「もっともっと上に行けるのに」。しかし、とても大事な、やり続ける、何があっても諦めない、決めたことは最後までやる、もがく、苦しむ、他人のせいにしない。そんな姿に共感し、指導者は手を差し伸べるのです。日本は国土が小さく資源も乏しい中、私たちの祖父母や父母の世代の人たちが勤勉に努力し続け、経済もスポーツも世界と戦ってきました。そして豊かになりました。体が大きく国土が大きく資源もたっぷりある欧米のまねを

してサボると、あっという間に置いていかれます。

格差社会。私はスポーツ（野球）もどんどんできる人とできない人、チームの格差、広がっていくと思います。高校野球で言うと、春の県大会決勝で10対1、全国大会（甲子園）でも点差の大きく広がる試合が増えています。小中学生の野球もその傾向が出ています。日本人という民族は、勤勉に努力できる民族のはずです。もう一度、学校教育、家庭のしつけを考え直すべきだと思います。野球は人生をかけるに値するものです。

難しく、頂点（100点満点）がなく、ずっとずっと上を目指して努力しなければならないスポーツです。私は今偉そうなことを書いたり言ったりしていますが、自分が選手の時できたのかと言えばできませんでした。後悔しています。だから選手たちには同じように一生悔いの残るものにしてほしくない、と思って厳しいことを言い続けています。

費用対効果等、野球もG7もお金と時間をたくさんかけただけの結果を期待します。段原クラブはお金と時間をかける価値のあるチームだと思っています。そのために私は日々成長していく必要があります。勉強です。

G7もこれだけいろいろな人に迷惑をかけて行われるのですから実りあるものにしてほしいです。みなさん、これから増税が待っていますよ。出したお金は、必ず国は回収します。頑張っていきましょう。

私はまだまだ私を必要としてくれる子（選手）がいるので、少しでも楽しく、厳しく、野球をやっていきます。本当にありがたいことです。

感謝！！

第495話／2023. 4. 19

4月15（土）16（日）の2日間、生名島で合宿をしました。土曜日の午前中雨が残り、ミーティングをしましたが、昼から夜までしっかり打つことができましたし、日曜日もやりたいことはでき、有意義な2日間になったと私は思いましたが、今年の2、3年生は野球頭を使うのがとても苦手な選手が多く、考えてバットを振ったり、ボールを投げたり、走ったりすることが、試合の中でなかなかできるようになりません。そのため今回の合宿は雨が降らなくても夜はミーティングをやろうと決めていたので、午前と夜が逆になっただけで予定通りの練習はできたのですが、日曜日の練習を見ていると、ミーティングで話したことが消化できている選手がいないように感じました。段原クラブは正しい技術と正しい野球の考え方で今まで戦ってきました。そういう点で、今年のチームは物足りなさを今のところ強く感じています。しかし伝えていくしかないので、何度も何度もしつこく繰り返し練習していくしかないのでしょう。高校に行ってからでは遅いので、今のうちに身に付ける努力を選手はするべきです。

指導者は与えられた戦力を最大限伸ばし、高校に送り出す努力をするのですが、選手や保護者の思い以上に選手が成長することはありません。今まで以上の思いを望みます。結局、練習は数です。数をこなした者が勝つと私は思います。正しいことを数多くやり体に染み込ませる。それを身に付いたというのでしょう。

最近、勝利至上主義という言葉をよく耳にします。その伝わり方は悪い意味で聞くことが多いです。勝利至

上主義は少年野球の敵、間違っている、みんなを平等に扱うべきなど、ネットでもいろいろな意見を目にします。私はずっと勝つことが一番大事なことではなく、勝つために努力を重ね技術を身に付けることが一番だと言い続けてきました。今もそう思っています。しかし高校野球やプロ野球で名将と言われている人たちは全て勝った人たちですし、今回のWBCも勝ったから栗山監督はいろいろなメディアに取り上げられています。名もなき県立高校で選手に恵まれることもなく何十年も努力している監督はだれも取り上げませんし、スポットライトを浴びることはありません。つじつまが合わない？

勝った人は褒められる。でも勝利至上主義はダメ。不思議です。公認野球規則（ルールブック）の1番最初に書いてある「試合の目的」を簡単に説明すると、攻撃側はまず塁に出て進塁して得点することに努め、守備側はそれをされないように努め、相手チームより多くの得点を記録して勝つことを目的とする、と書いてあります。

そして、このルールに基づいて行われる競技が野球であるとも書いてあります。勝つことを目的としないとルール違反です。私はこれまで数々のルール違反を監督としてしてきたようです。スポーツを通じて精神、言葉遣い、団体行動、あいさつ、いろいろなものを身に付けたり、鍛えたり、とても大切なことなのは当然知っています。

そして今の時代、価値観は人によりさまざま。高校野球は分かりやすくて、本気で甲子園を目指している学校は県内に10校もなく、それ以外はほとんどは言うだけで本気で行けると思っていないので、本気の人たちは集まらない。本気のチームには本気の人たちが集まるので分かりやすい。分かりやすいとやりやすい。学力もそうです。同じレベルの人たちだと授業がやりやすい。

勝利至上主義は批判されるが、勝たないと評価されない。ルールは勝つために試合をしろと書いてある。何が正解なのでしょう。難しいですね。最近、少年スポーツの世界は分かりにくいことが多いように思います。

ちなみに私は勝負の世界に平等はありえないと思っています。努力する人としない人、時間をかける人とかけない人、思いのある人ない人。平等なわけはありません。

平等な権利とは義務の中にあるものです。

第494話／2023. 3. 22

3月11日（土）、3年生のお別れ試合とお別れ会を行いました。段原クラブが卒団式とお別れ会をなぜ2回するのかというと、練習を続けたい3年生は高校に行く前日まで練習に参加して、100%の状態で高校に行ってくださいということです。勉強する子は練習参加の義務はありません。その区切りのためです。

9月に第1回段原カップを開催した時に、3年生の練習をおろそかにしているチームの能力の低下にびっくりしましたし、何試合か数チームの3年生を集めてやった硬式の試合でも同じ事を思いました。「中学生のクラブチームは何のためにあるの？」。高校野球につなげるためではないのか。チームが勝てればその先（高校野球）個人には興味がないのか。3年生より新チームの1、2年生の試合が大事。私は前から「違わない」と思っていましたが、今年は他チームの3年生の卒団した後の姿を見て、特に？と思いました。卒団した後の6カ月、軟式のチームは硬式に移行して高校入学までしっかりと練習するべきです（中には受験のため勉強しなければいけない選手もいますが）。

野球の力で高校に進む選手は、高校入学前が中学時代の最高の状態で行くべきです。そのために、より練習するのがクラブチームとして当たり前だと考えます。

段原クラブは今までもその考え方でしたが、これからより以上に大切な半年間だと考えていこうと思っています。中学のクラブチームは勝つこともちろん意味のあることだと思いますが、個の力を伸ばし、高校野球につなげることがより重要だと思っています。何度も書いていますが、個の力がなければ高校野球で戦うことは

できないのですから。中学のチーム力は高校では意味をなしません。

広陵から明治大学に行っている選手で多分プロに行くと思いますが、その選手は中学時代ほとんど勝つことのないチームの選手でした。しかし広陵でも活躍しましたし、大学でも活躍しています。チーム力では上には上がれませんが、個の力があれば上のレベルで野球ができるということです。クラブチームはそれを目指す場所だと私は考えています。もちろん行く高校によってやることは変わります。

今年の卒団生も全員第一志望の高校に合格しましたが、高校3年間野球にかける選手は5人です。勉強で大学に行くのか、野球で大学に行くのか、それによってやることが違ってくるのは当然です。私が今言っているのは野球で大学に進学しようと考えている選手の話です。そのためチームとして最大限の協力をするべきだという話です。

中学野球には軟式と硬式があります。子ども（選手）のためどちらが良いのでしょう。私は軟式の監督をしています。なぜかというと、高いレベルに上がって長く野球をやろうと思った時「軟式で十分」、そう思うからです。無理にお金と時間とリスク（ケガ）をかけてまで硬式をやる必要がないと思っています。イチローの言葉です。「日本の高い野球技術は中学時代の軟式野球が支えている」。プロ野球を経験した人は軟式が良いという人が多いのも事実ですし、広島出身のプロ野球選手の投手は80％、野手は50％が軟式出身ですし、プロ野球各チームのエース格（開幕投手）はほぼ軟式出身です。私はどちらでもいいと思っています。チームです。技術がしっかりしている良いチームならボールはどちらでも良いと思いますが、軟式野球が硬式野球より投げること、捕ること、打つこと（金属バット）全てが難しいので、しっかりしたチームでやれば技術が身に付き高校で戦えると思います。

段原クラブの過去のOBたちは100％とは言いませんが、ほぼ高校でレギュラーで活躍している現実を見ると、私の言っている軟式で十分、どちらでもしっかりとした技術を身に付けられるチームでやるべきという考えは間違っていないと思います。

今年の新入生は硬式志向が強く、部員集めに苦労している軟式チームが多いと聞きます。段原クラブも同じですが、入部してきた選手をしっかり鍛え高校に送り出し、次につなげることをやっていけば必ず選んでもらえると信じています。正しい技術と正しい野球の考え方、そして高校野球その先を目指すお手伝い、それが中学のクラブチームのあり方だと思い、続けていくだけです。段原クラブは軟式ですが、3年生は卒業までに硬式にしっかり慣れて高校に進学します。過去もこれからも高校野球につなげるために全力を尽くします。

WBC見ましたか。見てない選手がいたらどうかしてます。何なら私は選抜高校野球の試合を中断して野球をやっている子ども全員に見せるべきだったと思いました。日本で野球が飛び抜けてうまい人たちとメジャーリーガーの試合。全てが見本になります。勉強になることだらけ。練習をするより大事なことです。なぜならトップの技術が映像で見られることにより頭の中にイメージが残ります。トップのスピード、パワー、技術がイメージできなければ練習しても近づくことはできません。イメージできない分からない世界には行けないからです。目指すトップのレベルが頭の中にあるのとないのとでは全く違うということです。

よくプロと中学生や高校生は違う、という人がいますが、そんなことは当たり前です。しかし同じルールでやっている同じ野球。目指すところは同じです。より強くより速くより正確に、です。そのために体がほしい、筋力がほしい、そして技術がほしいということです。全ての国の選手に感謝します。ありがとうございました。ダルビッシュや大谷の一言一言に教えられることがたくさんあり、私は63歳ですが、努力して人間として少しでも近づきたいと思いました。一流は全てが一流なのだと痛感しました。本当にありがとうございました。とても良い経験ができました。今後子どもたちのために役立てたいと思っています。

第493話／2023. 3. 8

2月22日（水）、宮崎で行われていたWBC強化合宿を見に行ってきました。チケットは数百倍以上の倍率の抽選なのですが、段原クラブの保護者が当たり、家族4人の中に混ぜてもらい、21日（火）のフルスイング塾終了後、0時過ぎに広島を車で出発。朝7時ごろに宮崎に着き、練習開始から見ることができました。日本のトップの野球選手を生で見ること、まして練習が見られるのは人生最後のチャンスかもしれないので、とても良い経験をさせていただきました。

ウォーミングアップは、1時間前にひとりグラウンドに出てゆっくりとランニングをし準備を始めるダルビッシュ（宇田川選手と今永選手がお供して）を見て、トップを長く続けている理由が分かりましたし、フリーバッティングでは全員が丁寧にティーバッティングをし、バッティングではまず反対方向に打つことから始め、一球一球考えながら打っている姿、村上選手の打ち損なったフライの高さ、スイングスピードやスピンによる打球が2段伸びていくさまなど本物のプロ選手の技術とスピードを体感でき、長い間中学生を見続けて、目のレベルが下がっていた私の感覚を上げることができました。野球をしている子どもたちはまずトップを見ることが本当に必要だと痛感しました。トップのすごさ、本物を見ることで、自分のやらなければいけないことが（目標や夢の大きさが見えてきて）見えてくるのだと思います。中学野球でヒットを打つとか勝つとか要らないわけではないですが、もっともっと先に大きな目指すもの、素晴らしい世界があるのですから、どうせなら目指した方が面白いはずです。私は素晴らしい素材を親からもらったにもかかわらず、大した努力もせずプロ野球選手になっただけで満足し、中途半端な選手で終わったことをWBCの選手を見てつくづく後悔しました。

午後からは、近くでやっていたオリックスのキャンプを見に行きました。巨人との2軍練習試合を楽しみに行きました。浅野選手を見ることも楽しみでしたが、今の2軍戦は1軍半の選手がいないので、ピッチャーのレベルが低く、特にWBCの選手を見た後なので物足りなく感じました。浅野君はまだ少しプロのピッチャーのスピードに遅れているように思いましたが、追い込まれた後の低いフォークボールに止まれるあたり、やはり非凡なものを持っている選手です。一度しか会っていませんが、活躍してくれる日が楽しみです。

WBCはセキュリティーがとても厳しく、なかなか選手を間近で見るのは難しかったのですが、オリックスではキャッチャー練習や室内のバッティングなど本当に近くで見ることができ（レギュラークラス）、練習量や体の強さ、大きさ、スピード、正確性など素晴らしいものが見られました。帰りも車で6時間、車中泊の弾丸ツアーで体は疲れましたが、心はいつまでも興奮しっぱなしの24時間でした。チャンスがあれば、野球をやっている子どもたちもプロ野球選手の練習を見ることをおすすめします。保護者一家および宮崎の親戚の方にお世話になりありがとうございました。お礼申し上げます。

野球をやっている子どもたち、私のように一生後悔を背負って生きる人生にしないために今、全力を尽くし、3年後5年後のための練習を頑張りましょう。できる人たちがいるのですから、全ての人に可能性はあるはずです。継続です。

諦めず続ける。それ以外夢に近づく方法はありません。言い訳したり他人のせいにしたりして逃げては負けです。全ての結果は自己責任なのですから。やったもん勝ちです。

第492話／2023. 2. 1

忙しさと疲れで12月21日から1カ月以上、このページを更新していませんでした。書きたいことはたくさんあるのですが、少しの時間があれば横になりたいと思い、一度横になるとなかなか起き上がれず、ずっとサボっていました。

まず1月2日のOB戦。180人以上のOB、保護者、現役の部員が集まってくれて、試合内容も素晴らしく例年以上に盛り上がりました。参加してくれた方々、準備から運営に頑張ってくれた方々、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

今、3年生は高校受験のため勉強している子と野球を中心とした高校に進学が決まって野球に集中している子がいます。私が常々思っているのは、高校で野球に集中しようと思うと、勉強は少し余裕のある学校に行かなければ野球どころではなくなります。受験は簡単なことで、受かるところを受ければ受かるし、受からないところを受ければ落ちる。それだけのことだと思います。受かるか受からないか分からないところにもし合格したとしても、やっと入学したのなら、勉強に集中しなければついていけません。ということは野球どころではなくなります。
それぞれの価値観ですから、とやかく言う問題ではないのでしょうが、私は高校は入ってから何をするのかが大事で、何をやりたいのか何をしに行くのか、そのあたりがはっきりしていなければ、どこに行っても3年間が中途半端なものになるのでは、と思います。公立・私立2校で全く目的の違う2校を受験する人の話を聞くと何をしに高校に行こうとしているのかがよく分からなくなります。まあ入学してから目的を探せばいいのかもしれませんね。とにかく精いっぱい頑張ることです。

冬の練習は、基本を繰り返すことです。算数ができない人は数学はできませんし、ABCや単語を覚えなければ英語ができるようにはなりません。勉強もスポーツもまず土台（基礎）を作ることが始まりです。そのために平日練習が大事です。体づくり（スピードとパワー）と技術の追求。そのために基礎練習を数多く、嫌になるほどやる。土台を大きくして高く伸びるのだと思います。
基本を身に付けることなく試合を数多くこなしても、本物の技術は身に付きません。その状態で高校に行っても伸びしろがないので勝負に負けることになります。チームが勝ち上がっても全ての選手が力があるわけではないので、勘違いして野球強豪校に行っても通用しないということが起こります。これからどんどん成長していくためにやらなければならないことは試合のテクニックではなく、体と技術の土台作りです。体・技・心の基礎です。中学生はそこに集中するべきだと私は思います。

たくさんの子どもたちが体験に来てくれています。段原クラブ（私）の考え方を理解していただいて本気で野球にのめり込みたいと思う家族の方々、一緒に野球ができたらいいですね。楽しみにしています。

高校3年生が大学に行くまでの間、わずかですが練習に来てくれています。中学生にとって素晴らしくありがたいことです。何から何まで全てが手本です。一つでも二つでも段原クラブの選手が素晴らしさを身に付けてくれたらいいですね。まず取り組む姿勢（声も含め）をしっかり見てほしいと思います。とてもありがたいことです。感謝します。

1、2年生の選手の皆さん、頑張っていると思っているようですが、私は今のところ全てが不満です。物足りないところだらけなので、今のままだと思っているような結果につながらないと思っています。「本気でやる」はまだまだ上だと思います。夏になって慌てても遅いです。今やらないと手遅れになると思

っていますよ。やるかやらないかはあなたたちが決めることです。まず冬の間に体が変わらないは話にならないと思います。

第491話／2022. 12. 21

サッカーのワールドカップが終わりました。私はサッカーに詳しくはありませんが、世界のトップアスリートが素晴らしいのだけは分かります。野球だけでなくオリンピックを見ても、全てのスポーツの世界のトップを見るのは楽しいものです。いいものを見せてもらいました。

今回、日本の選手は年々進化して世界と戦えるようになってきましたが、決勝を見ると、言葉で表すのは難しいですが、まだまだ差があるように思いました。若い選手たちがたくさん海外へ出て行ける環境にあるので、これからも日本は強くなっていくでしょうか？

日本の選手たちの自信満々の言葉を聞くと、「言葉の力」「思いの力」をとても感じました。自分はできる、必ずやる、という思いがとても強く、私がいつも言っている、頭で考え思い描けることは実現できる、思い続ける、やり続けることが実現のために重要なことだと分かります。

夢や目標は口に出す。誰に何と言われようと自分だけは自分を信じる。そんな人たちが世界のトップを争うようになるのがよく分かりました。日本は大きな事を口にすることが良しとされない環境ですが、若い選手たちはどんどん口にして、それに向かって努力（練習）していくことが必要です。

終わったらすぐに4年後の事を語っている選手たちは、とても頼もしく見えました。段原クラブの選手たちも、中学野球で勝つとかヒットを打つとかではなく、高校、大学、またその先の夢を語ったり、目標に向かって練習を重ねたりできるようになってほしいものです。

何度もこのページで書いていますが、チームの勝ちは、これから先の野球人生にあまり関係ありません。それよりも個の力を付けること、ひとりで戦える選手になることが、自分の野球人生を伸ばし、広げます。ひたすら自分の力を伸ばしていくことに集中するべきです。それも3年後、5年後、10年後に何をやっていたいのか、どんな選手になりたいのか、しっかりしたものを描き、それに向かって言い続ける、やり続ける。中学生はそうあるべきだと私は思います。

段原クラブは平日（火、金）に練習をします。もちろん自由参加ですし、17:00～19:00 の間、何時に来ても構いません。練習メニューも自由です。

ただ、わざわざ同じ場所に集まるのですから、ひとりでできる練習をする必要はないと思います。単純に走る。腹筋、背筋など家でひとりでできる練習をしている選手がいます。それを見ていると、練習のない日にひとりでそういうことができない子なのかな、と思います。ずっとやらされた練習をやってきた選手は、自分で考えて自ら練習することが難しいのでしょう。

今何をやるべきなのか、まず今の自分を分析しましょう。何が足りないのか、夢にたどり着くために今何をするべきなのか。1歩1歩近づくために考えましょう。基本とは何なのか、その基本を身に付けるため、どんな練習が必要なのか。グランドに来る前に

考えましょう。毎日毎日野球のことを考えていますか？
ユニフォームを着たときだけ、グランドに出た時だけ野球のことを考える。これで上達するわけはありません。人間の体は脳が支配しているのですから、脳を動かさなければ体は動かないのです。「考える」。常に時間があれば野球のことを考える。野球以外でも全ての世界でトップに立つ人たちは、そういう人たちです。
あなたたちは、野球のことを考えている時間、練習している時間、チームトップの自信がありますか。私は中学時代、チームの中で1番でした。なぜなら大きな夢がありましたし、それをみんなに公言していたからです。その夢のために中学時代の時間の多くを使いました。わたしの夢は半ばでついえました。それは努力し続けられなかったからです。後悔しています。冬に差が付きます。ひとりでも多くの選手にやり切ってほしいと思っています。

第490話／2022. 11. 29

11月27日（日）、OBの坂本修也（JFE西日本）が練習に顔を出してくれました。
彼は、段原クラブから大社高校（島根）、大学は近大工学部。大学時代は広島6大学でMVPにも輝いた選手です。長く野球を続けているのにはそれなりの理由があるわけですから、彼と接することで子どもたちには必ずプラスになることがあったはずです。キャッチャーとしてスローイングが素晴らしい選手なので、キャッチャー3人は彼のやっている練習方法と考え方を指導してもらい、かけがえのない1日になりました。本当にありがとうございました。
彼から、1日でも長く野球をやりたいという思いを聞きました。そのためにはバッティングの強化だと思います。私で力になれることがあれば協力したいと思います。いつでも時間があれば顔を出してください。今回はありがとうございました。

3年生は高校進学に向けて第4コーナーを回り、最終決定をする時期となりました。私が思う高校には3種類あります。「野球部のない学校」「勉強の合間に野球をする学校」「野球の合間に勉強をする学校」です。今年は、8割の選手が「勉強の合間に野球をする」学校に行きます。これは、野球の実力、価値観、金銭的な問題、学力、将来に対する考え方などで決まります。どこの高校を選んでも、各自、各家庭の問題なので、私がどうこう言うことではありません。ただ、小学校から段原クラブに入部したとき、ほぼ全員が目標（夢）はプロ野球選手、何ならメジャーリーガーと言っていたのに、なぜ、たった2年半で甲子園出場の可能性がほぼゼロの学校を選択するようになるのでしょう。
人間は頭に思い描けることを実現してきている生き物です。逆に言えば、思い描けないことは実現できないということです。「思い続ける」そして「やり続ける」。言い換えれば、夢（目標）に向かって「努力し続ける」。継続は力なり、という言葉がありますが、まさにその通りです。
夢や目標を諦める（変える）ことは悪いことだとは言いませんが、思い続けられなかった、やり続けられなかった（努力し続けられなかった）ことは事実です。
いつ諦めたのでしょう。その時点で野球の成長は止まり、練習にかける時間や、関わる全ての人たちの時間がもったいない時間になります。次のステージで次の目標（夢）に向

かって思いと行動を継続し続けられることを期待します。

3年生が硬式のチームと2試合、硬式で練習試合をしてもらいました。とてもありがたいことで感謝します。ありがとうございました。その中で私が気になったことがあります。ピッチャーの配球です。ストレートと変化球の割合が5対5、ピッチャーによっては4対6で変化球の方が多いように思いました。特にバッティングカウントで投げる変化球がとても多く感じました。試合後、あるチームのピッチャーに話を聞くと、ストレートだと打たれて勝てないから変化球を多投する、と言っていました。その選手は私から見ると、とても立派な体格ですし、ストレートのスピードも平均以上はあります。打たれるのだとしたら、ストレートの切れとコントロールがないからだと思います。
球種が4種類ある投手が投球練習を100球すれば1種類25球、2種類なら1種類50球。単純にそうではないのですが、球種が増えると練習量が減り、精度が下がります。時代が違いますが、私はストレートとカーブの2種類で100球投げれば、80球はアウトコース低めのストレートを練習しました。ひたすら少しでも速く切れのあるストレートをアウトコース低めに投げたいと思い投げました。私が出会ったピッチャーたちは、そこに対するこだわりがないように見えました。目の前の試合の結果を求め、試合に勝つことを求め、安易に変化球に走る。少年野球は、本当にそれで良いのでしょうか。今、高校野球も半分変化球、猫も杓子もスライダー、チェンジアップ、フォーク。長く野球を続けるため、上のステージに上がっていくため、今必要なものは、精度の高い切れのあるアウトコース低めのストレートだと私は思います。
体をコツコツ作り、根気よく練習を重ね、結果を早く求めることなくやっていけば、必ず身に付く日が来るはずです。少年野球でピッチャーが点を取られるのは、四球、ワイルドピッチ、長打です。たくさんの変化球を覚える時間を、アウトコースのストレートに使えば、これが防げます。失点が減ります。そして勝ちます。上のステージにつながり、野球人生が長くなると私は思っています。

第489話／2022. 11. 23

11月19（土）、20（日）2日間、府中オーシャンズの大会にA、B2チーム出させていただきました。毎年招待していただきありがとうございます。

例年通り私はBチームの1年生を見ました。小学生の体力、技術しか今のところ身に付けていないので、中学生相手の試合で良い結果が出るとは思っていませんでしたが、予想していたより守備もバッティングもできないことだらけで、これから今までの何倍も気持ちを入れて数多く練習していかなければ、高校のステージで野球をするのは難しいと思いました（高校野球もピンからキリまでレベルの違いがあるので、負け続けるチームでよければできますが）。同級生はずっと同級生ですから、今負けていて変わらなければ、これからも負け続けるということです。

府中オーシャンズの関係者の皆さま、2日間お世話になりました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

札幌クラーク高校の監督が、大阪桐蔭にかみつきました。

私はそれをネットで見て「よくぞ言った」と思いました。私がここで何度も書いた、子どもたちの野球のマナーの話、ピッチャーが投球準備に入ったら攻撃側は大きな声を出すな、ということです。高校野球界の先頭に立ってリードしているチームがその程度。悲しくなります。監督も子どもたちが懸命にやっ

ているからしょうがない、というようなコメント。「はぁ～」です。「それを注意するのが指導者の仕事でしょ」と私は思います。確かに大阪桐蔭の監督に求められている仕事は甲子園に行くこと、そして勝つこと。それでお金をもらっているのでしょう。それでもトップのチームは、そのための手段は選びましょうよ。勝つためには何をやっても良い、ルールブックで禁止されていないのだから良いでしょ、は違います。広島の中学生のチームにも、ランナーが出てピッチャーがセットに入ると、ベンチから「ゴー、ゴー」と大きな声を出してピッチャーを威嚇するチームが数多くありますし、打球が飛べば「ある、ある」と守備者に対して声を出すチームもあります。私はずっと指導者の質の問題であり、審判が注意するべきだと書いてきました。

１年生が投げるゆるいボールをよけないでデッドボールになり喜んでいる選手も同じです。これも指導者と審判の質の問題です。

保護者の皆さん、本当に大事なわが子を預けて大丈夫ですか？そんな野球をしていて上に上がっていけますか。勝つために何をするのか、野球の技術、個の技術を高めて勝たなければ戦えないからです。子どもの野球に携わっている指導者の皆さん、相手の力を落として勝つ、そんな事を子どもたちにやらせるのは、もうやめませんか？

子どもたちがやっている野球は、あなたたちが伝えたものです。ルールの前にマナー、大きな声は味方の選手に対して出すものです。打席でボールが体に当たりそうならよけるものです。ヒットを打つためにバットは持つものです。

今、段原クラブの1、2年生は野球がうまくできません。これは指導者である私の責任です。現実がしっかり見えた府中オーシャンズの大会。これから選手の皆さん、保護者の皆さん、どうしますか？私はとても悔しい思いをしたので、やる気のある子と今まで以上にやろうと思っています。

札幌クラークの監督、私は応援します。大きな力に負けないでください。指導者の皆さん、考え方のレベルを上げましょうよ。本当に子どもたちのためになるのは何か、考えたら分かるはずです。

勝つことはとても大事なことだと思います。しかし、そのための手段は何でもあり、ではありません。格好良く野球をやりたいですね。

第488話　2022. 11. 16

プロ野球のドラフト会議が終わって、各チームが戦力外の選手を発表しました。毎年100人入団すれば100人がプロ野球界を去らなければなりません。これはアマチュアでも同じで、必ず野球ができなくなる日が来ます（この場合の野球とは硬式野球のことです）。前にも書いたことがありますが、高校野球から先（大学、社会人、独立リーグ、NPB（プロ野球））に進める人は約6%。90%以上の選手は高校野球（18歳）で野球人生が終わります。

私は28歳で終わりましたが、その年で野球が終わる覚悟は6月に膝をけがしたときにできていましたが、最後の打席は今でも覚えています。寂しい1日でした

先日、段原クラブのOBの保護者と食事をした時に、息子さんの終わりの電話を受けたときの気持ちを話されました。小学生の時から親子ともども夢を追い掛けてきた野球が終わってしまうつらさ、苦しさ、無念さ、悲しさが、同じ思いをしたことのある私には胸に突き刺さりました。子どもと一緒に全力で夢を追い掛けた親だからこその思いです。その日が1日でも遅くなるように、今、何をしなければならないのか、自分の野球人生の最後はどのようにして終わるのか。選手の皆さん、一度考えてみてはどうでしょうか？

11月13日（日）、練習試合が雨で流れ、フルスイング塾で3組に分かれて練習しました。まだ試合の戦力にはならない1年生、今のところ試合のベンチに入っている1、2年生、硬式を打つ3年生の3組です。

段原クラブでは、入部すると、腕立て伏せ、腹筋、背筋、スクワットぐらいは毎日やりましょう、と言いますが、まだ試合の戦力にならない1年生はやっていないようです。他の組の選手は分かりませんが「体・技・心」、練習して食って寝る、まず体を作らなければ勝負以前の問題。まだまだ時間がかかりそうです。来年入部してくる新1年生に抜かれてから慌てても遅いですよ。プロ野球選手をよく見てください。結果が付いてくる選手は体が変わります。成長期なのですから変わって当たり前なのですよ。

日曜日の練習で残念なことがありました。新チームで試合に出ている2組目の選手が、私の目の届かないところで練習中に遊んでいました。バッティングの順番を待っている間です。待っている間には、少し狭いですが、ティーバッティングができるスペースがあります。子ども（中学生）なので、そんなもんなのでしょう。ごくごく一般的などこにでもいる中学生の野球選手は、誰かが見ていなければ手を抜くのはよく分かります。子ども（人間）なんて大抵その程度です。

私は怒ることもせず「時間がもったいない」とだけ言いました。

全国だれもが知っている野球強豪校への進学希望を口にして、それはないでしょう、と思いましたが、少し勘違いするのも子どもなので仕方ないのでしょう。見てしまうと私は腹が立ったり嫌な思いをしたりするので、これからはなるべく見ないようにしようと思います。室内での練習中、下に下りる時は伝えてからにしようと思います。

今の時代、怒ること、無理やり練習させることは悪だとされています。本当にそれで弱い（心と体）子どもたちは、いろいろなものに勝って自分に厳しくできるのでしょうか。私は疑問です。

段原クラブは、能力の低い子どもたちを鍛えて戦ってきました。今なかなか鍛えにくい時代、より一層選手のもので勝敗が決まる時代になっていくのでしょう。今の高校野球を見れば分かります。全国からより良い選手を奪い合い、集めたところが勝つ。私はそんな野球は好きではありません。毎日毎日コツコツ努力を積み重ねて打つヒット1本がどれほど大きな意味を持つのか。みんなもう一度考えてほしいと思っています。

その努力を親子でやり続けて迎える終わりの日、私は大きな拍手を送ります。選手も保護者も立派な勝者なのですから。

第487話　2022. 11. 9

クラブチームを運営していくために必要なものに、お金と人の労力があります。お金は会費です。人の労力とは保護者の方々の協力です。例えば、軟式野球連盟主催の公式戦以外は、グランド作り、審判、ボールボーイ、お茶出し、本部席の運営 tec.が必要です。

試合や練習でグランドを移動する時には、ワゴン車に野球道具やテント、ネットまで積むと、ワゴン車の運転席から後ろが見えないほどになります。荷物を車に積む作業、運ぶ作業、帰ってから降ろす作業、そして、宿泊を伴う遠征では、ホテル、移動手段（電車・バス）、弁当などの予約、価格交渉、コロナの中でのキャンセル、変更、集金、支払い。チーム行事の準備に片付け。見えるところだけでなく、見えないところで数限りない仕事があります。もしもこれらを自分でした覚えがないのなら、だれかがしています。皆さん、分かってらっしゃいますか？いつも、ほぼ同じ人がやっています。私が言いたいのは、知るべきだ、ということです。そして感謝の心を持つべきです。会費は全員同額、労力は全員が同

じではありません。何なら労力を提供している人は余分にお金も出しています。「いつもありがとう」「ご苦労様です」。こんな一言が必要です。
勝手に野球道具がグランドに来るわけでもありませんし、あの程度のお金で遠征に行けるわけはありませんし、段原クラブは払っているお金以上のものを提供しています。例えば卒団記念品11人が1万円ずつで11万円。ヘルメット(マーク入り)9個とケースに刺繍を入れて6万円、照明器具が1台5万5千円×3台で16万5千円。合計22万5千円が11万円。誰かが何かの努力をしてこうなっています。しっかり見て考えて意見するようにしましょう。

チームのため、子どもたちのために頑張ってくれている人たちに感謝です。私はしっかり見ていますよ。いつもありがとうございます。

皆さん、よく考えてください。あなたはわが子のことを考える時間が長いのは当たり前ですが、チームの今、チームのこれから、他の子どもたちのことを考える時間、動く時間がどれほどありますか？　保護者たちが、わが子のことだけでなくチームのことを考える時間がたくさんあるチームを良いチームというのかもしれませんね。

とにかく動かない人は、動いている人にグズグズ言いなさんな。チームのために動いている人たちは、代表である私の了解を得て動いています。あなたたちの払っているお金だけでは、これだけのことはできないのですよ。感謝です。ちなみに、3年生の保護者の方々、硬式用竹バットと段原プライドのフリース2点で1万円では、そう揃いませんよ。考えれば分かることです。　頑張ってくれている人たちにありがとう、です。

上達するのに時間がかかる子は、いろんな事に無関心です。例えばバッティングする時、ホームベースの向きが曲がっていても、砂をかぶって見えにくくなっていても、打つポイント辺りにボールが落ちていても気が付かない、気にしない、何とも思わない。課題があり、その話をしても、次の週もその次の週も変わらない、変えようとしない(考えていない)。野球のことを考えている時間が短いのだと思います。野球が好きだとは言いますが、1番ではない、他にたくさん興味のあることがあり忙しいのでしょう。野球というスポーツは日本の人気スポーツで、競技人口が多いスポーツです。中途半端な努力や素材で上に上がれるスポーツではありません。せめて段原クラブの女子選手以上の努力をしなければ、野球で良い思いをすることはないと思います。

第４８６話　２０２２．１０．２６

プロ野球のドラフト会議が終わりました。毎年、私は自分の野球人生を、この時期に後悔します。まず大人（スカウト）の言うことを聞いて、１２球団ＯＫと言わなかったこと。入団してから誰よりも努力を積み重ねなかったこと。やり直しができないのでどうしようもないのですが、毎年、生まれ変わってもう一度野球をやり切りたいと思います。

今年のドラフトは不作と言われていたとおり、指名人数がとても少なく、１位で指名されている選手たちも、私には１位の器には見えない選手が多くいました。入団してからどういう選手になっていくのか。もちろん本人の努力次第だとは思いますが、私の思う１位は、野手ならチームの中心選手、投手なら先発ローテーションか抑えが基準だと思っているので、私が選手を見る目があるのかないのか、数年後に分かります。

後輩のスカウトに聞いたところ、甲子園で活躍している超有名校の選手が指名漏れにな

っているのは、試合に勝つためのテクニックには長けているが、伸びしろが感じられない（完成している）そうです。私が常々言い続けている、小中学生にも多い、試合に勝つためだけの野球。これが子どもたちの可能性を小さくしています。ピッチャーなら多彩な変化球、困ったら投げるスライダー、野手は左バッターで足が速くてバント、エンドランができる選手が多く、しっかりスイングできる選手が少ない。バッティングより足や守備優先でレギュラーが決まる。全てはトーナメントを勝ち上がるために確率の高い選手です。プロ野球は可能性（伸びしろ）。ソフトバンクが１位で指名した選手は今、野球はうまくないそうです。しかし、身体能力に無限の可能性を感じ、１位で指名したそうです。全く駄目なのか、大化けするのか。ソフトバンクは成長にかけたのだと思います。

子どもたちは野球を始めるとき、夢を持っています。試合に勝つという結果のために、小さく、普通の選手になっていくことが多くなります。

ミスしない、間違えない、冒険しない、怒られたくない。「ノープレー、ノーエラー」。これでは大きくなれません。そもそも野球というスポーツはトーナメントで勝敗を決めるスポーツではありません。プロ野球のようにリーグ戦をやって順位を決めて、それから短期決戦。これで本当に強いチームが分かるスポーツです。ただ、小中高校生の場合、日程的にも金銭的にもトーナメントでしかできないのはしょうがないと思います。その限られた環境の中で、せめて子どもたちがしっかり自分で考えてバットを振れる、自分で走れる、自分でバントできる。ピッチャーは困ったらストレートをアウトコースに投げられる。自分の判断でプレーできる選手にするために、指導者は試合に勝つことが優先順位の１位でないことが大事なのではないかと思います。

選手の力で試合に勝たせてもらう。選手に力がなければ指導者があたふたしてもどうすることもできない、と私は思っています。そして、選手の力を付けるのは、指導者ではなく選手本人です。だから私は、自分の野球人生を後悔しています。

生まれ持った「もの」が必ずあります。それ以上になるのも、それ以下で終わるのも本人次第。ぜひ野球人生をやり切ってください。私のように、一生思い続けることのないように。

第４８５話　２０２２．１０．１９

人は上手くいかないことがあると、自分以外の責任にする人が多い。

野球人生で言うと、ほとんどの野球少年はほぼプロ野球選手に憧れ、なりたいと思うがほぼ全ての人がその夢は実現しない。

中学、高校と学年が上がっていくにつれ自分の思い通りにならない事が増えていき、諦める。その思い通りにならない時、何人が自分の責任だと思うのだろう。私の経験では、ほとんどの人が自分以外（指導者や環境、チーム）に責任を転嫁し、本人の努力不足や才能の問題だと考えず、不満を口にする。

チーム１練習している人は、チームに 1 人しかいない。しかし、そう思っている人は数人いる。勘違いしている人が多くいるということ。

私は高校進学の時、子ども達に「まずチームで１番練習しましょう。それでもチャンス

をもらえないのなら私が監督の所に話をしに行きます。」「そうでないならグズグズ言いなさんな」と言います。
段原クラブも同じことです。話はまずそこからです。そうでなければ絶対的な力を持つことです。
才能って？体？肩？足？毎日毎日誰よりも多く練習を続けられる心と体のことです。
カープの監督になった新井がまさにその才能を誰よりも持っていた選手でした。本当に素晴らしい才能です。

今年は色々なことがあり、たくさん苦しみ、悩み、悲しみ、そして楽しみましたが、卒団式の後よくわかります。結局、思い通りにならない時、誰のせいにするのかが人の価値です。
私は、プロ野球選手として成功することは出来ませんでした。高校時代、甲子園でも勝つことは出来ませんでしたが、私は他人のせいにはしたことはありません。私自身の努力（練習）が足らなかったと常々口にしています。どんな環境でも、どんな指導者でも、どんなチームでも優秀な選手はいます。逆にどんな有名なチームでも、どんなコーチが教えても全員が良い選手にはなりません。結局本人の問題です。

段原クラブには中学２年生の女の子がいます。小学校では何もやっていませんでしたが、今、実力でレギュラーのポジションを獲っています。負けている男の子が数多くいます。なぜなのか。簡単なことです。練習量で圧倒的に負けているからです。ほとんど毎試合１本のヒットを打ちます。最低、この子よりはバットを振らなければ何を言っても始まりません。練習量も思いも負けているのですから。

練習はまず量、次に質です。（中学生の場合）自分の野球人生は自分自身で切り開くものです。
練習は自らやるもの。誰かにやってもらうものではありません。自ら進んでやる。それに指導者は寄り添います。自分の都合でやったりやらなかったりではなく、何があってもいつでもやる。そんな選手と野球をする方が楽しいに決まっています。誰でもそうじゃありませんか？段原クラブ（私）は、そんな選手に良い思いをしてもらいたいと思って野球をしています。今数人います。増えると良いですね。
グランドに出るのが楽しいかどうかは選手次第です。せっかくの休日、楽しく野球をやりたいものです。

第４８４話　２０２２．９．２７

段原カップの３日間（９/２３，２４，２５）が終わり、３年生１１人の段原クラブでの試合が全て終わりました。
まず、この大会に参加、協力していただいた全ての方々（選手含む）に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。
試合なので勝ち負けはありますが、１０チームで全２０試合、みなさんに喜んでいただける大会にしようと段原クラブは全力で取り組みました。そうであったと信じています。

改めて皆様、選手のみんな、ありがとうございました。私は今、「やってよかった」と心から思っています。そして続けていきたいと思っています。

３年生は入部した時からコロナと戦い、自分と戦い、大人と戦い、野球だけではなくそれ以外のつまらないこともあり、代表、監督として申し訳なく思っています。そんな中で最後まで笑顔で試合に集中し、段原クラブの野球を見せてくれた君たちに心から感謝します。ありがとう。

試合に勝てて君たちと一緒に喜べたことは嬉しいのですが、私が思っている君たちはあの程度ではありません。もっともっと野球の技術、心、力を持っています。「段原クラブは高校に行く前日が１番うまい」高校野球、次の野球人生に夢を持って進んでいく選手は、これからの６ヶ月が今までの２年半より数倍重要な日々になります。あなた達の思いに段原クラブは寄り添います。私を、段原クラブを、思う存分利用してください。

新チームも４試合、３年生のいるチームと経験でき身のある大会になりました。思っていた通りの選手、それ以上に出来た選手、思いのほか良い結果につながらなかった選手、それぞれでしたが充分に試合になることは証明してくれました。

欲を言えばきりがないのですが、３年生と行動を共にしていた選手が、それなりの力を出してくれれば戦えるチームです。新チームは今、ポジション、レギュラーを固定できない中で競争により、個の力がついていくことを期待しています。

１年生にもチャンスがいくつも転がっています。まず、守れるポジションを見つけて下さい。「ここなら役に立てないまでも迷惑はかけません」これが出来れば試合に出るチャンスがあります。

競争です。チームメイトは仲間ではなくライバルです。ギラギラした目でグランドに出てくることを望みます。

勝負とは勝つか負けるか、殺るか殺られるか、言葉が悪いと言われるかもしれませんが２つにひとつです。チームスポーツと思っている人がいるかもしれませんが、個人と個人の戦いの繰り返しが野球ですし、個の力を持っていなければ誰かの力で勝たせてもらうことになり、価値が意味あるものになりません。

夢を持ち、それを追うのであれば個の力をつけることに集中するべきです。前にも何度も書いていますが、チーム力などどいうものは高校野球というステージに上がった時、あなたを助けることはありません。

ステージを上がっていくために必要なものは、体・技・心。個人の能力だけです。段原クラブはそのためにひたすら個の力を高めることにこだわります。

最後にもう一度、段原カップに関わっていただいた全ての方々（人々）に感謝いたします。本当にありがとうございました。ご苦労様でした。

第４８３話　２０２２．９．１５

１０月１日（土）・２日（日）に文部科学大臣杯の県大会があります。今、１．２年生

はポジションを奪う戦いの中にいます。私の中で、５人は確定しています。残りの４つは、決定的な力を持っていないので流動的になるかもしれません。それがこれからの楽しみでもあります。

「アピール」よく使われる言葉です。レギュラーを決めるのは監督なのでアピールは監督にする必要があります。グランド（練習・試合）で持っている力を見せる。良い結果を出す。他の人より優れた所を見せる。これはもちろんアピールになります。では、監督の見えない所でしている努力はアピールになるのでしょうか。その努力により力や技術が身に付き、練習や試合で良い結果につながり、監督なり指導者に見せられればもちろんアピールになりますが、そうでない場合、監督に気付いてもらうことは出来ません。

見えないものは見えません。アピールは良い結果か、見える所での努力ということになります。内に秘めた闘志と同じで、表に出なければ誰も気付かず、認めてもらえないということです。心のない話のように思うかもしれませんが、野球でのアピールプレーと同じで、審判が分からなければアピールにはならないということです。

３年生は残り２大会、そろそろ進路も考える時期です。それぞれの価値観の中で、本人はもちろんですが、家族も一緒に考えてください。中学生まではチームが合わなければ変わることはことはたやすく出来ましたが、高校では転校ということになり簡単ではありません。大抵の場合退部、下手すると退学。野球を続けられなくなります。

本当に野球が好きなら辞めることはないのでしょうが、あまり楽しくありませんし、苦しいことが多いのが高校野球です。高校３年間、野球を続けてほしいと思いますので、続けられる学校、試合に出られる学校を選んだ方が良いと思っています。もう一度言います。高校野球はたいていの場合楽しくありません。修行という感じが今でもあります。なら、試合に出られた方がまだ耐えられるのではないでしょうか。（あくまで私の個人的意見です。）考え方は色々です。最後は自分で決めるのが１番です。言い訳しないように。

今、段原カップ（９月２３・２４・２５日）に向けてたくさんの方々が動いてくれています。

今まで段原クラブは招待試合（大会）というものをやっていませんでした。たくさんのチームがやっていましたし、日程的なこともあり、必要だと思っていませんでした。

なぜやろうと思ったのか。まず３日間グランドが押さえられた事。軟式野球連盟には３年生最後の大会がない事。今まではリーグ決勝大会があり、良いグランドで良いチームと最後の試合が出来ましたが、今年から協議会のリーグ戦がなくなった事。今年はたくさんの練習試合を組んだことにより、今まで以上に大会に呼んでもらえました。練習試合や大会の感謝、こんなことから段原カップをやることにしました。

新チームも２日間で４試合でき、文部の県大会を前に良い経験が出来ますし、段原クラブはもちろんですが、今年お世話になった他チームの選手達も３年生最後の試合を楽しみにしてもらっているそうです。

保護者の方々にはたくさんの力を貸していただくことになります。１年間戦ってきた参加していただける全てのチーム・選手・保護者の方々に満足していただける、そして中学野球の思い出として心に残る大会になればと考えています。来年からも続けていける大会にしたいと思っていますので、みなさんよろしくお願い致します。良い天気になることを

祈ります。
　３年間ずっとコロナと戦ってきた３年生のみんな（他のチームも含め）持っている力を全て出し切ってください。期待しています。
　　〈

第４８２話　２０２２．９．５

　中学生が野球をやれる場所は学校の野球部かクラブチームのどちらかです。クラブチームには硬式と軟式があります。段原クラブは軟式のクラブチームです。
　私はクラブチームとは、学校のクラブ活動では得ることの出来ない、高い技術と野球というスポーツのしっかりとした基本を身に付けるため、そしてその身に付けたもので高校野球で戦うためにあると思っています。そのためクラブチームの指導者は高いスキルを持つ必要があると思います。クラブチームも大会（試合）があるので勝つということも必要な事だと思いますが、私はその勝ち方が問題で、勝てば正しいということではないと思っています。

　では、私が正しいと思う勝ち方とはどんなものなのか。それは選手一人一人の個の能力で勝つことです。ピッチャーは打たれない。守備はエラーしない。バッターはヒットを打ち、走る（盗塁）。送りバントは当然出来る。
　細かく言うとピッチャーは原点能力のアウトコースにストレートを投げ込める。バッティングカウントで変化球でストライクが取れる。クイックと牽制が出来、スチールされない。四死球を出さない。
　守備はピッチャーの打ち取った打球は全てさばける。キャッチャーは盗塁されない。ワンバウンドは止められる。守備位置を動かすことが出来る。
　バッターはストレートに遅れない。狙ったら変化球が打てる。追い込まれても三振しない。甘いボールを長打に出来る。外野に打球を飛ばしてアウトになれる。チャンスに強い。初球からアジャスト出来る。
　このレベルの選手をたくさん育てて選手の力だけで勝つことにクラブチームの価値があると思っています。ベンチの采配だとか、転がして相手のミスだとか、インコースのボールに当たったり、ベンチから相手投手に大きな声を出して威嚇したり、高校へ行って役に立たない事で、勝っても意味はないと思います。
　軟式野球が硬式に比べ下に見られるのは、転がして「何かある」などと言うチームがいまだにあったり、相手のミスを手をたたいて喜ぶチームがあったり、しっかりバットを振って強く遠くに飛ばそうとしないチームがあったり、痛くないのでわざと当たろうとするチームがあったり、勝つために本当につまらない事をするチームがいまだにあるからだと思います。

　クラブチームは高校野球で戦うための準備、力を付けるためにあります。勝つために努力することは大事だと思いますが、個の力で勝たなければ、その勝ちはあまり意味のないものになります。なぜなら、個の力が無ければ高校で戦うことは出来ないからです。中学のチーム力は高校でその選手を助けることはありません。〈br〉

選手の助けになるのは、その選手が身に付けた技術と体力です（そして精神力）。では、中学生は何をしっかりやらなければいけないのか。
まず食事と睡眠、そしてたくさん（数多い）練習です。体を大きく強くし、基本練習を数多くやる。まずキャッチボール。
小学生の時から練習でキャッチボールをしない日はないのに、投げられない選手が数多くいます。なぜなのか。正しい基本を身に付けていないからです。野球選手で投げられないのは致命傷です。守る場所が無いので試合に出られません。
次に体を速く動かせるようにする。守備は足です。ボールの所に速く動けなければどんなグラブさばきを身に付けても捕ることは出来ません。
バットスイングは下半身の力でバットを振ることを覚えることです。スピードは下半身が作ります。圧倒的に強い足の力で振れるように体で覚えることです。

技術的な話は尽きないほどありますので全て書くことは出来ませんが、選手の皆さんはつまらない基本練習をたくさんやって体に染み込ませなければ上達のスピードが上がりません。
プロ野球選手が基本練習に１番時間を割いています（だから上手い）。中学生は楽しくて、苦しくなくて、すぐに結果が出そうな練習ばかりすることなく、つまらなくて、しんどくて、やりたくないような基本練習をコツコツ毎日することを勧めます。わからなければ聞きに来てください。「急がば回れ」です。

ちなみに今日 YouTube で見たのですが、、元ジャイアンツの岡崎都の「アスリートアカデミア」の篠塚和典さんとの話の中でほんの少しですが私の名前が出ました。バッティングも守備もとても勉強になる話ばかりです。ぜひ見てください。何話もあります。グアムキャンプの話などとても懐かしく聞きました。
生涯打率三割を超えている打者の話は素晴らしいことだらけです。岡崎や篠塚さんを見て懐かしく昔を思い出していい時間でした。見てください。必ずあなたのためになります。

選手の個の力で勝ちたいですが、そんな能力の選手が何人もなかなか揃うものではありません。現実にはとても難しいことです。選手の個の力を伸ばすために指導者のスキルはもちろん必要ですが、１番必要なのは本人の努力です。誰かに上手くしてもらうのではありませんよ。勘違いしないでくださいね。プロ野球を見ればわかるようにプロの指導者が指導しても全員が良い結果が出るわけではありません。全てとは言いませんが、ほぼ本人の責任です。正しい練習をしましょう。たくさん正しい練習をしましょう。それ以外、上に上がる方法はないのですから。自分のために。

第４８１話　２０２２．８．２２

愛知県の知多市で８/１９（金）２０（土）２１（日）３日間開催された CBS 中学生軟式野球全国交流大会に参加して優勝することが出来ました。コロナなど色々な困難がありましたが、子ども達の頑張り、保護者の協力、主催者や知多市の方々のご尽力、私の同級生の応援など、たくさんの方々のお陰で子ども達や段原クラブにとって、貴重な経験をす

ることが出来ました。心より感謝申し上げます。
　特に子ども達は、真夏に３日間で６試合。（ナイターでの練習試合含む）気力も体力も必要な中、決勝戦では全員の集中力で、とても良い試合を見せてもらいました。子ども達にはただただ「ありがとう」です。
　中学生の時にしか経験出来ない良い時間を過ごしてくれたと思います。まずしっかり体を休めてください。

　高校の野球部の同級生が４人、練習試合のグランドや相手の手配、氷・弁当・お茶の差し入れ、グランド作り、保護者の送迎まで力を貸してくれました。
　私達は愛工大名電に２１人入部し、残ったのは１２人。（1 人亡くなりました）昔の高校野球の地獄の寮生活を耐え抜いた戦友です。久しぶり（８年ぶり）の再会を喜ぶことが出来、皆さんに感謝です。

　今回は全国交流大会とはいえ、コロナの関係で愛知、三重、宮城、広島、京都の１２チーム。　いきなり１３０㎞を越えるストレートを投げるピッチャーを見たり、８０人以上の部員がいて専用グランド、室内練習場を持っているチームがあったり、所変われば です。愛知県のグランド事情の良さに驚かされました。バスで３０分以内の範囲に運動公園、野球場がいくつもあります。平野が広いのと、政治の違いなのでしょうか。広島は、その点完敗です。

　　コロナの中、お金と手間もかかり、色々な意見があるのでしょうが、子ども達の笑顔、保護者達の涙など、「良かったな」が試合が終わった時の思いです。
　２年生もしっかり試合経験が出来、文部県大会に向けてこれからチーム力のアップです。ピッチャー、キャッチャー、少しずつ形が見えてきました。楽しみです。

　高校野球は私の予想通り仙台育英、チーム力は投手力なので当然の結果だと思います。中学生からプロ野球まで同じで、良いピッチャーの枚数がチームの強さになります。私達の時代のように１人のピッチャーが全試合投げ抜くということは出来ません。今回の大会もそうですが、１イニングでも２イニングでも抑えてくれるピッチャーは戦力です。そのために１番必要なのがコントロールです。
　コントロールとは、本人の感覚も大事ですが、数多くボールを投げて体で覚えるものだと思います。数多く投げると故障してしまう。今の時代これも恐いので投げさせられない。難しい所です。
　ピッチャーの皆さん、自分の体と相談ですが、高校ではある程度数を投げた方が良いと思います。「困った時のアウトコース低め」ピッチャーにとって１番の武器になるものを身に付けましょう。

　物事をまっすぐ見られない方がいるかもしれないので書いておきます。今大会の個人賞は私の預かり知らぬ所です。ある事すら知りませんでした。あしからず。

　子ども達、保護者の方々、大会関係者、知多市の方々、同級生のみんなありがとう。本当に楽しい３日間でした。しかし今、体が疲れ切っています。

第４８０話　２０２２．８．９

８/７（日）しまなみ県大会、１．２回戦がありました。両試合ともよく打ってコールド勝ちでしたが、今まで１度も使ったことのなかった飛ぶというバットを使ってみたら、本当にびっくりするほど飛びました。他チームの選手が、それほど速いスイングをしていないのに、思った以上にボールが飛ぶのを首をかしげたことが何度かありましたが、こういうことかと納得しました。

私は今まで、バットでこれほどの違いが出ることを知りませんでした。聞いてみると、他チームはほとんどの選手が使っているそうです。本当に選手のためになるのかは少し疑問ですが、チームが勝つためには必要なアイテムです。

片手で当てるように打って外野の頭を越えていくバット、考えさせられますが、他チームが使っているのなら段原クラブも使わざる得ないのでしょう。コントロールのないピッチャーはすっ飛ばされるはずです。

先日、３０年以上小学生のソフトボールチームの監督をされていた方が亡くなりました。私の息子が小学生の時にライバルとして戦った情熱あふれる指導者でした。私より少し年は上だと思いますが、とても早い旅立ちです。子どもや野球に生活のすべてをかけていた方なので、まだまだグランドに立ち続けたかったでしょう。残念ですし、悔しいですし、悲しいです。連絡を受け、葬儀場に駆け付けましたが、とても顔を見ることが出来ませんでした。無念です。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

私も６３歳になり、年々グランドで体が思うように動かなくなってきました。自分もいつグランドに立てない日が来るか、誰にもわかりません。

私も誰にも負けない野球大好きですし、子ども達と野球を３６５日やっています。彼が想いの途中で出来なくなってしまった分にも増して、私はやり続けなければいけないと思いました。段原にも私にも色々な困難な事があるでしょうが、私は野球を続けます。体が動く限り、選手が求める限り、グランドに立ち続けたいと思います。道半ばでやりたくても出来なくなった者への責任だと考えます。

高校野球が来年から低反発バットになるらしいですが、軟式野球連盟もあのバットは考えるべきではないでしょうか。本当に飛びますね！！

第４７９話　２０２２．８．１

７/３１（日）の練習に OB 二人が手伝いに来てくれました。１，２年生は新チームに向けて技術も体力も足りない状態なので、一人でも多くの人の目が必要です。マンツーマンに近い形で練習したいぐらいなのでとても助かりました。

一人はキャッチャーに付いてもらい、一人は走塁とショート・セカンドの守備を見てもらいました。若く、年齢が近いこともありますし、慣れない緊張感や新鮮さもあり、選手

たちは耳に入りやすかったりすることもあるので、これからも時間があれば何度でもお願いしたいです。本当にありがとうございました。ＯＢの皆さん、これからもよろしくお願いします。

私は人の話を聞く能力が足りず、話の途中で結論を出し、反論するくせがあるらしいです。そして機嫌が態度や言葉使いに大きく出るらしい。大人はこういうことをしないのだそうです。自分では、怒っているつもりはないのに、怒っているように思われたり、意見を言ってもわかってもらえないと思われたりするのだそうです。

自分で自分を見つめてみました。今までそんな風に自分を思ったことがありませんでした。人の意見を聞いているつもりでしたし、簡単に怒っているつもりはありませんでした。しかし、言われてよくよく考えてみたり、例えて言われてみるとその通りのようです。

大人というのは、機嫌が悪かったり、その人のことを良く思っていなかったりしても、その場はその感情を抑え、話が出来る人達のことを言うのだそうです。そういう意味で私は大人ではなかったということになります。今までなかなかそういうことを言ってくれる人がいなかった中で、はっきりと言ってもらえたことは、とてもありがたいことです。チームのためにも子ども達のためにも少しづつでも変わる（大人になる）努力をしなければならないと思っています。子ども達に偉そうに変われと言っているのですから、まず自分からです。

自覚がとぼしいので簡単ではないと思いますが、頑張ろうと思います。それがチームのため、私のため、そして子ども達のためになるのですから。

暑い日が続いています。８月は大きな試合が３つあります。高校野球もそうですが、野球は３年生の集大成が暑い時にあります。暑さに負けず、良い成績を残せる選手が良い選手ということになります。

この中で多くの数や長い時間をかけて練習し、自分を鍛えることはとても辛いことです。集中力を切らさないようにするのも大変です。それでも上を目指し夢を追い、手に入れようとするのならやらなければいけません。相手と戦う前に自分との戦いに勝つ。今は夏休みです。練習することはもちろんですが、遊びや誘惑があったり、不規則な生活になったり、野球の邪魔をするものがたくさんあります。まず自分のため。自分自身の能力が上がればそれがチームのためになります。

３年生の皆さんは、入部した時からコロナがあり、最後の夏もコロナですが、私の中学３年生の夏は、野球人生の中でとても大きな夏になりました。（田舎の中学生が県大会に出て、愛工大名電の監督の目に留まり、甲子園やプロ野球につながった。）あなた達も、一生の思い出に残る夏になってくれたらと思います。

中学野球集大成の夏、私は全力であなた達と野球をしたいと思っています。これからの２ヶ月、心から楽しみです。思い切りグランドで野球しましょう。

第４７８話　２０２２．７．２５

高校野球は全国で予選が進み、甲子園出場を決めたチームもありますが、負けたチームは数限りなくあります。高校野球は、１チームを除いて全てのチームが最後は負けるので

すから、変な言い方かもしれませんが、負けるために努力を重ねているのかもしれません。負けるのが当たり前なので、負けることは決して悪いことではありませんが、野球校と言われる学校は、負ける相手によっては批判を浴びることもあります。必ず負けて終わる野球は負け方、負ける相手がとても重要だと考えます。私は中学生のチームの監督ですが、子ども達のために常に正しい負け方を考えています。

今年の段原クラブは３回ある全国大会予選で敗れましたが、負けた相手は全て全国大会出場権を獲得したチームなので、良いとは言いませんが、負けた相手としては間違っていないのだと思います。（段原クラブは良い選手を勧誘するようなことをしていないので強豪チームではありませんが）

今年も段原クラブのＯＢ達は様々な高校で精一杯戦っています。勝っても負けても、試合に出場しても出ることが叶わなくても、最後までやり続けたことに価値があります。後輩たちは見ています。みんなありがとう。高校１，２年生のみんな、たくさん苦しい事、辛いことがありますが、最後負けるまで諦めることなく野球を続けてください。私はあなた達が勝つことを楽しみにしているのではなく、やり切って段原クラブに顔を出してくれる日を楽しみにしています。

人は考え方や価値観が一人一人違います。そのため上手くいかないことがあります。段原クラブも退部する選手が出ることがあります。私は来る者は拒まず、去る者追わずなので引き止めることをしないことが多いです。その基準は、野球を続けるか辞めるかにあります。「野球を辞める」という選手は、引き止めようとします。私は野球というスポーツを愛していますし、素晴らしいと思っているのでチームを辞めるのは構いませんが、野球はなんとか続けてほしいと思うので話をします。他チームで野球を続けようとしている選手は止めません。合わないチーム、合わない指導者と野球をしても楽しくないでしょうから「変える」これも一つの手だと思います。しかし、これは中学までです。高校野球では、学校の部活動ですから、転校ということになります。現実にはなかなか難しいようです。私の経験では思うような結果が出ないことを自分の努力不足と捉えるか、それ以外の理由と考えるのかの違いのような気がします。

どんなチームにも素晴らしい結果を残した選手はいます。結局、本人の問題だと私は考えますが、まあ人と人はどうしても理屈じゃなく合わないということもあるので、変えることによって良くなればそれはそれで良いことです。全ての選手が満足というチームを作れればそれが一番良いのでしょうが難しいですね。最初に考え方を説明して理解して入部してもらうことが必要ですね。

今の段原クラブはあるチームに公式戦１勝４敗。全国大会にも出場する強豪チームですし、一人一人の選手を比較すると分が悪いことはわかります。しかし野球の勝敗はピッチャーが９０％。ピッチャーが勝てないということです。前に書いた全国大会に出場する３チーム、どのチームと比べても投手力が劣ります。バッテリーの強化がチーム力強化のポイントでしたが今のところ私の力不足です。ピッチャーはスピードド、変化球、コントロールこの３つの一つでも秀でたものがあれば勝負出来ますが、今のところ段原クラブのピッチャー全てを見てもこれといった武器を持っているピッチャーが見当たりません。野手も同じですが、あなたの武器は何ですか？すぐに答えられるものが野球選手として上を目

指すためには必要です。

３年生のみなさん、残り２ヶ月で卒団です。やり残したこと、あるのではないですか？卒業まで８ヶ月。（高校入学）高校入学時、自分がどこまで成長して行きたいのか、はっきりしたものでイメージしてください。やることが見えてきます。試合が終わってから高校入学までの半年、１番成長できる時です。それで高校野球人生変わりますよ。あなたはどんな武器を持って高校に行きますか。

第４７７話／　２０２２．７．１１

昨秋 中国大会決勝 ８対２で大敗した大田ニ中。もう一度対戦したいとずっと思い続け、やっと７/１０（日)に実現した練習試合。１００回やったら１００回負けると思う力の差を感じた１１月から８ヶ月。勝負できる所まで段原クラブの選手たちは来ました。

中学生は未熟な生き物なので数えればキリがない程不満な所はたくさんありますが、（頭のミスや集中力のなさ）昨秋から段原クラブを変えようとし、反発も受けましたが、目指してやってきたことが一つづつ実になってきていることを感じました。

秋は走られ放題でしたが、スチールを３つアウトに出来ましたし、相変わらずピッチャーは良いボールを投げるので打ち崩すまでは出来ませんでしたが、対応出来る所までは来ました。ピッチャーは逃げることなく勝負することも出来ました。

良い球場で良いチームと試合をし、自分たちの課題を見つけ練習する。そして個の力を伸ばす。相手を完全に上回れる力はまだありませんが、真剣勝負できるチームにはなれたように思いました。

初めに書いたようにまだまだたくさんの課題があります。その中の一つ、精神力（考え方)。私は色々なことを子どもたちに話して伝えようとしてきましたが、言葉だけではなかなか心に響かないのか、わかってもらえていない気がしていました。そこで自分の体を使って伝えることを試しました。

野球界には昔から幾つかの、やっていることに意味があるの？と思うようなことがあります。

例えば丸刈りだったり、全然捕れないボールに飛びついたり、バカみたいな大きな声を出し挨拶したり、返事をしたり。私も選手の時、意味あるの？と思っていました。

指導者になり、たくさんの子ども達と接し、無駄のように思えたことが無駄ではないのでは、と思うことが増えてきました。

野球は体・技・心で勝負するスポーツだと思っています。特に子ども達はまず大きく、強く、速い体、そして野球で１番必要な技術。これが秀でていればよほどのことが無い限り、良い結果が得られます。

しかし、子ども（中学生）のスポーツではまだまだ、体・技が充分ではありませんし、体・技が無くても野球をやる資格はあります。

私は６３歳。中学３年生と一緒にノックを受け、自分の今を全て出す。そしてやり切るという心で子どもに負けないという所を見せたいと思いました。

７/９(土）の午後、ありがたいことに猛暑。絶対自分から終わらない、最後まで大きな声を出す。と決めて始めましたが、３箱（約３００球）で私は負けました。野球人生の中で熱中症というものになったことはなく、絶対の自信を持っていましたが、初めて吐き気を感じ、「倒れるかもしれないな」と感じました。

思っていた以上に全く動かない足、２軍ですが、ショートでベストナインを取った頃のグラブさばきも消え、飛びついているつもりでもヒザから倒れ、なかなか起き上がれない重い体。自分に腹が立ち、歯がゆいし、情けなさも感じましたが、選手の前でそれは出せません。最後まで大きな声は出ましたが、３箱で自ら終わらざる得なかったことに情けなく、選手に何を伝えることが出来たのか？わかりませんが、体が動かなくても技術が無くても「気持ちでは負けない。があれば出来ることはある」「捕れなくても諦めず追い続ければ捕れる日が来る」「一見無駄なように見えることも意味がある」そんなことが少しでもわかってもらえたら幸いです。今、私の体はボロボロですし、膝の擦り傷が痛いですが、この筋肉痛にも意味があると思っています。

練習は何のためにやるのか。それは試合でより良い結果を得るためです。試合が一切なく、練習だけでは練習に身が入りません。では、たくさん練習し、努力を重ねたら試合で何をしなければいけないのか。

「打席に入ったらバットを振る」「ピッチャーはストライクゾーンに投げ込む」「ランナーは走る」「守備はボールを捕りに行く」です。試合でより良い結果を得るために練習するのですから、トライ・チャレンジしなければ練習の意味が無くなります。

確かに試合の中で四球を選ぶことで勝ちにつながることもありますが、四球が選べてもプロ野球選手にはなれません。当然、状況判断が重要ですが、やる気持ち（勇気）が選手には１番大事なことです。

私が南海の２軍戦でサヨナラのチャンスに見逃し三振をしたことがあります。次のバッターは高卒の新人でしたが、１球目をスイングし、詰まった当たりでしたがヒットになり、サヨナラ勝ちをしました。私はそのオフ阪神に移り、その年で引退。サヨナラヒットを打った選手はその後レギュラーになりました。（湯上谷という選手）その場面でバットを１球目から振れる選手と振れない選手。野球人生が変わります。私はそういうところが弱かった選手です。段原クラブで頑張っている選手に私と同じ失敗をしてほしくないです。

明るく、元気に、大きな声を出して、無駄に思えることも昔からやっていることは意味があることがあります。まずやってみる（トライ・チャレンジ）そんな選手になってほしいと思います.

２年生の皆さん、集中力です。頭のミスが多いです。打つ、捕る、走るだけでなく、野球は色々な場面で考えなければいけないこと、やらなければならないことが数多くあります。ひとつひとつ覚えようと努力して下さい。段原クラブの野球は、頭と足でやるものですから。

第４７６話／　２０２２．７．７

”長打と確率”　人間は欲深い動物なのでバットを持つとボールを遠くへ飛ばそうとします。遠くに飛ばすためには、ヘッドスピードの速さと、打ち出しの角度と、ボールの回転数が関係するのですが、大抵の人は、腕に力を入れて大きくバットを振ろうとしますし、右バッターならレフトへ、左バッターならライトへ引っ張ろうとします。そのため顔が早く回り、ボールから目が離れるのが早くなり、芯で捉える確率が下がります。遠くへ飛ばすためにはポイントも前に置くので、これも芯に当たる確率を下げます。

バットが体から離れ、スイングの軌道がアウトサイド・インになり（いわゆるドアスイング）芯に当たってもファールになる確率が上がり、ヒットの確立が下がります。（ヒットになるコースが限られる。）遠くへ飛ばそうとすると芯に当たる確率は下がるということです。

日本のプロ野球界を見てください。３割打てて、ホームランを３０本以上打てるバッター何人いますか。イチローは「３割打たなくていいのならホームラン王を取れる。」と言っていましたし、落合さんは「ホームランを打たなくていいのなら４割打てる。」と言っていました。歴史に名を残すバッターでも両方（ホームランと確率）を求めるのは難しいと言っています。

先日の日曜日、ある中学校の校庭で試合をしました。とてもグランドが狭く、力を入れなくても芯に当たってボールが上がればホームランになるグランドでした。あきらかにオーバースイングになり顔が上がり、せっかく身に着けた技術を試合で発揮できない選手が数人いました。もったいないなと私は思って見ていました。

人の行動は考え方で決まります。考え方が変わればやることが変わり、やることが変われば結果が変わります。良い結果を欲しいのであれば考え方を正しくしなければいけません。逆にたくさんの努力が考え方一つで無駄になることがあるということです。

「欲」これは人間を成長させます。そのために欲は大事な物なのですが、欲を手に入れるための方法を間違ったり、自分のためにならない欲を欲しがったりすると失敗します。ピッチャーが速いボールを投げたいがためにフォームを大きくしたり、腕に力を入れて上半身の力でボールを投げようとするとコントロールも切れも失うのと同じです。

バッターがまず１番にやるべきことは、バットの芯でボールを捉え、ボールを上げること。芯で捉えてボールが上がればその人なりの飛距離が出ます。それ以上飛ばしたければ体を鍛えてヘッドスピードを上げることと、正しいスピンをかけられる技術を身に着けることです。

試合の当日、突然飛距離が伸びたり、ピッチャーのスピードが上がることはありません。

野球というスポーツは確率を争っています。守備もバッティングもピッチングも走塁も、確率の良い選手を良い選手といいます。確率は腕の力では上がりません。力は無いよりもちろんある方が良いですが、無くてはならないのが正しい考え方と技術です。私はそれを子ども達に伝えているつもりですが、簡単には伝わらない物のようです。

話は変わります。みなさんまず正しいスローイング、変化しないボールを狙った所に投げる技術、野球選手に１番必要な物の練習をしてくださいね！！これが無いと、これから先の野球人生本当に困りますよ。捕れないより、打てないより、１番困るのが投げられないです。投げられない選手が守るポジションはありません。ということは、試合に出るチャンスが少なくなるということです。

試合に出るチャンスを増やすためには、守れるポジションを増やすことです。最低で２ポジション、出来れば３ポジション出来るのが望ましいです。

高校に行って同じポジションに怪物がいたらどうしますか？上級生ならまだしも、同級生や下級生だったら、違うポジションが出来なければ卒業まで試合に出られません。

やりたいと出来るは違いますし、好きと向いているも違います。自分の野球人生をより良いものにするためにポジション、守れる場所、もう一度真剣に考えてみてください。そしてどこを守るにしても１番にやらなければならないのはスローイングです。スローイングのミスは確実に失点につながり、チームは負けます。

第４７５話／　２０２２．６．２７

今日、６月２７日は私の６３歳の誕生日です。２８歳で阪神タイガースを戦力外となりプロ野球界から引退し、２９歳から子ども達と野球をやり続けて３４年。今年は、私の心がズタズタ、ボロボロになるような事があり、命より大切な野球（段原クラブ）から離れなければならないかもしれないとか、こんなに苦しいのなら辞めて楽になろうなど何回も思いました。

しかし、事あるごとに私を信頼してくれている子どもだったり、保護者だったり、OBの保護者などが声をかけてくれたり、愚痴を聞いてくれたり、アドバイスをしていただいたり、一緒に野球をしてくれたりして助けられました。

６/２５（土）もOBの保護者の方が誕生日のお祝いにと食事に誘っていただき元気をいただきましたし、別の OB の保護者から温かいメールをいただきました。そして今日も私を信じてくれる子どもと野球が出来ました。一人でも私を必要としてくれる子どもがいる限り、「辞める」などということを考えるべきではないと思わせてもらいました。

段原クラブは私が造った私のチームです。私と野球がしたい子ども達と、野球の難しさと楽しさを追求していくためのチームです。６月いっぱいでつまらないことは全て無くなり、７月からは良い顔でグランドに立って良い野球が出来る段原クラブになることを信じます。

ここの所、このページがなかなか更新されないことを気にされている方がたくさんいらっしゃると聞きました。このような事が２度と起こらないよう、努力していきます。私の力不足で申し訳ありませんでした。特に子ども達に多くの迷惑をかけたことを謝ります。ごめんなさい。思い切り野球をやりましょう。

第４７４話／　２０２２．６．７

全軟の敗戦から１週間、個々が高校野球を目指すにあたり、足りない所をしっかり自覚し、これからの１０ヶ月をどう過ごしていくのか。３年生の野球人生にとって全軟で勝つことより数倍大事な日々が始まりました。

中学生のクラブチームは高校野球に進むための土台作り。例えば高校野球を野球のレベルで「甲子園常連校」「甲子園に出るかもしれない」「県大会ベスト８か１６程度」「県大会で１、２回勝つ」「全く勝たない・トーナメントは１回戦で半分負ける」こんな感じで５段階程度に分けて、自分の実力はどのクラスなのか、それとも「試合には全く出られない（練習もろくにさせてもらえない)」でも高望みをするのか、学力とも照らし合わせてしっかり考えなければいけないクラブチームの３年間です。そしてこれからがそれを決める大切な時期です。

人生の優先順位を本気で考え、自分の意思で決めてください。なぜなら、高校野球はどの高校に行ってもほぼ楽しくはありません（段原クラブと比べて)。なら、自分の人生のプラスになる学校を選ばないと苦しみがいがありません。
出来るだけ早く決めてそこに向けて全力前進。試合でヒットを打つとか、勝つとか、まあそれもありですが、人生にとってとっても大事なことをおろそかにすることなく、日々を過ごしてください。
私は私の出来る範囲で精一杯協力させていただきますが、段原クラブの信用・信頼を無くすわけにはいきませんので、私が信用・信頼出来る選手、保護者でなければ喜んで協力という訳にはいかないかもしれません。これからしっかりしたものを見せていただければありがたいです。

１，２年生の皆さんはのんびりしていると思いますが、今から家族で本気で取り組まないと段原クラブに入部した意味が薄くなります。
３年生のこれからを私は楽しみにしています。期待に応えてくださいよ。

第４７３話／　２０２２．５．２９

５/２７(土）全軟１回戦で完敗しました。３，４，５月の３ヶ月、この日に向けて全力で集中してきましたが、世間で言うところの良い結果というものには繋がりませんでした。

まず、たくさんの OB、保護者の方々に応援していただき、心から感謝申し上げます。いつまでも段原クラブを心にかけていただき、ありがたい限りです。
今年も期待に応えることは出来ませんでしたが、子ども達は、日々努力を重ね確実に成長してくれています。ただ、残念なことに大人が１枚になることが出来ず、子ども達に大きな迷惑をかけています。段原クラブを作った原点に戻り、本当に私と一緒に同じ方向を向けるスタッフ、保護者と子ども達、段原クラブのために野球をしていきたいと思います。
今回の色々なことは全て代表である私の器の問題です。私が何をやろうと何を言おうと

信じてついてきてもらえるトップではなかったことが、子ども達に迷惑をかけることになりました。選手のみんな、ごめんなさい。

３年生のみんな、これから高校まで１０か月、あなた達の夢や目標に近づくために全力で働きます。段原クラブでの３年間が、あなた達の野球人生に大きなプラスになれるよう、お互いに信じあえると嬉しいです。

スタッフ、保護者の皆さん、私は段原クラブのトップです。私は全てをかけてチームのため、選手のためになると信じて生きています。信じてこれる人だけ一緒に野球しましょう。それがチーム、選手のためです。本気で考えてください。私は野球と段原クラブと選手が大好きです。

もう一度言います。選手のみんな、応援してくださるたくさんの方々、本当にありがとうございました。くやしいです。子ども達とこれからも野球します。みんなで笑える日まで頑張ります。

第４７２話／　２０２２．４．２１

「ノープレー　ノーエラー」 プレーしなければミスをすることはない。言い換えればミスして叱られるぐらいなら、チャレンジしない方が良いという考え方です。

例えば試合中、中間飛球を捕りに行かない、盗塁しようとしない、次の塁に進もうとしない、チャンスで１球目からスイングしないなどなど...

ベンチやコーチャーの声で、「牽制アウト無し」「ライナー飛び出すな」「高いボール振るな」色々ありますが、全てはマイナスな考え方です。確かに試合の中で絶対ダメな場合はありますが、例えば大きなリードやリードオフを取らなければバッテリーにプレッシャーをかけられませんし、足のスピードが無い選手は特に大きなリード、早いスタートが切れなければヒットで２つの塁を進めません。バッティングは、ファーストストライクを打った時の打率が１番高いのですから、１球目から振っていけるようになれなければいけません。（その準備も含め）

プレーをする前に結果を考える。それは全く意味がありません。なぜなら誰にも結果はわからないからです。まして失敗が怖いならそもそも勝負の世界から足を洗うべきです。野球は失敗だらけのスポーツです。ピッチャーもバッターも失敗ばかりしています。失敗の数が少ない選手と切り替えられる選手が良い選手と言えるスポーツです。ベンチからの声も言い方を変えてプラスにしていく必要があると思います。（～しよう）

「指導者に叱られるから萎縮して力が出せない」よく聞きます。本当にそれでいいのですか。いつまでも他人のせいにしていては、変わる日は訪れないのではないでしょうか。

段中から分かれ、野球のクラブチームを立ち上げた時、私は家族中が野球に全力で取り組み、夢や目標に向かって努力を重ねていく人達が入部してくるものと思っていました。段原中学の野球部の指導から、段原クラブになり、野球の練習が出来る環境は遥かに良くなりました。今ではバッティングなど、打とうと思えばいくらでも打てるようになっています。しかし、だからと言ってトップの選手が中体連の時より上かと言えばそうでもあり

ません。高校・大学での活躍を見ると、人数は増えましたが、トップの選手の活躍は物足りないものです。何が原因なのでしょう。
　私は家族（保護者）の野球熱だと思います。この環境の中で、グランドはもちろん、家でも厳しく接しているか、段原中の時代、東京の大学まで行って野球が出来た選手は野球に対して保護者がとても厳しく接している家族だったと思います。今そのあたりが甘くなっているのかもしれませんね。
　ただ私は、それが悪いと言っているのではありません。全員が野球に人生をかける必要はありませんし、人それぞれの価値観がありますから正解はありません。野球の技術を伸ばすことが第一目的のクラブチームのはずなのにそれが１番になっていないように思い、もったいないなと思っているだけです。

　今、段原クラブは試合をたくさん重ね、その後練習をし、確実に力をつけています。思い通りの結果が出ていない選手もいますが、練習はしっかりしていますので、チームとしては良い方向に向かっています。「今までと違うことをやってみる。」選手達を見ていると、私は間違っていないと思っています。
　試合の中で色々なことを試し、チームとしてのベストを探す。まだまだ見えてこない所もありますが、選手達は生名の合宿でも良い練習をしていました。選手達がその気になってきているのを感じています。まだまだ伸びると思っています。楽しみです。

　「ノープレー　ノーエラー」　の考え方はミスをした後の指導者の対応にも原因があると思います。今、私はベンチで変わるために努力中です。負けている選手にも問題があります。お互いに変わりましょう。そして心も野球も強くなりましょう。それが野球のクラブチームの価値なのですから。

第４７１話／　２０２２．４．４

　３/２６（土）２７（日）２日間あった福山大会は４試合勝ち優勝しました。ピッチャー全員がよく頑張ってくれているので、どのチームと試合をしても勝てる可能性のある試合は出来るようになってきました。これからは守備力のアップと、チャンスでランナーを帰すことのできる選手が出てくれれば、「段原クラブは強いチーム」と言われるようになります。
ここの所、ほぼ全ての試合でエラーが２つ以上出ます。四死球０とエラー０、強いチームの基準です。守備力は状況判断と、練習量です。身に覚えのある選手の更なる努力を望みます。

　チャンスでの１本のヒット、今段原クラブは毎回のようにチャンスを作れるようになってきました。（チャンスとは２塁以上にランナーがいることを言います。）そこで１本が全く出ません。
　内野フライとサードゴロ（右打者）ファーストゴロ（左打者）ざんまい。１ヶ月以上この状態が続いています。本当の意味でのチームの中心選手が今のところ現れません。
　段原クラブは監督からのサインはありませんので、ランナーサードでのエンドランやスクイズはほぼやりませんが、これからもこの状態が続くようだとベンチからのサインを作

らざるを得ないかもしれません。点の取れるバッティングの出来る選手の登場を心から期待します。諦めずに練習を続けることです。

「クラムジー」という言葉を知っていますか？私は先日生まれて初めて耳にして、調べてみました。分かりやすく言うと、成長期、小学校高学年から中学生の時に急速に身長が伸び（１年で１０ｃｍ程度）手・足が長く、重くなり、筋力と脳の感覚が成長について行けず、運動能力が落ちることを言います。自分自身が中学１，２年で２０㎝ 身長が伸び、野球部で苦しんだ経験がありますし、段原クラブにも思い当たる選手がいます。
その選手は今、１８０㎝ 程度の身長があり細身。感心するほどの練習をしますが、２年生になった頃からなかなか結果に結びつかず苦しんでいます。こういうこと（クラムジー）を指導者が知らない、本人も知らない間とても悩みました。それがずっと続いていたら、野球をあきらめる、もしくは見限られる。そうなっていたかもしれません。
分かりやすく言うと両手・両足に重りをつけて野球をやっている状態。手・足の長さの感覚に脳がついて行けず、動きやポイントがずれる。この状態で野球という難しいスポーツで良い結果が出るはずはありません。しかし、これは努力によって元に戻りますし、練習を続けていけばより良い選手になれる可能性が高いそうです。今はジャンプの前にヒザを曲げている状態です。現実に現在プロで活躍している選手の中にも多数いるそうです。諦めずに本人と指導者が努力し続けることで今のマイナスをより以上のプラスに変えられます。その選手は誰よりも努力をする才能を持っている選手なので楽しみです。

４/３（日）スカイバンズと２試合練習試合をし、その後の練習は選手、保護者から疲れが見えたので２時間程度で終わりました。が、その選手からキャッチャーの捕球からスローイングに入る練習を頼まれ、渕崎グランドのガード下でやりましたが、休憩することなく１時間以上。回数は数えていませんでしたが、多分４００回程度はしました。本当に驚きました。私の野球人生の中でこの基本練習を自ら、強制でなく１時間以上やった選手を見たことはありません。守備の基本、これはどれもつまらないし、苦しいもので。とても大切ですが選手は嫌がりますし、長い時間やりたがらないものです。終わったのも投げている私の足と肩がパンパンになり、こちらから終わってもらいました。本人はまだやりたそうでした。

今はやってもやってもなかなか良い結果につながらないクラムジーという状況の中でも、沈むことも、落ち込むこともなく、黙々とやり続けいてる選手を見て、指導者として同じ時間を共有出来たことで私自身が教えてもらうことが多くあり、感謝したいと思います。

「クラムジー」きっと全国で苦しんでいる選手がいると思いますが、あきらめず、精一杯頑張れば必ず今より大きくなって復活できます。指導者の皆さん、とことん付き合っていきましょう。私は自分の体が続く限り、寄り添っていくことを決めました。
今、戦争をしている国があります。スポーツどころではない子ども達がたくさんいます。段原クラブの選手達は幸せです。ぐずぐず言っている暇があるのならまずチームで１番練習してみませんか。つまらなくて苦しい基本練習を！！

第４６９話/２０２２．３．２２

段原クラブ結成初の３連休６連戦は３勝２敗１分け。得点が１０点、失点が８点、相変わらず中心選手に当たりが出ないので得点が伸びませんが、ピッチャーが良くなっているのでどの試合も勝負出来るようにはなっています。打てない事は少し心配ですが、全ての試合が最後まで点差が無く、緊張感のある中で打席に入ったり、守ったりすることで、選手にとって大きな経験が出来ていい事だと思っています。

試合の合間に中心選手（昨年からのレギュラー）と少し話をしてみましたが、とても大きな荷物を背負って打席に入っているようです。その荷物をおろしてあげることが私の仕事なのですが、これからの野球人生で上のレベルに上がっていこうと思えば、もっと大きな荷物を背負わなければならない時が来ます。なんとか自分自身の力で跳ね返してほしいと願います。その選手たちは何があっても努力を続けているので、それが実を結び、チームのために大活躍する日が必ず来ると私は信じていますし、これからもずっと一緒に頑張り続けたいと思います。

３/２０（日）タイブレークになった試合で私が２番バッターを申告敬遠して満塁にし、そのチームの１番良いバッターと勝負した場面がありました。なぜなのかわからない選手・保護者の方々が多くいると思います。説明をします。
段原クラブは先攻で０点、裏に１点取られたらサヨナラ負けという状況でした。その時のピッチャーは普段ショートの選手。無死１．２塁バントのケースです。バント処理は内野手が上手いので、そこまでは投げさせます。バント成功で１死２．３塁バッターは２番。ここでピッチャーを左に代え、申告敬遠をしました。なぜ？
３番バッターはそのチームの最強打者なのに…普通そう思います。私はこう考えました。確率です。
相手チームの過去の戦い方を見る限り、サヨナラの場面の１死２．３塁バッター２番。ほぼ１００%エンドランもしくはスクイズをします。
段原クラブはその時点で右ピッチャーは１００球を超え、左ピッチャーに替えました。ストレートのスピードがあまりない変化球投手。３塁ランナーが見えない、相手チームの能力から９０%以上の確立でエンドランもしくはスクイズを決められてサヨナラ負けすると読みました。ならどうする？
そのチーム最強のバッターを満塁にして迎えれば、打ってくる確率が上がる。打ってくればどんないいバッターでも５０%は抑えられる。満塁なら不安な内野手もホームがフォースプレイになり、少しは気が楽になる。９０%と５０%、５０%を取るのが監督して当たり前のことです。

私はヒットを打たれないで点を取られたり、ヒットを打たないで点を取ったりする野球が嫌いです。
３/１９日（土）の試合でも、相手の３番バッターの１死ランナー３塁でエンドランによる１点で１点差で負けましたが、私はそういう野球が子供のためになると思わないので、そういう終わり方をしたくありませんでした。打ってもらうため、負けるにしてもヒットを打たれて負けたかった。そのために１番いいバッターを１番良い場面で打席に立つよう

に申告敬遠をしました。打たれたら「あの監督バカだね」と言われたでしょうが、野球は確率のスポーツです。勝つ確率の高い方法を選ぶのが監督の仕事です。しかし、子どものスポーツはそれだけでは少し足りません。満塁で良いバッターと対戦したバッテリー、その場面で守備についていた野手、踏ん張れたことで練習ではできない貴重な経験をすることができ、一つ選手としてのステージが上がりました。「勝つ」とても大事なことだと思いますが、選手たちは１球で勝ったり負けたりする緊張感のある試合、場面を数多く経験し、体で野球の本質を体験し、体で野球を覚えていくことがとても重要なことだと考えます。

３番バッターを追い込んだ時、ベンチから私が言った「インコースストレートもあるよ」はバッテリーを助ける１言になったかどうかわかりませんが、段原のキャッチャーが私がバッターに対して言っていることを理解して変化球選択し、セカンドゴロに打ち取ったのを見て、信頼できるキャッチャーに少しずつ近づいていることを感じました。

たくさん試合を組んで、試合の練習をしているのですから、たくさんの失敗はかまいません。ただ、その中から学び、練習して同じ失敗を繰り返さない努力をお願いします。
段原クラブはほぼサインを出すことがないので選手達は大変だと思いますが、自分で考え工夫し、身に着けた技術・考え方は裏切りません。操り人形ではない野球選手になってほしい。私は常々そう考え、選手達と接し、野球を一緒にやっています。
たくさんの試合を組み、点差が少ない緊張感の中での打席や、ランナーや、守備や投球は必ず選手たちの力になります。簡単に良い結果を得ることは出来ませんが、選手、保護者全員が諦めることなく、チームと自分を信じ、目標・夢を目指して努力していきましょう。

今私は、何が本当に選手達のためになるのか、毎日毎試合、色々変えながら、探りながら、なかなか正解が見えてきませんが、工夫しています。
上がったり落ちたりすると思いますが間違いなく良い方向に進んでいると信じています。みんなで頑張っていきたいです。
A 戦に出ることの出来ない選手達、アピールです。コーチからの推薦があれば私は必ず試合に使います。どんどんアピールしてください。待っていますよ。

第４６８話/２０２２．３．１４

５月の全軟県大会へ向けて試合をたくさん組み、やる３ヶ月がスタートしました。
土日の４試合、結果は２勝１負１分。勝ち負けは誰が投げるかで大きく変わるのでそれほど問題はありません。大事なのは内容。個人個人の内容です。
精華クラブ（全国大会出場）のピッチャーを打つことは出来ませんでした。他の３試合、ヒットは出ました。が、まだまだレベルの高いピッチャーに対応する能力は無いということです。特に変化球に反応出来ない選手が多くいますし、チャンスで打てません。２月のスターズとの練習試合の後、このページで書きましたが、技術はもちろん頭も今のところ成長していない選手が多いようです。

日曜日の２試合目、ありがたい事に変化球を多投してくるピッチャーと対戦出来たのにも関わらず、前と同じように配球を考えることなくひたすらストレートを待ち、引っ張ることだけを考え、凡打を繰り返す選手達を見て腹立たしく、情けなくなりました。あれだけ前回の失敗の後説明したのに何も変えることなく同じ失敗を繰り返す。そしてチームの足を引っ張る選手。今の段原クラブはそれでも選手を変えることが出来ません。なぜなら試合で使えるレベル（守備）の選手が足りないからです。そのためチーム内の競争が少なくなっています。当然、選手の危機感が減ります。選手の危機感、チーム内の競争がチームの戦力を高めます。

その中でも私は諦めません。わかるまで、出来るまで言い続ける。やり続ける。試合後のミーティングでも言い続けましたし、試合後の練習でも緩いボールの打ち方、体の使い方、考え方を練習しました。

まず、選手たちはストレートの方が変化球より打ちやすいという考え方を改めるべきです。私は変化球の方が打ちやすいと中学・高校の時は思っていました。なぜなのか。

まず必ず変化する。ピッチャーはストレートの方をたくさん練習するので、変化球のコントロールは甘い。投げるピッチャーは早いカウントの時、甘くても良いという思いで投げることが多い。ストレートを投げる時の方が厳しいコースに投げようとします。このようなことからストライクを取りに来る変化球はストレートより打ちやすいのです。

分かりやすいのはストレートマシンとカーブマシン。カーブマシンの方が打ちやすいはずです。考え方を変えるとやることが変わる。やることが変わると結果が変わる。まず頭の中（考え方）を変えない限り、結果が変わることはありません。選手のみんな、しっかり考えてみましょう。

そんな中で３人の選手が変化球を狙って内容のある良いバッティングを見せてくれました。ピッチャーを観察して、状況を判断して、配球を考え、自分のバッティングを組み立てる。バッティングは相手のあることですから相手（ピッチャー）をわかってピッチャーのタイミングに合わせるスポーツです。良いバッターとはその能力の高い選手を言います。

たくさん練習してスイングする力はついてきています。その力を試合で出すために頭がいります。そのためにたくさんの試合を組みました。まだ始まったばかりですが、気が付き身に付けるのは早い方が良いに決まっています。諦めずに何度でも何度でも私は言い続けます。

守備の方は失点が、５、９、０、０。相手が違うので評価は難しいところですが、四死球・ワイルドピッチ・長打。これがあると点を取られます。

ということは、ピッチャーはコントロールです。ストレートはもちろんですが、変化球のコントロールを上げていく必要を感じました。これからの試合の中でたくさん経験（投げる）して感覚（体）で覚えて下さい。全国大会出場チームが基準です。そのチームのエースのボールを打てる、そのチームの打者を抑えることが出来る。これがレギュラーです。精華クラブとの試合を忘れることなく、基準を高く持って練習してください。

選手と同じように私にも課題があります。「試合中に選手にマイナスになるようなことを発信しない」ことです。今まで私は思ったことは口から出す。自分以外の人のことを考

えることはありませんでした。そのことでたくさんの選手の足を引っ張ってきました。それを変える。自分の中では全力で意識していますが、なかなか出来ません。
　日曜日の２試合目の前半、分かり切っている変化球を全く振ろうとしない選手を見て、いらんことをたくさん言ってしまいました。選手は私とは違う、中学生は未熟、しっかりと頭に入れて、発信する言葉を考えてから口に出せる指導者になれるように努力していきます。ちなみにベンチの評価は日曜日の１試合目は１００点でしたが、２試合目は６３点でした。毎試合、選手も私も１００点をもらえるようにお互い努力していきましょう。まず１番は考え方です。

　毎週試合が続き、朝早いことが多く、疲れます。食事・睡眠・体のケア・道具の手入れ。怠ることないように保護者も含め意識を高めてください。集中した試合を続け、その課題を考え練習することで必ずチームも個人も成長していくと信じています。私も成長します。みんなで頑張っていきましょう。
　練習組の選手達、コーチから推薦があるようにアピールしてください。ゴールデンウィークにＢ戦組みました。チャンスはありますよ。

第４６７話/２０２２．３．７

　５０年を超える野球人生の中、たくさんの敗戦を経験してきましたが、３/６（日）の理事長杯２回戦の負けは、その中でもとても辛く、苦しく、選手達に申し訳ない敗戦でした。
　今、段原クラブの選手の中には、私を信頼してくれ、毎日毎日努力を重ねている選手が複数人います。
確実に力が付いてきていて、試合で良い結果を出せるレベルの技術を身に付けているように思っていました。しかし、結果は完封負け。
指導者として、努力している選手達が試合で結果を残せないのは私の力不足です。
試合後、選手達に厳しいことを言いましたが、本当に反省するべきは私自身です。もう一度、指導の仕方、技術、試合中のアドバイス、考え直す必要があります。
頑張っている選手に良い思いをさせられない監督、試合後もいつものようにバットを振り続けている選手を見ながら申し訳ない気持ちでいっぱいでした。
練習をした選手に良い結果を出させることのできる指導者になるために、私が一番頑張り、変わらなければなりません。二度とこんな思いをさせないように、そしてしないように。

　今まで私は試合ばかりするより、しっかりとたくさん練習して自力をつけることが選手達のためになると思い、試合をたくさん組まないようにしてきました。その考え方を今年は変えてみようと思います。
ここ数年、力はあるはずなのに、「試合で出せず負ける」ということが多くあり、精神的な問題だと、子ども達のせいにしてきましたが、試合経験が足りず、練習で身に付けた力を試合で出せないのではないかと思いました。
試合で打つためには、試合で投げているピッチャーをたくさん打った方が良いし、ピッチャーも試合で数多く投げた方がバッターをおさえる力が付くはずだと。

練習で身に付くのは練習のボールを打つ力。試合で打つ力とは違うのでは？
そういう考えから今年はたくさん試合を組みます。空いていればどんどんやります。他チームのみなさん、電話ください。お願いします。

練習も変えます。能力に応じてなるべく２組に分けて少ない人数でやり、数多く打てる、数多く捕れる。
ありがたいことにスタッフの数はいるので全員で一緒に練習しないようにしたいと思います。
能力によってやらなければいけない練習は違う訳ですから、当然その方が効率が良いはずですし、選手のためになるはずです。試合のメンバーに選ばれたければ努力して力をつけてください。
チーム内の競争が、チーム力を上げることになります。個の力も競争の中で伸びていくものと思っています。

昨年までと変わることが多く、戸惑っている選手、保護者がいるかもしれませんが、良い結果を出すために、選手達のためになると考えて変えてみようと思いやることなので理解をお願いします。

私は負けるのが嫌いです。だから勝つために努力を続けます。それが夢に向かって頑張る選手のためになると信じています。
たくさん練習している選手が良い結果を出せるチーム。そのためにもっともっと勉強です。

第４６７話/２０２２．３．１

２/２６（土）練習試合をしました。スターズ大会の時より、少し気温も上がり、野球がやりやすくなってきました。
暖かくなれば、バットは振れてくるだろうと思っていました。安打８本、上出来です。が、不満が一つあります。変化球に対する対応です。
相手のピッチャーは初回先頭バッターの初球に変化球を投げました。それを選手たちはどうとらえたのか？
私は、変化球に自信のあるピッチャーか、ストレートに自信のないピッチャーか、今日は変化球の練習をしたいのか、ととらえます。いずれにしても変化球を投げる割合が上がると考えるのが普通です。
段原クラブ心得の中に、「変化球を狙ったら打てる」があります。良いチャンス、「今日は変化球を打つ練習をしよう」私ならこう考え、この試合は変化球を待って打つ練習をします。
ポジション争いをしている選手にこの余裕は無いかもしれませんが、下級生の時から試合に出ているレギュラーは練習試合のヒット１本を欲しがる必要はありません。試合ごとに課題を持って自分を高めることを考えればいいわけですから。
変化球を打つ練習をしたり、配給を読む練習をしたりすることは出来たはずです。
「練習試合」思い切って色々なことを試すチャンスです。公式戦ではなかなか試すということは

難しいですから、とても良いチャンスだったと思います。〈br〉
今、高校野球では投球の５０％以上が変化球です。対応できるようにしておく必要があります。

私は学生の時、ストレートを待って変化球を打つ技術に自信が無かったので中学生の時から配球を読むことを習慣にしていました。高校時代はほぼ全打席読んで打っていました。
愛工大名電の４番なのでほとんどのピッチャーがアウトコースに逃げてくれ、変化球の確率がとても高かったので配球を読みやすく、５割を超える打率を残すことが出来ました。何も考えずに打っていたらそれほどの成績を残せず、ドラフト指名もなかったかもしれません。
ストレートだけを待って、変化球に対応できるバッター。そういう打者になればそれに越したことはありませんが、そのレベルの選手はプロ野球界にも数人しかいません。その人たちが天才と呼ばれているのでしょう。

「野球は足と頭でやるスポーツ」私は言い続けています。同じ技術で相手のピッチャーが投げるボールが分かればヒットの確率は上がります。守備も相手のやってくること、ボールの飛んでくるところが分かればアウトを取れる確率は上がります。自分の成績アップのため頭（考える）を使う練習をしましょう。
２試合ともレギュラーにつまらない守備のミスがなかったことは良いことでした。これからも全員が守備に対する意識を高め良いチームになっていくことを期待します。

３月は全ての週末に試合があります。たくさんの選手にチャンスを与えようと思っていますが、チャンスをあげたいなと思うような練習に対する取り組みを見せてください。
中心選手たちは、試合の中で何をやるのかはっきりしたものを持って来てください。違いを見せてくれることを楽しみにしていますし、信じています。

野球には見逃し三振があります。私はその中に２つあると思っています。
ストライクに手が出ない時と、あきらかにボールと判断した時。ストライクに手が出ないは練習を重ね、なくしていかなければいけませんが、ボールだと思えば振らないのが当たり前です。ボールを振らないはバッターとして必要なことですから、ボールだと思えば振らないが当然です。
審判は人間ですから間違います。審判も選手もアマチュアなのでお互いに間違うのでしょうが、私は選手が堂々と「ボールでした」と言うのなら、選手を信じることにします。ただ、その前に２球のストライクがあったはずなので、それを打てるように技術を身に付けるよう練習してください。
レベルが上がればピッチャーは投げそこないが減ります。１打席で１球あるかどうかの甘いボールを確立よく打てる選手を目指して練習しましょう。

第４６６話/２０２２．２．２１

２/１９（土）は呉二河球場で三和クラブと練習試合でした。良い球場で良いチームと試合が出来ると、チームに力が付くので楽しみにしていましたが、あいにくの雨と雪。３イニングできましたが、とても野球ができる気温ではなく、選手達にはとても残念な１日となりました。

残っているメンバーも午前中の練習なので、練習後、フルスイング塾で打つメンバーが重なり大人数になると、コロナの心配やしっかり数多く打つことが出来なくなり費用対効果が下がるなどを考え、試合メンバーは二河球場の会議室でミーティングをしました。もちろん試合の内容の話もしましたが、先日のミーティングで話したことが試合の中で出来ていたかということと、心の話をしました。言い換えればメンタルの話です。

私は自分の野球人生を振り返ると、もちろん練習不足だったことが１番の問題だと思いますが、プロの中でレギュラーを奪っていく選手と比べ、圧倒的にメンタルが弱い選手でした。自分で言うのもなんですが、素材に恵まれていた私は練習量と精神力の強さがあれば少し違った野球人生が送れたと思います。
私が思うメンタルとは、やる前の結果のとらえ方と、結果が出た後の切り替え方です。先のことはわからないし、終わったことはやり直せないということです。今に集中する。そのために準備を怠らない（技術と頭）。そんな選手が良い結果に近づいていけるものだと思っています。
「失敗したら叱られる」「何々をしてはいけない」ではなく、「何々をする」。こちらになってくれたら選手はもっと伸び伸びプレーしていけるはずです。そんな試合をたくさん今年は見たいと思っています。

２/２３（祝）にお別れ試合とお別れ会があります。そのために昨年度の成績を出しました。１年間のスコアブックをずっと見ていると色々なことが思い出されます。
新チームが始まったばかりの頃に下位を打っていた選手が春には中心を打っていたり、下級生がレギュラーを奪ったり、１年間で力関係が変わります。
素晴らしい試合をしたかと思えば、次の日にひどい試合をしてみたり、本当に子ども達の成長だったり、変化、（良くも悪くも）には驚かされます。
野球の練習はウソをつかないので入部時、何も出来なかった選手が努力に努力を重ね、３年生の夏には立派に戦力になり、高校野球の夢を語るようになってくれます。
毎年のことですが、そういう選手と一緒に過ごした時間が私にとってありがたく貴重な時間になります。

今年の３年生は、たしかに段原クラブの歴史の中では野球の力が弱い選手達でしたが、人として中学生として、決して負けている子ども達ではありません。段原クラブの卒団生として堂々と胸を張って高校野球に挑戦してください。今まで通り、自分達がやってきた野球を信じて努力してくれるものと信じています。
入部の時の約束通り３年間頑張り続けた君たちに敬意を表します。ありがとうございました。
これからの野球人生、高校生活、大いに期待します。

第４６５話/２０２２．２．１４

１１（祝）、１２（土）、１３（日）３連休が終わりました。レギュラー組は１１（祝）瀬野川球場で守備の連携プレーなど試合に必要なことを中心に練習しました。〈br〉
ピッチャーフィールディングやレギュラーバッティング（1 ヶ所）など、試合に近いこ

とをしましたが、すぐに上手くいく訳はなく、少しずつ頭と体が慣れていって欲しいと思います。

１２（土）、１３（日）はスターズの招待試合でしたが、１３（日）が雨のため中止になり、１２（土）に２試合しました。
結果的には勝ちましたが、内容は問題だらけ、寒い中の今年初めての試合ということを割引いて考えても不満の残る試合でした。
特にバッティング、変化球を打つということは、今の時期なかなか難しいことなので何とも思いませんが、ストレートを打ってのミスショットがあまりに多いのが気になります。
ピッチャーに打ち取られたなら仕方ありませんが、バッターがミスをたくさんしていては点の取りようがありません。練習からミスをしない。１球に集中したバッティングが求められます。相手のミスで点は入りましたが、打って取った点はほぼ無く、さびしい内容となりました。
理由としては技術の未熟さ、考え方の間違い（状況判断）、精神的弱さということなのでしょうが、正しい練習を数多くやり、技術は身に付けています。試合で発揮するために何が必要なのかを考え、技術が身についていない人は、どんな練習をどの程度やらなければならないのかを考えなければ、いつまでも同じミスを繰り返し、野球人生が短くなってしまいます。試合で良い結果を出すために練習するのですから、更なる工夫がいるのではないでしょうか。少しずつ暖かくなればもっともっと振れてくるとは思いますが。

１３（日）雨のため試合が中止になったため、いつものようにフルスイング塾でバッティングと、ガード下などで守備の基本練習などをしましたが、ベンチ入りのメンバーは午前中座学をしました。
今回は段原クラブとして当たり前にやらなければならない、「大きな声を出す」「全力で走る」「ベースカバーに入る」この３つをなぜやらなければならないのか。やると何が選手のためになるのかについての説明と、野球というスポーツの勝敗の原点、点が入るしくみ（メカニズム）と逆に失点しない方法について話をしました。
選手達も保護者の方々も今まで少し違った考え方をしていたと思います。本質をよく理解することが出来れば、素直に大きな声を出すことが出来ますし、全力で走ることも出来るようになると思います。得点、失点についてもメカニズムを理解出来れば、やらなければいけないこと、考えなければいけないことが見えるようになり、練習して身に付けなければならない技術もわかりやすくなるはずです。

「野球」とは、ボールが動いていない時間に何を考え、何を準備出来るか、「予測と準備」のスポーツです。
体力・技術、両方高いレベで持っている方が良いに決まっていますが、それが足りなくても補うことの出来るスポーツです。だから日本人が世界で戦えます。たくさんの子ども達にチャンスのあるスポーツだと私は思っています。

これから多くある試合の中でひとつひとつ丁寧に子ども達に伝えていき、技術のレベルアップはもちろんですが、試合の中での考え方、やるべき事、やっていはいけない事など、ベンチのサインではなく自らが判断してプレー出来る選手になってほしいと思います。そ

れが段原クラブがずっと目指している、監督がベンチで座っているだけで広島県で優勝するチームに近づくことになります。

第４６４話/２０２２．１．２４

２/５（土）・６（日）はとても気温が下がった２日間でした。野球は寒いとプレーしづらいスポーツです。指先の感覚が必要なスローイングが難しいですし、バットは鋭く振れませんし、足も動きづらくなります。とは言ってもせっかくの海田球場の２日間、この条件の中でやれることはやりました。
ロングティーをたくさん（１日約２５０球）叩きましたし、バッティングは３カ所で打ちました。（これも数）数多くの打球を捕ることも出来ました。そして私が１番やりたかったピッチャー達に新しい変化球を一つ覚えてもらうことも、寒さの中でしたので、数投げることはしませんでしたが、みんな「こんな感じかな」ぐらいは、つかんでくれたと思います。来週から始まる試合でバッターにたくさん試して、体で覚えてほしいと思います。
ピッチャーの基本はあくまでアウトコース低めのストレートですが、今の時代スライダー、チェンジアップぐらいは高校に行ったら投げる必要がありますので１年間かけて試合で使いこなせるようにしてください。そのためには数多く試合で投げることが１番だと思います。

最近の子ども達は硬式野球を選ぶことが多いとよく聞きますが、単純にそう考えるのは間違っています。現実に広島県出身のプロ野球選手でいうと、ピッチャーの７０％以上、野手の５０％以上は中学では軟式ですし、プロ野球の開幕投手は圧倒的に軟式出身が多いです。
ジャイアンツは今年キャンプで軟式ボールでロングティーをしています。なぜでしょう。軟式ボールはごまかして質の良い打球を打つことが出来ないからです。軟式ボールで質の良い打球を打つためには正しい技術が必要です。硬式を金属バットで打つのは上半身のパワーだけである程度打てます。だから技術より筋肉トレーニングにこだわる指導者が多いのです。
私の経験では、軟式の選手が硬式野球に行けば、打率が１割から１割５分上がります。軟式野球で３割打てる選手は高校で４割は簡単に打てます。なぜならヒットを打つのは力ではなく技術だからです。
硬式に比べ軟式の野球ははるかに難しいものです。そして体に優しいです。
小・中学生は難しい軟式野球をやるべきだと私は考えます。ただこれもチームによります。どこでも良い訳ではありません。体のことをしっかり考えてくれて、正しい技術を伝えてくれる所、中学生は高校生が小さくなっただけではなく、全てが弱くできています。「こんな練習に耐えられなければ高校で野球は出来ないぞ」などと言って高校野球のような練習を課し疲労骨折などがあるチームは論外です。

中学生は高校生のような練習に耐えられる必要はありません。なぜなら中学生であり、高校生ではないからです。高校に上がって徐々に高校の練習についていけるようになればOK です。１度壊れたものは、１００％の回復は無いのです。（手術すれば可能な場合もありますが）まず壊さないこと、これが１番大切なことです。走る、投げるは強制的にやら

すものではありません。自主練で故障はしません。

好きな野球を長く続けてほしい。私はそう考えています。そのために心と体を壊さない。野球を好きであり続け、練習を続けていけば、ずっと上手くなっていくのですから。
みんなが慌てて急ぐ必要はありません。プロ野球選手になるのは野手なら２５歳、投手なら２８歳ぐらいまで可能性があります。中学生はこれから約１０年の時間があります。「あきらめない」「思い続ける」そして「やり続ける」その間私は応援しますよ。自分を信じて続けることが夢に近づくことです。〈br〉
試合が始まりますが、たくさん失敗しましょう。そこから学び、考えましょう。たくさん失敗するためにまずトライ！！やってみることです。

第４６３話/２０２２．１．２４

毎年のことですが、今の時期は私の心は不安定な状態です。保護者の方々の努力でたくさんの６年生が体験に来てくれます。そしてたくさんの不合格を告げられます。段原クラブを選んでいただけないということは、私を選んでいただけないということだと捉えています。
段原クラブといえば鈴木。勝手に私はそう思っています。監督を変えるか中身を変えなければならないと思います。今年、私は変わろうと努力をしていますが、本質（芯）が変わるのはそう簡単ではありません。
1/30(日)も頑張ってくれている保護者の方々に私の無神経（この言い方が正しいかどうかわかりませんが）な言葉でいやな思いをさせてしまいました。申し訳ありませんでした。反省しています。
全てを把握していないのに口に出してしまう、まだまだ人間として未熟なところだらけで今までもたくさんの子ども達や保護者の方々に迷惑をかけてきました。結局、段原クラブが選手集めに苦労している原因の一つに私が大きく影響していると思います。子ども達に努力の大切さを言い続けているのですから、まず自分が変わらなければ何も伝えることは出来ません。口にしているのですから責任があります。段原クラブは良いチームだと思いますが、より良くなるために私の成長が今１番必要なことです。

２月に入ります。私は今まで寒い時期はじっくり基本練習に時間をかけて、試合は３月からで良いという考え方でした。３年生の夏から本物になってくれれば高校野球につながるので慌てなくてまず基本をしっかりと思ってきました。
今年は少し考え方を変えてみようと思っています。今年の選手は本当によく練習するので、試合で早く試してみたくなりましたし、試合の中で覚えていくこともたくさんあるのではないかと思いますし、きっと試合の日もその後、しっかり練習する選手はするので、２月に試合を組んでみようと思います。もちろん基本練習をおろそかにするつもりはありません。多分、どこのチームも同じだと思いますが、冬の間は楽しみしかありません。特に練習を重ねている選手たちを見ていると、どんな打球を打てるようになったんだろうとか、どんな守備をしてくれるのだろうか、本当に楽しみがたくさんあります。
前にも書きましたが、そんな思い通りの良い結果ばかり出ることはないのでしょうが、練習は嘘をつきません。自分のやっていることに自信のある選手はそれを試合の中で堂々

と出してプレーしてください。たくさん失敗してその原因を考えてまた練習すればいいだけなのですから。失敗は成功するために必要なことです。必ず昨年とは違うものが出るはずです。私は段原クラブの技術と選手達の努力を信じています。

子ども達は自分自身で決めた目標、夢に向かって努力をしています。私も負けないように自分で決めた目標、夢に向かって口にするだけではなく行動していきます。私はもういい年齢なので努力しているだで評価されるものではなく結果です。今の自分は未熟。わかっているのですからこの最後のチャンスを自分のために生かします。人生を、そして段原クラブを良いものにしていくために。そして段原クラブを選んでくれた選手達のために。

第４６２話/２０２２．１．２４

１/２３ 日曜日は残念ながら雨が降り、思い切った練習は出来ませんでしたが、フルスイング塾の室内練習場が使えバッティングだけは出来るので他チームに比べれば恵まれています。
この週末も練習大好きな数人の選手たちは、当たり前のように５００以上のスイング（バッティング）をしました。毎週のことなので、みるみるスイングが力強くなり、暖かくなるのが楽しみです。

土日の２日間で高校野球の指導者の方が３人グランドを訪ねてくださいました。練習を見てくれたり、選手に声をかけてくれたりしていただき、努力している選手にとって、とても良い刺激になり、これからの練習や試合に取り組むモチベーションが上がり、とてもありがたいことだと思います。ありがとうございました。
これからもたくさんの方々に訪ねてもらえるチームになれるよう選手と共に努力を続けていきたいと思います。

それにしてもコロナ感染者が増え続け、また子ども達から練習・試合が奪われるかもしれません。グランドで感染が拡がった事実はないのにグランドを閉鎖したり、試合を中止にする。責任を取りたくない大人達、いつまで大人の都合で子供達の成長の場が奪われ続けるのでしょう。価値観の問題を強制するのはやめませんか。人生の優先順位は人それぞれ違います。子供の時にやらなければいけないことは、後でやり直すことは出来ません。大人とは違います。
中学生の時にしか出来ないこと、やらなければならないことを奪わないで下さい。今しかないのです。来年ではダメなのです。中学の１年間はやり直せません。頭の良い日本の指導者の皆さん。わかっていますか。大人の１年と子どもの１年は違います。メリットがあれば必ずデメリットがあります。何が大切なのかをしっかり考えてほしいと思います。子ども達から野球が奪われないことを祈ります。

今年、私が変わろうとしていること、例えば「タバコをやめる」や「体重を減らす」「感情で怒らない」などいろいろありますが、続いています。人からの評価はわかりませんが、自分の中では出来ていると思っています。私には大きな目標があり、それに向かっていくためにこれぐらいのことが出来なければ話にならないという思いが強くあり

ます。子ども達も大きな夢に向かって努力を続けています。私も言うだけではなく、子ども達に負けないように人生の最後の日まで今の思いを持ち続けていきます。やりがい・生きがいのある日々がずっと続いていくと楽しいですね。そのために自分は変わり、その日々を自分自身で作っていこうと思います。子ども達が元気に明るく、楽しそうに野球をし、夢に向かってもがいている姿を見て、同じ時間を共有できるのは、とてもありがたいことだと思います。

第４６１話/２０２２．１．１７

１/１５（土）１６（日）の２日間は球場で１日練習出来ましたので、少し試合形式の練習をしました。
まだポジションが流動的な中、各自が２ポジションもしくは３ポジションやる必要があるので動き、考え方を覚えるのはまだまだ時間がかかりそうです。
なぜ段原クラブではいろいろなポジションを練習するのか。それは高校に行ってからチャンスが拡がるようにするためと、野球というスポーツを覚えてもらうためです。
一つのポジションをしっかり練習して、その能力が上がればチーム力は上がり、勝つ確率は上がると思います。しかし、それでは、高校で同じポジションに自分より上の選手がいた場合、試合に出場するチャンスが無くなります。いくつかのポジションが出来れば、そういう場合、他のポジションで出場する可能性が出ます。
また、いくつかのポジションを経験することで野球を見る角度が変わり、野球に対する考え方、見方が拡がり、引き出しが増えます。チームの中の立場もいろいろ見えてくることにより、相手のことを考えてプレー出来るようになります。野球選手として、そして人間として器が大きくなります。
選手達には大変なことだと思いますが、必ず彼らのためになると信じています。頑張って器を大きくしてください。

日曜日には、OB の保護者が数人球場を訪ねてくれました。選手が卒団してから数年たっていますが、いつまでも段原クラブのことを気にかけていただいてありがとうございます。現役の保護者や選手はもちろんですが、OB の方々も含めたくさんの人達に段原クラブや私は支えられています。
今更ですが、感謝の心を持って野球をしていかなければならないと感じました。みなさんありがとうございます。
心遣いに応えるのは、段原クラブと子供達のために心を込めて練習・試合に取り組むことだと思います。
勝てればそれはそれで良いことだと思いますが、そのために精一杯努力を重ねることこそがとても大きなことだと思います。
ありがたいことに、今、グランドで一緒に野球をやりたいと思う選手が数多くいます。私は毎日グランドに出て野球をするのが待ち遠しく、楽しく思っています。〈

努力というものは、簡単に良い結果に繋がらず、選手も保護者も指導者も、もやもやしたり、イライラしたり、少し弱気になったり、もしかすると諦めかけたりすることがあるかもしれませんが、私から諦めることはありません。あなた達が私と野球をやりた

いと思っている限り、私は最後までそばにいます。
　試合が始まると、思い通りにならないことがあると思います。それは誰でも経験する当たり前のことです。何があろうと今の気持ちを野球人生の最後まで持ち続けることができれば、それが君達の勝利です。少しでもそのための力になることが出来れば幸せだと思っています。

「チームの仲間」確かに大切なものです。しかし、それは今だけのもの。高校野球では、それぞれ別のチームになり、敵になります。
私は中学・高校時代チーム内にライバルがいました。試合は勝ちたかったですが、「その選手はヒットを打つな」と思っていました。自分が打って勝ちたい、チームで１番になりたい。目立ちたい。世間では間違っていると言われるかもしれませんが、勝負の世界で勝ち上がっていくためには必要な考え方だと思います。
みんなで仲良く努力ではなく、人が休んでいる時こそ練習、みんながやっている時は更に練習、夢に向かって登っていくためにはこれが必要です。そんな選手を私は嫌いではありません。好きです。思い通りにならないことや、他の人がやっていることをぐずぐず愚痴や批判を言っている暇はありません。やったもん勝ちです。

第４６０話/２０２２．１．１１

１/７（金）から本日１/１１（火）まで、段原クラブの練習は５日間続きました。９（土）、１０（日）、１１（月・祝）の３連休の３日目は選手たちに少し疲れが見えましたが、よく頑張っていたと思います。練習後も毎日屋内でバッティングをする選手達を見ていると、試合で打てるようになってほしいと心から思います。

筋力トレーニングは続けると必ず筋肉が大きくなり力がつきますが、バッティング練習はやれば１００%ヒットを打てるようになる保証はありません。ここが野球の難しい所です。間違った練習や間違った打ち方をしてもバットに当たり、ヒットになることがあります。しかし長いスパンで考えると、正しい練習を数多くした選手が多くのヒットを打つのは間違いないと思います。
　今頑張っている君達、私は必ず多くのチャンスを与えます。そして、全力で応援します。保護者も含めて、結果に一喜一憂することなく、選手達を信じていきましょう。私は神を信じていませんが、野球の神だけはいるような気がしています。必ず見ていると思います。

小学生の体験が少しづつ増えてきました。チームを選ぶ基準が人それぞれなので何を求められているのかが私にはわかりません。段原クラブとしては今まで通り、正しいと思っている普段通りの練習、いつも通りの私を見ていただいて判断していただくしかないと思っています。

段原クラブは努力をする環境があります。その代わり強制的に練習をさせるわけではないので、さぼろうと思えばいくらでも手を抜けます。逆にやろうと思えば何時までででも、夜１０時頃まで練習をする環境があり、努力する能力のある選手にはもってこいの

チームです。
　進路も県外・県内豊富にありますので、これも努力する選手はたくさんの中から選択することができます。
正しい練習が数多くでき、野球の能力が高まり、進路が選べる。自分で言うのもなんですが、良いチームだと思います。
早く入部すればそれだけで他の選手に差をつけることも出来ます。大きな夢を持っている６年生のみなさん、私は応援しますよ。一度段原クラブの練習に来てください。本物の技術と考え方を伝えます。

　寒い中での練習が続きます。たくさん練習した後の体のケア、自分の体は自分で守る。保護者の皆さんも子供達の体、気を使ってあげてください。〈br〉

　選手・保護者・スタッフみんなの心を一つにして勝ちたいですね。

第４５９話/２０２２．１．３

　１／２（日）社会人、大学生、高校生、たくさんのＯＢが集まってくれて恒例のＯＢ戦を行いました。９イニング１試合、タイブレークまでいった１０イニング１試合、２試合しました。
１月２日にしては天気は最高、選手達も最後まで本当に楽しそうに野球をやってくれてありがたい１日でした。
　選手達は、中学生の時と比べて体も大きくなり、ひ弱な感じがなくなり、頼もしく見えました。「みんなしっかりやっているな」と安心し、嬉しく思いました。
とにかく明るく、楽しく１日野球をしてくれているのを見て、いつまでも野球を好きでいてくれることに感謝です。ＯＢのみんなありがとう。

　現役の保護者はこの行事のため何日もかけて準備をしてくれ、素晴らしいＯＢ戦にしてくれました。全ての方々に心より御礼申し上げます。特に当日は年始の忙しい中、朝早くから夜まで気遣いをしていただきました。本当にありがとうございました。
　私はたくさんの方々に支えられて好きな野球に関わらせてもらっていることを痛感し、感謝の気持ちを忘れてはいけないと自分に言い聞かせました。やってやっているのではなく、やらせてもらっている、この気持ちを忘れずにグランドに出たいと思います。

　ＯＢの選手・保護者のみなさん、現役の選手・保護者の皆さん、幸せな時間をありがとうございました。いつまでも続いてくれたらありがたいです。

第４５８話/２０２２．１．１

　みなさん、あけましておめでとうございます。今日は１月１日元旦です。

　たまたま、ＣＳテレビで１２球団ジュニアトーナメントを少し見ました。カープジュニアとスワローズジュニア、少し見ただけなので結果は知りませんが、１回の裏カープジュ

ニアの攻撃、先頭バッターが１球ごとにベンチを振り返っているのを見て、まだこんな野球をやっているんだと思い、寂しい気持ちになりました。

　広島県内から選ばれた選手達、能力の高い選手を集めているチーム、サインいりますか？

ましてや自分の持っている能力を全国に発表する舞台、どんどんバットを振って努力で身に付けた実力を試す場所です。これこそピッチャー対バッター　１対１の勝負を楽しむべきです。

レベルの高いピッチャー、バッター、選手を見て自分の位置を知り、今後の人生に生かす。高い頂を目指すために何をどのくらいやらなければならないかを見つけるためにありがたい経験が出来ます。そのために数多くストライクを投げ、数多くスイングし、数多く打球を捕ることが必要です。大人はそれを奪わないことです。

段原クラブは 12/31 も今日元旦もフルスイング塾でバッティングをする選手がいます。私はとても楽しく年末・年始を過ごさせてもらっています。私が練習しろとは一言も言っていません。選手から打ちたいと言ってくるので付き合います。

私と練習することを選ぶと厳しいです。気を抜くことが出来ません。それでも選んでくれる選手がいます。応える責任があります。

昨日のＮＨＫの大谷の特集の中でのスイングの軌道の話も考えさせられましたし、九国大付高の楠城さんの軸足を回さずに打つという理論も何日か考えて自分なりに解釈しました。

これからも本気で私と一緒に野球をやろうとする子ども達のために、正しい考え方、正しい体の使い方、正しい理論を伝え、努力が良い結果に結びつくよう、勉強を続けなければならないと思っています。

一人ひとり、体の大きさ、筋力、感覚、柔らかさ、様々な部分が違います。同じ事を伝える事と、違うことをしなければならない事をしっかりと見極め、その選手にしっかりと寄り添える指導者でありたいと思います。

毎日だれかに必要とされている人生はとてもありがたいことです。

第４５７話/２０２１．１２．２７

２５日(土)２６日(日)ともに気温が下がり、野球をするには厳しいものがありました。寒い中でボールを操るのは指先の感覚が鈍く難しくなりますし、筋肉が収縮し、パワーを出すのも難しくなります。

そんな中ですが、私はこの冬、数にこだわって練習したいと思っているので、出来るだけ多くバットを振る（ボールを打つ)、ボールを捕る、足を動かす練習をしました。

寒い中なので打球はなかなか思うように飛びませんし、足も動きにくいですが、数にこだわった練習は出来たと思います。

チームの中にほんの一握りですが、頭がおかしいほど練習をする選手がいます。1 日でもしないと不安でしょうがないようです。私はこういう選手の手伝いをするために存在し

ていますので、今とても楽しく野球が出来ています。

１２/２４(金)の平日練習で５時に遅れてきた選手が何人かいました。学校の授業がまだあったのかと思いましたが、あっても午前中までだったとのこと。段原クラブの練習は自由参加なので休もうが遅れてこようが自由ですが、申し訳ありませんが私の時間をそのような選手のために使うことはありません。
平等とか、権利だとか、くだらないことは言わないでくださいね。私の時間は私が使いたい選手と使います。一緒に頑張っていきたいと思える選手が一人でも増えれば、段原クラブは良いチームになっていくことでしょう。そして、勝つ確率が上がっていくと思います。

努力がすぐに良い結果に結びつくとは限りませんが、見せかけの努力ではなく、本物の努力は必ず本人に良いものが授かります。本気で野球に取り組んでいる選手を見て、他の選手・保護者が何を思い、どのように行動するのか正解はありませんし、人生の中の優先順位　は人それぞれです。
私は野球を１番にしろと強制するつもりはありませんが、考え方が近づく選手と保護者が増えていくと良いなと思っています。

野球のクラブチームなのですから、技術の向上が第一の目的です。そのために体を作り、数多く打ち、投げ、捕り、走る。
当然正しい技術論のもと、それをひたすらやっていくのが当たり前だと思っています。

私は今、とても楽しく野球が出来ています。頑張る選手に感謝。

第４５６話/２０２１．１２．２１

「人は変われる訳は無い」「本質は変わらない」ずっと私はそう思ってきました。
野球人としても指導者としても社会人としても、全てに中途半端な人生を送ってきた私は、人生の４コーナーを回った所で「変わりたい」と思いました。全てをリセットして１から始めてみたい。今までと違う自分で、違った時間を過ごし、違う人生を送りたい。まず何からやろうか。
「たばこをやめる」「練習中座らない」「自分の機嫌で怒らない」「痩せる」「疲れたを言わない」「段原クラブで良い結果が出ないのを選手のせいにしない」まだたくさんありますが、、ここに書けないものもあるのでこれぐらいにしておきます。全てキチッと出来ていないかもしれませんが、常に意識して行動するようにしています。

ではなぜ変わらなければならないと思ったのか。私は６２年間の人生全てを後悔しています。
ほとんどの人がそう思っていると思いますが、出来ればやり直したいと何度も思いました。しかし、それは不可能です。ならばせめてこれからの人生は後悔しないよう、「やりたいことを本気でやろう」と覚悟を決めました。人生が終わる時、笑っていられるよう同じ後悔ならやらない後悔よりやって後悔したい。そういうことです。

選手達も、今までの野球、今の自分に満足していますか。今のままで大丈夫ですか？〈br〉

練習とはどういうことかと言えば、変わるための手段です。トレーニングをすれば体が変わります。バットを振ればスイングが、スピードが変わります。考えて振れば技術（形）が変わります。

練習して変われば試合の結果が変わります。試合の結果が良くなれば進学先が変わります。進学先が変われば野球人生が変わります。

大好きな野球を長く、面白いものにするために練習して変わりましょう。

私は今そのために、覚悟を決めて壁にぶつかる準備をしていますが、はね返されるかもしれません。

しかし、今回は本気なので、何度でもぶつかりますし、あきらめるつもりはありません。あきらめない子どもたちとグランドで一緒にもがきたいですし、その時間を誰にも邪魔されたくありません。

今私は、野球人生の中でとても良い時間を過ごしています。その時間をずっと続けるために私は変わります。

第４５５話/２０２１．１２．１３

先週は私のやる気、元気の気の部分がなえるようなつまらない話が耳に入ってきたので、このページを書くのをやめました。

県大会・中国大会を経験して、勝ち上がるためにはバッテリーの力が必要なことを身をもって思い知りました。そんなことは野球の専門家なので「チーム力は投手力」分かりきっていましたが、私の中に勝ち上がって大きな大会に出るということに対する強い思いがあまりなかったので、ピッチャーを厳しく育てるという考えがありませんでした。（故障が怖いという考えが強くあり）ブルペンでの投球練習を一切しない。ピッチャーメニューの体作りをしない。そんな感じでもある程度戦えるチームは作れていました。バッティングをたくさんして個の能力を伸ばせば高校で個人の力で戦える。それで良いと思っていました。

しかし、今回中国大会を経験し、良い球場で良いチームと対戦すること。大会までの準備期間のモチベーションなど、子ども達にとってとても良い経験になり、野球人生にはもちろんですが、色々な事で力になることが多いなと感じました。今までと少し考え方を変えて、勝ち上がり、大きな大会を目指してみようと思っています。

では、そのためにまず何をしようか。バッテリーの強化です。ピッチャーとキャッチャー。誰でも出来るポジションではありません。強いチーム（勝てるチーム）を作るためには、選手を選ぶ必要があります。よく言われる「もの」です。

体作りから時間をかける必要のある選手、ある程度能力があり、体の使い方・考え方

を変えるだけで結果を出せる選手。当然練習の内容が違います。１年生と２年生でももちろんやる事は変わります。私はピッチャーもキャッチャーもプロで経験した専門家です。これからバッテリーの子ども達は体と心が苦しい練習になるかもしれません。自分で選んだポジションなのですから、覚悟を持って臨んでください。
守備に対する考え方も勝つためには今までより厳しくなります。試合に出るにはまず守備からになります。打つことだけに興味を持ってたくさんバットを振っていれば良いという訳にはいきません。今までより、試合に使う選手が限られる可能性もあります。

２月から試合が始まりますが、その時あわてないように「変わりますよ」と伝えましたよ。
チーム内の競争で負けて泣き言を言わないように、チーム内で勝負してください。つまらない話が私の耳に入ってこないことを臨みます。

段原クラブは野球のクラブチームです。野球に対して夢や希望に溢れている選手が集まって、高い目標に向かって努力を重ねる場所です。ひとりひとり高さや大きさが違ってもかまいません。目指しましょうよ。手伝いますよ。

第４５４話/２０２１．１１．２９

１１/２８（日） 松江に遠征し、練習試合２試合。今シーズンの試合を終わりました。新チームとなり２ヶ月、私が思っていたほどの結果は出ていません。旧チームから試合経験を積んでいた選手が多くいたので、もう少し同級生との対戦で見下して出来るので　はないかと思っていましたが、そのような精神状態で試合になかなか臨めないようです。現代の子ども達、段原クラブは良い子が多いようです。グランドでは悪い言い方をすれば「敵を叩きつぶす」ぐらいの勢いでやれるようになってほしいと思います。

新チームになり、チームの役員が変わり、中国大会や府中オーシャンズの招待試合など遠征が続き、２年生の保護者と話をする機会がありました。
数人ですが、私の想像をはるかに超える努力をしている選手・保護者がいます。知らなかったとはいえ、私の対峙の仕方は少し間違っていたようです。申し訳なく思いますし、もっともっと信じたいと思いますし、思い以上に答えたいと思います。

１２月から２月までの３ヶ月、毎年のことですが、体とパワーとスピードと技術を変える大事な約１００日になります。
当然やるのは選手ですが、私もとても楽しみです。「変わりたい」「変わらなければ次のステージで勝負出来ない」「変わらなければ夢に近づけない」「絶対変わるんだ」と思っている選手・保護者と本気で取り組む時間、楽しいに決まっています。

守備もバッティングも長く中学生を見ていますが、結局スピードです！

ボールの所へ速く動けるか、速いボールを投げられるか、スイングスピードが速いか！これにつきると思います。
この冬はこの部分にこだわって練習していきたいと思っています。夢を持って本気で私についてくる選手・保護者のみなさん、全員の必要はありません。苦しいことがあると思いますが、お互いに信頼し、春を迎えたいと思います。これからもう一度、練習方法・技術・勉強しなおしです。

第４５３話/２０２１．１１．２２

中国大会が終わり、１１/２０(土)・２１(日) ２日間府中オーシャンズの招待試合がありました。
モチベーションを全員で上げて準優勝し、バッティングはある程度良いピッチャーに対して対応出来、チームの課題はバッテリーの強化という所が見えてきた中での大会でした。
２日間で４試合が確実に出来る大会なので、２年生４人のピッチャーを集め、投げたい試合に投げてもらい、キャッチャーも自分で指名してもらい、完投もしくは１００投げるを決め事として大会に臨みました。
結果としては、１点（完投）０点（完投）４点（５回１００球）２点（６回１００球)。全員たくさんの投数・イニングを投げるという目的は達成する事が出来、その点ではとても有意義な大会となりました。
失点は相手が違うので、評価は難しいところですが、点の取られ方やコントロール、牽制、クイックなどまだまだ全員がエースと呼べるレベルにはかなり課題は多いです。しかし、全員がとても可能性を感じ、楽しみな存在であることは間違いありません。来春、誰が背番号１をつけるのか。今は全くわからない面白さが彼らの力を伸ばしてくれると思います。期待します。

私の想像をはるかに超えて悪かったのがバッティングです。４試合全ての相手は平均的な能力の投手でしたが、誰一人として満足のいくバッティングが出来た選手はいませんでした。
よく練習する選手が多いですし、練習を見ると中心選手は特にスイング出来るようになってきましたし、普通に打てるレベルの相手のはずです。
何が原因で試合に良い結果が出ないのだろう。１日目、私が出した指示は、ファーストストライクをフルスイング出来る準備をしっかりしよう。結果は良いので数多くスイングしよう。２日目は、１日目の試合後ホテルに向かう途中、芦田川の河川敷で練習した、スイングの考え方、技術を頭に意識してスイングする。でした。
何か子どもの足を引っ張るようなことを言ったようには思わないのですが、なかなか、良い結果に結びつきませんでした。

試合で打てないのには必ず原因があるはずです。確かにまだまだスピード、技術が何本もヒットを打てるほど身に付いていない選手もいますが、私の目では、努力している中心選手は、十分に活躍出来るだけの力を持っているように見えます。なぜなのだろう。細かい所で気になる所はもちろん全員にありますが、それでも打てるはずだ

と思います。私もそうでしたが、中国大会に比べて環境や緊張感のなさ（燃え尽き感）なのかな。

練習をしっかりして努力を重ねている、そして私を信じてくれている選手を試合で打たすことが出来ない自分、２日間（４試合）自分の力の無さに腹が立ち、情けなく思い続けていましたが、子ども達はついてきてくれます。やるしかありません。自分の器以上のことは出来ませんが、自分以外の意見も参考にして、とにかく、いつも私が言っている、彼らの夢のお手伝いがしっかり出来るように、私自身の器も磨かなければいけません。そのためには、もっともっと私の環境が何があっても野球が１番にしなければいけないと感じました。

私が選手達と夢を追いかける時間を誰にも邪魔されない環境を作りたいです。

中国大会、府中オーシャンズの大会と保護者の方々には、大きな出費と労力を出していただきました。これが子ども達のためにならなければ私の責任です。

彼らの野球人生の中のほんの小さな２つの大会かもしれませんが、この中の成功体験や失敗体験、グランド以外での経験などが、必ず彼らの心や体に良いものとして吸収されるものと信じています。またそうなるように私も努力していきたいと思います。

保護者の皆様、協力ありがとうございました。頑張っている子どもが良い思いが出来る指導者になれるように勉強し続けたいと思います。

第４５２話/２０２１．１１．１６

11/14(日)卒団試合と卒団式をしました。コロナの影響で例年より１ヶ月程遅くなりました。

まず、中国大会出場と、卒団式にあたり多くの OB の方々、スタッフからお祝いのお金・品をいただき心から御礼を申し上げます。卒団してからも段原クラブを心にかけていただきありがとうございます。これからも一人でも多くの子ども達に本物の野球の難しさと楽しさを伝えるために、努力していきます。選手・保護者・スタッフを代表し、感謝申し上げます。

今年の 3 年生は、このページの中で何度も書いてきましたが、そもそもの身体能力に恵まれていません。それでも段原クラブの正しい練習の中、努力を重ね、技術をある程度身に付ける事は出来ました。しかし、それを試合で良い結果として発揮する能力（考え方）はまだ身に付いていません。これから高校進学までの約４ヶ月、野球の練習はもちろんしなければなりませんが、野球というスポーツの中で自らの立ち位置、自らがその中で生かされるための考え方など、試合の中での仕事を理解する必要があります。

正しい道を歩く。道を間違えるとゴールにたどり着けませんし、たどり着いても時間がかかるということになります。せっかくする努力なら、自分の身の丈に合った方法がいいと思います。

練習の前の準備の段階で、私は選手達（保護者も含め）に多くの不満があります。

誰かに見られている時とそうでない時の動きが違ったり、「自分がしなくても誰かがしてくれる」と思っている選手が数多くいたり、チームの道具に対しての意識が低かったり、考え方が間違っている家族が多くいます。
野球チームなので当然、野球の練習や試合をします。そしてレギュラーと控えがいたり、勝ったり、負けたりします。もちろんレギュラーになる努力をし、試合で勝つための努力もします。しかし、それが１番大事なことではありません。選手も保護者も野球が上手く出来るからといって人として優秀な訳でも偉い訳でもありません。人間としての数多くある魅力（人間力）の中のたった一つに過ぎません。
まして私のように親からいただいた身体能力で、たいした努力もせずプロ野球選手になったからといって何の価値もありません。

私は昼間、配達のアルバイトをしていますが、ちゃんと挨拶できる人もいれば、完全に無視する人もいます。無視する人も自分より偉い人だったり、商売の相手ならするのでしょうが、アルバイトごときにはしないという人間なのでしょう。
私達指導者は、野球をもちろん教えています。勝ったほうが良いに決まってます。しかし、それが１番ではありません。

先日、11/13(土）中国５県の審判講習会のお手伝いをした時、広島の中には勝つ事が全てのつまらないチーム（指導者）がまだまだ多いという話でした。前にも書いたようにそんなチームの選手が守備をしているピッチャーや野手に対して大きな声を出し威嚇したり、デッドボールをよけなかったり、ランナーからサインを送ったりして、子ども達の人間としての成長を妨げています。
もう一度しっかり考えてみましょう。名将といわれる高校野球の監督は、能力のある。選手を数多く集めれる人で、勝った数の多い人です。本当にそれが名将なのでしょうか？
プロ野球とは違います。能力のある選手をなぜ勧誘するのか。まず、勝ちたいから。次に指導力に自信が無いからではないですか。それが名将？高校野球は、学校経営のための宣伝広告の役割もあるので勝たなければならない監督の仕事は理解出来ますが、小・中学生の野球はあくまで１番は人間としての教育を野球を利用してすることです。だから、スポーツマンシップに基づかなければなりません。当然相手にも敬意を払うべきです。相手のミスで喜んで手を叩いているみなさん、わかりますか。間違っていますよ。

段原クラブの選手・保護者の皆さん、上手くなるための努力、精進、ゴールに向かっていく姿勢。これが尊いものです。結果はずっと先に出ますよ。

第４５１話/２０２１．１１．８

監督室のファンの皆様とアンチ鈴木の皆様。先週は練習でのノックの打ちすぎ（約７００球）で左肩が上がらなくなり、月曜日から治療院に通っていたためページの更新が出来ませんでした。

その間に３年生最後の試合、八幡大会と、新チームの中国大会がありました。
３年生の八幡大会は準優勝。今年の３年生は、一言で言うと「変わらなかった」です。
段原クラブは正しい練習を数多くするので、必ず技術と体力は変わります。しかし、その技術を試合で発揮するために脳の指令が必要です。その点で今年の３年生は野球に対する考え方（野球頭）が変わらなかったので、試合で良い結果を残すことは出来ませんでした。最後まで個人の欲が、正しい技術、正しい野球に対する考え方、に勝ってしまったようです。これはいくら私達が指導したところで、人生の価値観の話なので三つ子の魂百までではありませんが、最初にやった野球（野球の育ち）が１番体に染み付いているので難しいのかもしれません。
ただ、せっかく正しい技術を伝えているのに、それを身に付けて高校でやろうとしないのはとてももったいないなと思います。練習は試合で良い結果を残すためにやるもの（変わるため）で、練習で良い結果を出すためではないということを分かって欲しかったです。

新チームは１１/６（土）７（日）中国大会に出場しました。段原クラブだけ県２位、他のチームは県１位の不思議な大会でしたが、準優勝。結果はまぁどうでもいいのですが、チームにとって、子ども達にとって、私にとって素晴らしく意味のある２日間でした。
今まで、全国大会に出場したことのあるチーム（広島スターズや府中オーシャンズ）と対戦したことは何度もありますが、段原クラブの選手がベストの力を出せば勝つことは出来ました。が、今回の大田第二中学校は、今の段原クラブでは、良い勝負は出来るでしょうが、勝つ事は難しいと思います。それぐらいバッテリー（ピッチャー・キャッチャー）に力の差がありました。３人いるピッチャー全員が完投能力があり、全ての投手が段原クラブのエースより数段上。キャッチャーはキャッチング、スローイング、リード、落ち着き、立ち姿、全て完敗です。

今、段原クラブには完投能力のあるピッチャー（７回を１００球で終える）は一人もいません。県大会も中国大会も２日間で３試合、優勝するためには、大田第二中学校のように３人必要になります。
今回はエースと期待していた選手が体育の授業で足首をねんざし、投げるどころか試合に出ることも危ぶまれていた状態でしたので、決勝戦は駒が尽きた状態。決勝まで行けばこうなることは分かっていました。〈br〉
大田第二中学校は失点が０、０、２、合計２。段原クラブは０、３、８、合計１１。これが今のチーム力です。

ありがたいことにやらなければいけないことが、はっきりしました。バッテリーの強化！！
候補はいるので、やるだけです。どのぐらいのレベルになれば全国で戦えるのかがはっきりと分かった（選手も）ことが１番の収穫でした。
鳥取まで観光バスで往復して、２泊して結構なお金がかかりました。中学野球の思い出程度で終わることなく、選手も保護者も変わるきっかけになって欲しいです。
大田第二中学校の選手達のプレーだけでなく、全ての行動を見れば、段原クラブの

選手達の甘さは見えたはずです。
　段原クラブの髪型は自由です。（学校の規則内）県大会も、中国大会も優勝チームは全員大会前に五厘刈りにしたチームでした。髪の毛が短ければ勝つというものだと私は思いませんが、４チーム出ていた鳥取のチームは全員が長髪で、４チーム全てが１回戦で惨敗。髪型で勝ち負けは決まらずとも、取り組み方や決意や野球に対する思いや集中力など色々なことに差があり、勝ち負けが決まっているように思います。

　強い弱いは別にして、私の中学生相手の野球人生の中で、本当に良い経験をさせていただきました。
　やってること（野球の技術）に間違いがないことも改めて確認できましたし、足らないことも教えてもらいました。バッターを押し込める（ボールも心も）ピッチャーを一人でも多く育てていきたいと思います。
　鳥取県の審判のレベルの高さ、意識の高さに驚きました。素晴らしかったです。２日間、ありがとうございました。私にとっていい２日間でした。

　私が前から言っている通り、本当にやる気のある指導者がいれば中体連の方が強くなります。なぜなら、グランドがある。毎日練習できる、からです。
　島根県で出来て、なぜ広島県では出来ないのでしょう。政治です。鳥取県では素晴らしいグランドが本当に安い金額（１時間２００円）で利用できます。そして、たくさんあります。税収は広島の方がはるかに多いのに、なぜ広島には無いのでしょう。これも政治です。
　スポーツ王国広島。こんなふうに言われていた時代もあったようですが、今はどうでしょう。何か全国レベルのものがありますか？島根県の素晴らしい中学校の野球部、鳥取県の素晴らしい球場（安くて中学生が使える）、なぜ広島には無いのでしょう？
　今回の知事選も無投票のようなもの。これでは広島は変わることは出来ませんね。残念です。

第４５０話/２０２１．１０．２５

　文部科学大臣杯の県大会決勝で惨敗してからチームは最低の状態です。
特にバッティングはこれ以上下がることは無い程、ひどいものになっています。
平均のストレートをとらえることが出来ない。算数で言えば、足し算・引き算が出来ないので、その先に進むことは不可能という状態です。
　普通、ストレートだけの甘いコースならスピードがいくら早くても（中学生の投手）ある程度とらえなければ話になりません。
　バッティングは前後・左右・上下。この３つを合わせて初めて芯でとらえるということになります。前後と左右は、バットの性能とパワーで少々補えますが、上下にずれたらヒットになりようがありません。では、なぜ上下にずれるのか。目で見て、手で持っている道具（バット）の芯をボールの芯に当てる。バッティングとはこういうことですが、目が悪いのか？手が自由（器用）に動かないのか？見て思った所にバットの芯を運べないということだと思います。この辺りの能力を俗にセンスというのか

もしれません。
　ではどうするのか。理屈ではなく体で覚えられるまで数をこなすしかないと思います。
道具を使う野球というスポーツは、その道具を使いこなせなければ良い結果にはつながらないということ。バット、グローブ、ボールという道具を自分の意思のままに自在に扱える選手が、良いピッチャー。良い守備者。良いバッター。そういうことです。
　道具を自分の思い通りに扱うため、やっぱり数多くやるしかないですよ。

　１０／１７（日）の試合で、対戦相手のあるチームの選手達が攻撃で打球が飛ぶと相手チームの守備者に対して、ベンチ全員で「何かある」「ある」「ある」と大きな声を出していました。そのチームは２，３年前、ランナーが出ると、全員で「ゴー」「ゴー」とピッチャーを威嚇するような声を出していました。試合後、私がそのチームの選手になぜそのような声を出すのか尋ねると、ピッチャーを威嚇し、動揺させ、投球に集中出来なくするために指導者からやるように言われたとのこと。
　いまだにこんなレベルの低い指導者が日本中にたくさん存在します。ピッチャーの能力を落としてヒットを打って、選手のためになりますか？そもそも、ピッチャーに対して口撃はルールで禁じられています。注意しない審判もふがいないですが、何のために少年のスポーツがあるのか。スポーツを通じ、子ども達に伝えること、身に付けなければいけないこと、本当にわかっていますか。相手チームの選手に対して大きな声を出す。そしてミスを誘う。さもしい、いやしい、さびしい、そんな心の指導者は子ども達のスポーツに関わる資格はありませんし、保護者の方々もよくそんな指導者に大事な子どもを預けられますね。

　私は試合中、ずっと我慢していました。そもそも勝ち負けなど何の興味も無い試合なので新戦力を試していた試合です。最後の最後、私はキレました。平凡な内野フライまで「何かある」？ふざけんな。段原クラブの選手をばかにするような行為・言動を許す訳にはいきません。大きな声を出しましたが、私は子ども達に言ったつもりはありません。大人達です。指導者はもちろん、保護者も含めて、考えて下さい。
相手がミスをした時、手を叩いて喜ぶような人間に自分の息子がなってほしいですか？
あなた達はそういう指導をしているのです。少年のスポーツは自分達だけでなく、全ての子ども達が上達して欲しい、みんなが野球の素晴らしさ・難しさを体感し、どんどんのめり込むように好きになって欲しい。私はいつもそう考えて子ども達に向き合っています。そのために周りから見れば度を越した厳しさに映ることもあるかもしれませんが。
　試合に勝たんがために、同じ野球をやっている同士に対して失礼な言動を口にするような指導者は無いです。
　野球に大きな声は必要です。それはチームメイトに対しての叱咤、激励、応援であり、対戦相手に対する威嚇はありえません。私達少年野球の指導者は、野球選手を育てているのではなく、人間を育てるお手伝いを野球というスポーツを理由としてさせていただいているのですから。

もう一度言います。保護者のみなさん、相手のミスで手を叩いて喜んでいませんか？

そんな大人にあなたの息子さんをしたいですか？さびしいですよ。

第４４９話/２０２１．１０．１８

１０／１６（土）に広島スターズにタイブレークで負け、１０／１７（日）は山口ミラクルに７回逆転負け。２日続けての敗戦です。原因はハッキリしています。
主力（旧チームからのレギュラー）５人が平均的なストレートを外野まで打ち返せないからです。では、なぜ１年間試合経験をした選手が新チームになり、そんな基本的な事が出来ないのか？私には分かりません。

野球は内野にゴロを打たなければいけない場面が無いとは言いません。（ヒットを打てればそれに越したことはありません）が、得点を取ろうと思えば外野までボールを飛ばさなければいけません。１番良いのは、外野の頭上を越すことです。ただこれは全員が出来くる訳ではありません。しかし、内野の頭上は、バットの芯でとらえれば誰でも越すことが出来ます。
なぜ、外野に打球を飛ばせないのか。バットの芯でボールをとらえることが出来ないから。
ではなぜ出来ないのか。技術とスピードが無いから。ではどうすれば良いのか。
「数多く練習する」　これ以外の方法があれば誰か教えて下さい。
「バットの芯で打つ」「より遠くに飛ばす」　このために数多くのボールを打つ練習をする。当然、ボールを上げる理屈を知らなければいけません。私はもちろんそれは伝えています。選手達は一人一人能力に差があり、毎日それほどの努力をしなくても中学ぐらいならそこそこヒットを打てる人がいるかもしれません。しかし、今の段原クラブにそのレベルの選手はいないということは試合の中で証明されているのですから、今まで以上の練習量が必要だという事です。

バッティングはピッチャーが素晴らしくキチッと投げてきたら簡単に打てるものではありません。残念ながら、ここ３年間広島県内にそのレベルのピッチャーは見当たりません。平均的なピッチャーばかりです。（段原クラブも含め）　言い換えれば１試合に１本のヒットは全員打てなければいけないということです。

選手達は夢を語ります。プロ野球選手、メジャーリーガー、大いに結構です。
どんどん口にしてください。ただ、現実も見ましょう。先日ドラフト会議がありました。広島の高校生は一人だけです。色々事情もありますが、平均すると各県一人。
県Ｎｏ１にならなければプロ野球選手にはなれないということです。あなたは今何番目ですか。
私は中学時代、多分ピッチャーとして１０番以下だったと思います。高校３年間で県内Ｎｏ１になりましたが、ずっとプロ野球選手になりたいと思い努力しました。言うだけでやらないはホラ吹きです。

プロ野球選手になりたければ、まず広島県Ｎｏ１選手を目指しましょう。そのために今あなたはどんな練習をどのぐらいやる必要があるのか考えて下さい。
　口に出したらやる責任があります。夢だけ語っていても夢は近づいてくれません。「負けた」「打てなかった」 練習しないで寝れる。そんな選手が夢を語ると周りが迷惑します。
「有限実行」私はいつでも付き合います。この２日間の敗戦がチームのプラスに変わることを望みます。

第４４８話/２０２１．１０．１１

　先週の県大会決勝の大敗以来、毎日段原クラブを変えるために何を変えたらいいのかずっと考えている。監督を変えるのが本来の筋だと思うのですが、スタッフ（コーチ陣）と相談したら、全員辞めると言い出し怒られてしまい、私の思っていることが伝わらないので難しい。
　前に書いた通りチームの戦力は、まず物（人）が１番なので、今までとは違う新入部員集めをする必要があります。私は練習技術に自信を持っていますが、今の戦力で私の目指しているベンチで何もしなくて広島県Ｎｏ１は難しい。もう２，３枚駒が必要です。とにかく、今までとはあらゆる事を変える勇気がなければ、段原クラブの１０年後が無いように思います。

１０／１０（日）広島西部野球協議会リーグ決勝大会があり、優勝しました。
 全く嬉しくない優勝でした。今年の３年生は、例年に比べて少し力は落ちます。が、コロナの中練習を重ね、段原クラブのレベルまで上がってきたと感じていました。数人は見違えるような選手になったのにもかかわらず、試合でその力が発揮出来ない。心の問題です。これはプレッシャーということではありません。
欲です。「強欲」。私は、良いバッター（試合のチャンスで打てるバッター）になるためには、アウトコースのボールをセンターから反対方向に打てなければならないとずっと指導しています。なぜなら、良いピッチャーとは、ピンチに確率良く、アウトコース低めに投げられるピッチャーだからです。上の世界へ上がれば上がる程、これが求められます。
広島県の高校のピッチャーがたくさん点を取られるのは、これが出来ないくせにスライダーだの、チェンジアップだのつまらない変化球ばかり投げるからです。

　決勝の相手キャッチャーは全球アウトコースにかまえていました。インコースに要求することは１球もありませんでした。そのことも試合中、バッターに伝えても３年生はひたすら引っ張って遠くに飛ばすことしか興味のないようなスイングを繰り返し、凡打の山。３年間努力してせっかく身に付けた技術をむざむざドブに捨てるような野球をしている３年生を見て心の底から悲しくなりました。
　私は彼らに何も伝えることが出来ませんでした。言い換えれば信頼されることが出来ませんでした。
　試合は勝ちます。当然です。段原クラブですから。守ることは出来ますし、１，２年が少し野球が出来ますから。３年生最後の試合に良いとこを見せたい、気持ちは良く分

かります。しかし考え方が間違っています。
「良いとこ」はボールを遠くに飛ばすことではありません。その考え方は小学生のレベルです。
中学３年生が考える「良いとこ」とは、きちっとした段原クラブの技術を見せることです。

人間は脳が指令を出して行動します。頭の中が間違っては、どんな能力を身に付けてもそれを生かすことは出来ません。高校野球も同じこと。
あなた達は、山田（ヤクルト）でも岡本（巨人）でも村上（ヤクルト）でもありません。自分の野球を間違えては、どうしようもなくなります。自分が目指して向かっていかなければいけない選手をもう一度考えて下さい。
１、２年生の選手達も同じです。良いバッターは芯に当たる確率の高い人。良いピッチャーは点を取られない人。
けして遠くに飛ぶ人でも、スピードの速い人でもありません。

第４４７話/２０２１．１０．４

今、１０／４（月）午前８時２０分です。
１０／２（土）、３（日）に文部科学大臣杯広島県大会（優勝チームは全国大会出場）があり、運良く決勝に進みましたが大敗。「広島県２位」これだけ聞くと、良くやったというように思いますが、段原クラブの力の無さというか、薄さを突きつけられ、自分の無力を痛感させられました。
３日（日）の夜は当然眠れる訳もなく、お酒を飲みましたが酔う事も出来ず、眠れたのは午前４時。何をどうしたら良いのか、考えなければいけないことだらけですが、そもそも野球の価値観が段原クラブのスタンダードにおよんでいない選手（家族）に何を言っても、何をしてもと思ってしまいます。
これは、野球の技術の話ではなく、考え方の話です。
私は小学生の頃から弱いチームで野球をしたことがありません。負けた経験が乏しく、負けてぐっすり眠れる神経を持ち合わせていません。

９／２６（日）グランドで出来る最後の練習が終わった時、試合の直前まであがこうと選手達に話をしました。１回戦、やっと勝った日の試合後、室内に打ちに来たレギュラーは３人。これが段原クラブの今の現実です。試合で良い結果を出し続けている選手は、練習をする必要はありません。頭髪を伸ばそうが、何も問題はありませんし、極端なことを言えば練習を一日もしなくても、試合だけ来れば良いです。なぜなら、練習は試合で良い結果を出すためにやるからです。ということは、試合で良い結果を出していない選手は、練習するしかないということ、休んでいる暇はないということです。
試合で良い結果を出せない選手は、良い結果を出せる選手に迷惑をかけています。私は親、先生から「他人に迷惑をかけてはいけない。」と教えられました。せめて試合に出るのなら、この責任を果たすべく努力するべきだと思います。
しかし、準決勝、決勝の前日に打ちに来た選手は３人... ということです。
たぐいまれなる素材を持って生まれてきていない人間が、人並みの努力で人の上に立つ

日はよっぽどの幸運（広島県Ｎｏ．１のピッチャーと同じチームになる）に恵まれない限りやってきません。チームが勝つ時、例えば全国大会に出場するチームでも、全国大会に連れて行った選手と連れて行ってもらった選手がいるということです。
今回の広島県２位も同じ事。
あなたはどちらの選手ですか？そこのポジション、あなたでなくても結果は変わらなかったのではないですか？ひとりひとりが考えてみる必要がありませんか？
もちろん私は、ずーっと考えています。

小学生に段原クラブを選んでもらうために、今回の大会の優勝（全国大会出場）が欲しいと思っていました。私は、福山の８０’ホークスが選手不足で解散してからずっと、危機感を抱いています。なぜなら、そのチームの監督はプロ野球の先輩、それも最多勝をとったことのある方でした。その方が監督をしていても、何かを間違うと子どもが入部してこない。私には考えられないことですが、現実です。まして私は元プロ野球選手とはいえ、その世界の末端にいた人間。
勝つことが一番だと思ったことは一度もありませんが、言い方はとても悪いですが、素人の親子には試合に勝つことがアピールになります。思い切って練習できない程の人数が入部してくるのも本意ではありませんが、私の中では毎年、新入部員の勧誘は苦労しているように思います。

試合に勝つための優先順位は、１に物（選手の質）、２に練習環境、３に指導者です。高校野球、プロ野球を見れば分かります。高校野球の名将と呼ばれる人達は全員、良い選手を勧誘して、集めています。その能力の高いチームが勝率が高いのです。

私は全試合勝ちたいと思って試合に望んでいますが、そのためだけに選手を使うことは大嫌いです。
ただ、全国大会につながる大会は、負けるまで自由な選手起用が出来ません。負けたことは本当に残念ですが、心の中は半分、自由に選手を変えることが出来ることにホッとしています。
試合でチームの役に立つ事の出来ない選手が出続けることは、理にかなっていません。
考えることがありすぎて、何から手を付けようか。
まず、ポジションの再考です。来春まで本当にチームの役に立つことの出来る選手は誰なのか。その選手をどこのポジションで起用することが、本人、チームにとって最適なのか。しかし、物（選手）が足りないのが現実です。
今、段原クラブは私が満足しているポジションがひとつもありません。選手達にとって、こんな絶好なチャンスは無いということです。分かっていますか？１年生の皆さん、今のあなた達は大ピンチです。少し野球の出来る新入部員にとばされます。ということは、今までの練習では足りないということです。

道は２つ。あきらめるか、今まで以上に努力するか。
勝負の世界で生きていく限り、良い結果を出せない選手にはどちらかしかありません。
あなたはどちらを選びますか？

第４４６話/２０２１．９.２７

　やっと一部の人間だけを痛めつけていた、不平等な緊急事態宣言が終わります。
子ども達から奪われていた野球をする機会が戻ってきます。
段原クラブは、１０／２（土）、３（日）に文部科学大臣杯の県大会がありますから、県外に行ってでも練習を続けてきました。９／２６（日）の練習が終わった時には、「やれることはやったな。」という私なりの、少しですが満足感がありました。新チームは旧チームからレギュラーで出ていた選手が５人いるので、普通に考えれば勝って当たり前です。私も高校２年の夏から秋に経験しました。東海大会で優勝して選抜出場を決めましたが、苦しい試合もあり、思ったより苦労した覚えがあります。
力がある方が必ず勝つとは限らないのが、野球の怖さです。プロ野球を見れば分かります。どんな弱い最下位のチームでも、年間５０勝くらいはします。９０%以上はピッチャーの能力が、その日に発揮されるかどうかにかかっています。
失点しないチームが強いと言うことです。

　ここ数年見ていると、練習は間違っていませんし、技術、理論も正しいので、選手は毎年確実に上達しているのですが、ここ一番という試合でその能力を発揮出来ていません。これは私という監督の、試合の中で力を発揮させられない何かがあるのかもしれません。
だとしたら、監督にふさわしくないということです。
そろそろ、そういうことも考えなければいけないのかなと思っています。
「プレッシャー」、「ほめる」、何をどうすれば試合で、持っている能力を存分に出してくれるのでしょう。私は「プレッシャー」の中で、それに打ち勝って大きくなるものと考えていたので、よく分かりません。
私は前から言い続けている、「ベンチで何もしないで座っていたら、広島県で一番になるチーム」そんなチームになりたいと目指しているので、今年は手をたたいて「頑張って」とだけ言っていようかなと今、考えています。出来るかな？
出来たら本当に良いなと思います。

　自分を信じることを自信と言います。
選手は自分を、段原クラブの練習を、段原クラブの技術を、信じていますか？
そして私は選手を信じていますか？
県大会の試合中、私は選手を信じ続けたいと、それが出来る監督でありたいと思います。
私の人間力で大丈夫かな。
まあ、チームは監督の器以上にはならないのですから、私次第だということです。

第４４５話/２０２１．９.２２

　緊急事態宣言の中、１０／２（土）３（日）に文部科学大臣杯の県大会があるので、保護者の方々の協力と努力でなんとか練習が出来ています。

大げさに言うと「人事を尽くして天命を待つ。」ということです。
大人が子ども達のために出来ることを精一杯にやっているのが、今の段原クラブです。
それを選手達は当たり前だと思わず、今野球が出来ていることはたくさんの大人の協力の上にあるとしっかりと頭の中に入れて、取り組んでほしいと思います。
「感謝」

９／１８（土）１９（日）２０（月）の３連休。２日間、外野守備に不安があるので外野にノックを数多く打ちましたが、日曜日の夜から左腕に激痛が走り、上がらなくなりました。初めての経験です。
老いということなのでしょう。今、月曜日の夜ですが、体はクタクタです。
子ども達のためにやれることは全てやる。それが私（段原クラブ）の仕事なので当たり前ですが、栄養ドリンクぐらいでは回復しません。仕事で体が動くか心配です。

最近、昔のことを思い出すことが増えました。自分が中・高校生だった頃をよく考えます。段原クラブの選手達は、私の中学生時代よりはるかに多く練習しています。それでも私の方がコントロールは良かったですし、私の方が多くのヒットを打ちました。
よく物が違うと言いますが、そうではなく、始めた年齢だと思います。私は幼稚園の頃から大人の軟式野球チームの練習に入っていましたし、毎日ひとりでも壁当てなど、ボールに触れていました。
野球は技術のスポーツなので神経だと思います。そのためには、早く始めれば始めるほど良いのではないでしょうか。では、そうでない人はどうするのか。始めてから人の倍やるしかないのでしょう。とにかく数多くボールに触れて、数多く経験するしかないと思います。物（俗に言うセンス）がなければ、他に方法がないのです。体で覚えるまで、徹底的に数多く練習するしかないです。
今、全国的に練習時間が短くなっている傾向の中、小・中・高校生は体ばかり大きくして下手になっています。ピッチャーは変化球ばかり覚えてストレートのコントロールがない、少し悪いと大量点をとられる。バッターは当たれば飛ぶが、たくさん三振をする。練習の数が足りない証拠です。

理論をしっかりして、数多く練習し、体で覚える。
それが技術です。

第４４４話/２０２１．９．１３

緊急事態宣言が月末まで延長されました。学校は始まって体育の授業はあります。子ども達からグランドは奪われたまま。
学校、学習塾、グランド、コロナの感染の確率はどこが高いのでしょうか？軟式野球連盟は、公式戦は日程通りに開催するとのこと。もし、学校が１ヶ月休校します、塾も休みます、しかし宣言解除したらすぐにテストがあります。だったら皆さんどうしますか？納得しますか？今、少年野球はそういう状態になっています。

「大会はやります。」「練習するグランドはありません。」、各チームで考えてください。
あなたならどうしますか？
休業要請が出ている業種には協力金が、十分ではないかもしれませんが出ます。では、子ども達から野球を奪った県は、子ども達のこれからの野球人生の何を補償してくれるのですか？知らん顔です。

段原クラブは今、子ども達と保護者の希望で、使えるグランドを探し出来る限りの活動をしています。
悪いことですか？
本格的に野球が始められる中学、高校の６年間、実質５年間、６０ヶ月、約１８００日、その限られた時間の中で何ヶ月、何十日も野球が奪われる。野球人生、ほとんどの選手はそれだけしかありません。その短い、取り返しが出来ない中、大人の皆さん、本気で考えてください。
段原クラブがやっていること、悪いことですか？子ども達が望んでいることに本気で向き合い、全力で応援し、協力する。私がやっているのはそれだけのことです。何が悪いのかさっぱり分かりません。責任を放棄し、保身に走る大人のほうが子ども達にとってよっぽど迷惑だと、私は思いますが...。
もう一度言います。
「子ども達が望んでいることを、全力で応援する。」
それが大人の責任だと思います。
ちなみに県内で１ヶ所だけ利用できる野球場。広島市民球場では、広島カープだけが観客を入れて、お金儲けのために野球をやっています。なぜ？何か大きな力が働いているのでしょう。
「お金」と「権力」、社会での本当の力とはやはりこういうものなのでしょう。

湯崎知事が４選目出馬するそうです。私は、自分に力があれば出馬して落としてやろうかと思いました。が、とてもそんな力はありません。これからもずっと、大人の都合の県政が続いていくのでしょう。
今、広島のスポーツは少年からプロまで全滅状態です。何が変わったのでしょうか。トップ。そこに問題があるのではないでしょうかね。コロナの対応もトップ次第ですもんね。道がそれたようですが、皆さん選挙には行きましょうね。
そうしないと好き放題されますよ。

コロナ感染拡大まっただ中で、オリンピックはやれるのに少年達はグランドで大好きな野球が出来ない。どう考えてもおかしいです。日本人は本当に平和ボケ、誰も何も言わない、政治家にとってとても都合の良い民族。国です。
まあ、そのように学校教育してますもんね。

第４４３話/２０２１．９．６

緊急事態宣言が、なんとか１２日で終わって欲しいと思っています。コロナで中止に

なった大会があり、３年生は不完全燃焼です。残り２大会、やらせてあげたいです。
段原クラブであきらめずに練習を続けている選手は今、力を付けてきています。その選手に発表する場を与えて欲しいと思います。

　最近感じていることを書きます。数年前から挨拶の出来ない指導者が増えてきました。野球の世界の先輩、後輩は年齢です。私は６２才。広島市内だとスターズの池田さん、ライジングスの登さんなどが年上なので、私から挨拶に伺います。野球に携わっている者として当然のことです。
子ども達にはえらそうなことを言っているはずの指導者が、当たり前の挨拶が出来ない。敵だとでも思っているのでしょうか。だとしたら、それこそどうかしています。子ども達の夢や目標のお手伝いをしている、本来は仲間です。これは、保護者も同じです。
チームによってはにらんでくるような保護者もいて、「私があなたに何かした？」と聞きたくなります。大人が力を合わせて子ども達の成長のお手伝いをするのがチーム、組織、連盟の役割です。
勝負の世界ですから勝ち負けがあります。試合中は確かに「敵」？なのかもしれませんが、親も指導者も子ども達に挨拶、言葉使い、うるさく言っているのなら、見本になりましょうよ。
野球の世界では当たり前のことですから。

第４４２話/２０２１．８．３０

　広島県にまた緊急事態宣言が出て、９／１２まで子ども達から野球をするグランドが奪われました。３年生にとって残り２大会、ありがたいことに９／１２以降なのでやれると思うのですが、それまでチーム内で感染者を出すことなく、なんとしても練習場所を確保して、段原クラブに入部して最後まであきらめることなくやり続けた選手に、身に付けた力を発揮する場所を与えてあげたいと思います。
新チームの試合もせまっていますが、３年生に最後まで厳しく接するのが私の仕事です。
　野球とは関係ないのですが、私がとても気になっていることを書きます。まず、テレビ・ラジオのアナウンサーやコメンテーターなどの口調、「～だとか。」「～だったり。」がやけに多い。これは確定せず、曖昧にする事で批判されないためですか？
今の時代、何かにつけてクレームを付ける人、正義の旗を振る人がいますが、数学の答えではないので正解はひとつではありません。さまざまな考え方があって当たり前です。テレビもラジオも堂々と自分（局・会社）の意見を言えば良いのではないでしょうか。少数意見に対して過剰に反応しすぎです。
　最初から何かあった時のために逃げ場を作っておく、つまらない社会になったなと思います。私はこのページで自分の名前をさらして、自分の考え方をさらしています。いつでもだれでも読めますし、何を言われてもかまいません。段原クラブに入部する前から監督の考え方が分かっていれば、入部してから「あれ？」って事がなくて良いと思います。〈br〉
「みんなに好かれたい。」
私はそんなこと考えたこともありません。今日もある保護者に、「なんでわざと嫌われる

ようなことを言うの？」とか「ちゃんと思っていることを子ども達に伝えてやればいいのに。」と言われましたが、私は「みなまで言わなきゃ分からんやつには、分かってもらわんでいい。」と思っています。
「行動」
何をやっているかで判断してもらえれば十分です。

　もうひとつ、自転車です。皆さん死ぬ気ですか？
東雲は一方通行や狭い道が多い町です。絶対に交差点で一時停止しない、徐行すらしない自転車が圧倒的です。もう一度言います。「死ぬ気ですか？」それで今まで事故死なかったのは、運が良かっただけです。
私は車を運転していて、怖くて仕方ありません。
あなた達は軽車両です。自動車とほぼ同じ考え方で道路を走ってもらわないといけません。学校や家庭での教育が必要です。大人もむちゃくちゃですけど。
　段原クラブの選手達、自転車は車とほぼ同じルールを守る必要があります。今まで本当に運良く生きてきただけです。信号の無い交差点、止まる必要があります。車が必ず止まると思っていると、いつか必ずひどい目にあいますよ。

第４４１話/２０２１．８．２３

　雨、雨、雨。人生で経験したことの無い長雨。野球人にとっては、迷惑でしかありません。
先週も書きましたが昨年からのコロナも相まって、ここ２年間子ども達は心から楽しんで野球が出来ていないように見えます。私は自分自身の老いも重なって、グランドで本当に楽しんだ日があっただろうか。ずーっともやもやしているような気がします。
とりあえず２４日（火）に２回目のワクチンを打って少し心に余裕を持って、手術後落ちていた食欲も戻ってきたので、もう一度自分自身を奮い立たせ、迫力のある段原クラブを取り戻したいと思います。

　残念ながらスポーツというものは、生まれ持った才能（身体能力・感覚）がとても重要で、努力はもちろん大事ですが、それではどうにもならない事があります。学生時代はまず、成長のスピードが違い、体の大きさや動きの速さに差があります。当然結果に差が出ます。ということは、結果にそれほど価値は無いということです。
だから私は高校野球の全国大会をほとんど見ません。（みんなが甲子園大会という大会です。）だって、そもそも中学時代に良い結果を出した選手をたくさん集めたチームが、集まって大会をしているだけのものに意味を感じないからです。素材と能力に恵まれた選手を集めてやる野球。それはプロ野球がやることです。
そもそも学校のクラブ活動なのに、能力によって入学しても入部出来ない子がいたり、野球部なのに野球の練習をさせてもらえない選手がいたり、練習内容や数に差があったり、払うお金に差があったり、おかしなことばかり。能力のある選手を集めて勝たない方がおかしいのですから、当たり前のことを見て、何が面白いのか分かりません。

私は選手を選びません。全員、平等に練習します。その中でもちろん力に差が出ます。試合に出る数はなかなか平等は難しいですが、試合はいくらでもありますし、なんでもかんでも勝つ必要はありませんし、試合出場のチャンスをたくさん与えることは出来ます。生まれながらにして野球に向いていない子どもは、それは本人の責任ではありません。成長しようともがかない選手に、私は関心はありませんが、段原クラブには私がやったことの無い努力をする選手がいます。残念ながら野球は難しいスポーツです。なかなか思い通りの結果にたどり着けないのですが、私が生きている意味がそこにあるように思います。大げさに聞こえるかもしれませんが、年を重ねるごとに、自分の与えられた使命（野球のことしか分かりませんが）は、そういうことではないだろうかと思うようになりました。

前に一度、高校野球の監督をやってみたいと書いたことがありました。それは、全国大会に出場するようなチームではなく、人数の少ない田舎の県立高校のような所で、上手くないけど野球が大好きな子ども達と夢を追いかけるような日々を送りたいということです。
「夢を追うお手伝い」楽しいだろうなって思います

段原クラブは、３年生の投手が２人投げられない状況なのでとても苦しいのですが、３年生にとって残り少ない試合ですが、何を言われてもあきらめることなく頑張ってきた選手は、力を付けています。試合で良い結果を出せる力は付いています。後はそれを本人が信じられるかだけです。
私は信じています。

第４４０話/２０２１．８．１７

昨年のコロナからずっと嫌～な感じが続いている中で、大雨やグランドの問題、選手のケガ等すっきりした気持ちで野球に集中出来ない日が続いています。そんな中でも選手達は確実に力をつけています。スイングは全員力強くなっているし、守備も半年前に比べれば、１、２年生はほんとに少しずつですが見れるようになってきました。ただ、勘違いしないでください。スタートがとっても低い所ですから、上達したといっても試合でプレー出来るレベルではありません。

思い切り野球が出来る日は、いつになったらくるのでしょう。

野球の話とは違いますが、私がずっと前から言い続けているコロナ対策を書きます。
まず、ワクチンはやっと東京が言い出しましたが、私は前から若い人達の接種を増やすためにはポイントを付ければ良い（選挙の投票率を上げるためにも）と言っていました。年齢にこだわらず、感染者の多いところはワクチンを接種していくべきです。とにかく数です。
それから入院先は豪華客船を使う。部屋もある、食事を作るスペースもある、まして今、船は困っているはずです。ウィンウィン（ｗｉｎ-ｗｉｎ）です。生活や経済を取り戻す

ためには、コロナとうまく付き合っていく必要があります。死なない病気にするために、ワクチンと医療。最重要にするべきです。

　高校野球の夏の全国大会が始まりました。みんなが甲子園大会と呼んでいる大会です。正式には、全国高校野球選手権大会といいます。その会場（グランド）が阪神甲子園球場です。
　今年は雨で順延の試合が多く、たくさんの問題が起こっています。
高校野球が抱えている問題の中で、熱中症、ピッチャーの球数、今回の様な雨での順延。この３つを解決するのは簡単です。
前にも書きましたが、まず各県の予選を６月から土、日でやる。沖縄県がやっているので他の県でも出来るはずです。
そして選手権大会はドーム球場でやる。どこの球場でもＯＫです。雨の中止は無くなり、熱中症も防げます。
そして金属バットの使用をやめれば（もしくは金属の反発係数を木製と同じにする)、ピッチャーの負担は半減します。バッターの技術も向上します。ウェイトトレーニングで上半身の力を付けて、胸の力でバットを振り、ボールを遠くに飛ばす。間違った打ち方が通用しなくなります。木製バットがお金がかかるのなら、竹でもかまいません。甲子園球場に対するこだわりがあるのは分かりますが、ちなみに第１回から９回までは、豊中球場だったり鳴尾球場ですし、戦争で中断した後は、西宮球場で開催しています。
一回ドームで野球やってみな。どの球場も立派ですし、夏のデーゲームはどう考えても、ドームが良いに決まっています。応援する人達も、保護者も雨の心配が無いのが一番。全ての人にとって良い事ずくめなのに、なぜやらないのか分からない。
　小学生も中学生も同じです。子ども達の組織は、子ども達のためにあります。
　コロナで辞退しなくてはならなかったチームが出ましたが、オリンピックは出場する選手はワクチンを接種したのに、高校野球の選手達にはなぜ接種しないのでしょう。
一生に一度の高校３年の夏、やり直しは出来ないのですから出来ることは全てやるべき、が大人の仕事だと思うのですが. . . 。
ドーム球場の使用料金が高いのであれば、入場料金を上げるか、放映権料をとれば良いです。

　これからの地球は確実に災害が増えます。日本も毎年のように豪雨に見舞われ、気温は高い夏になります。分かっていることなので、先回りして考えるべきです。
政府のコロナ対策と同じように後手後手に回ると、迷惑するのは子ども達です。
コロナも高校野球も、まともな大人なら想像できる事。何かが起こらないと動かないのはもう、古い考え方だと思います。

緊急追加/２０２１．８．１８

　８／１７（火）の大阪桐蔭対東海大菅生の試合、皆さん見ましたか？
私が常々言い続けている大人の都合！！！
それ以外の理由が見つからない試合でした。また、子ども達が犠牲になりました。考えられない愚行です。役員の方々は、野球をやったことがあるのでしょうか。やったとし

ても、高いレベルでやったことが無いのだと思います。
　軟式野球連盟も、同じく雨で平気で試合を強行します。
　野球というスポーツがどんなものか分かれば、絶対に雨の中ではやりません。なぜなら、ミリ（ｍｍ）のスポーツだからです。ピッチャーの投球も、バッティングも守備も、センチ（ｃｍ）ずれると良い結果は出ません。というより、とんでもない結果になります。小さいボールを操るのに、雨の中でミリ単位で操るのはとても困難なことです。レベルの低い、センチ（ｃｍ）ずれても良いような野球しかしたことの無い人には、分からないのだと思います。
　日程を消化するためだけの目的で、雨の中強行される試合のために、これまでもこれからも子ども達はとてもつらい思いをします。

　私は中学生は大会の数を減らすべきだと思いますし、高校生は予選を６月から、全国大会をドーム球場でやるべきだと思います。

　野球というスポーツを使って教育するのが目的だとしたら、大人は、子どものスポーツでも「大人の都合を最優先させる」ということを勉強させているのかもしれません。大人になると本音と建前があり使い分けるのだと、子ども達に教育している様に見えるのは、私だけでしょうか。

第４３９話/２０２１．８．８

　今年の段原クラブはベストメンバーで戦ったことがありません。
前にも書きましたが、エースとして期待していた選手は春に、スライディングでヒザの靱帯を断裂。そこからなんとか試合を作れるピッチャーをつくるため、私はピッチャーの練習に集中し、６月くらいから少しずつ試合になるようになってきたら、３年生の２番手が骨折。２年生も試合経験を積ませ、相手によっては投げられる目処がついたと思えば、ベースにつまずいてヒザのケガ。とうとう、８／７（土）しまなみ大会で府中オーシャンズを完封し、エースと期待していたピッチャーがひじ痛。

　私は今年、２日間の連投をさせたこともなく、大事に大事にとやってきました。他チームを見ているとエースは、２日続けて完投することは当たり前。これだけ気をつかっていてもピッチャーが壊滅状態。今、試合になるピッチャーは２年生の１人になりました。当然、２日間で４試合しなければ優勝できない。県少年部の県大会も、しまなみ大会県大会も、１日目はなんとか勝って、２日目の準決勝では投げられるピッチャーがいないため、みじめな結果に終わります。
　ただ考え方を変えれば、１、２年生が５人もレギュラーで出て、ピッチャーの数もいない状態で２大会続けて県大会のベスト４に残れているのは、段原クラブがやっている練習、考え方が正しい証拠であると言えます。今年の３年生９人は、小学生の時県大会などに出たこともない選手達。ピッチャーを経験したこともない。それでも段原クラブで２年やれば、県大会のベスト４にはなれるということです。
３年生の残りの試合は数少ないです。ベストの状態で試合にのぞめることは無いでしょ

う。
ただ、一桁の背番号を付けているということは、試合にベストな体でグランドに立つ責任があります。段原クラブの歴史の中で、こんなにピッチャーが投げること以外で故障した年はありません。ピッチャーとしての自覚と責任の欠如だと思います。

マウンドに上がるということは、チームの勝敗を背負います。
他の野手の人生を背負うと言っても大げさではないと思います。
段原クラブは、ピッチャーを希望したものだけがマウンドに上がるのですから（私からピッチャーを薦めることはありません。）、その覚悟の無い選手は、自ら身を引くべきです。今までの段原クラブも、私も、ピッチャー（エース）は２日間完投するのは当たり前でした。（私の時代は３連投もしていました。）
時代は変わっています。１日１００球という制限があり、よりピッチャーは楽になっています。
マウンドに上がってチームを背負うのなら、体はもちろん心もせめて２日間、夏の暑い中でももつようにしなければ、上には上がれないということです。
今、段原クラブの選手達は確実に、少しずつですが力を付けてきています。段原クラブで正しい練習をしているので当然なのですが、体と心がひ弱、未熟です。今年で言えば、府中オーシャンズや広島スターズの選手と比べると原点である、体力、気力が明らかに劣ります。
特に３年生の皆さん、下級生にポジションをとられ、結果でも負けて悔しくありませんか。自分に腹が立ちませんか。せめて、勝負に向かう姿勢、迫力、から元気でもかまいません。表に出して野球しませんか。
あきらめたのなら言って下さい。その選手に使う時間は無駄ですから。

第４３８話/２０２１．８．１

高校野球の予選が終わり、結局予想通り新庄が代表になりました。新庄高校をおさえることの出来るピッチャーが広島に存在しなかったので、当然といえば当然の結果です。

先日、３年生の保護者から進路は監督が決めるようなことを言われました。そんなことある訳はありません。私は自分の息子の進路も決めていません。ましてや他人の子の進路を決めることが出来る訳はありません。迷っていると相談された時には、私はこう思うと言ったことはありますが、それ以上のことを言う権利はありません。皆さん勘違いしたような事を言うのはやめて下さい。各家庭で決めることです。

高校３年生も夏の大会が終わり、グランドに顔を見せてくれたＯＢのみんな、３年間ご苦労様でした。
その中の１人が、「３年間精一杯やりましたが、ベンチに入ることが出来ませんでした。自分は野球というスポーツに向いていないことがよく分かったので、大学では違うスポーツをやろうと思います。」と言っていました。
野球はとても難しいスポーツです。お金もかかります。だから、世界中に広がりません。今回のオリンピックを見れば皆さんよく分かると思います。

日本は小学生の時から単一スポーツしか出来ないシステムなので、本当にそのスポーツがその子に向いているかどうか判断するのが難しく、努力しても良い結果に結びつかない子がたくさんいます。競技人口も多く、高校野球はベンチには入れない子どもの方が多いのが現実です。
私は運良く、プロに入るまでずっと試合に出続けることが出来ましたが、小学生の時、ソフトボール、陸上、水泳、サッカーと４つの競技をやり、野球を選びました。結果が出なくても頑張ることに意味がある。それも分かります。私は、苦労するのなら試合に出られた方が良いと思います。

３年生の皆さん、あなた達の人生なので、もちろん自分で決めるのは当然ですが、しっかりと自分自身を見つめ、優先順位を考え、進路を考えて下さい。

私は野球が人生そのものでしたが、結局失敗した野球人生でした。夢を追い続けるもあり、方向を変えるのもあり、数学の答えではないので正解はひとつではありません。これから先の野球人生は、努力は誰も評価しません。結果が全てです。
「頑張っている。」をほめられているうちは、レベルが低いということです。
厳しいことを言っているように思うでしょうが、社会とはそういう言うものです。

追伸

頑張っても良い結果が出ない選手は、道を変えるのも考え方としてありのようなことを書きましたが、自分の体調が良くなかったことを言い訳にして、君達との時間をないがしろにしていた自分を棚に上げて、えらそうに言っている自分に腹が立っています。
私は段原クラブを選んでくれた子ども達に、本当に全力を尽くしているのだろうか？手を抜いている自分がいるにもかかわらず、子ども達のせいにしている私は最低です。選手、保護者の皆さん、本当に申し訳なく、ただただ反省しています。
「本物の段原クラブ」は、私が本気でグランドに立ってはじめて始まります。
選手達、年齢や体調のせいにして君達と本気で向き合いもせず、全てを君達の能力の無さにして、あきらめたようなことを口にしてすみませんでした。
段原クラブを選んでくれた君達に、全力で答える責任を全うしていない私に全ての原因があります。
野球というスポーツはすばらしいスポーツです。１日でも長く続けてほしいと思っています。
そのために、少しでも役に立てるように、私の全てを伝えるのが君達の思いに答える責任です。
心からの反省です。すみませんでした。

君達の野球は、君達のためにあります。
出来る今、１日を１時間を１分を大切に、思い切ってやって下さい。

第４３７話/２０２１．７．２６

手術から１ヶ月過ぎ、少しずつ体調が戻ってきましたが、寄る年波と暑さで、なかなかグランドで動きまわるところまでにはなりません。「疲れた」が口癖になってしまいました。

これは、試合内容も原因のひとつかもしれません。

今年のチームは選手個々の身体能力が低く、３年生に故障者が多いこともあり苦しいのですが、練習はしっかりしますし、私の見る限り確実に力を付けています。しかし、これを試合で半分も出すことが出来ない。私はこれが納得できず、いつもイライラします。

試合は相手チーム（選手）と争います。闘います。言い方は悪いですが、「生きるか」「死ぬか」「殺るか」「殺られるか」です。
一番大事なその部分、闘う力、争う力、闘争心が全く感じられません。７／２５（日）にＢチーム（２、１年生）の試合も見ましたが、同じでした。そもそもグランドに立つ資格の無い選手が立っているので、勝負で良い結果を得るのは難しいのだと思います。
〈br〉
ベンチにいる選手に、相手のバッターの打順を聞いても答えられない。私が試合の度に、その日意識してほしいことをホワイトボードに書きますが、たった２行ですが、試合後答えられない。話になりません。なぜ？
何のために野球をやっているのでしょう。なぜ、段原クラブに入ったのでしょう。なぜ、やめずにいるのでしょう。さっぱり分かりません。
その程度の選手がベンチにいたり、まして試合に出る状況の段原クラブでは、とてもまともなクラブチームとは言えないのですから、勝つという結果を得るのは難しいということです。
はっきり言います。
「私の残った時間をそんな選手のために使うのは嫌です。」永遠にグランドに立てるわけではありません。
私はもちろん、選手達も野球の出来る時間は限られています。世界中には、スポーツをやっている場合ではなく、生きていくだけで精一杯という子ども達が数限りなくいます。
オリンピックの開会式を見れば明らかです。スポーツを思い切って出来る。まして、野球が出来る国（選手）はとても恵まれた環境にあり、余裕がある国（人達）です。
やりたくてもスポーツどころか、食べる物も満足にない子ども達がたくさんいる中で、あなた達はよくふざけた野球が出来ますね。
私は野球しか出来ませんが、今回オリンピックの開会式を見てつくづく幸せな環境に生まれて、野球が思い切ってやれたことに感謝、ありがたいと思いました。

今回のオリンピックについていろいろな考え方がありますが、そういうことを考えさ

せられ、私にとっては得るものがありました。まだ続きます。いろいろなスポーツの世界レベルを目にして、何かを感じたい。
子ども達にも感じてほしいと思います。

第４３６話/２０２１．７．１８

３／６、エースとして期待していた３年生がゲーム中にヒザの靭帯を断裂して以来、勝つ事が難しい試合が続いていました。前にも書きましたが、「チーム力は投手力」ですから信頼出来るエースがいなければ、チームとしては弱いということになります。なんとか試合がつくれるピッチャーを育てなければと、県大会に向けて努力してきましたが、間に合わず敗戦。

段原クラブには、基本技術や考え方の基本となる「段原クラブ　野球心得」というものがあります。
その中の投手編で「ストライクのとれる変化球の習得」があります。春から夏にかけてバッターが成長してくると、これが出来ないと通用しませんよと言い続けてきました。それと、困った時（ピンチ）にアウトコース低めに投げられるコントロール。この２つの技術がないピッチャーは県内の強豪と言われるチームには、多くの失点をすることになります。

７／１７（土）１８（日）の県少年部夏季県大会で、それがはっきりと出ました。
２回戦で県内無敗の府中オーシャンズを、なんとエースが無安打の完封。今まで一度も見たことのない、彼にとっては今までの人生最高のボールを投げました。「スライダー」。ずっと練習してきたボール。これをある程度操ることが出来、ストレートに対してすばらしいバッティングをする府中オーシャンズの選手達に考えさせる事が出来、ストレートも生き、完封という結果につながりました。
一世一代のピッチングをした次の日は故障のリスクが高いので、１８日は投げさせる訳にはいかないので、２年生のピッチャーが投げましたが、スピードは普通、コントロールは無し、変化球はなかなかストライクが投げられない。このレベルで県大会ベスト４に残ったチームをおさえることは出来ません。ある程度予想していた結果でしたが、予想を超えた３回７失点（敗戦は予想通り）。アマチュアの強いチームは最低エースピッチャー２枚、２日間で４試合出来る体力と集中力、これが必要です。
１７日（土）に本年度最高のゲームをした段原クラブの選手達は、１８日（日）はそのどちらも残っていなかったということです。まだまだやらなければいけないことが無数にあり、時間が足りないです。

野球心得の中でバッティングでは、「変化球をねらったら打てる」と「追い込まれた後の変化球を当てられる（ファールに出来る）」があります。
１８日（日）の試合、対戦相手のピッチャーは左投げで小柄、打席に入る前に、勝ち上がってきたチームで先発するということは何か持っているはずということは、変化球が操れる可能性が高い、普通の野球頭を持っていれば誰でも分かる理屈。１番、２番バッ

ターに投げるだけで充分に確信が持てました。
　それでもカーブでくるくる空振りを繰り返す選手達。
　練習の中で野球心得をまったく意識することもなく、ただバットを振っているだけの練習を繰り返し、試合で相手投手を観察することも考えることもなく、自分にとって都合の良いボールがくることをひたすら期待してバッターボックスに立ち続けても、打てるのは運の良い時と、力の無いピッチャーだけ。良いピッチャーは、バッターの都合の良いボールを投げてくれません。
　ねらい球は、ピッチャーの都合で考えなければいけません。

　たぐいまれなき身体能力や、野球をするために生まれてきたようなセンスを持ち合わせていない選手は、もっともっと野球頭を鍛えなければ、特に平均以上のチーム（投手）と勝負することは出来ません。とても重要な事が書いてある「段原クラブ　野球心得」、たくさんの項目がありますがひとつひとつ身に付けてクリアしていくことが、君達の夢に近づくことです。
　すべてがクリア出来れば、どのステージでもレギュラーです。

　今回の大会ではっきりした、体・技・心。
２日間ベストの状態で戦える体力、変化球を操ることが出来、それを打てる技術、４試合集中し続けることの出来る精神力。トップになるためには、これが必要です。

　すごく良い段原クラブと最低の段原クラブ、２日間でどちらも見せた選手達。どちらが本当の段原クラブですか？どちらが本当の選手ですか？それはこれからの君達次第です。
　決めるのはひとりひとり自分自身です。

第４３５話/２０２１．７．１１

　７／３（土）の試合が７安打で８得点、７／１０（土）の１試合目がノーヒットで無得点、２試合目が１０安打で１０得点。３試合、相手のバッテリーの能力を見ると、私の目にはノーヒットの試合のバッテリーが力は一番落ちているように見えました。ではなぜ、この結果なのか。
私の５０年以上の野球経験から、１日考えてみました。

　一番に考えられるのは、ノーヒットの試合の投手のストレートのスピードが一番遅く、ほぼ変化球はストライクが入らない。普通に考えると、スピードのない、ストレートしかない投手なので、打つのはたやすいはず。しかし、ボールをとらえて打つという感覚（技術）のないバッターは、体を前に出されてゴロの山を築く。軸足に力を残したポイントまでボールを引っ張ってくることが出来ないため、力強いスイングが出来ず、振るのではなく当てるになってしまう。
打てていた試合の投手は、ストレートが速くもなく、すごく遅くもなく、段原クラブの選手達には丁度良い 1、2、3 で、ボールをポイントまで持ってくる技術がなくても打て

るスピードだった。
　次に考えられるのはメンタル。昨年もそうでしたが、今年も段原クラブにはチームリーダーが不在です。チームの士気を鼓舞したり、先頭に立って選手を引っ張れる人材がいません。全員、誰かの後ろをついて歩かないと不安でしょうがない、という精神力です。誰かが口火を切ってくれれば、その流れの中で精神的不安が和らぎ、自分の持っている力を試合で出すことが出来るのですが、均衡している状況や不利な状況の中で、俺の力で「壁を打ち破って、流れを変えてやる」という考え方の出来る選手はいません。
練習はしていますので、スイングする力はありますし、持っている技術を試合で出すことさえ出来れば、ヒットを打つのに苦労する投手は、広島の中であまり見当たらないと思うのですが（数人はいます）。安定した精神状態で試合をすることが出来ないため、良い結果につながらない。
　良い結果が出ない原因は技術の無さか、精神の弱さ、このふたつなので、どちらなのでしょう。

　私は心・技・体が嫌いです。
何でもかんでも精神力のせいにする風潮が日本のスポーツ界にはありました。
　体・技・心。
強い体があって、正しい技術が身に付き、心は後から付いてくる。私はこう考えています。
私の出した結論は、「強い体と正しい技術がないから、試合に自信を持って臨むことが出来ない」です。

　野球は究極、投手とバッターの１対１の勝負です。チームプレーだとか言われていますが、それは所詮、力の無い選手が他の選手の力を借りなければ勝てない、ということだと思っています。
投手が相手バッターに勝ち、バッターが全員、相手投手に勝てば、試合は必ず勝ちます。１対１の勝負に負ける選手が数多くいるから、試合で負けるのです。個の能力、試合で発揮出来る能力、これが全てで、練習で出来ても試合で出せないのなら、能力はないということです。
技術を身に付ける方法は、練習以外で思いつきません。
　「強い体に正しい技術」、そして「正しい野球感（考え方）」、「俺がひとりでこのチームを勝たせてやる」。
野球というスポーツはそうはいきませんが、私はそんな選手が好きですし、中学野球程度の中では、そのぐらいの考え方でなければ、上の世界で輝くことは出来ないのではないでしょうか。

　チームで一番。これが最低ラインです。なぜならあなた達は、甲子園だとかプロ野球だとか、メジャーリーグだとか、夢を語るのですから。そうでなければ、近づくことすら出来ません。

　口に出した夢や目標は、行動しなければウソつき、ホラ吹きということです。遠く高いものを目指していると口にして、中学野球の試合でプレッシャー？話にならないので

はないでしょうか。
練習は私たちが手助けできますが、試合は自分自身、ひとりで戦うものです。試合のグランドで助けてくれる人は、存在しません。これを忘れないで下さい。
　戦いは、常にひとりです。

第４３４話/２０２１．７．５

　全軟の県大会から約１ヶ月ぶりに試合が帰ってきました。夏季県大会西部予選、県大会の前に中心選手がケガで離脱（全治約１年)。今回もキャプテンが離脱。両方とも防げるケガ。スタッフも含め、しっかりする必要があります。

　その中での試合ですが、段原クラブは緊急事態宣言下でも選手の希望と、保護者の努力で、出来る限りの練習はしてきました。
　対戦相手のことは分かりませんが、段原クラブの選手は日々成長していますので、１年生のリーグで戦った時、能力は負けていると感じたチームに、約２年経ち試合にならなくなりました。身体能力に恵まれている選手が限られている今年のチームですが、レギュラーの中で数人は努力をし続ける選手がいます。
成長のスピードは遅くても、確実に伸びています。技術はもちろんですが、精神的にも強くなってきたと感じました。初めて４番を打たせた選手が打ちたい気持ちを抑え、高いボールを振らずに我慢し、次のバッターにつなげた場面は、とてもうれしく思いました。今まで自分が自分がというタイプの子でしたが、普段から私が言い続けてきた、「野球の本質」が分かってくれた様な気がしました。

　未熟な子ども達なので練習（努力）が必要です。それは試合で勝つためではなく、成長する（変わる）ためです。昨日より今日、今日より明日、変わることが出来ればレギュラーだろうが控えの選手だろうが、勝とうが負けようが、充分に価値があります。未熟な子ども達は失敗を数多くします。ましてや、野球というスポーツはとても難しく、ミスをたくさん繰り返すスポーツです。その中で、同じミスを繰り返すことを減らしていく、技術のミスと考え方のミス。技術は簡単に身に付くものではありません。時間と辛抱と、苦しい練習が必要です。しかし、考え方はその気になればすぐに身に付けられます。段原クラブには、試合の中での状況判断の５つの条件があり、子ども達には伝えてあります。〈br〉
　７／４（日）の太田川リーグで普段レギュラーとして試合に出続けている選手が、サードコーチで２回も１死でランナーをまわしてホームタッチアウトなど...、絶対にあってはならない考え方のミスです。レギュラーが状況判断の５つの条件が頭に入っていない。中学生とプロ野球選手では、身体能力と技術は勝負にならないのが当たり前ですが、野球の考え方なら勝負することは出来ます。
本気で身に付けましょう。あなた達の財産になります。
段原クラブは、その部分まで伝えることの出来るチームです。

　私は約１０日前に痔の手術をしました。２０年以上ほうっていたので、とても大変な

手術になりました。本来ならまだ入院が必要なようなのですが、私の心の弱さで、とても耐えきれず、家に帰らせてもらいました。
たくさんの方々に心配をおかけして、申し訳ございませんでした。
スタッフ、保護者の方々からお見舞いをいただき、ありがとうございます。
段原クラブの用具の充実のために、ありがたく使わせていただきます。
　私は野球人ですのでグランドに立つことが使命ですので、心は満たされていますが、さすがに家に帰ると体はボロボロです。全力を尽くすつもりですが、選手たちにまだまだ満足な指導が出来ないと思われます。
あと何日で元に戻るのか分かりませんが、少しの間迷惑をかけると思います。３年生には申し訳なく思っています。すみません。

　私は選手をほめることはうまくありませんが、努力している選手達、あなた達は本当に力が付いています。それを試合で出せれば、十分な数字が残るはずです。

第４３３話/２０２１．６．２１

　先を読む能力や責任をとる覚悟の無い大人達（行政）によるグランドの使用不可という訳の分からない決定で、１ヶ月以上野球を奪われていた子ども達に、やっと野球が帰ってきます。

　段原クラブは保護者の努力のおかげで島根県、愛媛県のグランドを借りて、ある程度練習することが出来ました。いつも使用している渕崎公園グランドはもちろん使用不可になっていましたが、土、日曜日は延べ１００人以上の子ども達が入れ替わり立ち替わり、グランド内で野球やサッカーをしていました。車両進入禁止ということになっていますが、車止めがありません。何十台という車が入り放題。本当に行政のやっていることの意味が分からない。開放会議に出て正式にグランドをとっている団体は使用出来ないし、車も入れない。そうじゃない人達は自由に使えて、車で来ても何も言われない。やっていることの矛盾や意味の無さに、大人なのに気がつかないのでしょうか。何かを決める時には、もう少し頭を働かせて意味のあるルールを決めないと、まともな団体が迷惑します。〈br〉
　現実をしっかり知り、やっていることに意味があるのかをちゃんと検証するのが、大人の仕事だと思いますよ。つまらない事をしている暇があるのなら、何度も言いますが、年齢など関係なく、より多くの人により早くワクチンを打つことが、最善の方法です。誰でも分かる、簡単な理屈です。

　段原クラブの選手達は、特に３年生に成長（変わる）があまり見られません。練習で手を抜いている様には見えませんが、頭（考え方）が変わりません。同じ事を繰り返します。まず、自分で考える。上級者の話を聞く。理解する。素直にやってみる。うまくいかなければ、また考える。違うことをやってみる。
この作業を練習といいますが、これが出来ません。まず、自分で考えない。本能でボールを投げたり、バットを振っているように見えます。

次に、人の話を聞かない。聞いているふりはしますが、頭に入っていません。頭が弱いのか、聞く必要を感じていないのでしょう。
　どちらにしても野球というスポーツは、脳が動かない人は難しいので、むいていないということになります。
　厳しいことを言うようですが、もう甘えている時間はありません。
段原クラブで２年以上やって覚えられない、やろうとしないようなら、下級生にチャンスを与えた方がいいと思います。

　人は変わるために努力をします。変わる必要の無い人は、頑張る必要はありません。
良い結果が出ていないのですから、野球を続けるためには変わるしかありません。
　思い切ってかえませんか。
誰が見ても「変わったよね」が変わるということです。
「右バッターが左で打つ」とか、極端に言えばこういうことです。

　１，２年生で今、試合のチャンスがなかなか無い選手の皆さん、しっかり考えて下さい。新チームのポジション、いくつ空いていますか？
　３年生がいなくなれば試合に出られると思っていませんか。
今のままでは何も変わることは無いと思います。たっぷりとした時間はありません。練習できる日数、一度数えてみて下さい。

　当たり前に守れて、普通に走塁できて、１試合に１本ヒットが打てれば、誰でもレギュラーです。簡単です。
努力すれば誰でも出来ます。

第４３２話/２０２１．６．１４

　広島県と広島市のリーダーの頭の弱さで、広島の子ども達からスポーツが奪われて約１ヶ月。ワクチン接種は東京も大阪も、もちろん広島もリーダーの頭の弱さで予約が余っている？想像できませんか？高齢者に「遠くまで打ちに来い」。来るわけないでしょ。私には分からない。なぜ年齢にこだわっているのでしょう。

　４０%の人に接種が進むと感染者が劇的に減る。年齢は関係ありません。まして今、感染者は２０代、３０代中心。１日も早く抑えるためには、接種の人数です。「打てる人から打つ」。誰が考えても分かる理屈。世間の批判が怖いのですか？全ては結果責任です。数打てば減るのが分かっていてやらない。頭が悪いとしか思えません。誰に何を言われようと、終わり良ければ全て良し。「感染者を１日でも早く減らす」。これに向かっていくことです。そのためには子ども達からグランドを奪うことではなく、ワクチンを数多く打つことです。一流大学出身の方々、本当に分からないのですか？ワクチンが余っているなんて...、お金のためにオリンピックを強行するのに、あり得ない失敗です。

　私は昨年から、段原クラブの練習を望んでいる子ども達のために、ずっと活動を続け

ています。今もグランドの無い中、どんなことをしてでも野球をやらせたいと思っています。
さっき言った結果責任。そのために、段原クラブでクラスターが発生し、周りや子ども達に迷惑をかけることがあれば、責任をとる覚悟は出来ています。
　広島県、広島市のリーダーは、責任をとる覚悟はあるのでしょうか？日本のトップにその覚悟は見えませんので、当然無いのでしょう。失敗したとも思っていないのかもしれません。年齢にこだわったことと、大規模接種会場で若者に早く打たないことは、あきらかに失敗です。身分証明さえあれば、管理できます。そのためにあるマイナンバーでしょ。

　しかし、選んだのは私たちですから、本当の責任は私たちにあります。出来の悪いリーダーはあきらめますが、意味の無い感染対策だけは２度としないように、子ども達から大事なものを奪わないように、それだけお願いします。

　私は誰に何を言われても、子ども達の望んでいるものを提供していきます。それは、練習です。
段原クラブの選手達は器用ではないですし、身体能力にも恵まれていませんが、今、野球の力が少しずつついています。まだまだこれから上達します。休んでいる余裕はありません。私は期待していますし、そのために力を尽くしたいと思っています。

　じゃまするな！

第４３１話/２０２１．６．７

　広島に緊急事態宣言が出されて６／２０（日）まで、１ヶ月以上子ども達は野球を奪われることになっています。私は広島市のスポーツ振興課に電話をして、グランドで感染する科学的根拠を示して欲しいとお願いしましたが、「ありません。」という答えでした。
　学校、体育、クラブ活動がＯＫで社会体育（スポーツ）はダメ！！
何が違うのでしょう。責任逃れ、「何かやろうか。学校を止めるといろいろ面倒くさいし、何もしない訳にもいかないから、とりあえず県や市の施設でも止めとくか。」こんなことでしょう。
　そんなことやっている暇があれば、早くワクチンを打てるようにしろよ。
　全国３８位、リーダーの力不足、今回つくづく思いました。平時はリーダーなんて誰でも良いのですが、有事は強いリーダーが必要です。みなさん、選挙は大事です。
　自民党の広島県支部に相談しても、中国新聞に電話しても、市議会議員にお願いしても、この訳の分からない政策はどうにもなりませんでした。広島県（広島市）の中心に、まともな大人はいないということです。コロナでクラスターを出した広島カープが、堂々と広島市の運動施設（広島市民球場）を使っています。１万７０００人も観客を入れて。１人も感染者を出していない団体は、広島市の施設を使うことが出来ません。
大人の皆さん、これを子ども達にどう説明するのですか？オリンピックと同じでお金、

お金、お金ですか？何度も何度も書いていますが、いつも大人の都合で子ども達が犠牲になります。広島県は、リーダー選びを間違うとこうなりますという見本です。
本当につまらん。

段原クラブは弱いです。弱いということは、選手に力（技術・体力・精神力）が無いということです。力が無い選手は練習するしかありません。広島でグランドが無ければ、県外に出てでもやらなければなりません。
なぜか？子ども達には限られた時間しかないからです。
前にも書いた通り、９４％の選手が１８才で野球人生を終わります。数年しかありません。毎日やっても１０００日程度、その中で昨年から何十日もコロナで制限されてきました。野球の力を付けるために、段原クラブを選んでくれた選手達に対して、私は責任があります。練習するのが当然、ただそれを望んでいる選手のみです。
やらない選択も自由です。
ありがたいことに段原クラブの選手、保護者、スタッフは、やるのが当たり前という考え方のようです。今年も最後の最後（３月）までもがき続け、高校野球を目指してくれると信じています。
段原クラブと私はそういう選手のためにあります。
誰に何を言われても、練習します。

第４３０話/２０２１．５．３０

段原クラブは、５／２９（土）全軟県大会に出場しました。
県大会といっても、広島市軟式野球連盟に登録している中学生のチームが段原クラブしかいないので、予選なしで出場できます。軟式野球連盟が決めたルールですし、チームは本拠地を南区においていますし、チーム結成時からずっと広島市軟式野球連盟に登録していますので、何も段原クラブに責任がある訳ではないのですが、今年も１回戦で完敗し、予選なしで出場した県大会全て１回戦で負けている現実をみると、予選に参加している他チームは納得いくはずはありません。
県大会に出場するに値しない、実力のないチームが県大会に出場していることが正しいのか、子ども達にとって意味のあることなのか、私自身は毎年苦しい思いをしています。

昨年のチームは充分に力を持っていましたが、結果は実力の半分も出すことが出来ず完敗。今年は私もスタッフも、力の無いことは承知していましたが、なんとか予選に参加しているチームの方々にある程度納得してもらうためにも、コロナ禍の中でなんとか１回戦だけでも勝ちたいと、全力を傾けてきました。選手達も努力を重ねてきましたが、今まで言い続けてきた「チーム力は投手力」。投手力を県大会のレベルに上げることが出来ず５失点。県大会に出場する力を、やはり持っていませんでした。
全ては監督である私の力不足です。チーム内でピッチャーを育てるのは私の仕事。当日の試合までの練習では、県大会１回戦の相手を抑える技術を身に付けることは出来ま

した。しかし残念ながら、県大会という舞台で、持っている力の半分も出すことは出来ませんでした。
　スポーツはもちろんそれ以外の事でも、大きな舞台、練習ではなく本番、もっと言うとここ一番という時に持っている能力を１００％発揮出来るか出来ないかが、勝敗、正否を分けます。昨年も今年も、私は選手達の能力を、その舞台で全て発揮させることが出来ない監督ということです。そういう点で私の力不足ということだと思います。
　懸命に、選手のために協力してくれたコーチの方々、保護者、ＯＢの皆さん、そして選手達、県大会の出場を目指し予選に参加し敗れたチームの関係者、選手の皆さんに、心からお詫び申し上げます。
申し訳ございませんでした。
　ただ、皆さんに分かってもらいたいのは、段原クラブの選手、スタッフは本当に頑張っていました。県大会に出場させてもらっているのに勝てないのは、全て私の力不足です。

　県大会で完敗したことにより、私は練習内容を変えていこうと思っています。コロナ禍の中、練習環境を整えることが難しいですが、まずピッチャーに妥協はしない。チームのエースには一番練習で苦しんでもらいます。
段原クラブのピッチャーは、ピッチャーを希望した選手だけがやります。
チームの勝敗のほぼ全てを握るピッチャー。ボールを操ることの出来る能力がある選手を、ピッチャーと呼びます。どんなカウントでも、どんな状況でも、全ての球種をストライクゾーンに投げることが出来るレベルを要求します。簡単なことではありませんが、勝てるピッチャーの条件です。体作りは当たり前。強い体、高い技術、冷静な頭、チームを背負う責任感、そんな本物のエースを求めます。
　もう、弱いチームの監督はやりたくありません。
　私は時代の流れとともに甘い指導者になり、段原クラブはそれとともに弱体化しています。現代のいろいろな考え方があり、それに反しているかもしれませんが、選手のためになると信じて、自らの考えの通り、段原クラブらしい段原クラブに戻るため、私は私に戻ります。
　私の技術が欲しいと思っている選手に、全力で力を尽くします。

　まず、練習が変わります。でも...、グランドが無いです。
　広島県知事、お願いします。学校でのクラブ活動がＯＫなのに、なぜ公共のグランド使用がダメなのですか？広島市民球場、カープはコロナ感染者が出ても野球をやっています。不公平です。
子ども達のグランドでコロナ感染者は出ていません。
　現実をしっかり見て下さい。
　練習させて下さい。
　お願いします。

第４２９話/２０２１．５．２４

　私は今、とても憤っています。

何に憤っているのか。
大人達にです。

まず、行政。広島市です。広島県にコロナの緊急事態宣言が５／１６（日）～５／３１（月）まで出され、すぐに軟連少年部から練習を停止するように言われ、広島県内全ての野球が出来そうなグランドが使用停止になりました。当然、５／２９（土）３０(日）に予定されていた県大会は中止（延期)、誰もがそう思います。
それが５／１８（火）頃、広島市軟式野球連盟から「練習は停止する必要は無い。県大会は予定通りやります。」

は～？？？

グランドがひとつも無く練習不可能の中、試合をやる。あり得ないことです。すぐに市議会議員を通じ、事情を話し、グランドを使わせてもらえるようにお願いをしました。答えはNo。
「例外は認めない。」これが広島市の答えでした。
広島市民球場でカープは試合しても良い。みんなだまされていますがＭＡＺＤＡ　Ｚｏｏｍ-Ｚｏｏｍスタジアム、実は広島市民球場。市の施設です。
「例外は認めない。」と言っていた広島市。認めています。大ウソつきです。

次は、県大会を行う東広島市のアクアスタジアム。試合ＯＫなら、練習で利用を申し込むと、「新規は受け付けない。」という答え。緊急事態宣言の前の予約は利用ＯＫですが、出てからはダメ。
意味が分からない。
コロナの感染予防のために利用停止をするわけで、いつ予約したかは感染確率に関係ありません。何を言っているのでしょう。全てが大人の都合で、理にかなっていません。子ども達に説明できますか？

軟式野球連盟も、練習するグランドが無いのが分かっていて大会を強行する。本当に誰の為なのでしょう。スポーツは練習があって、はじめて試合が成立します。試合が出来ればそれで良しというものではありません。

私は３０年以上子どもの野球に携わっていますが、いつも犠牲になるのは子ども達。会議に出ても大人の都合の話ばかり。全てが大人の都合で運営されます。子ども達の１年は、一生に一度しかない１年です。やり直しはありません。大人になれば、それがそうではなくなります。全ての大人が、子どもの１年と大人の１年は違うということを理解する必要があります。１日１日、練習も試合も、もっと大事に大切にしていかなければいけません。とりあえずやれば良いという大人の考え方は、まちがっています。中学３年生の練習も、試合も、一生で一度しかない、かけがえのないものなのです。１年生や２年生も同じです。
大人の仕事は、子どもを育てること。やり直しがきかないということを分かっていない大人は、関わらない方が良いです。子ども達にとって迷惑です。

段原クラブは５／２２（土）２３（日)、たくさんの人達の努力と協力で、練習することが出来ました。そのためにたくさんのお金と、労力を使いました。大人の勝手な都合で、たくさんの人が迷惑しました。
現在の段原クラブと私の持っている力は、全て使いました。
やれることは子ども達のために全てやる。子どもに関わる大人の責任です。
勝ち負けは興味ありません。

選手達、野球はあなた達のものです！
自信を持って、自分の技術と心を発表して下さい。

第４２８話/２０２１．５．１６

５／１６（日）から広島県に緊急事態宣言が出るだろうと言われていましたが、協議会が５／１５（土）の１年生のリーグ戦をなぜか（？）中止にしたので、広島スターズにお願いして練習試合をしていただきました。

毎年のことですが、１年生は圧倒的な身体能力と技術の差があります。段原クラブは２０年前から１年生の時に勝てることはありません。まず、小学生の時ピッチャー経験のある選手が、入部してきたことはほとんど無いので、今の時期にはピッチャーがいません。野球はピッチャーの力が９０%勝敗を決めるわけですから、当然勝つことは出来ません。この限られたメンバーの中で３年生の時に勝負出来るようになり、高校野球で活躍する選手が出るのが段原クラブです。１年生の時勝負にならない試合を見れば見る程、楽しくなります。ただ、今のまま、これまでの野球人生と同じ事をしていると、１年生の皆さん、何も変わることなく、段原クラブでの３年間を無駄にすることになります。９人の１年生（１人故障中）の中で、何人かが下級生に追い越される選手が出ます。その中の１人にならないために、今日、今から変わらなければなりません。私は、その気がある選手のお手伝いをするのが仕事です。その気のない選手のために時間を使う暇はありません。野球人生を今までと変えられるかどうかは、あなた達次第、誰かに変えてもらうのではありません。

５／１５（土）夕方、軟式野球連盟から活動の停止要請（命令）の連絡がありました。
よく言われている不要、不急。
不要（必要でないこと)。子ども達に野球は必要なことです。
不急（急がなくて良いこと、今しなくていいこと)。子ども達にとって野球の出来る時間は限られています。
９０%以上の選手が１８才で野球人生を終えます。中学３年生（１５才）にとって残り３年間しかありません。ということは、子ども達の野球は不要、不急のことではないということです。必要ですし、急がなくてはならないことなのです。野球のグランドで感染者が出たことはありません。なぜ活動を停止しなくてはならないのか。理にかなっていません。
「命を守るため」？

今日まで日本ではコロナ感染者の死亡率は０．０１７％。発表されている数字で計算したものです。死亡者の平均年齢は８０才。無症状で検査していない人もいるでしょうから、現実の死亡率はもっと低いはずです。もっと、感情的ではなく、科学的、現実的に子ども達のことを考えるべきだと私は思います。

いつの時代も大人の都合で子ども達は迷惑します。１年に一度しかない１年生のリーグ戦を、雨が降ったら抽選しようとしている団体は、その典型です。１年生のリーグに、終わらなければならない期限はありません。いつでも出来ます。なぜ抽選？完全に大人の都合です。
段原クラブは今、その組織に加盟していることのメリットに疑問を持っています。しっかり話しをしたいと思います。コロナで今、その機会がありませんが、子ども達のために言わなければならない事は言います。

良い悪いは別にして、軟式野球連盟の命令には従う必要があります。
５月末まで段原クラブは活動を停止します。
部員の皆さん、本当の練習は１人でするものですし、他の人が休んでいる時がチャンスです。
この時間を大事に使いましょう。

第４２７話/２０２１．５．１１

５／１（土）～５／５（祝）の５連休、しっかり時間をかけて練習して、５／８（土）協議会リーグ戦、５／９（日）大野シニアとの練習試合の２日間、やってきたことを試す試合をしました。
ずっと言い続けているバッテリーの強化を含む、失点を減らすという私の一番の仕事は、四死球とワイルドピッチ、失策が減り、２試合無失点。確実に成長が見えます。まだ私の目には、スキがいくつか見えているので、あと２週間やることはまだまだあります。

バッティングを含む攻撃では、アッパースイングでポイントを前にしてフルスイングを数週間やり、スイングの力を付ける期間を終わり、試合で役に立つ確率高くヒットを打つ考え方を伝え、点をとる可能性を広げていくように試合でやってみました。出来る選手と出来ない選手がいるのは当然ですが、試合の中での欲、小学校の時からやってきたわがままな野球、自分のためだけの野球が身にしみている選手は、もう少し時間がかかりそうです。その中で、バントの成功率は確実に上がりましたし、全員ではないですが、全軟はチームが勝つためにやる大会だと理解してくれている選手もいるので、チームとしては成長してきたと思います。

県大会のベンチに入るために、下級生の選手達はもっともっとアピールが必要です。アマチュア野球はトーナメントで大会（試合）をします。一度負けるとやり直しはありません。プロ野球はリーグ戦なので、一年間で何十試合負けても優勝できます。システムが違うので、選手に要求されることが違います。アマチュアの方がミスが許されませ

ん。負けたら終わりなので、レギュラーは当然守備力優先になります。
　野球の練習は打つ方が楽ですし楽しいので、打つ練習をたくさんやりたがります。逆に守備の練習は、つらく苦しいことが多いので、時間をかけてなかなかやりません。常に言い続けていますが、まずスローイング、次に捕るということです。試合に出る（レギュラーになる）為に、アマチュアにとって必要なのは守備力です。

　先日、春の高校野球　準決勝、決勝をニュースで見ました。優勝した新庄高校のバッティングを見れば分かります。だれもバットを速く、強く振ることをしません。出来ないというよりは、やらない（振らない)。バッティングはこの程度でいいようです。それで優勝できるのですから。しかし、これでは次のステージ（木のバット）で野球をすることは出来ません。小学生、中学生でもバットを振らずに勝とうとするチームがあります。未熟なので守備がミスをして、ヒットを打たずに勝つことがあります。これをなくさない限り、子ども達のレベルアップは望めません。
「勝てば官軍。」本当にそうでしょうか。
優勝すれば良い、高校野球なら甲子園に出場すれば、それが正しいのでしょうか。
たくさんの人数を集めて、野球の練習すら出来ない選手がいて、野球が少しうまいだけで特別な待遇を受けて、中学生（義務教育）の中なのに３年生をベンチからはずし、下級生をベンチに入れ、勝つことにこだわる。本当にそれで良いのですか。子どもの練習は平等が当然です。ベンチ入りの人数はルールで決まっているのですから、それ以上は入部させるべきではないと、私は思います。レギュラー９人は力が全てであるべきですが、ベンチ入りは学年を考慮するべきだと私は思います。（入部前からしっかりとした説明があれば別です。）

　ありがたいことに、県大会のおかげで少しずつですが、選手達は力を付けてきました。だからといってその程度で勝てるとは思いませんが、目の前に目標があるのは子ども達にとってはプラスになります。

　スタッフ、保護者を含めチーム全員が同じ方向を向いて努力するという、とても大事な時間を過ごしています。結果が良いにこしたことはありませんが、今この時間が成長のために必要です。
　全軟の県大会という目標が終わった後も、もっと先の夢や目標がしっかりあれば集中が続き、自分やチームの為になります。
１５才や１８才程度で頂点を見る必要はありません。
ずっと先を見て野球を続けて欲しいと思います。

第４２６話/２０２１．４．２６

　４／２５（日）レイワンズと練習試合をしました。私は１ヶ月間、バッテリーの強化を中心に考えてきました。その結果は２失点と３失点。２試合で５失点ですが、ヒットを打たれたり、今までのようにバッテリーのミスで失点した訳ではないので、ほんの少しですが先が見えてきたように思います。５／２９（土）の全軟県大会での先発メンバ

一を最上のものにするために、これから１ヶ月の結果をしっかり見て、やらなければいけない練習をしっかりこなしていきたいと思っています。
失点をゼロに近づけていければ、勝負することが出来ます。

この２試合、全く打てませんでした。今年のチームの選手は、今までの段原クラブと同等かそれ以上のバッティング練習をしています。たしかに基本的な身体能力に劣る選手が多いのは事実ですが、ヒットを打つのに体の力はいりません。特に腕力は全くいりません。バットは腕で振るものではなく、下半身の力とスピードで振るもので、手は技術というか融通を利かすものです。
入部以来、何度も何度も「腕の力はいらない。」「バットは出来るだけ力を抜いて持つ。」など、ヘッドのスピードを上げる考え方や、ミートの確率を上げるための理論などたくさんの事を伝えてきましたが...。今年の選手にはなかなか伝わらない。というか、信じてもらえない。「力を入れた方が速い。」「力を入れた方が飛ぶ。」と思っています。たくさん練習しても、試合になるとスイングが変わる。相変わらず腕で振る。アウトサイド・インになり、サードゴロと内野フライが増える。そのように打つので、その結果は当然です。
なぜ、分かってもらえないのでしょう。
試合後の練習ではスイングを見せて、考え方や打ち方を伝えると全員がすばらしい打球を打ちます。当たり前です。段原クラブは数多く振っています。正しく打てば、正しい打球が飛ぶに決まっています。
腕の力を入れなくても、バットの質量はボールの質量を上回っています。芯に当たってボールに負けるはずはありません。負ける（飛ばない）のは、芯に当たらないからです。体の回転とテコの原理を使えば、バットのヘッドは走り、勝手にボールは遠くに飛んでいきます。強く振ろうとしてタイミングを大きくとり、力を入れて大きく遅いスイングをすれば、芯に当たる確率は下がり、いくら力を入れても飛ばないどころか、ヒットすら打てないということです。１日も早く分かってもらえ、試合で実践してくれる日がくることを望みます。
たくさん練習して、正しい技術と考え方を身に付けても、試合になり個人の欲望に負け、プレッシャー（？）に負け、違う自分になってしまう。あなた達の資質の問題です。
指導者は正しい技術と考え方を伝え、身に付けてもらうまでが仕事、試合でやるかやらないかは選手の仕事。私は今年も今までと同じように、きちっと仕事をしています。出来る年と出来ない年、私ではなく選手の（？）問題ではないでしょうか。私は中学時代しっかり打ちましたし、私が指導した息子もしっかり打ちました。今はその頃より環境が整っていますし、私の理論も向上しています。打って当たり前だと思うのですが...。
何が足りないのでしょう。考えてみて下さい。

第４２５話/２０２１．４．１９

４月の土、日曜日は、合宿の時だけが２日間雨が降らなかっただけで、週末になると天気が悪い。バッテリーの強化がチーム力向上の為に絶対条件なのですが、なかなか思い通りに進みません。

野球は「投手力が（捕手も含め）チーム力」なので、今段原クラブは強くありません。ストライクゾーンに数多く投げ込むことがまずピッチャーの第一なのですが、まだまだ５０％～６０％程度、変化球は５０％以下という現実です。イロハのイがクリアできないので、次に進めません。

私はピッチャーをしていましたが、ストライクを投げることに苦労した経験がなく、コントロールの悪いピッチャーの練習方法がよく分かりません。私以上の方々にいろいろアドバイスをもらいましたが、フォームが大事なのですが、一番は本人のセンスというか、感覚の問題のようです。感覚の鈍い選手は、体を鍛え、数多く投げる以外無いように思います。

私は３０年前から数多く投げさせることは嫌いで、そういう練習はしてきませんでしたし、今の時代数多く投げることは悪いことのように言われますが、出来ないのですから、他に方法が無いのではないでしょうか。理屈ではなく、体で覚えるということです。〈br〉

暖かくなってきましたし、試合で長いイニングを投げて覚えて欲しいと思います。チーム内でポジション争いの競争がおきて、各自のレベルが上がることを望んでいますが、控え選手の力が全く足りません。２年生のレギュラーでない連中は、上より下から脅かされそうです。新チームの試合は約４ヶ月後にあります。

１年生がいくつかポジションをとるのではないでしょうか。

今のままで大丈夫ですか？２年生のみなさん。

レギュラーポジションは守備力でとります。ここなら守れるという所、あなたはどこですか？これから１ヶ月、あきらめず、ピッチャーに厳しく接していきます。エースはひとりです。レギュラーも各ポジションひとりです。とるために今、これから何をしなければならないのか。負けてグズグズ言わないように、やるしかありません。勝ちたければ、まずチーム１の練習をすることです。

卒団して高校に進学していったみんな、元気ですか？ケガをしていませんか？技術は段原クラブなのであまり心配していませんが、体と心を壊すことなく野球して下さい。あわてることなく、今まで通り取り組めば大丈夫です。

自信とプライド。

あなた達は段原クラブの卒団生なのですから。

第４２４話/２０２１．４．１２

４月１０日（土）１１日（日）、恒例の合宿をしました。良いグランドで２日間、朝から夜まで野球をしてきました。たった２日間で何かが急に変わる訳ではないですが、お金をかけ、保護者の方々の労力も借り、全ては部員達のためです。練習前に合宿が出来ることの意味を子ども達に説明しました。どこまで伝わっていたのかは分かりませんが、ひとりでもふたりでも自分だけの力では何も出来ず、いろいろな人達の協力のもと、野球が思い切って出来ていることを分かってもらえれば良いと思います。２日間、お金と労力を出

していただいた保護者のみなさんと、指導者（コーチ）達、ありがとうございました。

はっきりとした課題が見えました。最大のものは、ピッチャーのコントロールです。四球を出してワイルドピッチをして点を取られる。これはピッチャーとは言いません。まず、せめてヒットを打たれて点を取られるピッチャーになって欲しいと思います。ストライクを数多く投げればアウトを取れる確率が上がりますし、ワンバウンドを投げなければ無駄な進塁を与えることはありません。まあ、マウンドに上がるのなら普通のことなのですが...。
正しいコンパクトなフォームを、数多くの練習で身に付けるしかありません。そろそろ数多くボールを投げる練習をすることになります。

今、バッティングはストレートを引っ張ることを中心にやっています。にもかかわらず、合宿の１ヶ所バッティング（試合形式）で１球目からアウトコースのボールに合わせるようなスイングをする選手が、何人かいました。人の話を聞いているのでしょうか。ストレートに遅れないで、ポイントを前にして強くたたく練習をしているにもかかわらず、それはないでしょ。
カウントが追い込まれてからならしょうが無いですが、チームとしてレベルを上げるために、まずみんなでこれをやっていこうと決めて取り組んでいることを、意識していない選手がいる。どうかしています。弱いに決まっています。身体能力で劣り、新チームになってから負け続けているにもかかわらず、考え方が変わらず、意識が薄い。
今年のチームの最大の弱点。
やらなければいけないことが分からない。
説明しても、指示をしても、集中してそれをやらない。
だから、なかなか変わらないし、同じ失敗を繰り返す。
体を動かすのは脳の指示です。頭の中がしっかりしなければ、まともな指示は出ません。当然、まともな体の動きは出来ません。プレーを変えるためには、まず頭の中（考え方）を変えなければいけないのです。何も考えず、本能だけで練習していても、結果を変えることは出来ないのです。

野球人生の通過点にすぎない中学野球ですが、これから先の野球人生を決める、とても大事な３年間です。段原クラブで本物を身に付けることによって、高校野球は楽になります。本物とは、本物の基本のことです。　理にかなった考え方、理にかなった体の動き、そして身に付けていく順番、ひとつずつ確実に体に染みこませていくために、大事な脳をしっかりしましょう。「なんとなく」練習することの無いように、しっかりとした高い意識の選手が増えることを望みます。
１年生の皆さんもミーティングで話した通り「段原クラブとは...」、しっかりとした考え方でグランドに出て下さい。３年生になってからでは遅いですよ。

第４２３話/２０２１．４．４

ここ３年程段原クラブらしい野球が出来なくなっていると書きました。３年...。
何が変わったのか考えてみました。

３年前の２月、私は独立リーグ兵庫ブルーサンダースの監督になりました。ほぼ毎日、兵庫県の三田と広島を往復することになり、段原クラブの練習や試合、フルスイング塾の練習が少しおろそかになりました。
１年で契約不履行により辞めましたが、店を閉め、郵便局のアルバイトも辞めていたので、２年前の２月より双葉運輸でアルバイトを始めました。睡眠不足と体の疲れで練習がおろそかになり、イライラも溜まり、子ども達への接し方も思うように出来なくなりました。
１年以上前から自分の中で生活を変えないと段原クラブのため、選手のために良くないと感じ、違うアルバイトを探してきました。ただ、私の働く条件は土、日、祝休み、時間も６時間以内、家から近くなどで、簡単には見つかりませんでしたが、先日やっと見つけることが出来、４／６（火）から変わることになりました。朝が２時間遅くなり、睡眠不足は解消出来そうですし、体力的にも、今までより体の疲れは軽減できそうです。年々年を重ね、体がつらくなっていきますが、これで後数年は頑張れそうです。
段原クラブが段原クラブらしい野球をするために、まず私が私に戻らなければいけません。シンプルな考え方で思い切ってバットを振ることも、まだ１週間ですが、少しずつ選手がいい顔でバットを振り出したように見えます。
４／１０（土）、１１（日）の２日間の合宿で嫌という程バットを振り、重心の位置とヒットになるバットの角度を各自が体で覚えて欲しいと思います。私は２日間、ピッチャーとキャッチャーの強化に努めます。情が絡むことなく、冷徹に選手に対峙し、厳しい練習をしたいと思っています。
バッテリーを希望している選手は、覚悟を持って合宿に参加して下さい。合宿が終わって、広島市軟式野球連盟に登録する背番号を決定します。
軟連の県大会まで約５０日、段原クラブの選手がプライドと責任を持ってユニフォームをまとい、グランドに立てるように、逆に言うと、そういう選手だけが段原クラブのユニフォームを着ることが出来るということを部員全員が理解出来るために、生活を変えて選手に接していこうと思っています。

私も選手もこれからは言い訳無用、「敗者は去るのみ」です。

新３年生の皆さん、ポジション（立場）が無くなってから慌てても遅いです。負けたら、あきらめるか変えるかどちらかです。あなた達はどちらを選びますか？私は変える方を選びました。ある日突然、技術が伸びたり、チームが強くなったりすることはありませんが、本気で取り組めば少しずつでも変わることは出来ます。
ただ、これだけは言っておきます。今までは最上級生ということで気をつかってきましたが、これからはそういう理由で試合に起用するつもりはありません。試合は自分自身の実力で出て、自分自身の力で結果をもぎ取るものです。
部員全員の競争を私は期待し、応援します。自分自身も、段原クラブもこれからが少し楽しみです。
勝ち負けより、段原クラブの野球を取り戻したいです。

第４２２話/２０２１．３．２９

３／２７（土）、３月恒例の府中オーシャンズとの練習試合をしました。今の段原クラブの力では相手にならないだろうと想像していました。結果はその通りになりましたが、私にとっては重要な、ありがたい気づきがあった１日になりました。

段原クラブはチーム結成以来、フルスイングしてボールを強くたたく（振る）ことをずっとやってきました。「段原はバットをよく振る。」と言われてきました。ここの所３年程それが出来なくなってきていました。その原因は私にあったようです。私は中学、高校時代センターからライト方向に打つのが得意で（インコースがさばけなかった）、０．５００以上の打率を残しました。確立良くヒットを打つためには、反対方向に打てる技術、アウトコースを打てる技術が必要だと思い、多く口にするようになっていました。確かに大事な技術で、野球を続けていくためには必要なことですが、中学生の飛び抜けたセンスを持っていない選手にとっては、難しいことでした。「いろはのい」、英語で言えば、まずＡ、Ｂ、Ｃ。バッターが成長していくための最初に出来なければいけない、ストレートに遅れないスイング。センターや反対方向を意識するとポイントが近くなり、当然ストレートに遅れる確率が上がります。だから試合でつまる。

府中オーシャンズに２試合で１４本のヒットを打たれましたが、全てがストレート。変化球はヒットどころか、前にも飛ばされていません。段原クラブのピッチャーがコントロールが悪く（特に変化球はストライクが入らない）、ストレート１本を狙われていたこともありますが、ストレートに遅れないで振れるだけで中学生は充分なんだ。

私は忘れていましたが、段原クラブが結成以来ずっとやってきたことを思い出しました。

３／２８（日）、雨のためフルスイング塾で８：３０～２１：００まで卒団生も含め、４組に分け、自主練も含めバットを振りましたが、段原の原点に戻り、マシンのコースをインコースに設定し、「アッパースイングで引っ張る。」を全員でやってみました。

まず、子ども達が生き生きと思い切ってバットを振れるようになりました。

メジャーリーグが最近「フライボール革命」などと言っていますが、私は２０年以上前からアッパーで外野にフライを打つべきだと言い続けていました。

それが、気づかないうちに目先の勝利にこだわり、子ども達の思い切りや野球の楽しさを奪っていました。

確かに、今年のチームは身体能力は高くありませんし、良い家庭で大事に育てられた良い子達なので勝負弱さもありますが、まず試合で思い切り練習してきたものを出せる環境を、指導者として提供する必要を思い出しました。

段原クラブは試合に勝つことではなく、個の能力を伸ばすことが１番大事な事と言っているくせに、勝ちたいと私が１番思っていたようです。原点に戻ります。

チーム最大の課題であるバッテリーの強化、簡単なことではありませんが、私はプロの指導者です。４月の１ヶ月で試合の作れる２人のピッチャーと、安定感のあるキャッチャーを作ってみせます。

口に出して自分にプレッシャーと責任を背負わせ、本気になる。

ピッチャーもキャッチャーも志望している選手は数人いますが、試合に必要なのはピッチャー２人、キャッチャー１人です。本気で接して切ることもあります。やるのな

ら　あ　な　た　達　も　本　気　で　来　て　下　さ　い　。

４月は合宿もあり、１日練習出来る日が数多くあるので、バッテリーに集中出来ます。チームを変えるためにバッテリーには厳しく、選ぶ（切る）ことになります。

チームを背負う覚悟のあるピッチャー、キャッチャーが現れることを期待します。

段原クラブは３年生を、高校の練習に参加する前日まで面倒を見ます。３／２５（木）から高校野球の練習に参加可能なので、ひとり、ひとり旅立っていきます。

今年は県外（４人）　天理（奈良)、九州国際大付（福岡)、浜田（島根)、出雲西（島根)、県内（１０人）　広島市工、国際学院、安芸府中、如水館、沼田、呉商業、武田に進学します。心と体を怪我することなく、野球の楽しさと難しさをより深く経験し、社会に出て戦っていくための、人として、男としての力を付けて下さい。心が疲れた時、段原クラブはあなた達が帰ってこれる場所として、いつもあります。

全員に期待しています。

第４２１話/２０２１．３．２２

３／２０（土）福山大会も１回戦でいつものように負けました。いろいろ考えなければいけないこと、言わなければいけないことがあります。

ひとつずつ書いていきます。

試合後のミーティングで試合の中で当たり前にやらなければいけないこと、出来なければいけないことを伝え、先日のスタッフミーティングでコーチから出た、「良い結果が出ないのだから変えなければいけない。」の意見にしたがい、私が試合のベンチから外れることを最後に伝えました。最終的な責任は監督にあります。当然のことだと思います。

広島に帰り、フルスイング塾の自主練に顔を出すと、新３年生６人が謝りに来ました。私は何を謝っているのか理解出来ませんでした。段原クラブに入部し、２年間懸命に努力し、試合も全力で集中し戦い、何も出来ずに負けたなら、何を謝る必要があるのでしょうか。

やらなければいけない努力もせず、試合に向けた十分な準備もせず、試合中、闘争心や集中力や覇気もなく、下を向いてしっぽを下げて戦う姿勢もなく負けたのなら、謝るより勝負の世界から退くべきです。この場合も私に謝る必要はありません。やろうとして出来ないは罪ではなく、やろうとしないことが問題なだけです。

私は前からずっと言い続けています。勝った方が確かに楽しいですが、勝つ事が目的ではなく、ひとりひとりが野球人生を１日でも長くするために、技術を身に付け、体を作り、心を鍛え、個の能力を伸ばすことが、段原クラブが目指していることです。そのために下を向いて、しけた面をして野球をしても、何も得るものはないのです。

私の考えが伝わっていないと思い、当日２年生（新３年生）の保護者に集まってもらい話をしました。

広島市内の名もなきチームの名もなき選手が９人集まり、今２人がケガをし、新２年生の力を借りてやっと試合をしています。段原クラブの歴史の中でダントツに力の無い選手が集まり、少々努力したからといって野球はそんな簡単に、持って生まれた素材のある連中に勝てません。そんなことは私が１番分かっています。

あなた達（新３年生）は、入部した２年前に比べて別人の力を身に付けています。ある程度努力は重ねてきました。（全員とは言えませんが。）今までのＯＢ達より練習していないわけではありません。
段原クラブで２年練習してきたのですから、打てないわけがありません。大抵のピッチャー程度は打てる技術、考え方は伝えてあります。
ただ、あなた達はその実力を試合で出すための野球脳と戦う心がありません。
「闘争心」　闘う、争うための精神力です。
悪い言い方をすれば、殴られる前に殴る。１発殴られたら２発殴り返す。最終的に相手を倒す。これが闘うということです。相手と向かい合えば下を向く。目をそらす。殴られれば逃げる。頭を下げる。負けを認め、あきらめる。そもそも争い事が苦手な良い子は、勝つか負けるか、生きるか死ぬかの勝負の世界で輝くことは出来ないのです。

野球は広いグランドでやるスポーツです。私は、大きな切れのある声を出し、元気ハツラツ、集中し、相手を殴り倒すくらいの気持ちを、表情や態度に表し、試合が始まる前からゲームセットまであきらめることなく、チーム全員で覇気を出し続ける。
結果的に負けたとしても、見ていた人達の心を動かすことのできる野球がしたいだけです。
過去の段原クラブでは、負けた試合をベストゲームに選んだこともあります。段原クラブがずっと目指している、自信を持って腕とバットを振れる野球。自分達がやっている野球の正しさを、胸を張ってグランドで表現する。
私はこれを子ども達や保護者に伝えているつもりですが、分かってもらえていないようです。

私の存在が選手のプレッシャーになり、せっかく身に付けた能力が試合で発揮することができないのなら、私が身を引けば良いことです。せっかくあなた達は運良く、正しい技術、正しい野球を身に付けるチャンスのあるチームに入部したのですから、このチャンスを無駄にしてはもったいないと思います。

新２年生で試合に出るチャンスをもらっている数名の選手達。あなた達は、関係ないみたいな顔していますが、１学年上のクラスで活躍するくらいでなければ、上のレベルに上がっていくことは難しいと思います。試合に出ている程度で満足しているようでは、そこまでです。
野球を長くやる選手は、１学年上の中に入って対等に戦える選手が最低条件です。
体作りから甘いと思います。

第４２０話/２０２１．３．１５

段原クラブは今弱いと先週書きましたが、勝負の世界では強いは善、弱いは悪です。ここ４年程、大きな大会（本気で勝ちにいくべき大会）で良い結果が出ていません。負けるといろいろ不都合な部分が表に出てきます。３／１４（日）練習後、スタッフで久しぶりに話し合い、今までとは変える部分が必要ということになり、ここではっきりとは書きま

せんが変える。変わらなければいけないということです。

　弱い原因はいろいろありますが、１番は私自身の問題だと思います。独立リーグ兵庫ブルーサンダースの監督を受けるにあたり、３年契約をしたので郵便局を辞め、店の看板をおろしました。
シーズン途中からの給料未払いと契約不履行により、１年で辞めざるを得ませんでした。店は看板をおろしましたが問屋さんの口座はあるので、おなじみさんと段原クラブの一部の皆さんに利用していただいていますが、それとフルスイング塾だけで食べていける訳もなく、アルバイトが必要です。ただそれも、段原クラブの活動を最優先にするため、土日祝休み、火金の平日練習に間に合う、が条件です。そんな都合の良い仕事選べるはずもなく、通勤に往復約２時間。仕事が終われば体中は痛く、ヘトヘト。睡眠時間５～６時間も重なり、仕事から帰ると体が動きません。その中で練習に出ると、体の疲れのため、精神的に常にイライラした状態。選手が思い通りに動かなかったり、話を聞く姿勢を見せなかったりすると腹が立ち、強くあたったり、言葉使いも汚くなります。自分自身で気がついていました。今までなら、自らノックを打ちたいとか、マンツーマンで指導したいと体が動きましたが、今、その気力と体力が湧いてきません。

　完全にまちがった考えですが、「俺は段原クラブのためにこんなに頑張っているのに、こいつらふざけてんのか。」「本気じゃない奴らのために、なんでこんなしんどい思いをしなきゃいけないんだ。」こんな気持ちで子ども達に接していれば、うまくいく訳はありません。えらそうなことを言っている私が１番未熟で、子ども達の足を引っ張っているということです。本当はスタッフで話をする前に、自分自身の問題であることは分かっていました。１年以上前から、せめてもう少し近く、体力的に疲弊しないアルバイトを探していますが、前に書いたような（段原クラブの活動に支障のない）条件では、現実になかなかありません。
３／１５（月）、今日午前中にも職業安定所に行って紹介してもらったり、派遣会社で探してもらったりしています。
ただ、今の状態でも自分が子ども達に接する態度や言葉使いは、改めなければいけません。次からは、本当に体と心が苦しい時はグランドに出ない、というのも選択肢のひとつに考える必要があると思います。

　ピッチャーのひとりが試合中にケガをしました。野球の勝負の結果は９９％、ピッチャーの力だと私は思っています。段原クラブがここ数年弱いのは、エースがいない（エースとは、私が迷うことなく、強い相手と戦う時先発のマウンドに上がるピッチャー）、４番バッターがいない（４番バッターとは、全ての試合でメンバー表に一番に書ける打者）からです。
　野球はチームスポーツだと言われますが、私は違うと思います。絶対的なエースと４番、中学野球はこれで勝てます。
　段原クラブは個の力を伸ばし、高校野球につなげる事を１番の目的としている訳なので、その点でも他のどのチームと比べても、まず選手自身が広島Ｎｏ．１になりたいという思いが必要です。段原クラブで試合に出たいとか、ヒットを打ちたい程度の小さな思いでは、ＮＯ．１に近づく事も出来ません。ＮＯ．１にしか見えない世界、景色、見

てみたくないですか。気持ちいいです　　よ。そのために毎日苦しむ。それがスポーツのように思います。
　まず私が変わる。そこから始めないと、ということです。

第４１９話/２０２１．３．８

　今年の段原クラブはとても弱い。段原クラブの歴史上、勝つか負けるかで言えば一番負けるでしょう。
なぜか。前にも書きましたが、バッテリー（ピッチャーとキャッチャー）の力が無いからです。ピッチャーはボールを操ることが出来ません。操るとは。意味のある球種を、意味のあるコースと高さへ意図を持って投げることを言います。ストライクゾーンに投げることに精一杯では、ピッチャーと呼ぶことは出来ません。キャッチャーはピッチャーはもちろん、チーム全体を操るのが仕事ですが、操るどころか捕る、投げるだけで精一杯。ブルペン捕手のレベルです。
　試合になる程度にまでレベルを上げたいと思い、今までにない時間をかけていますが、そんな簡単になんとかなる人達ではありません。が...、学年に関係なく、野球の出来るピッチャーとキャッチャーを２ヶ月かけてなんとかしなくてはいけません。これからの練習は、今まで以上にバッテリーにかかりっきりになると思われます。試合に勝つためにピッチャー２人、キャッチャー１人出てきてくれれば充分です。競争の中で急成長する選手が出ることを望みます。

　理事長杯の予選と山口ミラクルの招待大会が重なったことにより、山口にＢチームの選手が出ることが出来ました。新３年生の強豪チーム相手に、立派な内容の試合を２日間見せてくれました。私の想像をはるかに超える内容でした。特にピッチャーが本当によく頑張りました。格上相手にひるんだり、逃げたりすることなく、持っている力を出し切れたことはすばらしいことです。スポーツの世界では、練習で出来ても試合ではなかなか力を出せないということがよくあります。
今年の２年生はその典型的な選手達の集まりです。練習は良くします。努力して力を付けても、試合では別人です。今時のおとなしい良い子達です。言い換えれば、勝負事に向かない子達。
本来、勝負の世界は結果が全て。努力をどれだけしようが試合で良い結果を出せなければ、切られても仕方のない世界です。私は常々この考え方を言い続けていますが、本当に私がこれが出来れば、段原クラブはこれまでもっと勝っていました。
特に努力をする２年生には、なんとかしてやりたいという思いが強くあります。しかし...。
「勝負に情が絡むと、ろくな事はない。」
私は、長い野球の経験からよく分かっています。苦しい日々が続きそうです。
　考え方を変えてみると段原クラブは今、底にいます。これ以上、下がることは無いでしょう。新しい戦力と昨秋からのレギュラーがしのぎを削り、競争を重ね、個人の能力が伸び、チームとして力を付けていく事が出来るでしょう。

　技術、体力（身体能力）、心（精神力）、全てが段原クラブのレギュラーとして背番号

を付けて、他チームと勝負するレベルにある選手は、今１人（甘く見て２人）。プライドを持って段原クラブの試合着を着て、胸を張って堂々とグランドに立てる。技術、体力、心を身に付けるため、あなた達は変わるしかありません。

３月７日（日）に２年生と１対１で話をしましたが、全員が「あきらめない。」「変わるために努力する。」と言っていました。ただ、人間は口ではだれでも良い事を言います。行動することはそんなに簡単ではありません。全員、自分で口にした通りやってくれれば、それにこしたことはありませんが、ひとりでもふたりでも段原クラブのスタンダード（基準）まで上がってくれれば。

いつも言いますが、あきらめない選手にはいつまでも付き合います。

弱い（心と体が）段原クラブ、私は嫌いです。

第４１８話/２０２１．３．１

最近、段原クラブの選手は夢を語らない。小学生のソフトボールや野球をやっている子どもは、「プロ野球選手になりたい。」とか、今時は「メジャーリーガー」などと夢を口にします。私も野球に出会った幼稚園の頃からずっとプロ野球選手になる夢を追っていました。

野球選手である必要はありませんが、どんな大人になりたいのか、どんな生活を送りたいのか、近いところではどこの高校に進みたいのかすら、中学３年の夏頃にやっと考え出す。では、何を思って野球をやっているのか。

段原クラブで試合に出る。ヒットを打つ。この程度。この程度の思いで練習していては、なかなか上達しないはずです。勉強も同じです。進学したい高校が頭の中にないのに、何を目標に勉強するのでしょう。テストは点数が出ます。何点取ろうとするのでしょう。

私は、中学入学最初のテストで学年２４０人中１２位、結構勉強は出来ました。しかし、野球部に入部したものの、１年生は球拾いと声出しばかりで練習させてもらえない。野球から気持ちが離れ、ボーリングブームの中、のめり込んでいきます。練習をサボり、家の商売のお金をくすね、人の道から外れていきました。中学２年の１学期には、２４０人中１５０位まで成績は落ちました。平均以下です。野球も勉強もやる気のない、本当にダメな中学生でした。店のお金をくすねていたのが父親にばれ、顔の形が変わるまで殴られ、家を追い出され、「今のままでは自分は終わる。」「今変わらないと、もう野球が出来なくなる。」と気づき、父親からの強制でしたが、毎日５ｋｍ走ることから始めました。

ちょうどその頃、担任の先生との面談がありました。私は愛知県に暮らしていたので、高校野球といえば中京高校（現　中京大中京）、小学生の時から中京に進学して甲子園で活躍して、プロ野球チームに入ると公言していました。

しかしその時の担任、今でも覚えています。鈴木佳昭先生に「君の成績では中京高校に入学できない。」

「中京は学年で５０位以内の学力がいる。」と言われました。私は当時何も知りません。野球だけやっていたのでは、中京高校に入学できない。ということは、甲子園もプロ野球もない。私の夢は終わる。勉強もして学年５０位以内に入らなければ。野球の夢を叶えるために、私は勉強をしました。１年かけ、３年生の１学期には３４位。現実には名

古屋電気高校（現　愛工大名電）の監督に熱心に誘っていただき、中京高校に進学することはありませんでしたが、後から聞けば、当時の中京高校は学年２００位程度で入学できたそうです。私のことを思い、担任の先生がとても良い嘘をついてくれました。そのおかげで高校３年間、野球に没頭し勉強はおろそかになりましたが、クラスで１０位以内はキープでき、勉強であまり苦労せずにすみました。
鈴木佳昭先生のおかげで、野球しか出来ない高校生にならなくてすみました。心から感謝しています。
　何が言いたいかというと、出来るだけ早く目標や夢を決め、進学したい高校を決めることにより、野球も勉強も具体的にやることが見えます。高校の偏差値が分かれば、どれくらいの成績が必要なのか、進学したい高校の野球のレベルが分かれば、自分の野球のレベルをどの程度まで上げなければならないのかも見える。やらなければいけないことがはっきりするということです。

　努力する理由と努力の度合いが分かる。目の前の結果に一喜一憂する小さい夢でなく、遠くの大きな夢を追う中学校生活、野球人生、その方が絶対楽しいはずですし、身になります。
　夢は叶わなくてもいいのです。大きなことを言って、自分にプレッシャーをかけ、やさしくて大きくて、強い人間、そして男になりましょう。私は野球というスポーツを使ってそういう男を育てたいと思って、グランドに出ています。（自分がそれほどでもないのに。）

　今、高校受験は私学が終わり、これから県立の選抜Ⅱです。段原クラブで選抜Ⅰを受験した中で、３人が落ちました。試験は面接と論文が多いと聞きます。面接官は多分ベテランの教員だと想像しますが、段原クラブの３人を落とすとは。人を見る目がありません。またまた嫌われたり、批判されるのを承知で書きます。段原クラブで３年間野球を続けた人間は、どこに出しても恥ずかしくありません。言葉足らずだったり、表現が下手だったりしますが、心はしっかり鍛えられ、学校の役に立つことはあっても、迷惑をかける人間ではありません。それが見えないとは。今回つくづく思いました。受験の面接には意味がありません。本人達はその高校に入学したいので言いませんが、君達のことが分からない高校なら、「こっちから願い下げだ。」私はこんな気持ちです。私は段原クラブでの３年間を信じていますし、自身を持っています。
３年生のみんな、胸を張れ。君達は強い。大丈夫です。私が保証します。

　現役の部員の皆さん、今あなた達は力がありません。今のままでは今後もたいした力は付きません。なぜなら夢がちっちゃいか、口にしないからです。バカにされても良いじゃない。大口をたたけ。たどり着かなくでも、男の夢に失敗などないのですから。私は付き合いますよ！

第４１７話/２０２１．２．２２

　例年なら３月に行っていた３年生のお別れ試合とお別れ会を、３月の全ての土、日曜日

に大会が入ったため、２月２３日(祝）に行うことになりました。
　たくさんのＯＢの保護者の方々からお祝いの差入れや、お祝い金をいただきました。卒団後も段原クラブを気にかけていただき、その気持ちを形に表していただいた方々に、心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。お気持ちに応えるため、強く優しい人間、そしてチームを作るため、これからも精一杯取り組んでいきます。これからも応援よろしくお願い致します。

　今、段原クラブは新入部員獲得に苦戦しています。
昨年はあっという間に入部者が集まって、２月には募集をとめました。１年で状況が１８０度変わりました。
　理由を考えてみました。ひとつ目は、保護者に義理で体験に来てもらうことをやめてもらったことで、体験者が半減したこと。段原クラブはもともと、私が口が悪く、厳しいと世間に思われている（事実ですが）ので、多くの部員が集まることはありませんでした。時代と言えばそれまでですが、「怒らない」「怒鳴らない」「厳しくない」「楽しく」「髪型自由」、こんなチームが人気があるようです。
私もここ１ヶ月程、保護者と話をしたり自分自身で考えたりして、私や段原クラブが時代に合わせて変わる必要があるのでは？なんて思ったりしました。
　年をとると気が弱くなります。私としたことが、少しでも自分の考えを曲げようとしたことを情けなく思います。いつも書いている通り、子ども達のために段原クラブはあり、私は子ども達のためにグランドに出て、子ども達のためになると信じていることをやり続けてきました。
　今も、私が子ども達に接している姿勢は、必ず子ども達のためになると信じていますし、卒団していったＯＢを見れば、まちがっていないのは明らかです。
　保護者に言われました。「他のチームと同じじゃ段原クラブの意味は無いし、監督じゃないですよ。」「私は、厳しい監督に子どもをあずけたのです。」
ありがたいことです。私は私、段原クラブはいついかなる時も、段原クラブであり続けます。
　子どもを鍛えて成長させ、次のステージに送り出す。そのために甘やかしていい訳がありません。
　２月２０日（土）２１日（日）の両日の練習を第３者の目で見ても、指導者はたくさんいて、全員本気で子ども達に接してくれています。「良い練習しているな。」と思いました。段原クラブの中には細かいことを言えば、他チームに負けている所があるのかもしれません。（私は全く思いませんが。）本当の段原クラブ、本当の私を見てもらって新入生に選ばれなければ、仕方ないことです。

　ひとつ気になることがあるので書いておきます。他のチームの中には、「うちのチームに入部すると、どこどこ高校に行けるよ。」などと言って勧誘する人がいるそうです。知らない人がたくさんいるので、教えてあげます。広島県内の高校で野球部の入部、人数制限をしている学校はありません。ということは、どこの高校でも入試に合格すれば、たとえば広島商業でも広陵でも新庄でも、中学で野球経験が無くても、野球部に入部できます。
だれでも入部出来る野球部に行ける、と言うのは当たり前のことですし、私に言わせれ

ば、知らない人に対して詐欺のようなものです。チームの力とか監督の力というのは、入部に対して人数制限のある野球部、有名な高校で言うと昔ならＰＬ学園、今で言うと大阪桐蔭などに入部できるということです。他にもたくさんありますし、甲子園常連校に多い傾向ですが、必ずしもそうとは限りません。だれでも入部出来る高校の野球部に何人が入部しても、それはチーム力でも選手の能力があったわけでもありません。だれでも入試に合格すれば入れるのですから。

段原クラブでは今年、天理高校に一人、九州国際大学付属高校に一人行きます。両チームとも２０人という人数制限があり、選ばれた選手しか野球部に入部出来ません。もちろん、本人の努力があればこそのことですが、みなさん、だまされないようにしましょう。

まだ何の結果も残していない選手に甘い話をする人間を、私は信用しません。進学は、あくまで本人の努力によって身に付けた能力（野球・学力）でするもの。身の丈に応じたステージで戦うのが、本人のためになります。ただ、段原クラブというチームには、他チームにはない進路がたくさんあります。段原クラブで３年間頑張ると、たくさんの選択肢の中から選ぶことが出来るということです。こういうことを本当のチーム力といいます。

まだまだ、新入生募集しています。今年は体験に来てくれた子のレベルがとても高いので、その中で７人入部するだけで広島県で優勝できると思います。試合に出られる。勝てる。進路が選べる。

こんな良いチーム、他には無いと思うのですが。

第４１６話/２０２１．２．１５

２／１３（土）、１４(日）の２日間、スターズ大会によんでいただきました。
昨年に引き続き、ありがとうございました。

今年初めての試合。試合形式の練習にほとんど入っていない状況なので、良い結果が出るとは思っていませんでしたが、１日目が５対３、７対０で勝ち、準決勝は０対６で負け。勝った２つの試合は何もしなくても、相手のミスで点をいただいただけの勝ち。負けた試合は、大人と子ども。全てに力不足というか、クラブチームの中で試合に出てはいけないレベルの選手が試合に出ているので、結果は当然なのでしょう。

コースに投げる以前にストライクゾーンに投げられるかどうかの投手。何も出来ず、投手が投げてくるボールを捕るだけで精一杯の捕手。チームを引っ張るどころか、投手の足を引っぱる内野手。ヒットを打たない外野手。バッティングは相変わらずストレートだけを振って、それでも１試合で５本ヒットを打てない。（３試合ノーヒットのレギュラーがいる。）変化球は打つ以前に振ることも出来ないか、振っても当たらない。
何が問題なのかといえば、昨秋から成長した選手がレギュラーの中に見当たらない。試合の内容が昨秋と同じだということです。
ストレートに遅れる選手も、バットが出ない選手も、変化球を振れない選手も、何も変わっていません。

私たち段原クラブは１１月、１２月、１月の３ヶ月何をやっていたのでしょう。

例年以上に数多くバットを振ったはずなのに、変わらない。なぜなのでしょう。考えられる理由は、野球というスポーツは道具を使います。よく言われるセンス。道具を使う手や目や、体の感覚が鈍い。厳しい言い方をすると野球に向いていない... のかもしれません。
私は、２５年以上子どもを見てきました。「向いていないな。」と思った選手もたくさん見ました。しかし、その中でもだれにも負けない努力を、本人だけでなく保護者もいっしょになって重ね、レギュラーをとり、試合で結果を出した選手を何人も知っています。「全員努力しなさい。」とは私は言いません。家族の価値観の問題です。全力でやらないスポーツもあると思っています。そのためにいろいろなチームがあるのですから。

私は野球が大好きで、学生野球程度なら良い結果の出し方を知っています。選手本人があきらめない限り、どこまでも付き合います。私が付き合うとしんどいので望まない選手もいますが、私と練習をすることを望んでいる選手には、責任を持って私の全てを注ぎたいと思います。

今年のチームの最大の課題はバッテリーです。段原クラブの歴史上最低レベルです。頭と技術の偏差値が３５程度。これで勝てるわけはありません。今週から私の力はバッテリー中心に向くことになります。
これから２ヶ月、本気を出します。
私が本気で指導して成長が見られなければ...。そういうことです。私には教える力があるので自信がありますが、一番肝心なのは選手の心。その気が無ければ私に言って下さい。私の本気な時間は、本気な選手にだけ使います。

日曜日の夕方、久しぶりに座学をしました。
段原クラブには、段原クラブ野球心得というものがあります。
各ポジション毎と打撃、走塁と６つに分かれ、各項目毎に６ヶから１０ヶまで身に付けるべき技術と考え方が書かれています。全てを身に付けることができると、今いるカテゴリーの中でトップ選手になることが出来ます。
これをひとつひとつ頭に入れ、意識して練習し、急がなくてもいいので３年間で確実にひとつでも多く身に付ける。野球を長く続けるために、全てが必要なことです。
１年生には初めての説明でしたが、２年生はひとりでもこれを頭に入れて練習していた選手がいるのでしょうか？入部してからの２年間、見直してみて下さい。
まだまだ間に合います。変わるチャンスだと思います。

私は段原クラブの選手の中で、だれがレギュラーになってもかまいません。チーム内で力のある選手が試合に出る。それ以外の理由があった方がおかしいと思っています。だれよりも練習、試合を見ている私が、試合で力を出せる選手を選びます。
「選手」　読んで字のごとく、選ばれた人です。

プロ野球のキャンプが始まり、甲子園出場校が決まり、段原クラブも２／１３（土）スターズ大会で今シーズン初めての試合に臨みます。今年は週末寒い日が多く、選手はまだ試合の出来るレベルに上がっていませんが、今出来る事と出来ない事が試合をすることによってはっきりするので、やらなければいけない事が自分自身で分かるために、大事な試合だと思います。
昨年は優勝しましたが、今年はどんな結果になるのか楽しみです。この冬努力してきたものが、技術と精神力として自らの身に付いているのか？それとも昨秋と同じように、勝負の世界で戦うのは難しいのか？どうでしょう。全ては自分自身の問題です。

ここ数年感じていたことですが、練習中話した事が選手に伝わっていない事が多い。忘れる？「大好きな野球のことなのに。」「うまくなりたいって言っているのに。」そもそもしっかり聞いていないのでは？と思っています。
では、なぜ本気で聞いてもらえないのか。私に指導者というか人間のというか、器、器量、価値が彼らにとって無いからだと思います。
先週書きましたが、私はプロ野球界の神のような大先輩だったり、すばらしい技術を持った選手の話を一言も聞き逃さないように、必死で自分のものにしようとしました。なぜなら、その人達を私は認め、尊敬しているからです。
言いかえれば、私にはその力が無いということになります。もったいないです。私は、打ち方も、投げ方も、捕り方も、走塁も、野球というゲームの正しい進め方も考え方も分かります。そして、それをひとつでも多く選手達に伝えたいと思い、グランドに出ています。
野球人としての前に人としての器の問題なのでしょうか。たしかに野球を無くせば、何の取り柄もない大きなおじさんです。
そのあたりがここ数年、段原クラブの選手が私の思い以上に伸びてこない理由なのかもしれません。
選手や保護者に信用、信頼してもらえるのか、そこが一番大事なことなのでしょう。段原クラブの選手達の力量は、私の人間としての力量だということなのでしょう。
となると、私はまだまだです。

毎年のことですが、小学校６年生にチームを（私も）選別されるこの時期、「段原クラブはダメです。」とたくさんの人に言われているようで、なんで分かってもらえないんだろうと、私はずっと沈んで、うつの状態です。早く終わってほしいです。
私以外の指導者は全員、人間として立派な方々です。
野球を本気で大好きな選手を待っています。しっかりやる選手の３年後に責任を持ちます。

第４１４話/２０２１．２．２

私は２８才で阪神タイガースを戦力外になり、１０年間のプロ野球生活を終えました。

息子が小学校に入学、ソフトボールチームに入団し、２９才から指導者人生が始まりました。
指導者とは？
「ある目的に向かって教え導くことのできる者」
　たとえば野球なら、バッターが振り遅れた時に何を教え導くことができるのか。「もっと前で打て。」「早く準備しろ。」この程度は指導ですか？ゴロが捕れなかった時、「なんであんな打球が捕れないんだよ。」「前に出ろ。」この程度は指導ですか？ストライクが入らないピッチャーに、「集中しろ。」「低く投げろ。」「力を抜け。」それで何か変わりますか？私が思う指導とはもっと深い技術的な話、理にかなった体の使い方、なぜこの結果が出てしまうのか明確な理由、そしてそれを解決する練習方法、考え方、体の使い方をしっかりと伝えられること。

　私の野球人生の中で本当に正しい技術と正しい考え方、正しい練習方法を教えていただいたプロ野球界のレジェンドの方々がいます。
　２００１年から始まったマスターズリーグ（プロ野球ＯＢで５チーム作り、１２月、１月、２月の３ヶ月でリーグ戦）に参加させていただけたおかげで、野球界の神様と同じチーム、同じグランドで野球ができる経験をさせてもらいました。
約７年間で８０試合以上やる中で、聞いたことも考えた事もなかった技術と考え方を、指導していただきました。お世話になった先輩方は数が多すぎて書けませんが、ピッチング、キャッチング、スローイング、バッティング、守備、走塁、全ての部門の神が目の前にいる。そして、全てのことを本気で指導してもらえる。夢のような日々を送ることが出来、私はやっと選手を指導できるようになりました。２９才から４０才まで自分では指導者のつもりで子ども達と接してきましたが、ただ元プロ野球選手というだけで、たいした技術論もなく、えらそうにしていただけです。ただただ申し訳なく、あやまるしかありません。
　日本プロ野球機構の指導者講習会や日本プロ野球ＯＢクラブの指導者講習会など受講し、資格を取り、本物の指導者「目的に向かって教え導くことのできる者」になる努力をし、信じてくれる子ども達を裏切ることのないよう、勉強し続けなければいけません。

　私は今、一番野球の能力があります。体は動きませんが、技術的には人生最高です。当然です。勉強を重ね、もっと上もっと上と目指してきました。「野球技術に頂点なし」なので、これで良いというものはありませんが、段原クラブの選手が技術的には負ける訳はないと思っています。
ただ、スポーツは技術だけで必ず良い結果が出るものではありません。体（身体能力）や精神力が伴わないと、試合で良い結果に結びつきません。
もちろん選手が練習を重ね、その技術を体にしみこませる必要もあります。
頑張るとか努力するというのは、はじめの一歩。クラブチームで野球をする選手にとってはスタンダード。
当たり前のことなのでそれをやってくれれば、段原クラブの選手は小学生の時の立場より、必ず上に行けます。

　小学生で広島Ｎｏ．１なら中学でＮｏ．１は当たり前。名の知れた選手がいなくても、

県内ならどこでも勝負出来るチームに段原クラブはなります。なぜなら、段原クラブには指導者がいるからです。
もう一度書きます。今の選手が一番幸せです。
私の指導力がまったく無かった頃の選手達、本当にごめんなさい！！

私に野球を本気で伝えていただいた野球界の神様の皆さん、心から感謝いたします。ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

第４１３話/２０２１．１．２５

今年の冬は寒いように思います。特に週末の練習が、なかなか暖かい中で出来ません。１／２３（土）は１日雨、１／２４（日）は半日雨。段原クラブは雨が降ってもフルスイング塾でバッティングとトレーニングが出来るので恵まれていると思いますが、グランドの土の上で思い切って練習したいといつも思います。

今年は昨年に比べてコロナの影響なのか、段原クラブに魅力が無いのか分かりませんが、体験に来る小学生が少ないように思います。昨年は、のべ８０人以上が来てくれました。たくさん来れば良いというものではありませんが、少ないと少し不安になります。

今一度、段原クラブが他のチームと違う所を書きます。
〇　平日週２日練習がある。（自由参加。練習内容も自由。）
〇　室内バッティング練習場がある。（一度に３人打てます。）
〇　県内、県外に数多くの進学先がある。（人脈が広い。）
〇　高校進学の前日まで、練習に参加出来る。（最後まで練習できる。）
〇　私が、プロ野球ＯＢクラブと日本プロ野球機構の認定技術指導員の資格を持つ、プロの指導者である。
（高校、大学の指導資格も有。）
〇　試合で監督からのサインは無い。
（選手に考える力がつきます。バットを振るチャンスを奪いません。）

これらのことは全て、中学卒業後、野球を長く続けるために必要なことだと思い、続けています。
中学のクラブチームは先を目指すための通過点。
何度も書いてきましたが、チームの勝利より個のレベルアップが大事な目的です。そのために厳しく、数多く打ち、捕り、投げ、走ります。正しい事を数多くやる。上達するために、これ以外ありません。
今冬、段原クラブは例年以上にバットを振っています。昨秋、新チームは試合経験が少なく、体も細い選手が多く、バットを振るという原点能力に欠けていました。体を作り、数多く振る。まず振る力、スピード。
もちろん一年中やるべき事ですが４月までの３ヶ月、より以上にみんなでやっていきたいと思います。
少し暖かくなって欲しいです。そろそろボールをしっかり投げて、守備もやりたいです。

やりたいですが、寒い中でのケガも注意しなければいけないので、難しい所です。

先に書いたように、今年の３年生は甲子園出場を目指す、野球校と言われる学校に進学する子もいますが、進学校と言われる学校を受験する子も数多くいます。私は、野球だけやって野球が出来ればＯＫという考え方ではありません。中学生としてやらなければいけない、勉強する努力も求めます。
代々のＯＢには、国公立大学に進学している子ども達も数多くいます。現役大学生も当然、野球名門大学生もいますが、国公立大学生もいます。城北中学や修道中学の生徒も、段原クラブで野球が出来ます。
野球が大好きで、野球の楽しさと難しさをしっかり味わいたいと思っている小学校６年生のみなさん、一度来てみて下さい。小学校の時とは違う野球を経験することが出来ると思います。
努力が必ず結果として現れるクラブ、それが段原クラブです。
練習をするのがあまり好きでない選手には厳しい場所だと思いますが、必ず好きになります。なぜなら、正しい野球はたいへんですが、おもしろいからです。選手が１日でも長く野球が出来るように、段原クラブのスタッフ全員が同じ思いで子ども達に接しています。一度グランドに来て、他のチームと比較して下さい。

１、２年生の競争意識が、練習の中で見えてきました。チームの中が良い状態になりつつあります。あきらめない、常に上を向いて目標、夢を目指す。みんな頑張れ！
春が楽しみです。

第４１２話/２０２１．１．１８

みなさん、ＰＣＲ検査を受けたことありますか。
コロナがだんだん近づいてきた感じがしていましたが、５ｍまで近づき、検査を受けました。結果が出るまで緊張しましたが、陰性でホッとしました。広島市は１２０万人、毎日４０人が感染して全員がかかるまで８２年毎日１００人で約３３年、確率では生きている間に感染しないのでしょうが、毎日毎日テレビで大げさな報道があると少し怖くなりますね。

批判されることを覚悟で言わせていただきます。ヨーロッパやアメリカより医療体制がしっかりしている日本です。感染者でゼロの数がふたつ少ないのに、なぜ医療崩壊？毎日、テレビで「医療従事者に感謝を」と言っています。それは「一部の」をつける必要があります。のんびりしている医療従事者がたくさんいるのではないでしょうか。医師会のエライ人もテレビでえらそうなことを言っているのなら、何かやることありませんか、と言いたいです。
私は昨年から言い続けています。一部の人達だけを犠牲にする政策は、まちがっています。飲食店が何か悪いことをしましたか？
全国民平等に犠牲を払うべきです。「ロックダウン」。公共交通機関から全てを止める。全国民外出禁止。みなさん収入落ちました？一部の人間だけが悪者扱いされ、店がつぶれ、従わないと今度は罰金？頭おかしくないですか。これでコロナが減るわけないです。

なぜなら、国民が納得してないからです。野球には関係ないことですが、毎日あまりに腹が立つので黙っていられませんでした。
野球も同じです。指導者が頭ごなしにやらせている練習では、子ども達は上達しません。技術は、お互い納得し信頼がある中で練習することで、身に付き上達していきます。
今、日本の国民が信用、信頼出来る指導者に出てきてもらいたいものです。

寒い中ですが、段原クラブは私の考え方、冬は数を意識して練習しています。その中で３年生は受験、チームとしては新入部員の獲得という、１年の中でとても大事な時期です。昨年に比べて６年生の動きが遅いように思いますが、段原クラブとしてはいつも通り、正しいと信じている練習を続け、それを判断してもらうだけです。体験の子どもがいようといまいと、何も変わることはありません。
私の考え方として「入部してください。」ではなく、「段原クラブに入部して頑張りたいです。」と言われれば、「では、いっしょに頑張りましょう。」です。野球が大好きで、３年間真剣に野球に取り組んでくれればそれで充分です。私より野球が好きな子どもになかなか会うことがないので、そんな子が入部してくれるとありがたいです。

体作りをして、本当に少しずつですが質が変わってきた選手が数人出てきました。今のままやり続けてください。そういう選手の責任を私はとりますよ。今年も子どもが野球をしている時間はその場に立ち続けられるように、まず健康です。今回のＰＣＲ検査で感じました。

第４１１話/２０２１．１．１２

１／９（土）、１０（日）、１１(祝）の３日間、野球の練習はやりづらい寒さでした。バットを数多く振る、ボールを数多く捕る、地面の上を走る。私が冬の寒い間にたくさんやるべきだと思っていることを練習しました。
寒い時は体の動きが悪くなりますし、集中力も切れやすくなります。そういう時は全員で声を出し、短い時間で集中した練習をするのが良いと思います。大きな声を出し、自らや他の選手を鼓舞し、体を心で動かすことで、寒さに負けない練習が出来るのだろうと、私自身の選手時代の経験から分かります。
１１（祝）の練習は平日練習から４日続いた事もあるかもしれませんが、集中力が切れているように見えました。私はその時点で練習を終わりました。

気持ちが無い選手と、私は野球をしません。

私を含めスタッフ全員、仕事の合間の大事な休みに子ども達と野球をします。親でも保護者でもなく、赤の他人です。他人と休みの日に野球をして、嫌な思いをする必要はありません。私がグランドに出る理由はただひとつ、楽しいからです。
フルスイング塾は仕事なので、嫌な思いをしても野球の指導はしますが、段原クラブは仕事ではないので、いっしょにやって楽しい選手とだけ野球をします。楽しいとは、野球が出来る出来ないではなく、話を真剣に聞いてくれて信じてくれて、懸命に努力し変わろうとしている子どもと、野球をするということです。

話も聞かずうわべで「ハイ」と返事だけして、何も頭に入らない子どもがいます。本当に野球が好きなのでしょうか？うまくなりたいの？勝ちたいの？中学生として当たり前の精神、脳がありますか？と言いたくなります。

同じ事を何百回も言い、それでも頭に入らない選手がいる。野球というスポーツは、ボールを思い切って投げる。バットをカー杯振る。そういうものではありません。それだけでは幼稚園の野球です。
まず、広いグランド中に聞こえるような声が出せない選手は、やめましょう。だれでも出来ることです。
声を出さなくても良いのはスーパースターだけ。そんな選手は段原クラブにも、私の知る限り広島県にもいません。
グランドで指導者が「元気出していこう」などと、はずかしいことを言わなくて良いようにしてください。
出来なければやめましょう。これから先の野球人生で、あまり良い思いは出来ないと思いますよ。

第４１０話/２０２１．１．３

明けましておめでとうございます。
１／２（土）恒例のＯＢ戦で、段原クラブの令和３年度がスタートしました。コロナ禍で集まったＯＢは例年の半分程でしたが、楽しく過ごすことが出来ました。
参加してくれたＯＢの選手、保護者、現役の選手とその保護者の皆さんありがとうございました。段原クラブは来るもの拒まず去る者追わずなので、たくさんのＯＢが集まってくれるように、魅力あるものにしていければと思っています。

ＯＢ戦のたびに毎年思うことですが、ほとんどのＯＢが技術的に伸びていません。高校生はほぼ毎日練習して、なぜ伸びないのでしょう。逆に落ちている選手までいます。中学生の時、正しい技術を伝えているのになぜ出来なくなるのでしょう。
確かにＯＢ戦は久しぶりに私の前で野球し、良い所を見せたいという思いから、引っ張って遠くに飛ばしたいので、腕でバットを振ります。そのためスイングはアウトサイドインになり、内野ゴロになります。特に低いボールを打つと、１００%右バッターはサードゴロ、左バッターはファーストゴロです。
段原クラブ入部以来しつこいぐらい、バットは下半身で振るという事を言い続けてきたのにもかかわらず、卒業して次のステージに上がると忘れてしまう。
ボールを上げることが（特に低いボール）出来なければ、良いピッチャーを打つことは出来ません。レベルが上がると良いピッチャーは、低いボールを数多く投げてきます。そのボールを上げることが出来なければ、ヒットを打つことは出来ません。そのために下半身主導でスイングしなければ、上のレベルで野球をすることは出来ないのです。

器械で大きな腕や体をつくり、上半身の力で金属バットを振りボールを遠くに飛ばして勝つ、高校野球はまちがっています。野球は木製のバットでやるものです。スピード

としなやかな体のこなしでボールを芯でとらえ、技術でスピンをかけ、質の良い打球でボールを飛ばす。これが出来なければ、高校野球から先の世界を見ることはありません。最近、体ばかり大きくしてスピードを無くし、技術が無くなっている選手が多いように思います。
高校、大学生の選手達、野球の本質を思い出しましょう。体を鍛えるのは、一番は故障（ケガ）しないため、筋肉を大きくすれば良いというものではありません。スピードを上げ、しなやかな柔らかい筋肉が野球選手の成績を上げます。パワーは、あった方が良いのは当たり前ですが、体作りと体の使い方をまちがわないようにしましょう。

１２／２７（日）の練習を終わり、１／５（火）の平日練習で段原クラブの野球は始まりますが、この約１週間の休みをどう使ったのかは選手それぞれだと思います。
私には見えませんが、練習が始まり、動きを見れば想像はつきます。トレーニングの話と結びつきますが、野球は地面でやるスポーツです。体は地面の上で作るもの。
古い考えだと思いますが、地面を走り、バットを振り、ボールを投げる。土の上をしっかりと走りまわった選手が、本物の野球の力を身に付けていくのだと私は思っています。
打つのも投げるのも下半身の力を使うのが基本なのですから、走ることで足の力と柔らかさを身に付けるため、しっかり土の上で泥だらけになりましょう。

第４０９話/2020.12.28

今年最後の書き込みです。
１２／２７（日）ある高校の野球部をほんの少し（数分）のぞく機会がありました。段原クラブのＯＢも数人います。
見て驚きました。髪の毛が長いのです。私は自分が野球をしていた中学、高校と６年間丸刈りでした。なぜ野球は髪の毛を短くしないといけないのか、きちんと説明してくれる指導者はいませんでした。ずっと疑問と不満を抱えていました。
指導者になったばかりの頃は、丸刈りに反対していました。しかし、段原クラブを立ち上げ監督になり、考え方が変わりました。何年も子ども達を見ていると、子どもは未完成で未熟で、心が強くなく、逃げたがります。
野球というスポーツと出会い、このスポーツで一番になりたい、勝ちたい、甲子園に出たい、プロ野球選手になりたいと夢（目標）をずっと追い続けていく間に、鏡を見て髪の毛をいじっている時間はありません。何か大きなものを手に入れようと思えば、何かをがまんする、しんぼうする。あれもこれもそれも欲しいでは、何も手に入れることは出来ないと私は思います。
子ども達は１円もお金を稼ぎません。野球も生活も学校も、全て親が懸命に働いて得たお金でやらせてもらっています。甘えはゆるされません。高いバット、グローブ、スパイクを買ってもらい、髪の毛をいじりながら、ふざけた野球をする。
私はそれを許すことは出来ません。今ありがたいことに、段原クラブの子ども達は全員とは言いませんが、親のお金で野球をやらせてもらっている事がどういうことか、分かりかけているように見えます。
「時代遅れ」そう言われて結構です。新しいことですばらしいことはたくさんありま

す。しかし、古い考え方で変えてはいけないことも、あると信じています。段原クラブは丸刈りを強制してはいません。私が見て長いなと思えば、子どもに声をかけるようにしています。
優先順位の一番が野球、そのために足を引っぱることはしない。一日中野球をしなさいと言っているわけではありません。学生ですから、勉強するのは当然です。しかし、野球をする間、集中出来ることが大事です。
人間として成長し、自分でお金を稼ぎ、そのお金で何を買おうが、何に使おうが、どんな服を着ようが、どんな髪型にしようが、自由です。お金を稼ぐことの出来ないうちは、いろいろな制限があるのが当たり前です。
　今、親が子どもに嫌われるのを怖がって、子どものご機嫌を伺いすぎです。たぶん、指導者側にもその傾向があるように思います。本当に子どものためになることを自信を持ってやるべきです。

　それからもうひとつ、この時期に紅白戦をしていましたが、これも私には分かりません。冬は数です。シーズン中に試合ばかりしている高校生は、数練習する機会が少ないと思います。
寒い時に数打つ、数捕る、数走る。基本を徹底的に数多くやり、体に覚えさせる。そして体を理屈ではなく、感覚で動くようにする時期です。嫌なこと、苦しいこと、つらいこと、おもしろくないことを子ども達のために、指導者はこびることなく、やらせなければいけない立場だと思います。

　１２／２７（日）今年最後の練習に大学、社会人のＯＢが自分の練習もかねて、たくさん顔を見せてくれました。私にとって楽しいひとときです。まちがった方向に技術が向いている選手もいますが、もどすのは簡単なこと。チームの選手にとっても、いい刺激になりすばらしい１日になりました。ありがとうございました。

　スタッフ、保護者をはじめ今年もたくさんの方々にお世話になり、段原クラブは活動できました。
心より御礼申し上げます。ありがとうございました。
来年もよろしくお願い致します。
　今年もたくさんの方々に私の文章で不快な思いをさせたことがあったと思いますが、野球をやる子ども達のためになると思うことは、これからも言い続けたいと思います。

　１／２（土）今年もＯＢ戦をやります。コロナの中参加者が減ることが予測されますが、グランドでの感染は発表されていません。楽しみにしています。私は今年も打つつもりで準備をしています。

第４０８話/2020.12.21

　今年の練習も１２／２７（日）が最後です。１年間コロナウイルスの影響で今年の３年生は試合が減り、練習もしっかり出来なかったチームがあったように思います。
段原クラブは練習量を落とすことはなく、大人が頭を使い、練習したい希望を持ってい

る選手には、場所と時間を与えることは出来たと思います。

　私は６１才を迎え、自分の人生は充分に楽しんでこられたので、これからは自分以外の人のために使うべきだと考えています。しかしそうは言っても、野球以外たいした能力を持っていないので、子ども達と野球をするということになります。

　今、感染者が広島で増えていますが、グランドでの感染を聞いたことはありません。各自が学校、仕事、家庭での生活に気を付けて、チームの足を引っ張らないようにして欲しいと思います。
今この状況の中ですが、１２／１９（土）私は飲み会に出ました。
段原クラブのＯＢで息子の親友のお店のために、小さな力ですが何かをしたかったからです。苦しいに決まっているＯＢを目の前にして何もしない、批判されようと何を言われようとそれは私には出来ません。そもそも、飲食店だけを苦しませているやり方を、私は良しとしません。本気でコロナウイルスの感染を止めたければ、春にも書きましたが「ロックダウン」、全員を止めるべきです。
一部の人だけが苦しむ方法は、私は嫌いです。
自分に火の粉がかからなければ関心はなく、自分にかかってきたら過剰に反応する。価値観は人それぞれなので自由だと思いますが、私が段原クラブで野球を続けるのは、心を込めて、本気で取り組んでいる選手がひとり以上いるからです。ひとりのためにでもグランドに出て、その選手のためにそうでない選手にも技術を伝えなくてはいけません。
　無限にあるわけでもない野球人生の中の貴重な１年、そして１日を無駄にしない、それが野球人生を延ばすことになると信じて、来年もグランドに出続けたいと思います。

　これから私の嫌いな、６年生の体験のシーズンになります。
体験に来ていただけるのは、とてもありがたいことです。しかし、そもそも軟式野球に興味がないとか、本気で野球をする気がないとか、チーム行事で全員で来るとか...。時間の無駄です。
私達は全力で、本気で子ども達と１日向き合い、１日ですが本物の技術と考え方をひとつでも伝えたいと思っています。その気が全くないのに体験に来ないで下さい。段原クラブの選手達の貴重な時間を奪うのですから、真剣に、まじめに、本気でグランドに来て下さい。
入部するかしないかは、どちらでもけっこうです。グランドで全力でプレーしてもらえれば、そして本気で考えてもらえれば、それで充分です。
　段原クラブには今、本気で野球をしている選手がいます。段原クラブは、そういう子どもが集まるチームです。今の姿勢をずっと続けていけば、必ず段原クラブは良いチームになります。続けた選手の心と体には、それだけの力がつきます。先の野球人生でその貯金は必ず役に立ちます。
段原クラブは、やれば貯金が出来るチームです。

第４０７話/2020.12.7

１２／５（土）県少年部新人戦西部予選　準決勝で敗れ、本年度の試合は終わりました。最後はタイブレークでサヨナラ負け、負けたことは何とも思いません。ピッチャーが打たれた訳でも守備がみだれた訳でもなく、失点はタイブレークで送りバントとスクイズ、これは私の中では失点ではありませんので何とも思っていません。

いつもいつも言い続けているように、中学生のクラブチームはチーム力というものには意味はありません。なぜか？野球人生の通過点なので高校、大学、その先を目指す（夢を追う）子ども達は、個の力以外何の役にもたたないからです。たとえば、甲子園で優勝した早稲田実業。何人かが早稲田大学に進学しましたが、斉藤投手以外通用せず、野球を辞めました。準優勝の駒大苫小牧も、田中投手以外だれが野球を続けられているのでしょう。結局は個の力がなければ、チームが日本一になっても上のレベルで野球を続けることは出来ません。

本当に野球が大好きなら長く続けたいと思います。好きな野球を長く長く続けるために、段原クラブは個の力を伸ばすことに集中して練習、そして試合をします。ピッチャーは打たれないで失点しなければいいですし、バッターはヒットが打てればいいです。ランナー３塁でスクイズやエンドランは、個の力にならないのでしません。
送りバントは上のレベルに行くために当然必要なので、出来なければいけません。打てたら勝つ、打てなければ負ける。ピッチャーが打たれたら負ける。抑えたら勝つ。守備が当たり前に守れば勝つ。乱れたら負ける。段原クラブはそれでいいと思っています。準決勝は打てなかったから負けた。それだけのことです。打てるように練習するだけです。

１２／６（日）練習前選手全員に、チームで一番練習している自信のある人を尋ねると、４人が手を挙げました。数年ぶりに手を挙げる選手がいました。たしかに、何人かは感心するくらい練習をしています。３年間続けるのは体も心も苦しいことがあると思いますが、保護者もいっしょに苦しんでやりとげると、何かが見えたり、何かが手に入ったりするはずです。
私は指導者として、練習している選手の責任を持ちます。
先日ある保護者から、ほぼ３６４日子どもと野球を何年も続けて、しんどくないのかと聞かれました。なぜそこまで出来るのかと言われました。簡単です。
目の前で溺れている子どもがいて、えらそうに言うようですが私に助ける能力があるので、川に飛び込んでなんとか陸にあげたいと思っているだけです。そんな子どもが毎年毎年、何人も私の目の前に流されてくるから、見えないふりをするわけにはいきません。目の前の川が段原クラブということです。

土曜日の試合には負けましたが、その試合の主審は先日私が高めのストライクゾーンについて、試合中確認した方でした。その時はとんでもない高さをストライクコールしていましたが、この試合では、ルールブックに書いてある高さに近いものに変わっていました。バッターに投球が当たった時も、バッターがよけようとしなければボール判定をしていました。これもルールブック通り当たり前のことですし、私が試合で確認したことで変わったのかはわかりませんが、理由はどうであれ子ども達にとって、とても良いことです。
公認野球規則、これにのっとって試合をする。それにもとづいて判定を下す。アンパイアの仕事はこれにつきます。それが子ども達の野球技術の向上につながります。体に当

たるボールをよけなかったり、勝つ為だけに、言い方は悪いですがこざかしい細工などは、何度も言いますが子ども達の野球人生に必要ありません。嫌われようと子ども達のために、言わなければならないことは言い続けます。
　私の思っている少年野球は、ピッチャーとバッターの１対１の対決の繰り返し。ランナーはバッテリーと対決し盗塁する。その純粋な野球をベンチからのくだらない声で、じゃまして欲しくありません。
打てたら勝てる、打たれたら負ける、少年野球は子ども達のために、そういうものじゃなければいけないと思います。

第４０６話/2020.11.25

　ひさしぶりに１年生の練習試合を 11/23（祝）にしました。
段原クラブに入部して約 9 ヶ月、成長の程度を試合で確認するためです。
野球選手はまず投げられるか、走れるか、バットを振れるかです。ベース（目的地）までボールが届かないは始まりません。
野球はスピードを競っているので、走れないも困ります。打席で強くバットを振れなければ打球が外野まで飛んでいかないので、塁に出ることが出来ません。そういう点では今年の 1 年生は、他チームと比べるとだいぶ落ちます。後 8 ヶ月で中学生として当たり前の身体能力程度は身に付けなければ、高校野球は見えてきません。だれよりも多く練習するしか体を作る方法はないのですから、その気になるか、ならないかだけの簡単な問題です。

　今、11/25（水）日本シリーズ第 4 戦をやっていると思います。
私は第 1 戦でジャイアンツが勝てば 4 勝 2 敗でソフトバンク、第 1 戦でジャイアンツが負けた場合 4 勝 0 敗か、4 勝 1 敗でソフトバンクと予想していました。どうなるのか終わってみなければわかりませんが、そのぐらいの力の差があると思っています。何が違うのか、強さです。
　投げるボールの強さ、スイングの強さ、心の強さ、全てソフトバンクが上回っています。レギュラーでも安心出来ないチーム内の競争により、全ての選手がレベルアップします。レギュラーだった選手が気を抜くと、若手にとって代わられる。全ての選手が試合に出るために、まずチーム内でしっかり競っています。
　パ・リーグのスピード（力）のある投手と対戦しているバッターは、スイングにスピードがあります。150ｋｍのストレートを速く感じていません。当然、ジャイアンツのピッチャーのストレートは遅いと思っています。
あげく、ジャイアンツのピッチャーはインコースに投げる勇気と技術がないので、少々アウトコースに良いボールを投げても通用しません。
全ては第 1 戦の千賀のインコースストレートで、ジャイアンツのバッターは終わりました。ジャイアンツの選手は 150ｋｍを超えるストレートをはじきかえすことは出来ません。インコースの強いボールで腰を引かされた選手達は、2、3 戦になるとアウトコースも打てません。千賀に 3 つ負けたようなものです。
　私は第 1 戦、無死 1、2 塁で丸がショートゴロ　ダブルプレーを打った時、勝負あった

と思いました。
全ての選手が、打つなら 1、2 塁間へ引っ張らなければいけないことがわかっている場面で、ジャイアンツの中心選手が引っ張ることも出来ない力の差。
まあ、そもそも丸は日本シリーズに何回出ても打っていない選手ですけど。
タイミングの取り方が大きすぎて、日本シリーズで投げてくるレベルのピッチャーのスピードに間に合わないと思います。
私ならあの時点で菅野を下ろして、第 4 戦にそなえます。
　常々私が子ども達に言っている「ストレート（速い）を打てないと始まらない」、「バッティングは、140ｋｍを超えるストレートに遅れないスイングを身に付ければプロに行ける」。結局そういうことです。

　小・中学生の皆さん、勝つためにごまかすような野球はやめましょう。ピッチャーは速いボールを投げる。バッターはそのボールを強いスイングで打ち返す。子どもの野球とはそういうものです。
その中で状況を判断し、予測し、準備する。それが出来れば、上のレベルに上がっていけます。頭を使い、たくさん練習し、こわれない。そんな選手が長く野球をすることになります。

第４０５話/2020.11.16

　１１／１４（土）１５（日）２日間、府中オーシャンズ主催の交流試合がありました。例年だと３２チーム参加のとても立派な大会ですが、今年は８チームの試合となりました。２日間で必ず４試合出来るありがたい試合であることは変わりありませんが、今年は順がつかないので、なかなか長いイニング投げられないピッチャーに投げさせることが出来たり、ポジションも試すことが出来ました。結果は１勝３敗、私の中に勝つつもりは無かったので問題ではありませんが、２年生の内容があまりにひどい。
　野球で必要なのは、体・技・心と前にも書きました。
２年生は体（大きさ・パワー・スピード）がありません。技術は当然まだまだです。
一番の問題は心です。まず、勝負をするのに闘争心がない。喜怒哀楽の中で試合中に出すのは哀のみ、悲しそうな、不安そうな顔ばかりします。
「性格だからしょうがない」のなら、勝負の世界から退くことです。
体と技術がないのですから、これで勝負出来る訳はありません。空元気でも表に出して「やったろか！！」だとか、何が何でもくらいつく「負けてたまるか」など、気持ちを表情や行動に出して試合をしなければ、この学年は勝負にならないと思います。

　技術的には、小学生レベルの話しですがまずキャッチボール、あたり前に出来ません。送りバントも出来ません。
１００Ｋｍ程度のストレートを遅れないで打つ事が出来ません。変化球はスイングすら出来ません。
本来、中学生のチームで試合に出てはいけないレベルですが、今年の段原クラブには、恥ずかしい話しですが代わりの選手がいません。他にいないので大会に参加するために、しょうがなく使っているだけです。

厳しいようですが来春変わっていなければ、当然下級生を使います。１年生に代わる選手がいなければ、新入生に素材のある選手がいれば、その選手に期待することになります。
だれを使っても良い結果が出なければ下級生を使うのは、勝負の世界では常識です。上級生だという理由で試合に使うのは甘ちゃんチーム。上のレベルを目指さない人達がすることです。
考え方はいろいろあってかまいませんが、私は、出来ない上級生で負けるつもりはありません。
まして、闘争心（戦う心）の無い選手と同じユニフォームを着るのも、とても嫌です。練習しようと思えば、場所・時間・指導者はいつでもあります。あなた達の使い方しだいです。

中途半端にスポーツをやっても、心と体どちらも鍛えることは出来ません。時間・お金・保護者の負担、いろいろなものを使って子ども達は野球をやっています。
あなた達の将来にプラスになるためにあります。鍛えなければなんの意味があるのですか？鍛えるのですから、厳しいし、大変だし苦しいに決まっています。
保護者の時間やお金を無駄に浪費しないように、逃げるのなら早い方がいいですよ。

今回、ある程度のチームとやると、２年生の力はおよばないものがたくさんあることがはっきりして、とても良い２日間でした。
府中オーシャンズの関係者の皆様、本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。
来春、全国大会前に練習試合、歯ごたえのあるやる価値のあるチームになれているように、より厳しく選手に接していこうと思います。

第４０４話/2020.11.8

１１／８（日）広島県軟式野球連盟少年部県大会が上下球場でありました。
段原クラブは運良く、広島県Ｎｏ．１の府中オーシャンズと当たることが出来ました。私の見る所、新チームでは広島県内断トツの実力です。文部科学大臣杯では番付通りに優勝し、来春の全国大会出場を決めています。段原クラブは新チームになり、最初の試合を９月に行い、３対０と８対０で完敗しました。大人と子ども、まったく試合になりませんでした。それから約２ヶ月、選手各自がどの程度成長したのか確認するために、とてもありがたい試合でした。
結果は２対１で負け、点数だけを見ると惜敗、善戦、おしかったなどと思われるかもしれませんが、今１０回やったら１０回負けます。そのぐらいはっきりとした力の差があります。
段原クラブのレギュラー９人が府中オーシャンズに行って、試合に出られるのは２人、後の７人はベンチです。個の能力では完敗、特にバッテリーの技術、精神力、試合中の立ち姿、表情などまだまだ勝負になりません。このあたりは、野球人生の中での経験、私がよく言う、育ちの差が歴然です。初めてやった野球（たぶん小学生の時）がとても大きなもので、最初が甘く基本がわかっていないと、中学生での成長のさまたげになり

ます。
　野球というスポーツの本質や勝負の世界に身を置いた覚悟など、保護者を含めた厳しさが、勝つためや上のレベルに上がるためには必須になります。

　野球だけでなくスポーツは、努力はあたり前に必要ですが、人間には残念ながら個体差というものがあります。持って生まれた身体能力、身長だったり、体のバネだったり。言いかえれば、器の大きさ。子ども達はそれぞれ大きな器を持って生まれてきた選手と、言い方が悪いかもしれませんが、小さな器しか持っていない選手がいます。
　よく、頑張れとか努力したらなんとかなるとか、やったことの無い人は特に簡単に口にします。
はっきり言えばスポーツの世界は、努力程度ではどうしようもないことがあります。プロ野球選手として成功するために、頑張れば出来るものではありません。
　私の例で言えば、自分で言うのはなまいきに聞こえるかもしれませんが、小学校から高校卒業まで体育は全て５。体が大きかったので鉄棒がクラスでＮｏ．１ではなかったぐらいで、他のスポーツは何でも出来ました。
中学３年生の時には走り高跳びで１７０ｃｍ以上飛べましたし、バク転も出来ました。１５００ｍでも５分を切っていました。両親からとても大きな器を持たせてもらいました。プロ野球界でも身体能力では負けていませんでしたが、練習不足と精神力の無さが成功をさまたげました。結局私は、せっかく両親からいただいた大きな器を満たすことは出来ませんでした。
　子ども達各自が自分の器を満杯にして水があふれることが出来れば、チームとして勝とうが負けようが、レギュラーになれてもなれなくても、勝者であると思っています。
私はプロ野球選手になることは出来ましたが、そういう意味では敗者です。
　ひとりひとりが夢や目標を持ち、それに向かってひた向きに努力を重ねていく姿がすばらしいことで、私はそういう子どもと同じグランドで過ごす時間が大好きです。

　試合の前日だから頑張ってますアピールのため、フルスイング塾に来て打つ、試合が終わったらこない。努力は誰かに見せるためのものではなく、自分自身のためのものです。やるのなら徹底的にやる、そうでなければ、段原クラブで私と野球をやる意味はありません。私も本気で向かい合うこともありません。これからは打つ選手を選ばせていただきます。段原クラブでは監督ですが、それ以外では私はただの野球人です。

　よく言う結果というのは、自分の器を満たせということです。段原クラブの選手達の野球人生はまだ始まったばかり、全ての選手の器にはまだほとんど水が入っていません。伸びしろ満載です。今程度でまさか努力していると思ってませんよね。本当に努力すると体が変わります。試合での表情が変わります。そして、結果が変わります。
あなた達はまだ体すら変わっていません。あきらめた人は、グランドから出ることです。あきらめていない人にチャンスをゆずりましょう。

　山本浩二旗では全国大会岡山県代表と引き分け、そして府中オーシャンズ（広島県代表）と２対１で負け。ひとりひとりの実力は不満しかありませんが、君達が入部してきた時を思うと、少しはほめなければいけないのでしょう。が、私は野球人なので現役で

野球をやっている間、ほめることはありません。
野球人生をやりきって器を満杯にした時、その器が大きくても小さくても、心の底からほめたいと思います。

第４０３話/2020.11.5

１１／１（日）山本浩二旗　準決勝・決勝がありました。運良く優勝しました。運良くと書いたのは、決勝が抽選勝ちだったからです。前回書いたように新チームは、１ヶ月で少しずつですが野球になるようになってきました。特にピッチャーを含めた守備が成長しました。山本浩二旗　４試合　無失点、この部分は、まだまだたくさん不安な所はありますが、結果としてよくやっています。

ピッチャーの四死球が減った。（本当はゼロにしたい。）内野手のイージーミスがなくなった。特に一番成長したのがキャッチャーです。今の実力は、段原クラブのキャッチャーとして見ると、キャプテンシー・キャッチング・スローイング・たたずまいなど全て不合格ですが、入部した時からは別人です。小学生の時には下級生にキャッチャーのポジションを奪われ、外野を守っていたのですから、入部した時にはゼロというよりマイナスからのスタートでした。

私は何度もあきらめようとしましたが、本人があきらめませんし、キャッチャー担当のコーチもあきらめず指導し続けてくれています。３年生の２人のキャッチャーも平日練習では、熱心に教えています。

彼の成長が、チームの成長につながり、試合になるようになりました。

しかし最初に言ったように、段原クラブの基準で言うと半分以下です。よりいっそうの努力を望みます。

その試合で主審をしてくださった方、とてもすばらしいジャッジでした。

ルール通りのストライクゾーン、昨年の瀬戸内大会決勝以来、１年ぶりにルール通りのジャッジを見ました。

ストライクゾーンを広げなくても、ピッチャーがしっかり投げれば０対０の試合になります。力の無い（練習不足の）ピッチャーを助けるような判定は子どものためにはなりません。

全ての選手が納得するとても良い試合が出来ました。ありがとうございました。

高いボールをストライク判定するアンパイアは全て構えた時、バッターの肩のラインに目線を合わせています。バッターはそこから打ちに行けば少し重心が下がります。より高いボールをストライク判定するわけです。打ちに行った姿勢の肩とベルトの中間点に目線を合わせて、アンパイアは構えるべきです。基本だと思いますが？

週間天気予報を見ると１１／７（土）、あまり天気が良くないようです。せっかくの県大会、府中オーシャンズという広島県Ｎｏ．１チームと対戦できるチャンス、雨がふらないで欲しいと思っていました。

当初、雨で中止の場合、抽選になると聞いていました。日程が無いからとのことでした。県大会の先に大会が無いのに日程が無い。意味がわかりませんでした。

いつものように子どもの都合より大人の都合が優先されるんだと思っていましたが、５日（木）に連絡があり、７日（土）は雨予報のため次の日に順延となりました。
大人都合ではない子ども達のための順延、ご配慮ありがとうございます。

普通のチームとやればある程度失点を防げるようになってきたので試合になってきましたが、バッティング・走塁・バントなど点をとるための技術は、本当に未熟です。
何試合もヒットを打たない選手が試合に出ています。ひとり１試合で１本ヒットを打てるようにすれば、ある程度得点出来ます。ヒットを打てない選手は試合に出られない、これが当たり前のレベルにしなければいけません。控えの選手にもチャンスはあります。ヒットを打てないのにレギュラー面している選手に、とって変われる選手が出てくるのをまっています。そのためには、体作りとバットを振ることです。

「数は力なり」

第４０２話/2020.10.28

１０／２４（土）県新人戦西部大会でなんとか準決勝に残りました。昨年、県大会で優勝しているので県大会に出場出来るのですが、新チームが自力で出場権をつかむことに意味があります。ひ弱なチームですが、一日一日本当に少しずつですが上手になっています。
文部科学大臣杯県大会１回戦　６対１の大敗から、自分達の力の無さを認め全員とは言いませんが、毎日の努力の積み重ねが、土から芽が出た所まで来たように思います。
県大会１回戦の相手が、ありがたいことに新チーム県内最強の府中オーシャンズ。新チームで初めて練習試合をし、大人と子ども、全く相手になりませんでした。そこから２ヶ月、１１／７（土）試合の相手になるまでになれるのか、自分達の力を測るのには最高のチームです。この抽選を子ども達がどうとらえたのか、「よっしゃー」なのか「がっかり」なのか、どちらなのでしょうか？

１０／２６（月）これを書いている当日、プロ野球のドラフト会議があります。今年は高校野球の公式戦がしっかり行われなかったり、スカウトがあまり見られなかったりしたため、プロ志望届けを出した高校生の練習会が、甲子園と東京ドームでありました。私はテレビで少し見ました。なぜ少しかと言うと、見る価値を感じなかったからです。
正直言って出ていた選手の９０％はプロは無理です。まったく技術がありません。
肩が弱い、スピードが無い。思い出作りのためにプロ志望届けを出しているのではないでしょうか。
高校生の場合、まず体です。力（パワー）かスピードどちらかに目を見張るものが必要です。技術は致命的欠陥がなければプロの指導でなんとかなりますが、ピッチャーのコントロールは難しいと思います。そしてなんと言っても一番は「精神力」！！心の強さです。
私はこれがありませんでした。私の経験で言いますと、バッターは打席に入った１球目（ファーストストライク）にスイング（フルスイング）出来るかどうか。ピッチャーはストライクゾーンにどんどん投げ込んでいけるかどうか。これにつきると思います。

私は出来ませんでした。もちろん人より多く練習するのは当たり前ですし、どれだけ練習しても壊れない体があることは、大前提です。もしやりなおせるのなら、私は大学に進学し、精神的に強くなってからプロ入りします。大学に進学してプロになれたかどうかわかりませんが、私は体（パワーやスピード）は、プロのレベルにありましたが、心がプロでやっていける強さがありませんでした。

今回テレビで見た高校生達、ほとんど指名されることは無いと思いますが、大学・社会人に行ってしっかりとした力（技術・体・心）をつけてから、プロを目指した方がいいと思います。数人ですが、すばらしいものをもっている選手はいました。どこが指名するか楽しみです。そしてプロに入ってからが本当の勝負です。勝ち残ることを楽しみにしています。

段原クラブの選手達、野球を始めたのなら目指すは頂点です。中学で打ったとか、勝ったとか、小さい小さい。夢は大きい方がおもしろいです。

第４０１話/2020.10.19

１０／１７（土）県大会西部予選２回戦は雨で中止になり、１０／１８（日）は山本浩二旗１、２回戦がありました。新チームは力が足りませんが、勝つ事は出来ました。相手チームの打つ力がなかったからです。段原クラブ以上にバットを振る力がないので失点しませんでした。点をとられなければ負けることはありません。２試合で四死球３ヶ、エラー３ヶ、新チームはこれを０にしなければ、広島県内で上位のチームと戦うのは難しいと思います。選手の持っている身体能力を考えると、今までのようにバットをどんどん振っていく段原クラブの目指している野球が出来ないのはさびしい限りです。簡単なことではありませんが、選手の能力と努力を見ると、打てるチームになることは難しいと思います。
ピッチャーが、バットを振る力の無いチームはおさえることが出来るようになってきたので、試合になるようになってきました。新チームにとって約４０日まあまあという感じですが、野球頭とチームを引っ張っていけるリーダー不在（試合中）が大きな問題です。

チーム内で少しめんどくさいことがあり疲れましたが、解決したようでホッとしています。子どもは未熟で不完全、まちがいますし、やらかします。そういう生き物です。そもそも人間が地球上の動物で一番クズです。いろいろな問題が起こることは当然です。まちがったら、まちがいを認め反省し、同じあやまちをしないようにするしかありません。子ども達を甘やかすつもりはありませんが、私は教育者でも聖人でもありませんので、野球以外のことをえらそうに言える人間ではありません。が、チームの責任者です。耳に入ったり目にすれば対応しなければなりません。
まちがったことがその後、子ども達の成長につながってくれればと願います。

もうみなさん飽きたと思いますが、今回の山本浩二旗でもきょうれつなストライク判定、連発でした。
試合の終盤、特にある程度試合の勝負が決した後は、素人が見てもひっくり返るぐらいの高さまでストライクになりました。ある選手は３球全て明らかなボールで３球三

振。本当にかわいそうです。
毎日、けんめいの努力をしている選手の日々を消してしまう大人の都合。明らかなひいきというか、負けているチームの、力の落ちたピッチャーの救済。どっちにしても勝つのに、何文句を言っているのと思っている人、力の無い選手を助けることが良いことだと思っている人。はっきり言います。頭おかしいです。勝負の世界から消えて下さい。
よくあるアマチュアの最上級生問題と同じです。力が無い最上級生を試合に使うことが正しいと言っていることとほぼ同じ考えです。弱者と強者という言い方にかえて言うと、弱者を守る立場の意見を言う人が正しい人、やさしい人。強者の立場で意見を言う人が悪い人というイメージがあります。まちがっています。
中学生ではたしかに、生まれながらに身体能力に差があることは事実です。しかし、力のある無しはそれだけで決まりません。
たとえば、私の息子。幼稚園の時からキャッチボールをし、バットを振り、小学生の時には、毎日私におこられながらバットを振っていました。泣きながら練習したこともあります。生まれてから中学３年生になるまでのバットを振った数が違います。だから、他の選手よりヒットを打ちました。
身体能力も練習によって伸ばしたのです。苦労した数がちがうのです。
最上級生より努力を重ねて、力のある下級生が試合に出られない方が理不尽です。
チーム力も同じです。弱い（勝てない）ということは努力（苦労）が足りないということで、努力（苦労）が足りない選手やチームに審判がひいきすることは明らかな八百長であり、それこそルールの下にやるスポーツでゆるされることではありません。
段原クラブの選手達が厳しい環境の中、頑張っているのに、打席で明らかなボールをストライクと言われ、バットを振る事も出来ずにベンチに帰ってくるのを見るのが、本当につらいです。私の力の無さが本当に申し訳なく思います。

　ストライクゾーンの上限はバッターが打ちにいった姿勢の肩とベルトの中間点、そしてそれはベース上を通過する時です。これは何回だろうと、何点差だろうと、どんなレベルの選手だろうと変わることはありませんし、変わってはいけません。
審判の判定はルールで決まるもので、そこに感情が入ることはゆるされないのです。
努力をして、苦労して、毎日頑張って力をつけた子ども達のチャンスをうばうことは、大人として、してはいけないことです。段原クラブには親からもらった素材ではなく、試合に出るために努力し続けている選手がいます。野球が出来ようが出来まいが、チームが強かろうが弱かろうが、ルールの下、全員、全チームが試合が行われている間、平等でなくてはならないと思います。

第４００話/2020.10.13

　１０／１１（日）卒団試合と卒団式を行いました。
例年なら会館で全員で祝うところですが、コロナのためグランドで行わなければならず、３年生には申し訳ない気持ちです。
３月のお別れ会までにコロナが終息してくれればそれにこしたことはありませんが、治療薬なり予防薬が出来て例年通り、会が出来ることを望みます。

段原クラブがなぜ卒団式とお別れ会があるのか、説明させてもらいます。
段原クラブは高校入学の前日まで野球の練習、指導をするのが当たり前という考え方です。

なぜかと言えば、クラブチームは高校野球につなげるためにあるので、当然です。
ただ、選手や保護者によっては受験勉強など、さまざまな理由でそれを望んでない可能性もあります。そもそも段原クラブの活動は自由参加ですが、卒団式を行うことで休みやすくするためです。
グランドに来た選手は全員平等に練習する。これは、１年生も卒団した３年生も同じです。強制ではなく自らの意志で練習する。これからの半年、３年生が野球人生の中で一番伸びる時だと思います。貯金を持って高校に行けるように、段原クラブの力をつくしたいと思っています。
　卒団試合は当然３年生の圧勝、新チームも来年３月のお別れ試合では３年生の投手のボールをはじきかえせるように、投手は３年生のバットを押しかえせるように、３年生以上の努力が当たり前に必要です。

　先週も書きましたが、ストライクゾーンの話しです。
１０／１０（土）の県軟連少年部新人戦西部予選１回戦でやっぱりなという出来事がありました。
今までの経験から、１日４試合ある大会の４試合目は明らかにストライクゾーンが広くなります。当日、段原クラブは４試合目、相手は八幡クラブ、２年生が２人で残りの選手は１年生、明らかに力の差があります。八幡クラブの投手は、試合の緊張からかストライクが入りませんでした。このパターンはどんどんストライクゾーンが広がる試合です。
ルールブックにはストライク・ボール・アウト・セーフなどに抗議権を認めていません。しかし、ルールの適用のまちがいについては抗議権を認めています。ベンチからは高さしかわかりません。あまりにも高いボールをストライクというので、私は質問をしました。
「ストライクゾーンの高さの上限は、バッターの肩とベルトの中間点ですよね。」
なんと、その主審は「胸マークです。」と答えました。やっぱり！
私は常々あまりに高いストライクゾーンの審判が多いので、ルールブックに書いてあるストライクの定義を知らないのではと疑っていました。ルールブックのどこを読んでも「胸マーク」という文字はありません。では、マークが漢字でタテに入っているユニフォームはどうするのですか。
まして、バッターがかまえた時の姿勢ではなく打ちにいった姿勢の高さ、そしてベース上を通過した所で判定する。バッターはほとんど、ホームベースより後ろにかまえているので、バッターの所で高目いっぱいならベース上ではボールです。なぜなら全てのボールは落ちるからです。
ストライクゾーンの定義、基本中の基本。私は全てのルールを覚えろなどとは言いません。しかしストライクゾーンを言葉で言えない人が主審をするのはどうでしょう。
私が質問をした後に、明らかに機嫌が悪くなるのも大人としてどうかと思います。
私はルールブックに書いてある通り、ストライク・ボールを抗議したのではなくルール

の適用、そもそもルールをわかっていますか？と質問をしました。ルールで認められている権利です。きちっと説明してもらえれば何も不満はありません。わかっていて出来ない審判もいるでしょうと思うだけです。わかっていないはダメです。
ではなぜ私はこんなことをしたのか、だれでも嫌われたくはありません。そんなことをしなくてもその試合は勝ちます。子供達のためです。
ストライクをなかなか投げることの出来ないピッチャーのためにストライゾーンを広げれば、そのピッチャーのためになると思っている人がいるのなら、野球の世界から身を引いた方がいいです。練習不足、実力不足の選手を審判が試合で助けることは八百長です。そのピッチャーはそれでよしと思い、成長しません。
私はボールを振るバッターは、上に上がれないと思っています。打ちに行ってボールを止まれる。これが大事な技術です。その技術を選手に伝えなければいけません。しかし、主審がボールをストライクと判定すれば、振らざるえなくなります。バッターのレベルが下がります。

　野球にはルールブック（公認野球規則）があります。
一部団体によってローカルルールがあります。試合は必ずそれにもとづいてやらなければなりません。
選手のレベルが高かろうが低かろうが、一日に何試合あろうが、状況によってそれがゆがめられることがあってはならないと思います。だれもが全てを知っているわけでも、まちがいなく出来るわけでもありません。
そんなことは私は、百も承知しています。まちがっていればそれを認め、反省し、練習し、上達すればいいだけのことです。
選手たちは努力し、頑張っています。その子ども達の努力に応えるのが大人の仕事です。
私も含め子ども達にかかわっている全ての大人はやってやってるではなく、やらせてもらっているのです。
人間はだれでもまちがいます。
しかし、子どもにかかわる大人はひとつもまちがわないという心がけというか、責任があるのではないでしょうか。子ども達の努力に負けないように、指導者も審判も努力を重ねなければいけないのではないでしょうか。

私はルールでわからないことがあると必ず調べ、ベテランの審判さんに聞き、必ず解決するようにしています。
文部科学大臣杯で段原のピッチャーがセットポジション時、グローブを止める位置がのを注意されました。ルールブックのどこを見てもありません。わからないので調べたら、軟式野球連盟はひとりの打者に投げている間変えてはいけないという、申し合わせのようなものがあるということがわかりました。
勉強になりました。
わからない、出来ないことがあれば調べたり、教えていただいたり、練習したりすれば自らの成長につながります。人から意見されることはありがたいことです。
自分にとってプラスにできるのか、マイナスになるのか、とりかた次第です。

第３９９話/2020.10.5

１０／３（土）、４（日）に行われた文部科学大臣杯の県大会は、私の予想通り府中オーシャンズが優勝しました。新チームを数チーム見た中で頭ひとつどころではなく、３年生のチームの中に入っても充分に戦える力を持っていると感じたチームは府中オーシャンズだけ、とんでもないことがおこらない限り優勝するだろうし、全国大会には広島県の代表として行くべきチームだと思いました。他のチームが行っても広島県の代表として、胸を張って参加できる力はありません。
段原クラブはそれ以前の問題、中学生としての平均レベルに、全てが達していません。

野球は体（体の大きさ、スピード、パワー）、技（技術）、心（ピンチやチャンスでの心の強さやあきらめない気持ちなど）で勝負しますが、新チームのメンバーはほぼ全て中学生の野球で上に上がるレベルにありません。当然県大会に出場すれば、みじめな戦いになります。
松永ヤンキースと６対１、ヒットは１０本対３本。大人と子供、中学生と小学生の試合でした。
新チームになってからの数試合全て、どんな投手に対してもバッティングはこの程度です。
そもそものバットを振る力がありません。技術を身に付ける以前の問題です。
私は段原クラブに入部してきた時に「全員まず体を作りましょう」、毎日体を作るための食事とトレーニングが必要だと話をします。
本来グランド以外の時間でやるべきことだと思いますが、現実には出来ないようです。
では、どうすれば良いのか。
グランドで強制的にやらすしかありません。
練習時間は限られているので、技術にかける時間がけずられることになります。
バッティングの数、ボールを捕る数、投げる数が減ります。
しかたありません。自分達がやるべきことをおろそかにしてきたからです。

私は段原クラブは今、チーム存続の危機をむかえていると思っています。
中学生の軟式のクラブチームは何のためにあるかを考えてください。
軟式野球は、中学校の部活動でもやっています。では、なぜ？
中学校の部活動ではいけない世界（野球は体と技術と心のスポーツ）、体も技術も精神力もそこにたどりつかなければ存在価値がありません。
高校野球でいえば、甲子園を本気で目指している。野球校と言われている学校であり、どこにでもある県立高校の野球部ではないということです。
その意識が段原クラブの部員、保護者にありますか？
無いのなら中学校の野球部で良かったのではないですか？
段原クラブをクラブチームとして存続させるために今のままではダメなのは、ハッキリわかりました。入部してくる選手の能力が前にもましてあまりに低いので、これまで以上に練習するしかありません。せめてキャッチボールやベースカバーぐらいは、小学校の時に覚えて欲しいと思います。

県大会でもあらためて思いましたが、軟式野球連盟のストライクゾーンはなぜあんな

に高いのでしょう。ルールブックによれば、打ちにいった姿勢のバッターの肩とベルトの中間点が上限となっています。
なぜその上のボール、たとえば肩のラインを通ったボールをストライクと言うのでしょう。
ルールが変わったのですか？そもそも審判がかまえた時、ほぼ全員がバッターの肩の高さに目のラインを合わせています。私は高めのラインに目の高さを合わせるように習ったので、その時点でまちがっていると思います。
それとも何か意図があって、わざと高いボールをストライクにしているのでしょうか。
私は県大会で負けた理由が、それだと言っているのではありません。段原クラブの投手もレベルが低いので、ルール通りとられたらそれ以上に失点していたでしょうから、それが理由ではありません。私が言いたいのは試合の勝ち負けではなく、ルールブックに基づかないでなぜ試合をするのかが理解できないからです。
何のためにルールがあるのか。なぜその通りに小学生も中学生もやらないのか。本当にわからないからです。それともあれが本当にストライクだと思っているのですか。横からの映像で勉強するべきです。まさか、ストライクゾーンを広くとることが子供達のためになると思っているのですか。野球指導のプロとしてハッキリ言います。だれのためにもなりません。子供達の野球のレベルを下げるだけです。
あっ、ひとつ、試合の進行が早まるので審判が早く帰れますね。まさかそのためではないですよね。ストライクゾーンがわからないにしても、早く帰るためにしても、審判をする資格はありませんよ。
ルールブック通りに試合をしましょうよ。
子供達は日々努力しています。審判もしましょうよ。
本当にお願いします。子供達のために！！

第３９８話/2020.9.29

私はよく、厳しいとか怖いとか言われます。
怖い？みなさん本当の怖さを知らないのではないでしょうか。
同じ量練習させてもらえないとか、監督や指導者から声をかけられることもなく、試合に出ることもなく興味のない状態、いわゆる切られた状態。この方がよっぽど怖くありませんか？
人数がたくさんいるチームは、試合に出ることのできない選手が多いということです。
レギュラーは９人、これはルールで決まっています。
それ以上の部員がいれば全てレギュラーではないということです。その中でレギュラーではない選手達がどんな練習をしているのか、試合に出るチャンスはあるのか。
勝つことが第一の目的のチームは、控えの選手が上達する必要はありません。

高校野球で考えてください。よく言われている野球校では、お金を払っている選手は練習せず、お金を払っていない選手（特待生）が中心で練習・試合をしています。おかしくないですか？
こういうのを本当に怖いといいます。

勝つために選手（子ども）を切れる監督・指導者を本当に怖い（厳しい）といいます。
私を厳しいとか怖いと思っていたら、それは甘いということです。

野球は技術・パワー（重さ×時間）・知力でやるスポーツです。
新チームの選手は当然、技術は未熟でパワーはありません。
では、何を使って勝負するのか。知力です。
そのために段原クラブでは、状況に応じた野球の考え方を指導しています。
判断する材料として、イニング・点差・アウトカウント・ランナー・打順があります。
状況判断テストもやっています。にもかかわらず、守備中相手の打順がわからないバッテリーがいたり、打つべきカウントと待つべきカウントのわからないバッターが数多くいます。
これは小学生の時に守備位置から、打つか待つか、あらゆることをベンチからの指示だけで試合をし、自分で考えるくせをつけてこなかったツケです。（指示待ち）
自ら考え、自ら判断し、自ら行動する。私はそういう野球を目指しています。
前にも書きましたが、夢かもしれませんが、私がベンチでだまって座っていたら県大会で優勝しました。そんなチームになって欲しいと思っています。
そのために、練習や練習試合では厳しくも怖くもなります。口うるさく言い続けるのです。
全ては、彼らのこれからの野球人生にプラスになると信じているからです。

言い忘れました。
もっと怖い指導者は、間違ったことを子ども達に伝える指導者です。小・中学生で間違うとたいへんな遠まわりになります。
間違ったことを伝えるぐらいなら、何も言わない方がましです。

第３９７話/2020.9.23

9 月 21 日（祝）3 年生の段原クラブでの最後の大会（甲山ジャガーズ招待）がありました。優勝して終わりましたが、選手達が持っている力からすれば物足りない 1 年間でした。特に中心選手（下級生時から試合にたくさん出ていた選手）は、とても不満の残る 1 年間でした。段原クラブは例年「最後が一番強い」と言われています。正しい技術を正しい練習で身に付けていくので当然のことです。それが今年に限って（私の記憶では初めて）最後が 1 番強くありませんでした。私は理由を考えてみました。コロナ禍の中でも段原クラブはしっかり練習はしました。指導者はしっかり指導しました。正しい技術を伝えています。今までの年と劣っている所はありません。ではなぜ、春から夏に成長することが出来なかったのか？「素直な心」が欠けていたことが 1 番大きいと思います。言い換えると信頼とも言えます。これは選手だけの問題ではなく保護者もですし、もちろん 1 番は信頼されない私の力不足が大問題だということです。他チームから段原クラブといえば本当に良くバットを振るチームだったのに今年はバットが振れませんね。と、3 年前から言われるようになりました。何が変わったのでしょう。環境と指導者は同じ、変わったのは選手と保護者です。選手の質が落ちたのでしょうか。入部してきた 1 年生の時はあまり変わらないように思いますが、3 年間の過ごし方が甘い家庭が増えているのではないでしょうか。段原クラブは中学生の 3 年間しっかりと基本を身に付け、体と心を鍛え高校野球で活躍出来る技術を

身に付ける場所です。3 年生のみなさん、あなた達はまだまだ段原クラブのスタンダードまできていません。10 月からの半年は高校で野球をするためにとても大事な時間となります。どのように使うのかはあなた達次第です。高校に行って胸を張って「段原クラブから来ました」と言えるように今まで以上の努力と技術に対する謙虚さを望みます。

新チームは県大会 10 月 3 日（土）に向けて連休中練習し、練習試合 3 回目に臨みました。外野手を 3 塁手にコンバートして少しでも打てる可能性のある選手を使いたいと思って試してきましたが、残り 2 週間では間に合いません。断念することにしました。彼の将来を考えた時、内野手をやるべきなのは今も思っています。これは県大会が終わって、一冬かけて取り組むこととします。まず今は守れること、失点を防ぐ、これに集中して 2 週間練習していきたいと思います。勝つためには、どこまで行っても野球は守備です。私はプロの指導者なのでそんなことは百も承知です。でも打った方が楽しいのも事実です。だから段原クラブはバットを振ります。スクイズもヒットエンドランもしません。私はそんな野球で勝ちたいと思っています。そのために 1 番重要なことは点を取られないこと。野球選手としてあたり前のキャッチボールを正しくすることだと思います。たくさんのミスが練習試合で出てくれて良かったです。

第３９６話/2020.9.14

9 月 13 日（日）新チーム 2 度目の練習試合をしました。土曜日の予定でしたが雨のため、広島スターズの配慮もあり次の日に試合をすることが出来ました。朝からグランド整備していただきありがとうございました。先週の府中オーシャンズ戦に比べて 2 度目ということもあり、少し落ち着いた試合になりました。エースとして期待している岩本はまだまだコントロールに安定感がないのでフォームを正しく修正する必要があります。変化球も含めもう少し指導する必要がありそうです。バッティングは 2 試合でタイムリー3 本。1 番・3 番・4 番チームの中心になるだろうと思うバッターが打ちました。まあ、そんなもんでしょう。脇役の選手のレベルアップがチーム力の向上ということになります。今、新チームに打力を期待するのは無理があるので、まず守って下さい。ピッチャーが打ち取った打球を確実にアウトにすることが出来るようにして欲しいです。そのあたりはスターズと比べて完全に負けています。キャッチャーは、1 年前からの大問題本当に少しずつ少しずつ前進はしていますが、バッターの打順がわからないなど小学生以下のレベルなのでまだまだ長い旅になります。このレベルの選手をなんとか出来ると、私の指導者のレベルも上がるのだと思います。

先日、あるチームの監督・コーチから、子供達の試合で「それやっちゃだめでしょ」っていうプレーをさせているチームがあると聞きました。1 塁手が打者走者がベースの手前でスピードを落とすように打者走者が走ってくる所に出てかまえるとか、盗塁した時 2 塁ベースに入った野手がベースをブロックするとか、これらはいけないことですが、ルールでペナルティーがありません。審判が 1 度目は警告を出すことはありますが、それだけなので警告が出るまではやるように選手に指導しているそうです。私は耳を疑いました。指導者は選手の体を守らなければなりません。あきらかに選手の体が危険にさらされることを勝つためにやらせる指導者がいるそうです。死球をよけるなと言うのも同じことです。これが本当なら当然 1 番の問題は指導者にあります。次は試合をジャッジしていた審判にあります。そして、そのチームの保護者にあります。私が保

護者なら、そういう指導者のいるチームに自分の子供は預けません。この話が本当のことなのか思い過ごしなのかは、私はその試合を見ていないのでわかりませんが、同じ中学校の子供がそのチームの選手に聞くと、指導者からやるように言われているということなので子供が作る話だとは思えないですよね。もし本当にそんなことをやらせている指導者がいるとしたら、子供の野球から身を引いて下さい。誰のためにもなりません。それからそのチームのみなさん、ランナーが出た時、相手ピッチャーに対してベンチから奇声を出したりしてピッチャーを威嚇しようとするのもやめなさい。そんなことをしているから、いろいろなことを疑われ、あのチームは勝つためには手段を選ばないと言われるのです。子供の野球が何のため、誰のためにあるのかもう一度よく考えましょう。チームの勝利が 1 番ではなく、個の力を伸ばすことが 1 番です。そのためにそういうことは必要ではありません。何度も言います、少年野球は個の力を伸ばし次のステージに上げるためにあります。

私も 60 歳を越えて人生の最終ステージに入りました。小学校に入学する前から野球を始め 50 年以上ずっと野球にかかわってきました。今、段原クラブで監督をさせてもらったり、フルスイング塾で子供達にバッティングを指導させてもらって良い時間を過ごしていますが実は夢があります。体が動かなくなる前に一度、高校野球の監督をしてみたいです。私がプロ野球選手だった頃にはとても高いハードルがあり、なかなか実現は難しかったのですが、今、私の仲間が多く監督として活躍しています。きっととても大変な仕事なのでしょうがすごくうらやましく思います。これはお金のためではありません。私は日本全国どこでもどんな高校でもやらせていただけるのなら、お金は一銭もいりません。私がずっと思っている高校野球の？例えば大好きな野球が高校野球でなぜ嫌いになってしまうのか？なぜ技術論よりすぐ精神論で野球を語るのか？など経験してみたいです。私は教育者ではありませんし、人間として欠陥だらけなので難しいとは思いますが、日本中どこの高校でもかまわないので「1 回やらしてみようか」って学校あったらいいなと思います。「夢に向かって努力」と子供達に言っていますが、私はそのために何をしているのでしょうか。今精一杯段原クラブの選手達と野球をしています。

今日書いたチームの話は本当にそうなのかはわかりません。何もなければそれに越したことはありません。無いことをもちろん望んでいます。私が言いたいことは「子供達のためになることを大人はしましょうよ」それだけです。

第３９５話/2020.9.7

9月5日（土）新チーム（1、2年生）として初めての練習試合を府中オーシャンズとしました。初試合ということを割り引いてもここまで何も出来ないかと想像を越えたみじめな試合でした。前から言っている通り、新チームの選手は体が小さく細い、体がまず大人と子供、2 年生の場合段原クラブに入部して1年半、ずっと言い続けていますが、本気で取りくまないと、1年間みじめな試合を繰り返し、野球人生が終わるということになるでしょう。この内容を突き付けられたのですから、あきらめて道を変えるか、今までの野球人生とはまったく違う日常に変えるかどちらかです。みじめな試合を続けるチームをずっと試合に使い続けるという考え方は私にはありません。当然チャンスを下級生に移すということになります。指導者として切るという選択をするのは、変わらない、変わろうとしないという選手です。例えば、いつまでたっても高いボールを投げ続けるピッチャーとか、いつまでもストレートに遅れ続けるバッターとかです。練習は変わるためにします。変わらないのは練習していないということです。

9月6日（日）広島西地区協議会のリーグ決勝大会がありました。今年の段原クラブは大事（大きな）試合ではまったく力を発揮しませんが、このレベルでは負けることはありません。準決勝、決勝両方コールド勝ちをしました。えらそうに聞こえると思いますが、1 点も取られませんし、今の協議会のレベルだと段原クラブとしては、当然の結果です。野球人として冷静に判断して、今年のチームは広島県 3 本の指に入る実力を持っていると思っています。ただ試合で出せるか出さないかだけ、舞台が大きくなければある程度出し大きな舞台だと出せない、心やさしい勝負の世界には向かない、選手達です。私がそういう選手だったのでしょうがないのかなとも思っています。

常におかしいと思っていることを 2 つ書きます。大会にはトーナメント表があり開始時間が必ず書いてあります。第 1 試合 9：00 必ず早く始まります。というより、審判、関係者が早く始めようとします。全の大会です。なぜですか？たとえば 9 月 6 日（日）のように、天気予報が午後から悪いなど、早く始める具体的理由があれば納得です。もう一度、なぜですか？私達は試合開始時間に生活を合わせ集合して試合の準備をします。15 分早く始めなければならないのなら、なぜ 8：45 開始にしないのですか。私にはまったく理解出来ません。少年野球（子供の行事全て）は、参加する子供達のためにあります。そこになぜ大人の都合が入るのでしょうか。私の野球人生の経験から言わせてもらうと、開始が遅れるのはありですが、早まるはなしです。電車、バスなどの運行と考え方は同じです。もうひとつは前に書いたことがあると思いますが、ランナーが1塁に出るとベンチの全員で「ゴーゴー」とうるさいチームが数チームあります。私は「何のため」と思いますが、たぶんピッチャーにプレッシャーをかけてコントロールを乱したり、球威が落ちたりすることが目的だと思います。それって子供のためになりますか？子供の野球には個の力をつけて、個のレベルを上げるためにあります。そうでなければ高校野球につながりません。相手ピッチャーの力を落として打ったり勝ったりしても子供達に何も得るものはありません。ただひとつ勝つということで指導者の鼻が高くなるだけです。さっきの話とおなじで子供達のためにある野球が子供達のためにならないのですから意味の無いものになります。ランナーが球種のサインをバッターに出したりランナーコーチがサインをのぞいて声を出したりするのも同様です。試合に勝つことにはつながるでしょうが、何ひとつ子供のためにはなりません。こういうチームがまだまだあります。私はプロですから試合中にわかりますが、早くやめた方がいいです。嫌われると思いますが書きます。大差がついた試合で負けてるチームの選手が、ランナーが出て「ゴーゴー」と言っているのを見て悲しくなりました。そこで走って何になるの、そんなことも知らない分からないで野球をやっているの、クラブチームですよ。それも試合後半、1 塁手がベースに入る必要もない状況、？しかないです。同じように大差で負けているのに無死 3 塁で内野ゴロ（3塁ゴロ）でホームに走ってアウト、こういう所の野球の状況判断のセオリー（常識）は伝えないとクラブチームとしての価値はないと思います。ただ打つ、走る、投げるが野球ではありません。

1、2 年生のみなさん。力（パワー）、スピード野球は両方いります。無いのなら、たぐいまれなる技術が必要です。何もなければグランドに出て勝負しても結果は見えています。全て何もしないで手に入れることは出来ません。つらく苦しい思いが必要です。どうしますか？

第３９４話/2020.8.31

まず、前話（393 話）の中でのベストチームはベストゲームの誤りです。私はパソコンの操作にうとく訂正出来ないのでここで書かせていただきます。

8 月 30 日（日）1 年生の段原カップをしました。段原クラブの中には、本来何年生の試合という考え方はありませんが、1年生の試合は段原クラブの試合に出ることの出来ない、技術の未熟な 1 年生に練習だけでは味わえない緊張感や楽しさを経験してもらい、自分自身のチーム内での今の立場、他チームの同級生との比較でこれからの練習で身に付けなければいけないこと、今のままで大丈夫なのかなど、今を知り考えてもらうためにやります。今年は 3 回 6 試合しました。何か見えましたか。9 月には 3 年生は試合を終わり、新チームに移行します。1 年生だけの試合はもうありません。次は 1、2 年生の中で実力をつけ試合に出られるようにしなければいけません。入部から約 6 ヶ月 1 年生の中ではっきりとした実力（技術・体力）の差が出てきました。これは明らかに練習量の差です。まずケガ、練習が満足に出来ない体では勝負になりません。チームの練習では、同じ量をやって故障をする選手としない選手がいます。ほとんどの場合小学校でやっているようですが、体が弱い選手はうまくなりようがありません。たくさん練習しても壊れない体、長く野球が続けられる第 1 条件です。

1 年生の試合をやっていたグランドに、先日高校 3 年生の試合に出場してくれたある選手の両親が（段原クラブではない）お礼を言いにきてくれました。選手、保護者が満足してくれたようでした。ひとりでもふたりでも良い思いをしてくれたのならやった価値がありました。

1 年生の試合をやっていたグランドに、先日高校 3 年生の試合に出場してくれたある選手の両親が（段原クラブではない）お礼を言いにきてくれました。選手、保護者が満足してくれたようでした。ひとりでもふたりでも良い思いをしてくれたのならやった価値がありました。

保護者のみなさんに知ってもらいことを書きます。段原クラブでは荷物車というワゴン車を持っています。普段は練習で使う道具を積んでいます。渕崎グランドを中心にして練習していますが、違うグランドを使うこともありますし、試合の時には 2 ヶ所、3 ヶ所に分かれることもあります。その場合、荷物を積み変えたり、試合用の道具を入れたりする作業をしなければいけません。試合用の道具は私のフルスイング塾の 2 階に置いてあります。テントなどたくさんの荷物があります。荷物が勝手に車に乗ってはくれません。誰かが積み変えます。1、2、3 年生の保護者全員理解していますか。私が見ているかぎり、いつも同じ人がやっているように感じます。保護者ひとりひとり、いろいろ事情が違い出来ない人もいるでしょう。ただ、誰かが必ずチームのために動いていることは忘れてはいけません。一言「いつもありがとうございます」「なかなかお手伝い出来なくてすみません」これが必要です。ダメなのは知らないことです。もっとダメなのは知っていて知らないフリをすることです。少し保護者から不満の声が耳に入るようになっています。「チーム」この意識が大事です。全員が出来なくてもやってくれる人に感謝、言葉があればすむことです。保護者のみなさんよろしくお願いします。チームは子供達のためにあります。親も子供のために存在します。そしてチームに入れば我が子のためだけではありません。保護者はチームのために存在して欲しいです。段原クラブは私より年上のコーチが 2 人います。1 年生の試合に来て、試合前の練習を手伝い試合の間、大会終了後にはグランド整備を普通にします。これが段原クラブです。私がいつも言っている段原クラブの指導者は、私を除いて人としてすばらしい人達です。私は安心してまかせています。

第３９３話/2020.8.24

8 月 22 日（土）、8 月 23 日（日）2 日間、広島県軟式野球連盟少年部夏季大会という長い名前の大会が福山でありました。簡単に言うと、毎年行われていた瀬戸内大会が中止になり、そのかわりにしまなみ大会各支部予選で本大会出場を逃したチームを 16 チーム集めて行われた大会です。予選で負けたチーム、なぜ段原クラブがその中にいるのかと言えば、10 個のエラーをして予選で負けたからです。えらそうなことを言うつもりはありませんが、本来の力を出せば県内で 3 本の指に入る力を持っているので、予選敗退のチームの中に入ると試合になりません。1 回戦から 7 対 0、11 対 1、6 対 0、決勝も 7 対 0、優勝は当然します。県大会でのみっともない敗戦の後、私は今年のチームをいっさい信用しないことにしました。力は持っていますが、試合では発揮出来ない。何度も見せられたので、いちいち指示を出し、試合の中で勝つためのプレーを強制することにしました。勝つために試合をする。段原クラブではめずらしいことですが、今年の選手は自分で考えて、チームのためのプレーは出来ないので口を出すことにしました。本気で勝ちに行けば、このステージではあたり前のように勝ちます。なぜなら段原クラブだからです。その程度の力は持っています。優勝はしましたが、4 試合の中でたくさんの不備があります。特に中心選手、ミスショットが多すぎます。狙った所へ狙った打球が打てるぐらいのバッティングをチャンスではしてほしいです。そのぐらいの技術は伝えていますし、出来る選手だと思います。まだまだ欲に勝てず自分本意のスイングをします。「チャンスでヒットは簡単に打てますよ」中心選手はそういうものだと私は思っています。それでなくては、甲子園を目指している高校で中心選手として活躍するのは難しいのではないでしょうか。えらそうにと思う人もいると思いますが、私の本心です。

8 月 15 日（土）高校 3 年生の試合後、保護者の方達とお酒を飲みました。その席である保護者の方からお礼を言われた時、私は酔いもあり、受験勉強で出場出来ないようなことを聞いていたので、「たった 1 日ぐらいで受かる受からないって問題じゃないでしょ」「初めは出ないって言ってたじゃないですか」など嫌味を言いました。すると、「監督と野球をするのに、練習しないで来れません。1 日ではありません」と言われ言葉が私に突き刺さり、時間が止まりました。私は、腹を立てていたことを申し訳なく思い、次に嬉しさが込み上げてきました。そして彼らと野球をしていた中学時代の楽しさや、お金と時間をいくらかけてもいいから、彼らのために何かしてやりたいと思った理由など全てを理解しました。段原クラブ史上最も少ない 7 人の部員でひとりも退部せず、全員が高校野球も 3 年間全うし、私が選ぶベストゲームには負けた試合が選ばれた選手達、私がいつも言っている負けた試合で人の心を動かせる選手、それが彼らでした。そしてその保護者達。野球の技術は今年のチームには及びませんが、私が目指している段原クラブ。選手、保護者が指導者を信頼し、指導者は子供達を愛おしく、だからこそ厳しく接する。上達するために努力を重ね少しずつでも登っていく、試合ではチームのために心を込めて全力を尽くす。私はきっとそんな子供達と野球がしたくて、いろいろ理由をつけて高校 3 年生の試合をしたのかもしれません。
あらためてお礼を言います。高校 3 年生のみんなありがとう。段原クラブは、負けた試合で心からの拍手をもらえるチームになりたいと言い続けています。よくあるボロボロで負けているのに「頑張った」とか、あんなうわべの薄っぺらいものはいりません。『本物』野球も心も本物がいいです。

第３９２話/2020.8.16

8 月 15 日（土）段原クラブ出身の高校 3 年生 7 名と他チーム出身の 3 年生を 30 数名集めて、鶴岡一人記念球場で保護者のみなさんと本人達が高校 3 年間を納得して終わってもらうための試合をしました。良かったのか意味があったのかは私にはわかりませんが、本来、私や段原クラブがする仕事ではなく、各高校の野球部が最後の責任をもって、3 年間全うした子供達と協力してくれた保護者に対して礼をつくすべきだと思います。今年はコロナでそのあたりが出来ていないのではないかと思い、段原クラブとして動いてみました。チームとして、個人として、1 日でしたが精一杯応援させてもらいました。何がベストなのかわかりませんが、まずやってみる私の考え方です。段原クラブの 3 年生と保護者のみなさんには暑い中協力して頂きありがとうございました。呉商業の野球部にも大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。

さて、段原クラブの今年のチームですが、県大会も惨敗しみじめな試合が続いています。相変わらず投手を含め守備のミスで失点し、どうでも良い時にヒットを打ちますが、ランナーを置くと何も出来ないの繰り返し、県大会も 7 イニングでヒット 7 本、四死球 3、エラー1、11 人のランナーを毎回出し無得点、1 年間同じことの繰り返しです。ミスを繰り返しても学ばない、変わるために工夫・努力をしない。これはチームに対する背信行為です。たとえば送りバントが出来ない選手がバントの練習をしない、当然出来るようになりません。それでも平気で試合にでます。バントのケースで打席に入った時に失敗します。あたり前です。それでも練習しないで試合に出ます。完全に味方ではなく敵です。敵がチーム内にいても誰も指摘しない、ミスをお互いになかったことのように流します。各自がやっていることに自信がないので、みんなで許し合うなあなあのチームになっています。いいかげんな選手が居心地の良いチーム、内野手の間をゴロが抜けていっても誰も飛びつくこともなく簡単に失点するチーム。今、段原クラブはチームの質として情けないぐらい落ちた状態です。責任はとれませんが試合は出たい。あたり前のことはしませんが試合は出たい。迷惑をかけないように努力はしませんが試合は出たい。チームのために仕事はしませんが試合に出たい。自分がヒットを打つことしか興味はありませんが試合に出たい。チームの勝ち負けはどちらでもいいですが試合に出たい。ベンチで試合を見ていてこんな選手だらけに映ります。私は前からずっと思っている良い試合、良いチームは負けゲームで大きな拍手をもらえるチームです。負けたけど選手はベストをつくし持っている力を全て出し切り、よし次また頑張ろうと思える試合が出来るチーム。何をどのように子供達に伝えれば近づくことが出来るのでしょう。みんな自分自身が一番大切です。でも、自分以外の誰かのために何かのために努力する。自分はもちろん他の選手にも厳しく接する。段原クラブは本気ではない選手が居心地の悪いチームになってほしいと思います。それがチームのため自分のためだと思います。今の時代難しいですね。なかなか伝わりません。

第３９１話/2020.8.3

恥ずかしい敗戦から 1 週間、しまなみ大会の敗者戦（8 月 1 日）協議会のリーグ代替試合（8 月 2 日）計 4 試合、県大会で使える選手と使えない選手をある程度見極める大事な試合でした。私が大事にしたいのは守備、ピッチャーでは四死球です。無四死球、ノーエラー、県大会で勝ち上がるために必要なことです。予選を勝ち上がってきたチームのピッチャーはそんなに簡単に得点できません。点を取られないこと、そのために 1 番になるのが、ピッチャーのコントロールと守備

力ということになります。
8月2日（日）の試合で3個続けてエラーをした選手を私はベンチから外し、練習に帰らせました。汚い言葉で罵り、試合中のベンチから排除しました。その場にいた、ライジングスとグリーンファイターズの保護者の人達は、私のことを血も涙もないひどい指導者だと思ったことでしょう。なぜ、ベンチから排除しなければならなかったのか、1 つ目は段原クラブが勝つために必要のない選手だから、言い方を変えれば他の選手の頑張りをひとりでゼロにしてしまうから。次に、野球（段原クラブの野球）をなめているから。彼は 1 試合目レフトに入り、サードベースカバーを2度いい加減にしました。その時私は、2度とも注意をしました。段原クラブの決まり事「大きな声を出す」「全力で走る」「ベースカバー」やろうと思えば誰でも出来ることはやる。これを怠っています。本来、その時点で試合に出る資格はないのですが、慣れないポジションだからと大目に見ました。そして、2試合目の無様な1イニング3個のエラー、3つ目は胸に来た送球、小学生でも取れる送球を落としました。私は野球を職業にしていたことがあるので、ミスをすることがあることはもちろん承知しています。エラーをしたから、ミスをしたから練習に返した訳ではありません。県大会を前に、全員が心をひとつにして、心を込めて野球に取り組まなければならない時に、チームの中心選手が心無いプレーをすることは許す訳にはいきません。野球が出来れば（チームの中心選手）少々気を抜いても許される。段原クラブではありえません。中心選手ほどたくさん練習し、厳しく指導され苦労するべきです。野球がうまいから試合に出るのがあたり前、私の中にそんな考えはありません。全員とは言いませんが、選手達は無様な敗戦をしっかり受け止め、反省し、練習しています。2 日間、4 試合、段原クラブの野球が少しですが出たように思います。選手達は、8月9日（日）県大会のグランドに万全の体調で立つ責任があります。私は今年の段原クラブは力を持っていると思っています。自身を持って試合で出す。まず、自分が自分を信じることです。

第３９０話/2020.7.27

私は今年の段原クラブに自信を持っていました。選手ひとりひとりが普通にプレーすれば、広島県で負けることはないだろうと思っていました。練習を見ていると力はありますし、練習態度も悪くない。昨秋の県大会でも内容は決勝以外あまり見るべきものはありませんでしたが、優勝しました。力を全て出さなくても負けない。一冬越せば本当に強いチームになると思っていました。そして今でもそう思っています。選手は力を持っています。しかし試合で半分も出せません。それともそんなもので、私の見方が間違っているのでしょうか。春からずっと試合の相手の選手を見て、負けるはずのないチームといい勝負になったり、負けたりします。試合の彼らは別人です。前から言っている「プレッシャー」私のせいなのでしょうか。私の目がおかしいのでしょうか。
7 月 25 日（土）のしまなみ予選では、なんと 1 試合 9 エラー（内スローイングミス 6 個）四死球 9 個選んで、ヒット 5 本打って 5 回で 3 得点、そりゃ負けますよ。小学生低学年の試合内容でした。私の野球人生で初めての経験です。もちろん段原クラブの 1 年生の試合でも、ここまでミスをした試合はありません。なぜ、こんなことになるのでしょう。ひとりがミスをすると、次から次へと止まりません。技術？心？私には経験が無いのでわかりません。野球は「頭と足でする」段原クラブで言い続けています。なぜ、段原クラブで 2 年半たって身に付かないのでしょう。私は試合後、本当に彼らのことを思い、野球をあきらめ勉強し、野球を続けるのなら普通の高校で

趣味としやることを勧めました。
段原クラブは正しい理論で正しい技術を正しい練習の中で伝えています。そして、今年の 3 年生も広島県内では十分に戦って勝てるだけの技術は身に付けています。しかし試合（公式戦）でそれをしっかり発揮できたのは 1 試合だけ、秋の県大会決勝だけです。後は 7 割出たこともなくほぼ 5 割、半分出せればいい所。先日の試合は 1 割も出せない、これでは勝負の世界で戦っていくことは不可能です。たくさん練習し、どんなにすばらしい技術、体力を身に付けても試合で出せない、持ってないのと同じことです。9 人試合に出場しています。せめて 5 人は自らの力を発揮出来なければ勝負になりません。ピンチの時に流れを止められる選手、チャンスを確実にものに出来る選手、チームの中心、リーダー、今年のチームには不在です。ああ、なるほど、私が間違っていました。今年のチームはひとりひとりある程度の力を持っていますが、ただそれだけのチームなので強くないです。私の勘違いでした。すみません。リーダー不在ではそもそもチームではありません。

第３８９話/2020.7.13

今年の梅雨は雨がよくふります。その中で 7 月 11 日（土）、12 日（日）久しぶりにしっかり練習が出来ました。A チームは日刊大会でミスが出たバント守備、もちろんバッティングもですが、もう一度基本をしっかり徹底し確率を上げなければいけません。野球人生を長くするために必要なことです。例年段原クラブは、ここから 3 年生がもうひと伸びするのですが、一部の選手を除いては今年はここまでかなという気がします。上を目指す姿勢が見えなければ早めに下級生に場所を譲ることもあると思っています。
7 月 12 日（日）太田川リーグがあり、秋からの新チームで今の所、戦力になりそうな 12 人を連れて行きました。私は久しぶりに B チームを見たのですが、スイングのスピード、パワーはもちろん A チームに比べて物足りないのですが、それ以外のピッチャー、内野守備、チャンスの時のバッティングなど、思っていたものより良かった所があり、新チームもなんとか試合の形になりそうです。1 年生の中に 2 年生にプレッシャーをかけられる選手が数人いるので、チームの中の競争という意味で良い環境にあります。逆に 3 年生の伸びが期待出来ないのは、本人達の考え方もありますが、下からのプレッシャーが無いということも大きな原因です。2 年生の奮起を大いに期待します。

7 月 11 日（土）の午前に、1 年生全員と 2 年生のピッチャーにボールを投げるということの基本の考え方と体の使い方（足・腰・腕）を、時間をかけて指導しました。スローイング（ボールを投げる）は、形（投げ方）（フォーム）です。正しく体を使えば必ず正しいボールが投げられます。よく肩が強いとか言いますが、確かに筋力は強い方が良いに決まっていますが、正しく投げれば誰でも（中学生）80m 以上は投げられるようになりますし、一番大事なコントロールも良くなります。ストライクが入らないピッチャーやスローイングの悪い選手は全て投げ方が悪いだけです。本来なら小学生の時から野球（ソフトボール）をやっているのですから、中学生になった時には正しく投げられるはずですが、段原クラブに入部してくる選手を見ていると、小学生の時に正しい投げ方（人間の体の作りに準じた）をしている選手は数少ないので、小学生の時に指導してもらうことは無理なんだろうと思います。野球の指導で 1 番難しいのは感覚を伝えることですが、その次に難しいのがスローイングです。野球を始めた時の最初が肝心。正しいボールの握

り方から丁寧に小学生の指導者のみなさん指導して欲しいと思います。キャッチボールに時間をかけて数多くボールを投げても、子供の肩と肘を消耗するだけです。スローイングを良くするのは、ボールを投げる数ではなく、あくまで正しいフォームです。中学 3 年生や高校生になり体が出来てからある程度の数投げるべきだと思います。良いボールが投げられないのは投げ方が悪いからで、悪い投げ方の選手に数多くボールを投げさせれば壊れるのは当然です。

段原クラブに今年初めて女子が入部しました。入部にさいして選手より親の方が覚悟がいったと思います。私は小さい頃からその子を見ていましたので十分段原クラブでやっていけると思っていました。良く練習をします。チームで一番声を出します。しかし女の子、野球となると段原クラブの中で勝ち残るのは簡単なことではありません。私は時々試合に連れ行きますし、背番号も 20 を与えています。保護者の中には俗にいう依怙贔屓（えこひいき）（私と保護者との付き合いが長いから）だと思っている人もいると思います。背番号の 20 はスタッフ全員一致です。私一人で選手の背番号を決めることはありません。私は常々、チーム 1 声を出す選手は試合に連れていくと公言しています。1、2 年生のみなさん、彼女に勝っていますか？誰でも出来るあたり前のこと彼女以上にやっていますか？試合中のファールボール 1 番にベンチを飛び出して取りにいっていますか？みなさん全てで完敗です。文句があるのならやってみろ、いつも言い続けています。「野球がうまい」は人間の持っている魅力、能力の中のたったひとつのこと、たいしたことではありません。野球のクラブチームとして、うまいは大事なことのひとつですが、段原クラブはそのためだけにあるのではありません。本気でひたむきに目標や夢に向かって努力を続けることで、人として心と体を成長させること、ここが重要でそのために妥協や手抜きやあきらめがあってはならないのです。やり続ける。「継続は力なり」です。逃げるな！！

第３８８話/2020.7.7

少し疲れています。

私は今、自分がやってきた野球に自信を無くしています。自分は指導力があるとずっと思っていました。勘違いしていたようです。段原クラブの選手がバットが振れて、他チームより打てていたのは、私の力ではなく、選手（子供）達の素材に恵まれていたからのようです。今年は練習をたくさんして、たくさんバットを振っています。それでも試合での結果にはつながりません。今年に入ってから、私の持っている引き出しを全て使い、いろいろな考え方、技術を伝えようと努力してきましたが変わりません。ここ１ヶ月、ずっとバッティングのことを考えていますが…。「練習とは変わること」変化する勇気、工夫、自分自身で自分をしっかり見つめ、自分を目指す選手に作っていく。1 年中同じことをくり返していてはいつまでたっても変わる（成長する）ことはないのでないでしょうか。レギュラーと控えの選手に明らかな力の差があり、レギュラーはのんびりしています。その力の差とは守備力と走塁です。私は常々レギュラーは守れる人からと言い続けていますが、控えの選手はヒットを打つことにしか興味がなく、守備と走塁の練習に時間をかけません。レギュラーの最低条件です。早く気が付かないと、野球人生これからもレギュラーになることはありませんよ。バント、右打ち、簡単にアウトにならないヒットを打てなくてもチームのための仕事があります。誰もがうらやむ身体能力を持ち、誰もがうらやむ高校から声をかけていただける選手、練習もよくやっています。まだまだ、段原には数人います。技術的には甘い所もありますが、中学生としては十分です。しかし、試合になると結果が出てないとは言

いませんがあきらかに物足りない、なぜなのか。自分の持っている力を信じていません。他人がうらやましい能力だと言っているのに、自分でそう思っていない。練習中、謙虚に努力を重ねるのは大事なことですが、試合は違います。「自分が 1 番」自身満々で相手を見下ろして、堂々とした態度でのぞまなければなりません。それがチームの中心選手の責任です。段原クラブの選手は全員ではありませんが、しっかり練習してある程度の技術を身に付けている選手がいます。その選手達は中学生として、自信を持って試合にのぞめるレベルにあります。私が言うのですから間違いありません。今年が例年に比べて劣っているとは思いません。私は本来試合で結果が出ない原因を精神力片付けるのは嫌いです。どこまでいっても技術が足りないのだと言い続けてきました。もちろん、私の目から見れば足りない所は多々ありますが、今年の広島のピッチャーぐらいなら、打てる技術は持っていると思います。変わるために練習をするのですから、変わるために私の指導のアプローチの仕方も少し変えてみようと思います。指導者は引き出しの数が勝負です。私にはまだまだ引き出しがあります。本気の選手には、今週末少し開けてみようと思います。あきらめたようなことを最初に書きましたが、選手があきらめない限り、私があきらめることはありません。

第３８７話/2020.6.29

6 月 27 日（土）61 才の誕生日を迎えました。チームで誕生日会を開いていただき、たくさんの方々が参加してくださり、ありがたいプレゼント（充電して首や肩、腰、ふくらはぎなどをマッサージする機械）もいただきました。さっそく使ってみました。次の日、足が軽くなったような気がしました。仕事で下半身がくたくたになるので、毎日お世話になると思います。保護者のみなさんありがとうございました。

27 日（土）の日刊大会は雨で順延になりましたが、B チームと C チーム（1 年生）が大野シニアと練習試合をしました。B チームは日曜日に太田川リーグがあり投手を連投させたくないため、少し大あじな試合になりましたが、1 年生も 2 年生も少しずつ野球のようなスポーツにはなってきたようです。言いたいことは数限りなくありますが、私の思っている程度には成長してきているようです。問題は A チームです。今年だけでなく、ここ 3 年段原クラブはバットが振れません。それ以前は、試合で負けることはあっても「バットスイング」「打球のスピード」「飛距離」「安打数」などで、ほとんど負けていると思ったことはありませんでした。

今年のチームは秋の少年部の県大会からスターズ大会、6 月 28 日（日）日刊大会 2 回戦まで 10 試合、大会で全て勝っていますが、打ち勝った試合は県大会決勝の坂中学戦のみ、他の試合は全て相手のミスで勝たせてもらっただけです。全く打てません。バッティング練習の数は減っているどころか増えています。体が小さい訳でもありません。日刊大会 2 回戦の西城シニア戦はたった 2 安打、チームで 2 安打です。中心選手ひとりで打つヒットの数です。普通アマチュアの中心選手は 1 試合 2 本ぐらいは打つでしょ。それがチームで 2 本。4 万円もするようなバットを使ってです。お金がもったいない。

ここ 3 年、毎日のように何を変えれば打てるようになるだろうといろいろな試みをしてみました。さっぱりです。ある保護者から私が練習中に甘くなったからだと思うと言われました。今、練習中に子供達はプレッシャーの無い中でバッティングをしていて、試合でプレッシャーがかかりバットが振れないのだという意見でした。私にはそもそも中学生のプレッシャー（圧力）がま

ったくわかりません。特に試合の途中で交代することが無いチームの中心選手になぜプレッシャーが？プレッシャー？中学生に失うものがあるのですか。負けても負けても次々に試合はあります。打てなくても三振しても次の打席があります。プレッシャー？まったく意味がわかりません。自信が無いのなら練習すればいいだけです。それでも自信が無いのなら、背番号をはずし、試合に出ないことです。怯えてるような選手が段原クラブのユニフォームを着て、試合に出られたら迷惑です。プレッシャーは失敗をすれば次の無い選手が感じるものだと思います。私はプロ野球選手だった時だけ、打てないと 2 軍に落とされるのではないかとプレッシャーを感じた事があります。その程度なので二流だったのです。スポーツ選手は技術・体力はあって当たり前、プラス心も強くなければ戦えません。たかが中学野球でビビっている選手、夢を語る資格ありますか？

また、ある保護者から試合中ずっと選手をほめてみてくれと言われました。どこを？何を？レベルの低い子供会のチームのように、ピッチャーがストライク投げるたびに全員で拍手しますか。平凡なごろやフライを捕った選手に「ナイスプレー」と声をかけますか。私に言わせれば、それは選手をバカにしています。何もほめていません。そんなレベルの段原クラブを求めてあなたは息子を入部させたのですか。私はプロの指導者です。良いものはしっかりわかります。そして当然良いものは良いとほめます。反面、悪いものは悪いとはっきり指摘します。なぜなら、それが子供のためだと信じているからです。

今年のチームは持っている力の半分も試合で出していません。私は、一人一人が普通に力を出せば広島県で 1 番だと思っています。それぐらいのことは教えていますし、力はついています。試合で出さないだけです。あとはあなた達の仕事です。選手ひとりひとりが自分の人生の中の野球をどの位置におき、どうしたいのか、そこがはっきりして自分のやってきた練習を信じ試合にのぞめばおのずと結果はついてくると思います。力の半分も出ていないのにとりあえず勝てているのですから、段原クラブのやっている野球は間違っていません。ただ来週の日刊大会の準決勝は力の 8 割ぐらい出さないと勝てませんよ。

第３８６話/2020.6.22

毎年この時期になると頭を悩ませるのが「3 年生問題‼」何かと言えば、力（レギュラーの力）の無い 3 年生をどう使うのかということです。秋になれば新チーム（1、2 年生）の試合があります。そのために試合経験が必要です。1 学年でしっかり試合のできる人数と力があれば、きっちり学年でチームを分けて試合をすることもできますが、下級生の中で 3 年生より力のある選手は、段原クラブの試合に出る権利があります。勝負の世界は力が絶対のものなので当然です。私は常々選手や保護者に話していますが、試合に出る方法は 2 通りあります。力（野球の技術、試合での結果）で出るか、情に訴えるかです。情に訴えるとは頑張ってるアピールです。練習量はもちろんですが、少しずつでも何でもいいので、上達（出来なかったことが出来るようになる）を見せることです。「頑張ってるな」「努力してるな」「これうまくなったな」などを感じさせ、私の心を動かす。ただ例年この時期になると、レギュラーとそれ以外の選手のモチベーションに差が出て、レギュラーの方が努力する選手が多いのが現実です。そのため、より力に差が出ます。その中で控えの 3 年生を試合の中でどう使っていくのか、私は苦しみます。私は B 戦で試合に出るのがベストだと思っていますが、3 年生にはプライドがあるため B 戦を嫌がる選手がいます。勝負の世界のあたり前の厳しさと、よく聞く学生時代の最上級生を使うべきという甘い考え方、私は勝負の世界の人間ですが、それをチームの中できちっとできないので、段原クラブは毎年ある程

度のチームにしかならないのだと思います。本当に勝ち上がるためには、心を鬼にして「力の無い選手を切り捨てる」考え方が正しいのでしょう。そういう点では、私は勝てる監督にはなれないのでしょう。本当はベンチで何もしないで「選手が勝手に動いて勝つ」ぐらいの技術を身に付けられればいいのでしょうが、私に今そこまでの力はありません。結局は私に指導者として絶対の力が無いので、毎年苦しむことになっている訳です。

6 月 21 日（日）プロ野球界の大先輩で、甲子園出場経験のある監督さんが試合を見に来て下さいました。自分の力を試されるようで、とても緊張しました。試合は勝ちましたが、バッティングの内容はボロボロ、試合中自分の指導力の無さが情けなく、とても恥ずかしく感じ、わざわざ見に来ていただいた先輩に申し訳なく、ただただ試合後に頭を下げました。試合後に私が気がつかなかったことをアドバイスいただき、選手達の技術のアップにつなげたいと思います。本当にありがとうございました。心からお礼申し上げます。後、9 ヶ月、胸を張って選手を高校に送り出せるように努力したいと思います。

今年は大会中止が多く、特に緊張感のある試合がなかなか出来ません。練習試合も大事ですが、しびれるような緊張感の中でする野球が子供達を成長させます。いつもと違う景色、違う相手、なんとか 1 試合でも多く出来るように大人の努力が必要になります。子供達に厳しいことをいつも言っている大人は自分には厳しく接し、子供達のために行動しなくてはいけません。3 年生のみなさん、段原クラブで 3 年間野球をする意味、私の甘さ、高校に行ってから気が付くと手遅れです。

第３８５話/2020.6.16

野球が出来るようになって数試合練習試合をしましたが、納得出来る内容ではありません。少しがっかりしています。ピッチャーの四球と守備のミスが昨年より増えています。冬を越して 1 番伸びる中学 2 年から 3 年のこの時期に成長を感じません。ピッチャーはストレートのスピードがアップしていませんし、変化球のコントロールも良くなっていません。私はケガが怖いのでボールを出来るだけ投げさせたくないのです。今までもそうやってきました。しかし、今年の 3 年生のピッチャーはある程度のリスクをおかしてもボールをたくさん投げなければ力がつかないのかもしれません。やり方を変える必要を感じています。

守備のミスは、身体能力の低さと、心の弱さだと思います。まず足と肩が弱い、野球選手としての基本の能力です。これも冬を越して伸びを感じません。足を速くする、肩を強くする、体・技・心の体の部分、これがおろそかになっていると思います。すぐに結果の見える練習はするけれど、1 年先、2 年先の練習が足りなかったツケです。段原クラブは入部した時に、チームの練習以外の時間で体作りをするように言いますが、なかなか出来る選手が少ないです。強制的にグランドでやらせばいいのでしょうが、私は嫌いです。それをしても自分で努力出来ない選手はどうせ高校野球で落ちこぼれます。落ちるのは早い方がいいです。無駄なお金を親に使わす必要はありません。力の差がつくのはグランド以外でつくのです。グランドでチームみんな同じ練習をしていて大した差になりません。特に段原クラブは、1 年生から 3 年生まで同じように平等に練習するので差をつけようと思えば、グランド以外でどれだけやるかです。

私は室内バッティング練習場を経営しています。この練習場を塾の営業時間以外全ての選手に開放しています。選手の中に必ず打ちにくる選手と、自分と（親）の都合のいい時に打ちにくる選手と、いっさい打ちに来ない選手がいます。打とうが打つまいが、私はどうでもいいと思っています。なぜかというと私の野球人生ではないからです。チーム内で力のある選手を中心にして試合をするだけです。いっさい練習しなくても試合で結果を出せる選手がレギュラーです。「努力」？きれい事を言ってもそれが野球界の勝負の世界の常識です。ただ打ちたいと言ってきても、私は断ることがあります。何があっても必ず打つという選手にとって都合（努力しているアピールのため？）で打ちに来る選手は邪魔です。人数が増えるとひとりが打てる数が減ります。どんなお店もひいきにしてくれる常連さんを大事にします。私の室内練習場は段原クラブに雨の日など貸しますが、ただそれだけで段原クラブとは関係ありません。レギュラーだろうが、中心選手だろうが関係ありません。段原クラブの活動ではないのですから、私が大事にするのは常連さんです。

最近 3 年生が野球の夢をあきらめたように見えるのは私だけでしょうか。あきらめず追いかけている選手は数人に見えます。だからこの程度の結果ですよね。野球はとても難しいスポーツです。身体能力はもちろんいります。強さ、速さ、柔らかさ、器用さ、そして頭（脳）の力全てが必要です。全てを持っている選手はまずいません。しかし全ての能力がいります。そのため練習（努力）はやることが無限にあります。そして技術に頂点がないので練習（努力）にも終わりがありません。たとえレギュラーになろうと、試合でヒットを何本打とうと、ピッチャーで完封しようが野球人生を終えるまで上を上を目指し練習（努力）し続けるしかないのです。とても苦しくてつらいことが多いのですが、こんなやりがいのあるスポーツはありません。成長をあきらめたのなら、（努力し続けることが苦しいのなら）後輩にチャンスを譲るべきです。プロ野球界でもチームで１番邪魔なのは力が落ちて態度の大きなベテランです。3 年生のみなさん、自分をもう一度見つめて下さい。今あなたは段原クラブを代表して試合に出るだけのものを持っていますか。そして今あなたがつけている背番号の責任を全うできますか。後輩達に胸をはって野球を語れますか。1、2 年生はあなた達の背中を見ています。段原クラブが価値のあるチームであり続けられるかは、3 年生のみなさん、あなた達にかかっています。

第３８４話/2020.5.27

何度も書きましたが、刺激が強すぎる内容のためアップしませんでした。

緊急事態宣言が解除されました。なぜか利用中止になっていたグランドが使えるようになり、思い切ってグランドで練習出来るようになりました。全国でひとりも感染者が出ていない野球場（グランド）を利用出来なくしていた大人の都合はよくわかりませんが、今頃になって外に出て太陽の陽に当たりましょうなどと言い出してビックリです。いよいよ経済が回らなくなり解除するしかなくなったということです。休業要請をしてもまったく困らない政治家・テレビのＭＣ・大学教授、コロナウイルスで死亡する人は減らすことは出来ましたが、勉強やスポーツを奪われた子供達と商売をしている人達は殺されました。

高校野球の中止はその代表的な例です。全国に高校野球のチームは約 3800、大学野球連盟に登録されているチームは約 360、約 10 分の 1 です。これだけで 90%以上の高校生は野球を高校で終えます。真剣勝負は二度と出来ません。ほとんどの選手は小学生で野球を始め夢を持ち、程度の

違いはありますが、高校 3 年間いろいろな事を犠牲にして野球に打ち込んできました。甲子園で優勝したチーム以外全て負けて高校野球を終えます。言い換えれば負けるために努力し続けます。私はそこに価値があると思っています。その負けて終わることをさせてもらえない。納得出来ません。どんな神経を持っている人がこんな決定を出来るのでしょう。

いつも犠牲になるのは子供達、全て大人の都合です。大人は「子供のため」のような事を必ず言います。違いますよね。責任をとる覚悟が無いだけですよね。「命が大事」そんな事は誰でもわかっています。高校生、死にました？どんな事にもリスクはあります。野球はケガ（故障）のリスクが本気でやればやるほど大きくなります。スポーツに人生をかけてやるということは体を壊す覚悟でやるということです。コロナウイルスにかかって 2、3 週間、スポーツをやっていればそれぐらいのケガはつきものです。それを怖がっていては、そもそもスポーツは出来ません。今回高校球児でコロナウイルスを怖がっていた選手がいたでしょうか。トップの覚悟、子供を生かすも殺すもトップ（大人）の覚悟だと私は思っています。

高校野球の中止のニュースをＴＶで見たとき、ＭＣがもっともらしい事を語っていましたが、何を言っても子供達には伝わりません。そもそもバットを振ったことも無い人が、高校野球を語ること自体が意味はありません。今回自分に何百億というお金があればと、あり得ない事ですが何度も思いました。私には何の力もなく子供達のために何も出来ない。情けなくて自分に腹が立ち、やりきれない気持ちです。誰かお金がありあまっている人、高校生に大会をやらせてくれ。本当にわかっていますか、大人は子供達のために生きるものですよ。私は野球だけ少し出来るのでそれを子供達のために使っています。

今、私は心が満足な状態ではないので、書いてる事が少しおかしなことになっているかもしれません。すみません。当然批判は覚悟の上です。段原クラブは野球のクラブチームです。野球が上達したい。野球を高校でも続けたい子供達のためにあります。野球をやらないはありません。やりたい子供がひとりでもいればやるのが当然です。なぜならば、野球をやりたい子供のためにある野球のクラブチームだからです。高校野球連盟に比べ広島県軟式野球連盟の皆さん、心から感謝します。中学生も全国大会は中止になりましたが、県大会までは時期をずらしてやっていただけます。本当にありがたいことです。「真剣勝負」これが子供達を成長させます。高校野球のようにおざなりの試合では、心は動きません。連盟トップの覚悟です。今回高校野球連盟の会長は歴史に名を残すチャンスを失いました。政治家もそうですが、大きな危機の時ほどトップの器量がためされます。今回、いろいろなものが少し見えたように思います。段原クラブＯＢの高校 3 年生、私には何の力もなく本当にすみません。かける言葉がありません。言葉なんかで君達が救われることはないでしょう。今、私はとっても不機嫌で段原クラブの選手に厳しくあたることが多いです。自分が高校 3 年生の立場だったらとか、高校 3 年生の保護者だったらどんな思い、どんな感情になるのだろう。考えるとつらくて苦しくて涙が止まらなくなります。野球を奪われた子供達がいます。段原クラブの子供達はやろうと思えばいくらでも出来ます。自分達がどれほど恵まれているのか、その中で少しでも気を抜いたプレーをする選手を見ると腹が立ってしかたありません。私は段原クラブという組織の中で責任のある立場にあります。その責任は部員達のためにあります。部員達が望んでいることに全力をつくすのが責任を果たすということだと考えます。グランドに出てきた子供達に全力で野球を伝える。野球というスポーツを勉強する中で社会とか人間とか、野球以外の事も身についていきます。3 月から 3 ヶ月も学校とスポーツを奪われた子供達は間違いなく、頭・体・心が弱っていきます。勉強をリモートでやればいいと言っていたバカな大人がいましたが、学校は勉強をするためだけのものではありません。勉強もスポーツも出来るに越したことはありませんが、人間の価値、魅力のほんの一部にすぎません。機械で人間

を成長させることはできないと思います。人間を成長させるのは人間です。「コロナ世代」こんな言葉でくくられることのないように大人がしっかりしなければいけない時です。子供達のために！！

第３８３話/2020.4.21

広島県にもコロナウイルスの非常事態宣言が出たことによって野球場が閉鎖されました。湯崎知事の要請の中に室外のグランドは含まれていないのに（野球のグランドで感染報告なし）理由が分かりません。私もコロナウイルスの感染は怖いこと、日本にとって大変な事態になっていることは理解しています。

また批判されることを覚悟で書きます。本気で止めたいのなら戒厳令です。公共交通機関全て止めましょう。ＪＲ、私鉄、地下鉄、全て動いている状態で８割減？無理です。仕事、全員止めましょうよ。やっていることが中途半端です。減っても動けばまた増える、この繰り返しです。仕事は止めてお金を配る、それでいいのかもしれませんが、子供達の野球は止めて、誰が補償してくれるのでしょうか。94%の球児は 18 歳で野球人生が終わります。趣味で続ける人ばかりです。8 歳で始めて 10 年、10 歳で始めて 8 年しかありません。その短い野球人生の中で 1 年なくなったら、大人の方々は考えていないのでしょう。人生の 8 分の 1 がなくなることを想像して下さい。今、何もしないのが 1 番良いのは私にもわかります。しかし経済は必要、動いています。スポーツ、勉強は必要ない、おかしくないですか。日曜日、使用停止になっているグランドに子供達が 50 人ぐらい（段原クラブの子ではありません）いました。何の統制もなく、バラバラの子供達が野球やサッカーをしています。きちんと感染対策をしているチームが使用する方がよっぽどましだと思いませんか。スーパー、ホームセンターにも人があふれています。グランドよりとても怖く感じました。責任を取りたくない大人がグランドの使用を止めたことにより、行き場のない子供達が誰でも入れるグランドやバッティングセンターに集まり、より一層リスクを高めています。室外のグランドは使い方を間違えなければリスクはないと私は考えます。子供達の野球人生はありあまる時間はありません。これは、勉強する時間も同じです。小学生・中学生の時にやらなければいけないことをやらない、やれない子供達は高校で苦労します。もっと言えば、高校野球はないかもしれません。

私はなぜ段原クラブというチームと、フルスイング塾というバッティング教室を立ち上げたのか、「子供達（野球が大好きな）に、思う存分彼らの求めるだけ野球の出来る場所を提供してあげたい。」その思いからです。野球教室でお金が儲かるのなら、とっくにカープのＯＢがやっていますし、私は運送会社でアルバイトする必要もありません。子供を利用してお金儲けをしていると言われたこともありますが、1 度やってみるといいです。儲からないことがわかりますよ。

野球を本気でやりたい子供が段原クラブにはたくさんいます。大人のみなさん、子供達のために今真剣に考えて下さい。何が本当に彼らのためになるのか、子供の野球は全て子供達のためにあります。私は、子供達のために必要なことに全力を傾けます。子供達が望んでいる限り、その望みの手助けをしていきます。大人の都合は、私の中で必要ではありません。何が言いたいかといえば、このままの対策で野球の出来る日がくるとは思えません。小・中・高校生のやり直し出来ない 1 年間を奪わないで欲しいということです。奪われた野球人生の補償は出来ないです。治療薬かワクチンが出来るまで、子供達から学校と野球は奪われると想像します。取り返すことは出来ないです。それが日本の中での正解なのでしょう。そして私は間違っているのでしょう。私

に何の力もないことに心が痛みます。東京、大阪の話ではありません。今の広島の話です。

第３８２話/2020.3.14

今年も、段原クラブの 3 年生は全員第 1 志望の高校に合格しました。クラブチームは野球が上達し、試合で勝つ事も大事な事のひとつではありますが、私は進路が 1 番だと思っています。そういう点で段原クラブとして責任を果たせたと思っています。

高校野球でいえば、甲子園に出場しても大学進学出来なかったり、進学しても辞めてしまったりしている選手が多い甲子園常連校の話をよく聞きます。野球部員を全員同じクラスにして授業中は寝ている、昼から野球をやっている高校があるそうです。高等な教育をするのが高等学校です。野球部はあくまで学校の中の 1 クラブ活動です。まず授業があっての野球、そうでなければ、それは野球専門学校です。野球が出来る選手は優秀だとか、それだけで進学できるとか、野球生活が出来る選手は本当にごく一部。子供達の将来を考えた時に、甲子園に出場するためだけの野球に意味があるとは思えません。夏の大会が終わった瞬間にはじけ、髪の毛を染めたり、ピアスをしたりしている選手を見ると、野球を通じて何の教育を受けてきたのだろう？高校 3 年間強制的に野球をさせられていただけで、何ひとつ自ら考え、自らのために、そしてチームメイトやチームのためのスポーツとしての学校教育の中の人間を作るための野球をやってこなかったんだろうなと思います。いつもいつも言い続けていますが、勝つために努力し、心と体を鍛えるための手段としてスポーツがあります。高校野球でいえば甲子園は終着点ではなく通過点です。私はそういう考えでやっている指導者に段原クラブの選手を預けたいと思っています。私の基準は野球ではなく人です。

コロナウィルスが原因で子供達から野球が奪われています。連盟から、練習禁止の通知がきました。しかし、試合の日程もきました。練習を禁止して試合？子供の体を守るのではないのですか？練習しないで試合はありません。子供達に必要なのは試合ではありません。練習です。まず練習です。屋外で感染した例はありません。中止にしているスポーツイベントは観客が心配だからです。子供達のために 1 日も早い練習解禁を希望します。大人の都合でいつも子供達がつらい思いをします。甲子園の中止は、選手の気持ちを思うと心の底から悲しいです。これは青春の色々な事を犠牲にして、ひとつの事に打ち込んだ事の無い人には分からないと思います。選手はコロナにかかろうと腕が折れようと、甲子園で野球がしたいと思っています。そのために小さい時から家族中で頑張ってきました。私は誰に何を言われようとやらせてあげたいと思っています。

第３８１話/2020.3.3

今回は批判される事を承知で書きます。

コロナウィルスの感染防止のため、小・中・高校が休校になりました。軟式野球連盟からも公式戦の中止と練習試合等の中止の要請がありました。なぜ屋外競技を中止にしなければならないのか、何かあった時責任をとらなくていいようにという事だと理解しました。私はすべて反対です。なぜか、感染を止める方法は経済を止める（人の動きを止める）以外ありません。日本では

それは出来ないので、無策と批判されたくない国（首相）が、とりあえず子供を止めただけです。テレビで話を聞いても何も具体的な話はありません。「全力で取り組む」誰でも言える事しか言っていません。何ひとつ案が無いまま、とりあえず学校を休ませただけ、無意味とまでは言いませんが、子供達は犠牲者です。学校生活は全て一生に一度の事です。段原クラブの選手達も中学 3 年生の大会は一生に一度です。中止にしてはいけません。まして、今やらなければいけない事がたくさんある中で、大好きな野球を奪ってはいけません。大人の都合でいつも子供達が犠牲になります。感染者ゼロの広島県がどうなったら再開するでしょうか。感染者が出たら、今の状況より悪くなるわけです。学校やスポーツを再開できるのですか？ゼロで止めるという事は、ずっとやらないという事ではないのでしょうか。誰が決めるのでしょう。私は本人だと思います。「二度とない中学時代」思いを残す事なく、やりきって欲しいと思っています。子供達の輝ける場所を大人が奪うような事はしてほしくありません。本当に時間が解決するのでしょうか。私は過敏に反応しすぎていると思います。

小学校4年生のフルスイング入塾から9年間見てきたある選手が、大学に巣立っていきました。身体能力に恵まれず、器用でもなかった彼は、とにかくバットを振りました。私が知っている選手の中では 1 番振りました。段原クラブの歴史の中で一緒に練習した時間は、息子の次だと思います。「野球を一生懸命やったら大学まで行かせてやる。」私は中学生の時彼に言いました。なんとかなるものです。大学の練習に行く前日まで練習に来てバットを振っていました。まだまだスイングは甘いところだらけでしかありません。ただ、ひとつだけ自信があります。彼は野球を嫌いになる事はありません。そして、あきらめる事もありません。だから必ず誰よりも練習をします。大学の監督さんは私のプロ野球時代の先輩です。プロ野球選手は野球が大好きです。そして、野球が大好きな選手を大好きです。必ず彼の事を大好きになってくれます。頑張るに決まっているので、頑張れとは言いません。9 年間イラっとくる事もありましたし、叱った事も多かったですが、大学進学はとても喜ばしい事ですが、なんか寂しいです。大学 4 年間、今まで通り全力でやってこい。その後は私がまた全力を尽くします。

第３８０話/2020.2.25

2 月中は試合をする予定はありませんでしたが、相手からの要望で 2 月 9 日（日）、15 日（土）2 度 4 試合練習試合をしました。

今の時期、数多く打ってはいますが、ピッチャーのボールを打っていないので、なかなか思い通りのバッティングは出来ませんが、それにしても内容が良くありません。ストレートに振り遅れる。変化球はスイング出来ない、スイングが大きくスピードが足らない、遠くに飛ばそうとする欲望が強く、コンパクトなスイングが出来ません。素人の野球の考え方、ピッチャーは球速や打球が遠くに飛ぶ事が良い選手だと思っているようです。野球でいう良い選手は確率の良い選手です。それを理解して練習に取り組まなければ、チームの役に立てる選手にはなれません。

2 月 23 日（日）、24 日（祝）広島スターズの招待試合に参加させて頂きました。

運よく 2 日間で 4 試合でき、優勝しました。しかしバッティングは相変わらずストレートを打ち損じ、納得のいくものではありません。全ての試合で相手チームのミスのおかげで得点できただけでした。

野球というスポーツはたくさんミスをするスポーツです。特にバッティングは一流選手でも 7 割ミスをします。（ミスだけでなくピッチャーに打ち取られる事もありますが）その中で、守備のミスは確実に敗戦につながります。守備は 10 割、難しいですがイージーミスは限りなくゼロに近づけなければいけません。ピッチャーは四死球・ワイルドピッチ、野手はピッチャーが打ち取った打球を確実にアウトにする事、特にやってはいけないのがスローイングミスです。なぜならスローイングミスはランナーを 2 ヶ所以上進めるため失点します。

今回の大会はそういう点で、段原クラブが他のチームに負けていなかったという事だと思います。

新チームになり、秋の大会ではっきりした守備の不安、私は、この冬は守備中心の練習になると書きました。段原クラブが結成以来、この冬一番多くのノックを打ちました。少しずつですが、それがチーム力の向上のひとつになったと思います。何度も何度も言い続けている、あたり前のプレーをあたり前にする。そのためにつまらない、苦しい基本練習を繰り返ししっかりやる。上達するための近道はそれしかないと思います。良い選手、良いチームとはそういうものです。

新チーム最初の文部 1 回戦で、屈辱の 0-5 負けから始まった今年のチームは変わるために、満足とは言いませんが、少しずつ努力してきました。それが秋の県大会の優勝や今回の優勝につながりましたが、選手個々は、まだまだやらなければいけない事が山のようにあります。今回の大会の優勝はチームとして良い事でしたが、ひとりとして個人的に満足している選手はいないと思います。

そうでなければ段原クラブの選手ではありません。**「野球の技術に頂点なし」**より一層の努力を期待します。それば君達のためです。そのために、私は厳しい事を言い続けます。

広島スターズの関係者の皆様、2 日間大変お世話になりました。

良いグランド、良い天気、良い対戦相手、子供達のためにすばらしい経験になりました。心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

第３７９話/2020.2.6

2 月 4 日（火）に、大学に進学して野球を続けるＯＢ2 人が挨拶に来てくれました。2 人共小学生の時にあまり良い結果に恵まれませんでしたが、段原クラブから甲子園に出場した事のある野球名門校で別々に 3 年間努力し、実績のある素晴らしい大学に進学し野球を続けます。大好きな野球を出来るだけ長くやってほしいと言い続けています。

高校を卒業して大学で野球を続けられる選手は約 6%、100 人中 6 人です。その中で大学まで野球を続けられる事に感謝し、努力してほしいと思います。慌てる事なく怪我に注意して下さい。

応援しています。

今年は 6 年生が 60 人以上体験に来てくれました。入部してくれた選手が多く募集を締め切りました。これもいつも言っている事ですが、部員の数が多いという事は試合に出るチャンスの無い選手が多くなります。ひとりの練習量が少なくなります。段原クラブでは、チーム力より個人の力を伸ばす事に主眼をおいています。野球を長く続けるためにはチームの力より個人の力だからです。

高校野球で中学校でのチーム力は何の役にも立ちません。全国大会に出場して入学はしやすくなるかもしれませんが、試合に出るためには個の力です。個の力を伸ばす、ひとりひとり部員全員の力を伸ばすために、練習が必要です。数が必要です。そのために、私は 3 学年で合計 40 人までと思っています。その人数に達したので締め切りました。身体能力のある選手がたくさん入部してくれば、当然チーム力は上がります。私はそんな事より「段原クラブで鈴木と野球がしたい。」そんな思いの選手とやりたいです。当然、先着順です。

たくさん入部してくれてありがたいですが、70%以上の選手には、否定された訳です。毎年ですが、この体験の時期は私と段原クラブがたくさんの小学生と保護者に否定されて落ち込みます。

段原クラブの練習と技術を経験して分かってもらえない。まだまだ勉強が足らないという事です。野球の技術に頂点が無いという事は練習方法にももっと良いものがあるのだと思います。今に満足する事なく、ひとりでも多くの選手が 1 日でも長く大好きな野球が続けられるように役に立てる指導者になるべく努力しなければいけません。段原クラブを選ばなかった子供達もぜひ野球を続けて下さい。

野球はとても難しいおもしろいスポーツです。少しでも多くの子供に野球の難しさを経験にしてほしいと思います。また、グランドで会えるといいですね。

段原クラブを選んでくれた 6 年生のみなさん、戦いは始まっています。野球のレギュラーは 9 人です。チームメイトはライバルです。まずチーム内の競争に勝たなければ試合に出られません。私に学年の概念はありません。力が全てです。上級生だからという理由でレギュラーにするつもりはありません。まず、体を作りましょう。3 年間で別人になりましょう。久しぶりに会った人に「変わったね」と言われるようになれば、必ず良い結果が出ます。3 年後のために、今練習しましょう。

第３７８話/2020.1.23

体験に来る小学生も一段落し、先週末は思い切り練習が出来ました。

入部届けも例年に比べて早く出ているようなので、人数はある程度揃いそうです。1 年生が 9 人なので新 1 年生は 15 名を目標にしています。1 人ひとりしっかり練習するためには、3 学年で 40 名以下でないと練習の数や内容が薄くなってしまうので、スタッフと相談してそうする方向にしました。

今年の選手は練習に取り組む姿勢が明るいので、活気のある練習が出来ています。やらされるのではなく、自らやろうとする選手が多く、私もグランドに出るのが楽しく感じています。体の大きさや持っているスピードに差がありますが、全員が少しずつですが、確実にレベルアップしてきました。まだまだ特に守備が物足りませんが、試合が始まるのが少し楽しみです。

これからより一層チーム内で競争し、チームの戦力となるレギュラーが何人出てくるのか、プラスになれる選手が多ければ試合は勝ちますし、マイナスになる選手が多ければ負けるという事です。

その中でチームの本物の中心選手（何があっても交代しない選手）が中心選手としての仕事をすれば強いチームになります。期待している選手が何人かいますが、誰が本物になるのか彼らの努力次第です。

1 年生は 2 年生と大きく力に差があります。これからの 1 年間、今まで以上の努力が必要です。新 1 年生も入部してきます。同級生も当然ですが、下級生に負けると出場機会を失います。まず

体作り、1にも2にも土台作りです。技術よりも体、1年間で体を変えましょう。食事と睡眠と練習（トレーニング）これしかありません。これが君たちの高校野球につながります。

第３７７話/2020.1.9

先日、ある保護者から選手の事で相談を受けました。
内容は、野球の実力が無さすぎて、チームに迷惑をかけているのではないかという事でした。「段原クラブで野球を続けていく資格が無いのでは」のような事を言われていました。
私は、自分が中学生の頃「自分が 9 人いれば絶対負けないのに」と思ったり、野球が出来ない選手をバカにしたような言動をしたり、プロ野球をクビになり子供の野球に携わるようになった頃は、結果の出せない選手は努力が足らないと思っていました。ただただ人間として未熟でした。

人間は他の動物と比較して個体差が大きいと思います。中学生では180㎝を超える子供から140㎝位までいます。体重もしかり、足の速さも肩の強さも様々です。
私はプロ野球選手になりました。中学 3 年生時には、身長 180 ㎝を超え、足も速く、遠投は118m、走高跳は 170 ㎝以上、バク転バク宙も出来、アイススケートやボウリングも同級生で 1 番でした。
これは全て親からもらったものです。私はプロ野球選手になるまでチームで 1 番努力した経験はありません。
私の息子は 174 ㎝、全ての運動能力は私より劣りました。しかし、彼は小学生から中学、高校、大学、社会人、独立リーグの野球人生で、私の数十倍努力を重ね社会人で日本一を経験しました。
どちらが人として素晴らしいのか、私は彼を尊敬していますし、自慢に思っています。
何度も書いていますが、野球が出来るかどうかなんていうものは人として、ひとつの魅力にすぎません。それほど重要な事ではないのです。野球が大好きでうまくなりたい、そのために努力を重ねる、それでもレギュラーになれないかもしれない、ヒットを打てないかもしれない、試合に負けるかもしれない、私から言わせれば「だから何？」大好きな事を思い切って頑張る。そして私はそれをお手伝いする。一緒に悔しがる、一緒に喜ぶ、持って生まれた素材があろうがなかろうがそれがどうした。誰でも頑張れる場所がある、チャンスがある、それが段原クラブです。
高校野球は誰が何と言おうと商売です。高校の名を売るための手段として野球があります。だから勝つために良い選手を集めます。そしてたくさん集めたチームが勝ちます。
しかし、少年野球は商売ではありません。チームが選手を選ぶ必要はありません。
段原クラブで、そして私と一緒に野球をしたいと思ってくれる選手と精一杯努力をする。打てなければ、捕れなければ、負ければ、また努力する。結果とは勝ち負けではなく、段原クラブを卒団していった子供達が5年後、10年後、20年後、どのような人生を歩んだかです。チームとしての価値は、歴史が証明するものです。
私は身体能力に恵まれていなくてもあきらめず、夢に向かって努力をしている 1 年生が大好きです。新1年生に負ける事なく、これからも続けて欲しいと思います。
あなた達があきらめない限り、私は全力で応援します。

第３７６話/2020.1.6

1 月 2 日、毎年恒例のＯＢ戦がありました。今年は、段原スポーツ少年団として発足して 25 周年、夜には記念祝賀会もあり、たくさんの人達に集まって頂きました。ＯＢ戦も祝賀会もとても楽しい時間を過ごす事が出来ました。みなさん本当にありがとうございました。また、会える日を楽しみにしています。ＯＢのみなさんは、学生も社会人も段原プライドを忘れることなく努力して下さい。保護者のみなさんは、健康第一、体に気を付けて下さい。

今年の冬はとても暖かく、良い野球が出来ています。段原クラブだけでなく他のチームも同じだと思います。この冬の課題は守備、守備のためには足です。すぐに変わるものではありませんが、続ける事だと思っています。今、しっかりと基本野球をやっておかなければなりません。その時期に 6 年生が練習体験にやってきます。

段原クラブは短い練習時間で集中してやりたいのですが、人数が増えるとそうもいかなくなります。体験に来ていただけるのはとてもありがたいのですが、選手の事を考えると少し複雑です。この体験の期間が早く終わり、入部した選手と集中して練習したいです。

選手のみなさん、打つことは楽しいし、たくさん練習しても苦しくないです。しかし、チームのため、自分のため、レギュラーになるためには守備です。

練習量、質、集中力、もっと守備にかけて下さい。必ずあなた達のためになります。

第３７５話/2019.12.31

最後の最後 12 月 31 日に書いています。

本年度はブルーサンダーズを辞め、バタバタした中でスタートし、問題が解決するまで 1 年かかり、年末にやっと一段落し、段原クラブに集中する事が出来るようになりました。新チームになり 11 月位から選手が少しずつ明るく野球に取り組むようになり、今、とても良い野球が出来ていると思います。チーム内の競争も見え、私はグランドに出るのが楽しくなってきました。ひとつ気になるのが 3 年生。卒団式の後、明らかに平日練習に来る時間が遅くなり、数人髪の毛を伸ばしています。段原クラブの練習は自由参加なのでかまいませんが、チームのルールを守れなかったり、本気でないのなら練習には出なくてかまいません。下級生の手本（見本）にならない上級生はどうなんでしょう。自分が 1、2 年生の時、今のあなた達を見てどう思うのか？考えれば今の行動が見えてくると思いますが。

中学生の野球にかかわって 25 年になりますが、ずっと気になっている事、ストライクゾーンについて書きます。

公認野球規則には**「打者の肩の上部とユニフォームのズボンの上部との中間点に引いたラインを上限とし、ひざ頭の下部のラインを下限とする本塁上の空間」**そして、打者が投球を打つための姿勢で決定される。と書いてあります。審判のみなさん知っていますか？

私が言いたいのは中学生のストライクゾーンが高いという事です。肩とベルトの中間、脇でも胸でもありません。ベンチからは高さしか分かりません。毎試合「えっ？」と思うストライクが多すぎます。プロ野球がストライクゾーンが 1 番狭いとよく言われます。同じルールブックです。プロの審判が１番正しいのではありませんか。１度映像に撮って検証されてはいかがでしょうか。ストライクゾーンを広くする事が選手のためになると思っている審判の方もいるようですが、誰

のためにもなりません。ピッチャーは努力を怠りますし、ボールを振らなければならないバッターは下手になります。まして甘やかしたピッチャーは上のレベルに上がる事は出来ません。

もう一つ、ヒットバイピッチ、デッドボールの事です。安全に 1 塁が与えられる場合として、ルールブックには打者が打とうとしなかった投球が、打者に触れた場合とあります。ただし、バウンドしない投球がストライクゾーンで触れた時と打者が投球を避けないでこれに触れた時は除かれる。と書かれています。避けようとしたかどうかではなく、避けなければデッドボールにはならないのです。では、避けるとはどういう事か辞書引いて見ると、身をかわす。よける。などと書いてあります。今まで何度もあきらかに避けようとしないバッターを 1 塁に行かせたのを見ました。審判員のみなさん、スポーツはルールにのっとって行われます。まずしっかりルールブック（公認野球規則）を読みましょう。そして試合は規則通り進めましょう。ピッチャーのレベルが低いからストライクゾーンを広げるとか、強いチームで監督が長く発言力があるからデッドボールをとってしまうとか、子供達のためになりません。少年野球にかかわっている指導者のみなさんも硬球が当たり取り返しのつかない事になった場合、責任取れますか？うまく避けるのも技術です。子供達はヒットを打つために練習をしています。ヒットを打てなければ上に上がれません。そのためにボールを見逃す事も、もちろん技術です。ボールに当たっても何ひとつその選手のためにはならないのです。

小・中学校の野球は何度も何度も言っていますが、高校野球その後につなげるための通過点です。審判のみなさんもルールをしっかり守って判定する事が、子供達のためになります。そこがあやふやでは子供達に社会にもあるルールも含め、守る事の必要性を伝える事が出来ません。

この度、ラグビーのワールドカップで見た、世界のトップ選手の清々しいプレー、言い方が悪いかもしれませんがサッカーとの偏差値の違いを見たような気がしました。

特に子供の野球は、ルールにのっとり正々堂々、つまらない声もやめて、ピッチャーとバッターを戦わせてあげたいと思います。それが大人の責任だと思います。

第３７４話/2019.12.18

私は子供達の野球が本当に子供達のためにある事を望んでいます。自分が高校生の頃には、高校野球に何も疑問を感じた事はありませんでしたが、野球を長く続けていくうちにいろいろ考えるようになりました。投手の球数制限だったり、暑い中での連戦だったり、土・日曜日試合ばかりで練習をしなかったり、勉強をおろそかにしていても野球さえ出来れば入学できたり、どう考えても練習をまともにできるわけがない人数の部員がいたり、その中でお金を払っている人と払っていない人がいたり、たくさんの？があります。

私の考えを書きます。どこでもいいので高校野球連盟に入らない高校野球があるといいと思います。しかし 1 チームではどうにもなりません。そのために、まずプロ野球の 12 球団、独立リーグ、社会人のチームが下部組織として高校生のチームをもちます。学校が通信制の学校でもいいと思います。チーム数が増えれば賛同する高校も出てくると思います。もちろんバットは木製、それだけで投手の負担は減ります。勝つためのテクニックではなく、大学・社会人・プロ、上のレベルで野球をするための技術、体力を身に付ける野球をします。甲子園を目指し、目の前の勝利にこだわり燃え尽きてしまう事の多い高校生、目指すのは甲子園ではなく、好きな野球を 1 日

でも長く続ける事です。
　野球というスポーツは甲子園大会がある事により、確かに良い面がたくさんあると思います。しかし、同じくらいデメリットもあると思っています。そもそも本気で（本当に）甲子園に出場可能な高校が何校あるのでしょうか…。
　大きな大会で良い結果を出すために日々努力を重ねる。これも子供達にとって大切な事です。でもそれ以上に重要な事は、大好きな事を長く長く続けられるように心と体を壊さない事です。そのために小・中学生はもちろんですが、高校生も試合の勝ち負けより正しい技術（基本）、強い体を作る事が大事だと思います。
　どこか「うちのチームは木製バットを使います。」というチーム出てきませんかね。
　私は今、段原クラブで木製バットを考えていますが、メーカーがＪＳＢＢ公認の木製バットをほとんど発売していないので難しいかな？と思っています。練習では使っています。

　12 月 15 日（日）たくさんの小学生が体験に来てくれました。ありがとうございました。人数が多く、ひとりひとりしっかり指導する時間がなく、1 部分しか伝えられませんでしたが、忘れる事なく続けて下さい。君達の野球に必ずプラスになります。縁があったらまたグランドで会いましょう。うまくなりたければ何度でも来て下さい。次はひとりで来て下さい。チームメイトはライバルです。いつまでもお手々つないで野球は出来ませんよ。こんな事書くと高校野球連盟に嫌われますね。

第３７３話/2019.12.12

　超一流（10 年以上チームの中心として活躍）、一流（何年かレギュラーとして活躍）、二流（一軍の試合に出場した事がある）、三流（一軍に上がった事がない）、プロ野球選手といってもピンからキリまでいます。ちなみに私は二流の選手でした。
　12 月 7 日（土）にピッチャーを指導して頂いた山内和宏さんは一流のプロ野球選手でした。一流にしか分からない世界、一流しか出せない言葉・感覚、何かひとつでも選手に伝わってくれれば、とても大きな財産になると思います。
　「走る・腹筋・背筋は毎日あたり前にやる。」この言葉をピッチャーだけでなく、全員が実行してくれる事を望みます。私は二流のプロ野球選手でしたが、マスターズリーグの 7 年間、超一流や一流の選手達と接し、野球を勉強する事が出来ました。指導者として日々成長出来るよう、これからも勉強し続けたいと思っています。

　良いチームとはどんなチームの事でしょう。強いチーム？（全国大会に出場するような）部員が沢山いるチーム？あいさつ、言葉遣いがしっかりしているチーム？
　私は常々「段原クラブは良いチームだな」と言われたいと思っています。私の思う良いチームとは、入部してきた全員が野球の難しさ、奥深さ、技術の頂点の無さを知り、だからこそおもしろく心の底から野球を大好きになってくれ、大好きな野球を一日でも長くやるために努力を重ね、競争し、勝っておごらず、負けてあきらめず、本物の野球を身に付け次の世代に伝えていく責任を負う人間になる。試合では身内の保護者だけでなく、見ている全員の心を揺さぶる事の出来る野球を出来るチームだと思っています。なかなか出来ませんが、勝っても負けても心からの拍手と言葉を頂ける試合をしたいと思います。そのために日々の努力が必要です。

野球が出来る（ヒットが打てるとか、投げるボールが速いとか）事は、それほどたいした事ではありません。特に小学生は親からもらった身体能力で野球をやっているだけです。自分の努力でどれほどの物を身に付けたのか、これが重要です。体が大きいから打つ、投げるボールが速い、あたり前です。

本物の技術を身に付けなければ、野球人生は短いものになります。中学 3 年間で変わる事ができます。私は一人一人 1 本ヒットを打つ、一つアウトをとる。持って生まれた能力に差があるのだから、価値は違うと思っています。当然、親から良い物をもらった選手には厳しくなります。良いチームとは、どんな能力を持った子でも誰でも野球ができ、努力する場所があり、3 年間で成長出来るチームだと思います。

第３７２話/2019.12.2

昨年、兵庫ブルーサンダーズの監督をしました。報酬の未払いと契約の不履行でやめました。３年間の契約でしたので、郵便局を辞め、スポーツ用品店の看板もおろしました。今、私は運送会社でアルバイトをしています。土、日、祝日休めて昼過ぎに帰れる仕事、全ては段原クラブの練習に出るためです。朝 7：00 からの仕事なのでフルスイング塾が終わり、夕食をとって寝るとだいたい睡眠時間は 5、6 時間、仕事は 6 時間休憩なし。毎日プロ野球時代のキャンプのように疲れます。
そのため、ここの所平日練習のノックやフルスイング塾でのティーバッティングやバッティングピッチャーがなかなかできません。年を重ねたことが原因なのかもしれませんが、選手たちには申し訳ない気持ちです。夏に体重が少し減った事が少し良かったですが疲れます。しかし、指導者としての責任を果たす義務があります。選手にえらそうな事を言っているのですから頑張らなければいけません。

令和 2 年 1 月 2 日、段原クラブは段原スポーツ少年団として発足して、25 周年を迎えた記念祝賀会を行います。

1 期生からのＯＢに案内を出しました。沢山の返事が返ってきました。ありがとうございます。しかし、返って来ていないハガキも沢山あります。何故なのでしょう。送った先には本人がもしいないにしても親がいます。ほとんど私の所に住所が分からず返って来ていないので着いているはずです。何故、返信ハガキを出さないのでしょう。ほとんどのＯＢは高校野球を経験しています。高校時代は、学校のクラブ活動として人間教育が目的ではないのですか。当然、中学時代の指導者である私の力不足もあります。高校野球を経験し、いい年をした保護者もいるのに誰でも出来る返信ハガキも出さない。私にはどんな家庭なのだろうと理解が出来ません。出席・欠席にどちらでもかまいません。ＯＢのみなさん、保護者も含め大人なのですから、大人の常識です。これでは野球というスポーツで人間教育は出来ないという事になります。準備をしている人達の気持ちを考えましょう。今からでも出して下さい。

12 月 7 日（土）呉二河球場での練習に、私の南海ホークス時代の先輩、山内和宏さんがピッチャーの指導に来て下さいます。私もプロ野球でピッチャーの経験がありますが、山内さんは私とはレベルが違うピッチャーです。私にとっても段原クラブの選手達にとってもありがたい 1 日です。プロ野球の一流選手は本物です。本物は全く違います。本物と接する事が子供達にとって大

事な経験です。プロ野球で最多勝を取るのは、その年セリーグ、パリーグ 2 人しかいません。最多勝投手の指導が受けられる幸せ。
　小学生のみなさん、体験に来るのならラッキーな日だと思います。みなさんは本物に、本物の野球を伝えてもらった事がありますか？私は今までもこれからも勉強を重ね、本物の伝えていきたいと思っています。

第３７１話/2019.11.25

　11 月 23 日（土)、24 日（日）の山本浩二旗と、24（日）のスターズとの練習試合で本年度の試合は終わりました。
　新チームは今の所、私の予想を下回る結果です。旧チームからのレギュラーが本物の中心選手としてチームを引っ張っていけません。活躍するかどうかではなく、中心選手がイージーなミス（技術と頭）をくり返す事が多く、多少ではなく大きくガッカリしています。
　守備のイージーミスはもちろんですが、バッティングでの打つべきボールと打ってはいけないボールの区別がつかなかったり、走塁の頭の準備不足と判断ミス、この秋は中心選手が普通に野球が出来れば負ける試合はなかったと思います。

　段原クラブは小学生のスターは、ほとんど入部してきません。
　当然、足や肩、体といった基本的身体能力に恵まれていない選手で戦います。それでも 2 年間基本から積み上げていけば 3 年生の時にどことでも勝負出来るチームになります。そのためには、技術はもちろん大事ですが、試合の中での状況判断がとても重要になります。
　イニング・点差・アウトカウント・ランナー・打順、最低でもこの 5 つを頭に入れてプレーをしなければいけません。私は常々これを言い続けています。今なぜそこに投げるのか、なぜそこを守るのか、なぜそのボールを打つのか、全てのプレーに理由がいります。中学生に難しい事も簡単に出来ない事も承知の上です。しかし、野球選手には必ず必要な能力です。
　ここが今の選手には足りません。脳が活動していない、考えて守る・考えて投げる・考えてバットを振る・考えて走る、だから人間なのです。考えなければサルでも出来ます。

　日曜日のスターズ戦、3 点ビハインドの 5 回裏、先頭バッターがレフト線を抜きホームタッチアウト。次の回 2 点ビハインドで 1 死からのセンター前で 2 塁ランナーがホームタッチアウト、無死はスライディングをしなくてもセーフになるタイミング、1 死の時は 100%セーフでなければ回してはいけません。まして 6 回です。この状況判断の中にコーチャーはランナーの能力、相手守備の能力も頭の中に入っていなければいけません。この試合追いつきサヨナラの場面で 2 死 2 塁バッター4 番、相手としたら歩かしてもいい場面まともにストライクを取りにくるわけはありません。私はアウトコース 1 本踏み込んでセンター方向に打つ事を指示、2 ボールからすっぽぬけたインハイのボールを打ってキャッチャーフライ、唖然です。考えられません。たいした身体能力もなく考える頭もない、まして監督の指示も聞かない、中心選手になるべき器ではないのかもしれません。ただ段原クラブは、余るほどの選手はいません。今いる選手を根気よく本物の野球を理解できるように指導していくしかありません。
　今までずっとやってきました。私は野球の指導のプロです。素人とは違います。グランドに恵まれていなくても、選手の数がいなくても自身があります。段原クラブは選手を選びません。

新年度は 2 月 22 日（土)、23 日（日）のスターズの招待試合から始まります。それまでの 3 か月、今年は身体能力（スピード・力）のアップはもちろんですが、ひたすら守備です。はっきりとした課題が見えたわけですからわかりやすいです。

この環境で勝つから面白い。指導者としてやりがいがあります。小学生の時に思うような結果が出なかった子、野球が面白くなかった子、ぜひ段原クラブの練習に来て下さい。
野球は難しく頂点がありません。体力や精神力、もちろん必要ですが 1 番は技術、だから世界で日本の野球が通用します。本物の野球、本物の技術、それはプロしか持っていません。プロ野球選手という意味ではなく、しっかりと今の技術を勉強したプロ指導者という意味です。

久しぶり（たぶん 10 年ぶりぐらい）にスターズと練習試合をさせて頂き、いい緊張感の中で楽しい 1 日を過ごす事が出来ました。お互いの新チームはまだまだ甘い所だらけですが、競い合って上がって行きたいと思いました。本当にありがとうございました。次も楽しみにしています。
最近の少年野球は大人の都合でつまらない話がよく耳に入ってきますが、あくまで子供達のためになります。自チームだけでなく、全てのチームの選手が上達してくれる事を望みます。
そのために指導者が努力すべきだと思います。私は選手を選ぶことはありません。私を選んでくれた子と野球をするだけです。責任を持って。

第３７０話/2019.11.18

11 月 16 日（土)、17 日（日）2 日間府中オーシャンズの招待試合に参加させていただきました。A・B　2 チーム　2 日間で計 8 試合、選手全員が長いイニング試合に参加でき、段原クラブにとってはとてもありがたい大会です。毎年、本当にありがとうございます。本来試合に出場する力のない選手が試合経験をさせてもらえるありがたい大会です。

この 2 日間で自分の力の無さを改めて確認することができたと思います。その現実を見てあきらめるのか、今まで以上に努力を重ね立場を変えるか、今まで通り失敗をくり返す野球人生を送るのか、あなた達次第です。私は例年通りＢチームを担当しました。Ｂチームのみなさん、いつも言っている基本的身体能力の低さ、守る場所が無いから試合に出られない事、ストレートに遅れないスイングが出来ない事、言われていた通りでしたね。4 試合ともいつも言っている、あたり前の事が出来れば勝てる相手でした。まあ、それが出来ないからＢチームにいるのですが…。

野球というスポーツは、ピッチャーはストライクゾーンのすみにたくさん投げることができる事、野手はピッチャーが打ちとった打球をひとつアウトに出来る事、バッターはストレートに遅れないで外野まで飛ばせる事、ボール球を振らない事、ランナーでピッチャーにプレッシャーがかけられる事、これだけできれば試合に勝てます。中学生の野球はそれほど難しくありません。しかし現実はこれが出来ません。これぐらいの事が出来ないのは、練習不足(練習とは考えてやる事)です。A チームの試合結果を見ても、今年の段原クラブの課題はあきらかです。
ピッチャーの四死球とエラーこれにつきます。全ての試合の失点は、この 2 つがからんでいます。いい変えればこれが克服できれば負けないという事です。どちらも練習すれば出来る事、あ

とはやるか、やらないかそれだけです。選手次第という事です。

今回の遠征で、保護者の意識の低さを痛感しました。
みなさんは 30 分前行動を小学校のチームで教育されていないのですか？2 日目の朝 B チームは球場 9:00 集合、9:20 になってもバスは到着しません。本来段原クラブは、試合開始 2 時間前集合ですが、気をつかい 1 時間 30 分前にしたのにそれすらできない。出発時間の 15 分前には全員バスに乗車しているのが常識です。野球をやる以前の問題。
保護者の意識が低ければ子供が伸びるはずはありません。なぜ、クラブチームで野球をやっているのか、もう一度しっかり考えて下さい。

前にも何度も書いた事がありますが、試合を 1 人の力で勝つのは不可能です。しかし、1 人のミスで負ける事は出来ます。その 1 人になっていませんか？もしかして、それすら気づいていないのではないですか？負けた数だけ、いやそれ以上に敗戦選手がいます。社会は「人に迷惑をかけない」が基本です。野球も同じで、迷惑をかける選手がいなければチームは負けません。全員のせいで負けたなんていうのはきれいごとです。敗戦の原因に自分がならないために(自分以外の誰かのために)努力する。これも大事な事だと思います。11 月 24 日で本年度の試合は終わります。この冬は守備中心の練習になりそうです。そして守れる選手がレギュラーになります。

第３６９話/2019.11.11

段原クラブは現在 3 年生 10 名、2 年生 14 名、1 年生 9 名　計 33 名です。
その中で、中学 1 年生の入部時に平均以上の肩と足の能力（遠投と 50m走のタイム）を持っていた選手は 3 年生で 2 名、2 年生で 3 名、1 年生では 1 名程度だと思います。
前回書いた、チームが勝つための 1 番目「選手のもの」という点では、とても苦しい状況です。
それでも毎年、3 年生の夏には勝負できるチームになります。
なぜなのか、選手が練習するからです。体力が少しずつできてきて、正しい技術と正しい野球の考え方が身に付きます。そして結果が良くなっていきます。少ない人数のおかげで全員が数多く打て、捕れ、投げられます。そして試合にも出られます。うまくなっていくのが当然です。

今秋の新チームは、8 月 24 日（土）の文部科学大臣杯 1 回戦で、チーム始まって以来の大敗からスタートしました。段原クラブは 3 年生の最後の試合（今年は 9 月 28 日（土））まで、3 年生中心で練習をするので、新チームはチーム作りが遅れます。私は 3 年生に対する礼儀として当然だと思っています。
後は連盟が大会が重なる事のないように子供のために考えるべき事です。高野連と同じで大人の都合が優先されるようなので、変わらないと思いますが？
新チームの本当のスタート 9 月 29 日（日）から約 40 日、やっと野球がある程度出来るようになってきました。

11 月 9 日（土）、10 日（日）の県少年部新人戦県大会で優勝しました。私はこの優勝はとても嬉しく思いました。いつも言っている勝った事は 1 番大事な事ではありませんが、段原クラブが目指している野球に近づいた事がとても嬉しく思いました。

操り人形ではなく、自分で考え、自分でプレーする野球。ストライクをとりにくるボールを 1 球目からスイング出来る。ピッチャーはどんどんストライクゾーンで勝負する。子供達がやろうとしてくれ、試合で結果として少しずつですが出ました。

特に決勝戦は、私が 1 番嫌いなバットを振らない、指導者に選手が操られているチームだったので、野球人生の通過点でしかない中学野球で、子供達がやらなければいけない事を少しでも見てもらいたいという思いで試合をしました。

「勝つこと」確かに大事なのでしょう。私は「勝ち方」の方が子供達にとっては大事だと思います。彼らは野球に夢を持っています。好きだと言います。好きな事は永くやらせてあげたい。そのために、少年野球があるのではないでしょうか。「ストレート中心で投げないピッチャー」「バットを強く速く振らないバッター」「走らないランナー」「前に出ない野手」こんな選手永く野球を続ける事は出来ません。

またえらそうな事を書いてしまいましたが、大人の勝ちたいが、本当に子供のためになっているのか、デッドボールをわざと当たる事を強制する指導者がいる小・中学生の野球を見るたびに悲しくなります。

選手のポジションも彼らの高校野球を見据えて、その選手が 1 番光るポジションを探してあげるべきで、チーム事情もあるのでしょうが、小・中学生の時は 3 ポジションは経験させるべきです。明日打つためだったり、明日勝つための練習ではなく、2 年後、3 年後のために今何をやるのか、何をするべきなのか、それが少年野球の練習、試合だと思います。

段原クラブの 1・2 年生のみなさん、たまたま勝ったからといって安心したり、勘違いしたりしないで下さい。試合の中には、ねらったボールのミスショット、数えきれないミスが出ています。これは君たちがまだまだ上達出来るという事ですし、チームとしても、もっともっと強くなれるという事です。夢はまだまだ先にあります。

「継続は力なり」これからの君たちに期待します。

第３６８話/2019.10.28

ひさしぶりの更新です。

私は朝 5:30 に起き、6：00 にバイトに出発します。14：00 に帰り、店の仕事を少しやり、昼食、犬の散歩をするとヘトヘトです。フルスイング塾までの 1 時間程、どうしてもウトウトしてしまい、このページを書く気力はなかなか出ません。書くことはたくさんあるのですが…。

先日の卒団式（10 月 13 日）に、ＯＢの方々からたくさんのお気遣い、気持ちをいただきました。

心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

新チームになり約 2 ヶ月、少しずつ試合の形になりつつありますが、私の予想をはるかに下まわる内容が続いています。

1 年間、試合経験をした選手が数人いますが、その経験が力になっていない、同級生を少し上

から見て試合出来ない、私の経験からは考えられない事です。
今の結果を見ていると、2 年生から試合に出る選手ではなかったのではないかと反省しています。
チームの強さを勝ち負けで考えたとして強くなるためには、①に選手、②に練習環境、③に指導力です。①は能力のある選手がたくさん入部すれはそれが 1 番です。②はグランドの環境や、マシン、ゲージなどしっかりとした練習の出来る環境です。③は指導者ですが、指導者の能力だけでチームは強くなりません。だからプロ野球にはドラフト会議があります。
高校野球が一番わかりやすく、良い（能力の高い）選手をたくさん集めた所が甲子園に出る確率も、勝つ確率も高くなります。
どんな名監督と言われる人でも、万年 1 回戦で負ける高校のメンバーで甲子園に出る事は出来ません。言い換えれば、勝てる指導者は能力のある選手を集める事の出来る人と言う事になります。選手を集めるために、練習のしっかり出来る良いグランドがあればより集めやすくなります。
そういう点で段原クラブの選手は恵まれています。段原クラブはグランドと監督に恵まれていないので 1 学年約 10 人です。
たとえば 10/27（日）などは半分に分けて、両チームが試合を 2 試合ずつし、全員が試合経験ができ、その後グランドで練習が出来ます。
1 年生から 3 年生まで全員数多く打て、数多くボールが捕れ、やる気になればその後フルスイング塾で何百球も打てる。この環境を利用し 3 年間努力すると誰でも上達し、高校・大学と野球が続けられます。
これは過去のＯＢ達が証明しています。「数は力なり」選手の数はチーム力ですが、個の能力を伸ばすためにも数ボールを投げ、数ボールを捕り、数ボールを打つべきです。
その点で段原クラブの選手は恵まれているという事です。
試合にチームが勝っても 1 日ベンチで応援しているだけ、ましてやベンチにもいない、これでは個の力は伸びません。高校に行って勝負するのは個の力、チーム力ではありません。
徹底的に個人の力を伸ばす。それも部員全員（練習しない選手は含まれません）。そのためには人数は少ない方が良いです。
段原クラブを選んでくれた選手を責任をもって高校に送り出す。
そのために耳ざわりな事、厳しい事、苦しい事が必要です。
今の環境、今の人数で上達し、勝つ事に価値があります。

先日、ある高校の監督と会う機会があり聞いてみました。
高校野球連盟は、選手を守るとかピッチャーを守るとか言っていますが、バットを木製に変えるとか、夏の大会の予選を 6 月位から週 1 程度でやらないのか？全国大会を大阪ドームに変えないのか？そんな話は出ていないのか？まったく出ていないそうです。
やっぱりなと言う思いです。子供（選手）ファーストではなく全ての事が大人の都合で決まるという事です。いろいろな大人の都合が（お金？）絡み合い、本当に子供の為になるようにならないのが現実です。
全ての子供がいる団体のみなさん、子供達の為にある事をお忘れなく。守る方法があるのにやらない、私はおかしいと思います。手をあげて声をあげる人はいないのですか。どこかの高校の監督、木製バットにしましょうよ。私は全力で応援します。勝ち負けではないもっと大事なものを見ましょう。子供達は野球が好きで始めます。好きな事を 1 日でも長くやるためには、体をこわさず技術を身に付ける事です。

この技術のためにもピッチャーを守るためにも、高校の金属バットは有害です。

第３６７話/2019.10.3

10月2日(水)ラグビーワールドカップ　ニュージーランド対カナダ戦を大分で見ました。「世界の一流を生で見たい」思いが実現しました。19時15分試合開始ですが16時前にスタジアムに着き、ワクワクドキドキ。まずスタジアムに驚き、開閉式のドーム。トラックの部分にも移動式の観客席、私の席は前から4列目。目の前で選手が走る、ぶつかる、想像しただけで試合開始前から興奮。3万円のチケット代金はその時点で安いと思いました。

1時間少し前ぐらいから選手がバラバラに出てきて練習が始まりました。

私はこれを1番楽しみにしていました。世界NO.1のチーム(オールブラックスは世界ランク1位)はどんな準備をして試合に臨むのか、ビックリするぐらいバラバラ、20数名が何も統一したものがなく、各自違う事をします。ポジションにより仕事が違うからやる事が違う。パスをしている人、キックをしている人、スローイングをしている人、ランニングしている人、それもしつこいくらい数多く時間をかけ丁寧に練習をしています。対するカナダは、多くがチーム練習、指導者の指示のもとほぼ全員が同じ練習をしていました。

試合は 63 対 0 一方的な内容でしたが、80分あっという間に終わった感覚、本物を見る事が楽しくとても良い1日でした。

スポーツが違いますが、個人としてはスピードと技術、野球と良い結果を出すための能力は共通しています。そしてチームスポーツとしては、各ポジションひとりひとりがそこの仕事をきちっとこなす。オールブラックスの選手は倒れた後、起き上がるのが早く速やかに自分のポジションに戻り次のプレーに備えます。このスピードがカナダと全く違う、試合前の練習から各自が自分の仕事を理解し、準備し、それを全うする。ひとりひとりが個人事業主でプロ、それが試合で一つになりチーム力となる。一流とはそういうものだと感じました。

私が常々段原クラブの選手達に言い続けている事、野球はまず個の力である。ひとりひとりが力を付ける、それを試合でチームのために当たり前の事を当たり前に発揮する。それがチームの勝利に繋がる。普段から自分のポジション、仕事に責任を持って準備し、試合で責任を果たす。一流選手達の誇りを見せてもらい体は疲れましたが、心は得も言われない感を感じた、とれもありがたい経験でした。

世界の一流を生で見る。東京オリンピックでチャンスがあれば皆さん経験して下さい。若い人達は早い方がいいと思います。

必ずその経験はプラスになります。

第３６６話/2019.9.18

段原クラブは練習を強制しない。全ての「練習」「試合」は自由参加です。当然指導も強制しない、選手が教えられる事を望んでいないのに何を伝えようとしても伝わる事はありません。自分自身の野球人生の為に何を考え、何をしなければならないのか、本人が考えその為に指導者の協力が必要ならお願いし、必要ないのなら自分でやればいいのです。なぜなら自分の野球人生だ

からです。長くするのも良いものにするのも本人次第です。だから一人で出来る練習は、グランドに集まってする必要は無いと考えます。
　一人で出来る事を「出来ない」「やらない」選手はどうせチームやチームメイトに迷惑をかけます。高校野球の世界に上がるべきではないと思います。ただ人間はとても弱く、自分に厳しく出来る選手は稀です。「さぼりたい」「休みたい」「手を抜きたい」「遊びたい」「しんどい」「苦しい」「辛い」そこで保護者の出番です。
　私達指導者は今、選手達に厳しく接する事を許されません。やさしく言葉で説明する、それ以外はノックでもパワハラと捉えられかねません。厳しく接する事をある程度許されているのは親しかいないのです。日本は外国人のように身体能力に恵まれ、たくさんの競技人口の中で勝ち残らなければならない環境ではありません。同じような考え方で勝負になるとは思えませんが、今、ピッチャーの投球制限もそうですが、子供を守るが子供を甘やかすになっているように思います。これから日本のスポーツは外国からどんどん遅れ差を付けられていくでしょう。そして甘やかされた子供達が大人になり子供を育てる。考えれば恐ろしい世の中が待っています。
　子供を甘やかしたつけは親が払います。学生スポーツはそのスポーツを利用して心と体を鍛え、人として成長するためにあります。心と体を成長させる為に苦しかったり　辛かったり我慢したり、当然だと思いますが。
　1年生のリーグ決勝大会がありました。今年の1年生は9人。小学生の時ピッチャーを経験した選手もいない中優勝しました。勝ったことはどうでもいいのですが、リーグ戦(2か月前)の時からは比べ物にならないほど堂々としてベンチでも守っていても意味のある言葉を掛け合っている選手達を見て私の話をしっかり聞いてくれてやろうとしてくれている事が指導者としてとてもありがたく、長い1日でしたが心地良い疲れで、久しぶりに楽しい1日を過ごさせてもらいました。
　段原クラブの指導者全員が1年生と練習・試合をすると楽しいと言います。野球が上手く出来なくても、失敗しても負けても人は心の生き物です。
　自分の言葉を信じてくれて懸命にプレーしてくれる選手とする野球は特別です。これがあるからやめられません。
　1年生の選手・保護者のみんな、荒んでいた心が少し和みました。ありがとうございました。

第３６５話/2019.9.5

　8月31日(土)文部科学大臣杯。段原クラブは1試合目で0-5という歴史上最も屈辱的な敗戦を経験しました。
　旧チームからのレギュラーが4人も残っているというチーム状況ではありえない事です。1年間ほぼ試合に出続けた選手が同級生との試合で何も仕事が出来ない。私も同じ経験をしていますが、なぜなのか考えられません。全試合チームの役に立てて当たり前。私はそう考えますが、難しい事なのでしょうか。
　結局は、技術力も精神力もレギュラーのレベルではなかったという事だと思います。まあはっきり言えば下手だという事です。
　しかし、今段原クラブに他に替わりになる選手はいません。全体のレベルが低いのです。
　なぜそうなっているのか、全ては私の指導力不足です。今までと同じように、いやそれ以上に野球を伝えていこうと思っていますが、選手たちに必要だと思われていません。信頼されていな

いという事です。だから何を言っても伝えても伝わりません。当然選手達に野球の技術、考え方が身に付く事はありません。

「必要とされていない」指導者としてとても寂しいものです。

確実に段原クラブの力はここ2年落ちています。落ちているというより段原クラブの3年間での技術の伸びが低くなっています。特に3年生になってから止まります。

私はたぶん、今選手達から見るとただの60才のオジサンになっているのだと思います。ただのオジサンの言う事を真剣に聞くわけありません。

せっかくの大敗といういいチャンスをもらいました。段原クラブは元に戻ります。保護者の都合ではなく、選手達のレベルを上げるためにどうしたらいいのか、試合に行くメンバーも前日まで発表しませんし、大会ごとに背番号も入れ替えます。試合も心ないプレーをした選手は、退いてもらいます。

結果も出せないのに、心もないのに 試合に出続ける選手を無くします。学年という考え方を消します。同じように結果が出ないのなら下の学年の選手を使います。1点も取れないのなら1年生が出ても一緒という事です。

段原クラブの歴史を築いて頂いたOBの選手・保護者の皆さん、私の力不足で今、段原クラブではなくなっています。悔しく 寂しく 悲しい思いをしていますが、必ず戻ります。

私は間違っていました。もっともっと選手・保護者に嫌われなければいけません。解ってくれる人だけでいいです。たくさんいりません。私のやりたいように、思うように、わがままに段原クラブを復活させます。もう少しお待ちください。

もう1度謝ります。本当に情けない試合ばかりで申し訳ありませんでした。

第３６４話/2019.8.26

8月24日(土)、25日(日)毎年恒例の瀬戸内大会に参加しました。

32チーム８ブロック 全チームが2日間で4試合出来る、素晴らしい大会です。軟式野球連盟と各チームが協力し出来る大会で、西部地区では出来ません。

3年連続して文部科学大臣杯と重なっていますが、必ず参加したい大事な大会です。福山の皆さん2日間ありがとうございました。

今年はAクラスで優勝しましたが、技術的なミスや考え方のミスだらけで今年のチームの弱さを象徴する大会でした。

2人のピッチャーは、持っている物をある程度出してくれましたが、野手(バッター)は相変わらず同じミスを繰り返し脳の活動が停止しているようでした。

日本人のプロ野球選手にホームランバッターと呼べる選手は何人いますか。

12球団探して10人いません。神様に選ばれ努力した人です。

あなたはまず、神様に選ばれましたか？引っ張って外野手の頭を越そうとする。1年間に何本打てるのですか？それは試合の大事な場面であてになりますか？まず自分を知ってください。ただバットをカー杯振るだけ、熊でも出来ます。人間は考えてバットを振るものです。

練習も、試合もこの作業が今年の選手に足りません。

当然変われない。段原クラブの歴史で1番質問が少なく（ほぼ無い）、私の技術を必要としていないチームです。相手チームにヒット数で負ける、三振する、まあ当たり前といえば当たり前で

す。
　それでも段原クラブなのでこの時期になればそこそこ勝ちます。
　守備もバッティングも、もちろんピッチングも正しい方法、考え方があります。そのための正しい練習方法があります。それは学年や体力、技術が違えば違います。良い結果が出ないのに自主練習で相も変わらず同じ事ばかりやっている(それも楽な事)皆さん、大丈夫ですか。
　今のままで本当に高校で戦えますか。今年広島県に高校で適用しそうなピッチャーはあまりいないように思います。その中でこのバッティングの内容では寂しい限りです。もっともっと、もっと本当に野球が好きなのなら、考えるべきです。
　チームが勝ってしまうと自分のミスはあまり身に沁みません。チームが勝ったからと言って安心せず 満足せず、個の能力を伸ばす。
　高校野球で通用する体力、技術、気力、まだまだだと思います。
　ただ一つ、決勝戦で追い込まれた後、ボールに食らいつく姿勢を見せてくれた 網本、横丸の打席は、私の心が動きました。
　いつも言っている**「見ている人の心を動かせる野球」**今年初めてうれしいヒットを見せてもらいました。
　これから一つでも多くそういうプレーをして欲しいと思います。
　そのためには練習で苦労するしか方法はありません。

第３６３話/2019.8.20

　先日過疎により部員不足のある県立高校の野球部監督と食事を共にする機会がありました。地元の選手も外へ出ていく事が多いと悩んでいました。立派なグランドがあり、室内練習場もある、そして寮もある、野球をする環境はあります。
　なぜ選手が集まらないのか。
　まず、そもそも人口減少で野球をやっている中学生が少ないのが第一の原因です。増やすためには外(他の地区)から来てもらう以外ありません。なぜ来てくれないのか、魅力です。あるのか無いのかそれだけです。
　野球が出来る施設があれば後は人です。人とは指導者です。過疎の県立高校では、先生は長くいません。島などは3年だと聞きます。そこに骨を埋める覚悟のない指導者に選手も保護者もまして地元の自治体も、地方の人達も信頼し付いていく事は出来ません。
　今 全国に廃校の危機にある公立高校がたくさんあります。
　私の考えを書きます。何でも良いので一つ特化した魅力を作る事だと思います。
　例えば野球で言えば、その地に骨を埋める覚悟で10年以上のスパンで指導の出来る専門家を呼べば選手は集まります。甲子園にこだわる必要はなく、次のステージで野球の出来る選手を育てる事が出来れば、100人以上いる野球校とは違う少人数で全ての選手が平等に練習出来る、甲子園至上主義ではない選手のための野球部が出来るはずです。確かに高校野球の中で甲子園は大きな物ですが、最終的な目的はそこではないはずです。
　それを望んでいる中学生(選手)は多くいると思います。ハンデがあるのなら他と同じ事をしていて勝負は出来ません。

まず町を挙げて、本当に高校を残したいのか？真剣に考えれば今のままではダメな事は分かるはずです。本気になれば必ず変えられます。まず監督が高校教員人生の数年の腰掛気分では、人口減少の町の学校は変えられません。

保護者が3年間信頼して預けられますか？いつ転勤でいなくなるか分からない人に大事な野球人生を預ける事は出来ません。

他の高校には無いそこだけの物、そこでしか経験・体験出来ない、そこでしか身に付けられない特別な物があれば人は集まります。他の人と同じが良い多数の人間が集まる必要はありません。段原クラブ(私)がいつも考えている事です。

平凡、普通、どこにでもある物に私は魅力を感じません。

人と違う、チームも他のチームと違う、練習内容も試合の進め方も他と違う、みんなと同じじゃない、そういうチームに そういう選手に そういう指導者になりたいと思っています。

そして、野球というスポーツのどこまでいっても頂点の見えない楽しさ、面白さ、難しさ、子供達に伝えていきたいです。

第３６２話/2019.8.14

今回は書くか書かないか迷っていましたが、夏休みに入り盆休みに入っても今日 8/14 現在誰もフルスイング塾で打つ選手がいないので書く事にしました。今年の2.3年生にとって私はどうしても必要な指導者ではないようです。平日の自主練習の内容があまりにもつまらないので、4月中旬私は練習に出ない事を選手に告げました。5月から1年生が練習に出るようになったので1年生のために顔を出していますが、私の指導を受けたいという意思を伝えてきた2.3年生は数名。恥ずかしい話ですがこれが今の段原クラブの現実です。何十年も段原クラブの技術を支えてきた平日練習、これがまともに機能していないチームは力を付ける事ができません。

中学生は少しずつでも体は大きくなります。当然力(パワー)は付きます。

しかし、今年の2.3年生はとても大事な基本練習(平日練習)で苦労をしていないので技術と、原点能力が付きません。例えばキャッチャーのセカンドスロー。原点の肩を強くする(強いボールを投げる)ための練習が無いのでいつまでたってもまともなボールをセカンドに投げる事は出来ません。体を強く・速く・原点能力を鍛え、そして技術を磨く。楽な事ばかりしていて何が身に付くのでしょう。目の前しか見えていない親子は本物を手にする事が出来ません。中学生は野球人生の通過点、2.3年先の練習を疎かにしている今の選手は高校野球で輝く事は難しいと思います。先週も書きましたが、望んでいない選手を無理やり練習させてもお互いおもしろくありません。厳しい、苦しい、そういう物を遠ざけて、楽な事して身に付けた物で勝負、惨めな結果が待っています。

成長期の成長だけで野球をやっていれば当然同じ失敗を繰り返します。

厳しい中で苦しみながら身に付けた技術と精神力が無く、体が成長しただけではまともなプレーを続けられないというのが野球というスポーツです。野球はとても難しく誰でも出来るというスポーツではありません。

特に試合はきっちり練習してからでなければ、ピッチャーとキャッチャーがキャッチボールをしているだけのつまらないものになります。難しいから面白い、難しいから正しい野球をすると勝つチャンスがあるのです。

ピッチャーが点を取られないのはボールの速い順ではありません。
バッターは遠くに飛ばせる選手が役に立つとは限りません。
いろいろな体格、いろいろな能力の選手に可能性のあるスポーツです。
しかし、厳しさや苦しさから逃げている選手はどんな能力を持って生まれてきたとしてもそれは宝の持ち腐れ、もったいない限りです。
あなた達は野球をやっている理由を「野球が好き」と言います。ではなぜやらない。好きな事をなぜやらない。
「お前バカか」「そんなに練習したら体が壊れるぞ」良いとは言いません。そんな選手と練習していた時やりがいがあったし、心がこもったし、本当に楽しかった。またそんな選手と練習出来たらいいな‼
チームは指導者のレベル以上にはならないので私の力がこんなものだと言う事です。
選手・保護者からの信頼、なかなか難しいですね。

第３６１話/2019.8.6

今年の段原クラブは弱い。広島県内でベスト4くらいの力はありますが、昨年もそうでしたが県全体のレベルが低いだけで段原クラブに力はありません。なぜ弱いのか、チームの中心選手(常に試合に出る)に、中心選手としての力がありません。
野手はチャンスで三振する、内野フライを打つ、ノーヒットの試合がある。当たり前のように毎試合出続けている選手がこれでは強い訳がありません。まして下位打線は試合で何も出来ない。1年生が出ても同じです。ピッチャーはエースがヒット1本で簡単に点を取られる。先頭バッターを歩かす。ワンバウンドを投げる。高いストレートで長打を浴びる。変化球でストライクを取れない。少々スピードがあるだけでそれ以外何もない。**ピッチャーはコントロールと配球、バッターは常に芯に当てられる技術、これが1番大事です。スピードやパワーはあった方が良い。野球選手に必要な技術は何か、これが本当に分かっていないと思います。**
速い球を投げる事や、打球を遠くに飛ばす事ばかりでは試合で良い結果を得る事は難しいです。正しい技術に対してもう少し頭を使う必要があります。
中学野球で点を取られるピッチャーや、三振をするバッターが高校で野球をして勝てる事はありません。
失敗は誰でもします。中学生は技術が未熟なので当然失敗します。それにしても同じ事を繰り返しすぎです。同じように毎試合点を取られ、同じように三振し、同じように内野フライを打つ。そして負ける、何を練習しているのでしょう。試合で出来なかった事を意識し、練習を繰り返し同じミスをしないように技術と考え方を身に付ける。変わらないのなら練習は必要ありません。
私は滅多に手取り足取り指導する事はありません。なぜなら、選手がそれを望んでいないからです。
私と練習をすると、きつく苦しいです。厳しいので彼らはそれをあまり望みません。
選手が望んでいないものを提供しても耳がこちらを向いていなければ頭に入る事はありません。本当に私を必要としている選手にだけ、必要としている時にその選手と練習をします。

しかしこれでは段原クラブが強いチームになる事はありません。
チームが強くなる必要はありませんが、個人の能力は高めなければ高校で勝負が出来ません。強制的にやらせればいいのでしょうが、その練習は私が楽しくありません。
一緒にグランドで野球をしているとわくわく楽しく時間の経つのを忘れてしまうような練習、試合をしたいものです。
私の指導者としての力が足りないのでしょう。少し力を抜いてみますか。

第３６０話/2019.7.30

7月27日(土)しまなみ西部予選準決勝・決勝
7月28日(日)県知事杯チェーンリーグ2試合、計4試合
全て勝ちましたが、バッターは見るべきものはありませんでした。相変わらず打ち取られ方が同じ、打ち取られるというよりは打ち損じ方が同じ、同じ失敗を繰り返します。誰が見ても好投手「良いボールを投げるな」というピッチャーは今年広島県では今のところ見当たりません。と言う事は打てなければバッターの力不足という事です。まずファーストストライクのストレートを捕まえられません。ほぼ見逃すかファールにします。前に飛んでも遅れています。良い結果を残す為にはファーストスイングで捕まえられなければいけません。最低でも1度スイングしたら体で感じるものが必要です。修正能力です。
これは見逃した時も同じです。**「感じたり」「察したり」「工夫したり」**する。試合の中で自分を自分自身で変え、相手投手に合わせる能力、身体能力や技術ではない所、今年の選手はここが劣ります。練習で身に付けた技術がなかなか試合に繋がらないのはこういう所だと思います。
レギュラーの選手が段原クラブで身に付けたバッティングの力は、この程度ではありません。試合でヒットを打てるくらいの力はあります。少し考え、少し工夫、それから苦しい練習、打てるはずです。
私は段原クラブの選手はこの程度だとは思っていません。

高校野球広島県大会が終わりました。広島だけでなく全国的に同じですが、野球のスコアというよりラグビーの試合のようなスコアだらけでつまらない野球が多くなったと思いました。
大量点が入るという事は、四死球、エラー、長打と言う事になります。いくら高校生の技術は未熟だとはいえあまりにも基本が出来ていない試合はつまらない、最近流行りのピッチャーを守るが、ピッチャーを甘やかすになっていませんか。ボールを投げないでどうやって投げる技術と投げる体力をつけるのでしょう。力を身に付けなければ上の世界(プロ・大学・社会人)で投げる事はできません。高校生を甘やかして力を身に付ける事が出来なければ、体を守ってもどうせ次のステージで投げる事は出来ないのです。
ただ1番の元凶は金属バットです。木製バット(竹でもいい)にすればバッターの技術も伸び、高校生のためになると思いますが、高校野球の関係者からそういう発言を聞かないのは寂しい限りです。
話題の大船渡高校 佐々木投手について私の考えを書きます。
まず私が本人だったとしたら当然投げます。誰に何を言われても投げます。それが背番号1を付けたエースの責任だからです。
では監督だったらどうするのか、チームにとって重要な試合(場面)でマウンドに立っているの

がエースです。立つ能力が無いのなら1番を背負わせない事です。連投をする能力のないピッチャーに背番号1を付けさせません。いないのなら背番号1無しでもいいのではないでしょうか。
　彼には今その程度の能力しかなかったという事です。

第３５９話/2019.7.22

7月20日(土)、21日(日)2日間とも試合(大会)が入っていましたが、雨のため中止になりました。人間が生活していくために必要なものですが、屋外でやるスポーツにとっては有り難くないものです。最後の夏を雨のため100%の力を発揮する事が出来ず不完全燃焼で終わってしまった高校球児もいると思います。90%以上の選手が高校で野球を終えます。良い環境で野球が出来る事を望みます。
　段原クラブでは雨でもフルスイング塾という屋内でバッティングの出来る施設が使用できるので、バッティングはしっかり出来ます。雨の合間にランニングも出来るので少し恵まれていると思います。3組に分けて3時間ずつ、若い指導者がしっかり動いてくれて私は楽をしましたが、2日続けて約10時間ずつ、少し疲れました。
　土曜日の夜OBの選手とその妹が個人練習に来ました。集団で練習するより濃い練習が出来ます。耳がこちらを向いているのですぐに変わり、正しい打球が打てる確率が上がります。
　毎週当たり前のように私と練習をすると少しずつ耳が違う方向を向く事が出てきます。そういう時に私は指導をしません。無駄だからです。
　指導者と選手の関係は、お互いがその存在を必要としているかが全てです。特に選手が指導者を必要だと思っていない場合、何を言っても何をやっても伝わる事はありません。お互い輝くために望まれている場所で望まれている人のために働く。仕事と同じだと思います。
　高校野球の夏の大会が始まりました。私は毎年思う事ですが、甲子園出場経験がある野球校と言われている学校がみじめな内容で負けます。
　選手を勧誘し毎日使えるグランドがありなぜ上達しないのでしょう。
　「コールドで負ける」を考えてみましょう。5回10点差は毎回2点以上取られる、7回7点差は毎回1点以上取られる事です。ピッチャーがピッチャーでないという事です。この点数を取られるためには、四死球、エラー、ワイルドピッチ、長打が絡むという事です。
　エラーとはピッチャーが打ち取った打球が処理出来ないという事、基本が無いという事です。四死球、ワイルドピッチ、長打はピッチャーがアウトコース低めに投球出来ないという事、これも基本です。
　選手を勧誘し(中学時代に結果を出し、素材がある選手)毎日使えるグランドがあってなぜ基本が出来ないのでしょう。
　私はやらないからだと思います。手で転がすようなゴロを基本通り捕れない選手にノックする、試合にでる。アウトコース低めにストレートを投げられないピッチャーが、スライダーやチェンジアップを投げる。これは九九の出来ない子に因数分解を解かせるという事です。
　各世代の練習を見ると、プロ野球選手が基本練習に一番時間をかけています。おかしくないですか。
　小学生の時から試合ばかりで正しい練習をしない、高校まで10年間くらい野球をやっても基本は身に付かない、日本の英語教育と同じです。
　高校入学時の順位が覆らない、結局中学時代に力のある選手を集めた高校が勝つ、「選手のも

のが違いますから」指導者からよく聞く言い訳です。学生野球は勝つ事が全てではありません。それは百も承知です。でも3年間毎日毎日野球に懸命に取り組んだ選手たちの負け方があります。選手を勧誘するのなら責任があります。

指導者には来年もチャンスがありますが、子供達の高校3年生は一生で1回です。アマチュアは最後負けて終わります。何度も言いますが負け方です。私も指導者のひとりとして正しい事を伝える事が出来ているのか、日々反省し努力しただけの事は子供達の力になるような指導が出来るように精進していきたいと思います。

第３５８話/2019.7.16

7月14日(日)、段原クラブの3年間子供と共に本気で野球に集中し、入部した時の順位を覆しレギュラーを獲った保護者達が還暦の御祝をしてくれました。久しぶりに腹が痛くなるほど笑い、楽しい時間を過ごす事が出来ました。

「練習を他の人の何倍もする」「私の時間を有効に使う」最大限に段原クラブの利点を子供のために利用した保護者です。本気で怒り本気で指導し本気で向かってくる。練習している時間、保護者と語っている時間が楽しく充実していた年でした。私と段原クラブを本当に必要とされていると感じることが出来た野球人としてやりがいのある時間を過ごさせてもらいました。お互いに持っている感謝の心、居心地がいいに決まっています。とても良い時間をありがとうございました。

チームとしては相変わらずです。段原クラブなのでそこそこは勝ちます。当たり前です。でも今年のチームはそれ以上には上がりません。

なぜか？

まず技術がありません。技術が身に付かない理由は練習してないからです。練習とは、目的を持って理論がありやっている事に意味がある、これを練習と言います。

ユニフォームを着てグランドに立っていてもバットを振っていてもボールを投げても捕っても脳が止まっているのは遊びです。練習とは言いません。練習しているつもりになっているだけで、練習はしていません。

そういう点で今年の3年生は練習が足りません。練習していないので技術が伸びません。そして試合で同じミスを繰り返します。同じ打ち取られ方を繰り返し、同じ点の取られ方を繰り返す。

まあ当然と言えば当然の結果です。その程度でも段原クラブで2年以上やっているのである程度試合に勝っているだけです。

今のままで高校野球に通用することはありません。(甲子園出場経験のあるような高校)。

なぜなら高校入学までにしっかりとした技術を身に付けておかないと高校野球で技術的進歩は難しいからです。体力的に伸びるのである程度上達はします。高校野球は全てとは言いませんが、入学した時にレギュラーは決まっています。その順位を覆すのはとても難しいのが現実です。練習機会が平等ではないので入学した時に力の無い選手が上達するのは難しいのが現実です。

だから中学時代が野球人生のために大切になります。「高校に行ったら頑張ります。」こういうことを言う選手が多くいます。入学した時に力の無い選手が頑張れる場所と時間があればいいのですが、40人以上の部員がいてグランドが1面、まともに練習出来る訳はありません。これは小学生でも全ての野球チームが同じです。物理的に無理です。そうなれば当然レギュラー中心での

練習になります。力の無い選手の練習は少なくなり、力の差が埋まる事はありません。少し考えれば分かる事です。だから高校入学前にしっかりとした力を付けるか、部員の少ないチームに入り練習機会を得るかが、上達する鍵になります。

ただ高校野球の場合部員の少ないチームは力の無い事が多いです。正しい練習が出来ているのかが疑問になります。

そうなると野球で上のレベルに上がるために中学時代に力を付け、たくさん部員がいてレベルの高いチームに入学しても、レギュラー格の練習をさせてもらえる力を付けるしかないという事です。

これは野球人生に夢を持っている子供の話です。

勝つ事も長くやる事もレベルの高い所へ上がる事も考えていないのなら、必要ありません。

段原クラブも私の時間も夢を持っている選手に使います。

第３５７話/2019.7.1

6月29日(土)今春から如水館高校野球部監督になったプロ野球時代の後輩、大久保 学 君が挨拶に来てくれました。久しぶりに会い懐かしい昔話や高校野球の話など良い時間を過ごす事が出来ました。

夏の大会の抽選も終わり、開幕が近づいています。子供達のために試合まで良い時間を過ごして欲しいと思います。

プロ野球を引退した後も難しい事もたくさんあるのでしょうが、野球選手が一度はやってみたいと思う高校野球の監督が出来るのは幸せな事です。話を聞いていると羨ましく思いました。

やりたい人が誰でも出来る仕事ではありません。その立場に立っている幸せと責任をしっかり理解していると思いますが、悔いのないように全力を尽くして欲しいと願います。応援しています。

7月12日(金)高校野球広島大会が開幕します。今年も段原クラブのOB達がたくさん出場します。3年生の皆さん、レギュラーだろうが、スタンドで応援だろうが、3年間やり遂げた全員それだけで勝者です。試合に出ても出なくても、ヒットを打っても打てなくても、勝っても負けても私はどうでも良いです。3年間やり切ってくれたそれで充分です。必ず最後は負けて高校野球は終わります。一息ついたらグランドに来て顔を見せて下さい。全員中学生の手本です。選手達に何でもいいので高校野球の話を聞かせてやって下さい。

これから試合までケガをすることなく最高の状態で臨んで下さい。私は誰の試合も見に行く事はありませんが（全員を見に行く事が出来ないので）、心から応援しています。

段原プライド 忘れるな！！

第３５６話/2019.6.24

私は1959年生まれです。今年で満60才、本厄です。厄払いをした方がいいと思っていましたが、忙しさにかまけて忘れていると様々な災いが続きました。段原クラブの選手にケガがあまりに多いので、6月22日(土)厄払いをしてきました。人は体が1番です。私だけでなく関わっている全ての人の健康をお願いしてきました。選手がグランドで思い切って野球が出来る事を望みます。

同じ日の夜、OBの方々が中心になって私の還暦を祝う集まりを開いていただきました。OB・現役で80名程の保護者の参加があり、たくさんの方々に祝っていただき唯々感謝です。皆さん本当にありがとうございました。本来一人ひとり御礼するべきですが、全ての方とお話しする事が出来ず申し訳ありませんでした。当日のあいさつで言ったようにもう一度本来の段原クラブに戻れるように、まず私が元に戻ります。高校3年間野球をしっかり全う出来る選手を、そして社会人として活躍出来る人間になれるように、子供たちを甘やかす事なく厳しく接していきたいと思います。

ただそれを望んでいない家族もいます。その場合私は出来るだけ関わらないようにします。今の時代何をしてもパワハラと言われる可能性があります。首根っこを掴まえて練習させる事は出来ません。やさしく言葉で伝えようとしても伝わらない選手、やろうとしない選手は切り捨てましょうという事だと認識しています。

子供はそもそも不完全というか、人間は全ての動物で一番不完全です。さぼりたい、手を抜きたい、休みたい、楽したい、そんな人間を甘やかしてまともに育てられる訳はありません。これからの日本のスポーツは世界に置いて行かれます。身体能力の無さを練習量と集中力で世界と戦ってきましたが、それが出来ないということになれば勝負になりません。

今、世界で戦っている日本人選手は全員小さい頃から全ての時間をそのために費やし心と体が壊れるくらいの練習をしてきた選手達です。甘やかさせた選手は一人もいません。

私の知っている野球界のトップ選手はみんな人間としても素晴らしい人達です。本物の練習は体や技術はもちろんですが、心も鍛えます。小さい頃から厳しい練習に耐え、一つのスポーツを極めようと努力し続けている選手が人間的にも成長していくのです。甘やかして居心地のいい家、30才過ぎて独身でずっと実家暮らしの息子、それでいいですか？男の子は「1日も早く家を出たい」男が強くなるために必要だと思います。

厄払いをしてなんとなく体が軽くなったような気がします。私が好きな事を私が好きな選手と厳しく楽しくやっていこうと思います。

選手、保護者の皆さん私を上手く利用した方がいいですよ。ただおいしい所だけくださいは通りません。

第３５５話/2019.6.18

5月7日以来1ヶ月以上休んでいました、このページ突然の復活です。

私の中ではまだまだ解決していない問題がありますが、諦めたと言うか吹っ切ったと言うか、そういう事です。今まで私は段原クラブの部員全員に野球の技術と考え方を正しく伝え高校野球に繋げて欲しいと思い、全ての選手へ平等に練習機会を与え試合も出来るだけチャンスを与えたいとやってきました。

「チームが試合に勝つ」事を第一に考えれば、試合に出るレギュラー中心で練習し、レギュラー中心で試合をしていった方が確率は上がります。ほどんどの勝つ確率の高いチーム（中学・高校・大学）はこのやり方です。

中学校のクラブチームは高校野球に夢を持っている選手の集団のはずです。私はその夢のお手伝いをしてきました。そのために必要な「基本」これを何度も何度もしつこく言い続けています。技術と考え方の基本です。

基本とは理に叶った方法の事です。一つ、例えて言えば人間の手と足は能力が全く違います。

手には器用な技術があり、足には圧倒的なパワーがあります。手の持っている器用な技術を足のパワー(スピード)を使ってボールを捕ったり、投げたり、打ったりします。技術の基本の原点です。

考え方にも基本があります。野球というスポーツは最後1点多く得点したチームが勝ちます。

そのために今何をするべきかを考えてプレーしなければいけません。何度も書いてきましたが、イニング・アウトカウント・点差・ランナー・打順、最低でもこの5つ(できたらボールカウントも)は常に頭に入れてプレーします。

入部した時から基本の技術、基本の考え方をずっと言い続けています。それから当たり前に誰でも出来る当たり前の事**「全力で走る」「大きな声を出す」「カバーに入る」**この3つは必ずやりましょうと言い続けてきました。

試合になればピッチャー(右)はピンチになればアウトコースに投げてきます。段原クラブの中心選手には変化球がきますよ。チャンスでアウトコースのボールをセンター方向に打てないと上には行けませんよ。逆にピッチャーはピンチの時アウトコース低めに投げられなくてはいけませんよ。変化球でストライクが取れないと苦しいですよ。これも基本です。ずっと同じ事を言い続けてきてもやらない、出来ない、考えない、なぜなのか。答えは簡単です。ふざけているのか、私の言っている事を信用していない、私を信頼していないからです。

よく子供たちになぜそのバッティングフォームなのか聞くと、ボールが見やすいとか、打ちやすいとかの答えが返ってきます。「打ちやすい？」打ってないじゃん。正しいのは打ちやすい打ち方ではなく打てる打ち方です。打つのも好きなコースのボールではなく打てるコースのボールです。打ちやすいなら最低3割はうちましょうよ。

ヒットを打つために体の大きさもパワーもいりません。内野の頭が越せればいいのですから。1年生でもヒットは打てます。打てないのはバットの芯に当てる技術がないだけです。

体が小さいから、体が細いからは関係ありません。パワーはある方が有利ですが、無くても技術があればヒットは打てます。何年やってもバットの芯でボールを捕らえられないから打てないだけです。なぜ捕らえられないのか。欲深く我儘なスイングをしているからです。結論は理に叶っているか、技術と考え方が正しいか、そういう事です。

色々書いてきましたが、私が今回吹っ切ったと書いたのは今まで全員に分かってもらいたいと思ってきましたが、それを止めるという事です。分かろうとしない選手がいるのを認める事にしました。出来ない事と、やらない事は全く違います。やろうと努力しても出来ない選手にはとことん付き合いますが、やろうとしない選手とは時間を共有しません。

ここ2年段原クラブの野球が出来ていません。私の目標としている正しい野球が1日でも早く戻るように努力していきます。部員が半分になってもいいぐらいの決意で私の信念を貫こうと思います。甘い鈴木では信じてもらっている選手(何人いるか分かりませんが)のためになりません。一人でも正しい技術と考え方を身に付けて高校野球を3年間全うし、野球人生をやり切ってもらえるために私の残りの時間を使っていきたいと思います。

私の甘さがつまらない選手・チームを生んでいます。段原クラブのOBの皆様にお詫びします。みんなに応援してもらえる**「見ている人達の心を動かせる野球」**もう一度原点に戻って努力します。

第３５４話/2019.5.7

5月5日(日)新入生歓迎会にたくさんのOBの方々からお気遣いをいただきましてありがとうございました。心からお礼申し上げます。
前後になりますが、4月27日(土)、29日(祝)の全軟西部予選の応援にも駆けつけていただきましたOBの方々、ありがとうございました。
本年度は皆さんのご期待に応える事が出来ず、監督として責任を感じております。
このページを借りましてお礼とお詫びを申し上げます。
これからも心あるOBの皆様、よろしくお願い致します。

第３５３話/2019.4.22

私の中にある様々な問題がクリアになるまで、文章を書くべきではないと思います。
しばらく休ませて頂きます。

第３５２話/2019.4.10

私が 1 年間で一番嫌いな全軟の予選が近づいてきました。なぜ嫌いかというと、メンバーを野球の能力で使わなければいけないのと、負けるまで選手を変えられないからです。
練習の取り組む姿勢や努力の度合いは、ひとりひとり違います。中学生の場合、もって生まれた身体能力にも大きな差があります。そこは一切考えず今の力だけで、チームのベストメンバーで戦うのが全軟です。
私は選手をそういう基準で使うのは嫌いです。毎年早く終わって欲しいと思っています。きっと勝ち上がる事にも価値はあるのでしょうが、私はその為にチームの選手・保護者・スタッフが同じ目標に向かって一つになって努力し、心を通わせる事に喜びを感じます。その為にも、努力している選手・頑張っている選手・入部してから上達した選手・チームの事、チームメイトの事を考えられる選手、チームの為に力を尽くしてくれる保護者、そんな人達が納得出来るメンバーで戦いたいと思っていますが、現実は難しいです。
理事長杯の時、昨秋良い成績を残したチームがとても戦力ダウンしていてビックリしました。聞く所によると、バッテリーを含めレギュラー3 人が退部して硬式のチームに移籍したそうです。私はとても驚いています。チーム・チームメイト・同級生・仲間、今の選手や保護者にはそういうものに対する感情は無いのでしょうか。
人間（日本人）は、そういうものをとても大切に思い、大事にしてきた文化があります。「個人主義」もちろん私も自分は大事です。でも、1 番ではありません。
自分の事だけで回りの人達の事まで頭がまわらない、考えられない、考えない、それではチーム（社会）は成り立ちません。
学生スポーツは、スポーツを使って子供達が社会に出ていく為の心や体を鍛える為にあります。野球チームは、野球の技術が上達すれば良いというものではありません。
選手の後ろには必ず保護者がいます。本来そういう事はまず、保護者が教えるべき事です。視界に我が子しか入っていない保護者がとても多いように感じます。
段原クラブはずっと小学校のスターは入って来なくても、チーム全体のモチベーション高く、

努力を重ね、子供達が力を付けて 3 年生になりやっと勝ち、全員でそれを心から喜べるチームでした。
練習で選手が監督・コーチを取り合い、とてもやりがいのあるチームでした。選手達とボールを追いかけたり、怒ったり、喜んだり、練習に出るのが楽しい時間が戻って欲しいです。
でも、時代がもう私を必要としていないのかもしれませんね。

第３５１話/2019.4.3

3月30日(土)・31日(日)毎年恒例の合宿を行いました。
毎年合宿では数多く打つ(ナイターで夜も打てる)を目的にしています。
土曜日の午前中少し雨が降り、守備の中継プレーなど予定していた練習が出来なかったものもありますが、2日間第一の目的は達成出来た合宿だったと思います。少し気になったのは体力の無さ、2日目の後半集中力が切れる時があり、疲れからくるもののように思いました。
2日間1日中野球をやる体力が足りないようです。これから暑くなり、大会を勝ち上がるためにせめて2日間は、続けて集中出来る体力が要ります。練習量(時間)が短いのかもしれません。
私の中で合宿の一番の成果は、大事(大きい)な試合で使えない選手が分かった事です。厳しい言い方かもしれませんが、空いた2つのポジションを埋めるため色々な方法を考え、色々試してみましたが答えが出ました。一人ずつずらして複数のポジションのレベルが下がるより、空いたポジションだけが下がる方が良いという事です。心が決まったのでスッキリしました。シンプルにやる事が見えて、やりやすくなりました。4月2日(火)の平日練習で選手にも伝え、全軟が終わるまでは複数のポジションの事は考えず、一つに集中してやっていきたいと思います。
甲子園でセカンドランナーのサイン盗みの事が少し表に出ました。私は今更何を言っているのだろうという考えです。
嫌われるのを覚悟で書きます。「どこでもやっている事でしょ」「盗まれるようなサインを甲子園に出るようなチームが使っているの」
確かに禁止されている行為です。やってはいけません。
しかし、中学生のチームでもやっているチームはあります。それが現実です。「ダメ！！」と言われても勝つために手段を選ばない指導者は確実にいます。私はサインを覗くチームはあると思って野球をしています。対策をすればいいだけの話です。負けてグズグズ言っても恥ずかしいだけです。松井選手の5打席敬遠の時もそんな可能性を考えて、5番バッターを育てていなかったのが負けに繋がりましたし、今回も好投手がいればそんな事もあると思いませんか？想像力の無さと準備不足、それだけではないでしょうか？
中学のチームでもそういう事をするチームがあるので、私は盗まれないための準備をしています。何度も言いますが、勝つために手段を選ばない指導者がいます。前にも書きましたが、自チームの応援で声を出すのではなく、相手チームにプレッシャーをかけるためにベンチから大声を出させているチームがあったり、学生野球とは？何が大事なのか、そんな事より相手の力を出させないようにしてでも勝ちたい、そんな大人がいます。
その現実を認めて、自らのチームの選手がそんなレベルの低いやり方に負けないように指導していきたいと思います。極端に言えば無理かもしれませんが、球種が分かっても打たれないボールを投げればいいのです。そのためにピッチャーはスピードだけではなく、コントロール、球の

切れが大事になっていきます。
　それが先の野球人生につながると思います。

第３５０話/2019.3.25

　3 月 23 日（土）福山市春季大会に出場させて頂きました。
　1 回戦 0-2 で負け、敗者戦 2-0 で勝ちました。
　段原クラブは今とても苦しんでいます。レギュラーとして期待していた選手 3 人故障と退部で欠き、戦力は半減しました。
　どの選手がどこのポジションを守るのがチームとしてベターなのか（今の戦力でベストは無理）試合の中で色々なパターンを試していますが、まだ見えてきません。3 月 30 日（土）・31 日(日)の合宿で方向性を出し、4 月 6 日（土）からの理事長杯ではポジションを固定させて望めるようにしたいと思っています。ここからの 1 カ月 段原クラブとしての力の見せ所です。
　過去にも同じ時期にキャプテンでキャッチャーで 4 番の選手が硬式チームに移籍したことがありますが、1 カ月で全軟で戦えるチームになったことがあります。私は野球で諦めることはありません。最後の最後までもがきます。
　たくさんの OB から私はやさしくなったと言われます。これは時代や年齢のせいでもあると思いますが、情熱が薄れたのかもしれません。今このピンチが私にとってもチャンスです。もう一度ピリピリした自分に戻り、熱く・熱く選手に向かっていこうと思います。
　選手や保護者にとって苦しかったり、辛かったり、もしかしたら辞めたくなったりする事があるかもしれませんが、必ず選手の為になり、段原クラブの為になると信じてまず、私から変わります。
　9 人の新入部員が入ってきてくれました。
　沢山入ってくれた方がチームが強くなる可能性は高いと思いますが、厄介でめんどくさい事が多くなり、必ず退部者が出ます。考え方が色々でまとまりにくくなります。チーム運営（お金）の事を考えれば 10 人程度が私はベストだと考えます。ひとりひとりに時間をかけ基本からじっくり育てていきたいと思っています。新 2 年生が 13 人いますので、新 1 年生は 3 年生になった時にチームの戦力になってもらえば十分です。
　体作りと基本、新 1 年生の皆さんつまらない練習が多くなるかもしれませんが、これが無いと長く野球を続けることは出来ません。お互いに信頼し頑張って行きましょう。
　週末の合宿に心と体を万全の状態で選手のみなさん集まりましょう。
　野球浸けの 2 日間 楽しみです。

第３４９話/2019.3.18

　3月17日(日)3年生のお別れ試合及びお別れ会がありました。20年以上やっていますが今回は試合も会も心が震える事はありませんでした。試合は1.2年生が力も心もないので人の心を動かせるはずもなく、会の事は書くのは止めておきます。
　「3年間苦しい事や辛い事があり、3年間頑張った事を褒めてあげたい」ほとんどの親がこんな

事を言います。私は聞いていて意味が分かりませんでした。スポーツ(野球)は心と体を鍛えるためにやっているのでしょ。まして中学校の部活動ではなくクラブチームを選んだのはより強く鍛えるためだったのでしょ。筋肉を鍛えて成長させるためには細胞を破壊し再生させて大きく強くします。心も然りです。

鍛えて成長したいからスポーツ(野球)をしているのですから辛い、苦しい、大変、そんなことは当然の事です。ぬるま湯につかって楽しく楽な事ばかりでは何を鍛え、何を成長させる事が出来ますか。元カープの新井選手は引退試合のあいさつで苦しく辛い事ばかりだったと言っています。2000本ヒットを打って何億円も稼いだ選手ですら楽しくないのですから、力の無い選手が苦しまなくて良い結果に近づく事が出来るわけはありません。

中学野球を3年間続けること程度、私に言わせれば誰にでも出来る事です。出来ない方に問題があるだけです。厳しい事を言っているように思う方がいると思いますが、もっと大変な高校野球だって続ける選手が圧倒的に多いのです。出来る人が圧倒的に多い事が出来たからといってたいした事ではないでしょ。野球というスポーツは団体スポーツです。

一人の力で試合に勝つ事はとても難しいですが、一人の選手のミスで負ける事は出来ます。1対1で戦うのなら自分のミスで負けて心を痛めるのは自分一人ですが、野球の場合何人もの人の心を痛める可能性があります。

誰でも自分が大事ですし、親は我が子が可愛く大切なのは当然です。でもチームスポーツはそれだけで成り立つでしょうか。

1年、2年、3年、学年の違う選手がチームにはいます。上級生は下級生を指導したり助けるべきだし、下級生はそんな上級生を慕ったり、憧れたりしてついていくものではないでしょうか。

「野球が好き」これは大前提、**「チームが好き」「チームのために」「チームメイトのために」「保護者のために」**こんな部分がチーム全体に欠けているように感じます。

段原クラブは私の宝物の一つです。宝物の部員なので選手の事を大事に思っています。しかしその宝物をないがしろにする人がいれば面白くないのは当然です。選手のためと言うよりも段原クラブのために選手一人一人と接していきたいと思います。

年明けから色々嫌な事が続きましたが、お別れ会を区切りに私は切り替えができました。数年甘くなっている自分を元に戻そうと思います。

それが選手のため、段原クラブのためになると信じています。

第３４８話/2019.3.11

私は今年60才になります。厄年です。本当に今年に入り約2ヶ月災いばかりが続いています。厄払いに行かなければと思いながらなかなか時間が取れず今日まできてしまいました。

3月17日(日)に行う3年生のお別れ会までにまだまだやらなければいけない事が多くあるので、終わったら早々に行こうと思います。

また日曜日に雨が降り1日　6年生も入れて4学年計10時間練習をしました。少し疲れました。新しい仕事に行き出し睡眠不足と体の疲れが溜まっています。眠気でヒヤッとした事が数回あるので交通事故に十分気を付けます。

チームの中心選手が退部しました。硬式のチームに変わるそうです。段原クラブは彼の野球人生に対して役に立つ事は出来ませんでした。私はチームを変わる事は悪い事だと思っていません。

一度きりの野球人生です。本人が納得できる選択をするべきだと思います。ただ中学生として

やらなければいけない事は野球以外にもあります。これを疎かにして野球をやっても意味はありません。それからもう1つ、思い通りにいかない事は人生の中で山のようにたくさんあります。それを環境や他人(指導者)のせいにしているうちは何を変えても本質は変わりません。

先日もあるプロ野球界の先輩と話をしました。「野球が出来るようになる(上達する)のはあくまで本人次第、物（資質）がなかったり努力を怠れば誰が教えても一緒。ましてやプロ野球選手になれる選手はどこでやっても誰が教えてもなる」と
言っていました。私もその通りだと思います。

段原クラブの選手だけでなく、野球をしている少年達全員が1年でも長く現役を続けて欲しいと願っています。そのために心と体を壊すことなく野球の技術を上げていかなければなりません。

しかし本当に上の世界を見たければ体を壊すほどの練習が必要な時がきます。その時のために、他の人の何倍もの練習をしても壊れない心と体を作る必要があります。その土台を作る時期が中学時代です。結果に一喜一憂する事なく、今本当にやるべきことを一度考えてみませんか。

「義務教育」野球のクラブチームを選んだのですから野球を全力でやるのは当たり前。でも中学生はそれだけでは不十分です。野球も学校も当たり前の事が出来て特別な事が出来るようになります。

野球をやっている子供達　鍛えているのです。苦しかったり辛かったり思い通りにならなかったりありますよ。逃げる癖をつけてはいけません。

みんな頑張ろうよ。

その先に人生の宝物があります。

第３４７話/2019.3.5

3月2日(土)、3日(日)2日間山口ミラクルクラブの招待試合がありました。雨のため日曜日の試合は中止になりましたが、段原クラブと私にとってとても意味のある大会でした。本年度のチームは昨秋新チームになってからそこそこ勝つ事が多く、ピッチャーも旧チームから経験がある事などから打てないチームですが、ある程度の試合は出来ると思っていました。

2日(土)の久留米ベースボールクラブとの対戦で私が今まで中学軟式野球のレベルを勘違いしていた事を思い知らされ、全国レベルと言うものを、身を持って体験させてもらいました。今年広島県内で段原クラブのピッチャーのスピードは1.2です。まあまあ速いと思っていましたが、久留米ベースボールクラブの選手達は一人として速いと思っていません。ファーストストライクからストライクゾーンに来るストレートは全てフルスイングします。そして遅れません。約25年中学軟式野球にかかわっていますが、バットを振ることにかけては今までNO.1です。

1番から9番まで全員が1球目から振れるチーム、私が毎年目指して1度も出来た事はありません。どういう練習をしてどういう指導をしているのかとても興味があります。いつも言っている**『バッティングは楽しい物』**それを全員が試合で実践出来るチーム。本当に素晴らしいチームでした。

現実に野球の実力にはまず素材(物)がいります。全員がしっかりストレートをフルスイングでたたけるようになれませんが、少年野球はそれを目指すべきだといつも言ってきました。段原クラブではまだ実現出来ていませんが、出来ているチームがあります。つまらないサインを出さなくても選手の力で点は取れます。久留米ベースボールクラブを見て今一度自分の目指していく道を確認する事が出来ました。「広島の中で少し強いぐらいで勘違いするなよ」と戒めてもらい、選手はもちろん、私にとってもありがたい大会でした。山口ミラクルクラブの皆さん、本当にあ

りがとうございました。
　選手が大きく変わるため、自分の力が全く通用しない経験が必要です。
　私は中学3年生の夏の県大会4失点と、高校2年生春の対中京高校コールド負けでした。ピッチャーとしてある程度自信を持っていた自分のストレートが外野の上を越される経験、特に中学生の時はそれまで一度も外野の頭を越された事がなかったボールを、3番・4番連続レフトオーバーを打たれました。速いボールを投げたい、ストレートで三振が取りたい、高校入学まで、それまで以上に走りました。
　高校の時は愛知県では、中京と東邦に勝たなければ甲子園はありません。常に練習の時から2校のエースをイメージしながらバッティングをし、2校の中心打者をイメージしてピッチング練習をしました。
　みじめな敗戦が変わるチャンスをくれます。選手一人一人が手も足も出ない、ボロボロの敗戦から何を感じ・何を思い・何を考えこれから何をするのか**「同じ中学生」**です。
　私はあの日からこれからどうするのか、今まで何が悪かったのかもっと強制的に練習をさせなければならないのかなどずっと野球の事を考えています。少々の事で追いつける差ではないのでなかなか先が見えてきません。
　選手の中で一人でも、**悔しくて・悔しくて**眠れなかった人はいたかな？
　段原クラブはそこまででではないか。

第３４６話/2019.2.26

　2月24日(日)今シーズン初めての対外試合をしました。今年の冬は体作りと基本練習、バットを数多く振るという事をやってきました。例年と比べて試合形式の練習は遅れています。練習で打つボールと試合でピッチャーが投げるボールを打つのは全く違います。まして変化球はまだほとんど打っていない状況での試合なので打つ方はあまり期待をしていませんでした。その中で数人昨年とは違った打球を打つ事が出来ましたし、ほぼ私の想像していた内容だったと思います。
　試合内容は別にして前日の練習の緊張感のなさ、当日スパイクが磨かれていない。当日の試合前の準備の迫力の無さなど、今年のチームの試合に対する思いの低さにがっかりしました。チームは先頭に立って引っ張っていく存在が必要です。怒鳴りつけてでもチーム内のだらけたムードを一言でピリっとさせられる能力を持っている選手がリーダーです。そういう点では自分の事で精一杯のキャプテン・副キャプテンでは無理なのでしょう。考えなくてはいけないかもしれません。
　保護者の力も必要です。前日から次の日に向けて万全の準備をするのは家族の責任です。本当に**「野球が1番好きです」**なら汚い野球道具を持ってグランドに来る事は無いはずです。
　何度も書いてきましたが、子供は親の思い以上にはなりません。そして私は選手の思い以上の事はしません。あなた達の思いの丈だけの協力をします。それ以上でもそれ以下でもお互いが不幸になります。
　試合で良い結果を出すためには当然練習をして力をつけなければいけません。練習が1番です。しかしそれだけでは良い結果が出るとは限りません。その身に付けた力を全てその舞台で発揮できるかどうかが鍵となります。よく言う練習大将、ブルペンエース、練習は素晴らしいのに試合でその力を出せない選手の事をこう呼びます。
　よく言われる精神力、私はこれを頭(野球脳)だと思っています。試合になると別人のスイングをする選手、バッターに向かっていけないピッチャー。私は助ける事が出来ません。自分の力で

乗り越えるしかありません。考え方次第です。たかが野球、小中学生の野球は、負けても 負けても有り余る程試合があります。全国大会？そんなもの人生のアドバンテージにはなりません。

勝たなければいけない試合、子供の野球にそんな試合はありません。ただ大事なのは目標や夢に向かって全力で努力し、体と心を鍛える事です。あきらめない心、自分を信じる心、仲間を思いやる心、感謝の心、少しずつでも中学の3年間で身に付ける事が出来れば野球をやった意味があると思います。

それで試合に勝ててみんなで喜べたらもっといいですけどね。

ボールを投げたり、打ったりする事は楽しいからやっているのではないのですか。もっと生き生きした顔で試合をする事が出来れば結果は後からついてくるのではないでしょうか。好きな事をやっているのですから。

第３４５話/2019.2.18

私は今年 兵庫ブルーサンダーズの監督はやりません。

詳しい事は問題が解決していないので書けませんが、段原クラブの子供達のためと言うのが1番の理由です。非公式ですが他チームでのコーチの話も頂きましたがお断りしました。

6年生がチームを選び決定する理由は、例えば小学校の仲間と何人か揃って入部(親が送り迎えで楽が出来る)する仲良しクラブ甘えっ子パターン、これが1番上達しない。チームメイトはライバル、チームの歴史だとか伝統で選ぶ。家から近い、試合に出られそう、グランドが良いなど人それぞれ様々だと思いますが、段原クラブは私の指導力、技術力(引き出しの数)を選んでもらっていると思っています。

3年間きちっと野球の技術を伝える責任があります。8ヶ月段原クラブの行動に半分程度しか参加出来ず、たくさんの子供達に迷惑をかけました。

野球人として指導者として夢があり少しだけ夢を見ましたが、自分を本当に必要としてもらっている場所が一番輝ける場所だと思います。私はやっぱり段原クラブで野球をするのが好きです。全員ではありませんが子供達の上手くなりたいという気持ちと一緒にする野球が今とても楽しいです。

野球ではだれでも出来る事と、やろうとしても失敗してしまう事があります。

「大きな声を出す」「全力で走る」「ベースカバーに入る」誰でも出来る3つの事です。上手くなくても、体が小さくても、足が遅くても、肩が弱くても、ヒットが打てなくてもやろうと思えば誰でも出来ます。入部する時から事あるごとに何度も何度も言い続けています。それでもやらない選手がいます。私達の時代なら、体罰で全員がすぐやるようになりました。今、どうすればいいのでしょうか？

何度も何度も何度の繰り返し言い続けるしかないのでしょうか？

何回？100回は言っています。もっとですか。

なぜ大きな声が必要なのか。

・まず自分の体を守るためです。衝突して大きなケガをした選手を私は何人も見ました。

・次にプレーの内容を前もって確認する事により、ミスを防ぐ事が出来ます。野手同士で声を掛け合って準備するという事です。

・仲間を励ます事が出来る。

・集中力を高める事が出来る。活気が出ます。

私の言う大きな声を出すというのは、ただ「オエ」「オエ」と言ったりとか、ベンチから相手の投手に対してプレッシャーをかけるような「ゴー」「ゴー」とか、内容のない声。言い方を変えると自分のためにならない声を出せと言っているのではありません。
「威圧的な声を相手ピッチャーにかけてピッチャーの力を落とし、そのボールを打ったりフォアボールを取ったりしても何も自分のためにはなりません。」
当たり前の3つの事は全て、自分の野球人生にプラスになる事です。野球で上のレベルに上がろうと思えば当たり前ではない事も出来るようにならなければいけません。当たり前の事が出来ない(やらない)選手がその先に行けるわけはないのです。
軟式野球連盟が学童の球数制限を決めました。これから学童の野球は今まで以上に初球からバットをブンブン振る選手がいなくなります。
今までもランナーなしや2死でも、1球1球ベンチの監督のサインを見て操り人形のような野球をやらされている少年達は、バットを振るチャンスが無くなります。そして軟式野球のレベルは下がり、選手は減ります。
私ならこうします。ストライクを2つ 3振ではなく2振でアウトにします。
どうせ球種はストレートだけなので3球いりません。ピッチャーの球数は減らせ、バッターは初球から振ってくるようになり、監督からのサインは減る。子供達は万々歳です。
本来子供の野球は、ピッチャーはストレートをストライクに投げ、バッターはそれを1球目からブンブン振っていく、そういうものです。ベンチの顔色を見てするものではありません。

第３４４話/2019.2.12

2月9日(土)・10日(日)・11日(祝)3連休は少し気温が低い中でしたが、ある程度やっておきたい事、牽制、バント守備、ピッチャーフィールディング、ランダンプレー、中継プレーなどが出来ました。少しずつ試合形式の練習や2月24日(日)からの練習試合や招待試合の中で試しながら精度を上げていかなければいけません。練習の中で出来るようになった事も試合のプレッシャーの中では確率が落ちます。これはピッチャーのコントロールもバッティングも守備も同じです。
そのために練習試合や招待試合は、試合ごとにチームとしてはもちろんですが、選手一人一人も課題を持って取り組んでいかなければいけません。勝つか負けるかではなく、課題をクリア出来たかどうかが大事なことです。出来なければまた練習を工夫しながら一つずつ身に付けて各自がレベルアップをしていけば、それがチーム力のアップに繋がります。
今年の段原クラブはピッチャー、キャッチャー、内野、外野全てのポジションで競争があり、いい緊張感の中で練習が出来ています。レギュラーを固定してレギュラー中心で練習し、レギュラー中心で試合をしていけば勝つ確率が上がるのでしょうが、私の中にその考えはありません。練習の機会は全員平等、その中で勝ち残った者が試合に出る。なかなか出来る事はありませんが「ベンチの選手を全員使って1点差で勝つ」野球を今年も目指していこうと思います。そのためにレギュラーには絶対の力が必要ですし、控えの選手も監督がどんな場面でも安心して試合に出す事の出来る基本的能力が必要です。
バントが出来る、ボール球を振らない、ピッチャーが打ち取った打球を確実にアウトに出来る、ランナーに出たら盗塁出来なくてもバッテリーにプレッシャーをかけられる、このくらいの事を身に付けてくれれば安心して試合に出す事が出来ます。
学年が同じでも中学生は体の大きさ、太さに差があります。小さくて細い選手は努力をしても

簡単に結果には繋がりません。あなた達が今やるべき事は体作りです。そのためにトレーニング(練習)はもちろんですが、食事、睡眠もとても重要です。1年、2年長い時間がかかりますが続けなければ高校野球に繋がりません。

私は中学時代に勝ったとか、どれだけ打ったとかあまり興味はありません。高校野球で部員全員にいい経験をしてもらいたい。もちろん苦しいし、厳しいですが、そこでしか味わう事の出来ない一生の中での大きな3年間だと思います。そのための準備をする期間が中学野球、だから心と体を壊してはいけないのです。

なかなか努力が結果に繋がらず悩んでいたり、気持ちが切れそうになっている選手がいるとしたら、勝負はまだまだ先です。階段は1段ずつ上がれば踏み外す事はありません。2段飛び、3段飛びで結果を早く求めると踏み外して下に落ちます。練習は裏切りません。急がば回れです。1年単位で考え、少しずつでも成長していけば十分に価値のある事です。

あなた達があきらめない限り、私はいつでも付き合いますよ。

1日1歩、前に進めば必ず目標に近づいて行きます。

第３４３話/2019.2.5

寒かったり雨が降ったりしてやりたい事が少し遅れていますが、何とかバットだけは振っています。明らかに昨秋と比べると振る力（スイングスピート）は上がってきています。フリーバッティングでの打球は速くなっていますし、距離も伸びているように思います。だからと言って試合で打てるとは限りませんが。

試合ではピッチャーが打たせないように投げるボールをプレッシャーの中で打たなければいけません。状況により何をするのか、何をしなければいけないのか、ピッチャーはどこを攻めてくるのか。色々な事を考えその中で自分のベストスイングをする。技術も精神力も要求されます。

インフルエンザやケガで数人出遅れています。チーム内の競争が面白くなりそうです。練習は嘘をつきません。休めば確実に力は落ちます。私は誰がレギュラーになっても構いませんが、出来たら努力している選手が良い思いが出来ればと思います。

しかし現実はとても厳しいです。小・中学生の場合持って生まれた体、これが大きく物を言います。体に恵まれていない選手が競争に勝つのはとても大変です。「3年間で追いつく」すぐに体は変わりません。卒業するまで、それでダメなら高校で、そのくらいの考えで努力し続けて下さい。大変です。しんどいです。しかしやり続ける事で身に付けられる物は大きいはずです。

勝負(チーム内だったり相手チームに)なので勝つに越したことはありません。勝つために何をどれだけしたのか、それは段原クラブに入ってからではなく、今までに入部する前からです。足らなければこれからしなければいけません。それでも足らなければ高校でも続けなければいけません。「やりました」「やり切りました」しかし負けてしまいました。誰も責める事は出来ません。

私は全力で楽しそうに野球をする選手が好きです。

楽しさは課題を持って練習に取り組みそれを身に付けたり成功したりして味わう物です。いい加減な取り組みで本物の楽しさを味わう事は出来ません。

野球は難しいです。難しいから楽しいです。

1人でも多くの子供が本物の楽しさを経験して欲しいです。1.2年生は今、全員とは言えませんが頑張っています。私はグランドへ行くのが楽しいです。
全員になるといいですね。

第３４２話/2019.1.28

学童軟式野球がピッチャーに 70 球の投球制限を設けるような話を新聞で見ました。子供達の体を守るためらしい。これだけを聞くと、もっともらしく聞こえます。今は 1 日 7 イニングという制限があります。
私は両方とも反対です。特に球数制限は絶対にしない方が良いと思っています。理由を書きます。
今、軟式野球は間違った硬式信仰により中学生の競技人口が減りつつあります。現実に広島県出身のプロ野球選手は中学時代軟式をやっていた選手のほうが多いのに、硬式をやった方が高校で有利になると思っている人が多くなっています。(間違っています)
今でも勝利至上主義で自由にバットを振らせてもらえない小・中学生がたくさんいるのに、投球数に制限など加えれば今以上に待てのサインが溢れ、子供達は初球からバットを振る権利を奪われます。それでなくても上からたたいて転がせなどとヒットを打つチャンスを奪われている子供達はバットを振らない、フルスイングしない、つまらない野球をやらされることになります。
そして野球の中で 1 番楽しいはずのバッティングが楽しくなくなり、せっかく打つ事の難しい軟式野球をすることにより身に付けることの出来る正しいバッティング技術を身に付けることが出来なくなります。(軟式で 2 割打てれば硬式では簡単に 3 割打てます。) 野球本来の楽しさがなくなれば軟式野球離れは拍車がかかります。学童に球数制限を導入すれば軟式野球連盟は自らの首を絞めることになります。
では子供達の体を守るために何をしなければいけないのか？
1 番は指導者の教育です。子供のスポーツは勝つ事が１番の目的ではありません。一人一人が自分を高めるために日々努力する、個の能力を高める、あくまで野球人生の通過点であり、好きな野球を 1 日でも長く続けていけるための基本を学ぶ。そしてチーム全員、レギュラーもそうでない選手もしっかり練習、試合の機会を与え成長してもらう事です。
横浜ＤｅＮＡベイスターズの筒香選手が、勝利至上主義が子供達を壊すと警鐘を鳴らしています。私もその通りだと思います。
本来指導者が子供達をしっかり守れば確実に故障者は減ります。試合の球数をいくら制限しても無茶な練習をしていれば意味はありません。練習の監視は連盟には出来ません。私は「1 日 1 人 1 試合」これでいいと思います。段原クラブは結成以来これをずっと続けていますし、練習時にブルペンでの投球練習は一切しません。キャッチボールの中での遠投もしません。出来るだけ投げささないで良いボールを投げられるような指導、小・中学生にはこれが必要だと思っています。段原クラブはこれで充分戦えるピッチャーは育っています。強く柔らかい体を作り正しい技術を伝え、正しい練習をする。無茶な練習を見逃して試合の制限をすれば軟式野球の未来はないと断言出来ます。
私は中学生が心と体を壊す事なく高校野球に進んでもらえるために軟式野球が最適だと思っています。技術的にも硬式より遥かに難しいので(特にバッティング)技術を磨くためにも良いと思っています。せっかく好きで始めた野球をつまらないものにしない為にも、球数制限については

再考するべきです。
　ピッチャーを守る為と、数多くの選手が試合に出る方法はトーナメント大会(1 回負ければ終わり)をやめリーグ戦方式(負けられる)の大会をすればいいだけの事です。なかなか浸透しませんが、段原カップはそのためにリーグ戦方式を採っています。1 回負けら終わりのトーナメントで子供の体を守るのは勝ちたいチーム(指導者)にとって難しい事です。
　私のピッチャー経験から言えば、1 試合投げる事はそれほど負担にはなりません。イニング制限や球数制限では試合をまたいで 1 日 2 試合投げる事があります。これが肩、肘には負担になります。特に試合をまたぎ1度冷えた肩・肘をもう 1 度使う事は良くありません。だから 1 日 1 試合1球だろうが7イニングだろうが1日1試合、段原クラブはずっとこれを守っています。
　3月の試合に向けて今、段原クラブの1,2年生は競争をしています。各ポジション私の中でほとんど決まっていません。これから少しずつ暖かい日を選んで試合に近い練習が入ってきます。その中で誰が良いものを見せてくれるのか、昨秋に試合に出ていた選手に取って代わる選手が出てくれる事を願っていますしとても楽しみにしています。試合の中でチームの役に立てる選手、当たり前の事を当たり前にこなしてくれる選手が 1 人でも多くなってくれるとチームが勝つ確率が上がります。これから1ヶ月ピリピリした中で明るく練習していきたいです。
　どこのチームもそうだと思いますが、今は今年チームがどうなるのか楽しみしかありません。この冬そういう練習が出来ているように思います。
　キャッチャーのみんな、苦しい練習が君達の身になります。
　頑張れ‼

第３４１話/2019.1.21

　寒い中ですが、平日練習の下半身のパワーアップ・スピードアップ練習と土・日・祝の数多くバットを振る事は続けています。少しずつですがフリーバッティングの打球が力強くなってきたように思います。体作りとバットスイングを繰り返せば当然です。まだまだこれから(シーズン中)も続けていかなければいけません。暖かい日は時間を見つけて少しずつですがピッチャーの投げるボールを打つ事をしていますが、フリーバッティングの野手の投げるボールなら出来るスイングが、ピッチャー相手ではなかなかボールを捕まえる事が出来ません。
　これは当然の事です。ただ自チームのピッチャーは他チームのピッチャーに比べ多く見て、多く対戦しています。それなのにまず打席に入る前の頭の準備がありません。何の準備もせずに来たボールに反応して打つ、これは天才のするバッティングです。段原クラブに天才バッターはいません。
　天才ではない選手は努力する事はもちろんの事、プレーをする前の頭の準備が必要です。野球というスポーツは良い結果を出すために必要となる情報がグランドにたくさん落ちています。それを使う選手が確率を上げる事が出来ます。目の前で起きている現実をまず見る。頭の中で処理をして自分のプレーを決める。守備もバッティングもボールが来てから考えていては通り過ぎます。
　なぜならボールのスピードは人のスピードより速いからです。打つのならピッチャーの投げてくるボールの情報をしっかり知り自分のやる事を決めてスイング出来れば芯に当たる確率は上がります。守備ではボールの飛んでくる場所が分かり次のプレーを頭に入れて準備しておけばミスは減ります。ずっと言い続けている**【予測と準備】**野球は先進国のスポーツです。頭を使えない

選手には難しいスポーツだと思います。
　逆に言えば、身体能力の無さを頭でカバーが出来るスポーツだという事です。体・技・心の心には頭(野球脳)が含まれます。中学生は技術的に未熟なのは当たり前。技術的なミスはゼロにする事は出来ません。練習をし続け上達していけばいいのです。
　しかし考え方(頭の準備)はやろうと思うか、思わないかだけで誰でも出来ます。もちろん間違う事(失敗)もあるでしょう。経験が少ないのですから仕方ありません。やり続けていく事で本物(正解)に近づいていきます。日本人の体格で、世界で活躍する事が出来るスポーツはそこ(頭)の部分が重要なスポーツです。野球はその中の一つです。
　B球がM球に変わり段原クラブも早くに対応しましたがボールの値段が高くB球に比べまだ数が少なく練習時、私のやっているフルスイング塾のボールを貸しています。それは何も問題ありません。
グランド状態が悪かったり、黒土で練習した後、数人の保護者がボールをきれいに拭いてくれます。他の保護者の方々、選手の皆さん知っていますか？たくさんの人数でやれば短時間で終わる仕事ですが、3人でやれば240球は結構な時間がかかります。
　私がこの事を書いている訳は、全員でやれと言っている訳ではありません。誰に言う事もなくチーム(子供達)の為に仕事をしている人がいる。みんな知っておかなければいけません。
　いつも本当にありがとうございます。感謝しています。
　我が子の為に親が働く、これはごく当たり前な事で評価する必要はありません。他人の為、何が出来るのか、これは選手も保護者も同様にそれが出来る人(選手)がチームにとって必要です。そしてその人数が多いチームが良いチームということだと思います。
　改めてお父さん、ありがとうございます。
第３４０話/2019.1.15

1 月 11 日(金)病と 2 年 5 ヶ月戦い続けていた私の大切な OB が 18 才で永眠しました。もう一度一緒に野球が出来る日が来るのを願い続けていましたが叶いませんでした。彼のために何もする事が出来なかった自分の無知と無力さを思い知らされました。骨髄移植以外に治る事のない病、逆に言えば移植すれば治るのにドナーが見つからない現実、両親の気持ちはわかりようも無いですが、どれほどの思いだったのか、悔しいです。
　極端な考えかもしれませんが若い人達のドナー登録の義務化、でなければ小・中・高校生での教育の中での周知など国が子供の命を守るために動く必要があると痛感しました。私は今年 60 才、長く生きれば生きる程大切な人との別れが増えます。今回人として何が幸せなのか、健康で好きな野球が出来る毎日が当たり前ではない人がたくさんいる。来年や明日は必ず全員に来るものではない事など色々考えさせられました。
　目の前の 1 日 1 日を大切に精一杯生きる。練習も同じで 1 日完結。毎回最後の練習かもしれないぐらいの思いで取り組んでいこうと思います。合掌。

12 日(土)、13 日(日)、14 日(祝)3 連休の中練習はしっかり出来ました。暖かかった 13 日(日)久しぶりにピッチャーの投げるボールを打ってみましたが、ほぼボールを捕まえて打てません。今の時期はピッチャー有利なのは当たり前ですが、それにしてもという内容です。
　しっかり数多く打っているのになぜ？ バッティングの中で伝える事の難しい事、タイミング、（ボールを捕まえる）ピッチャーが違えば全てフォームが違う、ボールが違う、バッターはピッチャーによって合わせていくのが仕事です。その能力がバッターにとって重要な能力です。

目の前で起きている事実を脳で処理し理解する、そして実行する。上手くいかなければまた考えて工夫する。ずっと言い続けている予測と準備を含めた、頭の力を使えない選手は伸びません。

自チームのピッチャーを 1 番多く見るはずです。打席に立つ数も多いです。バッターは自チームのピッチャーを打てなければ他チームの初めて対戦するピッチャーに対応出来るはずはありません。経験が力にならなければ時間の無駄になります。練習で数をこなす事はとても大事なことですが、そこに集中と工夫がなければ数が力に変わりません。脳(頭)で理解した事を数多く練習を繰り返し体に染み込ませていく。そして考えなくても体が反応するようにする。それが身に付いたという事だと思います。

90%以上の選手が 18 才で野球人生が終わります。残された時間に限りがあります。前にも書いた通り 1 日を大切に、時間を大切にして野球人生に取り組んで欲しいと思います。

最後に野球選手の皆さん、バッティングは楽しくて練習はそれほど苦しくないのでやりやすいですが、試合に出るために大事なものは“守備と走塁”です。守れて走れる選手が、トーナメントの試合に勝つために使いやすい選手です。

そのために下半身のスピードトレーニングをするべきだと思いますよ!!

第３３９話/2019.1.7

明けましておめでとうございます。

第 339 話です。このつぶやきも 7 年目に入りました。

1 月 5 日（土）本年度の練習が始まりました。昨年 1 年間私は兵庫ブルーサンダーズの監督をしながらのため段原クラブの練習参加の割合が少なくなり、選手に迷惑をかけました。昨年 10 月のシーズン終了からは 100%段原クラブに集中出来ています。

本年度私のテーマは**『復活』**です。

まず私自身の復活、今年で 60 才になりますが、もう 1 度子供達にプレーを見せられる体に戻そうと思っています。1 番分かりやすいのが見ること。口で説明する理論ももちろんあって形で見せられる。子供達にとってより分かりやすくなると思います。そのために私も少しずつでも日々努力しなければいけません。このページで公言し自分にプレッシャーをかけます。

そしてチームの復活です。ここ３年程プレッシャーのかかる試合で自分達の力を出し切れていません。ここ一番での精神力と技術力。これは厳しい練習の中でしか身に付きません。もう一度、練習の質を見つめ直し苦しい時にもうひと踏ん張り出来る選手、逆境の中で結果を出せる選手が育っていける指導をしたいと思っています。

6 年生が延べ 30 人程体験に来てくれました。毎年思う事ですが、バッティングでのスタンスが広く、ほぼインステップします。全員と言っていいくらいの数です。なぜなのでしょう。下半身が速く回転出来ないとスイングのスピードは出ません。まずスタンスが広いと腰を速く回す事が難しくなります。そして足を出せば出す程ポイントを前にしなければいけません。インステップすれば苦しいので上半身が早く開きます。良い事はないと思うのですが、振る力が無いので勢いをつけるために大きくステップするのでしょうか。

正しい練習、正しい技術をしっかり勉強しないと、時間とお金が無駄になります。体験に来ていただいた保護者の方々に説明をしていますが、私はチーム力を上げて試合で勝つという事にあ

まり興味はありません。勝つのなら個の力で勝ちたいと思っています。高校・大学・社会人・プロ、個の力がなければ試合に出る事は出来ません。チームが勝っても 1 対 1 で勝てる力が無ければ次のステージで活躍する事は出来ないのです。練習はひたすら個の力を伸ばす事に力を注ぎます。

特にチーム練習（強制された）ではなく個人練習（自主）で何をするのか、これが出来なければ力はつきません。

この冬頑張っている控えの選手がなんとかポジションを取るところまで来てくれないかと期待しています。持って生まれた体の大きさやスピード、厳しいものがあります。これを技術で何とかするためのお手伝いをしっかりしなければいけません。すぐに変わる事は出来ませんが、3 年間かけてそれでもダメなら高校でやってよかったと思ってもらえるように厳しい事を言うとは思いますが、信じてやり続けて欲しいと思います。

まず体作り、次に技術、そして精神力、

体・技・心 です。

第３３８話/2018.12.30

本年度最後の書き込みです。

12 月 29 日土曜日フルスイング塾の掃除へたくさんの参加の中、とてもきれいにして頂きましてありがとうございました。

これからも 1 本でも多く打てるように、そして高校野球に繋げられるようにみんなで努力を続けて行きましょう。

OB の皆さん 1 月 2 日水曜日渕崎グラウンドで OB 戦です。9：00 集合第 1 試合開始 10：00 です。一人でも多くの OB、保護者の皆さんと会えるのを楽しみにしています。現役の選手も野球を辞めた OB も 1 年に 1 度、楽しく野球の出来る日になってくれればと段原クラブの保護者の方々が準備をしてくれています。

試合後フルスイング塾で打ち上げも用意しています。近況や昔話、学年を超えた交流、ぜひ参加してください。

一人でも多くの人との久しぶりの出会いを期待します。

来年私は 60 才になります。いつ去ってもおかしくない年齢になりました。生きているうちに会いましょう。皆さん待っています。

野球は楽しいですよ。

第３３７話/2018.12.25

まだ平日練習は残っていますが、12 月 22 日(土)23 日(日)24 日(祝)の 3 連休で本年度の休日練習は終わりました。12 月に入り走る量を少し増やしましたが、例年通りバットはしっかり振って

います。とにかく段原クラブらしく『バットを振る力は負けない』を来年も目指していきます。
　小中学生の野球は生まれ持ったもの（体の大きさ、足の速さ、肩の強さ）が結果に大きなウエイトを占めます。これは本人の努力で身に付けにくいものでほぼ親からもらったものです。そのため小中学生で少しぐらい良い結果を残してもそれ程自慢出来るものでも人として優れている訳でもありません。私がその典型的パターンです。親からもらった体と類まれなる運動能力で、人並みの努力で甲子園にも出られましたし、プロ野球選手にもなれました。だからと言って人として優れている訳ではありません。たくさんある能力や魅力の中のたった一つが少しだけ他の人より上だっただけです。今、中学生の時、たかだかチーム内でちょっと野球が出来るからといって勘違いをしていると必ず後悔することになります。高校野球は特にそうですが、楽しい事(バッティングや試合等)はレギュラー中心で、苦しい事(トレーニングやランニング)はレギュラー以外も全員やります。その中で苦しい練習をレギュラーが手を抜いていたらどうですか？チームメイトが納得しますか？そんなチームはろくなチームではありません。楽しい事を数多く経験するレギュラーが苦しい事を先頭に立って誰よりも全力でやるべきです。そうでなければ理にかないません。それをしっかり伝え導く事が指導者の大事な仕事です。
　甲子園で勝ち上がった高校の選手がなかなか入学する事の出来ない有名大学に入学し、野球を途中で辞めた話を時々聞きます。野球という一芸で入学して野球を辞める。3 年間で何を指導してもらったの？「野球が上手い」それだけ‼　確かに理不尽な事がたくさんあるのは想像出来ます。私も高校時代やプロに入ってからも何時間も正座させられたり、暴力を振るわれたり、今の時代なら考えられないような経験をしました。
　苦しいから、面白くないから逃げる、野球は教育の一つの手段のはずです。甲子園に出ようが、勝とうが、本来入学出来ないような大学に野球を使って入学し辞める。それならしっかり卒業まで頑張れる選手に道を譲るべきです。野球というスポーツを使って選手に伝えなければいけない事、技術や勝つという事ももちろん大事な事の一つだと思います。しかしそれだけでは野球をする意味はありません。他の人より身体能力に優れ小中学生の時代、常にチームの中心選手として当たり前のように試合に出続けている選手にこそ、厳しく接し、自分自身に厳しく出来る人間になれるように指導していくべきだと思っています。
　人の何倍も努力を重ねても誰もが良い結果を得られるとは限りません。身体能力にはどうしようもないものがあるのが現実です。
　今体が小さく、足が遅く、肩も弱い、試合も出られない「だから何だ」です。今日の自分より明日、今年よりも来年、努力を重ね確実に成長していけばいいのです。野球というスポーツの中で心と体を鍛え、人として大きくなる、そのお手伝いを私は少しでも出来ればと思っています。だから厳しく君達に接していきます。
　力が無くても諦めない、レギュラーは調子に乗らない、野球の技術に頂点はありません。段原クラブのレギュラー程度たいした事ありません。

第３３６話/2018.12.18

　11 月 30 日で兵庫ブルーサンダーズの監督を退任しました。色々な人達(家族・犬・段原クラブ・郵便局)に迷惑をかけてやるのだから 3 年間は精一杯やろうと思っていましたが、先方の都合で続けることが出来なくなりました。私の中には色々な思いがありますが、今は心の中にしまって、目の前のことを一つずつ一生懸命やっていこうと思っていますが、59 才になって突然無職になってしまいました。

師走の風が一層冷たく感じます。1 日も早く仕事を見つけなければいけません。何かありましたら紹介をよろしくお願いします。

12 月に入り段原クラブは本年度の試合が終わり冬練習に入りました。今年は全ての「スピードアップ」これを中心にやっていこうと思っています。

3 月の第 1 土曜日、日曜日の山口ミラクル招待試合までにまず、体の各部分の筋力を上げスピードを上げる。それをプレーのスピードアップに繋げる。寒い中で難しいとは思いますが、意識をしてやっていきたいと思います。

12 月 16 日(日)8 人の小学生が体験に来てくれました。段原クラブは体験メニューではなく通常の練習に入ります。アメリカンノックもあり少しきつかったと思いますが、手を抜くことなく全力で取り組んでくれました。とても好感の持てる選手達でした。またいつでも来て下さい。一生懸命な子供達と野球をするのはとても楽しいものです。

今年 1 年間兵庫ブルーサンダーズの監督をしたので土曜日・日曜日がっつり練習が出来た日がありませんでした。その分これから全力でやっていこうと思います。

試合では身に付けることの出来ないもの、数多く反復することでしか身に付かないもの「基本」をこの冬しっかりやり続け、ピンチで揺らがない本物の力を今年は目指していきたいです。

第３３５話/2018.12.10

寒い寒い週末でした。その中で 12 月 9 日(日)カープジュニアと 1 年生の練習試合をしました。4 年前にも 1 度しましたが、私の本音はやりたくありません。

まずボールが違う、皆さんは軽くて小さいボールだから問題ないと思っているでしょうが、腕への負担は軽いボールを投げる方が増します。まして 12 月の気温、本来野球の試合が出来る環境ではありません。子供達の体を守るべき大人が自分達の都合で子供の体に負担をかける。少しおかしいなと思っています。そういう私も連盟からのお願いだったり、カープジュニアから入部してきた親の立場だったりを考え、試合をしているのでそんな大人の一人です。

練習は数多くしなければ上達はしません。が、その中で体を壊しては本末転倒です。将来の可能性までも奪ってしまいます。

プロ野球の世界で成功するためには他の人の何倍も練習をする事は当たり前、それでも壊れない体を持っている事が最低条件です。言い換えればプロにはなれないという事です。なるかならないかではなく、それを目指して努力する心が大事です。「こんな事で壊れるぐらいならどうせ上のレベルで野球は出来ないのだからしょうがない」みたいな大人の考えは間違っています。壊してはいけないのです。

私達の時代はアマチュアの時にたくさんのピッチャーがケガでプロ野球への道を断たれました。今は大事に育てて、プロ野球に入ってから壊れているピッチャーが数多くいます。どちらが良いのか私には分かりませんが、私が預かっているのは他人の子供です。厳しく接する事が彼らのためになると信じていますが、それは精神的なところで、体はそもそも弱いという前提で接しています。

毎年段原クラブには基本的身体能力が優れた選手は 2、3 人です。今年は 4 人程入部しました。その点で例年より少し上ですが、カープジュニアレベルと試合をするとほとんどの選手が身体能力で劣っているのがよく分かります。まあこれはいつもの事なので気にはしませんが、その現実を見て選手(親)が何を感じ何を思い、これからどうするのかです。

前にも書きましたが、野球はスピードを争うスポーツです。「スピードが無い」は野球選手として圧倒的不利な立場になります。送球、スイング、守備、もちろん走塁、全てスピード勝負です。やる事ははっきりしています。12 月 1 月 2 月、3 ヶ月各自がどれだけ全てのプレーのスピードを上げられるか、そのための練習に集中するべきです。スピード×重さがパワーです。大きな体(重い)が速く動く、これが選手としてベストです。大きくても遅くては意味はありません。まして小さければ速く動けなければ結果に結びつけるのがもっと難しくなします。

トレーニングは「1 ヶ月で自分が変わったのが分かる、3 ヶ月続けると他人が気付く」と言われています。毎日続けるのが本来ですが、特にこれからの 3 ヶ月今まで以上のモチベーションで取り組んでほしいと思います。「1 人で出来る練習は各自 1 人でやる」段原クラブのベースにある考え方です。ただ苦しい事を乗り越えてやるためにはチームメイトの存在も必要です。ライバル意識をしっかり持ってチームの中での順位を一つでも上げる、そして春に一桁の背番号を奪い取る。チビッコトリオ、私は君達が諦めない限り全力でサポートします。3 年生の最後の練習までやり続けてください。

第３３４話/2018.12.3

12 月 1 日(土)、2 日(日)の 2 日間本年度最後の大会ツネイシ大会に出ました。4 試合で 3 勝 1 敗、主力 3 人の投手は 3 試合で 2 失点、ある程度の投球は出来るようになってきました。変化球のコントロール、牽制のスピード、ベースカバーなど来春までに身に付けなければいけないことはたくさんありますが、先週書いたようにレギュラー捕手不在の中では合格点です。

不満は内野守備とバッティングです。ピッチャーが打ち取った打球でアウトが取れない、「内野安打は内野手の恥」私は常々内野手に言い続けていることです。芯をくわれた打球をファインプレーでアウトにする必要はありません。ピッチャーが打ちとった打球を最低 1 つアウトに取る。これを限りなく 100%に近付ける。その為に正しいスローイングが求められます。正しい回転の相手が捕りやすいボール、キャッチボールを丁寧にしなければいけません。ポジションが無ければレギュラーにはなれないのです。

大不満はバッティングです。1 年生が 4 人も 5 人も先発で出ていますし新チームなりたての秋はピッチャー有利ですし、ある程度打てないのは分かります。それでも内容が悪すぎます。まず三振です。あまりにも多すぎます。確かに 1 日 4 試合する大会での主審のストライクゾーンの広さは驚くほどです。三振は 100%変化球かアウトコースのストレートでします。これはストレートに遅れないで引っ張って遠くに飛ばしたい欲求が原因です。言い換えれば欲の深さが三振を増やします。私にもその気持ちはよく分かります。全ての小中学生はボールを遠くに飛ばしたいのですから。

しかし、試合で結果を出すためには欲と戦う必要があります。ピッチャー(特に良いピッチャー)は、ピンチになればストレートも変化球も遠く低く投げてきます。それに対応できるバッターがチャンスで打てる良いバッターということです。

ではそのためにどんな技術を身に付けなければいけないのか、まずできるだけ後ろのポイントで芯に当てられる技術です。肘の使い方、下半身の回し方、ヘッドの立て方などいろいろありますが 1 番はスイングスピードです。ポイントまでいかに早くバットを出せるのか、少しでもボールを見る時間を長くするためにスピードです。では何をするか、体作りを含め練習です。

これも選手にいつも言っていますが、バットを振るだけでは足りません。

次に配球を読める頭を鍛えることです。球種が例えば二つなら口を開いていても 50%当たります。考えれば 80%以上分かるようになります。野球を勉強し相手を研究し本当に野球が好きで打ちたい、勝ちたい気持ちが本物なら出来て(やって)当たり前。今年の新チームは、前のチームに比べ各チームのエースはレベルが高いです。打ちたければ変わらなければなりません。

これからの 4 ケ月自分たちの課題ははっきり見えました

背番号全員回収です。2 月末までの 3 ケ月、全員で取り合いです。

私の中に学年という概念はありません。平等にチャンスはあります。火花が出るような、ライバル意識むき出しの練習が楽しみです。

今年はこれまで暖かかったですが今週から気温が下がるそうです。ケガ、故障、風邪(インフルエンザ)などがあると置いて行かれます。自分の体は自分で守る。

11 月から移動する試合が多かったりジャンパーなど揃える物があったり、保護者の方々に多く負担をかけました。選手達はその事をしっかりと頭に入れ野球に取り組まなければいけません。負担が高いと感じるのか、安いと感じるのか、あなた達の取り組み次第です。

感謝の気持ちを行動で見せて下さい。

第３３３話/2018.11.26

11 月 25 日(日)先週も大会でお世話になりましたが、今週も府中オーシャンズに練習試合に行かせていただきました。1 年生のキャッチャーの肘が少し疲れていますし、大会でなかなか結果の伴わなかった内･外野の 1 年生 2 人を含め、試合に出ていた 1 年生 3 人を練習に残し、2 年生にチャンスを与えました。

私は当然元気一杯このチャンスをものにしたいという気持ちを前面に出してくれると期待していました。本当にガッカリです。野球の実力がないのでその部分はそれほど期待はしていませんでしたが、心が伝わらない、レギュラーとして 1 桁の背番号と責任を背負う気は無いのでしょう。1 年生に対する刺激にすらなりません。

ずっと出ているレギュラーの選手もちょっと勝って勘違いしているようです。自分達が強い、自分が力があると思っているようです。集中力がありません。はっきり言ってそれほどの選手ではありません。本気で集中し、全力を尽くせば簡単に負けるチームではありません。しかし少しでも気を抜けば普通のチームです。まだまだ本物の力(技術)を身に付けた選手はいません。しっかり意識すればある程度出来るくらいです。安心した時、選手の成長は止まります。優勝が自信になればいいのですが、慢心になっているようです。指導者も含め引き締めが必要です。

府中オーシャンズのグランドに私は 8 時に着きました。朝早くからバッティングをしていたそうです。2 試合した後、3 ヶ所でバッティングを始めました。段原クラブの選手・保護者全員それを見ました。段原クラブは 2 試合終わり各自解散。室内に打ちに来た選手は 2 人。他の選手がどこで何をやったのかは知りません。家に帰ってご飯を食べて寝たとは思いたくありませんが…？

冬を越して春になった時、段原クラブは今の立場を維持するのは難しいのではないでしょうか。確かに府中オーシャンズはチーム練習なのでやるしかありません。私の考え方は違います。上手くなるのは個人練習だと思っています。どこで何をやっても構いません。今、自分は何をやらなければいけないのか、何が必要なのか、本気で考えやる必要があります。成長をあきらめるか、やり続けるのか、二つしかありません。

私は本気でない選手のために休日の大事な時間を使うつもりはありません。チーム全員平等で

はありません。この子と一緒に野球をしたい、これから春までは、はっきりして練習していきたいと思っています。たっぷりあるわけではない残りの野球人生を「本当に野球が大好きな子」と送りたいと思っています。

第３３２話/2018.11.19

11 月 17 日(土)18(日)府中オーシャンズの招待試合に出させていただきました。

毎年 A･B チーム出ることが出来、2 日間で必ず 4 試合出来るとてもありがたい大会です。32 チームで 8 会場を 2 日間、広島県内でこの規模の大会を運営出来るチームは他にありません。府中オーシャンズのチーム力を感じます。色々批判的な話しが耳に入ってくることがありますが、毎年レベルの高いチームを作っています。野球のクラブチームとして 1 番大事なことは野球の技術レベルの向上ですから間違っていないと思います。悔しかったらぐずぐず言わず負けない選手を育てることです。躾（あいさつ、言葉使い等）が第 1 目的ならお寺に修行に行くなど野球のクラブチームでなくてもいいのではないでしょうか。段原クラブ(私)は常に 1 番の仕事は選手ひとりひとりの野球の力を上げる、これを考えています。それを選手も望んで入部していると思っています。

A チームは 4 勝 0 敗で A クラス優勝、B チームは 2 勝 2 敗で B クラス 2 位でした。例年通り私は B チームを担当しました。理由はなかなか大きな試合に出るチャンスのない B チームの選手達が監督と一緒に試合を経験し、試合の中で本当の野球を指導すること、控えの選手のモチベーションを上げること、若い指導者に経験を積んでもらうことなどたくさんのメリットがあると思っています。　　今年も 23 人全員が試合の中で良い経験が出来てとても大きな 2 日間でした。府中オーシャンズに心から感謝します。ありがとうございました。

B チームは技術的には多くの不満がありました。1 番は正しい技術に対する意識の低さです。普段の練習で何度も言い続けていることが試合の中での頭の準備不足が目立ちます。体は小さいし細い、パワーとスピードが足りない、これはすぐ解決しません。考え方はその場で変えられます。常々言い続けている「予測と準備」野球選手として当たり前に身に付けなければならないことに対する思いが足りません。ただ私が野球人でなければ 1 日目の 2 試合目、2 日目の 1 試合目は集中力もあり小さな選手が大きな相手に食らいついていく姿に感動させてもらいました。「人の心を動かせる野球」を B チームの選手達は見せました。心の中で拍手です。

A チームは 4 試合で得点 13、失点 1、安打 24、被安打 6 勝つべく数字です。3 人のピッチャーで 4 試合を投げていますが、投手力を中心にした守り勝ちです。11 月 11 日(日)にマンツーマンで投手の指導をしたことを書きましたが選手がしっかり理解し、実践してくれたと思います。ほとんど試合を見ていませんが、ボールを投げるのは身体能力とフォームなので、3 人のピッチャーはある程度の身体能力があるので正しいフォームで投げれば平均以上のボールがいくのは当然です。まだ新チームになったばかりの秋はバッターの力がありません。今打たれていては無理です。これから 4 月までの 4 ヶ月の練習次第で春からも抑えられるか打たれるようになるか決まります。全てのピッチャーが競争意識を高めより以上の向上を望みます。

バッターは 4 試合でヒット 24 本、1 試合平均 6 本です。得点は平均 3 点、9 人出ていて 6 本、打たない選手がいます。私がいつも言っている 1 人 1 本 9 本打てればほぼ負けません。レギュラーの責任、1 試合で 1 本打てる選手がレギュラーだと私は思います。逆に言えば 1 本打てればレギュラーになれるのです。全員にチャンスがあります。今回 A チームにいた選手も安心していたら 4

月にどうなるのか分かりません。学年関係なく全員ライバル。仲良く練習しない冬になると春に今以上にレベルアップしたチームになれます。

本年度の大会は 12 月 1 日(土)2 日(日)のツネイシしまなみビレッジ中学生軟式野球大会が最後です。

その前にチーム内で競争です。

第３３１話/2018.11.12

10 月から試合が多くじっくり練習出来ていませんでした。

11 月 10 日(土)、11 日(日)と 2 日間本当に久しぶりに全員で練習出来ました。ピッチャーのバント守備、正しいストレートの投げ方、ストライクをとれる変化球、キャッチャーのスローイングなど少し時間をかけてマンツーマンで指導する事が出来ました。簡単に試合で結果が出るとは思いませんが選手ひとりひとりがなぜストレートがシュートするのか(キャッチャーのスローも含め)変化球でのストライクのとり方、追い込んでからの変化球での三振のとり方、バント守備の練習の中でのピッチャーの正しい下半身の使い方が正しい投球につながることなど伝えた事をこれからの個々の練習の中で消化していくことによって、確実にレベルアップすることが出来ます。

全ての結果に理由があります。ボールが高い、スピードが出ない、理由は 1 つではなくひとりひとり違います。指導者は原因を的確に見つけ、各自にたくさんの引き出しの中からその選手に必要なものを与えることが出来るかが能力です。引き出しの数をいくつ持っているのか、たくさんあるに越したことはありません。常に引き出しを増やす努力を指導者は続ける必要があると思っています。

11 月 11 日(日)の練習でひとつ残念な事がありました。練習の準備です。ある程度出来た時、一部の選手がまだ動いているのにも関わらず殆どの選手はたむろして世間話をし、その中には新チームの 1 年生のレギュラーもいました。「もう何もする事はありません」 「私のする事は終わりました」 「だからしゃべっていて何が悪いの？」ふざけんな！！です。レギュラーは試合に当たり前に出ていい思いをします。チームの会費は全員同じ、その中でいい思いをする選手とそうでない選手がいます。理不尽です。

では本来チームとしてどうしなければいけないのか、試合でいい思いをするレギュラーは練習でそうでない選手以上の努力と雑用(準備・片付け)など率先してやるべきです。やる事が無いはずありません。グランドのゴミ、石などを拾う。グランドの高い部分を削って低い所へ入れる(雨の時､水が溜まりにくくなる)。考えればいくらでも仕事はあります。その気が無いだけです。レギュラーが一番苦労し努力している姿を見せなければ、他の選手(保護者も含め)は納得しません。結局チームが一つにはなりません。大事な試合の大事な場面で結果を出せず負けます。チーム力とはそういう事だと私は思っています。

高校野球を考えて下さい。試合に出る事が出来ない選手が圧倒的に多いのです。本来指導者はレギュラーをそれほど大事にしなくていいのです。誰だって試合に出たいですが、努力が全てを解決してくれません。マンガのように持って生まれてものがない選手が努力したからといって才能のある選手には勝てません。現実は非情です。だから私はレギュラーには厳しく接します。手抜きは許しません。

控えの選手から憧れ、尊敬されるレギュラーを望みます。

第３３０話/2018.11.5

11 月 3 日(土)県少年部新人戦県大会準決勝で負けました。

初回に 3 点取っての逆転負け、エースを含めチーム力の無さがはっきり出た試合でした。本来、旧チームから中心として出ていた選手は、新チームの試合では相手を見下して余裕を持ってやってくれないといけないのに、精神力が弱いのか、技術が無いのか毎試合たいした結果が出ません。2 日間色々考えてみました。「自信が持てない」「覇気がない」(気持ちが表に出ない)練習では相当高い能力を見せてくれます。しかし試合で出ない。私の存在が選手のプレッシャーになっているのでしょうか。言い方は悪いかもしれませんが「バカになる」ほど腹の中から気持ち(声)を出す。3 年生もそうでしたが 2 年生にも見当たりません。私の野球人生ではありませんし、今まで何度も取り組む姿勢について話をしてきました。結局は本人次第です。

私は普通(人と同じ)が嫌いです。日本人は他の人と同じが安心するようで、個性を出しにくい国です。たしかに野球はチームスポーツですが、自分ひとりが上手くなり自分が結果を出せばいいのです。その人数が多ければチームは勝手に強くなります。同じポジションの選手が仲良く同じ練習をしているのを見ると、勝負の世界で勝ち残る気があるのかなと思います。極端に言えば「自分ひとりが打って勝つ試合がベスト」ぐらいの考えでも良いと思っています。あなたのライバルは誰ですか？ 1 番じゃなくてもいいですか？ 負けて平気ですか？ 今やっている野球は本当にあなたの人生にプラスになっていますか？ 1 日 1 日充実感はありますか？

高校野球から大学野球に進める選手は 5%。95%の選手が高校で野球を終えます。1 年生は残り 5 年、2 年生は 4 年しかありません。何日野球が出来るのか 1 度数えてみて下さい。1 日を大切にやり切っていく、寿命が残り 4 年と言われたら 1 日をもっと真剣に生きるはずです。ひとりでも変わってくれると嬉しいです。

第３２９話/2018.10.29

10 月 27 日（土）県少年部新人戦県大会 1,2 回戦にやっと勝ち準決勝に進みました。相変わらずバットは振れませんが何とか点を取り、少ない得点を守っています。バッテリーが少しずつですが安定してきました。つまらない四死球、パスボール、ワイルドピッチ、盗塁、長打、これを防げれば野球はたくさん点を取られることはありません。アウトコースの低い所へストレートを投げられる。変化球は甘くてもストライクが取れる。牽制とクイックが出来る。スピードは速いに越したことはありませんが、アマチュアの投手としては絶対に必要なことではありません。投手として大きな試合でマウンドに上がりたければ、この 3 つの技術は必要です。当然中学 1,2 年生なのでまだまだな所はたくさんありますが、新チームになって 1 ヶ月、試合をするたびに少しずつ成長しています。

捕手は 3 人で争っています。色々試してみましたが、ひとり頭ひとつ出ました。キャッチング、スローイング、ワンバウンド、リード、不満はたくさんありますが、3 人ともこれから争って「良いキャッチャー」自分の都合ではなくチームの都合、投手の都合で仕事の出来る要になってほしいと思います。私の持っている技術をこの冬ひとつでも多く伝えます。彼らがどのくらい身に付けられるか本人次第です。

守備は私が嫌いなのが内野安打、言い換えれば投手が打ち取った打球がヒットになることです。外野手もポテンと落ちるヒットが嫌いです。野手の仕事は投手が打ち取った打球を確実にアウトにすることで、芯をくった打球をさばくことではありません。芯で打たれた打球は投手の責任です。野手は芯をはずれた打球をヒットにしてはいけません。そういう点では、内・外野手共に動

きが鈍い、特に外野手にスピードが無い、野手は足のスピードが命です。バッティング練習はもちろん大事です。打つ事は楽しいです。しかし選手として「長く野球をやりたい」「上まで行きたい」夢があるなら今、しっかりと下半身のスピード、パワーを上げるトレーニングをするべきです。技術を身に付ける前に、身に付ける土台、体を大きく、強く、速くこれがなければ高い技術が身に付きません。

第３２８話/2018.10.22

軟連少年部新人戦西部大会で優勝しました。勝つ事が 1 番大事な事ではないといつも言っていますが、この大会は少し勝ちたいと思っていました。

段原クラブはポルテと言うチームが広島市軟式野球連盟に登録し県大会出場枠広島市①が復活しました。しかし予選にポルテは棄権。試合をせずに県大会出場が 2 大会続きました。段原クラブが望んだことではなく、連盟の決定に従っているだけですが、たぶん他のチームからは色々言われていたはずです。私の耳にも入ってきました。「力も無いのに県大会出場」「県大会に出る資格のあるチームなのか」そのためにもある程度のチーム力は示したいと思っていました。確かに今、他のチームに比べれば簡単に県大会に出場し、結果的には 1 回戦で負けています。そんな批判を少しは、言い返す事が出来たと思っています。

1 年生が半分試合に出なければいけない、まだまだ力の無いチームですが、選手とコーチの努力によりここ 1 ヶ月少しずつですが力を付けてきました。試合になかなか出ることの出来ない選手がよく練習をしています。あきらめる事なく続けてほしいと思っています。

私の中では今試合に出ている連中が、頑張っている選手達にとってかわられる日が来る事を望んでいます。勝負の世界なので、力の無い者を頑張っているという理由だけでレギュラーにする事はできません。段原クラブの監督という立場ではなくひとりの野球人、ひとりの人間として毎日、毎日、私を信頼してくれ努力を続けている選手が 3 年生になった時、野球選手として良い思いが出来るチームであるべきだと思います。そのために心を込めて一緒に野球をやっていきます。私の持っている能力(時間)はどれほどのものか分かりませんが、心のある子供達のために使っていきたいです。その時間が私にとって何ごとにも代え難い時間である事が、今年兵庫ブルーサンダーズの監督をしたことにより痛感しました。

2月1日から兵庫ブルーサンダーズの監督になった事により、段原クラブの選手達と接する時間が半減しました。独立リーグの監督、プロを目指す本気の選手達の集団の監督、野球人としてやりがいのある仕事だと思い、たくさんの人（子供達も含め）に迷惑をかける。収入も減る。睡眠時間も減り体に悪い。全て分かって、それでも本気で野球をやってみたいという思いで契約しました。しかし現実はあまりに違いました。独立リーグというものを知らなかった自分の責任ですが、少し後悔しています。

しかし契約です。私はその契約を守り、契約通り全力を尽くします。

今、来年の事が何も見えず不安しかないですが、会社として契約をしっかり履行してくれると信じています、

段原クラブの選手としっかり時間が取れて、野球が出来る時間が私にとって 1 番の時間だという事がその時間を削られたことにより、本当によく分かった年でした。

第３２７話/2018.10.18

兵庫ブルーサンダーズの今シーズンが終わりました。私にとって初めての経験で戸惑うことばかりで思い通りにいかないことが多く、伝えなければいけないことの半分も伝えることが出来ず、不完全燃焼。ひとりひとりしっかり時間をかけて指導出来れば、もう少ししっかりとした野球が出来るようになります。与えられた環境の中で精一杯やってきましたが、言い方が正しいかどうか分かりませんが、もったいない１年だったと思います。今、来年のことが何も見えない状況なので何も言えませんし、何も考えられません。野球をするのなら本気で出来る環境と、本気な選手、そして本気な指導者が必要です。それらがそろうことを望みます。

段原クラブは県大会で今までの歴史の中で一番惨めな敗戦をしました。チームとしてずっと続けてきた「バットをしっかり振る」（フルスイング）、私が一番大事にしている段原クラブの原点。今年１年間それが出来ませんでした。試合で負けてもスイングでは負けない。点数は負けてもヒットの数は負けない。ずっと続けてきたことが今年のチームには出来ませんでした。新チームになっても情けないスイングです。何が原因なのでしょう。練習量なのか質なのか、それともそもそも選手の問題なのか。バッティングは数多くやってもほとんど故障することはありません。「数は力なり」振った者が勝ちます。この考え方からすると、今までの選手と比べて数が足らないのでしょう。「私が一番練習しています」自信を持って手を上げられる選手がいるのでしょうか。私は中学時代、チーム一練習した自信があります（３年生の時だけですが）。そのとき一番成長しました。もうひとつ考えられるのが練習で身に付けたスイングを試合で出来ない。「心の問題」自信がない。これも練習不足が原因です。自信がなければそれこそ練習するしかありません。結論は「練習不足」。来春までの約５ヶ月、どれだけ心を込めてバットを振るか、選手ひとりひとりにかかっています。ひとりでもふたりでも本気でバットを振る選手と関わっていきたいと思います。

卒団式が終わって３年生が多く休むようになりました。段原クラブの練習は自由参加なので休むことは自由です。私が思うのは「なるほどね、今年はそういうことか」「やっぱり段原クラブじゃなかったな」ということです。高校野球にいってチームに迷惑をかけないようにしてください。自分達が下級生の時にしてもらったことは上級生になったら返す。当たり前のことだと思いますが。価値感は家庭それぞれ自由ですが、そんなで１１月３日に試合？無理です。

第３２６話/2018.10.09

ここの所、私の精神状態が良くなかったので、このページを遠慮していました。大好きな野球なのに面白くない、野球以外の面倒くさいことが多すぎる。私は野球人なので野球だけを全力でやらせてほしいと思います。

10 月 8 日（火）兵庫ブルーサンダーズは最終戦でO6ブルズに勝ち、何とか 2 位でチャンピオンシップ（CS）に出られることになりました。今年は昨年の中心選手が抜け、戦力的には最下位を予想していました。その中で何とか 2 人、戦えるピッチャーが出てきてほしいと思っていました。三山という高校生に本当に助けてもらいました。1 人で 8 勝、特に最後の 3 試合で 3 勝、ブルーサンダーズにとって救世主です。

2 人いれば優勝を争うことが出来たと思いますが、1 人ではここまででした。10 月 14 日（日）の CS も三山に投げてもらうしかありませんが、体のことを考えれば投げさしたくはありません。野手を含め他の選手の奮起を期待します。

段原クラブは卒団式が終わり、本格的に新チームに移行しました。県少年部の西部予選では 2 試合勝

ち、県大会には進めますが、バットは全く振れません。年々振れる力が落ちているように思います。「体作り」「スイング」、努力しているのでしょうか。下半身のスピードとパワーを使ったスイングが出来る選手がいません。

野球は下半身の力を使ってするものです。浮き上がったり、フラフラしているようなスイングでボールが速く遠くに飛ぶはずがありません。強く柔らかい体の使い方、新チームも「不器用」ですから、関節を柔らかく使ったしなやかなスイングが出来るようになるのは大変なように思います。相当な数の努力が必要です。

よく素質の話を聞かれますが、一番は誰よりも多い練習を毎日続けられること、二番はどんなに数多く練習しても壊れない体、これらがスポーツ選手にとっての大きな素質です。

あなたは持っていますか。ブルーサンダーズの選手の皆さん、試合は三山のおかげで勝ちましたが、心は負けていたように見えました。「必死」「全力」、もう一度考えましょう。

第３２５話/2018.09.24

兵庫ブルーサンダーズは勝負の試合に大敗しました。野球は投手力、分かりきっていることですが、今年、私は監督として痛感しました。1回を0に抑えることが、ストライクゾーンにボールを投げることが、大変だった経験がなかったので、そんなに難しいことだと思っていませんでした。でも現実を突き付けられました。しっかり兵庫ブルーサンダーズの現実を認め、変わるため変えるため、努力するしかありません。独立リーグで野球の点数になる試合をしなければ、プロ野球どころではありません。チームは続いていくので諦めることなく、練習するしかありません。これから（来年）は厳しくなります。結果が出ていないのですから当然です。覚悟が必要です。

段原クラブは、協議会リーグ決勝大会で優勝しました。相変わらず、今年のチームは打力がありませんが、無失策、これは評価できます。3年生の皆さん、残り1大会、あっという間の3年間でした。やり残したことはありませんか。野球人生が終わるわけではありませんが、ひとつの区切りです。やりきって終わってほしいと思います。「心を込めて」

雨の中でのカープの試合、「優勝は決まっている」「負けている展開」普通ケガを恐れてレギュラーは力を抜きます。カープは全くそんなことなく、ヘッドスライディングはする、いつもと変わらない全力プレー。カープが強いはずです。ファンが応援する理由も分かったように思います。確かにチームが強く、勝つ方が楽しいです。しかし本当に見たいのは心のこもった全力プレーです。一流のプロ野球選手がやっています。一流でもないプロでもない野球選手がなぜ手を抜いているのでしょう。それで夢を語る。いつも段原クラブの選手達に言い続けている、見ている人の心を動かせる野球。リーグ決勝大会、私は見ていませんが、出来ていれば嬉しいです。兵庫ブルーサンダーズの選手も心を動かせますか？

第３２４話/2018.09.16

先週はとても嫌なことがあり、このページを書くことが出来ませんでした。今まで何度も経験しましたが、信用していた人に裏切られるのはいくつになってもつらいものです。切り変えて、一生懸命野球をやっていくしかありません。残り試合、選手のためにベストを尽くします。

兵庫ブルーサンダーズは台湾と韓国のチームと試合をしました。今までは、日本の方がレベル

が上というイメージを持っていましたが、U-18 の試合でも分かるように、追い越されたように感じました。体が違います。とにかく日本人より腕も下半身も太い。スイングの力強さは完全に負けています。まして日本は相変わらず、高校野球は金属バットを使っています。技術も必ず追い越される日が来るはずです。

それから日本は、小・中学生が勝つためだけの野球をやっているチームが数多くあります。そのため個人を犠牲にして、個のレベルアップがおざなりにされています。韓国の指導者に話を聞くと、上のレベルに上がるために「チームの勝ち負けは関係ない、個人のレベルアップに集中するべき。」私もその通りだと思いますが、日本ではチームが勝つことにより、進学先や就職先が変わります。指導者は自分のためにも勝つことにこだわります。考え方、システムが違うので、これから個のレベルでは日本は負けるように思います。メジャーに行く選手も韓国の方が多くなると予想します。

そろそろ小・中学生の指導者の皆さん、勝つためのテクニックより速いボール、強いスイング、投手はどんどんストライクゾーンに投げ込み、打者はそれを 1 球目からフルスイングする、シンプルな野球をしませんか。そして高校野球は金属バットを木製に変える。そうしないとアジアでも勝てない国になってしまうと思います。

いつも言い続けている原点能力。そのためにしっかり食べ、よく寝、たくさん練習し、思いきって試合をする。技術はその後から付いてくる。そんな野球をするべきだと、今回、台湾、韓国との試合で痛感しました。

段原クラブは中学生です。体に恵まれている選手とそうでない選手がいますが、3 年間をトータルで考え、シンプルで力強い野球をやっていこうと思います。

食べて、寝て、練習しましょう。出来たら頭も使ってくれるともっといいと思います。もう少し野球のことを考える時間を増やして下さい。守備の動きは全てのポジション出来なければ、チャンスを失いますよ。

第３２３話/2018.09.04

野球はミスをしないチームが勝ちます。ミスの少ない選手が良い選手です。しかし人間はミスをします。まして中学生や独立リーグの選手は未熟なのでミスをしても構いません。ただ何度も同じミスを繰り返す選手は使えません。プロ野球では年棒が下がったり、戦力外（解雇）になったりします。なぜ同じミスを繰り返すのか？まず「技術がない」から、「練習をしない」から。一番は「考えない」からです。

技術はすぐに身に付きません。練習をしてもすぐに結果には結びつきません。特に試合中で大事なのは「考える」ことです。バッティングはピッチャーに合わせなければいけません。ボールは速いのか、コントロールは、変化球は何があるのか、配球は。いろいろなことを頭に入れ、どのボールをどう打つのか、一番確率の高い方法を探ります。本能だけで何も考えず、来たボールに反応して打てたら天才です。日本に何人いるでしょうか。同じピッチャーに、同じことを繰り返して、同じ失敗をする。今年の段原クラブの 3 年生はこれです。何度も書いていますが、基本的身体能力に恵まれていない選手が本能だけでバットを振っていれば、当然良い結果は得られません。何度も何度も同じ話を繰り返していますが、分かってもらえないようです。

今年から兵庫ブルーサンダーズの監督をすることになり、週 4 日の練習にべったりつくことが出来ず、選手には迷惑をかけています。そのことを差し引いても、今年は不甲斐ない試合が多す

ぎます。私は野球人生の中で負け続けた経験がありません。負けるのは大嫌いです。チームメイトにも、相手チームにも勝ち、いつも一番になりたいと思って、学生時代は野球をしていました。保護者も含め家族中がレギュラーでないことや、負けることに慣れている（諦めている）ように見えます。その時点で成長は止まり、目標はなくなり、野球に集中することは出来ません。

先日カナダの指導者の話を聞いた時、チームに入れる条件は“やる気（モチベーション)”で野球の技術はなくてもいいと言っていました。「技術は練習で伝えられるが、気持ちは本人のもので教えられない」という考えでした。私も今年、段原クラブでも兵庫ブルーサンダーズでもいろいろ考えることが多くありましたが、「野球が好き」だったり「夢や目標」、もっと言えば「全力」が人それぞれ違うことを痛感しました。私の「全力」と選手の「全力」が違う、「本気」も違う。強制すれば今はパワハラです。これからスポーツの指導者にとって覚悟のいる難しい時代になっていくでしょう。何が正解なのか？私は、正解はないと思っています。チームにより、指導者により正解があり、選手はそれを選べば良いのではないでしょうか。

今年は初めての経験が多く、私にとって苦しい 1 年ですが、この歳になって勉強させてもらえることは有り難いことです。

第３２２話/2018.08.27

8 月 25 日（土）26 日（日）瀬戸内大会に参加しました。2 日間で 2 勝 2 敗、Ｂクラス 2 位。4 試合で内野のエラー10 個、頭のエラーもあれば、今年のチームははね返す打力がないので勝てません。今までこのページで何度も書いていますが、体（パワー）が段原クラブの歴史で一番細い。家族のモチベーションの低さです。広島駅に帰った時に九州のボーイズリーグの中学生がいましたが、体の大きさが大人と子ども、勝負する以前の問題です（私は身長を言っているのではなく、体の太さを言っています)。

夏の甲子園で大阪桐蔭が優勝しました。スターを集めているので当たり前だと思っている人がいるかもしれませんが、それは間違っています。選手の 2 年生の時、3 年生の春と体を比べて見て下さい。彼らがどんなに努力を重ねてきたか分かります。大阪桐蔭以上の努力をせず、言い訳を重ねているチームはいつまでたっても上に上がることはないでしょう。段原クラブも同様です。3 年生の皆さん、あなた達程度の身体能力でも、正しい練習をしているのである程度勝てます。本当の力を付けるためには、つまらない体作りが必要です。高校で野球をするつもりなら、今からでも遅くありません。毎日コツコツ少しずつでも 2 年後、3 年後を目指した練習をするべきです。今回の試合でもそうですが、他のチームにはうらやましいような体、能力を持っている選手がたくさんいます。

基本を少しおろそかにしていたり、練習が足らなかったり、体の使い方が分からなかったり、せっかくの能力をプレーに発揮できない場合を多く見ます。もちろん段原クラブにもいます。まず自ら考え、自ら工夫する。うまくいかなければ思い切って変えてみる。野球が上達したければ、野球のことを考えている時間を長くすることです。私より野球のことを長く考えている選手と一緒に野球をしたらきっと楽しいのでしょう。そんな選手が段原クラブにひとりでも増えて、ひとりでも多く入部してくるようなチーム、指導者になれるよう努力していかなければいけないのでしょう。

1,2 年生の皆さん、本気でやると結構強いチームになれる器だと思います。特に 2 年生の体の大きい方から 4 人、あなた達がチームの鍵を握っています。今のままでいいですか？本当に今のま

まで野球人生というか「人生」後悔しませんか？
　せっかくの素材、磨くこともせず光らせず、終わるつもりですか。だとしたら 1 日も早く後輩に道（ポジション）を譲るべきです。新チームは競争の中でチームの力を上げていこうと思っています。勝負の世界は「力無き者は去れ」です。

第３２１話/2018.08.20

　兵庫ブルサンダーズは 8 月 18 日（土）も負けて 8 連敗、泥沼です。負ける原因は分かっています。たくさん点を取られるからです。野球の勝敗は 90%以上投手力なので、負けるのは投手が弱いということです。ほとんどの試合で点は取れていますし、チーム打率も悪くありません。練習でできるだけたくさん打って、打力を上げるという今年の方針はある程度できています。ただチャンスの打席での狙い球の絞り方や配球の読み方など幼稚な選手が多いので、頭の中がもう少し大人になれば数字はもっと上がると思います。練習不足の夏は、投手はもちません。1 回 0 点に抑えられる力ぐらいは持たなければ戦力になりません。せめて 5 点以内の試合が出来ることを望みます。
　段原クラブは 3 年生の試合が残り少なくなってきました。「心を込めた野球」「人の心を動かせる野球」をずっと言い続けてきました。今年初めて 8 月 19 日(日)に少しきざしが見えました。今から急に技術やパワーは変わりません。変えられるのは考え方です。心を込めて 1 球 1 球集中して野球をする。自分の身の丈を知り、チームのために出来ることを精一杯する。当然、最後まで元気よくはつらつとプレーする。昨年までの段原クラブのように強くバットを振れる選手はいません。体は小さく細い選手ばかりです。それでもチームのために試合で出来ることはあります。本気でやることは？心を込めてやるとは？自分が今できる野球とは？少しですが伝わった試合が出来ました。いつも言うように勝ち負けではありません。やろうとするかしないかです。まだまだ足りないところだらけですが、ベンチにいて不快な気持ちになることが 2 試合目だけですが今年初めてありませんでした。野球の技術、体力で勝てなければ頭、心で勝つ方法があります。特に子どもの野球は精神的な部分が大きいと思います。これからも最低限、これぐらいは見せてほしいと思います。祝勝会には 1 年生の保護者が多く参加してくれました。チームとはこういうことだと思います。有り難うございました。

第３２０話/2018.08.13

　私は広島から新神戸へ新幹線で通っています。定期券を持っています。そのため大阪や和歌山での試合の時には新大阪まで乗ります。新大阪で乗り越し精算をするのですが、8 月 11 日（土）ありえないことがありました。いつものように定期券を出すと、定期入れから出して見せろと言われました。今年 10 回程度精算をしていますが、今まで一度も言われたことはありません。ということは、ＪＲのマニュアルではなく個人の判断だということ。私が信用されなかったということです。今まで一度もないと告げても見せろの一点張り、仕方なく出して見せました。その後です、領収書を要求すると宛名を紙に書いてくれと言われました。「兵庫ブルーサンダーズでお願いします」と言うと、また紙に書いてくれと。「兵庫ですよ」「兵庫県の兵庫ですよ」書く必要ないでしょと言ってもまだ書けと言います。ふざけるのもいい加減にして下さい。天下のＪＲの社員、ましてや新大阪駅に勤めている人が兵庫書けなかったらおかしいでしょ。その後書こうとしたら浜と書き出しました。ＪＲの社員で兵庫という漢字を書けない人がいるのに本当に驚きました。

何とその後、ブルーサンダーズも紙に書いてくれと言ってきました。カタカナですよ、それこそ必要ないです。天下のＪＲ、どんな基準で社員をとっているのか。本当に安全は大丈夫？不安になりました。

段原クラブは相変わらず、普通に野球をしています。今年の 3 年生は、入団時に約束したことをほぼやらずに 2 年以上経っているので、いまさら何が出来るのかと言っても大したことは出来ません。これから急に努力することもないでしょう。8 月 12 日（日）の試合では、せめて段原クラブに入団した時からずっと言い続けている、試合で誰でも出来ること「全力で走る」「大きな声を出す」「カバーに入る」これだけでもやって下さいとお願いしました。言ったその日でまあ80%、私の感想ではまあまあかなでした。当たり前の努力をしていないので、野球が出来る訳はありません。

当然、試合でよい結果が出ることはありません。毎度同じように、ストレートもカーブもファールして空振り三振しています。バッティングにいろいろ理屈はありますが、究極はバットをボールに当てるということです。ボールが消えるのなら当てるのは難しいですが、今年の広島にそんなすばらしいボールを投げるピッチャーは見当たりません。せいぜい速くても 120㎞/h 程度、ほとんどのピッチャーは 100～110㎞/h です。そのストレートを空振りする。バットを自在に操る能力が腕にない、そういうことだと思います。ではどうすれば良いのか、まず力（パワー）をつけてバットの重さを感じず扱えるようにする、バットを軽くする。次にストライクだけでなく、ボール球もバットに当てる練習をひたすら数多くして、理屈ではなく体でボールにバットを当てる感覚をしみ込ませる。体が頭で考えて動くのではない反射的に動けるように練習する必要があります。俗に言う、センスがないのですから。人の何倍もやるしか方法はありません。

目ではっきり見えるボールが当たらないでは、野球が始まらないのですから。1,2 年生の皆さん、サボったつけは 3 年生で必ず払うことになります。野球は強さと柔らかさ、どちらも必要なスポーツです。これは体だけでなく頭と心も同じです。

第３１９話/2018.08.05

夏休みに入り、新幹線に子供が増えてきました。私はしつけが出来ていない子供が嫌いです。公共の場所ではマナーがあります。特に、朝早い新幹線はゆっくり体を休めたい人達がたくさん乗っています。私もそのひとりです。ピーチク、パーチク、うるさい子供、最低限のマナーを守れない子供を公共の場所に出してはいけません。親の責任です。ファミリーレストランや回転寿司でも同じです。少し怒れば泣きます。なぜ泣くのか、泣けば親が言うことを聞くからです。これでは犬といっしょです。親の皆さん、しっかりして下さい。生んだらちゃんと育てる、人間なのですから。

高校野球夏の予選が終わりました。私は高校野球を見に行くことはしません。たとえ OB が甲子園に出場しても行きません。なぜか？甲子園に行った選手だろうと、1 回戦で負けた選手だろうと、ベンチには入れずスタンドで応援している選手だろうと、3 年間頑張った選手は全員同じだと思っているからです。OB の試合を全て応援することは出来ません。県外の高校に行った選手もいます。全員の応援を出来ないのなら、全てしない。私の中では、3 年間やり遂げた OB の選手全員が勝者です。本当にお疲れ様でした。ゆっくり休んで次のステージに向けてまた努力して下さい。時間があればグランドに来て後輩の野球を見て下さい。待っています。

暑い日が続いています。暑さに負ける野球選手は上へ上がれません。その点で、兵庫ブルーサンダーズの選手は苦しいように思います。気温の上昇とともに成績が落ちてきました。投手はほぼ総崩れ、これ

は春先からずっと言い続けているランニング・投球不足だと思います。打者も同じです。実力のない選手が変わるためには、数多く練習するしか方法はありません。数多く練習する体力・気力のない選手は伸びませんし、野球選手の一番勝負所の夏に結果を出すことが出来ません。

これは中学生も高校生も同じです。対戦相手も同じ暑さの中でやっています。しっかり食べて、しっかり練習してゆっくり休む（寝る）。1，2 年生の皆さん、新チームの大会が始まります。まずチーム内の競争です。ポジションはたくさん空いています。アピールして下さい。3 年生の皆さん、残り 2 ヶ月、今のままで本当に段原クラブに入部して良かったと思えますか？まだまだ利用できるものありませんか。もったいない時間の使い方をしていませんか。野球の財産（貯金）をもっと増やして高校に行った方が楽ですよ。貯金できるか見逃すか、あなた達次第です。段原クラブにはまだまだお宝が埋まっていますよ。

第３１８話/2018.07.29

台風のため、7 月 29 日（日）に予定されていた 1 年生のドリームリーグと 2 年生が出る予定だった太田川リーグが中止になりました。1，2 年生にとっては残念な雨でした。テレビであおられたほどの雨量ではなくてよかったです。

先日このページで 1 年生のことを書きました。試合中止のためフルスイング塾で練習しましたが、1 年生のストレッチを見ると「あれから少しやっているな」というものを感じました。段原クラブでは入部の時、最低限毎日やることを約束してもらいます。あくまで最低限のことです。これが出来なければ野球を続けていってもチームの役に立つどころか、必ず迷惑をかける選手になります。せっかくの素材を伸ばすのか無駄にするのかは、本人次第です。

今年の 3 年生は無駄にしています。入部して 2 年 4 ヶ月、いまだにひとりも座って足を開き、おでこが地面につく選手がいません。2 年 4 ヶ月、毎日やりますと約束したストレッチすらしていません。生まれつき体が硬い？ふざけんなです。誰でもやれば体は柔らかくなります。誰のためですか、自分のためです。こんな最低限のテレビを見ながらでも出来ることすらやらない。何のために、どんな目的で段原クラブを選んだのでしょう。私はこの程度のモチベーションの選手のために時間を使わなければならないのでしょうか。今まで何度も何度も自分のために自分の体を守るために、そして少しでも良い思いをするためにやらなければならないことを話ししてきました。何ひとつ伝わらない。それで「野球が好き」などと言います。好きなような気がしている。比較的好きなのではないでしょうか。

厳しいことを言っていますか。私は誰ひとり「入部して下さい」とお願いしていません。入部したいと言うので、入るのなら最低限これは各自、家でやってください。段原クラブは甘くないですよ、大丈夫ですか、確認して入部してもらっています。1 日 30 分もあれば出来ることです。何 km も走れ、何百本もバットを振れと約束しているわけではありません。本当はそれぐらいしてほしいですが、やろうと思えば誰でも出来ることすらしない。高校野球の夢は語らないことです、笑われます。

私はこんなことを書いてチームの恥をさらすのはとても嫌なことです。私の指導力の無さをさらしています。今までも伝わらない選手はたくさんいました。しかしここまでの年は初めてです。自分の無力さを痛感しています。強制的に首に縄をつけて引きずり回して、グランドでやらしても意味はありません。

体・技・心、まず体です。「強く」「柔らかく」「速い」体、野球に必要です。これは1日、1 日、コツコツ努力を重ねて作るものです。それに気がつき、継続した選手が勝ちです。毎日コツコツです。同じことを毎日続けられる素質、1 番大事な素質です。

第３１７話/2018.07.22

兵庫ブルーサンダーズは BFL（ベースボールファーストリーグ）というリーグに加盟しています。年に数回、BFL 選抜の選手達でプロ野球のチームの 2 軍や 3 軍と交流戦をします。

今年は 5 月 19 日・20 日と 6 月 30 日、7 月 1 日にジャイアンツの 3 軍と、7 月 17 日にオリックス、7 月 21 日にベイスターズの 2 軍と計 6 試合しました。結果は全敗、得点が 6 試合で 4 点、バッターは手も足も出ないのが現状です。年齢的にはプロ野球選手の方が下です。選手達はこの現状をどうとらえているのでしょう。

プロ野球選手になるためには最低でも一芸は必要です。体が大きい、肩が強い、足が速い、打ったらとんでもなく飛ぶ、投手なら 150㎞/h 近くのボールが投げられるなど、何かがなければなれません。あなたには何がありますか？なければどうしますか？作るしかありません。そのために何をしますか？練習です。他に方法はありません。

プロ野球選手は選ばれた人達、BFL の選手は選ばれなかった人達、試合をすれば負ける。当然です。しかしそれにしてもバッターが情けない、ほぼ無抵抗。右バッターも左バッターもストレートを引っ張れません。いつも言っているイロハのイ、「ストレートに間に合うかどうか」これが出来ないので打ちようがありません。なぜ工夫しないのでしょう。いつも同じようなメンバーで、いつも振り遅れてアウトになっているのに。普段のリーグ戦で 130㎞/h 程度のボールを打って満足しているのではないでしょうか。

有り難いことに、まだ 9 月に楽天とソフトバンク戦が 4 試合あります。私はプロ野球選手になるまでプロ野球チームと試合をしたことはありません。BFL の選手達はとても恵まれています。自分達が恵まれた環境にいるのが分かっているのでしょうか。夢を語れば責任が生まれます。あなた達は今までプロ野球から選ばれていません。今までと違うことをしなければ、選ばれることはないでしょう。努力と工夫、同じでは変われません。

段原クラブの選手達も同じです。3 年生は残り約 2 カ月変わらなければ、試合の結果も高校野球もあまり良い思いは出来ないと思われます。努力と工夫、何度も言いますが、何かを変える勇気が必要です。

それにしても今週末の移動は疲れました。金曜日、広島から電車で横須賀へ 7 時間かけて移動、ナイターで試合、土曜日ベイスターズと試合後、7 時間かけて三田に車で移動、ホテル午前 1 時着、日曜日 BFL リーグ戦を北神戸でやり、広島に帰ってきました。7 月 23 日（月）も兵庫・三木で試合なので始発の新幹線で行きます。これを書いたら明日の試合のためにユニフォームの洗濯です。

好きなことをやらせてもらっているので、これも幸せなのでしょう。

第３１６話/2018.07.16

大雨の後、毎日暑い日が続いています。野球ができるのは幸せなことですが、選手も私も少しつらい日々です。しかし、野球は高校も社会人もプロ野球もこの暑い時期が勝負です。暑さの中で結果を出せる選手が良い選手ということになります。

その点で、段原クラブの選手は良い選手とは言えません。体力はもちろんですが、気力の点でも弱さを感じます。今年は兵庫ブルーサンダーズの監督になったことにより、今までより練習・試合に出られる数が減ったことも原因のひとつかもしれませんが、私の思っている野球がなかなか 3 年生に伝わりません。

というよりも私がこのチームに必要なのか、少し疑問を感じてきました。頼りにされていないというか、価値観の隔たりを痛感しています。

今年はあまり本気にならない方が良いのかもしれません。どちらかと言えば趣味の延長で野球をするような感じでぬる～くやった方が良いように思います。

その年の 3 年生の思いの大きさに合わせなければうまくいかないのでしょう。私の中でそんなものは段原クラブではないと思いますが、少し疲れました。今年の選手・保護者に合わせ、ほどほどにいこうと思います。まあ、こんな年もあっていいでしょう。

今日は自分が今まで野球にそして段原クラブにかけてきた年月、時間、思いが否定されたような 1 日でした。本当に疲れました。休みます。

第３１５話/2018.07.09

広島はまた大きな災害に見舞われました。私の住んでいる町は何もなかったのですが、チームの選手の中に数人、大変なことになった家庭があります。

土・日曜日、段原クラブはフルスイング塾を借りられるので、バットを振ることは出来ましたが、野球というスポーツは土の上を走らないと上達しないので、子ども達が自覚を持って雨のやんでいる時間に走ることが必要です。

私は、ひとりで出来る練習はひとりでやるべきという考え方なので、やるように子ども達に話しをしていますが、1 年生にはガッカリさせられました。確かに今年の 1 年生は例年に比べて体も大きく、野球が出来そうな選手が多く入部しました。当然、期待もしました。しかし、大きな期待は持たないようにしようと思います。入部の時、「毎日ストレッチをしましょう」、体の柔軟性を上げて、まずケガを防ぎましょう。球ぎわに強くなりますよ。腕立て伏せやスクワットをして、自分の体重を支えられるようにしましょうと全員に約束してもらいます。フルスイング塾での練習の最後に少しやりましたが、全くやっていないのが分かりました。4 月、5 月、6 月、入部して 3 ヶ月しっかりやっていれば確実に成果は出ています。今年の 1 年生の家族のモチベーションの低さに驚かされました。この程度でも 3 年生になれば、まあまあ勝てるチームにはなると思いますが、段原クラブの歴史に残るようなチームになることはないと思います。

子ども達は(人間は)楽をしたい生き物です。ほっとけば手を抜きます。私はグランド以外を管理することは出来ません。親の仕事ということです。甲子園に出たり、プロ野球選手になる子どもは、親も一緒になって必死に戦っています。今、全てのスポーツのトップはそうだと思います。「今日ストレッチをやった」「走った」この一言が大事です。グランドで、みんなでやる練習で人と差をつけることは出来ません。人が休んでいる時がチャンスです。体・技・心、まず体を作る、その上に技術が乗ります。今まで何度も何度も書いてきましたが、バットを振っているだけで打てるようにはなりません。ノックは足を動かすので、体（下半身）ができ、野球が上達します。

嫌なこと、苦しいこと、つらいこと、自主練習はそれから始めるべきです。「素振り」これは最後、時間が余ったらやる練習だと思います。体作りはすぐに結果は出ません。おもしろい練習ではありません。中学 3 年間、高校 3 年間、必ず変わります。1 年生の時、ヒットを打つ必要はありません。3 年生で活躍するために、今やらなければいけないこと、基本の反復と体作りです。

全国のたくさんのチームの子ども達が、今野球が出来ない状況にあると思われます。1 日も早く思い切ってプレー出来るようになることを望みます。

第３１４話/2018.07.02

6 月 30 日（土）、7 月 1 日（日）の 2 日間、和歌山の上富田町で読売ジャイアンツ 3 軍と BFL の交流戦がありました。

今回はピッチャーが頑張りましたが、バッターは手も足も出ず、2 試合完封され完敗しました。投げてきたピッチャーはドラフト1位だった桜井、他1軍登板の経験のある投手だったとはいえ、ストレートに間に合わない、変化球にいたっては振れないし、振ってもあたらない。2 試合とも 10 個以上の三振を取られました。私が段原クラブでいつも言っていること、ストレートに間に合わないと始まらない、ストライクをとりにくる変化球を振れないといつまでたっても打てるようにならない。ストレート遅れて、変化球泳ぐ、どちらも打てない。バッターとしてヒットを打てる可能性がないパターンです。私が見て 2 日間ダメだと思ったのは、工夫しないこと。タイミングの取り方を変えるわけでもなく、足の上げ方を変えるわけでもなく、まずストレートに間に合わせようと考えていない。ストレートが間に合わなければ、変化球を狙ってみようと考えた選手は一人もいない。ただ力を入れてバットを振るだけです。これはクマでもします。人間は考えてバットを振るから人間なのです。体が大きくて、野球は少し長くやっていますが、頭の中は中学生と変わらないと失礼な言い方ですが思いました。

何も考えず、ただバットを振って打てたら天才です。そんな選手はプロ野球界にも数人です。バッティングの大前提、間に合わせなければ打てるわけはありません。どうやって間に合わすのか、考えて工夫して何かを変えなければ、何度やっても遅いボールを気持ちよく打って喜ぶだけのアマチュアで終わります。

野球はボールと人間のスピードを争うスポーツです。ベースまで早くたどり着いた方が勝ちです。遅い選手は不利になります。段原クラブの選手達、失敗しても構いません。ただ同じ失敗を繰り返してはいけません。失敗から学び、原因を考え、工夫し練習し、変わらなければ結果を変えることは出来ません。

相手のピッチャーのボールが速いとか、変化球がすごいとか、試合中に認めても結構です。ではどうするのか。すごい、すごいと言っているだけなら、試合に出ない方がいいです。そのボールに手が出ませんと言うことは、上には上がれないということです。諦めるのか、今までと違うことをするのか、決めるのは選手です。同じことをしていれば、次もみじめに打ちとられるだけです。負けてケロッとしているのなら、やらない方がましです。

私は 2 日間、くやしくて、くやしくて腹が立ってしかたがありませんでした。

第３１３話/2018.06.24

6 月 23 日(土)日刊大会 3 回戦がありました。運動会シーズンのため、出場できた選手は 1, 2, 3 年生で 13 名(内 2 名は故障者)。ほとんど試合にまだ出ることのない選手達、彼らにとっては大きな経験のできた 2 試合(敗者戦含め)でした。もちろん試合に勝つことはできませんでしたが、1 年生は私の想像以上のものを出してくれました。試合で大事なことは、今持っている力を出すことが出来たか？何が出来て、何が出来なかったか？そして出来た理由と、出来なかった理由をはっきり知ることです。

1, 2, 3 年生が 1 つのチームで試合をしました。各学年でやらなければいけないことは違います。例えば、1 年生は打席に入れば、カウントなど考えず全てのボールを振っていくべきです。1 日の中で、少しでも多くスイングすることが大切です。しかし、3 年生になれば状況判断が出来なければいけませんし、打席で

の結果だけでなく内容が問われます。そういう点で、1 年生はもちろん力不足ですが合格です。

問題は 2, 3 年生です。相変わらずストレートに間に合わない、ミスの仕方がいつも同じ、あり得ない場面で牽制アウトになったり、スピードのない投手がストレートばかり狙い打たれたり、頭のミスだらけ。2 年間同じことを言われ続けています。なぜなのか？野球があまり好きではないからだと思います。聞くと必ず「好きです」と言います。本当に 1 番好きなのか？1 番なら 24 時間常に野球のことを考えていますか？全ての生活を野球のために過ごしていますか？「比較的好きです」この程度ではないですか？ひとつのものを手に入れようと思えば、何かを犠牲にする必要があると考えます。

あれも、これも、それも全部欲しいでは、何ひとつ手に入れられないのではないでしょうか。私はプロです。今、野球の指導を仕事にしています。子どもの頃から、野球中心の生活を 50 年間続けて、たくさんの技術と理論を手に入れました。それがどの程度のものかは分かりませんが、私が手に入れるために、青春とか娯楽とか家族とかたくさんのことを我慢しました。大した選手にはなれませんでしたが、野球 1 番の生活をずっと続けてきて、手に入れた 1 番の財産です。全員にそこまで要求しているわけではありません。自分で「好きです」と言うのなら、「やりましょうよ」「覚えましょうよ」「変わりましょうよ」そうでないのなら口に出さないことです。

試合後、数名の保護者の方が私の誕生日を祝ってくれました。少し早い（6 月 27 日生まれ）ですし、祝う歳でもないのですが、気持ちをとても有り難く頂きました。本当に有難うございました。つい飲み過ぎて、次の日、6 月 24 日（日）始発で和歌山に行って、兵庫ブルーサンダーズの試合の帰りの新幹線の中でこれを書いていますが、とても疲れました。

試合は 7, 8, 9 回に 1 点ずつ取り、負けゲームを引き分けに持ち込みました。まず投げた 4 人の投手が、完全ではありませんがよく頑張って試合を作ってくれました。野手も 6 回までは動きが悪く、移動しての試合の悪い所が出ていましたが、全員でつないで追いついてくれました。贅沢を言えば、勝ちこすチャンスがあったので 1 本でればもっと良かったのですが、私の中では勝ちに等しい引き分けだと思います。少しずつですが、自分の身の丈を知り、身の丈に合った野球をして、結果を出してくれる選手が出てきました。

指導者がいくら言っても、本人が、気が付かなければ変わることは出来ません。今のままではステージを変えることは出来ないのです。変わる必要があります。変わるためには、頭の中を変えて練習しかありません。週末の読売ジャイアンツ 3 軍との交流戦が楽しみです。5 月から変わった所を見せたいものです。

第３１２話/2018.06.18

6 月 18 日(月)いつものように 7 時 53 分発の新幹線に乗り、三田に向かっていました。東広島を過ぎたあたりで放送が入り、トンネル内で停車。大阪で地震があったとのこと。新幹線は新尾道駅まで行き、当分線路の点検のため動かないとのこと。三田まで行くことが出来ず、広島にもどるこだまは遅れているものの運良く動いており、何とか広島に帰ってきました。このところ殺人、自殺、地震と、新幹線は事件続き。今までめったに乗ることがなかったので何も不自由は感じませんでしたが、ほぼ毎日乗っていると本当に色々なことがあります。常識のないおばさんもよく見かけますし、毎日乗っていると嫌な思いを多くします。若者より年配の人の方が図々しく恥ずかしい行動を多くしています。私はそういう人間にならないように気をつけようと思っています。

6 月 16 日(土)兵庫ブルーサンダーズはO6ブルズと試合をし、18 対 3 で勝ちました。ベースボールファ

ーストリーグの弱点は投手です。10 点以上入る試合ばかり、これでお金をとるのは失礼です。四死球 10 個以上当たり前、段原クラブの中学生以下の投手が普通にリーグ戦に投げます。兵庫ブルーサンダーズも同じですが、各チームが投手力を上げないと、当然バッターのレベルも上がりません。試合がしまりません。お金を払って見る価値のあるプレーがなく、ただ全力でやるだけなら高校野球で十分です。各チーム本腰を入れて来年からのためにも、レベルの高い投手を作るか入団させなければ、リーグの将来が明るいものとはならないと考えます。

段原クラブは 6 月 17 日（日）日刊大会 1，2 回戦がありました。運良く勝ち上がりましたが、相変わらず打てません。特にひどいのは 3 塁ランナーを返すことが出来ません。チャンスは何度も作ることは出来ますが返せません。バッターのチャンスはピッチャーのピンチ。前にも書きましたが、本来バッターはウキウキ、スキップして打席に入っていけるはずです。打てばヒーローになれるのですから。「こんな良いところでまわしてくれて皆さん有り難うございます」こんな気持ちで打席に入るべきです。バットを振る前から結果を考えることに意味はありません。結果はバットを振ってはじめて出ます。そして振る前に考える結果はほぼ悪い結果です。それこそ「百害あって一利なし」。「チャンスを楽しめない」「チャンスで打席に入るとプレッシャーがかかる」、野球をやめるべきです。勝負の世界に向いていません。

私は子ども達にプレッシャーをかけます。当然です。これから先、彼らが目指している世界は上に上がれば上がるほど、プレッシャーはとてつもなく大きくなっていきます。高校野球の１回負けたら終わりのトーナメント、プロ野球の野球人生がかかるような試合、精神的圧力は今の比ではありません。中学生の市内でやっている程度の大会で心が負ける。これから続けていくのは無理ではないでしょうか。毎週のように大会・試合があり、いくらでもやり直せる小・中学生の野球、打てないからといって 2 軍に落ちるわけでもなく、クビになるわけでもない。楽なもんです。何がプレッシャーなのか私には分かりません。

段原クラブは練習をしっかりしています。ここの所、3 年生全員とは言いませんが、中心の選手はしっかりバットを振れるようになってきました。練習では内容のある良い打球が打てるようになっています。試合になると 2 人以外は別人です。毎年同じようにコーチを含め正しい技術をしっかり伝え、数も振っています。ただ平日練習の自分に対する厳しさが昨年までの選手に比べて甘いように思います。自主練習でいかに自分に厳しく出来るのか。苦しいこと、つらいこと、嫌なことからやることが出来るのか。バットを振る練習は野球の中で一番楽な練習です。楽なことからやる選手は自信がつくわけありません。

第３１１話/2018.06.12

6 月 9 日（土）、大竹の晴海球場で段原カップのリーグ戦をしました。大野シニアとは新チーム（1，2 年生）、福山 80 ホークスとは 3 年生。福山 80 ホークスの山内監督に打てないと聞いていたけど「例年に比べて本当にスイングが弱い」と言われました。その通りです。体作りとスイングしかありません。技術の前に振る力、振れる体。すぐに変わることはないですが、6 月、7 月、8 月、9 月、残り 4 ヶ月あります。高校へ行って野球を続けるためにも「やるしかない」、3 年生の皆さん。今までの野球人生のツケを 4 ヶ月で払うのは大変です。少しでも借金を減らして高校に行かなければ自分が困ります。高校野球を充実したものにするために、来年の 3 月までの 10 ヶ月、あなた達の野球人生にとって本当に大きな時間です。どう使うのか、君達が決めることです。私の仕事は本気な人のお手伝いです。

1，2 年生は新チームの試合まで約 3 ヶ月、競争です。試合に出る方法はまず当たり前の事を出来るようにすることです。特に守備です。守ることが出来れば試合に出られます。全てのステージで同じですが、野球というスポーツで試合に出るためには守備位置が必要になります。ほとん

どの選手がバッティングに対してモチベーションはある程度持っていますが、守備・走塁に興味を持って高い意識で練習している選手がいません。私は走れない、守れない選手は何もないと思っています。１年生は今、体が大きく、体に力のある選手が多くチャンスをもらっています。技術があるわけではなく、力があるからです。今負けている 1 年生、体を作り、しっかりバットを振って下さい。2 年後、必ず追いつきます。段原クラブは入部の時の順位が卒団の時の順位ではありません。本気で努力した者が逆転します。今、少し試合に出ているぐらいで満足し、努力をおろそかにしている選手は追い越されます。私はそれを望んでいます。3 年間で体を変えることが出来ます。体を変えられれば技術を変えられます。体と技術が変われば結果が変わります。

兵庫ブルーサンダーズの選手達と面談をしました。昨年 1 年間で体を変えた選手がいません。結果が大きく変わることはないと思います。プロ野球を目指すのは、選手ひとりでは無理です。家族全員で覚悟を決めてやるものだと思います。プロ野球選手はバイトをせず、1 日野球をしています。追いつくためにはそれ以上が必要です。

野球を上で目指すということは、小さい時から家族全員で覚悟を決めてやるものだと私は思います。他のスポーツを見てもそれは明らかです。

私が兵庫ブルーサンダーズの監督をするようになって、平日練習に出られることが少なくなりました。少しの時間でもと思って行ってみても、私は必要ではないようです。昨年までの選手はノックを打ってほしいだの色々と私をつかまえ、利用していました。今年は全くありません。1年生はシステムが分からないので仕方ありませんが、2, 3 年生にとって、私はいなくて構わないようです。フルスイング塾でも、私がティーを「数振ること」「スピードを上げること」「技術をつけること」など色々な方法を使い分けやりますが、何も言わないと普通にバッティングを始めます。なぜなのか、私と練習するときついからです。私と練習するとヘトヘトになります。苦しくない、厳しくない、つらくない、これは練習ではありません。何が鍛えられるのでしょうか？今まで何度も書いてきましたが、今年はこういうチームです。言い方を変えれば、私を信用していないのかもしれません。私の時間、私が今まで積み上げてきた技術、練習、必要とされる選手のために使います。押し売りしても、お互い迷惑なだけですから。自分の技術、体力を高め、高校野球で力を発揮するために、今やらなければいけないことは何なのか。たかだか中学校の試合に出るか出ないかとか、そこそこ勝つための程度の思いでやっているように見えます。その程度なので、私は必要ないのでしょう。私の時間はありあまる程あるわけではありません。本気の家族、選手のために使いたいと思います。3 年生の皆さん、これを読んで今さら変わらなくて結構です。厳しいと思われる方がいたら、それは本気ではないからです。

第３１０話/2018.06.04

屈辱の県大会から１週間が経ちました。子ども達が何をどう変わろうとしているのか、楽しみにこの土日を迎えました。数人の選手が明らかに今のままではいけない、「自分だけでも変わらなければ」という思いが伝わってきました。全員に変化があることが望ましいのですが、そんなことは無理な話です。ひとりでもふたりでも気が付いてくれれば敗戦はプラスです。

まず私が変わります。正直な所、２月１日から兵庫に日帰りするようになり、体の疲れを言い訳に段原クラブに対する集中力を欠いていました。３年生の子ども達には厳しい事を言っていますが、元凶は私にあります。兵庫に行くことにより、練習に出ることの出来る日が減ったのなら、

今まで以上に出られる日に集中しなければいけません。監督がこれではチームが良くなるはずはありません。体の続く限り、時間の許す限り、昨年までと同じだけのものは伝えていきます。子ども達に厳しくする前にまず自分に厳しく、自分の責任をまっとうします。どちらにも迷惑をかける訳にはいきません。一日一日を大切に子ども達と接していきたいと思います。

私はこのまま今年を終わらせるつもりはありません。「段原クラブは最後が一番強い」３年生が高校に旅立っていく前日まであきらめることなく本物の野球を伝えていきます。

兵庫ブルーサンダーズは開幕から２カ月、約 1/3 終わりました。今日６月４日、選手に勝敗を聞くと答えられない。今月何試合ありますかの質問にも答えられない選手が何人もいました。これが現実です。本当に野球に人生をかけているのでしょうか？この程度の選手達に私は必要なのでしょうか？

人のお金（スポンサー）で、野球をさせて頂いていることがどういうことか、分かっていないと思います。入団の時、このあたりの考え方をしっかり説明し、理解してもらう必要があると思います。

人生を野球にかける覚悟、スポーツは本来健康になるためにやるものですが、プロは体を壊すほどの練習が必要です。人の何倍もやっても壊れない体を持った人達が集まるのがプロ野球の世界です。その覚悟を持って兵庫ブルーサンダーズで野球をやっている選手がいるのか、まだ私には見えません。

段原クラブの皆さん、これからも練習に出られない日があります。申し訳ありません。出られる日に今まで以上のモチベーションで取り組みます。２か月分、必ず取り返します。

厳しくなると思いますがひとりでも信じてくれる選手がいる限り、言い訳せずやります。

段原クラブはこのままでは終わりません。

第３０９話/2018.05.28

今年の段原クラブの全日本少年軟式野球大会（全軟）は 1 試合で終わりました。広島市軟式野球連盟（軟連）に新しく加盟するチームがあるからと全軟広島市枠が復活し、広島市予選があるのかと思えば、新しいチームは加盟してこず。予選もなく県大会に出場し、1 回戦敗退。ひとつのいい加減なチームのおかげで軟連はじめたくさんの人が振り回され、誰も得することなく、本当に迷惑な話しでした。こう書くと「段原クラブは予選もせずに県大会に出場して得をしたじゃないか」と言うゲスい人がいるでしょう。少年野球は誰のために、何のためにやっているのかを考えれば簡単に分かります。勝つためではありません。勝つためにひとりひとりが努力し、心と体を鍛え、技術を上げ、社会へ出て戦っていける男になるための通過点です。そのために予選を戦い、勝ち上がり、県大会に進むプロセスがとても大事になります。予選なしで上の大会に出場しても、お金と時間の無駄使いです。高校生が予選なしで甲子園に出て、何が得られますか？私は昨年秋、この話しを聞いた時、軟連の役員の方に西部大会をやって下さいとお願いをしました。それが必ず子ども達のためになると信じています。ぜひ、秋の文部科学大臣杯は西部大会にもどしてほしいと思います。「ポルテの皆さん、はっきり、しっかりして下さい。迷惑です。」

今年は打たないとずっと書いてきました。身体作りを２年間おろそかにしてきた学年はバットが振れません。あきらめるかやり方を変えるか、遊びのチームに変わるかです。２月１日から兵庫ブルサンダーズの監督になり、段原クラブの指導ができる時間は減っています。しかし、練習時間は今までと変わりません。バットも振っています（グランドでは）。何が足りないのか？まず

１番に考えられるのはそもそもの素材がない。体が小さい、なかにスピードがない。入部した時から分かっていました。では、それを克服するために２年間何をしてきたのか、何もしなかったのか？だとしたら、結果は見えています。県大会の敗戦はある程度私の予想通りでした。１回の表を見た時、勝てる可能性は、誰かが間違って長打を打つか、相手がとんでもないミスをしてくれるしかないとはっきり分かりました。どちらもなかったので、０－1 で負け。思った通りです。やらなければならないことは、1 年生の入部してきた時から説明しています。各自、各家庭で価値観はそれぞれです。やるのか、やらないのかは自由です。やらなければ惨めな試合がまっているだけです。私は上達する方法を知っています。ヒットを打つ方法を知っています。ゴロの捕り方もボールの投げ方も試合で勝つ方法も知っています。しかし、私は勝つ必要がありません。ヒットを打った方がいいのも、勝った方がいいのも選手達です。

長く野球がしたい、レベルの高いステージに上がりたい、勝ちたい、打ちたい。やるしかないのです。兵庫ブルサンダーズの選手もグランドで、余力たっぷりの練習をしていて大丈夫ですか？毎試合 10 点入るような、毎試合四死球 10 個あるような野球をして大丈夫ですか？私にはサークル活動に見えます。強制的にムチでたたかれて動くのは動物です。大人の集団にならない限り、上はありません。サークル活動のお手伝いのために段原クラブに迷惑をかけるのなら、来年のことは考えなければいけません。たいした力ではないかもしれませんが、どうせ使うなら本気の選手のために、私は力を尽くしたいと思います。それが野球人としてのやりがいですし、努めだと思っています。

人は失敗から学び、成長するチャンスを得ます。段原クラブの選手達はチャンスを得ました。このチャンスをどうとらえ、どう使うのか、あなた達しだいです。兵庫ブルサンダーズの選手は、今まで野球人生で数多くの失敗を重ねてきたから、今、独立リーグにいます。今までと同じモチベーションでは、また同じことを繰り返すだけです。私はピッチャーもバッターも体を壊すぐらいやらない限り、上に上がることはないと思います。しかし先にも書いたとおり、価値観は人それぞれです。夢を目指す、夢をつかむということは、かなわないことの方が多いものですが、家族で覚悟を持って突き進むことにより、かなわなくても大きなものが得られると思っています。長い野球人生が終わった後の人生のため、今、鍛えるべきです。

第３０８話/2018.05.20

5 月 19 日（土）20 日（日）、BFL 選抜チームは読売ジャイアンツ 3 軍と交流戦をしました。結果は 1－10 と 2－9 で大敗、私が思っていた以上に力の差を見せつけられました。なんと言っても投手の力に差がありすぎました。スピードは平均で 7～8㎞/h から 10 ㎞/h 以上の差、コントロールも全く違いました。ストライクがやっと取れる程度の BFL の投手と 140 ㎞/h 以上のボールを意識して低めに投げるジャイアンツの投手、その中でほとんどワンバウンドがありません。もちろん変化球でストライクが取れる、投手として当たり前（最低限）の技術もあります。自分がジャイアンツで投手をしていた時も、それぐらいのことは当然できました。それができなければ試合で投げられません。BFL がレベルを上げるためには、各チーム 2 人は 140㎞/h 以上のスピードと変化球を低めに集められるぐらいの投手がいなければいけません。130㎞/h 程度のストライクやっとの投手をいくら打っても野手のレベルは上がりません。

結局 2 日間、ジャイアンツの投手のスピードと変化にある程度ついていけた野手は 2 人。経験しなければ無理もないのですが、これがプロの最低限です。どうするのか。これからの選手の考

え方しだいです。夢を語るのなら現実をしっかり見て、今まで以上、壊れるぐらいの気持ちでやらなければ、近づくこともできないと思います。厳しいようですが、相手は 3 軍、これが現実です。

私は 35 年ぶりぐらいに読売ランド（ジャイアンツの寮と練習場があります）に行きました。周りはすっかり変わっていましたが、18 歳からの 6 年間の思い出が色々よみがえり、試合内容以外はとても良い 2 日間でした。私がいた頃とは違い、立派なグランドと室内練習場、選手達の練習環境はとても恵まれています。

3 軍の江藤智監督（広島カープにも在籍していた）と話をしましたが、今の選手は体が弱く、自分たちの時代のような長く厳しい練習をすると、体がもたないそうです。結局、たくさん練習するしか上達する方法はありません。たくさんやっても壊れない体を持った選手がうまくなります。中学生も独立リーグの選手もプロ野球選手も同じだということです。

ジャイアンツのユニフォームを見て、懐かしい人たちに会うことができて、無理なことですが、「現役にもどりたいな」「もう 1 回あのユニフォームを着てマウンドに上がりたいな」「現役が一番」、ずっとそんなことを考えていました。

今、帰りの新幹線の中でこれを書いていますが、頭の中は後悔ばかりです。せっかく人に負けない素材を親に頂いたのに、なぜ本気で努力できなかったのか、とことんやりきらなかったのか。両親をはじめたくさんの方々が私を応援してくれました。ただただ申し訳なく、反省と後悔です。すごく楽しみにしていた 2 日間で、すごく良い 2 日間でしたが、色々考えさせられた 2 日間でした。

いよいよ段原クラブは来週、県大会です。今年は運で出場します。そのチャンスをつかめるのか、子ども達しだいです。私は例年より練習に出ることができていませんが、信頼できるコーチがしっかりやってくれています。26 日（土）に選手全員が体調万全でグランドに立つことができれば、段原クラブの野球ができると信じています。

野球ができる時間には限りがあります。やれる時に全力でやっておかないと、私のように一生後悔していくことになります。練習も試合も 1 日、1 日、「やりきる」。野球人生は日々どんどん短くなっていくのです。

第３０７話/2018.05.15

兵庫ブルーサンダーズは、ただ今４連勝中で 6 勝 3 敗。打線がつながるようになり、ある程度点が取れるようになりました。次の試合は読売ジャイアンツとの交流戦の前なので主戦のピッチャーが使えませんが、今まで結果が出ていないピッチャー達にはチャンスです。少しでも良いものを出してほしいと思います。

段原クラブは相変わらず打ち負けます。バッティングの原点能力、スイングのスピード（振る力）が足りません。ではどうするのか？数多く練習するのはもちろんですが、試合の結果につなげるためには、配球を読む、コンパクトに振る、状況判断をして確率を上げるなど、頭を使う必要があります。力がない、頭がないでは、野球は無理です。兵庫のチームでは、長打の欲を捨て、コンパクトにセンター方向に打てるようになった選手が結果を出しています。

身の丈を知り、相手を知り、やることが決まります。欲にまかせてバットを振っているだけで確率が上がるはずはありません。

野球は確率の良いチームが勝つスポーツです。選手たちはひたすら技術とスピードをつけるた

めバットを振り続けるしかありません。野球をやっている限り、終わりはありません。必ず打てる打ち方はありません。しかし、バットマンはひたすらそれを求めて努力し、練習するしかないのです。だから野球は苦しいし、おもしろいと思います。
　疲れがたまり、日曜日はこれを書く元気がありませんでした。

第３０６話/2018.05.07

　５月５日（祝）６日（日）２日間、毎年行っている生名島で合宿をしました。私は２日目の夜に兵庫ブルーサンダーズの試合が三田市であったので、２日目は午前中だけでしたが、１日目の昼・夜、２日目の昼と４カ所でしっかりバッティングが出来ました。今年のチームはバットを振る力が足りないので、とにかく数振る必要があります。県大会に出てくる投手は当然、平均以上の力を持っています。守りも出来るはずです。点を取るために打つ以外ありません。残り３週間、振って、振って、振りまくる。やり残したことのないように、各自が努力してほしいと思います。
　勝つために守備１０割は当然です。今年は広島市に新しいチームが加入するので広島市予選をすると言われていましたが、加入せず。試合もなく県大会に出場します。私ははじめから西部大会に出してほしいと言っていました。県大会に出場できるのは有り難いですが、選手のためにはなりません。緊張感のある試合を数多く経験して、子ども達は成長していきます。その点で、全軟西部予選が１番です。これを乗り越えて心と技術が伸びます。３年生は県大会に出ることはできますが、大きな経験をするチャンスをひとつ逃がしました。
　私は勝負の世界で大事なことは、全てのチーム、選手に「チャンスは平等」ということだと思います。今の予選のシステムはとても平等だとは思えません。地区で分けるだけでなく、参加チームの数を考えながら予選の区分けをするべきだと思います。予選なしで県大会に出場することがラッキーなのか、アンラッキーなのか、県大会の結果で決まるかもしれません。つまらない試合をすれば予選で敗れたチームに失礼です。全力で準備をして全力で戦う必要があります。
　兵庫ブルーサンダーズは伸びてきた選手とそうでない選手がはっきりしてきました。その差は素直さです。素人とは技術の深さが違います。引き出しの数が違います。それがプロの指導者です。上達する方法は、正しいことを数多くやる。そしてケガをしないことです。
　最終的には、たくさん練習しても壊れない体を持った素直な選手が勝つと思います。

第３０５話/2018.04.29

　兵庫ブルーサンダーズは開幕から６試合終わって３勝３敗。若い２０歳前後の選手が素直に努力をし、少しずつ技術が付いて、試合の中で結果が出せるようになり、何とか５割勝てています。
　ある程度出来ないとは想像していましたが、ここまで当たり前のことができないと野球になりません。４月２９日（日）の試合では、両チームで四死球２２、エラー８、結果１２対８、これは草野球です。高校や大学で野球を経験した選手達、今まで何をやってきたのでしょう。
　ピッチャーはキャッチャーが構えた所に投げるのが仕事ですし、最低限ストライクゾーンの枠の中に投げられなければ始まりません。野手はピッチャーが打ち取った打球をひとつアウトにすること、まして捕ったらスローイングミスはいけません。確実に失点します。キャッチボールです。バッターはバッティングカウントでストレートを１球で叩かなければいけません。ランナー

がいれば内野ゴロを打たないように工夫が必要です。ましてランナー３塁では、外野に打球を運ぶ必要があります。では、どのボールをどのように打つのか。打席に入る前にまず頭の中でイメージが必要です。来たボールを本能で打つ、こんな事は天才がすることです。独立リーグに天才はいません。私がいつも言っている野球は『頭と足でする』スポーツだということをこれから少しずつ伝えていきたいと思います。

段原クラブは、ずっと言っている「今年は弱い」です。何が弱いのか、まず体が弱い。力（パワー）がありません。食事・睡眠・トレーニング（練習）全てが足りません。例年以上にグランドではバットを振る練習をしていますが、全く振る力が付いてきません。私の予想では、段原クラブの歴史の中で一番多く三振し、最低打率を記録することでしょう。

それでも今年の広島県では勝つチャンスがあります。なぜなら、私が知っている限り、レベルが一番低いからです。３年生は運が良いです。この程度の力で、努力をすれば良い思いができます。やらなければ下級生にチャンスを譲ることになります。野球は技術と体力とそして最後に精神力の勝負です。

まず技術と体力がなければ勝つことはできません。野球が本当に好きで夢を語るのなら２４時間野球のことを考えるべきです。そうでなければ天才ではない選手に明るい未来が訪れるはずはありません。好きとはそういうことだと思います。

第３０４話/2018.04.22

４月２１日（土）兵庫ブルーサンダーズはホーム開幕戦をナイターでむかえました。１勝２敗での４戦目、ましてホーム開幕、結構なプレッシャーでした。その試合に息子と段原クラブ保護者の有志が三田市まで応援に来てくれました。１点差で何とか勝つことができ、心から有り難く御礼を言います。本当に有難うございました。新幹線で帰るためには試合後大急ぎで帰らなければいけませんでしたが、車に乗せてもらいゆっくり帰れました。本当に助かりました。

段原クラブは２日間、３年生はしっかり練習が出来ました。全軟県大会に向け約１カ月、そろそろひとりひとりの精度を上げていかなければいけません。まず、投手を含めた守備、イージーなミス（四死球を含む）を無くし、失点を０に近づける。バッティングは三振を減らす、バントを１００%成功する、ストレートに遅れない、変化球を振れるようにする。スチールをする勇気を持つ。レギュラー全員、これぐらいは最低限できるようにしなければいけません。レギュラーの責任として身に付けて下さい。

４月２２日（日）太田川リーグに１，２年生を連れて行きました。１年生がバットを振れないのは仕方ありませんが、２年生があの程度のストレートを叩けないようであれば、ただただ寂しい気持ちになりました。新チームまで約３ヶ月、１００日程しかありません。本当に大丈夫ですか。下級生に抜かれた瞬間、野球人生が終わります（大げさに言えば）。今やらなければ必ず後悔します。まずチーム“一”の練習、話しはそれからです。

第３０３話/2018.04.15

今、移動の新幹線の中で書いています。１勝するのがこんな難しいとは。開幕戦を３対４で負けてから１週間、４月１５日（日）２対１で兵庫ブルーサンダーズ、やっと勝ちました。１点差

負けは監督の責任、１点差勝ちは監督の力といつも言っていますが、この勝ちは子ども達の頑張りです。毎回のピンチを１７歳のピッチャーがしのいで、少ないチャンスを相手のミスもあり得点し、最終回のピンチも守備が頑張ってくれました。昨年の優勝チームから投打の主力がごっそり抜け、苦しい戦いが続くことは分かっていました。ピンチをしのぎ、少ないチャンスをものにして、粘り強く戦う。今日のような試合が兵庫ブルーサンダーズの戦い方になると思います。そういう試合の中で個々が力と自信をつけていければ、必ず良いチームになると信じて指導していこうと思います。

段原クラブも出来れば、こういう緊張感のある試合を数多くしたいものです。ひとつのミスがチームの負けにつながる、そういうピリピリとした経験が子ども達を成長させます。残念ながら偉そうに言うわけではありませんが、たくさんのミスを重ねても、終わったら勝てるという試合がたくさんあります。勝ってしまうことにより子ども達はそのミスが身にしみません。そんな試合は何試合しても、そして勝ったとしても何も身に付かないと思います。

段原クラブも当然ですが、広島の全てのチームがレベルアップし、ひとりのひとつのミスでチームが負ける、当たり前のことを当たり前にすることがいかに大切かを子ども達が身にしみて、基本の大事さが本当に分かるような試合を常にしたいものです。

兵庫ブルーサンダーズの試合の決勝点は１死１，２塁でのピッチャーゴロをピッチャーが２塁へ悪送球したものです。本来ダブルプレーでチェンジ。当たり前な送球の大切さ、どちらのチームの選手も段原クラブの選手も肝に銘じてほしいです。

今日は１日子ども達に感謝、明日から野手にはたくさんバットを振ってもらいます。段原クラブの３年生も同じです。

第３０２話/2018.04.08

４月８日（日）ベースボールファーストリーグ（ＢＦＬ）が開幕しました。今年５９歳になる私がユニフォームを着てグランドに立つことができる。小学校に上がる前から始まった野球人生は５０年をこえました。たくさんの人達に支えられ応援してもらい、今、段原クラブと兵庫ブルーサンダーズの監督としてグランドに立たせてもらっています。開幕のあいさつでも言わせて頂きましたが、その幸せと感謝の気持ちをグランドで表現できるような野球をやっていきたいと思っています。

４月７日（土）の理事長杯は２回戦、タイブレークで負けました。完全な勝ちゲームを、チームの中心選手が当たり前のことができずに勝つことができませんでした。どちらのチームも本来持っている力を試合で発揮することができず、残念な結果となりました。勝負はこれからです。「失敗から何を学ぶのか」人間はミスを犯します。野球は失敗だらけのスポーツです。特に若い子ども達がやることですし、野球の技術に頂点はないのですから。日々、努力し続けるしかありません。

私は東大阪の花園セントラルスタジアムからの帰り道、昨日の段原クラブ、本日の兵庫ブルーサンダーズの試合を振り返り、同じ失敗を繰り返さないために何をするべきか、何をしなければいけないのか、私は本当に今日まで監督としてどうだったのかを考えていました。『妥協しない』出た結論です。良い結果が出なければ、責任は監督がとらなければなりません。

『責任をとる覚悟』両チームともたくさんのことを「まあまあ」と妥協してきました。明日からやめます。勝つために言わなければいけない事は言う。やらなければいけない事はやってもら

う。そして「やらない」「できない」なら、グランドから去ってもらう。監督の責任として、自分が正しいと思ったことは口に出す、行動する。まず自分が納得できる練習・試合をしたいと思いました。その中で結果が出なければ責任をとる覚悟をしなければいけないと強く思っています。
　自分にも子ども達にも『妥協しない』それがチーム・子ども達のためになると信じて、今年は貫いていこうと思います。

第３０１話/2018.04.01

　４月１日（日）最後の最後まで練習に来ていた卒団生２名を送り出しました。全員、高校の練習開始直前までしっかり練習に参加してくれました。本当に子ども達に恵まれた良い１年間でした。有難うございました。これから進む高校野球の世界は苦しいことの多い大変な世界です。その中で本気で取り組み、野球人生が終わった後のために大きく大切なものを身に付けてほしいと思います。いつでも何かあれば連絡を下さい。私の力で役に立てるのか分かりませんが、話を聞いてあげることはできます。君達の野球人生が納得のできるものになることを願っています。
　出会いがあれば必ず別れがあり、始まりがあれば終わりがあります。
　今日、グランドにＯＢの家族が挨拶に来ました。その選手は今年大学４年生になります。春のリーグ戦のメンバーから外れ、野球を断念し就職活動をするという報告でした。私は彼を小学生の時から指導し、まじめにひたむきに野球に取り組む姿勢を常に尊敬していました。それでも勝負の世界は非情で、彼から野球を取り上げます。中学生の子ども達、野球人生は永遠ではありません。必ず終わりが来ます。私は甲子園に出てほしいとかプロ野球選手になってほしいとか思ったことはありません。１日でも長く野球をしてほしい、そして楽しんでほしいと願っています。そのために今、精一杯やって下さい。そのお手伝いをさせてもらっていると思っています。私の技術や野球の考え方、練習方法が本当に正しいのか分かりません。だから日々勉強し続けています。今回独立リーグの監督を引き受けたのも、自分のスキルを少し上げることによって、子ども達に必ずプラスになることがあると思ったからです。有り難いことに、自分が経験したことのない世界を知っている井川慶選手や加藤秀司さんから投手のこと打者のこと、たくさん吸収させてもらっています。
　私の野球人生はそれほどたいした結果は残せませんでしたが、それでも私がこの年で野球の世界にいられるのは、出会いに恵まれていたのだと思います。中学・高校の監督からは長所を伸ばす指導をして頂き、プロ野球では自分の力の無さ、心の弱さを突き付けられ、子どもの指導者になって３０年、何の技術論もない私にたくさんの子ども達が信じ、ついてきてくれました。
　残りの人生、何年野球に関われるのか分かりませんが、必要とされている限り、必ず来る終わり、別れの日まで、段原クラブと兵庫ブルーサンダーズの子ども達と精一杯頑張っていきたいと思います。
　しかし、何年やっても今日のような日はつらいです。

第３００話/2018.03.26

　３月２４日（土）２５日（日）Ａチームは２日間で４試合をしました。投げた投手は５人、ひとり以外はまずまずの投球が出来ました。まだボールが高い所が気になりますが、試合はある程

度作れるようになってきました。
　問題はバッティングです。私は昨秋から今年のチームが打てるようになることはないだろうと思っていましたが、ここまで打てないと笑ってしまいます。なぜ打てるようにならないと思ったのか、まず中心選手のスイング量が少ない、これが第一です。振らなければ打てるようになる訳がありません。
　次に体重が軽い。段原クラブでは入部以来半年ごとに目標体重を決めて努力するように指導していますが、新３年生は家族中がこれに全く興味がありません。モデルを目指しているのでしょうか？ボールを強く遠くに飛ばすために体重（体の強さ）は絶対に必要です。これには親の協力が要ります。家族のモチベーションがここ数年の中で一番低いように感じます。段原クラブは力が無くても３年生になればベンチに入れ、練習試合など出ることができます。この程度で満足しているように思います。全軟が終わるまで新３年生は全員ベンチに入れようと思っていますが、打てない、点が取れないなら新１年生が出ても同じです。今年は力を持っている新１年生が数多く入部してきました。結果が変わらなければ下級生にチャンスを与えた方が、可能性が広がります。中学校の部活動ではありません。勝負の世界です。「力が無い」「努力しない」者がいる場所ではありません。１日も早く「本気」を見せてほしいものです。
　今、甲子園大会の最中です。中国地方のチームの力不足、ここ数年ではっきりしています。体を作り、正しく強いスイングをする。確かに素材の違いはあります。しかし、やろうとしなければ可能性はゼロです。入部した時から毎日コツコツと体作りをしてきましたか。私は言ってきました。自分で自分の野球人生を短くしているのです。何度でも言います。バットを振っているだけで打てるようにはなりません。バットを振らなければ以前の問題です。私より良い体をしている選手はいません。当然、私の中学時代より努力しなければ勝負になりません。
　話は変わりますが、甲子園の２１世紀枠いります？今、大阪桐蔭の試合を見ています。子ども達をさらし者にしているように思えてなりません。勝っていないチームが上の大会に出場する。「子どもの野球は平等であるべき」その点で私には違和感しかありません。「努力」そんなものは皆、しているのではないでしょうか。

第２９９話/2018.03.19

　３月１８日（日）段原クラブお別れ会（卒業式）がありました。本年度の卒業生は７人、１人も退部することなく、少ない人数でよく頑張った学年だと思います。全員第一志望の高校に進むことができるのですから、これからも今まで通り、野球だけでなく学業もおろそかにしてほしくないと思います。野球が少々出来るぐらいで世の中渡っていけるほど甘くありません。学生の本分を忘れることなく、高校生活を送ることを望みます。
　そろそろ春の甲子園大会が始まります。私は高校野球をあまり好きではありません。なぜかと言うと、平等ではないからです。チームも個人も平等ではありません。例えば、授業は午前中で昼から練習しているチームがあったり、授業料を払っている生徒と払っていない生徒がいたり、練習できない生徒がいたり、不平等が多いと感じています。試合のチャンスは力の差があり出場できないことがあるのは分かります。しかし、練習は平等であるべきだと思います。「勝つ」ということにこだわれば、レギュラー中心で練習・試合をした方が当然確率は上がります。私は高校時代、授業料を免除されている選手でした。そして１年生の時から明らかに他の選手より多くの練習と試合のチャンスをもらいました。その時は他の選手より力があるので当たり前だと思って

いましたが、指導者となり理不尽さに気が付きました。
　段原クラブの練習はチャンスに差がないようにしていますし、試合も私が思っているベストゲームはベンチの中の選手全員が出て１点差で勝つことです。特に市外に出る大会（試合）は、全員ある程度のお金を使っています。試合に出ないのなら連れて行かない方がよいと思っています。しかし、これは「勝つ」ということには反する考え方であることも承知しています。
　３月１９日（月）現在、本年度の新入部員は１３名です。段原クラブを選んでくれて本当にありがたいことだと思っています。しかし、私はこれ以上多く新入部員が入ることを望んでいません。野球は９人の選手をレギュラーと言います。前に書いたように、同じようにチャンスを与えるために多くの部員がいると、練習時間が長くなります。そして補欠の人数が増えるだけです。勝つために人数が多い方が野球のできる選手の確率が高まりますので有利ですし、お金の面も部費が増えてチームにとってはありがたいと思います。「来る者拒まず、去る者追わず」野球ができるからと特別に勧誘しませんし、出来ない選手を断ることも、もちろんしません。入部してくれるなと言っている訳ではありません。選手全員が十分に練習できる環境を作ってあげるために、適正な人数があると考えるだけです。
　これから本格的に本年度のシーズンが始まります。今年の段原クラブはチームに芯がなく、今のところ平均的な力しかありません。心身共にチームを引っ張っていける中心選手が出てくればチームは変われますが、いなければ１年間良い試合ができることは少ないと思います。
　私にはこれから何回もチャンスがありますが、新３年生の皆さんは中学最後の１年です。本気を見せて下さい。あなた達のために！！

第２９８話/2018.03.13

　最後の１人の合格発表があり、本年度も卒団生全員が第一志望の高校に合格しました。クラブチームの責任は高校に送り出すまでだと思っているので、今年もそれを果たすことができ、ほっとしています。本年度の３年生は一人の退部者を出すことなく、３月１８日（日）のお別れ会に全員が笑顔で参加できるのがなによりです。
　新１年生の新入部員も１１人入部してくれました。私が思うチームや子ども達のために一番良いと思われる１２人にあと１人です。全員がしっかり練習でき、試合のチャンスがある人数です。たくさんの人数の中での競争にも意味はあると思いますが、私は甘いので多い人数の監督は出来ません。そういう点で、独立リーグの方も野手は１５名程度、ちょうど良いと思っています。
　今年の冬は寒く、例年に比べてチームのできは１カ月程度遅れています。これから試合も入り、実戦の中でペースを上げていかなければいけません。勝つことを求められる試合はまだ時間があります。慌てずじっくりケガをしないようにチーム力を上げていこうと思います。そのためにまず守備の練習を増やす必要を感じています。
　子ども達はどうしてもバッティングに気持ちを奪われがちになります。特に今の野球は、打てない選手はダメな雰囲気があります。しかし、野球は勝つために守備は絶対です。ピッチャーの打ち取った打球は確実にアウトにできる選手が試合に出る資格があります。ピッチャーはストライクゾーンに投げられる、これも同じです。
　独立リーグの選手も段原クラブの選手も打つことと同じくらい守備と走塁に興味を持って取り組むと、野球人生の時間が長くなると思います。
　言い続けていることですが、バッティングはストレートに遅れない、守備は当たり前のことを

当たり前にする、まずこれを出来るようにすることです。

第２９７話/2018.03.04

３月３日（土）４日（日）２日間、第１１回山口ミラクルクラブ野球大会に出場しました。今シーズン初めての試合なのでいろいろ出来ないことが多いと思っていましたが、予想以上に出来ませんでした。

一番の問題はバッティングです。段原クラブはヒット無しで点は取れません。四死球、盗塁、バント、エンドランなどを駆使してノーヒットで点を取る練習は一切しません。ひたすらヒットを打つ練習をします。練習してないことは出来ません。そのため、試合でヒットを打たなければ点は入らず負けます。その点で今回の４試合は、今シーズン初めての試合ということを割引いても物足りませんでした。特に昨年から試合を多く経験している昨秋の中心選手が、ボールを遠くに飛ばしたい欲望からオーバースイングになりストレートに遅れる。試合をチームのためではなく個人のためにやっているように見えました。バッティングの基本はコンパクトにシンプルにです。飛ばしたければスイングを大きくするのではなく、体を作りスイングスピードを上げることです。オーバースイングは確率を犠牲にします。これはピッチングも同じです。スピードを求め大きなテークバックをとれば、コントロールとボールの切れを失います。中心として期待している選手達は少し勘違いしているようです。

良かったこともあります。昨秋あまり試合に出ることができなかった選手が、冬の間努力を重ね、力をつけてきました。今大会では今までと違う結果を出してくれました。やはり正しい考え方で努力を重ねると力はついてきます。ピッチャーはコントロールですし、バッターはコンパクトな速いスイングによる確率です。ヒットを打った後に調子に乗って大きなスイングをして失敗したことも次からの課題として忘れないでほしいと思います。レギュラーと控えの選手がポジションを争い、競争してくれるのが楽しみです。今まで当たり前のように毎試合出ていた選手、考え方を変えないと立場が変わります。『練習は個人のため、試合はチームのため』確かに招待試合など勝つことにこだわる必要のない試合はたくさんあります。その中でもこの考え方は忘れないでほしいと思います。バント、出来て当たり前です。出来なければ自分で時間を作ってやって下さい。段原クラブは練習する場所はあります。ヒットになる打球の角度を身に付けないと、バットの芯に当たっても塁に出ることはできません。スイングの角度も人それぞれです。たくさん打つ中で、試合で探していかなければいけません。だからバッティングは『打ったもん勝ち』なのです。ただ考えて打たなければ、これも内容の薄い練習になります。

今回の大会で有り難いことに４試合でき、たくさんのミスが出ました。これを次に生かさない手はありません。それもこれも選手達がどう感じ、これから何をするかにかかっています。これから暖かくなり思い切って野球のできる季節になります。段原クラブが伸びる季節です。今年のチームはどうでしょう。君達の考え方次第です。

山口ミラクルクラブの皆様、お世話になりました。有難うございました。

第２９６話/2018.02.26

今年初めての試みで、段原カップリーグを立ち上げました。段原クラブを含めて１２チームの

参加をいただき 2/24（土）に説明会を行いました。今までにない試合方式のためやってみなければ分かりませんが、各チームにとって意義ある大会になってほしいと思います。参加していただいたチームの皆様、よろしくお願い致します。

2/25（日）に福山のあるチームの方から電話がありました。東部の理事会で西部のあるチームが、私が独立リーグの監督と段原クラブの監督の両方をやることに対して批判をし、段原クラブと付き合いをしないようにと言っているという話があったそうです。東部の理事会としては、私が問題のある事をしている訳ではなく、そういうことを言うべきではないということでした。

私には全く意味が分かりません。先日の体験先で引くほどの私の悪口を聞かされた話といい、今回の話といい、野球に対する考え方（野球観）は人それぞれですし、正解はありません。

両方の監督をすることは軟式野球連盟から問題なしと回答を頂いていますし、独立リーグも段原クラブも了承しています。今は基本、月曜日から金曜日まで朝 6 時 38 分の新幹線に乗り、兵庫で練習し、夕方広島に帰り、夜バッティング教室に出る。土・日曜日は段原クラブの練習に出るという生活です。誰かほかのチームの方に迷惑をかけていますか。どちらからも必要とされ片方を選ぼうとしましたが、何とか両方の要求に応えるため決断した方法です。欲張りかもしれませんが、体と心の続く限り全力で野球をし続けようと思っています。陰でぐずぐず言っている小心者、堂々と言いたいことがあれば直接言ったらどうですか。いろいろなチームがあり、それぞれの特徴があり、考え方があり、それが自然な形です。その中で子どもと保護者が子どもを預けるにあたり、信頼できるチーム（指導者）に預ければいいだけです。

自分が正しい、正解だと思い、他は間違っているなどと思うのはおごりです。私は自分の野球が絶対などと思ったことはありません。だから日々勉強し、子ども達にどうすれば 1 日でも長く野球をやってもらえるのかを考えます。段原クラブも独立リーグも選手は子ども達です。そして私を必要としてくれています。何がいけないのか全く理解できません。

自分のチームを良く見せたい、勝ちたい、そういう思いを持つことは当然です。そのためにすべきことは努力することで、他のチーム、人を批判することではありません。プロ野球は自チームのレベルを上げることに集中します。どうもアマチュアの世界では、考え方の違う人を間違っているように批判する話をよく聞きます。

勝つためには自らのチームのレベルを上げるしかないのです。他のチームを落として勝って、何の意味があるのでしょう。野球をやっている少年達は全て同じです。自チームの子であり、他のチームの子であり、全て大事な選手で、全員野球が大好きになり上達してほしい、そういう考え方でない人は子どもの野球に関わるべきではないと思います。

本物の野球人は野球に絶対の正解がないことを知っています。だから日々努力します。

第２９５話/2018.02.20

やっと少しずつ気温が上がってきました。今年は寒く、ボールを投げることが遅れています。日曜日、初めてピッチャーのボールを少し打つことが出来ましたが、中々つかまえるのが難しそうでした。まあそんなに慌てなくても冬の間バットはたくさん振ってきたので、確実にスイングの力はついています。３月に入り試合を重ねていけば、だんだんタイミングはとれてくると思います。

６年生が入部してきたり、体験に来たりしている中で、１年生と比べると明らかに力が違います。１年間の成長がはっきりとうかがえ、練習はウソをつかないことが分かります。３年生の進

路もほぼ決まり、あと１カ月硬式のバットを振り込んで、恥ずかしくないスイングにして送り出したいと思っています。

兵庫に月～金通い、土・日こちらで段原クラブの練習という生活にもだいぶ慣れてきました。初めてのチーム・子ども達なのでまだまだ不安はたくさんありますが、これはシーズンに入ってから解消していくしかないと思います。

2/16（金）、17（土）の２日間、沖縄にプロ野球のキャンプをまわり挨拶をしてきました。懐かしい人達と会い、現役のプロ野球選手の練習を久しぶりに見て野球の目を覚ますことができ、今一度、何が正しいのか確認しました。プロ野球選手は大きな身体をしています。そして正しい技術を持っています。中学生はすぐに身体の大きさで追いつくことは出来ませんが、正しい技術と考え方は身に付けることは出来ます。

兵庫ブルーサンダーズのシニアディレクターの加藤秀司さんからも日々バッティングの技術を学びながら、正しいことを子ども達に伝えていきたいと思います。確かに身体は疲れますが、１日中野球の出来る幸せを感じています。ちなみに加藤さんはプロ野球で 2000 本以上ヒットを打っているレジェンドです。

第２９４話/2018.02.13

今年も小学６年生がたくさん体験に来てくれます。なかなかすぐに入部してくれる子はいませんが、いつも通りの段原クラブの練習と私の考え方をありのまま見てもらうしかありません。それで段原クラブより素晴らしい練習と考え方をしているチームがあれば、当然そちらに行くべきだと思います。

体験に来た保護者からの話で、あるチームの体験に行った時、私と段原クラブの悪口を引くほど聞かされたそうです。入部してもらう方法として、自らのチームの良い所をアピールする方法と他のチームのイメージを下げる方法があるようです。ちなみにそのチームの保護者、指導者と２人で会ったこともしっかりと話しをしたこともありません。お互いのことは何も知らない同士、アメリカなら名誉棄損で訴えられるような話です。分からないでもありません。毎年１年生同士で試合をすれば、段原クラブは完敗します。それが３年生になれば差はなくなります。「なんでやねん」腹も立つでしょう。

息子が中学３年生の時、たくさんの高校からお誘いを頂きました。その中の監督さんの中に広陵と広島商業の悪口を言っていた方がいました。私も息子もそういう人と一緒に野球をやりたいとは思いませんでした。「類は友を呼ぶ」きっとそんな人たちがたくさんそのチームにはいるのだろうと想像できます。

「試合に勝てば良いチーム」私はそうは思いません。段原クラブの選手は練習の日を楽しみに待ち遠しく思って、イキイキとした顔でやっています。いやいや練習をしている子はひとりもいません。そこを見るだけで良いか悪いか一目瞭然です。

私は野球がうまいという理由で選手を勧誘しません。確かにひとつの魅力ではありますが、ただそれだけのことです。“体が小さくても力がなくても、うまくなくても、ひたむきに全力で野球に取り組み、野球が大好きな少年”そんな子と同じチームで野球をしたいと思っています。そんな子どもがひとりでもふたりでも入部してくれるのを待っています。

段原クラブの本当を理解してくれる子と保護者だけが入ってくれれば十分です。

その中でやる野球は本当にやりがいのあるものです。何といっても私が一番野球大好きですか

ら。

第２９３話/2018.02.05

２月１日付けで正式に『兵庫ブルーサンダーズ』の監督に就任しました。先週書いた通り、兵庫に新幹線で通います。片道約２時間３０分、少しずつ慣れてきました。土日の活動はほとんど無いので、今まで通り段原クラブの練習を見ることが出来ます。チームと私で話し合って決めたことなので、両方のチームのため精一杯野球をやろうと思います。就任会見、必勝祈願、スタッフミーティング、雪などで本格的な練習はまだ見ていませんが、今週から子ども達と練習できると思います。昨年の主力メンバーが抜けてチーム力は落ちているようですが、中学生は毎年その繰り返しです。これから開幕まで２カ月、何も分からない中なので先入観を持つことなく横一線（平等）に子ども達を見ることが出来ると思います。全員にチャンスがあるはずです。自分が出来るものを数多く見せてアピールしてほしいと思っています。

段原クラブは毎年ですが一冬越すと本気でバットを振り込んだ選手とそうでない選手の打球に明らかな差が出てきます。ここのところ寒い中でしか練習できないのですが、それでもやり続けている選手は明らかに（誰が見ても分かるように）打球が変わってきました。これがすぐ試合で出るわけではありませんが、本物の打球を打てる確率は上がってきています。寒い中でも振り続けてきた成果が少しずつ出てきたように思います。今年は気温が低いので例年よりもゆっくり、じっくり基本をやろうと思っています。

つまらない基本練習をどれだけ集中し、時間をかけてやったか、これがこの先の伸び率の差になります。プロ野球のキャンプでどのくらい基本の練習に時間をさいているのか見るべきです。小・中学生が基本をおろそかにして試合ばかりしていれば、今は勝てるかもしれませんが、その子の野球人生は確実に短いものになるでしょう。「目先の勝利」確かに勝たしてあげたいとも思いますし、勝った方が楽しいですが、野球人生を１日でも長いものにする土台、今やらなければいけないこと、私はそちらを大事にしていきたいと思っています。

６年生の皆さん、私が独立リーグの監督になり段原クラブをやめるようなうわさが流れているようですが、私はやめません。今まで通り、フルスイング塾も段原クラブもやっていきます。そのために独立リーグの代表と話し合い、広島から通うことを決めました。月に２，３回、土・日曜日出られないことがあるかもしれませんが、うちのスタッフはとても優秀で他のどのチームにも負けていません。心配は何もありません。

私は野球が大好きです。素晴らしいチャンスを頂きました。ここで本気でやらない手はありません。私の全てを２つのチームで発揮していきたいと思っています。野球漬けの日々が楽しみです。応援お願いします。

第２９２話/2018.01.29

とても苦しい１週間でした。人生の終盤に大きな決断を迫られ、二転、三転、四転、決断を迫られていたのは、独立リーグ『兵庫ブルーサンダーズ』からの監督のオファーでした。野球人としては当然やってみたい。しかしチームの子ども達をどうする？バッティング教室は閉めるのか？悩みに悩んで出した結論は、オファーを断り広島に残るでした。

行きたくてしょうがない自分がいましたが、私を選んでくれた子ども達を放って行くことは私には出来ませんでした。たくさんの人達に行くべきだと応援して頂きましたが、相手の代表に土曜日断りの電話をしました。すっきりしてすがすがしいような思いで酒を飲んでいると、諦められないとの電話がかかり２人でいろいろな方法を考え、私の提案した広島から兵庫に通うということでお互いに納得し、新幹線で通いながら監督を引き受けることになりました。疲れるとは思いますが、自分が一番やりたい野球を１日中出来るのですから、都合の良い言い方かもしれませんが、全力で両方のチームの子ども達が思い切って野球が出来るようにサポートしていきたいと思います。

この年になり新しいことにチャレンジ出来ること（それも野球で）に興奮しています。少し気持ちを抑え気味にゆっくり新しいチームの子ども達と信頼関係を築いていきたいと思っています。

この１週間たくさんの方々に心配して頂き本当に有難うございました。段原クラブにとっても新しい可能性が広がるようにたくさんの新しいことを吸収して、指導者としてレベルアップしたいです。ドキドキするような期待と初めてのことに挑戦する不安でいっぱいですが、子ども達と共に成長できるチャンスです。しっかり生かしたいと思っています。私に野球をするチャンスをくれた皆さんに感謝です。

第２９１話/2018.01.22

１月１９日（金）１本の電話から眠れない日が続いています。私の人生において大きな決断をしなければいけません。１週間という時間のない中でいろいろな問題をクリアする必要がありますが、自分の気持ちだけで動いていい年齢や立場ではないので苦しんでいます。詳しいことは来週書けると思いますが？とにかくこれからの数日、気持ちの揺れる中で結論を出さなければいけません。最後は私が決めなければいけませんが、決められるか自信がありません。

自分の心がはっきりしない中なので今週はこれまで。

子ども達は頑張っているように見えますが、より一層の集中を望みます。

「野球は頭と足でするスポーツ」です。

情緒不安定なので今週はこれで終わります。

第２９０話/2018.01.15

先週から気温が下がり野球をするのが難しい。野球というスポーツは１㎝ずれるとうまくいかないので、指先が自由に動かない寒い時期はよい結果は出ません。それでも今やっておかなければならない練習があります。私の中に走りこむという考え方はありませんが、暑い中より長く走ることが出来るので夏より冬は走ります。

それでも段原クラブの練習はひとりで出来ることは、グランドでなるべくしない。そうすることにより練習時間が短縮できるのとケガのリスクが下がります。ひとりひとりが自分のために家で何をするのか、これから先、上のレベルに上がろうと思えば遅かれ早かれひとりで練習できない選手はとり残されるので、やらない人は早く分かって身を引いた方が親の負担も減らせ、良いと思います。

毎年ですが、この時期、小学校６年生が練習の体験に来てくれます。８０％以上の子が入部は

しませんが、１日でも段原クラブで練習をすれば正しい技術や考え方を学ぶことができ、どこで野球をしても必ずプラスになると思います。中々、本当の正しい技術、分かっている人はいません。私も自分の考え方が絶対かと言えば分かりませんが、プロ野球で成功したたくさんの選手から得た知識は日本の中ではトップの考え方だと思っています。

キャッチボール、ゴロ捕球、基本がなければ上達しないし良い結果は出ません。そして故障に繋がります。最初からある程度投げられる小学生もいますが、それ以外の子は少し寂しい投げ方をしています。

バッティングはここ数年ずっと思っていますが、９０％以上の子がスタンスが広く、ステップをベース側に踏み込みます。スタンスが広いのでポイントをすごく前にする必要がありますし、下半身の回転スピードが落ちるのでインコースはさばけません。ましてベース側に踏み込めばよりインコースが難しくなります。では子ども達はどうするか、上半身を早く開きます。これでインコースはファール、アウトコースは届かない、両方打てなくなります。前の肩と前の足の膝がつかまえた時に止まればアウトコースにバットは届きます。特に前の肩に腕はついているので、開けば当然アウトコースは届きません。下半身（足）を踏み込めば苦しいので無意識に上半身は開きます。アウトコースを打つために前の足を踏み込むは試合の中で応用としてありですが、その打ち方を固定するのは絶対にやめた方が良いと思います。ただ左バッターは絶対にダメとも言えませんが、まず基本、真っ直ぐなステップを覚えるべきだと思います。

体が大きい小学生は小さい子に比べて有利です。しかし体の大きさで打っていては必ず追いつかれます。バッティングは技術です。もちろん力（パワー）はあった方が良いに決まっています。しかしどこまでいっても一番は技術です。段原クラブはこれを追及していきます。硬球を木製バットで打つための練習をするべきだと思います。

第２８９話/2018.01.08

１月７日（日）広島西協議会の理事会と新年会がありました。年々脱退するチームがあり、段原クラブが入った年１０チームだったのが、今年は７チーム（岩国のチームが加盟するかもしれない）。私も協議会の意義に疑問を持っていました。理事会で良い方向に変えようとする意向が無いようなら脱退しようと思っていました。話し合いの中で他チームの理事からも変える必要があるという思いが伝わり、すぐにガラッと変えるのは難しいと思いますが、少しずつでも本当に子ども達のためになる協議会はどういうものなのかということを大人達が本気で考えていかなければいけないと思います。

中学生の１年間はその時だけで、やり直し（次）はない。大人の１年とは違うことを大人達はしっかり頭に入れて運営していく会に変わっていくために、中に残る決断をしました。

他チームの話を聞くと選手集めに苦労しているようです。段原クラブも余裕があるわけではありませんが、指導者として出来ることは、ひたすら正しい野球を伝えること、そしてひとつでも多くの正しい技術を子ども達に身に付けさせ、野球大好きな気持ちのまま高校野球に送り出す。中学生のクラブチームはこれに尽きると思っています。

野球を通し、礼儀、あいさつ、言葉づかいなどしつけの部分を強調する人がいますが、そんなことは野球をしていなくても当たり前のことです。段原クラブの選手は宗教団体のような異様なあいさつ、直立不動で帽子を取って指導者の話を聞くなど、私が見ると「お前は何様」というようなことはさせません。なぜか、監督、コーチは偉くないからです。感謝の心や思い、気持ちは

強制するものではありません。自然に湧いてくるものです。頭を押さえつけて下げさせても、心（思い）が無ければ意味がありません。

良い選手とは野球が出来る選手ではありません。心（思い）のある子どものことです。部員集めは保護者達の努力はもちろん必要ですが、自分の子どもの３年間をこの人（このチーム）に預けたいと思ってもらえるような指導者（チーム）になることだと思います。

私は子育てを終わっています。しかし、たくさんあるチームの中から段原クラブを、そして私を選んで入部してきた子ども達を、自分の子と同じように責任を持って高校に送り出します。子ども達は未完成で未熟です。手を抜きたい時もさぼりたいと思うこともありますし、出来ないこともたくさんあります。全て承知の上で１歩ずつ、１段ずつ進んでいく。卒業時、「野球大好き」な選手になり高校に進む。今年の３年生も全員なってくれました。高校の指導者の皆さんお願いです、心と体を壊さないでください。

１月２日のＯＢ戦で高校１，２年生の中に、故障者が数人いました。練習で体を壊しては意味がありません。全ての選手の能力は同じではありません。「休む」体と相談しながら、これも大事な練習だと思います。２年半しかない短い高校野球生活です。ケガで野球を満足にできない時間を無くす、これも指導者の責任だと思います。厳しい練習、厳しい言葉、子ども達を鍛えるためにもちろん必要です。しかし、それに耐えられる能力は全員違います。指導者はひとりひとり違う対応の仕方が必要だと思います。強い子、弱い子、技術のある子、無い子、「野球大好き」な子どもは全員野球を楽しむ権利を持っています。

私は「野球大好き」ではない子と同じユニフォームを着る気はありません。

「野球大好き」な新１年生の入部を待っています。もっと好きになって高校に送り出すことが段原クラブは出来ます。

第２８８話/2018.01.02

１月２日、毎年恒例のＯＢ戦を行いました。今年はＯＢ、保護者、現役部員２０８名に参加して頂きました。ＯＢを６組に分けて３試合。卒業して初めて参加してくれた人、毎年必ず参加する人、広島で暮らしていない子や奥さん子どもを連れてきたり、１年に１回この日しか会うことのない
ＯＢ。私にとってとても貴重で楽しい１日でした。特に野球人生を終わり、久しぶりに野球をするＯＢが楽しそうにプレーしてくれる姿や現役の高校生・大学生・社会人の中学生より高い技術などを見て、このＯＢ戦は人それぞれの意味があり、野球は立場が変わればいろいろな楽しみ方があり、本当に良いものだと思いました。

高校野球でほとんどの選手は野球が終わりです。その中で、大学で野球を続けている者、これから大学に進学して野球を続けようと思っている者に少し厳しいことを言います。大学はとてもお金がかかります。まして野球をすればより以上にお金がかかります。本気でやらないのならやめた方が良いです。親が全ての負担をします。家を出て私立大学で４年間、約１，０００万円かかると言われています。私の息子も大学で野球を４年間しましたが、４年間レギュラーで試合に出て、もちろん努力は当たり前のようにして、親としてとても良い思いをさせてもらいました。言いかえればお金の出しがいがありました。中途半端にやっても何も得るものはありません。

それならしっかり勉強して、アルバイトでもしながら親の負担を減らした方が親孝行です。レギュラーにならなければ意味がないと言っているのではありません。費用対効果です。本気で取

り組んでこそ、身に付くものがあります。野球を続けさせてくれる親にしっかりと感謝の気持ちを持ち、全力で取り組んで下さい。高校３年生の今、自分で考えて自分のための練習が出来る時です。夏の大会が終わり、ホッとした気持ちでダラダラ生活していて大学で勝負できるわけはありません。自分で働いたお金で野球をするわけではないので本気でやるのが礼儀です。これは小・中・高校生も同じです。

高校３年生で大学受験の勉強を理由に参加しなかったＯＢが何人かいると聞きました。１日野球をしただけで落ちるのなら、入学しても良いことにはならないと私は思います。まあ言いかえれば、段原クラブのＯＢ戦と私に魅力がないということです。

何をおいてもこの日は参加したいと思ってもらえるようなチームと人間にならなければならないのでしょう。

楽しくプレーしているＯＢを見て、本来スポーツはこういうものなのに指導者として伝えられない未熟さを痛感した１日でもありました。反省です。最後に参加してくれたＯＢ全員に心から感謝します。ありがとう。

第２８７話/2017.12.25

今年最後の“つぶやき”です。

１２月２３日（祝）福山市軟式野球連盟少年部主催の中学校３年生を対象とした硬式の野球教室に私は指導者として、段原クラブの選手は特別に生徒として参加させて頂きました。何回目なのかはっきり分かりませんが、今までで一番の天気でした。人数が多く、ひとりひとりじっくり指導することは中々出来ませんでしたが、硬球に慣れること、守備とバッティングの基本的考えの一部分ぐらいは伝えることが出来たように思います。

毎年思いますが、バッティングでは体の大きな子が当たったら飛ぶ、体の小さな子は硬式のバットを振ることもままならない、こんな感じです。チームによって差はありますが、下半身を中心にした正しいスイングをしている子どもは少数です。確かに打つためにパワーは必要です。しかし正しい技術を身につけないと、長く野球を続けていくことは難しくなります。まず下半身が正しく動かなければ上半身はついてきません。これはピッチング（スローイング）、守備も同様です。腕だけでバットを振っている選手の多さに少し寂しい思いをしました。基本の話ししかしませんでしたが、忘れないで大事にしてほしいと思います。

１２月２２日（金）３０年ぶりにアイススケートをしました。小学校２年生から始めて、私にとって自身のあるスポーツのひとつでした。少し不安はありましたが、氷の上に立って愕然、まず恐い、初めての感覚です。小学校２年生の時も怖いとは思いませんでした。恐る恐る滑ってみると、スケートは片足で滑るものですが、自分の重さを片方の膝だけでは支えきれず、片足で滑る時間がとれません。そのため当然ストロークが伸びず、スピードに乗れない、カーブでは足をクロスするのが怖く、スピードを落とさなければいけません。止まる時も片足でブレーキをかけて止まれない。小学生の時の自分以下の私がいました。夏にボーリングをした時も小学生の時のスコア以下でしたし、自分が思っている以上の衰えを突き付けられ、５８歳の現実とはいえ、なまけた生活が惨めな自分を作ったことを少し反省しました。かといって今、自分は努力が出来る自信はなく、このまま朽ちるのを受け入れるしかないのでしょう。

それにしても、自分が自信を持っていたことが時間（老化）によって奪われる、つくづく「継続は力なり」という言葉を思い知っています。スポーツの世界では、休むと元に戻るのに倍の時

間がかかると言われます。私はもう中学生の頃のパフォーマンスが出来るようになることはないのですが、スケートもボーリングも野球も、人前で恥ずかしくない程度に戻したいと思いました。まずせっかく犬を飼ったので散歩でしっかり歩き、たまには走り、だらけきった下半身（足）に少し芯を入れたいです。この冬あと２度ほどは滑り、曲がると止まる、そしてバックぐらいは戻したいと思っています。

段原クラブの練習は１２月２６日（火）で終わり、新年は１月５日（金）からです。９日間何をするのか、休んだ倍戻すのにかかるとしたら、１か月を無駄にすることになります。全て君達次第です。

第２８６話/2017.12.18

１２月に入りこれから３ヶ月試合はなく、ひたすら基本練習を繰り返します。今年の１２月は気温が低くバットがあまり振れないかと思っていましたが、寒さが思ったほどではなく、ティーバッティング、ロングティー、フリーバッティングと１日 300～400 はグランドで振り込んでいきたいと思っています。出来たら 500 は振りたいのですが、グランド以外でも子ども達はやってくれていると思います。自分のためですから。

先日、各自の課題とそれを克服するために何（どんな練習）をするのか提出してもらいました。この冬、書いたことを本当に全員きちっと出来れば、個の能力はアップし、チーム内の競争は激しくなり、良いチームになるでしょう。しかし「言うは易し」やり続けていくことが難しい。何人の選手がやり遂げられるのか、春が楽しみです。私は話し半分くらいに思っています。

今年の冬はスピードアップがテーマです。足、ボール、スイング、その他、頭やプレーのスピードなど「全てのスピードを上げる」を第一に練習します。そのために身体能力も技術力もアップしなければいけません。「速い」野球選手にとってとても魅力的な言葉です。そして誰もが必要とする能力です。

今回、仙台育英高校の野球部員が飲酒、喫煙をし、野球部は活動停止、監督は辞任しました。いつまで高校野球はこんな事を続けるのでしょう。連帯責任？監督責任？何もしていない高校生が数人の頭の悪い子によって一生に一度しかない時間を奪われる。教育として正しいのでしょうか。事件を起こした生徒に対して、野球を奪われた子ども達はどんな感情を抱くのでしょう。私なら一生許すことはないと思います。

監督の責任？クラブとして活動が終わった後も２４時間、監督責任があるのでしょうか。無理でしょ。「高校生はお酒、タバコだめですよ。」こんなこと言わなくても全国の高校生全員分かっていることでしょ。説明いります？理屈に合わないです。個人の問題ですよ。他人が犯した罪で、自分が罰を受ける。これって本当に教育なんですか。野球をする時間を奪われた子ども達はなぜ訴えないのでしょう。裁判をすれば勝てると思うのですが。

私は段原クラブの代表と監督をしていますが、部員を２４時間監視することは出来ませんし、そのつもりもありません。私の責任はユニフォームを着て、グランドに立っている時間と考えます。

未成年の場合、学校行事の時間内は学校、その他の時間は親の責任と思います。私服、学生服、ユニフォーム、野球をしている子ども達は３つの服をその立場によって着ます。責任の所在は着ている服で変わるのではないでしょうか。過去にもたくさんの子ども達が野球を奪われてきました。なぜ誰も「おかしい」と言わないのでしょう。

小学生も中学生も高校生も子ども達が、大人が決めた理不尽なルールで犠牲になるのはもうやめませんか。

第２８５話/2017.12.11

プロ野球はリーグ戦で順位を決めますが、アマチュアはほとんどトーナメントで戦います。そのため負け試合（未熟な選手を使う試合）を作ることが出来ません。大会は１年間でたくさんありますが、全てトーナメント。私は１年間かけてリーグ戦をやりたいと思っています。参加チームを募り、始めと終わりを決め、各チームが都合のよい時に都合のよいグランドで試合を消化していく。そんな大会が出来たら良いと今考えています。

マウンドのないグランドで、雨になったら抽選という大会に意義を感じません。本当に子ども達の成長のためになる試合を大人が真剣に考えるべきだと思います。

そういう意味で広島西協議会の活動も今のままでよいのか疑問です。しっかりと話し合い、今後段原クラブはどうするのか決めたいと思っています。

段原クラブは今シーズンの全ての試合を終わり、来春に向けて競争と個人のレベルアップをするための３ヶ月が始まりました。選手ひとりひとり持っている力が違います。当然、各自弱点、長所が違います。まず自分自身を理解する必要があります。

そのため野球ノートに書き出してもらいましたが、ガッカリしました。小学校低学年クラスの分析です。何が出来て何が出来ないのか、何が足りないのか、まずこれらをはっきりさせなければ、何をすればいいのか何をしなければいけないのかが分かりません。なんとなくこんな感じ、漠然と練習しても何も変わりません。全ての選手が違うのですから、やることが一緒では理にかなっていません。

中学生です。まず自分自身の今はどうなのか、じっくり考えて下さい。春までにここまで、夏までにはここまで、そして高校入学までにはこうなりたい。そのために今何をしなければいけないのか、もっともっと本気で考えてほしいと思います。あなた達がノートに書いた程度のことは、小学生でも書きます。

野球の技術レベルを上げるために、頭の中のレベルも上げなければいけません。野球は「頭と足でやる」スポーツなのですから。だから日本人が世界と戦えるのですよ。

第２８４話/2017.12.04

１２月２日（土）３日（日）２日間、ツネイシしまなみビレッジ大会に参加しました。結果は３勝１敗ですが、相変わらず守備のミスで失点するし、平均以上の投手は打てないどころか大事な場面で三振するし、入部以来ずっと言い続けている状況判断は出来ないし、このままだと厳しい１年になりそうです。

トップクラスの身体能力を持った選手はなかなか段原クラブに入部してきません。その中でどういうチームを作るのか。正しい練習を数多くやり、正しい基本技術を身に付け、試合の中で「イニング」「アウトカウント」「点差」「ランナー」「打順」を頭に入れ、確率の良い野球をする。ずっとそういう指導をしてきました。新チームはそれがなかなか頭に入りません。特にキャッチャーが全く考えようともしないので、チームとしては致命的です。全てのバッテリーのサインを

ベンチから出し、キャッチャーが言うべきこともベンチから言わなければ試合にならないと思いますが、それでは私の今までやってきた“自分で考える野球”から遠ざかってしまいます。キャッチャーが出来なければ内野手が代わりにするという方法も考える必要があるのかもしれません。

２日目の２試合目のメンバー交換の時、メンバー用紙に１試合目に投げた投手のイニング数を書くように言われました。今まで一度も言われたことも書いたこともありません。まして同じ大会の１日目にも言われませんでした。主審から当たり前だろみたいな口のきき方をされ、少しカチンときました。私も大人なので我慢しましたが、なぜそんなことが必要なのか全く分かりませんでした。そもそも子どもの野球を指導している監督、コーチの中に、ルールをごまかそうとする人間がいるのでしょうか。もしいるのだとしたら、メンバー用紙に書くイニング数をごまかせばよいので書くことに意味はありません。不正を防ぐことが目的なら、大会本部か審判がチェックしていなければ、自己申告では把握できません。そもそも私は１日３試合していた時から、１人の投手を２試合投げさせることはしませんでした。イニング数ではなくなぜ試合数なのか、私の考えはこうです。

試合をまたいで投げると、体が一度冷えます。冷えた体、肩、肘をもう一度作る、それがピッチャーのより大きな負担だと考えます。私は７イニングという考えより、ずっと１試合という考え方でピッチャーは使っています。こんなルールもチェックも、本来まともな指導者ばかりなら必要のないことです。小・中学生は子どもです。大人が小さくなっただけではありません。全てが弱いのです。大人が守るのは当然です。

こんなルールもあります。チームを移籍すると１年間登録が出来ない。なぜそんなルールを作らなければならなかったのか。全て馬鹿な大人の責任です。そして常にその犠牲になるのは子ども達です。

私はどちらのルールも必要無いと思っています。常識のある指導者はピッチャーを守りますし、１度しかない子どもの野球をするチャンスは自由に選択できるようにするべきだと思います。子どもが辞めていくのは魅力がないからです。入部も退部も子ども達が自由に選べる権利だと思います。

段原クラブの本年度の試合は終わりました。背番号を回収し、ゼロからポジション争いです。監督としてこの秋満足しているポジションはありません。ひとりでもふたりでもこの冬に覚醒してくれることを望みます。そのためには本気の努力が必要です。

上がるだけなので少し楽しみでもあります。

第２８３話/2017.11.27

「新チームは強くない」私はずっと言い続けてきました。私の言う通り、ここの所、惨めな敗戦が続いています。何が惨めなのか？打球が外野に飛ばないことです。段原クラブは結成時からずっとバットを数多く振り、強く速い打球を外野に飛ばす方針でやってきました。練習の中心はバットを振ることです。これは１年生の時からです。新チームは２年生と１年生なので、もちろん３年生と比べてスイングが弱いのは分かります。そこを割引いても、新チームはバットを振れません。ストレートに遅れ、変化球に泳ぐ、インコースに遅れ、アウトコースはファールする。打てるボールがありません。なぜなのか？

２年生は入部から体が変わっていません。私はずっと言い続けています。「体は強い方が良い」「柔らかい方が良い」「力があった方が良い」そのためにチーム練習以外の時間で、何をするのか

が勝負になる。「１年やり続ければ体は変わる」その上で正しい技術が必要なのです。体が変わらない。やっていない。ただそれだけのことです。バットを振るだけで打てるようにはなりません。ボールを投げるだけで良いピッチャーにはなりません。他の選手に勝つ方法は、人が休んでいる時（チーム練習時間以外）にどれだけやるかにかかっています。

チームNo.１の体、No.１の足、No.１の肩、全部持っていればそれ程の努力はいりません。あなた達は持っていますか？持っていない。人並みにしか努力しない。人並みの成績しか残せないのは当然です。段原クラブにいてこのスイング。バットを振らないチームにいたらどうなっていたのでしょう。考えると恐ろしくなります。

スポーツは技術とパワー（重さ×スピード）が必要です。誰でも分かっています。分かってやらない。不思議な話しです。なのに、夢を語る。近づくことさえ難しいと思います。

プロ野球はグランド整備や道具の準備など、その仕事をする人がいます。アマチュアは当然自分達でしなければいけません。練習の準備（グランド整備、道具の準備など)、全員でやれば早くできます。グランド整備は各自が自分のポジションをきれいにすればいいことです。

毎年のことですが、きちっとやる選手とやらない選手がいます。これは人間性の問題、私が良く言う「育ち」(小学校のチームでの教育、親のしつけ）です。挨拶も同じで、中学生にもなって「練習の準備をみんなでしっかりしなさい」だとか、「挨拶をしなさい」なんて言わなければいけないことですか。中学生の野球チームの選手が並んで大きな声を出して挨拶の練習、これいります？やらなければいけないのなら、家や小学校のチームに問題があるのではないでしょうか。

私は挨拶についてうるさく言いません。子ども達が普通に出来なければ、それは私が彼らにとって挨拶するに値しない人間だということです。挨拶や言葉遣いは心がするもので、強制的にやらなければ叱られるからするでは、意味があるとは思えません。どちらにしても、挨拶もグランド整備も野球をする以前の問題です。出来て当たり前。気持ちがあれば誰にでも出来ること。誰にでも出来ることを手を抜いている選手が、一部の選手しか達成できないものを手に入れられるはずはありません。

野球は基本から始まります。挨拶、道具の手入れ、グランド整備、地道なトレーニング、全部基本です。これが普通に出来ない今年の新チームの選手は、今のままでは、１年間というか野球人生苦労するのではないでしょうか。

第２８２話/2017.11.20

１１月１８日（土)、１９日（日）２日間、毎年呼んで頂いている府中オーシャンズの招待試合にＡ、Ｂ２チーム参加しました。Ａチームは３勝１敗、Ｂチームは１勝３敗。勝ち負けはそれほど重要ではありませんが、段原クラブとして１、２年生の秋に出来ていなければいけないレベルに達していないことが問題です。

スピードのないピッチャーのストレートを遅れることなく打てる、追い込まれてボール球で三振しない、ピッチャーが打ち取った打球はひとつアウトにできる。これぐらいのことはさして難しいことではなく、一桁の背番号をつけて毎試合当たり前のように試合の最初から最後まで出るのなら、この時期に出来なくてはいけません。速いボールを打て、変化球を打て、ピッチャーが芯をくわれた打球を捕れと言っていません。毎試合１本ヒットは打つ、そしてごくまれにノーヒットの試合がある、イージーなミスはしない、レギュラーの条件ではないですか。

ヒットは打たないは、ミスはするはなら１年生が出ても変わりません。上級生が試合に出るの

なら下級生と明らかな違いを出さなければ、下級生にチャンスを与えた方が来年に繋がります。
私は今年もＢチームを２日間見ました。１つ収穫がありました。１年生の２人のピッチャー（とてもピッチャーが出来る恵まれた素材は持っていません）が、入部以来、初めて４イニングを投げることが出来ました。他のチームの１年生の投手と比べて良いボールを投げているとは思いませんが、６か月前と比べて格段の進歩を見せてくれました。「試合になる」ピッチャーとして試合に投げられる条件です。身体能力に恵まれた子が速いボールを投げたり、打球を遠くに飛ばしたりするのは何も凄いことではなく当たり前のことです。背が低い、体が細い、足が遅いなど、弱点を持っている子が努力の結果、少しずつ成長していく姿を見るのは、指導者としてとてもやりがいがあり、楽しい時間です。
２人のピッチャーはこれを自信に変えて努力を続け、マウンドで堂々とバッターに向かっていけるピッチャーになってほしいと思います。一番大切な素材は毎日苦しい努力を続けられることです。子ども達の努力の価値は、３年生の時の成績（数字）ではなく、どれだけ練習し、どれだけ伸びたか、伸び幅にあります。この点で段原クラブは自信を持っています。
２年生の子ども達にこの点で不満があります。特に旧チームから試合に多く出ていた選手が、今、チームの中心としての仕事が出来ていません。試合の結果だけでなく練習時の態度、取り組む姿勢、全てにおいて選手の見本となる必要があります。試合に数多く出るという、いわゆるおいしい思いをしている選手が、先頭に立ってチームを引っ張る、そして苦しむ。そこからしか試合の喜びは得られないはずです。誰もが認めるレギュラー、相撲の横綱の品格ではないですが、そういうものが備わった本物のレギュラーが何人いるのかが、チームの格です。
今シーズン残り２大会、各自がこの冬にやらなければいけないことがはっきり分かる試合にしたいものです。
中学生としてやらなければならないのは、基本的身体能力のアップ（走力、投力、スイング力）と基本技術の習得、これしかありません。これがあり、頭を使えば試合で良い結果を得られます。野球を長く続けたいのなら、ひたすら、これに打ち込むべきです。試合に勝つためのテクニックは、もっともっとずっと先でいいことです。
体作りはひとりで出来る練習です。

第２８１話/2017.11.13

なかなか試合に出ることのない選手がチームにはいます。いつも当たり前のように試合に出る選手がいます。出ることが当然のように思っていると、試合に出られることの喜びが無くなります。レギュラーでない選手は、試合に出る時にはプレッシャーを感じます。なぜなら、少ないチャンスをものにしないと次がないと思うからです。レギュラーの選手は失敗しても次があります。何かおかしいと思いませんか？本来なら、いつも当たり前のように試合に出ている選手が苦しい練習をし、プレッシャーと責任を背負い、つらい思いをするべきです。
今週末、府中オーシャンズの大会でＢチームも出場します。Ｂチームの１年生はもちろんですが、４人の２年生はとても悔しい思いをしているはずです。２日間で４試合、Ｂチームの２年生はフルに出場出来ます。持っている力を思い切って出し切って、楽しんで欲しいと思います。今、確かにレギュラーと比べて力はありません。特に足のスピードがないため守備力が落ちます。
アマチュアのトーナメントなので守備に難のある選手を使うのは勇気がいります。この秋から冬・春に向けて、下半身を徹底的にいじめぬいて体を変える必要があります。体を変えて、スピ

ードを変えて、守備力をつける。４人の野球人生にとってこの冬、とても大きな冬になります。私は思っていますが、本人と家族の思いがどうなのか。まだまだ先は長いと思っているとそれは間違いです。時間はありません。

中学３年生での結果が高校を決めます。高校３年間、勝ち続けるのか負け続けるのかが決まります。高校で勝ちたければ、中学３年までに力をつける必要があります。

あと何日練習できるのか各自一度数えてみて下さい。

第２８０話/2017.11.06

広島県軟式野球連盟少年部の新人戦県大会は準決勝で負けました。勝負なので勝つこともあれば負けることもあります。先週書いたように新チームの段原クラブは強くありません。広島県全体のレベルが低いので、ある程度勝ち上がることが出来るだけです。技術が低いのは練習を重ねていくことによりある程度克服することが出来ますが、考え方の間違いは厄介です。

段原クラブでは入部した時から、野球というスポーツはどういうスポーツなのか、説明しています。「予測と準備」「頭と足でやる」「状況判断」の５つの条件、①イニング（何回なのか）②点差③アウトカウント④ランナー（がどこにいるのか）⑤打順、これを全て頭に入れてやるのが野球です。バットを振る、ボールを投げる・捕る、走る、全てのプレーに理由が必要なのです。中学生には難しいと思いますか？１年生の時から意識して練習・試合をし、テレビでプロ野球を考えながら見る癖をつければ、誰でも考えて出来るようになります。

何も考えず来たボールを打つだけで５割打てれば何も言いません。これは天才です。なかなかいません。しかし、頭と足をしっかり使えば５割打つことが出来ます。私も私の息子も学生時代は５割打ちました。毎試合、相手投手に同じパターンで打ち取られる。右バッターはカーブで三振かサードゴロ、左バッターはアウトコースのストレートで三振か内野フライ。点が絶対に入らないバッティングの三悪、三振・内野フライ・サードゴロ。日曜日の試合ではタイブレークの２イニングを含め９イニング２７アウトの内、ダブルプレー２つを入れて２１アウトがこの３つでした。頭の弱いチームの見本のような内容です。点など入るわけがありません。ではなぜ同じ失敗を繰り返すのか？技術の問題？頭の問題？心の問題？

段原クラブの選手は土日、打とうと思えば数多く打てる室内を利用することが出来ます。そこではカーブマシンとストレートマシンと投げたボールを打つ場所３カ所でバッティングが出来ます。

入口をはいると「打席の立つ位置を変えていろいろなコースを打つ練習をしましょう」と書いてあります。それでも打たない選手もいれば、甘いコースのボールを気持ちよく打ってるだけの選手もいます。「本当にそんな練習で大丈夫なの？」「あなた達は天才ですか？」いつも言いますが私の野球人生ではありません。あなた達の野球人生、長くするのか短くするのか、楽しいものにするのかつらいものにするのか、あなた達次第なのです。やるのは私ではなくあなた達です。いつも言いますが私は来年も同じ大会に出られます。子ども達は一生に一度の大会です。本当に分かっているのか疑問です。

先週書きましたが、今週も主審は同じ方でした。上も下もサイドも全てワイド、対戦相手も３つ見逃し三振をしましたが、段原クラブのキャッチャーに聞くと全てボールだとの事。朝、今日も点はなかなか取れないだろうと予想した通りになりました。その方が主審をした試合は、２試合で４チームが２８イニング攻撃し、１点も入りませんでした。子ども達のために何とかならな

いのでしょうか。野球はルールがあり、それに基づいてやるスポーツです。ルールブック通りにやるのが子ども達のためになると思うのですが。なぜストライクゾーンが長い歴史の中、今のように決まったのか。きちっと投げたら打たれない、投げそこなうと打たれる。本当に良くできていると思います。今も昔もボールは打てません。ボールを振りにいかなければならないのは、子ども達にとって不幸です。

第２７９話/2017.10.30

１０月２９日（土）広島県軟式野球連盟少年部の新人戦県大会１，２回戦がありました。土曜日からの雨が降り続く予報で、高校野球の中国大会は早々と中止を決め順延。私にも大会本部から１１月３日（祝）に順延したいとの連絡があり、子ども達にとって当然その方が良いので OK の返事をしました。しかし中学校の野球部のチームが１１月３日（祝）、４日（土）は都合が悪いので、１０月２９日（日）に無理をしてでもやるとのこと。私には全く意味が分かりませんでした。いつも言っているように抽選はありえない。天候が悪ければ順延は同然です。都合がつかなければ棄権。ごくごく自然なことではないのでしょうか。中体連の試合も軟連の試合も学校行事も全て出たい。都合良すぎませんか。

段原クラブの選手の中にも学校行事と重なる選手はいます。クラブチームの選手はそのリスクを背負いながら、高い技術を身に付けるためにクラブチームで野球をしています。何かを得るために何かを犠牲にする。「全て欲しい」これは通らないと思います。

グランドに着いてから６時間待ち、試合をし、終わって帰ったら夜９時。これって本当に子どものためなのでしょうか。子ども達が体調を崩さないことを願います。

この試合のためにたくさんの人達がグランド整備に力を尽くしてくれました。心から感謝致します。本当に有難うございました。長く待ち、気温が下がった中で、試合の内容はともかく、２勝てたことだけがチームにとって収穫でした。大会本部の方々の気苦労、お察しします。有難うございました。

それにしてもいつも思うのですが、１日４試合あるとか、日曜日のように遅い時間になると、なぜ審判はストライクゾーンを広げるのでしょう。時間制限のある試合で、広げる意味は何なのでしょう。それとも本当にストライクだと思ってとっているのでしょうか。高めは肩から、低めはかかとまで、ワンバウンドになった変化球もストライクでは、どんな技術を持ってしても打てません。ベンチからは高さだけしか分かりませんが、キャッチャーに聞くと全て広いとのこと。なぜなのでしょう。誰のためにもならないと思うのですが。まずピッチャーが育ちません。これで良いと思ったら成長しません。まずストライクゾーンの枠の中に投げる技術がピッチャーの始まりです。バッターもボールを打ちにいけば技術は向上しません。ストライクととられれば、ボールと分かっていても打ちにいかざるをえなくなります。どの角度から考えても、広島の野球レベルが上がらないということになります。偉そうなことを言うようですが、子ども達が技術アップのために映像を利用するように、自分自身の判定を映像で確認し直すことも必要なのではないでしょうか。全ては子ども達のためになることだと思います。

週末の雨も今週はなさそうです。久しぶりに１１月３日（祝）、４日（土）の２日間、しっかり練習ができそうです。７月から試合と雨でやりたい練習が出来ていません。中学生は試合より基本練習だと私は思っています。練習で基本をしっかりやって体に染み込ませなければ、次の高い

技術は身に付けることは出来ません。子ども達に関わっている大人の皆さん、正しい基本技術を勉強し、つまらない練習かもしれませんが、繰り返しやることが子ども達のためになります。試合をたくさんやって試合に勝つテクニックより、大事な基本、これが彼らが長く野球を続けるために必要なことだと思うのですが。

段原クラブの選手の皆さん、そして保護者の方々、新チームになり少々試合で勝ったからといって、勘違いしないでください。今年の新チームは、広島全体のレベルが低いのであって、段原クラブが決して強い訳ではありません。当たり前のことで出来ないことが山のようにあります。高校野球をするために、今のままでは苦しみます。この秋冬、数段のレベルアップが必要です。これは本人と家族の思い次第です。

第２７８話/2017.10.23

１０月２１日（土）軟式野球連盟少年部新人戦西部予選の準決勝と決勝がありました。準決勝の途中から雨が降り、グランドコンディション最悪の中でしたが、雨が幸いしたのか優勝しました。１日２試合ある大会の２試合目は、チームの本当の力を計ることは出来ないのであまり参考にはならないですし、雨の最悪のコンディションだったということもあり、優勝したことにそれほどの価値を感じませんでしたが、私にとってとても喜ばしいことが幾つかあった大会でした。

段原クラブは３年生の最後の試合が９月２４日（日）まであり、本格的に新チームがスタートして１カ月弱、短い時間の中でチームを試合の出来るレベルまで上げなければなりませんでした。バッティングは、新チームではどのチームもそれほど力強く振れません。段原クラブも３年生と比べると、パワーという点でかなり落ちます。点をたくさん取ることは難しいと思いますが、雨の中での決勝以外の３試合無失点だったこと、（内容はともかく）決勝もあの状況で、ピッチャーが気持ちで負けることなく最後まで逃げずに集中し投げきったこと、投げた３人とも良いものを見せてくれました。文部科学大臣杯の県大会で負けてから、アウトコースをセンター方向に打ち返す意識を持って練習したことが少しずつ試合の結果として出たことなど、試合で失敗したことを練習でやり直す、同じ失敗を繰り返さない、上に上がるために必要なことです。子ども達が負けて気が付いたこと、私がいつも言っている意味のある負け。本当に少しですが出たように思います。当然負けるより勝った方が気分はよいのですが、１０月２１日（土）は力がまだまだない子ども達（控えの選手を含め）全員が雨の中最後まで集中して試合をしている姿を見て、勝ったことより嬉しく思いました。

そうは言っても、バントでのケースの投手の守備の準備、フライの内外野での譲り合い、送球の間の走塁、チャンスでの大きなバッティング、キャッチャーの配球、先頭打者に対する投手の投球、足のある選手のアウトのなり方など、不満はたくさんあります。これから同じ失敗を繰り返さないように、ひとつずつ練習を重ねていくしかありません。前にも書きましたが、今年は府中オーシャンズ以外のチームは力がありません。来春までにどこまで近づけるのか、段原クラブはひたすら個人の力のレベルアップです。

私は試合の勝敗を抽選で決めるのはありえないと思っています。まして、大会の１回戦（１日目）を抽選した瞬間に、その大会は何の意味も持たなくなると思います。大人達が努力を重ねて最悪どうしようもなくなった時に抽選をするとしたら、それは大会の最終日、それも次に進む大会ではないことが条件です。簡単な理屈です。まず、子ども達には１年に１回の大会であること

（大人には来年もあります）。試合があれば本来勝ち上がることのないチームが抽選によって上がっても、大会として価値はないこと。クジを引くためだけに遠くから選手を集めるのは、時間とお金の無駄であること。野球のチームが野球の大会にエントリーして、野球することなく参加料（お金）を取られるのは理にかなってないことなど、大人が子どもの立場になって考えれば分かることです。

私は試合が抽選になった場合、本当は棄権をしたいと思っています。色々な大人の都合で行きますが、抽選は負けて欲しいと思います。なぜなら先ほど書いたように、その大会はもう価値のない大会だからです。大人達が子ども達のために少し努力する。できるだけ良いコンディションで頑張って練習してきたものを出させてやりたいというのが普通の考え方だと思うのですが、雨の中ビショビショになりながら、せっかく身に付けた技術を出すことなく負けたり、グランドに立つことなくクジを引いて負ける子どもたちがいる。本当に大人達はこれをよしと思っているのでしょうか。

私は理解出来ません。しかし、組織の中に入らないと試合は出来ません。好むと好まざるとにかかわらず、現実です。そして、組織の考え方に従えないのなら、責任者として考えなければなりません。私はただ大会の数だけこなして、たくさん試合の機会を増やせば良いというものではないと思います。価値のある大会、意味のある試合をしなければ、子ども達に本当の力は付いていかないと思っています。

第２７７話/2017.10.16

まず、最初に書きます。前にも書きましたが、私はチーム名に“さん”を付けるのは国語としておかしいと思うので、“さん”付けはしません。他意はありません。

１０月１４日（土）１５日（日）文部科学大臣杯広島県決勝大会がありました。私の予想通り府中オーシャンズが優勝しましたが、力の差があり過ぎてあまり面白くない大会になりました。府中オーシャンズ以外のチームは、この冬そうとう練習しなければ追い付くことは出来ないでしょう。段原クラブも私の予想通り１回戦で敗れました。指にかかった時はよいボールを投げる程度の１年生ピッチャーを２年生の他の選手が助けるどころか足を引っ張れば、勝てるわけはありません。１死３塁、１死２,３塁という大きなチャンスに旧チームからほぼ１年間試合を経験した選手が自分勝手なバッティングをして得点できない。打たれたヒットは１本、打ったヒットは５本、言ってみれば段原クラブらしい負け方です。練習は自分のため、試合はチームのため、中心選手が何を考えて試合をするかがチームの勝敗に大きく影響します。この勝敗によって子ども達の中でひとりでも何か気が付いて練習が変われば、意味のある負けになります。

土曜日の１試合目、『広島スターズ』対『十日市野球クラブ』を観ました。全く何の緊張感もプレッシャーもなく伸び伸びプレーしている十日市野球クラブに対し、チームの歴史や責任を背負ってプレーしているように見える広島スターズの子ども達。これは仕方ないことなのかもしれませんが、毎年勝ち続けなければならないプレッシャー、勝って当たり前と思われる責任、並大抵のことではありません。広島スターズの子ども達は、他のチームの子ども達より大きく重い荷物を背負って野球をしています。勝ち続けなければならない野球をしたことのある私には良く分かります。持っている力に大差はありませんが、流れで大きな点差になってしまいました。しかし、来春にはそのプレッシャーをはね返せる力を付けて、大きくなってくると思います。段原クラブも、ピッチャーの荷物を代わりに背負える選手が出てきて欲しいと思います。

あるチームのホームページの書き込みに、私の批判が載っていたそうです。日本は言論と表現の自由が保障されている国なので、それほど驚くことではありません。私は読売ジャイアンツの時代に、“強いものには敵が多いものである”と教育されています。批判される対象になったということは、そのチームの関係者にとって邪魔というか、うっとうしい存在のチーム、監督になってきたということだと捉えました。嬉しいことです。ただ内容は的外れですが、その書き込みは１週間程度でそのチームには相応しくないということで、ホームページから削除されました。さすがに長く広島のトップに立っているチームだと改めて思いました。

私は、何度もここで、「ベンチで何もしないで座っているだけで広島県ＮＯ．１に慣れるチームを作りたい。」と夢を語っています。５０年野球をやってきた私は、それが限りなく不可能な夢だと分かっています。しかし、それに近づくためにまずサインを無くしました。出来るだけ子ども達自身で考えて欲しい。考えて結論が出なければ、聞きに来る。明らかな間違いはその前に指摘し、野球のセオリーをまず覚えてもらう。そして、クラブチームのやるべきことは「レギュラーだけではなく、選手全員の個の能力を高め、その能力をここ一番で発揮できる精神力を身に付け、高校野球に送り出す。」ここにあると思っています。そのため勝つための作戦はあまり意味がないと思っています。しかし、送りバントは出来なければいけません。なぜなら高校野球で必要だからです。サインは無くても、自分の意志でチームのためにバント出来る選手になって欲しいと思っています。

監督になった当初、たくさんサインを出していました。なぜか？自分のプライドのために勝ちたかったからです。自分のためだけに。サインを出さなくなったのは、Ｊリーグの関係者との話しが始まりです。その人に言われました。「野球選手は監督の操り人形ですよね。」一流選手はそんなことはないし、本当に強いチームの選手は自分で考えて野球をしていますが、外から見ると、特に少年野球はこう見えています。次にヤクルトスワローズ、阪神タイガースなどのチームの監督をされた野村克也さんからは「１年間で監督の采配で勝てるのは５試合程度、いらんことをして１０試合以上負ける。やるぞ、やるぞで何もしないのが一番良い。」という話しを聞きました。最後に息子が広島に帰りチームを手伝ってくれるようになった時に、「３塁ランナーをエンドランで返しても子ども達の自信にならないから打たせた方が良い。」と言われ、何もしなくても終わったら勝っているという夢を追ってみようと思いました。

ではなぜリーグ決勝大会の決勝『広島スターズ』戦でエンドランをしたのか。一度も練習したことがないのに。

今年の３年生は７人、ひとりも辞めていません。例年と比較して能力はありませんから、新チームになってから苦しみ続けてきました。それでも諦めず、努力し続けている。そんな３年生が私は大好きでした。特にエースは、本当によく練習し、チームを全日本少年軟式野球大会県大会に導いてくれました。そのエースが夏から調子が上がらず、３年生最後の試合、マウンドでもがき、苦しんでいました。私だけでなく、チームの子ども達全員がエースを助けたい、少しでも楽にしてやりたい、その気持ちがベンチに溢れていました。あの場面のエンドランはベンチの選手全員の気持ちでやったエンドランです。私はサインを出していません。アイコンタクト、それだけです。一度も練習しなくても選手が必要な作戦だと理解してやれば出来るものです。バントも盗塁も自らやろうとすれば成功率は上がります。試合に負けましたが、私は段原クラブの野球を今年の３年生も立派にやり遂げてくれたことに大満足しました。

野球に正解などありません。数学ではないので答えはひとつではありません。これからも、どんな意見、批判を浴びようとも、私はコーチ達と一緒に、子ども達が高校で野球をするために良いと信じたことをやり続けたいと思っています。そのモチベーションの良い薬が、『広島スターズ』

と『府中オーシャンズ』です。強くい続けて、段原クラブをはね返して欲しいと思っています。

第２７６話/2017.10.10

１０月８日（日）第２３期の卒団試合と卒団式を行いました。毎年のことですが、卒団試合は３年生のたくましさと新チームのひ弱さだけが目立ち、嬉しさと不安の入り混じった、監督として複雑な試合です。

「１年後に３年生のようになれるのだろうか」「今年の選手は厳しいな」と毎年思いますが、子ども達の努力で何とかなるのが段原クラブです。

３年生は７人が入部し、１年生のリーグ戦は全員揃わず、オープン参加。当然、勝てるわけはありませんでした。その子達が２年経ち、全日本少年軟式野球大会（全軟）県大会に出場し、負けはしましたが、優勝チームとタイブレークの試合ができ、最後はリーグ決勝大会の決勝まで行き、立派な試合をしてくれました。

私の目から見ると、野球をする素材に恵まれているとは思えない子ども達ですが、努力を続ける素材を持っている子ども達です。本当に山あり谷ありの谷が多かった３年間でしたが、諦めず努力し続けることが彼らを成長させました。卒団式で立派に挨拶をしている姿を見ると、段原クラブの３年間は意味のあるものになったと思います。

これから高校野球に向けた練習と後輩の指導という大切な仕事があります。君達が身に付けた技術と野球というスポーツの本質を伝えて欲しいと思います。段原クラブは硬球を好きなだけ打てる施設があります。しっかり利用して、高校のスタート時、少しでも前からスタートできるように、これからも今までのように努力し続けて下さい。

新チームは広島県軟式野球連盟少年部の県新人戦西部予選がありました。当然、新チームなので不安と不満だらけの内容ですが、少しずつ出来ることが増えてきました。ピッチャーはアウトコース低めにストレートを投げられる数が増えてきましたし、イージーなエラーが減ってきました。まだまだチーム内で競争し、個のレベルを上げて欲しいと思います。

ポジションは９つ、２年生１５人と１年生１人の１６人で争っています。もっともっとひとりひとりが、バチバチ火花を散らすような緊張感のある練習が出来るとチーム力が上がっていきます。

チームメイトは仲間ですがライバルです。試合の当日まで争います。そのなかで勝った者が試合に出ます。まだまだ決まっていないポジションはいくつかあり、チャンスはいくらでも目の前にあります。つかめるのかつかめないのかは、あなた達次第です。

来週は文部科学大臣杯県大会です。全員が福山市民球場のグランドに元気に立てるように、まず健康管理。晴れの舞台をしっかり楽しめるように万全の準備をして下さい。

文部科学大臣杯に呉地区の予選参加チームが無く、１回戦不戦勝があります。そもそも呉地区と南部地区は、今年の全軟も予選参加チームが２チーム、不条理を感じます。子ども達の世界で、大きな大会に出場するための条件があまりにも違う。努力している少年達が平等ではない条件の中でプレーしているのはなぜなのか。

いつものことですが「大人の都合」？「完全な平等」そんなことを求めてはいませんが、試合しなくてもエントリーしただけで出場できる地区があったり、１試合勝てば出場できたり、３試合勝っても出場できなかったり、誰が考えても「なぜ？」ではないでしょうか。

いつも私は思っています。子どもの世界に「大人の都合」はいりません。「子どもの都合」で大

人は動くべきです。
　臨機応変、努力しなくても出場できるチームがある大会はその価値を失います。

第２７５話/2017.10.02

　１０月１日（日）総会があり、保護者の役員が変わり、全てが新チームになりました。
　日曜日午前中、太田川リーグという大人の草野球リーグ戦があり、３年生はよく打ちました。プレッシャーが無くなり、伸び伸びバットが振れる精神状態になり、身に付けた技術を試合で発揮出来ます。今年の３年生は、チャンスでタイムリーを打てない弱い子ども達でした。段原クラブで３年間やると、全員ある程度以上の技術は身に付きます。それを試合で出せるかどうかは本人次第です。
　２年生も数人ですが、打球が強くなってきています。練習している子は楽しみです。
　私は日本プロ野球ＯＢクラブと日本野球機構（ＮＰＢ）の公認指導者資格を持っているプロの指導者です。１対１で本気で指導すると、子どもは変わります。平均的な体力があれば、ある程度の成績を出させることが出来ます。そのためにひとつ条件があります。それは信じてもらうことです。子どもはもちろんですが、保護者にもです。お互いの信頼が必要です。長く子ども達と接していますが、気持ちと上達の度合いは比例しているように思います。
　今年の１年生はあそこが痛い、痒いと少し練習・試合をするとよく言います。段原クラブの歴史でだんとつに体が弱い学年です。
　スポーツの世界ではっきりしていることがあります。上達するためには正しい練習を数多くすることです。体が弱い選手は、この数多くが出来ません。と言うことは、上手くなりようがないと言うことです。
　『一流は体が強い』これはどんな世界でも共通しています。技術を磨くための土台、体を強く作る必要があります。
　１、２年生の皆さん、『野球の練習が出来る体』最低条件です。なければスタートラインにも立てません。

第２７４話/2017.09.25

　３年生の中学生最後の試合が、９月２４日（日）にありました。リーグ決勝大会、リーグ上位４チームによる準決勝、決勝です。
　私は毎年この大会で広島スターズと最後の試合が出来れば、３年生にとって幸せな終わり方が出来ると思っています。今年も良い最後の試合が出来ました。
　結果は６対９で負けましたが、入部してきた７人を見た時、最後にこんな試合が出来るチームになると想像した人はいないと思います。
　体は小さい、足は遅い、不器用、ピッチャーがいない、内野手がいない、そんなスタートでした。それでも何とかなるのが段原クラブです。恵まれたものを持っていない子ども達が努力を重ね、諦めず練習し続ける。
　今年の３年生もよく練習をしました。勝って終わるにこしたことはありませんが、野球はそんなに甘くありません。広島スターズというチームもそんなに甘くありません。だから面白いので

す。君達は持っている能力に比べ本当によくやりました。褒められて当然だと思います。私が段原クラブの監督でなかったらこう言います。
　監督の立場ならこう言います。君達は勝負の世界に向いていません。高校野球をやるにしても、本気で甲子園と思っている、いわゆる野球校で競うのは無理だと思います。
　まず、基本的身体能力でひとつでも抜けたものが無い。特にスピードが無い。野球を覚える頭（野球頭）が弱い。強い相手に立ち向かう心が無い（開き直れない)。厳しいようですが、これが現実です。
　３年生の７人は希望の進学先を全員決めています。今の実力で４月を迎えると、厳しい野球人生が待っているでしょう。今まで以上の取り組み、覚悟が必要です。バットを振っていれば練習している、打てるようになる、この程度の考えでは上のレベルでやるのは無理です。一番嫌なこと、苦しいこと、辛いこと、そこからやるべきです。
　よく頑張りましたが、最後には広島スターズにも府中オーシャンズにも勝てなかった、これが君達の今の力です。現実を見つめ、諦めるのか、今まで以上やるのか、どちらかです。
　本格的に新チームが始まります。中心選手のいない、私から見ればスカスカのチームです。ユニフォームのプライドも背番号の責任も今のところ、親子共々感じるものはありません。運良く、文部科学大臣杯の県大会には出場しますが、それだけのような気がします。
　大会まで３週間、誰がチームの中心になり、全員をギラギラさせてくれるのか。野球はチームスポーツと言われますが、枝葉は枝と葉だけで、勝負は出来ません。
　勝つという結果が欲しければ、ひとりひとりが自分に、そしてチームメイトに厳しく練習する必要があります。レギュラーとしてプライドと責任、そしてレギュラー番号がもらえなかった選手の巻き返し。下剋上。私はそういうチームを望んでいます。
　レギュラーの座に安心し、努力（当たり前のこと）を怠る選手（何人か心当たりがあるはず)、私は試合から外したくてうずうずしています。
　その時に後悔しても遅いですよ。あなた達のために甘やかすことはしません。

第２７３話/2017.09.19

　いよいよ３年生は、９月２４日（日)のリーグ戦決勝大会で中学生としての対外試合は最後になります。なかなか部員が集まらず、４月になってやっと７人入部した３年生。厳しい学年になると思っていました。
　２年秋の新チーム結成からなかなか思い通りの試合が出来ずにいましたが、何度も切れかけた気持ちを何とかつなげ、全日本少年軟式野球大会では県大会に出場することが出来ました。大会の優勝は難しいものがありましたが、７人の努力で、段原クラブとして最低限のレベルにまで上がってきました。７人しか入部しない学年でしたが、ひとりの退部者もなく、全員が入部の時にした私との約束を守ってくれました。ありがとうございました。
　最後の試合ですが、緊張したり、気負ったりすることなく、身に付けた技術を全て出した気持ちのよい試合をしてくれることを望みます。
　新チームは、１０月１４日（土）文部科学大臣杯県大会１回戦で精華クラブと対戦します。コーチが試合を見た所によると、現在の力は相手が上だそうです。残り４週間、各自が少しずつレベルアップする必要があります。
　９月１８日（祝）の甲山ジャガーズ交歓軟式野球大会で２試合することができました。スイン

グのスピードが足りず、まだ打球が段原クラブのレベルにきていません。しかし、これはすぐに何とかなる問題ではありません。まずディフェンス。バッテリーの頭を含め、内外野のイージーミス（送球ミス、内野安打など）をゼロにし、失点を防ぐ。ロースコアで試合が出来るための練習が必要だと思います。ということは、レギュラーは守備力からということです。

２年生は入部からほとんどの選手の体格に大きな変化がありません。これは、素材だけの問題なのでしょうか。私は、家庭の野球に対する覚悟の問題だと思っています。グランドで昼食をたくさん食べさせるチームがあると聞きますが、私はしません。これはチームの問題ではなく、家庭の問題だからです。そして強制することではないと思うからです。

やった方が良いと思われることは伝えます。やるかやらないかは各自の問題です。自分の野球人生は自分で責任を持てばよいと思います。本気ではない野球もありです。ただ、私はなるべくそういう選手と同じチームでやりたくないとは思っています。

今からでも遅くありません。１，２年生の皆さん、速いボールを投げたければ、投げられる体が要ります。打って遠くへ飛ばしたければ、遠くに飛ぶ体が要ります。体を作らずに、それを望めば必ずどこかに無理をし、確率は下がり、ケガに繋がります。来年の春に向けて、今日から、速く、強い体。本気になってみませんか。あなたのためです。

第２７２話/2017.09.11

私は、何もせずベンチに座っているだけで広島県一になれるチームを目指している、と常々言ってきました。そのために練習で個の能力を伸ばし、野球というスポーツの本質を子ども達に説明してきました。これだけ同じ事を何度も言ってきたのだから、小学校から野球してきたのだから、こんな事ぐらいは分かるだろうと思ってきました。

しかし、これは常識だから言わなくてもいいだろうと思うことが、試合中に出来ないことが数多くあります。今年やっと分かりました。『中学生は頭が悪い』覚えられません。

牽制球やピックオフプレーでアウトになってはいけない場面が分からない。相手バッターの特徴、打球方向、足のスピード、分からない。引っ張って良い場面、悪い場面、分からない。甘いボールで良い場面、四球でも良い場面、分からない。外野手がチャージしなければいけない時、安全にいかなければいけない時、分からない。相手が走ってくる時、バントしてくる時、エンドランをしてくる時、全く分からない。とにかく何も分からない。

小学生の時から何年も野球をし、あきれる程試合をしてきたのに、野球というスポーツの事は何も知りません。

なぜなのか、覚えようとしないからです。投げる、打つ、走る、捕る、野球はこれだけで出来ると思っています。間違っています。ボールが動いていない時間の方が長いスポーツ、例えばアメリカンフットボールもそうですが、ボールが止まっている時間に何を考え、何を準備するのかが結果を大きく変えます。

９月１０日（日）の山本浩二旗１試合目は、いちいち言わなくてもこの程度の相手に負ける事は無いと思っていると、全く何も出来ない。本当に何も考えず、ただ投げる、ただバットを振る、ただボールが飛んできたら捕る、投げるだけ、ビックリしました。一から十までいちいち言わなければ何も出来ない子ども達だということが良く分かりました。それが分かったということが一番の収穫です。３年生も同じです。これだけたくさんの試合を経験しても、技術はもちろん伸びていますが、考え方は小学生のまま。これでは良い結果に繋がるわけがありません。

監督が座っているだけで勝てるチーム、これは私の目標ですが、今は無理です。諦めました。

９月１０日（日）２試合目、ネクストサークルの近くでいちいちやらなければいけないことを説明し、試合をしました。試合になります。段原クラブは正しい練習をしているので、ある程度の技術は身に付いています。試合の場面でその技術をどう出すのか、何を出すのか、何をしなければならなくて、何をしてはいけないのか。私はいちいち一から十まで言うことにします。

野球選手は体力、技術、もちろん必要に決まっています。ピッチャーはスピードがある方が良いですし、バッターは遠くに飛ばせた方が良いのはもちろんです。しかし、試合となればそれだけで勝負するわけではありません。『状況判断』し、『相手を分析（相手のあるスポーツ）』し、『予測と準備』をする。この能力が大事なのです。

ひとつの例を書きます。私がもし日本ハムの大谷投手と対戦することがあるとすれば、必ずスライダーを狙います。なぜなら１６０㎞/h のストレートは狙っても当たらないでしょう。バットに当たる可能性はスピードの無い変化球の方が高いと判断するからです。

相手の力と自分の力をしっかり頭に入れて計算すれば、ピッチャーなら投げるボールが、バッターなら振るボールが、野手なら守備位置が、走者なら行くか止まるかが決まるはずです。それが野球というスポーツです。

第２７１話/2017.09.04

９月２日（土）文部科学大臣杯、９月３日（日）福山８０ホークス招待試合がありました。土曜日は内容や相手がどうであれ、県大会の代表になることが第一の目的なので、その点では良かったと思います。しかし、新チームになって時間が無く、致し方ないとはいえ、内容はひどいものでした。

県大会までの約４０日、チームを白紙に戻し、一から考え直す必要があります。最低限、ピッチャーが打ち取った打球はアウトにする、ストレートはバットに当てる、バントは出来る、牽制でアウトにならないぐらいはレギュラーなら当たり前になって欲しいと思います。

段原クラブが基準として考えているチーム、広島スターズ、府中オーシャンズ、松永ヤンキース相手に投げられる投手、打てる打者が試合に出る資格があります。あなたはありますか？なければ練習、食事、睡眠でそのレベルまで上がるしかありません。今の新チームではそのレベルの選手は見当たらないので、試合をすれば当然、敵わないという結果になります。

「数は力なり」練習はもちろん正しい理論が無ければ意味がありません。その中で、絶対的な量・数が必要です。頭で理解したことを体で覚える、考える前に反応する感覚、そのためには中学生には試合より練習です。小学生ももちろん練習しなければいけません。一番練習をしっかりしなければいけない小・中学生時代に試合ばかりしているので本当の力が付かないのだと思います。

小学生のチームの関係者に嫌われると思いますが、基本のない子に試合は無意味です。九九の出来ない子に因数分解は分かりません。結局、いつも大事な試合で勝ち上がってくるチーム、子どもの素材？グランド？何が違うのでしょうか？私は練習の数だと思っています。４０日間、チームを上げて本気でやらないと、県大会で惨めな思いをすることになります。

８０ホークスの招待試合にはＡ・Ｂ２チーム出ました。２つとも２試合勝ちました。ひとつ良かった事は、２チームで４試合、失点０、Ａチームはエラーも無く。投手の調子はもうひとつのように感じましたが、長打、エラーが無ければ、そうそう点は取られないということです。

しかし、３年生のバッティングはまだまだです。甘いストレートを打ち損ないますし、相変わらず配球は考えられず、変化球の対応は出来ません。ここのところ１か月程、３年生はたくさんのチャンスをもらってきました。本来なら試合に出る力を持っていないのに、７人ということでいつもの年より多く試合に出ています。それなのに、いつまで同じ失敗を繰り返しているのか。監督やチームに甘えていませんか。不甲斐ない自分に腹は立ちませんか。これからあなた達が行く高校野球は競争の世界です。負けてヘラヘラ、チームが勝ってもあなたは勝っていますか？

ＡチームもＢチームも全ての選手の皆さん、あなたは相手チームに勝っていますか？広島県で、広島市で、そしてチームで何番目ですか？

私は良いボールを投げる方法も、ヒットを打つ方法も、ゴロやフライを取る方法も、試合で勝つ方法も知っています。今年の選手は利用しません。今（中学生の時）だけですよ。もったいない時間の使い方をしていませんか。

３年生も１,２年生もこの１カ月、上手くなるチャンスだと思います。

第２７０話/2017.08.28

私が１年で一番楽しみにしている大会、瀬戸内大会が終わりました。普段やることのないチームと、良いグランドで、２日間必ず４試合でき、夜はおいしい食事とお酒を頂きながら、楽しい話に盛り上がる。

３年生は段原クラブで身に付けた技術を思い切り発表する。私にとって大事な大事な大会です。だから文部科学大臣杯をコーチに任せています。

しかし、今年は結果だけならＡクラス３位、まずまずですが、内容は本当に恥ずかしい４試合でした。

『野球頭』私はいつも、野球は頭と足でするものだと言い続けています。ボールが動いている時間より止まっている時間の長いスポーツは全て頭でします。止まっている時間に何が考えられるかが勝負になります。『予測と準備』守備ではボールが飛んでくる場所が分かれば、点は取られません。本物のファインプレーとはそういうものだと思っています。

バッティングは相手投手の投げてくるボールが分かれば、打てる確率はぐっと高くなります。ほぼ三振することは無くなります。

私は現役時代、配球を読んで打つのが面白くてたまりませんでした。ストレートだけ待っていて全ての変化球に対応できる天才ではなかったので、打つために配球を読む技術がどうしても必要でした。中学・高校時代も自分の打席はもちろんですが、人の打席も集中して見ました。

ストレートか変化球かの２つに分ければ、何も考えなくても１/２、２回に１回は当たります。本気で観察し、考えれば８０％以上分かるはずです。現実に私は中学生の試合を見ながらほとんど投げてくるボールは分かります。全て分からなくても、この打席はこのボールが必ず来る、この１球を狙う。ほぼ１００％これは出来ます。

こういう話を何度もしたり、試合中ベンチで次は何などとヒントを与えたりしてきましたが、今年の３年生は出来ないというか、やろうとしないというか、野球を頭でやるということが理解できないようです。

投げてきたボールに対して体の反応だけで対応する、天才のやるバッティングです。今年のチームにそのレベルの選手はいません。そのため、ほぼ平均的な力の投手でも打てません。何度も何度も、ストレートは遅い、しかしカーブがストライクゾーンに投げられます程度の投手に抑え

られます。１年間に何度もです。
　２日目の１試合目に、この程度の投手に同じように抑えられました。まずＡクラスに残ったということは、投手はストライクが入るだろうと誰でも想像できます。投球練習を見ると体は大きくない、ストレートは速くない。この時点で、何かストライクを取れる変化球を持っているに違いないと普通は思います。
　２回に段原クラブの選手がストレートを４人芯で打ち、点を取りました。次からは配球を変化球中心に変えてくるだろう、これも普通考えることです。
　しかし、こんなごくごく普通のことが、今年の３年生は考えられません。失敗したら考える、そして何かを変える、当然のことを相手はしました。段原クラブの選手はしませんでした。頭（脳）が動いているチームと止まっているチーム、当然動いているチームが勝ちます。なぜなら野球は頭と足でやる予測と準備のスポーツだからです。
　２日目の３位決定戦、相手の松永ヤンキースは全員１年生できました。１年生相手に大量点を取り、コールド勝ちしました。当たり前です。試合後、ニコニコ話をしている３年生を見て、１日目の２試合と準決勝の内容は頭から全てもう消えてしまっています。
　私とは野球に対する考え方、思い、言い換えれば住んでいる世界の違う子達なのだと思いました。住んでいる世界が違うので、同じチームで野球をするのは無理があるように思います。

第２６９話/2017.08.21

　今年の夏の甲子園はとにかく点が入ります。私はずっとバットは振るべきだし、しっかりバットを振れるチームが甲子園でも勝っているということを言い続けてきました。バントしたり、右打ちしたり、ゴロを打ったりする野球は時代遅れだとも言ってきました。
　しかし、これはあくまで投手を含めた守りがあってのことですし、本当に良い投手は打てないのが野球です。そういう点では、高校野球のバッティングはマシンが当たり前にあり、室内練習場があり、ウェートトレーニングで体を大きくし、年々レベルが上がっています。
　バッターは振れば振るほど良くなります。しかし、投手は投げればいいというものではありません。ケガのリスクが高まります。バッター有利という現代野球ですが、それにしても点が入りすぎです。投手の球速も上がり、色々な変化球も投げます。それでも打たれます。特に大事な場面で長打を浴びます。
　私も投手の経験があります。ストレートとカーブの２種類しか投げませんでした。時代が違うと言えばそれまでですが、アウトコース低めのストレート、これに対するこだわりが無いように感じます。長打を打たれないボール。投手として一番身に付けなければいけない練習が足りないのではないでしょうか。何種類のボールが投げられても、そのボールの切れやコントロールが無ければ、そのボールは頼りになるものではありません。ピッチングの基本はいつの時代もインハイ・アウトロー。これは変わることはないと思うのですが。
　今年のチームは、練習で身に付けた力をなかなか試合で発揮することが出来ません。何かを変えなければと思い、１週間のフルスイング塾の休みを使い、メンタルについて勉強してみました。聞いたことのある事、無い事、時間があったおかげで色々な考え方、練習・試合の取り組み方や失敗の活かし方、言葉や文字の使い方など、子ども達の野球に活かせるのではないかと思うことがさまざま、たくさんありました。
　８月１９日（土）の午前中２時間程、今までにない考え方、何をどう変化させるべきなのか、

変わるための方法など、私が今回勉強したことを子ども達に伝える時間を作りました。
　今回勉強して分かった事が１つあります。私の中学・高校時代は、理論を知っていたわけではありませんが、メンタルトレーニングの考え方からすると、正解の考え方で野球をしていました。多分、技術的にも精神的にも３０年、４０年前の選手は理論的に分かっていなかったことを自然に身に付けた選手がある程度の結果を残していたのだと思います。
　現代はたくさんの情報があふれ、色々な道具があり、さまざまな理論があります。子ども達は上達しようと思えば、私達の時代よりはるかに恵まれた環境の中でとても高い可能性があります。
　必ずうまくなれる環境に身を置いて利用しない。段原クラブの選手達は全員とは言いませんが、とてももったいない時間の使い方をしているように思います。無限にあるわけではない野球が出来る時間をもっと大切に使って欲しいと思っています。
　８月２０日（日）に手伝いに来てくれた竹田、東、子ども達にとって有意義な時間になりました。ありがとうございました。

第２６８話/2017.08.16

　８月１１日（祝）、山口県の岩国高校３年生の２人が練習の手伝いに来てくれました。２年生は新チームの練習試合に出ていたので、３年生７人、１年生９人の１６人。少ない人数で久しぶりにしっかり練習をしたいと思っていましたので、「ありがたい」と思いました。
　しかし、練習を始めてみると、選手から気持ちが全く伝わってきません。恥ずかしい取り組み方。私はバッティング練習の１組目で練習を中止し、子ども達に思いをぶつけました。
　なぜなのか、手伝いに来てくれたＯＢの選手に申し訳なかったからです。彼らは親元を離れ、とても厳しい指導者のもと、勉強と野球に真面目に打ちこんできました。２人とも手を抜くような子ではないので、見ていなくてもどれほどの苦労をしたかは想像が付きます。
　そんな３年間の集大成の最後の夏が、名も無い相手に１回戦敗退。努力が必ずしも結果に結びつかないのが高校野球ですが、あまりにむごい終わり方をしました。
　そんな思いをした選手がグランドに顔を出してくれているにもかかわらず、ふざけた練習をする中学生を私は許せませんでした。国立大学と有名私立大学を目指している２人がとても貴重な時間をさいてくれているにもかかわらずです。
　ほとんどの選手は１８歳で野球人生を終えます。大学・社会人・プロに進める選手は僅かです。その現実を中学生は分かっていません。野球が出来る時間は無限にあるわけではありません。３年生には残り３年、２年生には４年、１年生には５年しかありません。練習できる日数・時間を一度数えてみてはどうですか。手を抜いている１日がどれだけもったいないか分かるはずです。高校３年生までに力を付け、結果を残さなければ、次のステージには上がれないのです。
　あなたは何歳まで野球を続けたいのですか？３０歳まで出来る選手はほんとに一握りの天才です。今やらなければいつやるのでしょう。全国に同級生の野球選手が何万人といるのです。その中であなたは今、何番目ですか？
　４０００校少し欠ける高校野球、大学は２００数十校、社会人は約７０～８０チーム、プロ野球は１２チーム、競争に勝ち残った選手だけが、次のステージに上がっていきます。夢を語るのは大いに結構です。しかし、語るだけでは１歩も近づくことは出来ません。
　「暑い」？ 夏なので当たり前です。
　私は今まで自分に指導力があると思っていました。約３０年間、小・中学生を指導し、ずっと

ある程度以上の成績を残してきたので、そう思い込んでいました。しかし、それは勘違いでした。私の能力では今年の３年生に試合で結果を出さすことは出来ません。今まで自分の力だと思っていたのは、ただ子ども達に恵まれていたからだったのです。

今週で２６８話目、５年以上続けてきたこのページで数々、生意気な事、失礼な事を書いてきました。大した力も無いのに、ただただ恥ずかしいことを繰り返してきました。皆さん心からお詫び申し上げます。本当に申し訳ありませんでした。しっかりと自分の能力を知り、勉強し直します。

私は常々、良い結果を出せない指導者がいつまでも監督でいることをよしと思っていませんでした。その点で、子ども達の力を上げられない私がこのまま同じ立場でいていいのか？１３日（日）からそのことと、今までと違う練習方法、試合で力を出す方法、何か他のやり方があるのか？ずっと考え続けています。私がベンチを離れることにより子ども達が持っている力を出せるのなら。残り少ない３年生の中学野球、どうすることが最も彼らのためになるのか。結論を出す時間はあまりありません。まず、私が自分の無力を知ることが始まりです。

ＯＢの波多間、金澤、貴重な時間ありがとうございました。そしてすみませんでした。

第２６７話/2017.08.07

８月５日（土）、６日（日）の２日間、年に１回の孫との旅行に行ってきました。プールと遊園地で暑い中、疲れましたが楽しみました。たくさん楽しめた中で２つ残念なことがありました。

ひとつは、プールで浮き輪に空気を入れようとコンプレッサーの所へ行くと、２人の女性が浮き輪を持ってあたふた、いつまで待っても終わらない。５人の順番待ちの行列が出来ました。それでも慌てる訳でもなく、のんびり終わった後、何の一言もなく悪びれた様子もなく立ち去りました。

もうひとつは遊園地のメリーゴーランド。私はもちろん乗りませんが、まずなかなか始まらない。動き出したと思ったらすぐ停止、何かもめている様子。後で孫に聞いてみると、馬に横乗りしていた親子がいたのでスタッフが注意。動き出したらまた横乗りし、停止。ぐずぐず言っていたとのこと。

両方ともいい年をした大人。小学校２年生の孫に「大人なのに常識がない」と言われる始末。公共の場、たくさんの人が集まる場所にはルールがあります。子どもに手本を見せる立場の親、子育て大丈夫なのでしょうか。年代によって恥ずかしい行為が違うのでしょうか。「他人に迷惑をかけない」これはいつでもどこでも第一に考えることだと思います。

野球の試合も同じです。エラーをしても、三振しても、打たれても、負けても恥ずかしくない。こうなったらプレーヤーとして終わりです。試合に出るのなら、チームに迷惑をかけない努力はする必要があります。

スポーツ選手の能力は３つ、スピード（速さ）、パワー（強さ）、テクニック（技術）。全て持っていれば一流選手です。あなたは何を持っていますか？

投手で言えば、スピードが無い、コントロールが無い、変化球のキレも無い。マウンドに上がってはいけません。段原クラブのピッチャーは自分で決めてやっています。いつまでもガリガリの体で、強いボールも速いボールもコントロールも無いでは、おかしな話です。３つ全て無い選手がチームを背負うことは出来ません。自分で決めたポジションです。やって当たり前です。技術の前に体を変えられなければ、周りの選手は納得しません。マウンドに立ち背番号１を付け、

チームを背負うとは、誰が見ても納得する明らかな努力、そして変化が必要です。誰もが認めるエースがマウンドに立つことで野手は安心し、持てる力を発揮し、チームは強くなります。
　ピッチャー志望の選手達、エースになりチームを背負う覚悟がありますか？しっぽを巻いて逃げるのは早い方がいいですよ。トーナメントはやり直しがありません。

第２６６話/2017.07.31

　しまなみ大会本戦１，２回戦が７月２９日（土）因島でありました。２試合とも勝ち、ベスト４に残りましたが、あまり面白くない１日でした。
　生意気を承知で書かせて頂きます。クラブチームは何のためにあるのでしょう。ほとんどの中学校に野球部があります。わざわざクラブチームに入部し、会費を払ってまでやるのはなぜなのか。中学校の野球部では得ることのできない高い技術を身に付け、高校野球に繋げるためです。中体連と変わらないのならお金を払う意味はありません。会費を集める限り、正しい技術と正しい野球を伝える必要があります。
　投手がストライクを投げられないのは、フォームが間違っているからです。投手は正しい投げ方をすれば、必ず正しいボールがいきます。身体能力の差がありますから、全員が強く速いボールは投げられませんが、ストライクは投げられます。審判が明らかに試合進行のため、あり得ないほどストライクゾーンを広げても入らない。これは間違いなく技術の問題です。
　正しい野球、試合が終わった時に相手より１点多く得点していれば勝つのが野球です。そのために色々な作戦をとります。ランナーが３塁に行けば必ず内野は前進守備ではありません。４番バッターだから外野は必ず下がる訳でもありません。状況判断が必要になります。それは、◎イニング　◎点差　◎アウトカウント　◎ランナー　◎打順、基本的にこの５つの条件を頭に入れて、野球をしなければいけないということです。ほとんどのチームは点差に関係なく、ほぼ、ランナーは同じリード、同じリードオフ、同じスタートを切っています。数点負けていてもライナーで飛び出すこともあります。
　これは野球を教えていないからです。特に盗塁には意味のあるものと意味のないものがあります。意味のない場面で何度走ってもその子に何も身に付きません。点差がついた終盤に１点を取りにいっても意味はないのです。
　正しい技術と正しい野球（考え方）を伝えないクラブチームにも意味がありません。確かに試合に勝った方が、気分が良いのは良く分かります。しかし先にも書いたように、クラブチームは高校野球に繋げなければいけません。そのためには個の力を付ける必要があります。
　力が一番付くのはもちろん試合です。試合で１回でも多く振る、１球でも多く投げる、捕る、走る。勝つために子ども達のバットを振るチャンスを大人が奪っている場面を時々見ます。特に下級生の時に勝ち負けを考えて試合をするのが、私には全く理解できません。出来ないことを知るために下級生の試合はあります。
　ピッチャーは投げれば良いというものではありません。数より身体作りとフォーム作りが大事です。しかしバッターは振ったもん勝ちです。下級生の時から試合でも、練習でも、家でもとにかくバンバン振る。飯を食い、しっかり寝て身体を作る。Ａ戦に出るようになったら、技術と頭を研いでいけば試合で打てるようになります。
　最近、軟式クラブチームで部員不足のチームが多いと聞きます。段原クラブが多い訳ではないので偉そうに言うのは何ですが、中体連では身に付けられない技術と考え方がなければ、クラブ

チームの存在価値はありません。明らかな違いを見せなければ、軟式野球をするのに中体連で充分と思われてしまいます。
　段原クラブは明らかに違います。勝ち負けではありません。本物の野球を子ども達に伝える責任がクラブチームにはあります。
　今は指導者が勉強しようと思えば、機会はいくらでもあります。自分が学生時代にやっていた野球は時代遅れです。広島のどこかの高校のように、打席でしゃがんだり、バッターがチラチラキャッチャーの構えを見たりするゲスい野球はダメです。高校野球のマークⒻ フェアプレー。なぜ審判が注意しないのか理解出来ませんでしたが…（監督がベテランだから？）。
　もう今、野球はそんなことをして勝つ時代ではないのです。『個の力』指導者の皆さん、広島の高校野球が全国のレベルから置いて行かれています。中学野球にも責任の一端があるように思います。
　広島でバットをブンブン振る高校、出てきませんかね！！

第２６５話/2017.07.24

　私は今、眠れない日が続いています。今月はリーグ戦、日刊大会、しまなみ大会予選など沢山の試合がありました。何とか勝ってはいますが、段原クラブのバッティングが出来ていません。練習はしています。色々な引き出しを使い、指導しても変わってきません。
　指導者になって約３０年になりますが、初めての経験です。練習不足の選手が打てないのは当たり前なので何とも思いませんが、努力相応の結果が出ないのは、理由を突き止めなければいけません。子ども達ひとりひとりと会話をし、私の考え方（理論）がどう伝わっているのか確かめる必要があります。ある選手はひとつの事を伝えると、その前の事を全て消してしまうようです。分かって当然は子ども次第、全部言わなければ伝わらない選手がほとんどのようです。私にとって当たり前の事でも、選手達には聞いたことがない、こんな感じです。小学校から野球（ソフトボール）をやってきたのに、野球を何も知らない。年々難しくなっていきます。
　バッティングも守備も走塁も、野球はボールが止まっている間に考え、予測し、準備するスポーツだということを知りません。ボールが来てから本能で反応してプレーする、これは天才がやる野球です。バッターはやることをある程度決めて打席に入りますし、守備は次のプレーを２パターン程は用意します。走塁も同じです。状況判断、いつもフルスイングすればいいわけではありません。いつも言い続けている「野球は足と頭でやる」スポーツだということを、もう一度選手全員がしっかりと認識してほしいと思います。
　県知事杯でＢチームも次のステージに残りました。２年生の中心選手を除いたメンバーがほぼ力を出したとコーチから連絡がありました。これが大事なことです。練習で身に付けた力を試合で出せたのか、出せなかったのか。力を出し切った負けは何も悪くありません。試合に勝っても持っている力を出し切らなければ、その勝ちは大した意味を持ちません。今回の県知事杯のファーストステージは、Ａチームは×、Ｂチームは〇ということです。
　私がかけるプレッシャーに負けて、持っている力を出せない選手がいるのだとしたら、高校野球をやるべきではありません。最後の夏のプレッシャー、甲子園をかけた戦い。そんな選手には無理です。私は全軟以外の試合はあえてプレッシャーをかけます。その程度で負けるようでは、勝負の世界ではやっていけません。

私は厳しい、口が悪い、色々なことを言われます。全て承知の上でやっています。時々切れるのも計算しています。そんな事に負けることなくぶつかってきて欲しい。失敗はします。子どもは未熟です。勝負はもちろん技術の勝負です。しかし、ここ一番、力以上のものを引き出してくれるものがあるとすれば、「自分を信じる心の強さ」だと思います。ピンチやチャンスに動じない、浮き沈みのない心、集中力。段原クラブの選手には、そんな自信満々の姿で試合のグランドに立って欲しいと願っています。

３年生には、これから２ヶ月、私は諦めることなく、より厳しく接していきます。私の持っている技術をひとつでも多く伝えていきます。本気で向かって来て下さい。もっともっとうまくなれます。

第２６４話/2017.07.18

７月１５日（土）日刊大会準決勝・決勝、７月１６日（日）１年生大会、７月１７日（祝）しまなみ大会西部予選と、３日間で６試合ありました。連日暑く、子ども達も大変だったと思いますが、私は心身ともに疲れました。

何といっても３日目のしまなみ予選、２試合でまともなヒットは２本。今まで、段原クラブはどこに行っても「良くバット振りますね」「良いスイングしていますね」「飛ばしますね」など、打つことはある程度自身を持っていました。どのチームより沢山振って、高校野球に繋げられるように指導してきました。

今年のチームも１年生の入部以来、今までと同じように練習してきました。しかし、軟式野球連盟に登録して１２年、今年のチームは打てません。ピッチャーに三流、二流、一流と３種類あるとしましょう。打てるのは三流だけ。ストライクが入る変化球があり、アウトコースあたりにそれ程速くなくてもストレートが投げられる程度のピッチャー以上は全く打てません。変化球でストライクが取れない、ストレートは投げそこなって真ん中にくる三流のピッチャー、打てるのはそういう投手だけです。

試合の中でチームの役に立たないバッティングが３つあります。①三振　②内野フライ　③サードゴロです。ランナーが出ることも、進めることも、返すことも出来ないからです。当然、点は入りません。何度言い続けても、どれだけ指導しても、これを繰り返す今年の選手達。なぜなのか？例年と同じように練習はやっています。

理由として考えられるのは２つ。そもそも野球をする能力が無いのか、頭が悪いのか。私は後者だと思います。良い投手はピンチになればアウトコースに投げてきます。これは世界中のピッチャー共通です。と言うことは、アウトコースのボールをセンター方向に打てなければ、チャンスで打てるバッターにはなれません。これは段原クラブに入部した選手全員に何十回、何百回と言い続けています。なのに、やろうともしない。相変わらず、バッティング練習はホームラン競争のように、どこまで飛んだかしか興味の無い練習をしています。当然、試合になれば二流から上のピッチャーからは打てません。今年、広島には残念ながら一流の投手はいないので普通にやれば点を取れないはずはありません。たやすく３割以上打てるはずです。

バッターの仕事は３つあります。①塁に出ること　②ランナーを進めること　③ランナーを返すこと。どれも出来ないのなら試合に出る資格はありません。今年の選手は、この中でどれが出来るのでしょうか。ランナーがいなければ塁に出るために、ランナーがいれば進めるか返すために全力を尽くしているのでしょうか。私にはその思いは伝わってきません。そもそも速くもないス

トレートが前に飛ばない、空振りする。「いいかげん」「雑」これしか考えられません。ボールに必死で食らいつく姿勢を見たこともありません。チャンスで打つことが野球選手の大きな喜びのひとつです。チャンスでビビる、楽しめない。野球をやめるべきだと思います。チームに迷惑をかけるだけです。そもそも、そんなので野球している理由が分かりません。

私の好きな言葉に「胸にプライド 背中に責任」があります。ある年のＴシャツにプリントした言葉ですが、段原クラブの選手であるプライドを持ってユニフォームを着る、背中の番号は責任です。レギュラーはレギュラーの責任を背負います。出来なければ外せばいいのです。私も選手達と同じように３０番の責任を背負っています。子ども達を成長させられず、チームが勝つことが出来なければ外さなければならないと思っています。

選手の皆さん、お願いがあります。試合に出たい気持ちは分かります。しかし、あなた達は今、その練習で、その精神力で、その技術力で本当に試合に出て大丈夫ですか？責任果たせますか？チームの足は引っ張りませんか？自信はありますか？ここ一番のピンチ、チャンスで自分の力を出せますか？ビビってませんか？無理なら言って下さい。ビビっている選手と同じユニフォームを着てグランドに立ちたくありません。今年のＴシャツの文字読んで下さい。「感情むき出しでくらいつく」です。

二流のバッターでもチームに貢献する方法はあるはずです。

第２６３話/2017.07.10

ある日、突然、私宛に封書が送られてきました。差出人を書いていない封筒を開けると、中にはあるチームの保護者有志からの手紙が入っていました。内容は、そのチームの子ども達の心と身体が壊れていくので助けて欲しいというものでした。内部告発、連盟の役員の方に聞いてみると良くあることらしいです。

私は段原クラブの代表で他のチームのことを口出しできる立場ではありませんので、個人的な考え方を書きます。まず、チームは誰のものなのか。チーム結成後に関わった全ての人の大事なものですし、これから先もずっと続いていく全て人のものだと思っています。保護者の方々はどうしても自分の子がいる間の数年のことしか考えません。中学生でいえば、３年生だけのものではありませんし、現役選手・保護者だけのものでもありません。これだけのアクションを起こすのは最後の手段、その前にやるべきことがあると思います。

まず、保護者全員の意思の確保、話し合いです。今回のように有志（数人）でチームの大事な問題に対して事を起こしてはいけません。保護者全員の話し合いによって出た結論を持って、チームスタッフと大人の話し合いをするべきです。子どもに関わっている大人は全員、第一に子ども達のために何をすることがベストなのかを考えているはずです。その大人と大人が話しをして問題が解決しない訳は無いと思います。チームは一部分の人間のためにあるのではないということを頭に入れていれば、きちっと段取りを踏めたはずです。そして相手の名を明かすのなら、自らの名も堂々と明かし、意見を言うべきです。自らは影に隠れ、人を処分しろと言うのは説得力がありません。正しいと信じている行動ならば、隠れる必要はないのではないでしょうか。

私は常に自らの名前を明かし、毎週、自分の考え方を書いています。私も人の親です。息子は小学校から中学・高校・大学・社会人・独立リーグと色々なチーム・指導者のもとで野球をやりました。保護者の立場も十分に理解しています。同じように不平・不満を感じたことがあります。しかし、親子で最後に出した結論は、自らの努力、実力次第だということでした。

チーム選びは自己責任。勝つことを望めば、そこには当然、厳しさ、苦しさが付いてきます。楽をしているチームは、試合で勝利の喜びを得るのは難しくなります。どちらを望んだのでしょうか。

色々書いてきましたが、私は段原クラブの監督なので、他のチームのことは分かりません。ただ私が常々心がけていることは、中学野球は通過点なので子どもの心と身体を壊すことなく次のステージに送り出す。私のことは嫌いになっても構いません。野球を好きで身体が壊れていなければ、うまくなれる可能性が残ります。続けていれば、自分に合った指導者に出会えるかもしれません。頑張っている選手は必ず出会えます。今悩んでいる子ども、保護者の皆さん、次のステージに進んで下さい。見てくれいる人がいます。野球が好きな子ども達、続けて下さい。人生は出会いです。

しつこいようですが、もう一度言います。大きなものを手に入れようと思えば、色々なものを犠牲にしなければなりません。野球なら勝つために時間をかけます。集中します。厳しくなります。もちろん苦しいです。心も身体も痛めつけます。言い方は悪いですが、壊します。そして今までより大きく再生し、成長していきます。スポーツ選手はその繰り返しで頂点を目指し、もがくものだと思います。最後はほとんどの選手が自ら諦め、その道を断念します。

私はプロ１０年目の２８歳で球団から契約を切られ、野球をすることが出来なくなりました。膝の手術をし、ドクターからプレーは難しいということも言われましたし、技術的にも二流の私は続けることは無理でしたが、今でも野球がやりたいです。出来るのなら５８歳ですが、トレーニングし直してプレーしたいと思います。

選手の皆さん、一年でも一日でも長くプレーして下さい。野球は本当に難しく挑戦しがいのあるスポーツです。いくらやっても頂上は見えてこないので一生やりがいがあります。５０年やってきた私も毎日悩み、考え、苦しんでいます。しかし、その時間が自分にとって大切な時間です。

やめてはいけません。必ずあなたのことを必要とするチーム指導者がいます。出会えます。**野球をやめてはいけません。**

高校野球広島予選が始まりました。３年生のみんな有難う。勝敗は関係ありません。３年間頑張った君達は勝者です。またグランドで会おう。ご苦労様でした。

第２６２話/2017.07.03

全日本少年軟式野球大会（全軟）が終わり、夏が近づきこれから１番段原クラブの選手が伸びる後半が始まるのに、選手の気持ちが乗ってきていません。こういう時にはガツンと刺激が必要です。１２年間続けてきた平日自主練習を停止し、子ども達と保護者の反応を見ました。

それがビックリ、１週間反応なし。自主練習は、子ども達にとってどうしても必要なものではないと私は判断しました。全員が様子伺いです。「誰が動くのだろう」「自分が動かなくても誰かが何とかする」自分ひとりの力で扉を開く気は無いのです。

今までの野球人生も、誰かが投げてくれて、誰かが捕ってくれて、誰かが打ってくれて、やっと勝てる。極端に言えば「自分ひとりの力で勝ってやる」なんてことは考えたこともないのでしょう。全て人任せ。そんな人生を、今までもこれからも歩んでいくのでしょう。

６月２５日（日）の練習後、コーチが今のままでいいのかという発言後、団体行動。ひとりで私の前に来て、自分の意思を言えたのは出口だけでした。これが今年の段原クラブの選手の個の力です。先頭には立たない、常に誰かの後ろに隠れ、風も雨もやっかいなものは他人に防いでも

らう。チームメイト、仲間、いつまでも仲良しごっこをするのでしょうか。本当に何も分かっていません。野球選手は全ての野球選手が敵です。同級生、下級生に負けた瞬間、野球人生が終わります。チーム内で負ければ対戦相手と戦うこともできません。当然、上のレベルに上がれるわけはありません。誰かが手を抜いていたり、気を抜いていればラッキー。自分のチャンスなのです。

私は、野球は個人スポーツだと思っています。各自がその場その場でやらなければならない当たり前のことが出来れば試合は勝ちます。それをしない、出来ない選手がいれば負けます。仲良しこよしでお手手つないでやるスポーツではありません。

本当の優しさとは、本当のことを伝えることです。それが、子ども達にとって厳しくても、辛くても、苦しくても、やらなければいけないことは伝え、挑まなければいけません。なぜなら、子ども達が夢を語るからです。預かった責任として夢に一歩でも近づくために、甘やかすわけにはいかないのです。高校に行く前日までグランドに来る子に対して全力。今までもこれからも段原クラブは変わりません。たかが全軟が終わったくらいでのんびりしている暇はありません。

「野球の技術に頂点なし」

例年、ここから段原クラブは伸びます。選手全員がライバル意識むき出しで競争し、個人の力を伸ばす。それが高校野球に繋がります。

春、軟式野球連盟からひとつのチームをＡ，Ｂ２チームに分けて同一大会に出場してはいけないという通達がありました。私は納得がいきませんでした。当然です。子ども達の体のことを考えて作られた１チーム、１日２試合というルールを誤った使い方をしているからです。体を守るためにひとりの選手が２試合しか出なければ良い訳で、２チームに分けて問題あるわけありません。全てのチーム関係者がおかしいと思ったはずです。しかし、段原クラブの選手達と同じ。誰も動かない。私は明らかに理にかなっていないルールに従う必要を感じていないので、事あるごとに色々な軟連の関係者に意見を言い続けました。しかし、全員「理事長が言ったことだから」と逃げるばかり。最後の手段は全日本軟式野球連盟に聞くしかないと言ったところ、やっと広島で話し合いがもたれ、大人が話せば当然、当たり前の理にかなった結論、２チーム出ることがＯＫになりました。しかし、こんな当たり前のことが何でこんな面倒くさいことになるのか。いんちきするチームがあるからです。片方のチームが負けた後、残っているチームの試合に選手を出す。「バカです」子どもの指導から身を引いて下さい。そんな大人は子どもの野球に関わってはいけません。軟式野球連盟から永久追放にするべきです。

結局、なぜ面倒くさいルールを作らなければいけないのか。面倒くさい大人がいるからです。チームを変わったら１年間出場できない。私はこれも意味が分かりません。なぜ？選手の引き抜きで変わったらダメなのか。だいたい体験会なんてどのチームも本当のところは見せません。「入部したらこんなはずじゃなかった」ということもあるでしょう。人数が多くて試合に出られそうにない。指導者と理屈じゃなくて肌が合わない。人間なんであることです。子ども達の１度しかない小・中学校の野球。１年はとても大きいものです。自由にさせるべきです。出ていきたいと言っている選手が無理に残っても、お互い良いことにはなりません。

私は“来るもの拒まず去る者追わず”価値観はひとそれぞれです。トップの考え方に合わせられなければ、合ったチームでやるべきだと思います。

入部してきた子ども達を、卒業の日まで諦めず、ひたすら野球の技術を伸ばす。そして高校に送り出す。私にはそれしかできませんので。これからもやるだけです。

第２６１話/2017.06.26

６月２５日（日）３年生の保護者の気遣いで、私の誕生日を祝って頂きました。２週間程前から薄々感じていましたが、当日も気が付いていないふりをするのが大変でした。とても有り難いことで、参加して頂いた保護者の皆さん有難うございました。

全日本少年軟式野球大会（全軟）県大会が終わり、３年生にとってこれからが中学野球の集大成の時期に入ります。私はいつも言っていますが、勝つことだけを目的にしている全軟が嫌いです。毎年同じですが、負けると少しホッとします。勝つことに特化することにより、本当に頑張っている選手や試したい選手を試合に出しにくくなります。負けることは大嫌いですが、同じユニフォームを着て戦いたい選手（保護者も含め）と、練習から一緒に苦労し、ドロや汗まみれになり、試合に挑む。これからは私の自由に試合が出来ます。本物の段原クラブはこれから始まります。

日曜日の練習後、コーチが子ども達や保護者にこんな話をしました。段原クラブがなぜ素材に恵まれているチームと対等に試合できるチームになれるのか、他のチームより優っている所はどんな所なのか。

①指導者が野球の技術指導のプロである（私は日本野球機構ＮＰＢ公認指導者資格、日本プロ野球ＯＢクラブ野球技術指導員、学生野球指導資格を持っています）。

②室内バッティング場がある（同時に３人が打て、空いている時間いつでも打てます）。

③平日自主練習で、基礎を徹底的に身に付ける。

この３点が、段原クラブの選手を３年間で小学生の時とは立ち位置の違う選手に変えてきました。

今年になって、この②と③が揺らいでいます。何が今までと違うのか。”家族の覚悟”だと私は思っています。

高校野球の関係者には怒られるかもしれませんが、高校野球には２通りのチームがあります。勉強の合間に野球をする学校と、野球の合間に勉強をする学校です。では、あなたはどちらを選びますか？ということです。もっと言えば、進学・就職を野球でしますか？勉強でしますか？その覚悟です。どちらが良いと言っている訳ではありません。はっきりしない、中途半端な気持ちの学校・選手が個人でやる②と③は、当然中途半端なことになり、進歩しません。「大好きな野球を１日でも長く続けたい。」その為に、今（中学生）はとても重要な時期です。私は、段原クラブを選んでもらい、他人の子どもを預かった責任があります。「保護者が入部の時に描いた卒団時の子ども以上の選手にする。」今までの本気の家族は、全員そんな選手になって卒団していきました。

段原クラブで育たない選手はいません。育ててもらえなかったと思っているＯＢの子ども、保護者もいると思いますが、練習しなかったからです。練習しない選手が上達する方法があったら教えてください。大金持ちになれますよ。

「継続は力なり」３年生になり、試合に出るようになって頑張るのでは遅いです。野球の技術は、もちろん努力を続けることで少しずつ力が付いていきます。しかし、バッティングはある日突然開花します。その日が来るのはいつなのか分かりませんが、練習し続けている選手にしか訪れません。私は理屈ではなく「コツ」のようなものを体で身に付ける日が来るようなものだと考えています。そんな経験を繰り返し、上のレベルに上がっていくものだと思っています。その日が来ることを信じ、努力を続けて欲しいです。バッティングは難しいからこそ挑戦しがいのあるものです。

第２６０話/2017.06.19

日本人はひとりで練習するのが苦手です。勉強も塾に行って教室である程度の人数でやりますし、もちろん学校でもそうです。野球も小学校から始めますが、指導者や親に指示されて練習します。自分で考え、自分の為に自分でやる練習や勉強を、特にモチベーションや素材が平均以下の選手や保護者の場合、個人でやることは出来ません。野球の練習は、人数があると程度いないと出来ないメニューがあります。みんなでやるのはそれだけで良いはずです。素振り、ティーバッティング、ランニング、ストレッチ、トレーニングなど、1 人もしくは２人で出来るメニューをわざわざグランドでやる必要はありません。

ではなぜどのチームもこれをグランドでやるのか？指導者が選手を信用していないからです。「ある程度強制しないとこの子達はやらない」「見てなければ手を抜く」「個人練習はしない」と思っているからです。自分自身の野球人生を振り返ってみてもその通りです。私は中学生の時、毎日のランニングは父親との約束でやりましたが、指導者の目を盗んで手を抜いていました。結局、他の人から見ればたぐいまれな素材を持ちながら、中途半端な選手で終わったひとつの理由です。決められたチームの練習時間以外に何をどれだけやるのか。自分で考え、自分で行動、悩んで困ったら私を使う。自分を向上させるために大いに利用するべきだと思います。野球人生を長くする。少しでも良い結果を得る。同じ苦しい練習をするのなら試合は勝った方が良いし、ヒットは打てた方が良いし、ピッチャーなら打たれない方が良いです。その為に、やらないよりやった方が良い正しい練習があります。その中にはひとりで出来るものが数多くあります。段原クラブはずっとそうやって個の力を伸ばしてきました。

その中のひとつが平日の自主練習です。今年のチームになってから、それが意味の無いものになっています。自主練習なので何時に来ても、何をやっても構いません。確かにそうです。しかし、わざわざ集まって他人の手を煩わせて何も身に付かないのなら、それは必要のないものです。

私は十数年この自主練習を見てきましたが、今が最低です。まず集まりがチームの結成以来一番遅い、アップも一番とろい、練習が始まりません。先輩達は火・金曜日は前日からしっかり準備し、学校の先生とも練習があることを話したり、保護者も協力し少しでも早く来る工夫をしていました。なぜなのか？練習したいから、うまくなりたいからです。確かに全員がそうだったとは言いません。

全日本少年軟式野球大会県大会で負けて１週間。負けたことが彼らの野球人生でプラスになれば、何かが変わってくれればと思って見てきましたが、選手はもう忘れたようです。何ひとつ変わった様子は見えません。やはり私とは育ちが違うようです。私は野球人生で負けた数は本当に少なく、特にアマチュアの時にはほぼ勝ってきたので、負けることは本当に嫌いです。負けると悔しくて悔しくて、腹が立って仕方ありません。

打たれることに慣れたピッチャー、エラーに慣れた野手、ヒットを打たないのが普通なバッター、盗塁を刺したこともない捕手、負け慣れたチーム、それを見ることに慣れた保護者。いらいらしたり、ピリピリしたり、バタバタしたりしない。どんな結果でもノホホンとのんびりムード。その程度でも段原クラブなのである程度は勝つことが出来ます。しかし先はありません。高校野球で良い思いをするのは難しいと思います。身の丈に応じたレベルの学校に行き、のんびり負け慣れた仲間と野球をすることになるのでしょう。

私は小・中学校生の時、同じチームに必ず自分が負けている選手がいました。最高学年になるまでに何とか追い越して「チームで１番になりたい」これをモチベーションに練習、試合をして

いました。遠くの大きな目標、小さな近くの目標、どちらもはっきりとしたものを持ち、口に出し、自分にプレッシャーをかける。そうして力を付けました。前にも書いたことがありますが、これから２年間は、段原クラブは苦しみます。

選手、保護者のみなさんは現実がよく見えていないようです。段原クラブは野球のクラブチームなので野球の技術を伸ばさなければ、存在価値がありません。負けるのは技術のない選手がいるからです。その選手が努力をしないのは、技術のある選手にとって迷惑です。

なぜ試合にまけるのか、みなさん良く考えて下さい。無責任な人は「全員のせいで負けた」などとくだらないことを言います。違います、必ず誰かのミスで負けます。ミスをする選手がいなければ負けることは無いのです。そのためにどうするのか。練習するしかありません。力の無い選手が練習しない、それでも試合に出せと言う。無責任です。本来、試合は上位９人しか出られないものです。それ以外の選手が出るのは温情です。勝負の世界の現実をしっかり見据え、やるのかやらないのか、はっきりした方が段原クラブの全ての関係者のためです。

「あいつがミスをしたのなら納得」チーム全員がそう思う選手。そんな子を野球をしたら楽しいだろうと思います。

第２５９話/2017.06.12

全日本少年軟式野球大会（全軟）県大会１回戦、松永ヤンキースに敗れました。全ては監督である私の責任です。最終回の裏の攻撃、同点に追い付き、まだ無死満塁、バッターは３番、私は勝ちを確信しました。変わった相手投手はストライクが入らず、押し出しでサヨナラになると思いました。油断！！タイムを取り、バッターのプレッシャーを取り除けるような一言をなぜ言わなかったのか、言えなかったのか。この２日間、そのことばかり考えています。

段原クラブ６回目の県大会も又、私の力不足で負けてしまいました。子ども達の努力を結果に繋げることが出来ず、申し訳ないと思っています。勝てるチャンスがあった試合を落としたのはとても残念ですが、見方を変えれば段原クラブは確実に成長しています。選手達はプレッシャーの中、半分の力も出せませんでした。チャンスは作れましたがタイムリーは出ず。クリーンアップはノーヒット。守備はエラー６個、相手はノーエラー。それでも最終回、本当にあと一歩、いや半歩の所まで追い詰めることが出来ました。彼らの力はあんなものではありません。県内どのチームとも十分戦える力を付けてきたことは事実です。

これからは出来た事を自身に、出来なかった事を素直に反省し、もう一歩高いレベルのチームになるため、練習しかありません。段原クラブが常々言っている、中学野球は通過点でしかありません。私がいつも言っている『たかが全軟』が終わったぐらいで下を向いている暇はありません。

そういう点で、負けた試合の後の過ごし方に不満があります。試合に出ていない下級生は勿論ですが、レギュラーの選手も『負けた瞬間から次の戦いは始まっている』ことが分かっていません。試合後、私は室内バッティング場（フルスイング塾）で１時間以上選手を待っていましたが、自主的に打ちに来た選手はひとりもいませんでした。余裕なのか諦めたのか、どちらですか？

私（段原クラブ）が目指しているチームは、私がベンチに座っているだけで何もしなくても広島県一になるチームです。そのために徹底して野球というスポーツを覚え、技術を高めます。夢のような話ですが、監督のサインや指示がなくても自分達で考え、野球の出来る選手。私が高校３年生の時の愛工大名電はそんなチームでした。サインが無くても愛知県一になりました。

段原クラブの選手はまだまだ頭の中が幼稚で、時間がかかります。それでも中学で出来なくても常に考え、努力し続ける。野球が頭と足でやるスポーツだという事をしっかり理解し、練習して欲しいと思います。選手の皆さん、広島のトップを走り続けている広島スターズ、松永ヤンキース、府中オーシャンズ、この３チームが基準です。あなた達はこの３チームでレギュラーになれますか？相手投手を打てますか？相手バッターを抑えられますか？出来なければ段原クラブで試合に出る資格はありません。段原クラブはそういうチームです。

グランドに選手がひとりでも来る限り、私の目指す野球（チーム）を諦めることはありません。厳しいと思うなら早く身を引くべきです。高校で野球を続け、良い結果が欲しいなら、今やるしかありません。十分な時間はありません。時間を大切にして欲しいと思います。高校に行った時に段原クラブでの時間がどれほど大きなものだったのか気が付いても遅いですよ。

第２５８話/2017.06.05

今年の段原クラブは２つの顔を持っています。ひとつは、エースがマウンドに上がりチーム全員が集中した時の強い段原クラブ。そうかと思えば、頼りない投手がマウンドに上がった時のチーム全体が自信無さそうにフワフワした弱い段原クラブ。

確かに野球の試合の勝敗は投手が握っています。それにしてもチームがこんなに変わってしまうものなのでしょうか。エースでない時には守備に必ずミスが出ます。チャンスで中心バッターが力を出せません。当然勝てる訳はありません。私には全く違うチームに映ります。

本来、チームは不安のある投手がマウンドに上がった場合、みんなの力で助けなければいけません。点を取り楽にさせる。守備で投手を助ける。勿論、捕手・内野手の言葉も必要です。

６月３日（土）、６月４日（日）の五日市少年野球シニアクラブ結成１５周年記念大会も同じ結果になりました。２日目の準決勝はエースが先発し、チーム全体が集中し良い試合が出来ましたが、決勝で２年生バッテリーを試してみると、勿論バッテリーの力不足がありましたが、ライトゴロが出来ない、チャンスで中心バッターがストレートを打てない、先制点を取られるとずるずると抵抗する気もないような失礼な試合になりました。

確かに初回の５失点は大きいですが、段原クラブのバッティングなら返せない点ではないと思いました。問題は子ども達にその気が無かったということです。招待試合なので勝つ事にこだわる必要はありません。それは試合前、子ども達に話しました。しかし、県大会を前にして内容には少し不満が残ります。

人間の体は頭（脳）からの指令で動きます。思い（気持ち）が無ければ動かないということです。アマチュアではトーナメントで戦います。やり直しはありません。

広島スターズという広島トップのチームと対戦出来る貴重な機会を少し残念な時間にしてしまいました。責任は勿論２年生バッテリーの力を計り間違えた監督の私にあります。相手の監督さんには、試合後お詫びしましたが、相手の選手の皆さんにも申し訳ない事をしたと思っています。本当にすみませんでした。トップのチームと対戦する場合は、相応しい選手以外が試合に出ることは本当に失礼なことだと痛感しました。二度とこういう試合をしないように反省し、しっかり練習したいと思っています。

２日間、招待試合の運営をして頂いた五日市シニアの関係者の皆様、本当に有難うございました。良い結果と悪い結果の両方を経験出来た子ども達にとって自分を律するために貴重な大会に

なりました。
　６月１０日（土）県大会のグランドにチーム全員が笑顔で集合して下さい。勝てるのか負けるのか、試合の結果は分かりませんが、ひとりひとりが持っている力を一試合で全て出せるように私は全力を尽くしたいと思っています。
　いつも言っていることですが『見ている人達の心を動かせる試合』をしてくれることを願います。

第２５７話/2017.05.29

　広島六大学野球春季リーグの全日程が終了しました。段原クラブのＯＢが２人、ベストナインに選ばれているのが中国新聞に載っていました。私が常に言い続けている「中学野球で勝つためではなく、１日でも長く野球が出来るように技術を身に付ける」。今、大学で野球を続けているＯＢは１０数名ですが、高校３年生の中には続ける思いのある選手が沢山います。良い結果が出ていない選手もいると思いますが、諦めることなく自分の技術を信じて下さい。私はいつまでもあなた達を応援しています。困ったら顔を見せて下さい、役に立てることがあると思います。
　私はプロ野球の現役時代、心が弱く、自分の持てる力を全て出し切れずに終わった選手でした。読売ジャイアンツで一緒にやっていた岡崎、駒田、川相、村田、技術的に負けているとは思いませんでしたが、精神力が段違いでした。チームの中心（レギュラー）として結果を残していく選手は下を向きません。マイナス思考の考え方をしません。プライドと自信を持ってプレーします。私は自分の失敗（弱点）を理解し、勝負の世界で戦っていくために必要なものを子ども達に伝えています。もちろん、第一に技術です。しかし、それを常に発揮し続けるための体力と精神力が無ければ、せっかく身に付けた技術はゼロになってしまいます。厳しい言い方をします。澤村、池田、今のままでは練習しても無駄です。心が弱すぎます。はっきり言えば「変わるのか、やめるのか」ということです。「性格だからしょうがない」世の中にしょうがない事はありません。技術は簡単に身に付きません。しかし、自分の考え方は、必要だと思えばその瞬間に変えられます。今のままでは、チームの戦力になることは無理ですし、これから野球を続けても良いことは無いでしょう。君達の野球人生です。やるのか、やらないのか、君達の問題です。私の仕事は、心のある選手の力を伸ばし、高校に送り出すことです。
　５月２８日（日）とてもよい天気の中、良いグランド（三次市営球場）で２試合（甲奴中学校、三和クラブ）、練習試合をしました。不満だらけの内容でしたが、その不満のレベルが少し上がってきました。今までミスが出れば確実に負けていたチームが、少し余裕が出た（チームとしてひとつ上がった）ように見えました。少しずつ力は付いていますが、県大会で勝つためにはノーミスが必要です。選手ひとりひとりが個の力をアップ。残り２週間、言わなくてもやるはずです。相手の力が分からないので何とも言えませんが、試合になるところまでしっかりやっていこうと思います。
　５月２７日（土）に１カ所バッティングで５５人投げた張りが月曜日に出てきました。今回は足、腰、肩、肘、パンパンです。

第２５６話/2017.05.22

５月２１日（日）初めて孫の運動会を見ました。たまたまグランドが１５時半からしか使えなかったため、運良く見ることが出来ました。

ここの所、順位を付けたり、勝負に徹する事が悪いことのような風潮がある中、孫の小学校は１年生から６年生まできちっと足の速さを競う競技があり、順位を付け、団体戦では同点なら決定戦をやり、両チームバンザイのようなつまらない終わり方をせず、勝ち負けははっきりさせていました。個人としてもチームとしても勝つために全員が心をひとつにして全力で取り組んでいるのが良く伝わり、とても心地よい運動会でした。

現実は甘くなく、小学生といえど本当は競争社会であることを意識しているような、もちろん楽しい運動会ですが、その中に勝負の厳しさが見えました。勝ち負けをはっきりさせる、現実をしっかり見せる、そのことにより自分自身の現在の力（立場）を知る。これがなければ努力のしようがありません。

野球のチームで言えば、今、自分はチームで何番目？何が足りない？何をしなければいけない？各自それぞれ違います。ひとりひとりが個人事業主です。個の力を付ける、伸ばす。中学生はこれに集中するべきだと思います。個の力が集まって、力を発揮出来れば試合は勝つものです。

若い指導者が２人、段原クラブの仲間に加わりました。ひとりは伸太朗コーチと同い年の瀬戸内高校ＯＢの新庄君。息子と同い年なので彼のことは中学生の時から対戦相手として見ていました。体は小さいが、力のある素晴らしい左バッターでした。ファイターでもありました。強い気持ちを含めて、子ども達に伝えて欲しいと思います。もうひとりはフルスイング塾の卒業生で島根県益田東高校ＯＢの中島君。現役の大学生で子ども達の兄のような年齢です。真面目に野球に取り組む好青年。努力の大切さを良く分かっている人間です。二人とも段原クラブの大きな戦力になってくれると思います。

指導者の理論を統一して、よりきめ細かく、ひとりひとりを指導していくことが出来ると思います。短い練習時間で最大の効果を上げるためにより良い環境になったと思います。

運良く県大会で試合をするチャンスをもらった今年のチームは、これを力に変えなければいけません。目標・目的がある練習が力を付けます。３週間、君達の野球人生で大きな時間になるかもしれません。どのように使うかは君達次第です。

フリーバッティングで１年生の打球が２年生に近付いてきました。どうする２年生！！奮起を期待します。

２５５話/2017.05.15

全日本少年軟式野球大会西部地区予選が終わりました。子ども達の頑張りと運で、何とか２位になり、県大会に出場出来ることになりました。

３月の抽選の日から約２カ月、ずっと広島スターズに勝つ為に何をしなければいけないか、どんな練習が必要なのか、どんな試合展開になるのかなど、申し訳ありませんが、他のチームの事は何も考えず、準決勝で広島スターズに勝つ、これだけを考えてきました。

そして私の中で出た結論は、勝てるとしたら四死球０、ノーエラー、守り勝つという事でした。野球選手は打つのが大好き、守備・走塁は？これが普通です。私もそうでした。チームの方針もバッティング練習優先、攻撃のサイン無し、スクイズ・エンドランはしない、打ち勝つ、今年も本体の練習は変えていません。

先日自分の両手をじっくり見てみました。左手の前腕が右手より太くなっていました。変わっ

た事は個人ノックの数です。ピッチャーが打ちとった打球を確実にアウトにする、内野安打を無くす、スローイングミスをしない。基本練習を繰り返したことで、新チームになって初の四死球なし、ノーエラーの試合をここ一番でやってくれました。

小学校で外野しか守ったことの無い不器用なエース、広島サンズ戦で私に罵声を浴びせられた子が、調子があまり良くない中で怯むことなく、逃げることなく、堂々とマウンドに立ち、背番号１を付ける選手に相応しいピッチングをしてくれました。

今年のチームは３年生が７人、レギュラー５人、気持ちが表に出ない３年生ばかりで、思い通りにならない試合が続いていました。

そんな中でも３年生は親子共々諦めることなく私に付いて来てくれました。初めてゴールデンウィーク休みなしで、下級生には少し大変だったと思います。しかし準決勝を見た下級生は練習の大きさ、重要さを経験出来たはずです。

トーナメントは必ずしも強いチームが勝つとは限りません。今回は審判の判定だったり運も味方したりしました。子ども達は安心することなく、県大会にではなく、高校野球そして夢に向けて努力し続けて欲しいと思います。

今回の大会だけでなく、いつも応援して頂いているＯＢの方々、保護者、コーチ（スタッフ）、そして子ども達、私はとても良い思いをさせてもらいました。本当に有難うございました。感謝します。ひとつ謝ります。

準決勝で全てを使い果たした子ども達を決勝で使うつもりはありませんでした。県大会の組み合わせを見て、２位だと第４試合目になりやりにくいという大人の都合で一度決めたメンバーを変え、準決勝のメンバーを決勝に使ってしまいました。完全に私のミスです。精一杯頑張った子ども達に無理な事を強いてしまいました。すみませんでした。負けは私の責任です。二度と子ども達の足を引っ張ることのないように、『チームは子ども達の為』、信念を曲げることなくやっていこうと思います。

もう一度、段原クラブの関係者、全ての方々に感謝致します。応援有難うございました。

子ども達、県大会ベンチ入り全てリセット、全員でまた競争です。

第２５４話/2017.05.08

５月４日（祝）新入生歓迎会をしました。本年度の新入部員は１０人。私の理想は１２人なので少し足りませんが、保護者、選手のモチベーションが高く、約１，２カ月でみるみる進歩していく姿を見ていると、これからがとても楽しみです。

入部して１年以上経って、体があまり変わっていない２年生の選手の皆さん、今のままで大丈夫ですか。４ヶ月後には文部科学大臣杯があります。今、私は３つ４つ１年生に一桁の背番号を取られる可能性があるように思っています。その時になって慌てても遅いですよ*！！*

下級生が上級生以上のモチベーションで突き上げる、私は大好きです。１年生の皆さん、どんどん上級生を脅かして下さい。

私は「厳しい」と言われます。私は小学校入学前から約５０年、野球をやってきました。チームを手伝ってもらっている息子は、約３０年やっています。息子に聞いたことはありませんが、二人とも野球人生に悔いを残しています。そして二人とも取り返しのつかない大きなミスを試合でした事があります。レベルの低いチームでずっと野球を続けていくのなら、負けることは大した事ではなく、良くある事、日常です。小・中学生の野球程度なら、いくらでも大会（試合）が

あり、何度ミスをしてもやり直せます。
　しかし、上を目指せば目指すほど、レベルが上がれば上がるほど、一つのミスが命とりになります。プロ野球では職を失います。高校・大学・社会人では、そのチームに関わっているたくさんの人達に迷惑をかけ、同級生の進路にまで関係してきます。試合に負けるのは必ず誰かが足を引っ張るからです。そのひとりに子ども達をしたくありません。私と同じ思いをさせたくないのです。
　トーナメントは必ず負けます。例えば、全日本少年軟式野球大会は勝って終われるチームは全国で１チーム、高校野球も最後勝って卒業できるチームは４０００校以上の中で１チームしかありません。全て負けてそのステージの野球人生は終わります。大事なのはどう負けるかです。
　私はいつもその事を考えています。子ども達の中の誰かのせいで負ける試合はしない、ベストは監督のせいで負けることです。
　そのために、何を言われようが、たとえ子ども達、保護者、その他いろいろな人達に嫌われようが、子ども達には厳しく接していきます。その中に当然、正しい理論と正しい練習がなければ話になりません。厳しい戦い（上に行けば行くほど）の中に「もういっちょう」はありません。
　ゴールデンウィークはよく練習をしました。何故なのか、私の勝手な思いかもしれませんが、主力の子ども達がそれを望んでいると思ったからです。やらされる練習ではなく、自ら目標に向かって自らの意志でやる、伝わってくる１週間だったと思います。
　５月１３日（土）チーム全員が良い顔でグランドに立てれば、結果はそれほど重要ではなくなります。見ている人（応援をしてくれている人）達の心を動かせる野球をしたいものです。

第２５３話/2017.05.01

　全日本少年軟式野球大会西部地区予選が始まりました。段原クラブは何とか勝つことが出来、５月１３日（土）準決勝、予想通り広島スターズと対戦することが出来ます。前にも書いたことがありますが、広島県でこのところずっとトップを走っている広島スターズと府中オーシャンズ、私はこの二つのチームと対戦するのを楽しみにしています。
　子ども達がどの程度力を付けたか、何が足りないのか計ることが出来ます。負けても彼らにとって得るものがたくさんあります。自分より力のある選手と一緒に野球をするのが、上達するためには必要です。１日でも早くトップを見る、体験する、子ども達にはこの経験が生きます。レベルの低いチームで自分より力の無い選手と練習してもなかなか上達しません。自分の今を知るためにきちっと準備し、ぶつかって欲しいと思っています。楽しみです。
　４月３０日（日）の試合で、私は４番バッターを厳しく罵倒しました。試合に勝っても私の興味は個の力です。彼は本当によく練習をします。段原クラブで４番を打つのにふさわしい力を持っています。しかし、試合になると、練習で身に付けたスイングと違うスイングをします。段原クラブの中心打者とは、打てる、打てない、そんなことではありません。風格、打席でばたばたしている姿を見たくありません。堂々と「いらっしゃい」くらいの余裕を見せて欲しいのです。
　もう一つの理由はこの選手は勉強が苦手です。これからの人生、野球を進学、就職の武器にする必要があります。選手の人生を考え、当然、要求は厳しいものになります。同じことをしても、私の選手に対する対応は、様々な理由でそれぞれ違ってきます。チーム内での立場だったり、夢や目標だったり、保護者の野球に対する考え方が違ったりするので、それが当然だと思います。チームとして勝つことが大事なことだと思いますが、高校で勝負するのは個の力です。各自が各

ポジションで広島一を目指す、それが自然とチームの勝ちにつながれば良いのです。
　話は戻りますが、準決勝で広島スターズと対戦できるのはとても有り難いことです。ましてそれまでに１０日間の時間もあります。ひとりひとりが同じポジションの選手に勝つ、そのために何をするべきなのか、本当に有り難い時間を貰いました。どう使うかは子ども達次第です。１，２年生でレギュラーではない選手達も基準を見るチャンスです。１年後に自分がどこに立っているのか、考えて下さい。今からしっかりとしたイメージを描いて練習する必要があります。ちゃんと努力すれば、段原クラブでは確実に力が付きます。君達は恵まれた環境で野球が出来ていることを理解するべきです。
　有意義な１０日間にしましょう。

第２５２話/2017.04.24

　全日本少年軟式野球大会西部地区予選前の最後の練習試合を４月２３日（日）に行いました。チャンスは作るが１本出ない、守備のミスで点を取られる、毎度お馴染みの試合でした。送球ミスをした選手は、試合後同じ状況で送球練習をしましたが、１００球以上投げてミスはゼロ。今年のチームは、守備もバッティングもバッテリーも、昨年のチームと比べてそれほど力がないわけではありません。練習はしっかりしています。
　では、なぜその力を試合で出すことが出来ないのか。自分の持っている技術を自分自身が信じていないからだと思います。昨秋に比べて確実に力を付けているのに、気が付いていません。そのため、試合に自信を持って臨むことが出来ないのだと思います。自身がないのでせっかく身に付けている能力を堂々と発揮できません。
　正しい技術と考え方を正しい練習で身に付けているのが段原クラブです。それを試合で出せるか出せないのか、子ども達の考え方次第です。もっと子どもらしく感情を表に出して欲しいと思います。極端に言えば、一喜一憂するぐらいで構いません。悔しい、嬉しい、悲しい、楽しい、色々な感情が子ども達にはあるはずです。もっと分かりやすく、子どもは子どもらしく野球をすれば良いと思います。
　今、高校野球春の県大会が行われています。ベスト４が決まりましたが、結果を見ると、どの試合もたくさんの点が入っています。春の甲子園もそうでしたが、投手のレベルが低いように思います。確かにバッティングの力は、私達の時代に比べれば格段に上がっています。それにしても点を取られすぎです。
　ピッチャーを見ると、ストレート、カーブ、スライダー、チェンジアップ、ツーシーム、フォークなど色々な球種を投げます。しかし、投手として１番大事なアウトローのストレートがここ一番で投げられません。大量点はヒットを打たれただけでは取られません。四死球、エラー、長打などが絡み、ビックイニングになります。バッターが遠くに飛ばせないボール、打つのが１番難しいボール、これはいつの時代もアウトローのストレート。投手としての１番大事な原点能力です。
　私が高校生の時には投球練習の９０％は、アウトコース低めにストレートを投げる練習をしました。身に付ける技術には順番があると思います。バッティングも守備も同じです。ひとつずつ確実に基本から身に付ける。
　上達（試合で結果を出す）の早道は原点能力を徹底的に高めることです。

第２５１話/2017.04.17

４月１５日（土）、１６日（日）の２日間、合宿をしました。保護者のお金と労力をかけた意味があったのか？答えはこれから出てくるでしょう。

大事なことは、お金と労力を彼らのために出してくれたことが当たり前ではなく、心から感謝しなければいけないことだと分かっていたか？その思いを胸に練習に打ち込めたか？これからの野球人生にプラスになる何かをつかめたか？そもそも一円も自分自身でお金を稼ぐことのない子ども達は、人のお金で野球をやるわけです。気を抜く、手を抜くはあり得ません。私の価値観で見ると、物足りない所だらけですが、今の段原クラブの選手達は「精一杯やりました」と言うのでしょう。

試合形式の練習では、アウトカウント・ボールカウントを間違える、状況判断をしない、配球を読まない、常に言い続けている段原クラブとしての決まり事をしないなど、相変わらずの集中力の無さ、脳の停止ぶりを見せてくれました。何度も同じことを言わなければいけない、それでも意識しない、やろうとしない。

なぜ？帰りのバスの中で考えました。私の中の結論は、信頼されていないということです。指導者（私）が子ども達に信頼・信用されていないのだと思います。この人の言うことは正しい、間違っていない。上達すると本当に思えば、簡単に忘れるはずはありません。必死で身に付けようとします。結局、私の指導者としての器ということです。その程度なのでしょう。私の技術・考え方は、子ども達にとってどうしても必要なものではないようです。

グランド整備について私の考え方を書きます。小学校３年生ぐらいだったと思いますが、遠足できれいな川の流れている山に行きました。弁当を食べた後ゴミが少し落ちていて、担任の先生にものすごく怒られました。「来た時よりも美しく」その通りです。今も常に頭にあります。

練習が終わりグランド整備のようなものをしていましたが、トンボでグランドに跡を付けるだけ。これは整備ではありません。私がこのグランドの管理人だったら、「二度と段原クラブには貸さない」そう思いました。グランドは平らに、水平に、足跡ひとつ無くす。「来た時よりも美しく」子ども達がやらないのなら、私がやるしかありません。責任者なので当然です。私がグランド整備をしたことを怒っているのではありません。

育ちの違いを思い知らされ、悲しく思っています。小学生の時に野球（ソフトボール）と出会います。その最初が肝心です。大人が準備して試合・練習をさせて、終われば大人が片付ける。少し重い荷物は大人が運ぶ。本当にこれで良いのでしょうか。グランドに並んで頭を下げることより、しっかりグランド整備をする。どちらが大事はことなのでしょう。自分のために自分で使った物をきれいにする、ごくごく当たり前のこと。ましてや他人の物なのですから。貸して頂いた物なのです。

ユニフォームが汚れることもなく、集中しているわけでもないのに「全力です」。グランドに感謝の心も無く、合宿の意味も理解しない。自分達が野球をするためにどれだけの大人が協力しているのかも考えない。

価値観の違う人間が同じ方向を向くのは難しいようです。

第２５０話/2017.04.10

４月９日（日）東広島のアクアスタジアムで練習をしました。全日本少年軟式野球大会（全軟）県大会の会場になる球場です。天気が心配でしたが、少し暑いぐらいで１日しっかり練習が出来ました。いつもと違う場所でいつもと違う気持ち（モチベーション）で子ども達が集中して練習してくれれば、使用料が少々かかりましたが、私は意味のある１日になったと思っています。

今年のチームは秋からメンバーを固定出来ず、チームの方向が中々見えてきませんが、少しずつでも変わっていくことが出来れば、３年生にとって必ず次のステージが見えてくるはずです。はっきりとした目標を各自が持ち、それに向かって家族共々努力し続ける、これしかありません。指導者はその思い以上のことは出来ません。

私は全軟という大会が中学生にとって特別なものだとは思っていません。あくまで一つの通過点だと思っています。彼らの野球はもっともっと先にあるはずです。

そうは言っても、子ども達はひとつでも多く勝ってひとつでも上に上がりたいと思っています。そのためにチームとして指導者として全力で力を尽くさなければいけません。

４月１５日（土）１６日（日）３年ぶりに合宿をします。２日間でどこまで変わるか分かりませんが、保護者に負担して頂くお金と労力以上のものが子ども達の力として身に付けられる合宿にしたいものです。その合宿が終われば全軟のメンバーが決まります。子ども達にとっても競争の２日間です。私に心がバシバシ伝わってくるような熱い練習になれば楽しいものになります。１，２，３年生３３人で２０人のベンチ入り、そして一桁のレギュラー番号を奪い合う合宿です。

身体はヘトヘトに疲れても心は満足感に満たされて、全員（選手、保護者、指導者）が良い顔でバスに乗れたら、チームは良い方向に向かっていけるように思います。

第２４９話/2017.04.03

段原クラブは今苦しんでいます。昨秋の新チームに変わってから、計算通りに進歩は中々しないにしてもほぼ変わってきません。

第一の理由は私の力不足です。野球といるスポーツの原理原則を事あるごとに伝えているつもりですが、ほとんど伝わっていないように見えます。グランドだけでなく座学も入れて、相手のあるスポーツだという事を分かって欲しいと思うのですが、試合に出るか出ないか、ヒットを打つか打たないか、まだまだ頭の中はこの程度のようです。

二つ目は『チームとして勝ちたい』『野球はチームスポーツである』のに選手の向いている方向が東西南北、上下までバラバラです。当然、保護者は確実に学年の壁があり、学年の中でも？毎年ある程度は子ども達には力の差があり、仕方ない部分はありますが、熱いものは伝わってきません。

新３年生が７人なので、当然下級生の力を必要とします。一桁の背番号を付ける選手がいます。秋からレギュラーとして出ていた新２年生が今、全く戦力になりません。それだけではなくあそこが痛い、あそこが痒いと…。

何度も書いてきましたが、一桁の背番号を付けた瞬間から責任も一緒に背負います。出来なければ外すべきです。試合に負ける時は必ず誰かがチームの足を引っ張ります。今、それをカバー出来る選手がいません。レギュラーが控えより苦労、努力するべきです。それは保護者も含めてです。

段原クラブのレギュラーとしての責任とプライド、それは当然、苦しさも伴うものです。スポ

一ツを通じて何かを得ようとすれば、良いとこ取りはありません。
　私が諦めることはありませんが、同じミスを繰り返している選手にこれから何度もチャンスを与えるつもりはありません。負けるのなら、打たれるのなら、捕れないのなら、投げられないのなら、打てないのなら、走れないのなら、そして気迫、心がないのなら、１年生が試合に出ても結果は同じです。上級生が試合に出る条件は、下級生より全てが上回っていなければいけません。私はこう思っています。
　段原クラブで２年やってその程度ですか。その程度のモチベーションですか。私は今、大きな変化を望んでいます。『チームのあり方』『メンバー、ポジション』今までは選手の希望をある程度聞いてきましたが、座して死を待つつもりはありません。
　昨年の３年生のように３月３１日、最後の練習まで諦めない。今年の私は今まで以上に嫌な奴になろうと思います。それがチームのためになると信じています。
　チームはひとつです。グランドに立った瞬間から練習も試合も、選手も保護者も行動、言動は全てチームのため。また厳しい事を書いていると言われそうですが、小学生からプロ野球までチームが勝つための考え方は同じだと思います。

第２４８話/2017.03.27

　３月１６日（夜）全日本少年軟式野球大会西部地区予選の監督会議及び抽選がありました。県大会に出場するためには決勝に進まなければいけないので対戦相手はどこでも構いませんが、第４試合や第３試合だと開始時間が難しいので早い方が良いと思っていました。第１試合は分かりやすくて有り難い抽選だったと思います。
　それにしても良いのでしょうか。監督が出席していない。何故なのでしょう。県大会の監督会議では絶対に許されないはずです。たかが西部地区予選ということなのでしょうか。軟式野球連盟は細かい所まで色々なルールがあり、犯すとペナルティーを課す事があります。私はこの会議のルールを良く知りませんが、監督会議と案内されているので監督である私が毎年出席していますが、誰でも良いのでしょうか？良く分からない団体です。
　その会議で１日２試合までという取り決めについての通達がありました。私の認識では、子ども達の体と健康を守るために１日２試合までというルールがあると思っていました。投手の投球回制限も含めて私は大賛成です。今までどこでもよくやっていた子ども達をＡ、Ｂ２チームに分けて２試合ずつするのがダメだそうです。何故？全く分からない。このルールそもそも何のために作られたのでしょう。そこが分からなくなりました。子ども達の体を守るためではないのでしょうか。チームを分けて２試合ずつ、一人の選手は最大２試合しか出場しない。１チームで２試合出場するのと何が、どこが違うのでしょうか。理解することが出来ません。多分、全てのチームの関係者が理解出来ないはずです。
　大会名が違い、グランドが違えば２チームに分けて２試合ＯＫ。ますます分かりません。何が違うの？同じグランドだとインチキするチームがあるということですか。そんな指導者は追放すればいいだけの話です。指導者は子ども達のためにいます。子ども達の体や健康にマイナスになるようなことをする指導者は必要ありません。当然ペナルティーを与えるべきです。しかし、一人の選手が１日２試合しかベンチ入りしていないのなら、問題があるとは思えません。軟式野球連盟は理にかなった納得のいく説明をする責任があると思います。
　私はまた嫌われることを承知で言わせて頂きます。連盟は加盟しているチームのためにあり、

少年のチームは子ども達のためにあります。少子化の今、どのチームも選手集めには苦労しています。高校野球も退部者を減らすため上下関係を無くしたり、１年生大会をしたり、Ｂチームの試合を組んだり努力しています。中学生のチームでもＢチームの試合は大きなモチベーションの一つになっています。例えば自チームが大会を開催すれば保護者の協力が必要になります。そのためにも自分の子どもが試合にでるチャンスがあるかないかは大きなものです。２チーム出場できれば倍の子ども達がチャンスを得ることができ、チームにも子ども達も保護者も良い事ばかりです。練習では得られないプレッシャー、状況、沢山の事を試合は教えてくれます。技術が未熟な下級生にも大きな経験になります。

スパイクの色を自由にしたり、使える背番号を増やしたりしても子ども達が軟式野球チームに入ってくるとは思えません。子ども達にチャンスを多く与える事が彼らのためになると思います。

ルールは必要です。しかし、そのルールは理にかなったものでなければいけません。

第２４７話/2017.03.21

とても疲れています。３月１８日（土）神辺東ベースボールクラブの大会に行き、最低の内容の試合を見せられ、３月１９日（日）は４月から高校３年生になるＯＢの保護者（通称　くずレンジャー）が夜、店に押し掛けてきて午前２時まで酒を飲み、３月２０日（祝）は３年生のお別れ試合とお別れ会で午前１時になり、３月２１日（火）朝から体がだるく、眠たく、力が湧いてきません。

お酒を飲む時は、価値観が同じだったり信頼関係があったりすると、とてもいい時間を過ごせます。そういう意味では日曜日はいい夜でした。『くずレンジャー５』と呼ばれている５人は、時々めちゃくちゃなことをしますが、卒団してからもずっと買い物してくれ、段原クラブの行事には必ず差し入れをしてくれます。面と向かっては言いませんが「いつもありがとうございます」です。段原クラブにいる時から指導者として信じてもらっていることが伝わってきていました。子ども達も入部してきた時は全く野球が出来ませんでしたが、３年間で本当に上達しました。今、高校で少し苦労しているようですが、正しい技術をあなた達は知っています。しっかり貫いていけば納得の結果がついてくるはずです。高校最後の夏に向けて、段原プライド！！ 私は信じています。

卒業していく３年生１２人、全員第一志望の高校に合格しました。クラブチームとして責任を果たせたと思っています。私は中学校のチーム選びは高校選びで、高校選びは大学選びだと思っています。そして中学校のクラブチームの仕事は、心と体を壊すことなく、彼らの希望する高校に入学出来るように成長させ、合格に導くことだと思います。しかし、第一希望の高校に入学したからといって、これから彼らの野球人生はうまくいく保証はありません。スタートラインに立っただけです。私の経験から言えば、高校野球の練習が楽しかったことは１日もありませんでした。段原クラブの練習とは違います。時間は長いし、内容は？自分でしっかり考え、正しい野球をして下さい。長く野球をするために大事な３年間です。

１，２年生の皆さん、惨めなお別れ試合でした。技術が無いのは分かっていましたが、心まで無いとは。３年生に失礼な試合でした。３年生の保護者は怒り、嘆いていました。そして今年の段原クラブを心配していました。思いきった改革が必要なようです。ベンチに入る子、試合に出る子、どうなるのでしょう。本格的に春になった時、メンバーがガラッと変わっているなんてことになるかもしれません。

私は休みの日にグランドに出て、嫌な思いはしたくありません。一緒に野球をやって楽しい選手、そんな子ども達を選びたいと思います。口だけで心の無い選手、自分のことだけ考えている選手、嫌いです。大人も一緒ですよね。野球はチームスポーツです。我が子だけをグランドで見ていては、チームは成り立ちません。

１，２年生の保護者の皆さん、もう少し視野が広がるといいですね。

第２４６話/2017.03.13

皆さん、日曜日のＷＢＣ オランダ戦を見ましたか。オランダのパワーとスピードに日本の技術と執念、そして集中力で戦いました。長い試合でしたが時間の経つのを忘れ、最後まで世界トップレベルの野球を楽しむことが出来ました。少しでも間違うと放り込まれるレベルの打者を相手に細心の注意を払いながら投げる投手、１５０㎞/h を超えるボールでも少しでも甘ければ簡単にヒットにしてしまうバッターに対して投げるのがどんなに大変なことか、画面からビシビシと伝わってきました。素人から見れば、1 イニング抑えられないのかと思った人もいると思いますが、世界の一流はとんでもないレベルです。

その一流選手達が、目の前の一試合に勝つために全力でプレーする。内野手は当たり前に飛びつく、ベンチにいる選手も一丸となって大きな声を出す。国を背負ってプライドを胸に自分のためではなくチームのためにやる野球。私達が今やっているアマチュアの野球にとても近いものがあるように思いました。世界のトップがここまで必死な姿勢を見せてくれています。選抜高校野球大会が近々始まりますが、技術のない高校生や中学生が手を抜いていいわけがありません。

私が目指している『見ている人の心を動かせるような野球』、まさにオランダと日本の選手達が見せてくれました。私は試合が終わった時、日本を応援していたので喜びましたが、オランダの選手にも感謝の気持ちが湧いてきました。心から両チームの選手に「本物の野球を見せてくれて有難うございました」と言いたいです。

皆さんにひとこと言っておきます。レギュラーシーズン１４３試合、全てこの集中力では出来ません。心と体が壊れます。短期決戦だから出来るのです。シーズン中にいつもこれを求めては選手がかわいそうです。

この試合で菊池選手のすごさを今まで以上に思い知りました。松井投手の股の間を抜けた打球を捕ってグラブトスでアウトにしたプレー、これは勿論スーパープレーです。感動しました。その後の彼の高ぶることのない態度、これもすごい。しかし、９回同点に追い付かれた、捕れなかった打球。菊池選手だからグローブに当てることが出来ただけで、本来なら普通のヒットです。しかし彼は「捕れた」と思っています。ピッチャーの則本選手に「すまん」という顔をしていました。これがすごい。プレーは勿論、考え方も心も本当に素晴らしい選手です。

中学生の皆さん、一流選手が本気で野球をやっています。この試合を見た人は何かを感じたはずです。今までのあなたで大丈夫ですか。１，２年生の皆さん、試合の後、室内でバッティング練習。頑張っているように見えます。２試合して、心・体ヘトヘトにならない余力がある。昨日の日本の選手に余力があるようには見えませんでした。あなた達はなぜ２時間、３時間、打てる力が残っているのでしょうか。昨年の秋、君達にコーチが言ったのはそういう事ではありませんか。まずグランドで全力を尽くす。『見ている人の心を動かす野球』３年生は夏に出来るようになりました。今年のチームはいつでしょう。

第２４５話/2017.03.06

３月４日（土)、５日（日）の２日間、理事長杯西部予選と山口ミラクルクラブの招待試合がありました。５日（日）には太田川リーグもあり３年生が出ました。Ａ・Ｂ両チーム、３年生、それぞれ全員が試合経験を出来、意味のある２日間だったと思います。

Ｂチームの１年生は完全にパワー不足、スピード不足。走力、球速、スイングスピード、パワー全てがＡチームで試合に出るレベルに足りません。Ａチームは今、ポジションが４つ空いています。誰でも（新１年生でも）力さえあれば取ることが出来ます。各自が何を思い、何をするか、君達次第です。

Ａチームは何とか２試合勝ち、県大会に出場出来ますが、物足らない事だらけの試合でした。一番はつまらない守備のミス、送球ミス（ショート、ライト)、バッテリーミス（パスボール、配球)、守備位置のミス（予測)、全てレギュラーなら出来なければいけない初歩的なミスです。これが試合で出るようでは、広島県上位のチームに勝つことは出来ません。

次は平均的なストレートに遅れる。誰が見ても速い、変化球が良くてストレートに絞れない投手なら少しは理解出来ますが、ストレートを狙って平均的なスピードのストレートを捉まえることが出来ない。投手の手からボールが離れ、ストライク・ボールの判断をし、スイングをする。それでポイントから差し込まれる。能力の問題？技術？今まで何度も何度も言い続けています。ストレートに間に合わないは打てないと言う事です。投手に力負けがバッターとして一番の屈辱です。間に合わない理由を各自が考え、修正する必要があります。

考えられる原因は、・スイングスピードがない ・タイミングが立ち遅れている ・感覚がずれている ・振り出しに力が入る ・振り出しでグリップが下がる ・バットが体に巻きついていない ・ヘッドから動き出している、などがあります。選手それぞれ能力、感覚が違います。あなたの原因は何なのか。相手投手の一番速いストレートに遅れない。ヒットを打つ、打たないの話しではなく、振り遅れないがはじめの一歩です。これからの野球人生、どのレベルに行ってもこの基本は同じです。まず考える、そして練習する。考えずバットを振っても意味はありません。

私は中学生の試合で良い結果を出すための方法を知っています。そしてどの程度の技術を身に付ければ良いのか。その選手がどのポジションで、チームに何人いれば広島県で勝てるのか知っています。今年のチームはまだまだ足りません。しかし諦めることはありません。昨年のチームも同じように春は平均的なチームでした。３年間の努力の積み重ねが、３年の春から夏までに目に見えて出てきます。本気で勝ちたいと思っている選手、保護者が何人いるか、そしてそれをやり続けられるのか。

『練習は嘘をつかない』とか『継続は力なり』は良く聞くありふれた言葉のようですが、私は野球を始めて５０年、身を持って体験し、数多くの小学生からプロ野球選手まで見てきましたが、野球の世界で良い思いをするためにはこれしかないと実感しています。ただ正しい練習という言葉が前に付きます。『正しい練習は嘘をつかない』『正しい練習の継続は力なり』ここが大事です。

太田川リーグに行った３年生、間違っている技術は、今のうちに修正して高校に行きましょう。そのために遠慮なく私を利用して下さい。

今年は対外試合をせず２月いっぱい繰り返してきました。２試合目としてはまあまあなのかもしれません。３月から４月１週まで試合中心になります。これから身に付けた技術の応用編に入ります。

野球の試合は『予測と準備』まさに応用です。

第２４４話/2017.02.27

２月２６日（日）今シーズン初めての対外試合をしました。今確かめたいのは、この冬ずっとやってきたバッターは正しく力強いスイングが投手相手に出来るか、投手はストライクゾーンに投げる確率が６０％以上あるか、守備は投手が打ち取った打球を確実にアウトに出来るか、走塁は１本のヒットで２つの塁を進めるか、そして、ひとつのボールに全員が集中し、予測と準備に基づいた１歩目、１スイング目の切れがあるかでした。

投手は相手が格下だということもありプレッシャーもなく、２．３の無駄な四球がありましたが、ほぼ力通りのボールが投げられました。守備もエラーをするような打球もありませんでしたし、ランナーを置いたピンチもあまりなく、守備者としてプレッシャーがかからない中なのであまり参考になりませんでしたが、スローイングは秋より安定してきたように思います。バッティングと走塁、これには不満だらけでした。まずバッティングです。３回り目となり中心選手がやっと練習通りのスイングが出来ましたが、１，２打席目と中心以外の選手にはガッカリしました。スピードの無いストレートが捉えられない、イロハのイができません。何度も書いていますが、バッティングはまずストレートに間に合わなければ始まりません。ストレートに遅れる打者は、打席に入る資格がありません。野球は、バッティングも守備も走塁も全て間に合うかどうかを競っています。『間に合わない』は負けるということです。中心の打者は逆に上半身の力に頼って、大きなスイングで引っかけた内野ゴロばかり。中心打者は考え方が、それ以外の打者は能力に問題があります。力の無い者は練習するしかありません。特に１年生「大丈夫ですか？」１年後、何人試合に出ているのでしょうね。

走塁は最低でした。初回に牽制アウト２個、一つ目はボールから目を切り、二つ目は２塁ランナー。私は２塁ランナーで牽制アウトになったことがありません。なぜアウトになるのか理解できません。当たり前のことを伝えているつもりですが、頭の能力にも個人差があり、分からない選手がいるようです。私には理解できないことですが、小学生のレベルまで下げて丁寧に指導する必要が今年のチームにはありそうです。そのレベルなので当然１本のヒットで２つの塁を進めるはずがありません。打つことだけに一生懸命では、選手としてのレベルアップ、そしてチーム力のアップは望めません。特に走塁は調子の良し悪しはなく、身に付ければ大きな武器になります。スピードのない選手ほどしっかり走塁技術を磨かなければ試合出場のチャンスを逃します。

秋からすっと何があっても土・日練習後打ち続けている選手がいます。今その２人は本人が思っている以上の力を付けています。言う事が無いとは言いませんが、３年生の中心選手と変わらない技術とスピードがあります。練習は嘘をつきません。１日、２日やっても変わりませんが、正しいことを数多く、そして継続する。力が付くに決まっています。『チームのトップが一番努力する』チームが強くなるための一番の方法だと考えます。その姿を見て後に続く選手が１日も早く出てくることを望みます。新１年生にも負けない選手がひとりいます。新２年生のお尻に火がつく日はそんなに遠くないと思います。気が付いた時、追い越されていた、ということにならないといいですね。

今年１年どこまで伸びていくのか。身体を守るために時々練習のセーブをすること、これが私の仕事になりそうです。努力を当たり前の顔をしてやっている選手と一緒にいる時間は、指導者としてとても“心地好い時間”です。“心地好い時間”のお礼として、私の技術、考え方、練習方法、多くの引き出しを開けますよ。

第２４３話/2017.02.19

１月と２月、沢山の子ども達が練習体験に来てくれました。ありがとうございます。いつ頃から体験というものが始まったのかよく覚えていませんが、チームや保護者が試されているようであまり心地よいものではありません。

まあ、体験してもらって段原クラブより野球が上達出来る練習をしているチームがあれば、クラブチームに入部するということは野球がうまくなるためが一番の目的なのですから、当然そのチームに入るべきだと思います。しかし、チームを決める基準が野球以外の事にある話をよく聞きます。私には良く分からない話です。野球チームを選ぶのに野球以外の基準？

例えば、平日練習があることがネックになる。なぜ？まず、段原クラブでは全ての練習・試合が自由参加です。当然です。色々な中学校、色々な地域から子ども達は集まってきます。例えば八本松や郷原の子は来ることが出来ません。学校から帰るのが遅くなればこれも同じです。もちろん、気持が入らない、これも参加する必要はありません。練習とは、やる気と時間のある子どもが集まってするものです。強制するものではありません。しかし、高校・大学・社会人・プロ野球を見れば分かるように、週２日の練習では足りないのは明らかです。それで十分なら、高校も土・日の２日間しか練習しないはずです。どのチームもどの指導者も平日練習した方が良いのは分かっています。出来るか出来ないか、やるかやらないかの問題です。段原クラブの指導者は、子ども達のためになると信じているので時間を削ってやっています。子ども達の野球が上達するためです。なぜなら野球のクラブチームだからです。

保護者の当番、何度も書いてきましたが、段原クラブは一切ありません。それでも練習・試合に沢山の保護者が集まります。当たり前です。段原クラブの練習は、選手全員、平等にチャンスが与えられます。１年生も３年生もです。そして理にかなった練習をすれば上達していきます。それを見る保護者は楽しいから見に集まります。当番など決める必要はありません。選手も保護者も指導者も、グランドに集まりたい人が集まって練習する、試合をする、いやな者は来る必要がないのが段原クラブです。

野球のクラブチームなので、３年生が高校に入学するまで責任を持って指導します。当然、高校受験があります。これもほとんどの選手が９月に卒団してからも練習に参加しながら第一志望の高校に進学しています。

今、３年生のバッティングを見ると、卒団式から硬式竹バットに切り替え約４ヶ月、十分に振れるようになりました。段原クラブの正しい練習と正しい技術、そして彼らの３年間の努力で身に付けた質の良い打球、平日の基本練習の土台の上に積み上げた守備、これを見るだけでも段原クラブの体験に来る価値はあると思います。

１年生の時ほとんど勝つことのない子ども達が３年の夏には立派に勝負できるようになるのが段原クラブです。ただこれだけは付け加えます。あくまで努力した選手だけです。過去には自分の努力不足を棚に上げてチームや指導者のせいにしている選手・保護者もいました。まあ、これはどこにでもいますよね。

今年の３年生はこれから１ヶ月まだうまくなります。なぜ？野球がうまくなりたいから、自分の意思でグランドに来て、良い顔で本当の練習をしています。とても楽しみです。

第２４２話/2017.02.13

普通＝珍しくないこと、辞典にはこうのっていました。子ども達がよく使う言葉です。調子は？テスト出来た？などと聞くと、ほとんどの場合、この答えが返ってきます。「普通です。」私はこの言葉が好きではありません。平凡＝ごくありふれているさま、これも同じような言葉です。これも好きではありません。

私は面と向かって言われたことはありませんが、又聞きで、変わっているとか、クセがあるとか、厳しいとか、恐いとか言われているそうです。当然です。普通（珍しくない）や平凡（ごくありふれている）な人間がプロ野球選手になれるわけがありません。他の人と違うから、変わっているから簡単に入れない世界の経験が出来たのです。「普通や平凡が安心」これでは勝負の世界で上には上がれません。人と違うことは悪いことではありません。みんなと同じ、それの何が楽しいのでしょうか。私には分かりません。人と違うことをする勇気がなければ、特別な結果を得ることは出来ないと思っています。

『優しさ』って何なのでしょう。野球チームの指導者の場合、何が『優しさ』なのでしょう。例えば「怒らない」、「苦しい練習をさせない」、「３年生になった全員出す」、「厳しい言葉を使わない」、こんな感じだと優しい監督と呼ばれるのだろうか。

子どものスポーツの意味を考えた時に、私は心と身体を鍛えることにあると思っています。当然、中にはトップレベル（プロ）まで上がっていける選手もいます。しかし、ほとんどの場合はそこまでいけません。男の子は家から独立し、女性を見つけ家庭を築く力が必要です。その力（体力と精神力）を付けるため、スポーツは有効だと考えます。鍛える（厳しく訓練して能力を高める）ために。

本当の『優しさ』は「言わなければいけない事を言う」、「やらなければいけない練習はやらせる」、「競争の社会であることを教える」、そして確実に技術を向上させ、多くの失敗と多くの成功を経験させ、その理由を理解させる。そして身体を壊すことなく、次のステージに上げる。

最初に書いた『優しさ』は「甘さ」だと私は思います。子どもを甘やかした親は必ずそのつけを払うことになります。私は子ども達に対する本当の『優しさ』とは彼らにとって厳しいものだと思っています。

そして男の子は母親をしっかり守る責任があります。今現実に、男性は女性より寿命が短いため、母親がひとりになる可能性が高いからです。母親を最後までしっかりと守りぬく、そのためにも社会を戦いぬいていくための体力と精神力を鍛えるのです。私は子ども達を甘やかすことはありません。それが『優しさ』だと信じているからです。ちなみに私は色々な事情で母と１３歳違いなので、母より長く生きることが出来るか心配です。

今週は私の心が少し疲れているようです。野球チームの監督はグランドでやる気のある子ども達と思いきり野球がしたいものです。野球を教えることに集中できたら有り難いです。

第２４１話/2017.02.06

１月からずっと日曜日の天候がすぐれない。雪だったり、雨だったり、寒かったり。予定している練習が消化できず少しイライラしています。しかし、野球というスポーツは屋外で技術を競うものなので、雨や寒さには弱いものです。段原クラブだけではなく広島のどのチームも同じような条件なので文句ばかり言っていても始まりません。与えられた環境の中で最高の練習をして

いくしかないと思っています。
　幸い私が『広島フルスイング塾』というバッティング教室を持っているので、雪や雨の日はバッティングと筋力トレーニングはできます。チームを３組に分け、１組３時間、計９時間を超える練習時間になります。その後、自主練習で打つ選手もいるので１日１１～１２時間、私は室内練習場にいることになります。昨日の２月５日（日）も、３年生の硬式から１、２年生（小６も含む）と３組、そして自主練習、約１２時間バッティングを見ました。長くなっても頑張っている子どもを見るのは楽しいものです。
　３年生は硬式を打ち始めて４ヶ月が過ぎ、バットの重さや硬球の恐さにも慣れ、思いきってバットが振れるようになってきました。残り２カ月、これからまだまだ伸びます。少し集中力を欠いた練習をする選手がいますが、集中できない時は休む、気持ちの切り替えをはっきり、しっかりしてグランドに来て下さい。
　１年生と２年生、１年生のスイングは本当に物足りません。まず振っている数が足らないため、スピードがありません。技術もあまりに未熟で、甘いボールを数多くミスショットします。やっているなと思われる２，３人が頭２つ程出ていますが、他の選手は今のままで大丈夫ですか。新１年生であなた達の数倍振っている選手がいますよ。それでなくても１６人います、レギュラーは９人、どう計算しても余ります。これから６ヶ月、何日練習できるか数えてみてください。のんびりしている時間はないと思うのですが。
　２年生は確実に力を付けてきています。『継続は力なり』です。１年生とははっきりとした差がこの冬で付きました。しかしこれは振る力の話です。そのまま試合の結果として出るとは限りません。野球というスポーツの難しい所、特にバッティングの難しさは此処にあります。当然バットを振る力（スピード）はあった方が良いに決まっています。
　しかし試合で良い結果を出すためにはこれだけでは駄目です。なぜか？相手がいるからです。ピッチャーの投げてくるボールに対応する能力が必要です。技術です。タイミングの取り方、ピッチャーの投げてくるボールは１球１球、全てが違います。タイミングもコースも、そして試合の状況も、色々なタイミング、コース、状況に対応する頭と体の柔らかさが求められます。ピッチャーがきっちり投げたボールは、バッターはなかなか打てません。バッターはピッチャーが投げそこなったボールをいかに確率良くヒットにするかが勝負です。１球を逃さない集中力、技術が必要です。
　チームで１番スイングに力が無い選手でもきっちり打てば、ショート、セカンドの上を越します。要はこれを数多く打てば良いのです。自分は小さいから、細いから、力が弱いからと言い訳をしている選手の皆さん、違いますよ。あなた達は技術が無いからヒットが打てないのです。きちっと打てばヒットゾーンに飛ぶ打球を１球でも打てる力があればヒットは打てます。その確率を上げるために何をすれば良いのか、『数多く練習する』、誰でも分かる当たり前の事です。
　また週末は寒い予報が出でいます。今、プロ野球はキャンプの真最中、温かい気候と大きな室内練習場が羨ましく思います。

第２４０話/2017.01.30

　いつもこれを書くのは月曜日の午後なのですが、今は１月２９日（日）２３時１５分です。少し酔っています。なぜ今書いているのか。久しぶりに息子と酒を飲みました。チームの保護者や大勢の中で一緒に飲むことは年に何回かありますが、今日は少人数でした。本当に久しぶりに親

子の時間を感じることが出来ました。ある時期からお互いの考えがすれ違い、もどかしいというか、淋しいというか、何か引っかかるというか、言葉にするのが難しいような溝を感じていました。誘ってもらった保護者のおかげで親として良い時間を与えて頂きました。ありがとうございました。このページの主旨とは違い、独りよがりかもしれませんが、その流れというか、今の気持ちを書くのは難しいのですが、とにかくこの良い感じを書いておきたくてペンを執っています。

今週書こうと思っていたことに移ります。私は常々、他チームが練習前・後に選手全員がグランドに頭を下げていることや、監督、コーチに対して帽子をとり、直立し「ハイ」「ハイ」と大きな声で返事をしている姿を見るたびに違和感を感じていました。意味を全く理解することが出来ませんでした。もちろん段原クラブではしません。なぜしないのか。当然、練習試合で相手のグランドに行けば全員で頭を下げます。それはグランドに対してではなく、グランドを作って頂き、試合の相手をしてくれる相手チームに対してです。グランドを作ってくれた人達、審判、大会なら世話をして頂く役員、頭を下げ感謝の意を伝えるのは当然です。しかし、グランドは人ではありません。物です。物に頭を下げるのなら、グローブ、バット、スパイク、ボール、学校、家、全ての物にする必要があります。それらは誰のおかげで使えているのか、親のおかげです。子ども達が一番感謝しなければならないのは両親です。物ではありません。そして一番必要ないのは、監督、コーチに対する絶対服従のような直立不動、帽子をとって指導を受ける姿勢です。

多くの指導者に嫌われることを承知で書きます。「あなたは何様ですか？」指導者は絶対ですか、全て正しいのですか。私は、指導者と選手は人として対等であるべきだと思っています。特に野球の技術に関して絶対はありません。指導者は絶対!!選手は「ハイ」しか言わない関係は、子ども達の考える能力を奪います。全てが正しいのなら全員良い結果が出るはずです。結果が良ければ指導者の力、悪ければ選手の努力、能力が足らない、本当にそうでしょうか。選手の野球人生は本人が責任を持つものです。彼らのものです。そういう考えのもと、段原クラブはサインがありません。ポジションは自分で決めます。もちろんアドバイス、指導はします。しかし決めるのはあくまで本人です。

なぜこんな事を書いているのか。段原クラブはグランドに挨拶をしない、指導者の話を聞く時に帽子をとらない、礼儀やしつけが出来ていないのでは、そんな話を耳にしたからです。段原クラブの子ども達は、全員が野球を愛し、人に対し感謝する心もしっかり持っています。意味も分からず強制的に頭を下げさせられていないだけです。彼らが頭を下げるのは、下げるべき人、下げるべき時に心のある挨拶をしています。高校に行ってそういう部分で失礼なことをする選手はいません。子ども達が本当に感謝しなければいけないのは両親なのです。親に感謝出来ない子どもに強制的に頭を下げさせても意味の無いものだと、私は考えます。

他のチームの指導者のことは良く分かりませんが、私は子ども達に比べて少し野球が詳しいだけの大人なので、帽子をとって私の話を聞く必要はありません。『選手が自分の意見を言える関係』これが私の子ども達と接する時の考え方です。指導者が子ども達に教えているだけではなく、彼らから教えられることもたくさんあり、お互いに成長していくものだと考えています。段原クラブは３年生の最後が一番うまい。私も今が一番でありたいと思っています。

お酒が少し入っている中で書いたため長くなったようです。ちなみに、勝ち負けは野球の技術で決まりますし、ケガはオーバーワークと不注意です。グランドに神様はいません。

第２３９話/2017.01.23。

段原クラブに入部すると勉強がおろそかになるのではと体験に来た６年生の保護者が言っていたと耳にしました。本当にびっくりです。子どもの大事な進路を決めるにあたって何も調べないのですか。指導者は本当に野球の技術を教えられるのか？・部員数は　・練習グランドは　・チームの成績は　・卒団生の進路は。体験に来るのも良いですが、きちっと調べないで選ぶと、高校進学の時に後悔します。

段原クラブは野球がうまくて強ければ良いというチームではありません。現在、国公立大学に進んでいるＯＢが５人います（筑波大学２年生、愛媛大学２年生、大分大学１年生、兵庫県立大学２年生、島根大学１年生）。全員、中学３年間、高校３年間きちっと野球を続けました。そして今、高校生の中にも数人、国公立大学を目指し野球と勉強を両立させているＯＢがいます。過去には修道中学、城北中学の生徒もいました。そのあたりの事をしっかり調べることなくチームを選んで大丈夫ですか。学業の成績はチームの問題ではなく本人の問題です。少なくとも段原クラブは第一志望の高校に９０％以上進学していますし、大学進学率も高いです。

野球は先進国のスポーツで、予測と準備のスポーツです。頭を使うスポーツなのです。人間の体は神経、骨、筋肉の順で成長するそうです。そのためスポーツは出来るだけ早く始めるのが良いと言います。他のスポーツを見ると卓球、水泳、テニス、フィギュアスケート、ゴルフなどトップ選手は皆本当に小さい頃からやっています。

私も幼稚園の頃から実家の工場の草野球チームについていき、ずっと野球で遊んでもらっていました。私の息子も小学校に入る前から私と野球をやっていました。皆さんはいつ始めましたか。遅い選手は取り返すために人の何倍もやる必要があると思います。正しい事を数多くやる、うまくなるためにはこれしかありません。大事なのは正しい事（練習）です。

力（パワー）があった方が良いに決まっていますが、野球は技術の勝負です。正しい技術を正しい練習で身に付ける。『正しい技術』皆さん本当に分かっていますか？スポーツの技術・考え方は日々進歩しています。指導者が選手として経験した野球は時代遅れです。今の野球を教える必要があります。『今（現代）の野球』指導者は勉強が必要です。

第２３８話/2017.01.16

１月 １５日（日）大雪で体験会は出来ませんでした。ここまで降るとはびっくりしました。室内でバッティングだけは出来ましたが、今やっておきたい基本練習が出来ず残念です。バッティングには足の力が大切なので、ランニングは勿論ですが、守備練習で下半身の力とスピードをつけるために土の上で練習することが重要だと思います。自然に逆らっても勝てないので仕方ありませんが、寒い中での効率の良い練習は中々難しいです。これからの週末は何とか気温が１０度以上になって欲しいと願います。

夕方、高校２年生のＯＢが店を訪ねて来て、スパイクとシューズを注文してくれました。卒業した後もずっと気にかけてくれるＯＢの選手、保護者には本当に感謝します。有難うございます。彼は今、故障から中々思い通りの結果が出ず、もがいているようです。「大学でも自分の力の限り野球を続けたい」と思いを話してくれました。そのために今そして卒業まで何をどんな思いでやらなければいけないのか、私なりの考えを伝えました。

人それぞれ色々な形の野球があります。諦めず、上を目指し努力し続けること、そのためにも正しい理論で正しい練習をするべきです。持って生まれた身体能力が違えば、選手としてのタイプが違ってきます。練習も違うはずです。そんな話をし、帰る時には少し暗かった顔が明るくな

ったように感じました。中学生の時から努力を当たり前のようにやる選手でした。高校野球は思い通りにならない事が沢山あります。その中で、自分が正しいと思ったことを貫く事も素直に人の意見に耳を傾ける事もどちらも必要です。これからも私の引き出しが必要な時にはいつでも聞きに来て下さい。どんな時でも、どんな事でも、いつでも、いつまでも私は段原クラブＯＢと現役、全員の味方です。

『１日でも長く野球を続けて欲しい』今までもこれからも私はこの思いで子ども達と野球をやっていきます。そのために必要な原点能力。勝つためのテクニックではひとりになった時、勝負出来ません。長く続けるために、チームの勝利より個の能力を伸ばすことが大事だと思っています。試合で勝つ必要がないと言っているのではありません。負けるより勝った方が楽しいに決まっています。試合は全員で勝つために集中するのは当たり前です。ただ勝つための小細工（例えば、インコースのボールをよけずに当たる、ベンチから大きな声で相手投手に圧力をかける、ランナーサードで叩きつけて１点取る）は必要ないと言っているだけです。こういう事は上のレベルで野球をするために必要ではないと思っているだけです。

勝つなら打って勝つ、ピッチャーが抑えて勝つ、守備がしっかり守って勝つ。相手のミスで勝つ野球は面白くありません。

口で言うほど簡単ではありませんが、思い続けて練習しているうち、３年生になると選手はたくましくなります。今年も新３年生がたくましくなるために厳しく接していきたいと思います。

第２３７話/2017.01.10

１月２日、恒例のＯＢ戦を行いました。６０人余りのＯＢとその保護者、現役の選手とその保護者、クラブ関係者、約２００人が集まりました。天候に恵まれ、６チームで３試合しました。現在野球をやっているＯＢ、仕事や大学で野球から離れたＯＢ、それぞれの野球を見せてくれました。しかし、今年、私は心から楽しむことは出来ませんでした。

２０００年から始まったＯＢ戦も１６回を数えます。そもそもなぜ始めたのか、私には二つの思いがありました。一つ目は、ＯＢの子ども達と保護者の方々に会って、野球をし、酒を飲み、昔話をし、当時を思い出しお互いに感謝し、元気な姿を見て喜ぶこと。二つ目は、高校、大学、社会人の現役選手の足、肩、スイング、野球に取り組む姿勢の中学生とは違う圧倒的な力を見せてもらうこと。

数年前までは両方とも満足のいくものでしたが、ここ２年は二つともありません。特に高校生、大学生の技術、パワーの無さ、挙句に声も出さない試合を見ていると、ガッカリします。はっきり言って親のお金を使って野球をやっているのは無駄だと思います。今の取り組む姿勢、持っている技術では、とても良い結果を得ることは無理です。今年は特にひどい試合でした。高校、大学で本気でまともな練習をしているとはとても思えません。全員甘いと思います。プレーの内容が中学３年生の中心選手と変わらないようでは寂しい限りです。

今ずっと考えています。この内容とレベルなら、わざわざ１月２日の忙しい時に現役の保護者の手を煩わせてまでやる必要は無いのではないかと。

なぜ、高校、大学に行って上達しないのでしょう。練習時間は長い、体はできる。なぜ？心の問題ですか。本気でやらないのなら、親のお金を使うのはやめましょう。アルバイトをして親を助けた方が良いと思います。

このところ、関東の大学（レベルの高い所）で勝負できるＯＢが出てこないのは、私が甘くな

ったからか、そもそも素材のある子が入ってこないのか、選手、親の考え方が甘いのか。色々原因があると思いますが、ＯＢの野球のレベルが落ちていることだけは間違いありません。
　せっかく段原クラブで正しい野球をやっていたのに忘れてしまうのはなぜなのでしょう。高校生、大学生が中学生の見本、手本にならないのはおかしな話ですね！私にはただただ淋しい話です。

第２３６話/2017.01.01

　『監督のつぶやき？ぼやき！』を読んで下さっている段原クラブの関係者、選手、段原ファン及び鈴木ファンの皆様、そしてアンチ段原、鈴木の皆様、新年明けましておめでとうございます。
　このページも６年、２３６話目です。色々な所、人に言いたい事を書いてきましたが、全ては子ども達の野球にマイナスになることは無くしたい。出来るだけ良い環境で「頑張っている子ども達が正しい野球を身に付けて長く野球を続けて欲しい」。そのために連盟も協会もチームもあるべきだし、指導者もいるべきだと思うからです。私はこれからも子ども達のために言わなければならないことは言い続けていきます。
　新春第一弾は中体連（中学体育連盟）について驚くべきことを耳にしたのでその事を書きます。年末にラジオを聞いていると、女子が体育の時に履いていたブルマについて書かれている本の話の中で、中体連のことが出ました。中体連ができた理由、「スポーツの世界でスターを作らない」、びっくりしました。学校体育の中で素材、素質に恵まれた一部の選手を目立たせ、開花させるのではなく、学校の運動部全体をまとめるために中学体育連盟ができたと言うのです。
　今まで色々疑問に思っていたことが納得できた気がしました。なぜ一度もそのスポーツを経験したことのない教師が指導しているのか、その競技の名前がついた部なのにその技術指導が無いのか、高校、大学と先を見据えた大きなプレーをしないのか。一部の選手だけを大きく育てる指導をしてはいけないからです。
　『平等』って何でしょう。私は全員に上達するための時間と場所がチーム内に同じだけある事だと思っています。そのため、段原クラブではレギュラーとそうでない選手のチームでの練習は同じです。同じ数を打ちますし、同じ数を捕ります。１，２，３年生同じになるように気を使っています。ただ、基本練習が必要な選手は別メニューでやることはあります。その方がその選手が上達するからです。同じ部費を払っている限り同じだけ練習をする、当たり前のことだと思います。その中で競争に勝った選手が試合に出ます。勝負の世界、これも当たり前のことです。
　何度も書いてきましたが、今年、来年と段原クラブは苦しみます。これまでの歴史の中で、試合に勝つということだけをとれば難しい試合が多くなると思います。しかし、これも考え方ひとつです。今までにない経験を指導者としてできると思えば楽しみもあります。
　新チームになりなかなか思い通りに伝わらない子ども達に、色々な引き出しを使い、様々な練習方法でどこまで変わることができるのか。段原クラブのチームとしての力が試される年と言えるかもしれません。
　そのために指導者がまず現実を認め、考え方を統一し、ひとつにならなければいけません。会話を重ね、ひとりひとりの選手をレベルアップし、チームを上げる。保護者、選手、指導者、覚悟を決めてのぞむ２年間の始まりです。

第２３５話/2016.12.27

今シーズンの試合が終わって、新チームの課題がはっきり見えてきました。
『集中力』守備、走塁の１歩目のスタート。打席に入っていない時、守備でボールが飛んでこない時など、ほぼ睡眠状態だった頭の中を、試合中常に緊張し集中した状態にしておくこと。１試合終われば頭がぐったり疲れるように使う。今まであまりになめた試合を小学生から続けてきた子ども達、野球というスポーツは１球のミスも許されない競技だと知らずにやっていた選手には難しいことかもしれません。
野球はミスをするスポーツですが、ミスが少ないチームが勝ちます。センチメートルではなくミリメートルの勝負なのです。雑な子には向いていません。ミスを少なくする方法は、状況判断のもとの予測と準備。そして、そのための集中力です。１球で打ちとる、甘いボールを打ち損じない、走塁と守備のスタートも集中力です。
出来るまで言い続ける、練習し続けるしかありません。今までの段原クラブでは、練習は半日で十分という考え方でやってきましたが、今年の１，２年生はそれでは間に合いません。保護者にグランドがとれる時は、出来るだけ１日とってもらうようにお願いしました。
身体能力に恵まれていない子ども達は、体の大きな強い力を持つ選手に勝つためには、頭を使い１歩早くスタートを切るしかありません。当然、体作りは野球をやっている間、やり続けなければいけません。チームの武器は何なのか。そして、ひとりひとり各自の武器は何なのか。一芸を身に付ける練習も必要だと思います。
先日、理事長杯予選が３月の第一土、日曜日だと聞きました。約３ヶ月、レギュラー番号を背中に付ける責任を背負える選手が何人出てくるでしょうか？全ての結果はあなた達次第です。
上達するための方法は伝えてあります。素直にやった子ども達は成長し、高校できちんと野球を続けています。段原クラブの歴史が証明しています。
結果の良し悪しは色々あります。選手の評価は、入部して３年間の成長度です。自分が持って生まれた能力をどこまで伸ばすことが出来るのか、可能性は全員平等にあります。諦めない、もがき続けて下さい。私もとなりで一緒にもがきます。それが私の仕事だと思っています。

第２３４話/2016.12.19

段原クラブは中学生の軟式野球のクラブチームです。学校のクラブ活動との考え方の違いや私の指導者としての考え方を、今回は書きたいと思います。
学校のクラブ活動は、教育の一環としてスポーツなどに取り組むことにより、身体と精神力を鍛えたり、仲間との協調性を持ったり、勝利を目指す努力の大切さを学ぶなど、学校教育の中での野球です。
クラブチームはもちろん心と身体を鍛え成長することは当たり前ですが、次のステージ（高校野球）を目指すための場だと考えています。高校野球で、まずチームメイトとの勝負に勝ち、試合に
出るために、個人の能力を付ける、伸ばす。これがクラブチームの使命だと考えています。
そのため、私は試合に勝つためのテクニックにはあまり興味がありません。野球の基本はバッター対ピッチャーの１対１の勝負の繰り返しだと考えています。それに勝てる選手になる、たくさん勝てばチームは自ずと勝つという事だと思っています。例えば、ランナーがチョロチョロし

てバッテリーを揺さぶる、ベンチやコーチャーが大きな声でピッチャーにプレッシャーをかけるなど、私から言わせれば力の無い者の姑息な手段を、子ども達にさせて欲しくありません。言い方を変えればバッターとピッチャーの対決を邪魔して欲しくないのです。

技術を伸ばす。その中には、バッティングだけでなくバントも盗塁（走塁）も守備もスローイングも状況判断も入ります。チーム力で勝つのではなく、個人の能力の集合体で試合をする。なぜなら高校に行けば、ひとりでチーム内で戦わなければならないからです。試合に勝つためのチンケな戦法やテクニックは、上のレベルで野球をするためには必要ありません。

何度も書いている原点能力が大事です。そして野球というスポーツの本質、理論に基づいた技術、これを子ども達に伝えるのがクラブチームの姿と考えています。『精神論より技術論』精神力が必要なのは、もちろん良く分かっていますし、経験もしています。しかし、結果が出ない事を心のせいにして逃げる指導者にはなりたくないと思っています。

新チームは、この冬もちろんバットをたくさん振ってもらいますが、守備、走塁の一歩目のスピードアップ、スローイングの安定、そして一番大事な集中力と状況判断、やることがたくさんあります。２年生７人、１年生１６人で９つのポジションを取り合う中で、個人の能力がアップすることを望みます。

会得（身に付ける）に時間のかかる選手が多い新チームは、３年生より数多く練習するしかありません。グランド以外で何をやるのか。ランニング、素振り、ストレッチ、当たり前のことだけでなく、技術論について考えるなど、野球のことを考える時間を増やすことも必要だと思います。

秋、打てなかった、捕れなかった、投げられなかった現実を認める所から、やらなければいけないことが見えてきます。

第２３３話/2016.12.12

本年度の試合は１１月２６日（土）の山本浩二旗争奪野球大会で終わるつもりでしたが、新チームになってから私がほとんど試合を見ていなかったので、今のチームに何が出来て、何が出来ないのか？それを知るために、１２月１１日（日）山口県の柳井中学校に試合をして頂きました。

私がイメージしていたよりも何も出来ませんでした。新チームになって約３ヶ月なので、出来ない事がたくさんあるのは当然です。それにしても想像以上に試合の中で何も出来ませんでした。正直「このチームは無理だな」と思いました。

バッティングでは、普通のストレートに振り遅れる。ストライクをとりにくるカーブを振れない。ランナーがいても進められない。投手にプレッシャーすらかけられない。これでは点をとれるはずがありません。

守備では、投手は無駄な四死球を出す。ワイルドピッチをする。長打を打たれる。捕手は各塁に正確で速いスローイングが出来ない。外野手はイージーフライを落球する。状況に応じた守備位置をとれない。

そして何よりも、野球選手としてダメなのは、全員がひとつのボールに集中していないことです。ランナーも守備者も一歩目のスタートが非常に遅い。『集中力』『一球にかける思い』そういうものが全く伝わってきません。ましてや守備の当事者以外は、それ以上にのんびりしています。試合中の緊張感、戦う姿勢というか、ピリピリしたものがありません。ベンチにいる時や打球が飛んでこない時などは休憩しているように見えます。

この姿勢で試合をしているのですから何試合しても心、身体が疲れるはずがありません。一試合心を込めて、本気で集中して守るだけで、内野手や捕手はヘトヘトになります。投手は１００球投げれば１００回心を削ります。消耗しないのは手を抜いているからです。

どんな良い投手でも投げそこないます。中学生のレベルでは１打席に１，２球必ず打てるボールはきます。そのボールを見逃したり、打ち損じるのは、技術もあるでしょうが、集中力の無さが原因です。心を研ぎ澄まし、一球のボールに集中し、甘いボールを逃さない。１，２年生の試合には、野球というスポーツの恐さ、難しさ、一球のミスで勝敗が決まるという厳しさ、そういう緊張感が全くありません。何事も無かったように同じミスを繰り返し、自分のミスでチームの足を引っ張っているのに、反省し変わろうと努力しているようには見えません。

ただ声を出す、ただバッティング練習をする、それを努力とは言いません。それを一生懸命とは言いません。そして、試合が終わっても余力がたっぷり残っている君達は、全力を尽くしているとは言えません。体の力ではなく、心がヘトヘトになるぐらいの集中で試合に取り組まなければ、君達の野球人生は変わりません。小学生の時からやってきた、お互いミスを繰り返し、試合が終わって勝っていたら全部ＯＫのような野球は忘れてください。

野球は一球のミス（間違い）で勝負が決まる恐いスポーツです。一球も気を抜いて投げたり打ったりしてはいけないのです。練習から意識を変える必要があります。たくさん打てるから雑に打っていませんか？『走塁』『守備』をバッティング以上のモチベーションで取り組んでいますか？「もういっちょう」試合では、もういっちょうはありません。その時点で負けです。

１，２年生の皆さん諦めますか、変わりますか。決めるのはあなた達です。

第２３２話/2016.12.05

１２月３日（土）段原クラブの忘年会をしました。大勢の保護者の参加でとても盛り上がりました。２次会はそれぞれに分かれ、私は十数人の保護者とカラオケに行きました。２年生の保護者はここ２カ月程の溜まりに溜まったストレスを吐き出すように大爆発。楽しい時間を過ごしました。本来とても明るい性格の人達です。子ども達も本質は明るいはずです。スポーツは楽しむものですし、大好きで始めた野球を苦しそうにやるのは間違っています。

野球は修行ではなく、どこまで行っても明るいスポーツです。学校教育の中でスポーツが本来の楽しさを失っていったように思います。勝ったり負けたり、試合や練習の中でいろいろな場面があり、心が折れそうになることもあるでしょう。苦しいことを苦しそうにやるのと楽しそうにやるのは、どう考えても後者が良いに決まっています。

中学生はいくらでもやり直しができます。試合でうまくいかなければ、しっかり反省し考え、同じ失敗を繰り返さないように努力すればいいのです。

段原クラブのスタッフは良い結果を出す方法を知っています。４割、５割打つ方法を知っています。打たれない投手になる方法も、ゴロやフライの捕り方も知っています。素直に努力すれば結果はついてきます。信頼の中でしか本物は伝わらないと思っています。

３年生の進学先がほぼ決まりました。今、受験の不安と高校野球への期待とが入り混じった複雑な時期です。受験で人生は決まりません。自分の置かれた場所で精一杯やれば良いだけです。頑張っている人間を必ず誰かが見ています。見られているからやるのではなく、やっていれば見ています。

これから４ヶ月、もっともっとうまくなれます。ここからが段原クラブが他のチームと違う所

『卒業する時が一番うまい』私は毎年そのつもりで３年生と接しています。特に年が明けてから本気でやりますよ。まず体作りです。故障しない柔らかで強い体を作りましょう。１，２年生はスピード不足。この冬は厳しくなりそうです。

第２３１話/2016.11.28

１１月２６日（土）の山本浩二旗争奪野球大会をもって本年度の大会が終わりました。８月末の文部科学大臣杯から約３カ月、新チームはなかなか内容のある試合ができません。私は２試合程しか見ていないのですが、スコアブックやコーチから話を聞くと、入部の時から常に言い続けている「当たり前のことを当たり前にする」ができていないようです。

ピッチャーはストライクゾーンに投げる。ワンバウンドは投げない。野手はピッチャーが打ちとった打球を１つアウトにする。バッターはストレートに遅れない。バントはできて当たり前。もちろん「全力で走る。」「大きな声を出す。」「ベースカバーに入る。」誰でもできる３つを疎かにしていては勝負以前の問題です。

２７日（土）は雨でグランドが使えませんでした。良い機会なので、１，２年生、保護者に私の考え方、野球を長く続ける難しさ、夢と目標の持ち方、身体能力に恵まれていない選手の生きていく方法など話しをしました。確かにスポーツは体の大きさ、強さ、パワー、スピードが必要です。野球もプロで活躍するためには人並み外れた能力がなければいけません。しかし、中学・高校野球では、考え方、やり方次第でチームの役に立てる選手になれます。

全員が豪速球投手、ホームランバッターになる必要はありません。野球にはポジションが９つ、打順も９つあり、全て役割が違います。バッティング練習はどうしてもヒットを打つ、遠くに飛ばすためだけのスイングになりがちです。立場、役割によって練習の内容が違って当たり前です。アウトになる技術（バント、右打ち）もレギュラーなら身に付けるべきです。

口ではチームの役に立つ選手になりたいと言いますが、心の底では自分中心、力もないのに試合に出たい、ヒットを打ちたい、この２つぐらいしか考えていません。保護者も同様、一番の関心は我が子が出るか出ないか、チームの勝ち負けではないようです。

これから３ヶ月、チームは白紙になります。３月４日（土）、５日（日）山口ミラクルクラブ招待試合が平成２９年度最初の試合です。その日まで全員で背番号を取り合います。「チームの役に立つ選手」それはどんな選手なのか、そのためにどんな練習をするのか、選手ひとりひとりが考え、行動しなければいけません。その競争の中でチームの力が上がります。

毎年そうですが、段原クラブの勝負は一冬越してからです。選手がひとりでも心を見せてくれれば、その子のためにチームを強くします。秋、当たり前に試合に出ていた選手、特に１年生は、２年生との明らかな違いを見せなければ出る資格はありませんよ。

良い結果が出なければ、やり方を変えるか、選手を変えるか。どちらか一方なのか、両方なのか。楽しみです。

第２３０話/2016.11.21

１１月１９日（土）、１１月２０日（日）、第１０回 府中オーシャンズ親善野球記念大会にＡ，Ｂ ２チームが参加しました。１９日（土）は前夜からの雨が朝まで残り、オープン戦となりまし

たが、両チームとも２日間で４試合でき、とても良い遠征になりました。
　１日目に久しぶりにＡチームの試合を見ました。なるほど、勝てない理由が良く分かりました。最も大きなものは、選手達が自らの能力を信じていないことです。新チームになり約３カ月、試合も数多くこなし、努力もしています。自分達が思っている以上の力をつけています。確かに各自に足りない部分もたくさんありますが、持っている力を出せば、十分に勝負できるレベルにきています。保護者も含め、チーム全体でもう少し明るく試合をするべきです。おとなしい草食動物では勝負に勝てません。勝負の世界はギラギラした肉食動物の世界です。考え方が変われば個人もチームもレベルアップできます。
　１日目の夕食後、公園で素振りをしました。主力の２人（佐々木、水元）が最後まで残り、お互いに「先には上がらない」と意識しながらバットを振っている姿を見て、今年のチームも必ず良いチームになると思いました。試合にたくさん出る選手が１番多くの練習をし、苦労する。これが段原クラブの伝統です。そして、その年のチームは必ず良いチームになります。
　２日目の２試合目、府中オーシャンズには勝てませんでしたが、今までと違った、戦う試合ができたようです。今年の試合も１１月２６日（土）の第６回山本浩二旗争奪中学生野球大会の準決勝、決勝が最後です。１２月、１月、２月の３カ月、どんな練習をするのか、そしてどれだけ練習するのか。１、２年生の２４人で９つのポジションを争います。Ｂチームの選手達、練習量も質もＡチームに負けていては、一生追いつけません。もうすぐ後輩が入部してきます。大丈夫ですか？
　昨日、我が家に１通の喪中はがきが届きました。中学時代の野球部の恩師が亡くなった知らせでした。中学１年生の時、道をはずれ、落ちていた私の家に来てくれ、「お前が必要だ、戻って来い。」この一言で私を救ってくれた恩人です。毎年、年賀状を見るたびに、直接お礼を言いに行かなければと思いながら、私の不義理で感謝の言葉を言うことが、もうできなくなってしまいました。１日中、後悔の思いで苦しいです。父親、中学・高校の監督、私が今も野球が大好きで、今でもグランドでユニフォームを着ていられる幸せを作ってくれた３人がいなくなってしまいました。
　もし次の世界があり、もし会える日が来るのなら、その時、背筋を伸ばして会えるように、野球の楽しさ、厳しさ、難しさ、そして素晴らしさを体の続く限り子ども達に伝え続けたいと思います。
　山本先生、心から感謝しています。有難うございました。そして、申し訳ありませんでした。
　後悔。

第２２９話/2016.11.14

　１１月１９日（土）、１１月２０日（日）の２日間、第１０回　府中オーシャンズ親善野球記念大会があります。段原クラブは毎年必ず出場させていただいています。
　私は福山で開催される瀬戸内大会と府中オーシャンズのこの大会がとても好きです。本当に良い大会だと思っています。
　２日間で必ず４試合出来る。普段やることのない県外のチームも参加している。グランドが良い。運営はとても大変だと思いますが、参加する子ども達にとっては、この上ない大会だと思います。
　今年は１、２年生の部員２４人を１２人ずつに分け、Ａ，Ｂの２チームで参加します。１チー

ム１２人で４試合、全員が十分な試合経験が出来ます。お金と時間と手間をかけて参加するに値する素晴らしい大会です。
　子ども達には、大会を運営してくれる方、お金を出してくれる親、たくさんの人達に全力プレーで感謝の気持ちを表して欲しいと思います。
　新チームになり、Ａチームの試合はコーチに任せています。この大会も私はＢチームを見ます。２か月間程、Ａチームに対し、親も子もライバル意識を持つようにたきつけています。「１年生だから、体が小さいから、Ｂチームでしょうがない」、「来年、Ａチームになれたらいいや」、これでは本人もチームも強くなりません。親も子も火花がバチバチ飛ぶような緊張感がチームには必要です。下からの突き上げ、気を抜いたらポジションを奪われる。少しでもＡチームの選手にプレッシャーをかけられるように、Ｂチームの選手は頑張っています。両チームとも力をつけています。持っている力を思いきって全て出す：試合でやるのはこれだけで十分です。
　今年、西部地区で開催された大会に参加するチームが減りました。参加料を払って１試合で負けたらサヨナラ。グランドにマウンドがない。大会が３日間にまたがる。これでは遠くからは来ないでしょう。子どもが参加する大会は２日間、１日目に必ず２試合出来る。私が市外の大会に出場するときの条件です。手間とお金をかけて、公式戦でもないのに１試合では、費用対効果が悪すぎます。
　西部地区で開催される大会も、来年はしっかり考えないと先細りしていくと思います。いつも言い続けていますが、大人の都合より子どものためを考えるべきです。開会式でマツダスタジアムを使用するより準決勝、決勝で使用するべきです。同じ高いお金（全チームの参加料）を使うのなら全チームに平等にチャンスがあるべきです。子ども達は、開会式をしたいのではなく試合がしたいのです。勝ち上がったチームが良い思いをするのが勝負事の鉄則です。

第２２８話/2016.11.07

　私は三流のプロ野球選手でした。投手としてプロ入りし、１年目は２軍で９勝６敗４セーブ、勝ち星はリーグ３位、防御率は２．６９。１年目としてはとても良い投手でした。２年目は１軍キャンプ、春のオープン戦で先発も経験しました。
　そんな中での６月に野手転向、投手としての可能性がある中での転向なので、バッターとしての大きな期待があったのだと思います。私自身も打つ方に自信はありましたし、１年目は投げながら打率２割８分０厘ほど打っていました。十分に通用すると思っていました。
　その思い通り、すぐに２軍ではチームの中心を打てるようになりましたが、なかなか１軍に上がれません。なぜなのか？武器がなかったからです。長打力？守備？足？どれをとっても全てそこそこで抜き出ているものがありません。もがきながらたどりついたものがホームランでした。「目立つ」それだけを考え、ホームランを狙うバッティングに変え、ひとつ武器を見つけたことにより、初めて１軍に上がることができました。
　それが南海ホークスへのトレードにつながり、力を発揮するチャンスは増えましたが、つかめませんでした。原因は精神力の弱さです。高校生の時にはチャンスで打席に入ることが楽しくて嬉しくて。どんな投手も打てないと思ったことはありませんでした。常に上から目線、見下して打席に入っていました。それが年を重ねるごとにプレッシャーが増し、自信を失っていきました。特に１軍では出場したい気持ちと出てミスをしたらまた２軍に落とされるプレッシャーで、試合出場の喜びもなくなっていました。

良い結果が出るわけはありません。そんなことを繰り返し、１０年（２８歳）で現役生活を終えることになります。読売ジャイアンツ、南海ホークス、阪神タイガースの３球団でたくさんの選手を見てきました。一流の選手（１０年以上レギュラーとして出続ける）にはかないませんが、技術的には勝負できたと思っています。しかし、野球は持っているものを試合で出せなければ何もないのと同じです。そういう意味で私は三流の選手にしかなれませんでした。

段原クラブは正しい技術を正しい練習で伝えています。そして子ども達は確実に身に付けていきます。３年生はもちろんのこと、２年生もこのところ、質の良い打球が打てるようになってきました。

段原クラブでの１年間は大きなものがあります。３年生と２年生、そして１年生は違います。自分がやってきた努力、そして身に付けた技術、自信と誇り、今年のテーマです。子ども達に私のような失敗をして欲しくありません。試合に出られる喜び、そして打てなくても、捕れなくても、打たれても、負けても、君達は野球人生のまだまだ途中です。中学野球なんて通過点です。全国大会に大した意味はありません。高校の甲子園も同じです。全て通過点に過ぎないのです。失敗しても君達に失うものはありません。

好きな野球。修行ではありません。好きなことは楽しくやるべきです。まず明るく元気に、顔から変えていきましょう。

第２２７話/2016.10.31

野球の試合では、誰もが出来る事とそうでない事があります。ヒットを打つとか、三振をとるなど、技術や精神力、そして運も必要な事があります。その中で、やろうと思えば今すぐ毎試合必ずでき、チームの役に立つ事があります。

段原クラブでは、入部したその日から何度も何度も言い続けています。今（新チーム）それが出来ません。「大きな声を出す！！（大きな、です）」「全力（全ての力）疾走する！！」「カバーに入る！！」、この３つです。本人がやろうと思うか思わないかだけで、体の大きさも力の強さも、バッティング技術も速いボールも何もいりません。思いだけで誰でもでき、チームの役に立つ。こんな簡単な事をなぜしないのでしょう。それは思いがないからです。

人間の体は脳が支配しています。無意識で体が動く？それは努力に努力を重ね、何年もやり続けて初めて身に付き、考える前に体が反応するようになるのです。中学生ではそこまでいきません。常に頭で意識し続ける（思い続ける）事が必要です。気を抜くとは、思いが止まる事です。

勝負は勝ちと負けがあり勝った方が良いですし、勝つためにやらないのはルール違反になります。公認野球規則 1.05 〈1.02〉 「各チームは、相手チームより多くの得点を記録して、勝つことを目的とする。」と書いてあります。試合はチームが勝つためにやらなければなりません。個人成績（ヒットを打つ）のためにやることもルール違反なのです。勝つためにやらなければいけない試合で誰でも出来る、チームに役に立てる仕事をしない選手は、試合に出る資格がないということです。

言い続けている当たり前の事を当たり前にする。それをやろうともしない新チームは当然、良い結果を得る事はないということです。

「練習は個人のため、試合はチームのため」

３年生が続々と進学先を決めています。今年の３年生は向上心が強く、安全に試合に出られそうなチームでなく、今の力では少し厳しいなと思う学校を選ぶ子が多く、少し心配しています。

しかし、最後に決めるのは本人であり、決めたらやるだけです。これから４ヶ月、技術も体力もレベルアップし、スタートから勝負出来るように準備して下さい。自ら選んだ野球、そして段原クラブ、高校、言い訳はいりません。何をどうした方が良いのかは全員分かっているはずです。

段原クラブのスタッフは全員、心を込めて全力で取り組む選手と同じユニフォームを着てグランドに立ちたいと思っています。心が伝わらない時にはグランドに出ても、バットを振ってもそれは意味の無いものになります。言いたい事、分かりますよね。練習は数ではなく内容です。全力を出し尽さないと本物の力はつきません。

まず、自主練習する力が残らないぐらいの集中した練習、試合をするべきです。自主練習はそれをやった選手だけがするものです。

第２２６話/2016.10.24

１０月２２（土)、２３日（日）の２日間、高校野球の指導に行ってきました。

普通の高校ですが、１９人の部員で今秋の県大会で準優勝し、中国大会に出場します。どんな練習をするのか、どんな子ども達なのか、とても楽しみでした。

一日中練習をしないと聞いていましたが、中国大会の前なのでやるだろうと思っていると、土曜日は雨が降っていた事もありますが、練習は本当にあっさり終わりました。自主練習をする選手も数人いましたが、監督さんはほとんどみないそうです。

誰かが見ているからやる、見ていないからやらない、こういう選手が多いのは事実です。これでは上達しません。私も同じ考えです。練習は短く、自主練習で本当にやりたい練習をする時に上手くなる、疲れた体で技術は身に付かないと思っています。

２日間と短い時間でしたが、選手ひとりひとりに私の持っているものを全て伝えたい。しかし、大会前なので大きく変えるわけにはいかない。そんな中で、日曜日の練習試合で対戦相手の投手のレベルが低いとはいえ、２試合で３６得点。私はそれまでのバッティングを知らないので比較は出来ませんが、子ども達の表情を見ていると、バッティングの楽しさを伝える事は出来たように思いました。

昼休みに気になった選手にティーを上げていた時、８人程の選手たちが自分にも教えて欲しいと室内に来た姿を見て、このチームが強くなるのは当たり前だと思いました。指導に行ったつもりでしたが、私の方が教えられた事が多く、中学から素材に恵まれた選手を集める事もない中で普通の県立高校が野球校に勝つ。

段原クラブも同じように出来る子どもを集めてはいません。短い練習時間など共通点が多く、トレーニングの考え方、子ども達への接し方、野球以外にしっかりやらなければいけない事など、私が監督さんから教えて頂いた事の方が多かったように思います。本当に意味のある２日間でした。

今回こういう機会を頂いた大浪さん、山内和宏さん、関係者の皆さんに心から感謝しています。そして選手達が中国大会で、持っている力を全て発揮できることを祈っています。

段原クラブの新チームは今、苦しんでいます。エースもポジションも固定出来ていない状況で良い結果がでないのは当たり前です。負ければ良いのです。その中から足りない事、出来ない事、やらなければいけない事を自分で見つけなければ、そして認めなければ変わりません。ひとりひとりが個々の能力を上げる、今はそれに集中する時です。チーム内でライバルを見つけ、火花を散らして競争して下さい。私は見ています。全員を見ています。変わるために練習があります。

変わった姿を見せて下さい。子ども達が変わっていく姿を見ている時間が私は好きです。

第２２５話/2016.10.17

　１０月１６日（日）広島県少年ソフトボール連盟の選手権大会に新入部員募集のチラシを配りに行きました。
　久しぶりに小学生のソフトボールを見て驚いたことが二つありました。一つ目はピッチャーの投げ方です。ほとんどのピッチャーが飛んで１歩前から投げています。なぜこれが許されるのか。いつ、どんなきっかけで始まったのか。ルールが変わったのか。ルールブックにどのように書いてあるのか分かりませんが、どう書いてあろうと私には理解出来ません。「足を引きずっているからＯＫ」とかいろいろ言い訳を重ねたとしても、全ての投手が飛んでいるのです。そして１歩前から投げています。いんちきです。ピッチャープレートは必要ありません。踏み出した足がサークルから出るなんて、どう考えてもおかしいです。陸上選手が３メートル程飛んで投げてもＯＫなのでしょうか。協会はなぜこんないんちきを許すのでしょうか。試合に勝つためにルールの盲点をつくことができるなら何でもあり、間違っていると思います。子どものスポーツはあくまで通過点、正々堂々とやるべきです。少しでも前から投げたいのなら、ルールを変えてピッチャープレートを前にしたら良いのにと思いますし、あくまで子どものスポーツはごまかすようないんちきまがいの事はやるべきではないと思います。ソフトボール協会の皆さん、しっかり考えてみてください。誰でも分かる事です。
　二つ目は、ほとんどのチームのユニフォームが変わっていた事です。なぜ変えるのでしょう。理由が分かりません。チーム愛とか伝統とか繋いでいくものとか、そういう意識がないものだと思いました。監督が変わる時にユニフォームを変える事が多いのでしょう。しかし間違っています。チームは続きます。チームの長い歴史の中の一部分を引き受けるにすぎません。その一部分のために自分の好きにして良いのでしょうか。高校野球では学校名が変わる時にユニフォームが変わることがあります。それでも私は少ししっくりきません。実は私の母校、愛工大名電も校名変更と同時にユニフォームが変わりました。ＯＢの一人として寂しい思いをしています。チームの中で変わらないもの、ＯＢがいくつになっても我がチームと思えるものを残していくべきだと私は思います。何百人と関わって続けてきたチームを数人の考えで変えるのはどうなのかと思いました。
　またまたこんな事を書くとソフトボールの関係者に嫌われるのでしょうね。しかし何と言われようと私は子どものためにならない事とは戦いますし、ＯＢ全ての子ども達のためにチームは続けていくものだと思っています。

第２２４話/2016.10.11

　１０月９日（日）３年生の卒団試合と卒団式を行いました。毎年のことですが、入団から２年半あっという間です。これから高校入学までの６ヶ月、３年生が一番伸びる時です。プレッシャーから開放された子ども達は自分のために自分のやりたい練習を自らが考えてやります。そして下級生の指導もします。当然、力がつきます。卒団試合でも伸び伸び自分のスイングをし、新チ

ームから１５点を取りました。１１日（祝）の練習も明るく大きな声が出て、大好きな野球を楽しんでいました。指導者として、厳しい中にもこの雰囲気で練習に取り組める環境を１、２年生のときから作らなければいけない、修行でなくスポーツの練習をさせたいと思いました。

卒団試合を見ていて、新チームが心配になりました。文部科学大臣杯で広島スターズと競った試合をしたことで、少し全体が勘違いしているように思っていました。しかし、本当の力はありません。３年生と対戦すると全く試合になりません。卒団試合で一番気になったのは、格上に向かっていく、食らいついていく、そんな姿勢が全く見えなかったことでした。負けるのは当然です。しかし、腰を引いて逃げまくり怖がるバッテリー、バッティングからも守備からも闘志、闘う心が見られませんでした。力もなく心も無ければ結果は明らかです。力が無ければつけるしかありません。練習しかないのです。ひとりひとりが最低でも学年１、チーム１の練習をする、それがチームの力に変わります。有り難いことに練習をたくさんやり続け、結果を出した３年生が近くにいます。負けない努力をすればいいのです。

本気の子どもに私は付き合います。まず親が、そして子どもがあきらめないことです。言葉はいりません。体を動かすことです。これから春までの６ヶ月、１、２年生も３年生も野球人生の中で大切な６ヶ月です。どう使うかは君達しだいです。

第２２３話/2016.10.03

１０月２日（日）段原クラブ総会で保護者の役員が変わり、いよいよ本格的に新チームが始動しました。３年生は高校に向けて、１、２年生はチーム内の競争に勝つために努力していくことになります。総会の席で１、２年生の保護者に話をしましたが、野球というスポーツは技術力の勝負をするものですが、最低限の体格と体力は必要です。１、２年生を見ると８０%の選手が中学生の野球で勝負出来るレベルに体の力が達していません。来春に向けて一番の課題は体作りだと思います。

スピードとパワー、出来たら両方、少なくとも片方は手に入れなければ技術を発揮出来ません。特に１年生は、本来、小学校で身に付けておかなければいけない基本を全くやってないので、時間が必要になります。小学校の野球（ソフトボール）は試合を数多くこなすだけで、本来、下級生の時（試合に出る前）にやらなければいけない、基礎をおろそかにしているため、体の大きさ、強さで勝負がつくだけの野球になっています。その選手が年齢を重ね、体のメリットがなくなれば終わってしまいます。野球を長く続けるために、基礎、基本が一番必要です。

段原クラブでは、この部分に時間をかけて徹底することにより、３年生になってから実力が伸び、夏になれば勝負出来るチームになります。入部してきた子どもの素材の良し悪しでチームの成績が大きく上下するようであれば指導者は必要ないということになります。正しい練習を数多くやる（故障するほどではやっていけません）結果は出るものです。しかし、練習を何年も継続していくことは大変な事です。人はそんなに強くありません。心が負けそうになります。その時、保護者の協力が必要です。子供のために、時には鬼になり、時には仏様や天使のようになり支えなければいけません。ひとりの力で夢に向かって努力するよりは家族の力を結集した方が大きな力になります。厳しく、優しく親として出来ることをやらなければいけないこと、是非、彼らのためにお願いします。「親の思い以上に子どもはなりません」子ども達の成長のために、段原クラブスタッフ、保護者全員の力が必要です。また一年頑張りましょう。子ども達は結構いい思いさせてくれますよ。

第２２２話/2016.09.26

今、９月２６日０時です。３年生の試合が２５日（日）終わりました。最後の試合が雨のため抽選になり、最後に広島スターズに全力でぶつかって終わるという私の思いは少し残念な形になってしまいました。昨日の夜、布団の中で３年間のたくさんの出来事をひとつ、ひとつ思い出しながら、日曜日の試合の結果に全く興味が無くなっていきました。１年生のリーグ戦で広島レディースにエラーでやっと勝てたこと、カープジュニア（小学校６年生）に２試合連続完封負けしたこと、府中オーシャンズの招待試合で１年生のＢチームは同じ１年生に２日間４試合１勝も出来なかったこと、文部科学大臣杯も全軟も段原クラブでは初めて１回戦で負けたこと、本当にまったく勝てなかった今年の３年生、そのチームが、あきらめず頑張り続け、努力し続け、チームスタッフたくさんの人達の協力を得て、最後の最後、勝負出来るチームになりました。前にも書きましたが、府中オーシャンズ、広島スターズに何度もぶつかり、はじき返され続けたことが、少しずつ子ども達の力になりました。この２チームには只々感謝です。自分達より上手い選手、強いチームにくらいつく、次こそはと練習する。指導者として子ども達の頂点を勝手に決めない。「もっと出来る」、「必ず出来るようになる」、今年はずっと言い続けました。今でもずっと段原クラブは１年生のリーグ戦でほとんど勝ったことがありません。それでも３年生の春にはある程度のチーム力になっていましたが、今年は思うようになりませんでした。時には聞くにたえないような言葉を子ども達に浴びせたこともありました。正しいかどうかといえば正しくないかもしれません。話を聞けば、何度もやめようと思った子が何人かいたそうです。最後まで本当にありがとうございました。９月に入り、堂々と段原クラブの試合を貫いてくれる選手、チームになってくれて感謝です。

これから君達は高校野球に向けて方向を変えます。ひたすら個人にレベルアップです。グランドに立つ限り、全力で協力します。高校で野球をするために全員、足らないものが山のようにあります。私の持っている物、ひとつでも多く身に付け、頭に入れて卒業して下さい。これからの６ヶ月、一番上手くなれる時です。後輩に伝えることも大切な仕事です。これも君達の力になります。

最後の試合の夜は寂しい夜です。中々寝つけませんが、君達の努力のおかげでとても心地良い疲れを感じています。

島川、橋田、西、村田、大西、石田、長沖、目次、児玉、平見、浅井、山藤
ナイスゲーム　ありがとう。

第２２１話/2016.09.20

９月１７日（土）、１８日（日）八幡大会がありました。例年この大会が３年生最後の試合でしたが、今年は９月２５日（日）のリーグ決勝大会が卒団試合になります。１８日（日）はあいにくの雨で試合が出来ませんでしたが、１７日（土）には目標にしている広島スターズと対戦することができ、子ども達にとって意味のある１日になりました。今年は今まで一度も勝つ事が出来ませんでした。当然、見下されています。その為エースが投げてくることはありませんでした。勝ちましたが不完全燃焼のかたちになりました。

段原クラブとして守備、走塁、バッティングでミスが多くあり、高校入学までにやらなければいけない事がたくさん見えました。しかしこの勝ちは次の対戦で広島スターズに火がついてくれれば、とても価値のあるものになります。選手の成長のために、自分よりレベルの高い選手（チーム）との対戦が必要です。今年のチームは府中オーシャンズ、広島スターズという広島県２強と何度も対戦することができ、恵まれた年だったと思います。自分より上の選手がいることをしっかりと目でみ、感じ、身に染みることが大事です。その後の取り組む姿勢がこれからの野球人生を決めます。

１９日（祝）の甲山ジャガーズの招待試合が雨で中止になり、新チームとしてはとても残念です。新チームもより強いチームと早いうちに対戦し、自分達の今の力を選手自身で知ることが必要です。それがこれから秋、冬の練習に大きく影響します。

段原クラブは１年生の時、ほとんど勝つことが出来ませんが３年生になれば勝負出きるように必ずなります。今年の３年生は大きな大会で中々持っている力を出せませんでしたが、先輩達に負けない力を身に付けています。努力もしています。残り２大会、自信を持って全ての技術を今までお世話になった保護者の前で披露して欲しいと思います。

勝ち負けはそれほど大事なことではありません。私は君達の努力を見てきました。それで十分です。

第２２０話/2016.09.13

広島カープが優勝しました。全国のカープファンは大喜びだと思います。嫌われることを承知で書きます。喜ぶのは結構ですが、なぜ２５年も優勝することが出来なかったのか？なにが原因なのか？どこに問題があったのか？しっかりと検証する必要があると思います。お金の問題だけでしょうか？６チームでやっているペナントレースです計算が合いません。優勝を決めたジャイアンツ戦を見ていてカープが勝った理由もそうですが、ジャイアンツが勝てない理由がはっきりと判りました。プロスポーツ選手、アスリートです。私は下半身（足）が重要だと思っています。「全力疾走」プロアスリートとして当たり前に出来なければいけないこと、カープの選手は外国人選手を含め、全員が出来ています。ジャイアンツは情けない限り、全力で走ると故障する選手までいます。プロとして１年で大金を手に入れる選手がまともに走れない。厳しい言い方をすればお金を頂いてプレーを披露するレベルではないと思います。いくらバットを振ることが出来ても、あの走塁ではプロとしてどうなの？優勝出来なくて当然です。

段原クラブは９月１１日（日）山本浩二旗に新チームＡ，Ｂに分けて２チーム参加し両方と勝ちました。私はＢチームを担当しました。ＢチームとはＡチームに選ばれなかった 1 年生です。勝敗は相手しだいですが、１週間前の大野シニア戦でエラーだらけだった選手達がエラー１つの 1 失点、この点だけ少し評価出来ます。基本の徹底と守備は足ということを少しずつ意識してくれるようになりました。試合に出るためにはまず守備です。打つ練習は楽しいです。しかしチームの為にはまず守備です。Ａチームの選手に追いつけ追い越せ。チャンスはあります。練習あるのみです。

１年生のお母さん達に段原クラブとして当たり前のことを書きます。この試合が始じまった時、ネット裏のテントの下に全員がいました。日焼けが嫌ならグランドに来なくて結構です。送り迎えのためだけなら、グランドに選手を降ろしたら帰って下さい。チームを応援する気のない保護者はグランドに必要ありません。次に相手のエラーで得点した時のはしゃぎっぷり、恥ずかしく

ないですか？段原クラブはランナーやコーチャーがサインを盗んだり、ピッチャーがセットポジションに入った時、ベンチやコーチャーボックスから大きな声を出して動揺を誘ったり、相手のミスを期待するようなバッティングをしたりして勝とうとは思っていません。正々堂々と、ピッチャーとバッターの１対１の勝負の中で練習で身に付けた技術と精神力で勝つことを目指しています。貴方達は小学校のチームでレベルの低い野球をやってきたので恥を知らないと思いますが、段原クラブは違います。相手のミスで大喜びするような選手・保護者にならないで下さい。私はプライドを持って段原クラブのユニフォームを着ています。

開会式で広島スターズの監督と話をしました。今年のチームはまだ一度も勝っていません。ありがたいことに、あと３回対戦できるチャンスがありそうです。諦めません。最後まで全力でもがきます。広島スターズも全力できてくれると言ってくれました。何度はね返されても格上のチームとやるのは選手にとって宝になります。今年のチームは恵まれています。チーム一丸、段原クラブは最後の試合が一番強い。

第２１９話/2016.09.05

今年の選手は平均以下の投手は本当に良く打ちます。前にも書いた通り、練習で身に付けた正しい技術があるので当然だと思います。しかし、少しレベルの高い投手（アウトコースにストレートが投げられる、変化球でいつでもストライクがとれる、スピードが少しある）になると中々持っている力を出せません。

なぜか？頭の問題だと思います。良い投手ほどしっかりとアウトコースに投げてきます。早いカウントから変化球でストライクをとりにきます。そして追い込んだら自信のあるボールを持っています。では、良い投手を打つにはどうしたら良いか？まず追い込まれる前に勝負しなくてはいけません。１球目、２球目に集中する必要があります。アウトコースストレートか変化球、配球を読みます。そしてどちらのボールも引っ張りに入ると確率が下がります。意識はセンター返し。コンパクトなスイングで確率を上げます。ミスせず１球で打つ集中力が必要です。特に段原の中心打者に対してインコースのストレートを多投して勝負してくる投手はいません。本来、中心打者ほど配給は読みやすいはずです。私は高校時代４番を打っていました。甲子園に出るチームの４番、インコース、ストレートは投げてきません。変化球を待っていれば必ずきました。引っ張る意識を捨て、変化球を打つことで５割以上の打率を残せました。なにも考えなくても全てのボールに対応出来る技術があるのなら考える必要はありません。今の段原クラブにそのレベルのバッターはいません。０．２５０の技術で０．３００を打つ。頭を使えば出来ます。これは何度も言っています。野球は頭と足でやるスポーツです。練習をして身に付けた技術を１００％以上発揮するのか、半分しか出せないのか自分自身の考え方しだいです。中学レベルの投手を打つぐらい、そんな難しいことだと思いませんが・・・。正しい技術と正しい考え方、段原クラブは両方ともしっかり伝えています。

試合に出ると良いこと、悪いことがあります。打てたり、打てなかったり、捕れたり、捕れなかったり、そして勝ったり、負けたり。自分のミスでチームが負けることもあります。厳しい言葉をぶつけられる事もあります。試合に出なければ良い思いをすることはありませんが、嫌な思いをすることもありません。出ればミスをし、苦しむことがある。出なければそんな思いをすることはない。あなたはどちらを選びますか？

私はどちらでも構いません。自分で決めることです。苦しい道と楽な道、練習でも試合でも２

通りあります。勉強も同じです。自分で選び、自分で責任をとる。私達指導者はあくまでもその思いのお手伝いをするだけです。思い通りにならない責任は全て自分自身にあります。

第２１８話/2016.08.29

８月２７日（土）、２８日（日）３年生は瀬戸内大会、１、２年生は文部科学大臣杯（全軟　春予選）に出場しました。瀬戸内大会はＡクラスで府中オーシャンズに、文部科学大臣杯は２回戦で広島スターズに敗れました。どちらも番付通り（実力通り）の結果だったと思います。段原クラブの選手がそれぞれのチームに入った場合、レギュラーで試合に出る事が出来るのは２人。７対２で試合をすれば結果は見えています。しかし、今までもずっと段原クラブは個々の身体能力は３対６、良くて４対５の中で戦って来ました。今年も勝負出来る２人以外の選手がもう少しずつ力を付けていけば、勝ち負けは判らないレベルになれると思っています。野球はチームスポーツだとよく言われます。確かにそうです。が、勝負の行方は投手が握っています。調子が最低の時で７回３失点が基準です。これ以下の投手ではトーナメントを勝ち上がることは不可能です。公式戦でマウンドに上がる資格は無いと思っています。野球はスピードだとつくづく思いました。投手のボール、走塁、野手の送球、スイング、全て早いほうが強いです。中心の２人以外は府中オーシャンズの選手に全てのスピードで完敗です。やっているつもりでしたが原点の原点、体作りをもっと真剣に取り組む必要をつくづく感じた１年でした。体作り（食事、睡眠、トレーニング）正しい技術もスピードがなければ試合の結果につながりません。

新チームはスタートしたばかり、ひとつの大会が終わり一区切りです。時間のない中で良くやったと思います。私の中ではチームは白紙です。来春に向けて１からポジションをじっくり考えたいと思っています。勝つためには投手を含めたディフェンス力、特に守備力のアップが必要です。点を取られるならヒットを打たれた時のみ、そんなチームにならなくては勝つ確率は上がりません。守備力と走塁にはスランプはありません。３年生は府中オーシャンズに完全に力負けしましたが、全員が今年一番の全力疾走を見せてくれました。「勝ちたい」「なんとかしたい」「諦めない」そんな気持ちはベンチの私に伝わってきました。続けて下さい。練習からやって下さい。どうやったら一泡吹かせられるか昨日からずっと考えています。結論は今まで以上に頭を使って練習するしかないということです。ちなみに文部科学大臣杯で負けた後、４人の１、２年が、福山から帰った後２人の３年生がフルスイング塾で打ちました。理屈ではなく、正しいかどうか、良いか悪いかそんなことはどうでもよくて、頑張っている選手と過ごす時間は良いものです。２日間の遠征で体はヘトヘトでした。決勝に負け、文部科学大臣杯も負けたと聞きましたが、心は６人の選手のお陰で前に向くことが出来ました。本気の選手がひとりでもいれば、その選手のために勝たなくてはなりません。そのためだけに本気でない選手にも教えなければいけません。監督とは厄介な仕事です。

３年生の皆さん、グランドに立っている限り私は貴方達を諦めることも、甘やかすこともありません。それが私の責任です。

第２１７話/2016.08.22

いよいよ、今週の土曜日から文部科学大臣杯（新人戦）です。今年は瀬戸内大会と重なるため、

新チームは練習内容、練習試合、メンバー何から何までコーチに全て任せています。段原クラブは全ての指導者が同じ技術論、野球感で統一しているので何一つ不安はありません。今までにないとても良い環境で練習、試合をこなし準備をしてきた１、２年生は恵まれています。

「勝負」勝つか負けるかわかりません。そして必ず勝たなければいけない訳でもありません、が。自分達の置かれた環境をよく理解し、心を込めてプレーする責任はあります。試合はもちろんですが、その前に特に試合に出る選手はチームの誰より努力し万全の準備をする責任もあります。

いつも言っている通り、段原クラブの選手達は練習してきています。そのまま当たり前のことを当たり前にやれば、結果はついてきます。是非、自信に満ちた表情で堂々としたプレーを期待しています。これは段原クラブの子ども達全員に対する思いです。

夏の甲子園が終わりました。今年も一番正しい投げ方をした投手が勝ちました。アウトコース低めに正しいストレートをここ一番で投げられる投手、そしてピンチの時、インコースを思い切ってつける投手、私がいつも段原クラブのピッチャー達に要求していることです。

チーム力は投手力、広島代表は今年も投手だけが全国レベル、バッター達はほぼ勝負出来ませんでした。ずっと続いている広島県の打力の低迷はなぜなのでしょう？

小中学校の指導者の皆さんも考える必要があると思います。もちろん高校の指導者は甲子園に出るための野球ではなく、もう一ランク上の野球を考えるべきだと私は思います。木のバットを持って何も出来ない選手は野球選手ではありません。

第２１６話/2016.08.16

今年の段原クラブは弱い、本当にたくさん負ける。技術が無い訳ではありません。練習は間違ってないですし、努力している選手も多く、ほとんどの選手がしっかりとした技術を身に付けています。ではなぜ勝てないのだろう。ずっと考えてきました。

１ 番は監督の力不足、そして今年の選手は良い家庭で優しい父母に大事に大事に育てられてきた優しく可愛い子。言い方を変えれば、動物園で生まれて育てられたライオンです。自分で獲物を捕らえることが出来ません。正しい練習をして正しい技術を伝えているので、普通に練習をすれば力は付きます。しかし、それを試合で出せるかどうかは別の話です。

つくづく思い知りました。私は子ども達に技術を伝えて上達させることは出来ます。しかし、生まれて中学生になるまでの育ちを変えることは出来ません。指導者としての力不足を痛感しています。今までいろいろな方法で子ども達にチャレンジしていましたが、最後まで自信を持ってプレーする選手がいませんでした。私はプロ入りするまでずっとチームの中心選手でした。「勝ちたかったらランナーを置いて俺にまわせ」と常々口にする生意気な選手でした。高校３年で負けた２試合（甲子園と夏の決勝）は私がノーヒットだから負けました。勝っても負けても自分の責任。チームの先頭に立って風も雨の全部引き受ける、それが中心選手だと思っていました。

選手は横一列ではなく、縦一列に並ぶべきです。おててつないで横一列、くだらない運動会のようです。これから先、野球を続けていくのなら牙が必要です。これは他人に作ってもらうことは出来ません。自分で生やすしかないのです。試合は勝つか負けるか、大げさに言うと生きるか死ぬかの戦いです。戦いのための武器を持つためにお手伝いをしているだけです。それ以上のことが出来る指導者ではありません。

君達に変わりに試合で打つことも投げることも出来ません。戦うのはあなた達です。只々私の

力不足、監督としての能力の無さを申し訳なく思っています。
　オリンピックで金メダルを取った柔道の選手が言っていた「１０分の１の力しか出せなくても勝てる練習をしてきた」ここまでやれたら良いですけど、難しいです。指導力が欲しいです。

第２１５話/2016.08.08

　毎年、練習・応援Ｔシャツの背中の言葉は変わります。その年のチームに必要なこと、足らないこと、意識して欲しいことなどを考えて作ります。今年は誇りと自信、段原クラブの選手、保護者としての当然もって欲しいものです。大きな大会だったり、大事な場面、そして強い相手と戦う時に必ず必要となるものです。そしてそれがなければ勝つことは出来ません。
　８月も半ば、３年生は残された大会はわずかです。最後まで私が望んでいた堂々とした戦いは出来そうにありません。完敗（手も足も出ないで負ける）しても、親子共々普段通りの生活、そして普段通りの練習、私の中には無い考え方です。負けてナイスゲームはありません。あったとしたら自分達を格下だと認めて戦った場合です。同級生と戦う学生野球、一生負け続けることになります。素材、素質、もちろん持って生まれたものがあります。そんな事はわかっています。
　私は負けたことに腹を立てている訳ではありません。「こんちくしょう」、「くらいついてもなんとかする」、「次は絶対にいわしてやる」、「もっと練習しなくっちゃ」、「このままで終われるか」、こういうものが全く見えない３年生の親子に苛立っています。気持ちがないのなら後輩達にチャンスを譲るべきです。「誇りと自信」私と同じユニフォームを着て同じグランドに立つのなら持っていて当たり前のものです。野球は特別なものです。片手間でやられたら許しません。自信がなければ練習するしかないのです。自信も無いのに練習しないのは諦めです。諦めたらユニフォームを脱ぐべきです。諦めの悪いやつ、最後の最後まであがくやつ、そんな選手とこれからの残り少ない試合をやっていこうと思っています。言いたいことは山ほどありますが、これ以上書くと段原クラブのイメージが悪くなるので止めます。

第２１４話/2016.08.01

　７月３１日（日）県知事杯がありました。段原クラブと広島グリーンファイターズが中心になり準備、運営する大会の１日目が無事終わり一安心しています。このところ、西部で開催する大会にチームが集まりにくくなっています。何が問題なのか？関係者で話をする必要があると思います。折角の１日が１試合では大事な１日がもったいない。子ども達の為にやるのなら勝っても負けても２試合出来るシステムを作るべきだと思います。
　今は３年生が出られる大会がまだ数大会ある中で文部科学大臣杯（２、１年生の大会）まで１ヶ月を切っているというチームとしては難しい時です。段原クラブでははっきりと分けて新チームにも試合経験させています。今までと違う方法をとりました。これからも約６試合予定しているため下級生にとっては文部科学大臣杯に臨むにあたって恵まれた環境にあると言えます。試合の勝ち負けは別にして、これを有り難い事と捉え、心を込めて全力で取り組むべきです。それは保護者も同じです。
　昨年、私がベンチにいる事により子ども達のプレッシャーになり力を１００％発揮できないのではという考え方がありました。私はその程度の心では高校野球は出来ないと思っていますが、

現実にはそんな選手がいるようです。今年の３年生を見ていても少しそのように感じています。
　段原クラブは正しい練習で正し技術を伝えているので子ども達は３年生になるとレベルの高いものを身に付けています。しかし試合では私の思っているレベルの力が中々出ていません。今年の選手達はこんなものではありません。全員とは言いませんが、練習量と質に裏打ちされた力があります。私が見ていて今年、打てそうにない投手は見当たりませんが、中々思い通りにいかないのはやはり私のプレッシャーが原因なのでしょうか？私はプロ野球選手になり、１軍の打席に入るまで打席でプレッシャーを感じた事がないので良く判りません。まして自分のチャンスは相手のピンチ、なぜプレッシャーがかかるのか理屈でもおかしい話です。打つことが楽しいはずの野球です。打席が楽しめないのなら野球をする意味がありません。考え方ひとつで変えられると思うのですが。
　試合の中であるチームのコーチが、足元にきた打球を避けた時にもの凄く大きな声で「避けるな当たれ」のようなことを言いました。私はものすごく悲しくなりました。「まだいるんだ」いつまで子ども達の足を引っ張る大人が野球にたずさわるのでしょう。上から叩いてゴロを打てと言ったり、なぜ野球の技術を伸ばして上げないのですか？バッターボックスにはヒットを打つために入ります。その為にはボール球を打ってはいけません。四死球をとるためにではありません。ヒットを打てるようにならなければ上で野球が出来ません。今、勝つことではないのです。ましてやルールブックに避けなければいけないと書いてあります。スポーツはルールに基づいてやるものです。指導者がそれを欺こうとすることは絶対にあってはいけません。
　何度も言っていますが、広島の高校野球のレベル、特にバットを振るレベルの低さ、甲子園を見ればわかるはずです。
　本当に今のままで良いのですか？中学生の野球にも責任があると思います。子どもの素材の違いと言い訳をするのはやめませんか？段原クラブは体が小さくてもずっとバットを振り続けます。私はそれが子ども達のためになると信じているからです。

第２１３話/2016.07.25

　７月２３日（土）、２４日（日）岡山のオール笠岡ドリームスの招待試合に行ってきました。２日間で４試合２勝１敗１分、１番、３番バッターを欠き文部科学大臣杯のために２年生を試したりしながら、勝敗はまずまずです。しかし内容はボロボロでした。良かったのはエースのみ、後の選手は誰一人納得できていないはずです。日刊大会の時、守備のミスと四死球が減ったことにより、良い試合が出来るようになったと書きました。私は少しずつ力が付いてきたと思っていました。勘違いでした。少しのプレッシャーだったり、集中力が切れたりしただけでエラー、エラー、エラー。私がもし投げていたらグローブを叩きつけて「ふざげるな！！」と大声を出していたと思います。「バッティング練習は自分のため」「守備練習はチームのため」私はそう思っています。段原クラブの選手は自分がヒットを打つことにとても興味があります。私もバッティング練習が好きなので打つことを中心にやっています。しかし勝つためには守ることが絶対に必要です。チームの役に立てなくても迷惑を掛けない。「チームのために」「勝つために」の練習はどのぐらいやっていますか？守備は出来て当たり前、ピッチャーが打ち取った打球を処理するだけです。そして送球、これも出来て当たり前、送球ミスは確実に失点につながります。今年何度もここに書いている「当たり前のことを当たり前にやる」これが出来なければチームが勝つことはありません。

今やっている高校野球も同じです。今年も守れるチームが勝ちあがりました。当然、守備練習をたくさんやった方が勝てるのはわかっています。５０年野球をやってきたのですから、特に下のレベル程、勝つために守備でも私は嫌いです。打つ練習が面白いし、上のレベルでやるためにバットが振れることが必要だと思っています。今年の広島代表も今の野球で甲子園に出る確率は高いと思います。しかし、甲子園で勝ち上がるのは難しいと思います。守れるのは当たり前。その上でバットが振れなければ魅力がありません。私はそんなチームで野球をやりたいと思って毎年努力しています。そのために小学生の指導者の皆さん、守備、キャッチボールの基本ぐらい出来るようにして下さい。中学生になって本当に一からボールを初めて持つ子のように指導しなければいけないのはとても悲しいことだと思います。

段原クラブはサイン無し、子ども達の力と技術と頭で広島県Ｎｏ１になるという目標を掲げています。今年のように三塁ランナーを打って返すことがあまりにも出来ないとスクイズやヒットエンドランが勝つためには必要かなと少し頭をよぎりましたが、打って返せるように今まで以上に練習します。少しでもそんなことを考えてしまったことを反省しています。守備も打撃も走塁も練習する以外上達する方法はありません。上手くいかなければ量を増やすか、方法を変える。これしかないのです。今以上に子ども達のためになる方法があるはずです。私が一番チームで考える立場にあります。３年生１２人、残り２ヶ月私は手を抜きませんよ、言い訳、妥協一切無しです。１、２年生も同じく厳しくなります。やめるなら今のうちですよ。

しかし言っていること、無茶苦茶ですね。勝つために守備が大事、守備練習をたくさんした方が良い、でもバッティング練習が好き、監督がダメですね。

第２１２話/2016.07.19

７月１６日（土）日刊大会の準決勝・決勝があり、結果は２位、番付通り広島スターズに勝つことは出来ませんでした。失点は守備のミスと死球、準決勝までケア出来ていたことが原因で敗戦、まだまだ力不足です。７月１８日（祝）しまなみ予選、２回戦で五日市観音に負けました。この結果は正直まったく予想していませんでした。驕り、勘違い、私を含め選手、保護者全員が少し勝てるようになったことで、今までのひた向きさが無くなっていました。全軟の１回戦敗戦から「当たり前のことを当たり前に！！」、「力が無ければ練習するしかない」、「集中して自分達の力を出せば戦える」を常に頭に入れて子ども達は努力してきました（全員ではないですけど）。少し勝ったことでうすくなりました。そもそも１年生の時、カープジュニアに２試合連続の完封負けをしたチームです。少しでも気を抜く、手を抜けばこの結果は当たり前です。試合後、私は今まで思っていたことを半分ほど子ども達、保護者にぶつけました。全部言ってしまうと１日もかかってしまうので少し遠慮しましたが、言ってすっきりしました。今、私は負けて良かったと思っています。自分の力の無さ、技術の無さを認めなければ変われません。自信がなければ自信がつくまで練習するしかありません。自信がなく、不安を抱えている選手がグランドの立つことはチームに迷惑を掛けます。胸を張ってグランド（打席）に立てるまでバットを振り続けるしかないのです。その為に私を利用すればいいのです。試合の前や打てなかった日、誰でも練習します。しかし本物の努力は毎日し続けることです。頂点（これで打てる）はありません。バッティングに絶対はないのです。本来、どんな選手も不安と戦い、それを消すためバットを振ります。不安がない選手は本気で野球を考えたことがないが、頭がないかです。

１５人の選手の中で本気で練習したいと思っていた選手、みんながするみたいだからマズイと

思っていた選手、両方いたと思いますが、渕崎グランドで約２時間バッティングをしました。私の考え方を打つ前に伝え、打ってみました。その後、６人の選手がまだ打ちたいというので９時半までフルスイング塾で打ちました。１日やっただけで簡単に結果が出るものではありませんが、やらなければ絶対に結果は出ません。私の体は朝６時半から９時半までユニフォームを１５時間着ていたことでボロボロになりましたが、心はとても晴れやかで充実感で一杯でした。

自分からやった練習とやらされた練習、１５人の中でどうだったかは私にはわかりません。しかし確実に何人かはきっかけを掴んだはずです。何かを手に入れそうな時の練習は楽しいものです。その時に指導者、保護者は邪魔をしてはいけません。そんな練習が私は好きです。練習し続ける子（選手）のために私はいます。

第２１１話/2016.07.12

７月９日（土)、１０日（日）に日刊大会１回戦とチェーンリーグがありました。段原クラブは何とか苦しみながらも準決勝に進むことが出来ました。今回の３試合は相手の投手のレベルが中から上程度、このぐらいのレベルになると下位のバッターでは打つことが出来ません。６番から後ろのバッターは何も出来ませんでした。ヒットは打てなくても相手の投手に出来るだけ数多くのボールを投げさせるとか、ランナーがいれば進める事ぐらいはしてもらわないと試合に出る資格はありません。チームの役に立てる仕事が出来るように練習して欲しいと思います。

何とか勝ち上がることができたのは、ピッチャーの無駄な四球がなかったとは言えませんが、今までより少なかったこと、エラーが３試合でひとつだったこと、その結果失点が２点に抑えられたからです。今まで四球やワイルドピッチ、エラーなどでヒットの倍の点を取られる試合が多かったのですが、いつも言っている通り、当たり前のことが出来れば試合になるということです。結果的にはベスト４に残りましたが、不満は数多くあります。

・ヒットを後ろに逸らす外野手
・送りバントが１球目で出来ない
・ランナーに出てもバッテリーにプレッシャーすらかけられない
・チャンスで中心打者がストレートに遅れる
・無死１，２塁で打球を引っ張れない左バッター
・追い込まれていないのにフルスイング出来ない下位バッター

勝ち上がるためには守備のミスはゼロが当然です。思い当たる選手がたくさんいるはずです。これらのことはそれほど高い技術は要りません。強い意識で何とかなるレベルです。段原クラブは正しい技術を正しい練習で伝えています。そして３年生は練習では身に付けた技術を出すことが出来るレベルになっています。これを試合に出せるか、選手達の考え方、精神力、自信、プライド、集中力いろいろな言い方があると思いますが、そういう部分の勝負になるのかもしれません。

高校野球広島県予選が始まりました。段原クラブのＯＢのみんな、思いきって野球をして下さい。そして３年生の皆さん、３年間よく頑張りました。勝っても負けても３年間最後まで努力し続けたこと以上のものはありません。いろいろな高校でいろいろな野球があります。それには上下はありません。自分のいる場所でそれぞれがそれぞれの野球をすればそれでいいです。最後は全国のチームが負けて終わります。堂々と胸を張って高校野球を終わって下さい。３年間で大きくなった心と体を後輩に伝えてくれたら、ありがたいです。中学生にとって一番近い目標の高校生と一緒にグランドで野球することは、彼らのプラスに必ずなります。是非、力を貸して下さい。

グランドで待っています。高校３年生のみんな、君達は全員勝者です。ご苦労さま。

第２１０話/2016.07.04

７月２日（土）リーグ戦後期の２試合がありました。対八幡に３－３引き分け、対五日市９－２勝ち通算２勝１敗１分けで決勝大会に残れたと思います。リーグ戦はいろいろ試しながら４位までに残れればＯＫなので目的は果たせました。しかし、内容は良くありません。特にエース（背番号１）が物足りない。私は常々点を取られるなら打たれて取られなさいと言っています。ストライクゾーンに思い切って投げ込んで打たれたのなら練習しなければいけない事がはっきりします。相手のバッターがバットを振っていないのに点を取られるのは絶対にダメです。八幡戦がその一番ダメな投球でした。３－０で勝っているのに先頭から２者ファーボール、結局１イニング３四球３つのワイルドピッチ、３失点同点です。これは野球とは言えません。３割打てば良いバッターと言われます。軟式野球ではチーム打率２割前後ではないでしょうか？良いバッターでも３回に１回、もしくは４回に１回しか打ちません。それなのにリードしている場面で打たれる事を恐がって逃げる、ワンバウンドを投げる。なぜ、思い切って腕を振って向かっていかないのでしょう？打たれたら練習すればいいだけの話です。エースがチームの先頭に立って戦わなければいけません。先頭が逃げたら戦いは負けます。そういう点で今年は背番号１を背負う資格のある投手はいないのかもしれません。「立場は人を変える」この言葉を信じ着けさせてみました。変わってくれることを望みます。

今年の広島市軟式野球連盟の総会でデッドボール（投球が打者の触れた時）について説明があり、今年から打者が投球を避けようとしなかった場合（避けるとはバッターの背中側に逃げること）はデッドボールにしないし、そういう指導をしている指導者に注意するという説明がありました。当然のことです。ルールブックに書いてあるのですから。打者が打とうとしなかった投球に触れた場合、打者に１塁への安全進塁権を与える。ただし、ストライクゾーンで触れた時、打者がこれを避けないでこれに触れた時は除かれる、避けなければいけないのです。避けなければボールです。避けるとは危険から逃げる行動のことです。ルールブックにもはっきりと書いてある。軟式野球連盟からもそういうことをしないように言われている。それでも当たろうとする選手がいる。もっと酷いのはそれをデッドボールと判定する審判がいる。そして言うに事を欠いてルールブックにそんなことは書いてないと言う、話になりません。審判服を着てグランドに立つ前に当たり前のことをやっていきましょう。ルールブックの打者が安全に進塁できる場合というページ読んで下さい。

ストライク、ボール、アウト、セーフはアマチュアですから間違えることもあるでしょう。ある程度は仕方ないと思っています。（しかし、この前の試合の見逃し三振３つ全てボールですけど）一塁手が完全に足が離れていてもアウトになりましたけど我慢します。ルールの適用間違いはダメです。そして間違いを堂々と口にしてはもっとダメです。「ボランティアだから」とよく耳にします。ボランティアではありません。車のガソリン代以上のものをもらうはずです。それは責任をもってお願いしますということです。

私は指導者として子ども達に嘘をつかないようにルールブックを読みます。試合の中で悩んだ事があれば、軟連のルールに詳しい審判さんに教えて頂きます。誰も完璧を求めている訳ではありません。間違いはあります。認め変わればいいのです。子ども達のために大人はしっかりとしなければいけません。段原クラブではお父さん方に厳しく審判の練習をしてもらっています。全

て子ども達のためです。

第２０９話/2016.06.27

６月２６日（日）ある中学校の野球部と練習試合をしました。顧問の先生とは前任の中学校からお付き合いをさせて頂いています。最初に試合をした時にグランド整備の丁寧さ、しっかりした挨拶、言葉使い、試合に取り組む姿勢、どれも素晴らしく、段原クラブの子ども達に勉強になることが多いと思い、学校が変わってからも同様に年に２、３回試合をさせてもらっていました。しかし、今回は本当にガッカリしました。

中心だろうと思われる選手の言葉使い、取り組み方、審判に対する態度、どれも中学生の素直さも謙虚さも全く感じられず外の世界を知らない井の中の蛙、ただ不愉快な試合でした。想像でしかありませんが、勝つために必要な選手であるがために指導に遠慮があり、勘違いさせてしまい、我がままなプレーをし、本当はチームのためにならない選手になってしまっているように思いました。ある程度自信があったのでしょうが、段原クラブとの試合で全く通用しない自分の力にいらだっていたのでしょう。自分の力の無さを認めたくないために審判のせいにしたり、くだらない言葉で紛らわそうとしていたのでしょう。上には上がいます。現実を見て、それを認め、今以上の努力をするしか近づく方法はありません。今のままでは勘違いしたまま高校へ行き、鼻を折られ野球人生が終わってしまいます。

上達する方法はひとつです。自分の未熟さを認め、正しい練習を数多くする。まず心（考え方）を変えることです。前からずっと中学生の野球で面白くないと思っていることがあります。まず、ピッチャーがセットポジションに入ると、コーチだけでなくベンチ全員でピッチャーに対して「ゴー」「ゴー」と大きな声を出すチームいます。本来の野球はピッチャーが投げようとしている時は声を出さないのが礼儀です。はっきり言って大嫌いです。基本をしっかりやらなければいけない時期に邪魔です。審判はなぜ注意しないのでしょう？ランナーのバタバタしたリードも同様です。どちらもそんなことをして相手がミスでもしてくれたらという考え方です。そんな野球をしていると子ども達の技術は上達しません。ピッチャーとバッターの一対一の勝負をしっかりさせることが中学生のためになります。あくまで勝つ為のゲスな方法より、個の技術をアップする事に集中するべきです。小学校もそうですが、子どもの野球はあくまで基本、原点能力のアップを第一に考えなければいけません。試合中にそれを邪魔するようなプレーをさせるべきではありません。あんなリードは上では通用しません。何度も言いますが、中学野球は高校野球に行くための通過点なのですから勝つ為のテクニックを練習している時間などないのです。チームが勝つためのテクニックを身に付けある程度勝ち上がったとしても、それが自分自身の力と勘違いしてレベルの高い高校に行って個人として通用しなければみじめな結果に終わります。

今の高校野球をよく見て下さい。昔の考え方のままの名門校どうなっていますか？全国レベルの高校は個々の力をアップしています。チームプレーの練習も大事ですが、個人練習はもっと大事だと思います。

第２０８話/2016.06.20

６月１８日（土）大竹 晴海公園野球場で交流戦を行いました。府中野球同好会、オール笠岡ド

リームス、東城有光クラブに参加頂き４チームで各２試合、計４試合を行いました。梅雨の真っ只中の晴天。暑かった。監督の日頃のおこないの賜物などと言いながらラッキーな１日でした。
　そもそも交流戦をやろうという計画は私の中に数年前からありました。他のチームがやっているような招待試合で順位をつける大会ではなく、良いチームと良いグランドで良い試合をする。そして、そこに高校野球の関係者に来て頂いて、子ども達、保護者の緊張感や集中力、本気度を上げる、その中で今の自分のレベル、現実を知り、目標や夢を見つめ直す。３年生にとってのこれからの９ヶ月間、野球人生の中で一番成長出来る時期だと思っています。君達しだいですが、前からずっと言い続けている中学生の野球は通過点です。チームが勝つ事より個人の能力を伸ばすことが大事です。次のステージへ自信を持って送り出せる技術を身に付ける、そういう目的でやった交流戦、私は大成功だったと思います。
　労力を提供してくれた保護者の皆さん、参加してくださったチームの皆さん、グランドにお越し頂いた高校野球の関係者（校名は伏せます）の方々、そして全力でプレーした選手達、ありがとうございました。進学はもう少し先の話で、誰がどこの高校へ行くのかわかりませんが、縁です。どこに行っても長く長く野球を続けてもらえることを願っています。本当はもう少し多くのチームに参加して頂き、広島全部の高校に連絡して軟式のクラブチームのレベルの高さをたくさんの高校野球関係者に見てもらえる交流戦が出来たら子ども達のためになると思っています。その為には同じ場所に良いグランドが必要です。残念ながら広島にはそんなグランドはありません。スポーツ王国などと広島自ら言っていた時代があるのに、野球のグランド事情は中国地方で最低です。政治の責任ですか？今回も大学のグランドを借りようとしても難しいものがありました。子ども達のために、次の世代のためにという考え方があればと思います。広島の高校野球は最近全国レベルから置いていかれているように思います。そのひとつの原因は中学野球（硬式・軟式・中体連）、小学生（硬式・軟式・ソフトボール）にあります。試合数の増加で一番大切な基礎練習が疎かになっています。
　段原クラブに入部してくる子ども達を見ても、とても経験者には思えません。生まれて初めて野球をする子と対して差のないレベルです。プロ野球の指導者より、子ども達を指導する人達の方がしっかりする必要があります。「基本」とは「基礎」とは、しっかり私も含め勉強です。段原クラブの１年生は私から見れば野球未経験者なので時間を掛けて、つまらない練習をする必要があります。その為にはグランドだけでは足りません。親子共々気づいてやるか、気づかずに惨めな野球人生は送るのか分岐点です。
　６月１９日（日）練習の手伝いに来てくれたＯＢの島川、安達、比嘉、足立ありがとうございました。いつでも誰でも大歓迎です。グランドで汗をかいて飯でも食べましょう。酒でも飲みましょう（二十歳から）。ひとりでも多くのＯＢがグランドに来てくれることを楽しみにしています。
　もうすぐ７月、３年生の皆さん集大成、本気（マジ）集中です。

第２０７話/2016.06.13

　「慣れ」、この言葉は良い面と悪い面があります。３年生は段原クラブに入部して２年数ヶ月、いろいろな事に慣れてきました。入部したばかりの頃は、今までと違う練習や考え方、先輩や迫力があり怖い監督の圧力などで緊張していました。新しい理論や理にかなった練習でワクワクもしていたはずです。しかし２年経つと慣れます。これはマンネリとも言います。
　１年生の時には目を輝かせて聞いていた指導も、胸に一杯だった夢や希望も現実を見るように

なり半分になります。そして男の子から男に変わり、プライドだけが大きくなります。素直さが小さくなります。それが野球の成長を妨げます。

これは保護者も同じ事が言えます。毎週毎週指導する指導者に対する感謝の心を慣れが半分にし、思い通りの結果が出ないと責任をぶつけたくなります。感謝して欲しいと言っているのではありません。慣れによっていろいろなことがルーズになり、それが子ども達に対する厳しさを欠けさせ、足を引っ張っていることになりませんか？よく子ども達を見て下さい。段原クラブの練習を見て下さい。クタクタで倒れそうになりまで走りますか？長時間しますか？水分はいつでもとれます。休憩もとります。これでなぜ全力をださない？声にしても、走るにしてもなぜ？試合はもっと楽です。なのになぜ？

あなたの子どもは全力を出し切っていますか？　こんな楽な練習の中でよく見て下さい。いつも言っている通り、子どもがやらないのは親の責任です。大人の正しい考え方、意見を聞かない子どもの世話をなぜするのですか？やらなければ、聞かなければ一切面倒をみない。洗濯も食事も小遣も、掃除も送り迎えも一切しなければいいのです。練習はやった方が良い事をみんな知っています。

いい事なのか悪いことなのかわかりませんが、段原クラブは退部者がいなくなればなるほど勝率は下がっています。私が甘くなったという事だと思います。上のレベルを目指さないレクレーションクラブになっていくような気がします。そのチームに私は必要ないような気がします。

活気にあふれた、全員が上を目指して必死でボールを追いかける集中した練習、試合がしたいです。ギラギラした目の子ども達と野球がしたいです。きっと楽しいだろうな。

第２０６話/2016.06.07

私は愛知県の愛工大名電高校出身です。沢山のプロ野球選手がいます。その中のトップがイチローと福岡ソフトバンクホークスの監督をしている工藤です。６月３日（金）、高校の野球部とプロ野球の先輩という嫌な力を利用して、試合後のホテルで少しの時間でしたが会うことが出来ました。

シーズンの大事な時期。それも明日の試合ためのミーティングがあるという中で私のために時間を作ってくれました。それだけでなく、チームの子ども達全員に直筆のサイン入りカードをプレゼントしてくれました。私は今まで先輩という力を使うことを嫌っていました。迷惑を掛けたくなかったからです。話の勢いの中でチーム保護者の勢いに負けてこのようになってしまいました。

きっと工藤はそのような事を全て想像して、私（先輩）の顔を立ててくれたのだと思います。日本中で１２人しかいないプロ野球の監督という仕事がどれほどハードなものなのか？その世界に少しは関わった私にもわかります。本人にも言いましたが、本当に体に気をつけてほしいと願っています。そしてお礼を言います。ありがとうございました。力を貸して頂いた高校野球部のＯＢ会長、ソフトバンクのマネジャーの井原さん、本当にありがとうございました。

私と工藤監督は年の差が４つ、現役時代は西武×巨人の日本シリーズと私が南海ホークス時代。私は２軍暮らしが長かったので少しだけグランドで顔を合わせています。対戦は１度だけ、ファーボールだったと記憶しています。グランドでユニフォームのシャツのボタンを２つ開けている工藤に「よくないぞ」といった事があります。その返事は「僕は身長が低いので体を大きくしないとプロ野球で勝負出来ません。トレーニングしていたらボタンが止まらなくなりました」でし

た。自分をしっかり見つめた答えに関心した覚えがあります。ＦＡでチームを変わる時もトレーニング施設だったり、個人トレーナーがつけられるなどでチームを決めたと聞いています。そういう日々の努力が２０年以上の現役生活を支えたのだと思います。確かに私の後輩（年下）ですが見習うところの多い野球人です。

プロ野球と中学野球、とんでもなくレベルの違いはありますが、バスから降りて歩いてきた堂々とした姿、立ち振る舞い、言葉使い、そしてチームの強さ。ダントツ首位でその日完勝してもホテル到着即ミーティングという厳しさなど、これからの段原クラブに生かしていきたいと思います。

第２０５話/2016.05.30

５月２９日（日）日刊大会の開会式がありました。試合も無いのに開会式のためだけに集まるというムダな１日を過ごしました。中学生クラブチームは毎日練習出来る訳ないので土、日曜日はとても大事な１日です。その１日のうちの半日を潰すのはとてももったいないと私は思います。それでなくても午後から下り坂の天気。本当なら、雨の降らない午前中に練習をしておきたいのに？

私は誰でも出る事が出来る大会の開会式に価値を感じません。勝ち上がって代表として出る大会は価値があります。そんな時間があるなら少しでも長くグランドで練習した方が彼らのためになります。いろいろな考え方があるので組織にいると思い通りになりませんが。今、段原クラブは交流戦を計画しています。今年、歯が立たなかったチームに集まってもらって、高いレベルの野球をお互いに感じ、お互いのレベルアップにつながるような試合が出来ればいいと思っています。まだ計画の段階でどうなるかわかりませんが、良い選手達が意識し合いながらの試合を見てみたいと思っています。そして高校野球の関係者の人達から注目してもらえるようになれば、なお意味のあるものになると思います。

日曜日、３年生の進路の希望を聞きました。まだ少し早いのですが、目指すところがハッキリすればやることがハッキリします。野球でも勉強でも良い効果が出るはずです。各自の思いがわかり指導する方もやり易くなります。思いを実現するため、そして高校での野球を実りあるものにするため今、そしてこれからが大事になります。本物を少しでも多く身に付け、身に付けることが出来なくても考え方はしっかりと頭に入れて高校に進学しなければいけません。

３年生の皆さん、残りの練習は何日ありますか？数えてみて下さい。１日を大切に、そして大事に、出来るだけ多くの技術を、そして考え方を吸収して下さい。私の力が必要ならどんどん利用して下さい。利用するべきです。あなた達の力が付いていくのはこれからです。高校に向けて勝負が始まります。

第２０４話/2016.05.23

５月２１日（土）久々にミーティングをしました。内容は「身体能力に恵まれていない段原クラブの選手が１日でも長く野球をするための方法」、子ども達にどこまで伝わったかわかりませんが、身長１８０ｃｍ以上にならない、１００ｍを１１秒前半で走れない、ボールを１００ｍ以上投げられない、空振りをしない、スチールをいつでも出来るぐらいの能力を持っていなければ頭

を使う以外結果を出す方法はありません。やらない人はほぼ、中学、高校で野球人生が終わるということになります。自分自身の野球人生なので自分で決めれば良いのですが、段原クラブの部員は私が預かった以上、正しい方法を伝える責任があるので何度か折を見て伝えなければと思っています。しかし、大事なのは聞く方のモチベーションです。望んでいない人間に何を伝えようとしても伝わることはないので、途中であきらめることになります。

日曜日、千代田中学校との練習試合後、１年生の練習を少し見ましたが今までと変わった様子は感じられませんでした。相変わらずの極々普通の子ども達が極々普通のモチベーションで野球をやっているだけ、本当にこの子達は（親も含め）上のレベルを目指しているのでしょうか？私は魔法使いではないので、普通の子が普通に練習していれば普通のチームになります。そしてこのままだと１７人の中で５、６人が試合に出て残り１２人程度は控えということになります。なぜなら、このままではチームになりそうにないので、６年生で気持ちと能力のある選手を真剣に探そうと思っているからです。

私は普通という言葉が嫌いです。普通はつまらない、特徴がない、可もなく不可もなく、毒にも薬にもならないということです。他人とは違う、これは良いことです。鰯（イワシ）のように先頭が右を向いたら全員が右を向くような選手（人間）はつまらない。みんなと同じだと安心、こんな選手になって欲しくありません。１年生の皆さん、まず自分です。１人だけ、自分だけ上手くなれば良いのです。競争です。同級生は全員が敵なのです。勝負とはそういうことです。１人で練習しましょう。誰かが休めばラッキーです。そんな選手が私は好きです。

ある人から練習中に私が子ども達に使った言葉が不適切だとお叱りをいただきました。私の中には常に子ども達に言っている「野球をやりたくても出来ない子どもが世界中にたくさんいる。そんな中、五体満足で野球が出来る環境にある君達が一生懸命やらないのは失礼だ」があります。差別意識は全くありません。自分自身も子どもの頃、髪の毛が茶色いことや、顔が日本人離れしているため差別された経験があります。しかし、１人でも不愉快に感じられた方がいたのなら反省し、謝罪しなければいけません。その方とお会いし謝罪させていただきました。そして二度とこのような事がないようにしていかなければなりません。

「子ども達のためになる」と思ってやっている中に、自分よがりの部分があるようです。指導者として勉強しレベルを上げていきたいと思っています。

今の課題は思いに差のある選手（親）達を同じチームの中で同じ方向を向かって努力することが可能か？私の中では無理という結論です。（今は）　むずかしい。

第２０３話/2016.05.16

スポーツは体が大きく、力強く、スピードがある選手が有利である事は間違いないです。野球もプロ野球選手を見れば判る通り、パワーとスピードがある選手が圧倒的に有利です。有利であることは事実ですが、絶対ではありません。体に恵まれないで何年も活躍している選手がいます。投手は少ないがいますし、野手には数多くいます。段原クラブは体に恵まれた選手があまり入部してきません。では、どうするのか？

まず、正しい技術を身に付けます。正しい技術とは正しい体の使い方です。小さい力を大きな力に変える技術です。次に野球というスポーツの試合のシステムを知ることです。いろいろなスポーツがあります。相手のある競技と無い競技、動き続ける競技と止まっている時間の長い競技があります。野球は相手があり、ボールが止まっている時間が長いスポーツです。ここにパワー

とスピードを補う方法があります。私が子ども達に常々言っている、予測と準備、そして状況判断です。次のプレー（投手が投げてくるボール、打球が飛んでくる方向、相手の作戦）が予測出来れば予め準備が出来、対応しすくなりミスが減ります。ファインプレーとは、飛びついて捕るものもありますが、芯を食われた打球（投手がやられたと思った打球）を苦も無く正面で捕ることです。（予測と準備の一例です。）そして状況判断、イニング、点差、アウトカウント、ランナー、打順を常に頭に入れ、試合が終わった時、１点勝っているために今、最適なプレーは何か、そして最低限しなければいけないことは何か考えてプレーすることです。体が大きくパワーとスピードのある選手に勝つため頭と足を最大限に利用しなければなりません。今年の選手（１、２、３年全員）はこの部分が欠けています。投手は球が速ければよいわけではありませんし、打者は打球が遠くへ飛べばよいわけではありません。相手のあるスポーツです。自分勝手に自分の都合に良い野球をしていては、良い結果に結び付きません。

段原クラブはフルスイング塾が使用できるため、雨が降ってもバッティングが出来ます。技術の練習中心になり、ここのところ頭の練習がおろそかになっていました。それでなくても小学生の時、何も知らず野球の試合だけを数多くしてきた子ども達です。もう一度、本当の野球の考え方をしっかり座学で伝える必要があります。

体を作ることはスポーツにおいて一番大切な事です。力も強くなり、スピードも出ます。そしてケガもし難くなります。頭も鍛えなければいけません。有り難いことに野球は日本人の体格で世界と勝負出来る数少ないスポーツのひとつです。なぜか？そこに体に恵まれていない選手の生きていく方法があります。正しい練習をしています。技術も身に付いてきました。それを試合で生かすための頭です。本物を伝えます。

第２０２話/2016.05.09

最近、書くことが無くなってきました。これといった良いことも悪いこともなく、なんとなく日々が過ぎていっています。毎年、同じ時期に同じ大会があり、同じような相手と当たり、同じような試合をする。これを繰り返し、刺激が年々なくなってきました。大野シニアや安シニアが広島西協議会から脱退し、今までと違う日程だったり、チームだったり、新しいことをする気持ちの高ぶりだったり、少しうらやましいような気がします。私は色々なことをする時「例年通り」が嫌いです。もっと良くすることは出来ないか？良い大会をする方法はないか？子ども達のために大人は考えるべきだと思っています。

土曜日に協議会のトーナメント大会がありました。今年は８チームの参加です。湯来運動広場まで行って１試合、それはないよ。グランドが２か所２面あるのなら４チームずつ分けてチェーンリーグで１、２位を決め、後日準決勝、決勝をするべきです。はっきりいって重い大会ではありません。出来るだけ多くの選手を出させてあげたい大会です。これを単純トーナメントでやる理由がわかりません。子ども達にとって貴重な一日を試合時間より、移動時間が長い一日になってしまうのは可哀想です。私は大会をやるなら、せめて１チーム、１日２試合出来るように配慮するべきだと思います。

今年、県知事杯の段取りを広島グリーンファイターズと共に任されたので、１日目に全チーム２試合出来る大会にしました。遠くから来て、参加料を払って１試合で負けたらサヨナラ、私ならその大会に遠くから参加しません。いつも言っていること、子ども達の団体は大人の都合より、子供の都合で動くべきです。本当に大事な、大きな次のステージがある大会（全軟等々）以外、

１日目は勝っても負けても２試合出来るようにしてあげるべきだと思います。遠くまで行って試合に出る事なく、帰る子がいることをみんなで知るべきだし、考えるべきだと思います。
　今年もプロ野球ＯＢクラブの「子供の日野球教室」がありました。昨年は東広島、今年は三原でありました。言いたい事は、はっきりしています。昨年も書きましたが、技術がひどい、何も指導されていない、只々子ども達が可哀想です。
　指導者の皆さん、せめてキャッチボールと下半身でバットを振ることぐらいは指導しましょう。私はいつも捕手とバッティングを見ますが、キャッチボールが出来ない選手に捕手は無理です。まぁどこも無理ですが、バッティングも結局、体の大きい子が打つだけで技術は全くありません。上に上がった時に困ります。基本中の基本ぐらいは教えないと野球チームを名乗るのはどうかと思います。一番大事な最初、三つ子の魂百までではないですが、私の言う、育ちの悪い選手は中学で中々直りませんよ。全ての指導者で小学生の指導者が一番しっかりしていなければいけないと思います。自分が経験した少ないものでなく、もっともっと勉強を重ね、現代野球を伝えて欲しいと思います。

第２０１話/2016.05.02

　全軟が終わりました。
　私の予想通り、子ども達は身に付けた力を発揮する事なく１回戦で負けました。何度も書いている通り試合で出せない技術は無いのと同じ！！
　確かに努力は大切です。努力しない選手はそもそも可能性すらありません。ただ、努力をどんなにしても、人一倍頑張っても試合で結果として出さなければ、これも意味の無いものと世間は判断します。今はメンタルトレーニングとか、体罰の禁止とか子ども達の心を守ることが重要だと言われています。私の中学、高校時代にはそんな考え方は全くなく、家でも学校でもグランドでも寮生活でも、全ての場面でとにかく厳しく厳しく指導を受けました。それが理由かどうかわかりませんが、甲子園での１打席目以外、グランドで緊張したことはありませんでした。
　自分の持っている力をグランドで全て出す、その為に何が必要なのか？指導者として何をしなければいけないのか？練習で何をすれば？他人が手助けできるものなのか？
　野球の技術を伝えるのはそんなに難しいものではありませんが（本人が出来るようになるのか、ならないのかは別）結果として出すのは難しいです。
　プレッシャー、緊張、結論はそれでいいのでしょうか？
３年生はこれから高校野球を意識した野球をしていくことになります。出来るだけ早くはっきりとした目標を決めるべきです。試合に出るとか、ヒットを打つとか目の前の小さなことではなく、もっと先の大きなものを目指してコツコツ努力することが大切だと思います。ヒットを１本打ったぐらいで満足する野球では上には上がれません。野球人生の最後のステージを常に意識し、そのために今、何をしなければならないのか？目の前の結果を欲しがってばかりいる努力が持っている力を出すことを邪魔しているように思います。たしかに試合に出たいし、出たら打ちたい、そしてチームも勝ちたいそれはよくわかります。それだけのために野球をするのは違うと思います。高いレベルを目指すためには、そのレベルの体、そして技術、精神力必要になります。それは簡単に手に入れられません。時間が掛かります。試合に出た、出ない、打った、打たない、勝った負けたで一喜一憂していたり、大会前だからいつもより打つとか、試合で打てなかったから練習するとか、そんな練習で本物の力はつきません。

結局、ごまかしの努力では野球の神様はだまされないということです。段原クラブに入部した時に語った目標は中学野球でしたか？違ったはずです。中学に全国大会？小さいです。そんなもので野球人生のアドバンテージはとれません。たかだか通過点に過ぎない。野球でプレッシャー。おかしくないですか？目指さないのなら口に出さないことです。周りが迷惑します。出来るか出来ないかではなく、やるかやらないかです。

第２００話/2016.04.25

「人事を尽くして天命を待つ」、２９日（金）から始まる全軟西部大会前のグランドで出来る最後の練習が終わりました。昨年秋の文部科学大臣杯１回戦１－０の敗戦から９ヶ月、やらなければいけない事、全部出来たか？全て伝えたか？今自分自身に問いかけています。チーム作りする時に、こんなチームになれば勝負出来るのではないかとイメージします。バットを振る力は秋、冬、春と数を振ってきた事により、例年の段原クラブのレベルになってきました。ただ大きな試合ほどバッティングはあてになりません。勝負のカギは投手を含めたディフェンス力です。

過去、ある程度勝ち上がった時のチームには１試合を任せられるエースがいました。今年の不安要素はそこにあります。投手力と守備力がイメージの所まで上がってきませんでした。試合で１００%の実力を出すことが出来れば勝負になると思いますが、もしプレッシャーなどで力を出し切れなかった場合は完敗する可能性があると思っています。監督が子ども達の足を引っ張らないよう、心の弱い選手達が出来るだけ練習のような力が出せるように言葉に気をつけながら試合を進めていきたいと思います。

私は今年５７歳になります。いわゆる古い人間です。最近、保護者達とギャップを感じる事が多くなりました。私の時代と違いギラギラした物を感じません。みんな大人しい良い保護者の方々です。きっと家でも子どもに声を荒げることもなく、瀬戸内海のような平穏な生活をしているように見えます。私の中学時代は太平洋の荒波のような家庭で心と体を鍛えて、野球で勝負出来るようになりました。人と人のつながりの薄さなど寂しく感じます。「自分にとって都合の良いものは利用させてもらいますけど、都合の悪いことは結構です」そんな感じがしています。

野球はチームスポーツです。レギュラーは９人です。ルールで決まっていますし、みんな知っています。部員が１０人以上いれば試合に出るチャンスは減ります。極々当たり前のことです。チーム内で競い争い、奪い合いそして敗れたなら、その試合は潔く、チームのために全力でサポートに回るべきです。心からチームとして勝つという思いを全員が持てれば、そのチームは価値のあるチームになります。そして私が常に言っている「強いチーム」より「いいチーム」とは、見ている人達の心を揺さぶることの出来るチームです。全軟でそんな試合が出来れば君達の勝ちです。

第１９９話/2016.04.18

４月１６日（土）１７日（日）香川県丸亀市に遠征しました。素晴らしい球場（丸亀市営球場）と天気で予定通り試合出来、全軟に向けた練習試合を計画通り消化する事が出来ました。球場関係者の方々、審判、対戦相手のチーム、監督、保護者、そして段原クラブの保護者、たくさんの人達のお陰で２日間無事に終わり感謝します。本当にありがとうございました。

自分以外の人達の力（お金・労力）を借りて、野球が出来ている事を子ども達が理解し、感謝しなければ中学生のスポーツの意味が薄れます。本当にわかっているのか疑問に思うところが多々あります。試合をすると勝つ事と負ける事があります。その結果だけには大きな意味はありませんが、その内容には大切な物があります。私は子ども達が練習によって身に付けた技術を１００%出し切れれば、それが勝ちだと思います。その為に精神力（思い）が必要です。力を出し切れず負けた時には自分自身の不甲斐なさに腹を立て、自分に怒り、責め、悔しがって欲しいと思います。今年の３年生は上手くいかない時に悲しそうな淋しそうな顔をします。グランドは勝負の戦場です。私はそれを「勝負に向いていない選手」と言っています。

２日目の最後の試合で完敗しました。それは構いません。明らかに能力の差があるのですから普通にやれば当然負けます。私が気に入らないのは内容です。グランドでの声、キビキビとした動き、そして勝つ事への執念、全て完敗！！力の無さを痛感し、指導者として悔しく、恥ずかしく自分自身に腹が立ちました。私の練習、指導の何が足らないのか、試合中、後、そんな事ばかり考えていました。広島にバスが到着し、降りてくる子ども達を見てガッカリしました。ほぼ全員が寝ぼけた目「あんな試合の後、寝られるんだ」日曜日の朝はゆっくり時間があり、寝不足ではないはずです。もしそうなら夜の過ごし方に問題があります。

悔しくないのです。グランドを出れば忘れてしまうのです。野球は勝負です。勝負の世界に向いていない子が足を踏み入れてしまったという事です。

バスが着いて座席下のトランクに入っている子ども達の荷物を保護者が降ろしています。それを子ども達は当たり前のように見ています。野球チームの光景ではありません。幼稚園児ではありません。中学生です。おかしいでしょ？保護者の皆さん、生まれた時から今までそうやって甘やかしてきた結果です。グランド作りから片づけ、荷物運び、審判、そしてお金、全てを与えて。それが当たり前でないという事を伝えていない。子ども達は何も生産しませんし、１円も稼ぎません。自分一人では何も出来ません。どれだけの人達の力を借りているのか、どれだけの人達のお陰で野球をさせてもらっているのか、教えるのは親の責任です。心を込めて全力でやる。当たり前です。

中学生の頭脳で一度言われたら誰でも意識して誰でも出来ること、そんな事もしない子どもにグランドに立つ資格はありません。「忘れました」、「意識していませんでした」、「次からやります」、「変わります」聞き飽きました。思っていない事を口に出すから出来ないのです。その場しのぎはいりません。本当に野球が大好きでグランドでハツラツといい顔で子どもらしい明るい選手と野球がしたいです。

人間は感情の動物です。本当に心の底から好きな事なら覚えられるはずです。負けたら悲しいのではなく、負けたれ悔しいのです。この完敗が子ども達の野球が変わるキッカケになれば、お金を掛けた遠征が安い物になります。

第１９８話/2016.04.11

段原クラブは軟式野球連盟に加盟以来、広島スターズを目標にしてきました。打者は「スターズのピッチャーを打てますか？」、投手は「スターズの打線を抑えられますか？」これを基準にしています。高校野球で言えばスターズは私立の野球校。段原クラブは県立の普通校。これば入団してくる団員の小学校時の実績、能力の違いです。これを踏まえた上で私も含めスタッフはなんとか追いつきたい、そして勝ちたいと思い、今まで全力を傾けてきました。しかし現実には中々

勝つ事が出来ません。当然です。相手は広島Ｎｏ．１のチームなのですから、選手・保護者も含めチーム全体で全国を目指している私立の野球校にどうしたら勝負出来るようになるのか。「正しい練習を数多くやる」、そして「正しい野球をする」そう思ってやってきました。そして選手も保護者も同じように目指しているものだと思っていました。

しかし、そんなものは私の独りよがりでした。結局は県立この普通校です。本気で野球校に勝ちたいと思っている選手は一握り。目指しているのは自分の事だけ、試合に出られるか？そして出られたらヒットを打ちたい。そんなレベルです。

私は子ども達に３月はオープン戦、個人個人のポジション争い。４月からは全軟モード。チームが勝つ為に試合をする。そしてそれは常にスターズ戦を意識して戦うことを言ってきました。しかし相変わらずほとんどの選手がヒットを打つことにしか興味がないようです。私は、守備はチームのためバッティング練習は自分のためだと思っています。そして子ども達にも言ってきました。全軟で良い結果を出すために今、何が必要なのか？選手・保護者全員、本気で考えるべきです。

広陵高校の中井監督が講演で言っていた言葉、軟式チーム出身者と硬式チーム出身者の違い。「力の差は無いが、選手・保護者のモチベーションが違います。」まさにスターズと段原クラブの違いそのものだと思います。私は県立の普通校に入団してくる選手達をなんとか勝たせたい。そして次のステージに上げてあげたいと思い努力してきましたが、それは思いの無い相手には迷惑なのだと気が付きました。これからは選手・保護者を見て、そのモチベーションに応じて対応していくのがお互い嫌な思いをしなくて済みます。「私の時間は思いのある選手のために使う」そうしていこうと思っています。鈴木家の野球に対する考え方と温度差が有り過ぎるので、チームのために私の温度を下げようと思います。

第１９７話/2016.04.03

４月２日（土）理事長杯県大会がありました。結果は１回戦負け、原因は私の慢心にあります。組み合わせを見た時、２回戦の府中オーシャンズの事を考えました。先日の神辺東ベースボールクラブの招待試合でチームの中心選手が故障した事により、ピッチャーを２回戦に残さなければ勝負にならないと判断しました。その為、１回戦では４番手、５番手の投手で試合する事になります。昨年秋は全く戦力にならなかった選手ですが、この冬の努力で３月の練習試合で良い結果を出しています。対戦相手には申し訳ありませんが、十分に通用すると思いました。しかし、初めての公式戦の登板、まして福山市民球場、努力して身に付けた能力をひとつも出す事なく２回７失点、野球はメンタルスポーツだという事を思い知らされました。私の慢心が子ども達の油断につながり、みじめな惨敗を喫しました。練習試合でいくら打とうが、抑えようが公式戦は別物だという事です。本当に勝負は心の中にあります。中心の中の中心チームの核を失うと全ての選手の力が半減します。今年のチームは結局、児玉のチーム、いるといないでこんなに選手達が変わってしまう。全員が不安な顔でグランドに立っています。選手達、悔しくないですか？？

今年のチームは新チーム結成以来、３年生全員がベストの状態で揃った事がありません。全軟まで約３週間、気持ちを高め、もちろん練習に集中し体と心がベストの状態で挑みたいと思います。私はあきらめません。ひとりでもあきらめず本気でグランド立っている子どもがいる限り、試合の前日まで、もがき、あがきます。今、段原プライドを見せる時です。

保護者の皆さん、子ども達を甘やかす事なく、全力サポートをお願いします。ケガで全軟西部

予選に出られない選手を県大会に出場させる責任が全員にあると思います。その為に私は妥協しません。「次から気を付けます」、「次からやります」認めません。君達のために私は厳しくなります。

第１９６話/2016.03.28

２６日（土）海田中学校、坂中学校と練習試合をしました。いつも思うのですが、中学校の野球部にも素材が素晴らしい子が多くいます。しかし、たいていの場合、バッターではスイングの数が足りず、バットスピードがありません。下半身が回らず上半身で打つのでインコースがさばけません。ピッチャーはフォームに問題があり、スピードのある子はコントロールに難があり、ストライクが入る子はスピードがありません。いつも「もったいない」と思います。

そして下級生は１日ボールボーイや得点係、ひどい時には審判をさせられ、野球部なのに貴重な１日が無駄に過ぎていきます。中学野球が出来る日数は限られているのに、これも「もったいない」と思います。グランド事情か指導者の考え方かわかりませんが、牽制の練習だけは良くやっているがわかります。試合で本当に牽制球が多い。段原クラブもしないわけではありませんが、原点能力を上げる練習が１番大事で、勝つ為のテクニックの必要性を感じないので、これも「もったいない」と思っています。

前にも書いた事がありますが、段原クラブは１年生の時ほとんど勝てません。今年の３年生も１年生のリーグ戦で勝てませんでした。その程度の素材が集まります。しかし毎年３年生になれば勝負出来るチームになります。

２７日（日）１年生の練習試合を大野シニアとやりました。案の定２敗、当然です。段原クラブには小学校の軟式でエースという子は、ここ５年入ってきていません。マウンドに上がった事のない子投げては勝てません。そういう選手を２年間掛けてピッチャーに育てます。今年の卒団生のピッチャーも新３年生、新２年生のピッチャーも同じです。私は投手経験がありますし、プロ野球界の偉大な先輩達の教えもあるので、育てる事が出来ます。今年の１年生もピッチャー希望者が何人かいるので、その中で１番努力した子がエースになるのだと思います。そして１年生の時には歯が立たなかったチームを３年生の時には追い越します。あくまで子ども達が全力で努力したらの話ですけど・・・。

野球が好きで小学校の時、思うような結果を出す事が出来なかったから、段原クラブで変わりたいと思い、入部してきた子ども達が多いと思っています。１年生の皆さん、まずチーム選びは正解です。段原クラブには個人の能力を上げることの出来るシステムと指導者と環境があります。しかしあくまで本人の努力があっての話です。小学校で大した成績を残していないのですから、今までと同じ練習量と質では勝負になりません。上達する方法、考え方は伝えられますが、やるのはあなた達です。まずチームー、１年生１６人の中で「１番やっている」と堂々と言える練習をして下さい。「上手くなりたい」、「勝ちたい」魔法が使えなければ「正しい練習を数多くやる」これしか方法はありません。

第１９５話/2016.03.21

３月１９日（土）、２０日（日）神辺東ベースボールクラブの招待試合に行きました。気温が上

がり、バットや腕が振れるようになってきました。ストレートに力のある投手がいなかったこともありましたが、冬の間たくさん振り込んだ選手は、打球の質が上がり距離も出て来ました。１年生の時、カープジュニア（小学生）に２試合連続完封負けしたチームが勝負出来るチームになってきたように思います。まだ今年になって本当に良い投手と対戦していないので、真の力はわかりませんが少し期待したいと思います。ここ最近の試合を見て私が痛感したのが、心（精神力）。勝ちに行く試合で私の顔色が真剣になると子ども達の力が出ません。ベンチで遊んでいるくらいの態度でいると伸び伸び身に付けた力を発揮します。心の優しい真面目な子ども達のチームはそうしてあげるのが良いかもしれません。私の時代は厳しく緊張感のある中で、練習、試合があり、そこで負ける選手は結果を出せませんでした。家庭環境、学校環境が変わる中、野球の指導も時代に合わせる必要を感じています。監督の仕事は練習でひたすら個人の技術向上に努め、試合ではその力を全て出させてあげる事なので私の意識改革が今年のカギになりそうです。

練習中ではなく、試合中に２人ケガ人が出てしまいました。２人とも防ぐのは難しかったと思いますが、１日も早い回復が待たれます。段原クラブはケガ人に対するケアのシステムが確立されているので大丈夫ですが、予防に対して少し考える必要があるかもしれません。

３月２０日（日）に新１年生の保護者に対して段原クラブ（私）の考え方を説明する時間を取りました。今年は今のところ１６人入部してくれたため、今まで以上の競争が起こります。チームにとっても、子ども達にとっても、とても良い事で確実に個人のレベルが上がります。最後にはやった者が勝ちます。今までの段原クラブの歴史がそれを証明しています。

小学校の時、中心だった子をレギュラ―になれなかった子が３年間の努力で追い越していくところを何度も見てきました。日曜日の大会も小学校でレギュラーでなかった子、チームで１番小さい選手が柵越えのホームランを打ちました。段原クラブでなかったら、その子は今でも内野ゴロを打っていたと思います。努力した子に良い思いをさせる。指導者の責任です。

まだ今シーズンは始まったばかりで、これからチームも子ども達も私も思い通りにならないことが出てくるはずです。そういう時こそ、自分達がやってきたことを信じ、大好きな野球を楽しみたいと思います。

新１年生の皆さん、段原クラブを選んだことで君達の技術が大きく伸びる可能性が上がりました。しかしそれには当たり前の努力が必要です。良い先輩がいます。よく見て下さい。どこを見るかで君達の１年後、２年後が変わります。

第１９４話/2016.03.14

「中学校でクラブチームに入ると成績が下がる」ある６年生の親が言っていたそうです。

何言っているの？段原クラブのＯＢは昨年に引き続き今年も２人国立大学に合格しました。高校１、２年生にも野球との両立を目指して努力している子がいます。中学校の野球部の子は全員成績が良いのでしょうか？狭い世界しか知らない親は子どもの足を引っ張ります。

何かが上手くいかない時、ほとんどの人は自分以外に責任をなすりつけたがります。批判されることを承知で言えば、府中町の中学生の件は本当に不幸な事です。当然学校側に責任の多くがあります。しかし、はっきり意見を言える子どもに育てられなかった親には？高校の推薦が有る、無いぐらいで死を選んだ本人は？と私は考えます。人生は思い通りには行きません。努力したからといって必ず結果がついてくるとも限りません。特に野球というスポーツは失敗の連続です。

私は現役時代ピッチャーとしてベストボールが何球投げられたでしょう。バッターとして完璧

な打球が何本打てたでしょう。出来ないことだらけ、だから練習をし続けるしかないのです。ピッチャーは完全試合や全員三振を目指し、バッターは全打席ヒットを目指します。しかし最後まで出来ません。だから苦しくても楽しいのです。私は野球とは人生とはそういうものだと思っています。

３月１３日（日）本年度最初の公式戦、理事長杯西部予選がありました。一冬越して努力している選手達のバッティング技術が上達している事を前に書きました。前日１２日（土曜日）の府中オーシャンズとの練習試合は持っている力を出せた選手が多くいました。しかし日曜日には持っている力を出したバッターは２人だけ、これが野球（人生）です。日曜日の対戦相手より府中オーシャンズの方がチーム力は上です。ではなぜ？メンタルです。公式戦だからだと思います。「勝たなければ」「打たなくては」自分で自分にプレッシャーをかけ、せっかく努力して身に付けた力を自分自身で出せなくしてしまう。こんなもったいない事はありません。

私は子ども達にいつもいっています。勝つ事が全てではない。試合は発表会です。苦しんだり、辛かったりしながら身に付けた技術、力を試合を見ている人達に披露する場です。出し切れればそれで良いのです。勝ったか負けたは後からついてくるもので、今の全てを出す。足りなければ、また練習をすればいいのです。先に書いたように失敗するスポーツなのですから中学生の野球は通過点です。負けたからと言って何も失うことはありません。段原クラブの選手のみんな、せっかく好きな事をやっているのだから練習は苦しんで下さい。試合では自信あふれるカッコいい顔でプレーして下さい。君達の努力を私は見ています。力はついています。段原クラブの野球を信じ、自分を信じプレーをして下さい。

第１９３話/2016.03.07

３月５日（土）、６日（日）山口ミラクルクラブ野球大会に参加させて頂きました。今年は西京スタジアムという立派な球場で試合をさせてもらうことが出来、子ども達にとって良い経験になりました。ありがとうございました。試合は３試合勝ち、決勝戦は雨で中止になりました。生意気に聞こえるかもしれませんが、野球人の目から見て普通にやれば勝って当然の力関係の対戦相手でしたが、中々当たり前の事が出来ず、どの試合も終盤まで勝負を決める事が出来ず、力の差ほど点差をつけられませんでした。

まず失点ですが、３試合でタイブレークを入れて４失点、打たれたヒットは３試合で３本、なぜ４点も取られるのか？これも当たり前のことが出来なかったからです。先頭打者のファーボール、ワイルトピッチ、パスボール、盗塁、スクイズ、ノーヒットで点を取られています。全て防げることです。これからの公式戦で勝ち上がる為に修正しなければいけません。

そしてバッティング、相手投手はスピード普通、コントロール甘い、変化球ほぼ無しというレベル、ヒットはまずまず出ましたが、チャンスで各自の持っている力が出せない。今回は内野ゴロでダブルプレーを３つ取られましたし、ランナー３塁で早いカウントで打ってはいけないボールに飛びついていくなど、頭のミスが目立ちました。このレベルのピッチャーを打てない理由は簡単です。精神的に弱いか、ボールに手を出すか、自分の打ってはいけないボールを打ちにいくか、全てピッチャーに抑えられるのではなく、自らのミスでアウトになります。要は打ちそこなうということです。一冬越して努力してきた半分以上の選手はある程度のレベルの力をつけています。監督としてではなく、野球人の目から見てこの３試合は最低でも５点以上とれるはずです。いつも言っているように、身に付けた技術、能力を発揮するために精神力と野球頭が必要です。

１００％スクイズでしか点を取れないチームにスクイズで点を取られるのもバッテリーの頭です。
　段原プライド、努力し続けている何人かの選手達、あなた達は過去の段原クラブのバッター達のレベルに近づいています。自信を持って欲しいと思います。守備も打撃も普通のこと、当たり前のことを簡単そうにやる。本当に難しいことですが、そんな選手が一番頼りになります。
今年は試合に多くの人数を連れていきません。新２年生は人数も少なく、力不足です。今は数多く練習する必要があります。新１年生との競争になります。８月末の文部科学大臣杯まで約６ヶ月しかありません。残って練習している選手の様子は必ずコーチから聞きます。土、日の大会の場合、土曜日の練習内容によっては残ったコーチから選手の推薦があれば日曜日の試合に連れていきます。今年の新２年生は試合に行きたくないのか、全く元気がなく、伝わるものがないそうです。
　新１年生がたくさん入部してくれて学年を越えた競争が激しくなり、とても楽しみです。新２年生の皆さん、保護者を含めて考え方が変わらないとやることが変わりません。そして結果が変わりません。練習は変わるためにやるのです。

第１９２話/2016.02.29

　２月２８日（日）３年生とのお別れ試合とお別れ会がありました。
今年の３年生は１１人入部し、１ヶ月で１人辞め、２年生の時に１人が転校し最終的に９人が卒業しました。９人の３年生で全軟県大会準優勝、小学生の時エースだった選手が１人もいない中、２年生の力も借りましたが、２年の秋から３年の春までに各自が努力で成長し、全員がチームのために仕事の出来る選手になってくれました。よく努力したと思います。一方で取り組む姿勢やチームの決まり事を守るという部分で、私は不満がありました。そこで後半は私が試合に行かないという選択をし、子ども達を試合に出すという方法をとりました。正しかったどうかわかりませんが、３年生が試合に出る事が出来た事実が残りました。その点では良かったのでしょう。
　これから進む高校野球という世界はとても特殊な世界です。今までのような考え方では通用しない事がたくさんあります。「ハイ」しか言えない空間で自分を持ち続け、自分を生かしていかなければなりません。私の５０年間の野球人生で最も楽しくない３年間でした。１年生からレギュラーで甲子園に出場したのに楽しい思い出がありません。今の時代と違うのかもしれませんが、大差ないように思います。たくさんの苦しい事、辛い事、理不尽な事の中で「野球大好き」これだけは変わらないで下さい。自分を信じ、段原クラブの野球を信じて下さい。野球はスポーツであり修行ではありません。好きだから頑張れる。好きだから「打ちたい」、「捕りたい」、「勝ちたい」のです。
　君達のユニフォームを着ている時の顔、本当に良い顔をしていました。高校もその顔でやって欲しいと思います。
　１、２年生の皆さん、あなた達の試合で見ている人達に心を動かせましたか？確かに「上手い」「下手」、力が「ある」、「ない」、「強い」、「弱い」、「勝つ」、「負ける」があります。ずっと言い続けていますが、本当に大事な事はそこにはありません。人間は心のある生き物です。行動は心が支配しています。「思い」と言ってもいいかもしれません。野球というスポーツはその心がプレーに出ます。私が目指している「良いチーム」とはそういう事です。ひたむきに心を込めて、練習し、付けた力を全力で試合に発揮し全員でチームの勝利に向かっていく、その結果、勝てても負けてもいいのです。もちろん勝てればそれに越した事はありませんが、たとえ力足らず負けたと

しても応援してくれる人達、君達の味方、敵、試合を見ていた全ての人から、心からの拍手を貰える試合が出来る、そんなチームになりませんか？その為には試合だけでなく、練習から変わる必要があります。本当に自分自身に厳しく練習できているのか、自分に問いかけて下さい。好きだから中途半端にやって欲しくないです。悔いのない野球人生なんて無いと思いますが、せめて段原クラブの３年間で悔いを残して欲しくありません。

君達が頑張っている間の協力は惜しみません。しかし、いい加減な選手のために私の時間を使うつもりはありません。折角の出会い、大切にしたいと思います。

第１９１話/2016.02.22

なかなか暖かくならない中、段原クラブはバットを振り続けています。１人ずつ順番にインフルエンザにかかり、中々全員がそろいませんが、故障者の復帰と新１年生が早く入部し人数が増えた事でそれぞれの学年が刺激を受け、何人かの選手の取り組み方が少しずつ変わったように思います。相変わらず何も感じていない選手もいるようですが、私にとっては有り難い事です。レギュラーを決めるにあたって悩まなくていいからです。全員が心を込めて本気で努力されると監督は困ります。自分の甘さに気が付いていない選手は全ての結果が自分に帰ってくる訳ですから、今のままで構いませんよ。野球は自分のためにやるのですから。

２月２８日（日）のお別れ試合から３月一杯で１４試合組んでいます。中止がなく、たくさんの選手が競争出来ればいいと思っています。プロ野球で言えばオープン戦、この冬練習をし、身に付けた技術、体力を試合でどの程度発揮出来るのか、その為には精神力が必要です。そして状況判断が必要です。２月の中旬ぐらいから私に何人かの選手のスイングが明らかに良くなってきているのが伝わっています。昨年秋より数段レベルが上がった選手がいます。自分がやってきた練習を信じ、自信を持って臨んで欲しいと思います。努力している選手の結果が楽しみですし、良い結果が出るはずだと思っています。

遠征の出る時のバス料金の値上がりが凄く、少し悩んでいます。多くの人数を連れていけば１人の代金は下がります。しかし、多くの人数を全ての試合に出すのは中々大変です。試合には勝敗もあります。どうするのが一番良いのか、私の中で決めかねている状態です。お金が掛かる事を決めるのは本当に難しい。私も私の息子もレギュラーで必ず試合に全て出る立場だったのでお金が掛かる事を何とも思った事はありませんでした。しかしチームには色々な立場の人がいます。難しいです。他のチームはどうしているのだろう。いろいろな意見を聞いてみたいと思います。

監督の悩みは尽きません。

第１９０話/2016.02.15

２月１４日軟式野球連盟県少年部の総会があり、その後、広陵高校硬式野球部監督中井先生の講演がありました。私は練習があり、聞けませんでしたが、色々な内容が普段私の言っていることと同じだったそうです。たとえば、夢を実現するためには常に思い続けること、プロ野球選手になりたければ、思い続けて人よりも多くの練習をしなければいけません。そしていいチームになるためには、保護者が我が子を応援するのではなく、チームを応援できるようになることなど、当たり前のことですが、現実には中々出来ないことです。

今段原クラブは、部員数の減少のためチーム内の競争意識がありません。特に新３年生の内野手は、新２年生の突き上げもなく、ピリピリしたものが全く伝わってきません。にもかかわらず本人達は「努力しています」と堂々と口にします。私も人の親です。我が子はとても大事に思っています。小学校１年生からソフトボールを始め、野球を辞めた２８才までずっと厳しく接してきました。なぜか？大事な息子だからです。大事だから可愛いから厳しくする。私の父もそう思って私に接してくれたと信じています。それが子どもの為になると思っていましたし、ためになりました。

保護者の皆さん、特にお父さん、子どもに嫌われるのを怖がっていませんか？ただ怒れと言っているのではありません。最低限の約束事、毎日のストレッチ、ランニング、素振り、野球ノート、そしてグランドでの集中、これぐらい管理しませんか？同じ失敗を繰り返したり、技術が中々身に付かなかったり、状況判断が出来るようにならないのはなぜなのか？やらなければいけない、当たり前のことがおろそかになっていませんか？日曜日からやっと故障者が復帰し、「誰かがポジションを取られるぞ」という環境が出来ました。その選手をどういう使い方をするのか、あなた達しだいです。今年私は言葉を信用しません。「頑張ります」、「一生懸命やります」はいりません。態度と結果で思いを証明して下さい。あと２週間で実戦が始まります。勝負です。勝負とは勝ちと負けと書きます。勝つ事が全てではありませんが、勝つために全力を尽くすことには価値があります。私は負けるのが嫌いです。チームが勝つ事に全力をかたむける選手、保護者と今年は戦っていきたいと思っています。競争の中でどんなメンバーが４月を迎えるのか楽しみです。

第１８９話/2016.02.08

受験のシーズンです。小学校から大学まで受験の話をよく聞きます。段原クラブの３年生も同様ですが、私も受験しているような気持ちになります。今、６年生がたくさん体験練習に来てくれます。その中で入部してくれる子どもは２、３割、先輩や保護者から頼まれてそもそも入部するつもりがなく義理で体験に来てくれた人もいるでしょうから、確率はもう少し高くなるかもしれませんが、入部しない子の方が多いのが現実です。私はその度に「あなたと段原クラブは不合格」と言われているような気持ちになります。チームを選ぶ基準は人それぞれで、他にもたくさんチームがあるので比べた結果、不合格という事だと思います。努力が必要です。しかし私は野球のクラブチームは個人の技術と理論（考え方）を向上させる事に価値があると思っています。なぜかというと、通過点だからです。高校ではチームメイトはバラバラになり、今度は他チームから来た選手とポジション争いをします。そして勝たなければ試合に出られません。その次のステージ（大学、社会人、プロ）も同じです。結局、個人の能力が問われます。その点で今、段原クラブがやっている練習、考え方は正しいと思っています。入部してきた時、ほぼ何も出来ない選手達を高校野球のステージに立てるように個人の能力を上げて送り出す。これからもその為に努力していくつもりです。それを信じてくれる子ども達とグランドで思い切って野球をします。

今、高校３年生のＯＢが土日練習を手伝いに来てくれています。その選手は高校の時、野球でとてもつらい思いをしました。挫折と言うと少し違うかもしれませんが、気持ちを切り替え、軟式野球で全国大会に２度出場し、大学も合格しました。中学の時、将来の目標は指導者になりたいと聞いた事があります。人の痛みや、回り道や苦しい思いをした彼は必ず良い指導者になれると思っています。私は野球しか伝える事は出来ませんが、グランドで私の技術と指導方法を少し

でも多く盗んで、彼の引き出しを増やして欲しいと思います。段原クラブの子ども達にとって、とても有り難く感謝しています。この経験は必ず君の役に立ちます。グランドで遠慮する事なく、どんどん自分を出して子ども達に君の持っている物を伝えて下さい。私は君の人を信じています。そして段原クラブの指導者のひとりだと思っています。本当にありがとう。

６年生の皆さん、こらからも私は不合格と言われても構わないので何度でも体験に来て下さい。グランドでは全員に技術を伝えます。１日練習しただけで変わります。本当の野球の考え方を是非、体験して下さい。

第１８８話/2016.02.01

２月になりプロ野球のキャンプが始まり又、春の甲子園出場校が決まり少しずつ球春が近づいてきました。今年のセンバツも広島の高校は選ばれず、私がずっと言ってきた野球のレベルアップについていけていないのがはっきりしてきました。守備力があるのは当然ですが、それだけでは勝ち上がれません。バッティングのパワーが必要なのです。県予選で全くホームランが出ないようでは上では勝負になりません。もっと数多くバットを振るべきだと思います。１年生の時から続ければ何人かの選手は３年生になった時、遠くに飛ばせる力を身に付けられると思います。

段原クラブは前にも書いた通り２月は練習試合を組まず、ひたすら基本的練習をします。幸いにもグランドがしっかり確保出来ているので、バットを振る数、ボールを捕る数を多くし、野球の原点能力のアップを目指します。個々のレベルアップとチーム内の競争がチーム力のアップに繋がるはずです。今年の選手は練習で手を抜いている選手がいません。まだまだ気迫というか、覇気というか少し物足りなさを感じますが、真剣さは伝わってきます。努力している選手には、少しでも多く試合で良い結果を出させてあげたいのでこれからの２ヶ月、指導者として道を間違わないようにしっかり考えて、練習、試合をしていきたいと思います。昨年秋に力不足だった投手力、打力、走力、まぁ言ってみれば全てですが、「一泡吹かせてやる」と私は思っています。これから２ヶ月で選手達と保護者、スタッフ、チーム全員が同じ思いになれば可能だと思います。

これからの２ヶ月、誰がレギュラーを取るのか、とても楽しみです。私の中で今、決めている背番号は本当に一つもありません。選手全員に期待しています。新１年生も同じですよ、アピールです！！

たくさんの６年生が体験に来てくれてありがとうございます。全員に可能性を感じました。みんな入部して下さい。待っています。段原クラブは良いチームですよ。自信があります。

第１８７話/2016.01.25

寒い寒い週末が過ぎました。野球をするにはとても厳しい気温、たぶんそんな時は他のチームはひたすら走るのでしょうが段原クラブではやりません。私はなぜグランドであまり走ることをしないのか、いくつかの理由があります。まず、怖いから。事故、ケガなど不測の事態が起こり、最悪は命を落とす事が無いとも限らない。自分で練習している時には人間は無意識にストッパーを掛けるのでケガはしません。しかし、無理やりやらされるランニング、トレーニング（監督・コーチが見ている）時はストッパーが外れます。それが怖いです。次に一人で出来る練習は一人でやるべきだと思っています。これが出来ない選手は遅かれ早かれ淘汰されます。夢を語るなら一人で練習出来なければ語る資格はありません。日本のスポーツはつるんで練習する習慣が古く

からあり、私はあまり好きではありません。グランドでは人数がいなくては出来ない練習をするべきです。素振りやランニングは時間がもったいないです。

今シーズンの段原クラブの選手達は一人を除いて普通の子達です。足、肩、体普通、性格も大人しく厄介な子はいません。この子達が勝負の世界で戦っていくのは大変です。過去の段原クラブの選手達と同じモチベーションで同じような練習では厳しい戦いになります。練習を見ているとこれも普通にやっています。手を抜くわけではありません。私の中では、この冬ずっと物足りなさを感じています。私事ですが、私は体もあり、足も肩もある程度以上の物を持っていました。中学・高校の時、大きな声を出したり、人一倍がむしゃらに練習したわけではありません。それでもチームで一番の成績を残せました。それは努力したものではなく、親からもらったものが大きかったからです。

勝てるか勝てないのか。これはやってみなければわかりません。大事なことは、個人もチームも勝つために目標や夢に向かって精一杯努力することです。そのために殻を破って欲しいです。「がむしゃらってカッコいい」です。

第１８６話/2016.01.18

ここのところ、冬らしい気温になってきました。それでも段原クラブはひたすらバットを振り続けています。バッティング練習は試合の勝利にあまり役に立たないかもしれませんが、そんな事はどうでもいいです。「ノックで守備は上達しない」私はそう思っています。打球をいくつさばけるのか、守備力の向上のためにもひたすら練習が必要だと思っています。そんな簡単に試合の結果につながらないと思いますが、出来たら高校でも続けて６年間本気でバットを振り続ければ、３割程度なら誰でも打てるようになると思います。しかしながら、そういう高校が見当たらないのがとても残念です。元ヤクルトの宮本が守備力が向上してダイヤモンドグラブ賞をとれるようになったのは、試合前の練習で打球を追うようになったからだと言っています。ノックと打球は違うものです。ノックではノックの打球を捕るのが上達します。試合で捕るのは打球、ノックはあくまで基本を覚えるため、下半身を鍛えるためのものです。私は今の練習で守備力も必ずアップするものと信じています。

今年のチームは秋に少し力のあるチームには全く歯が立ちませんでした。それだけに指導者として、とてもやりがいを感じています。どこまで上げられるか今のところ全く見えていませんが、勝つという事に対するプレッシャーが少ない分、昨年より思い切ったことが出来、試合が始まるのが楽しみです。子ども達には新３年生に対して厳しきなることを伝えていますが、まだ本気だと思ってないようなので２月になったらもっとはっきりと今年の方針を伝えたいと思います。「自信と闘志」今年の試合に出るための新３年生の条件です。これが無ければ下級生が試合に出ることになります。練習でひたすら技術の向上に努め、気持ち（心）を込めて試合をする。心を込めるとは表に出すことです。私に伝わらなければ意味がありません。３月にはそんなチームのベンチにいたいと思っています。そして秋に歯が立たなかったチームを慌てさせます。子ども達が少しずつ変わってきているのでそんな予感がします。

第１８５話/2016.01.12

１月１０日（日）広島西野球協議会の理事会と新春の集い（新年会）がありました。今年も一年間始まるのだなと少しずつ思えてきました。私が一番信頼し、信用できるスタッフの大野シニアが脱退していまったのが、とても残念です。しかしチームのお付き合いはこれまで通り続けていきたいと思っています。宜しくお願いします。この冬はあまり気温が下がらずボールを使った練習が思い切って出来ています。今までの段原クラブの歴史で最弱と言われている今年のチームはこの冬、他のチーム以上の練習をする以外チーム力を上げる方法はありません。今、私の中で不動のレギュラーは一人だけ、ポジションは８つ空いています。悲しい話ですが、それだけ個人の力がありません。１月、２月、３月の３ヶ月でどこまで伸びるのか。力のあるチームに対して、昨年秋は１０戦全敗の力をなんとか１０回の２回は勝つ可能性を持てるチームに引き上げなければいけません。そのためには、レギュラーの固定が必要だと思いますが、今のところその力を見せてくれる選手が見当たりません。先日子ども達に話をした、今年の段原クラブは「自信と闘志」。自らを信じ、闘う志を持った者だけがグランドに立つ。これを貫いていきたいと思います。もし、そういう選手が９人いなければ試合に出ない、それぐらいの思いです。技術が足らないのですから気持ちで向かっていくしか無いと思います。しっぽの下がった犬は大嫌いです。チーム一練習し、その練習を信じ、気持ちを前面に出して自分より力のある者に向かっていく、そういう選手と一緒に戦っていきたいと思っています。今年の冬は保護者の方々の努力のおかげで例年より多くの小学生が体験に来てくれています。そして全ての子ども達が今までより強い打球が打てるようになって帰っていきます。

小学生の皆さん、大きな夢があるのなら、この冬遊んでいるひまはありません。段原クラブに入団してくれるのが一番嬉しいですが、そうでなくても一日も早く次のステージを決め、一日も早くしっかりとした練習をするべきです。小学校のチームでお手伝いをしていても力はつきません。自分の夢のために貴重な時間を使うべきです。そして同級生との勝負で一歩先に出るできだと思います。プロ野球選手は広島県Ｎｏ．１にならなければなれませんよ！遊んでいる時間もったいないです。何度でも体験に来て下さい。確実に力がつきますよ。

第１８４話/2016.01.05

１月２日毎年恒例のＯＢ戦を行いました。今年は現役（高校・大学）とそれ以外に分け９イニングを２試合しました。現役でない選手達も久しぶりの野球を楽しんでくれました。現役の試合は高校１、２年ＶＳ高校３年＋大学生。毎年ですが、当然年上チームが圧倒します。今年は大学生２人の投手が高校生を完封しました。私も２人の投手に挑戦しましたが、外野フライ２つと三振に打ち取られました。久しぶりに本気で打ちたいと思えるようなボールを見る事が出来、興奮し楽しめました。来年は打てるように練習していこうと思っています。

ひとつ高校生の選手に苦言を言います。大学生と試合をして勝てないのは当然です。しかし気持ちで負けていてはグランドに立つ資格がありません。技術、体力で負け、精神力でも負ける。折角、自分達より上のレベルの選手と試合が出来るチャンスなのにそれを自分のための生かそうともしない。私は見ていて腹が立ってきました。段原クラブで何をやっていたのだろう。そして今、高校で何をやっているのだろう。はっきり言って高校１、２年生のＯＢから可能性を全く感じませんでした。大学で野球を続けられる心を持っている選手はいないと思いました。それ以前に高校でやっても今のままではあまり意味はありません。いつも言っている投手はバッターに向かって思い切って腕を振る。バッターはフルスイング、野手は大きな声を出す。基本的な事が出

来なければ次はありません。今のままでは段原クラブＯＢを名乗ってほしくありません。君達の結果が出ないのは自分自身の問題です。

そしてもうひとつ、ＯＢ戦は前もってハガキで連絡しています。そこには集合時間（開会式開始時間）が書かれています。毎年遅れてくるＯＢがいます。年始で色々と忙しいとは思います。部員や保護者はＯＢのために何日もかけて、この日のために準備をし、当日も朝早くからお世話をしてくれます。そういう人達の協力で毎年ＯＢ戦を行うことが出来ます。ＯＢの方たちも社会人として時間を守ることは仕事の上でも重要なことです。自分の都合だけでなく、他の人のことも考え、時間を守り、折角の１日を楽しく過ごしてもらいたいと思います。段原クラブとして１年に１回の大切な日です。お願いします。

ＯＢの方々に楽しく野球をしてもらいたいと精一杯やっています。来年もたくさん参加して頂き、現役の選手達に本物を見せて下さい。今回参加してくれたＯＢ、保護者、段原クラブの選手、保護者、１月２日に渕崎グランドに来ていただいた全ての人に感謝します。本当にありがとうございました。これからも段原クラブを応援して下さい。いつでもグランドに来て下さい。お願いします。

第１８３話/2015.12.28

２０１５年最後のつぶやきです。

本年度の段原クラブは全軟県大会準優勝や日刊大会優勝など、勝ち負けの部分では良い年だったと思います。しかし私の中ではそれで？という１年でした。チームとは組織とは何？と考えた時、疑問に思う事が沢山ありました。もちろん試合には勝った方が良いと思います。そして野球のクラブチームなのですから技術が高い方が良いでしょう。しかしその前にひとりの中学生として、人として、どう？親としても子どもに対してどう？それが最善？そんな事を考えた１年だったように思います。人間は平等ではありません。生まれながらに体の大きさがちがい、スピードがちがい、力強さがちがいます。何倍努力してもどうにもならない現実が確かにあります。たいした努力をしなくても打ったら飛ぶ子、そもそも足の速い子、体の大きい子、結局その子達が試合に出ます。それが勝負の世界の現実です。この１年間はずっとそんな事を考えていました。なにが正解なのか？そもそも答えはあるのか、私の中ではまだわかりません。

ただ今言えることは「勝負は結局力の世界」だという事です。しかし中学生の子ども達に言っておきます。人としての能力、そして魅力が数え切れないほどある中で、野球が出来るなどというのはほんの小さな一部分でしかありません。プロ野球選手になれば、野球さえ出来れば人間性などというものは全くのクズでも何億円というお金を手に入れることが出来ますが、そんな選手は何万分の一程度です。クラブチームなので力のある子が試合に出るのが正解なんだと思いますが、私は頑張っている選手、心が伝わってくる子どもが大好きです。そういう選手が良い結果を得られるような指導者になりたいです。今の所は完全に力不足ですが、チーム１努力している選手がチームの中心にいるようなチームになれたらいいと思っています。

１２月になり、保護者の皆さんの努力のお陰で６年生が昨年と比べて数多く練習の体験に来てくれています。１日ですが少しでも本物を伝えたいと思い接しています。彼らの今後の野球人生に少しでもプラスになってくれればと思っています。同じチームで出来るかどうか私は縁だと思っています。縁あって出会い、縁あって同じユニフォームを着る、それを大事にしたいと思います。是非、３年間信頼関係を続けていける選手に入団してきて欲しいです。来年、私は少し思い

切ったことを考えています。現実にそれが出来るのか、自分にそれだけの度胸と自信があるのか、今ははっきりとしたものが見えていませんが、そしてそれが本当に子ども達や段原クラブのためになるのか、それもわかりません。

選手達、保護者の方々、特に１、２年生の皆さん、秋に結果が出てないのですから、春になりメンバーが一緒の訳ありません。しっかりとした覚悟を持って来年に臨んで下さい。はっきりと伝えましたよ！！

第１８２話/2015.12.21

『喉元過ぎれば熱さを忘れる』、段原クラブの選手達は３週間前の２試合連続コールド負けという屈辱を完全に忘れてしまったようです。特に中心としてその試合に出ていて責任を背負う必要のある選手が、練習での緊張感を欠いているように見えます。今の時点で明らかな力の差を見せつけられたのにも関わらず、練習に取り組む姿勢、集中力、そして内容がそれまでと変わらない。生まれて１３、４年間で出来た差を４ヶ月で埋めようと思えば劇的な変化が必要です。少し変わった程度では近づく事さえ出来ません。段原クラブでは今まで一冬超えて毎年、他チームとの差を埋め、勝負出来るチームになり戦ってきました。しかし今年のチームは、今までに感じた事が無いような大きな差を感じます。２年生の中での競争が無い、１年生からの突き上げも無い。試合でチームの役に立つ事が出来ない選手でも変わりがいないという理由だけで試合に出られてしまう。そしてこの程度なのに、親子共々少し力がついた程度で満足し、その上を目指して努力しない。勝負にはならないでしょう。私は常々「勝つ事が全てではない」と言っています。しかし、勝つために全力の努力をする事は絶対に必要だと思っています。まずチーム内の競争に勝ち、チームとして広島Ｎｏ．１を目指す。その過程の中で個人のレベルがアップし、高校野球に繋がっていくと思います。今年のチームが冬を越して今までのような手応えを感じることが出来なければ、私が考え方を、そしてチームの作り方を劇的に変えなければいけないかもしれません。何度チャンスを与えても変わらない上級生より、可能性を感じるものがあれば、新１年生を抜擢するぐらいの思い切った事が必要になるかもしれません。

１２月２０日（日）体験の小学生が数人来ました。段原クラブは体験メニューではなく、通常の中学生のメニューに入って同じ練習をします。ロングティー、フリーバッティング、ティーバッティングいつものように段原クラブはバットを振ります。日曜日は合計約２５０スイング。全くボールが飛ばなかった小学生が、タブレットで撮った映像を見せながら正しい下半身を使ったスイングを指導すると全員外野に打球が飛ぶようになります。それにしても毎年思いますが、なぜ小学生はスタンスが広いのでしょう。あれでは腰の回転のスピードが出ないばかりではなく、ボールを引きつける事が出来ず、確率は上がりません。正しい技術を１日指導するだけで確実に打球が変わります。小学校６年生の皆さん、いつでも体験ＯＫです。たくさん打ち、ボールが遠くに飛ぶ喜びを感じて見て下さい。

第１８１話/2015.12.14

１２月１３日（日）来年３月の山口ミラクルズの大会案内を頂きました。喜んで参加させて頂くことを伝え、今年のカレンダーを見てみました。今年は春先の練習試合をひかえしっかり練習

し、基本的能力のアップに努め、３月、４月に試合を多くこなし、全軟に入る方法を取りました。それが良かったかどうかわかりませんが、大会ではある程度自分達の力を出すことが出来ました。良かった事を変える必要はないので、来年も３月５日（土）、６日（日）と連絡を頂いた大会を初試合とし、それまでは、しっかり足を地につけた当たり前の練習をしっかりこなし、個々のレベルアップにつなげたいと思っています。秋の大会でのみじめな惨敗を全員が忘れること無く、集中した冬の練習になる事を望みます。この冬でチームも各個人も変わる事が出来なければ彼らの野球人生は負け続けほぼ１８才で終わる事でしょう。長く野球を続けるためにも本当に大事な冬になると思います。

１２日（土）段原クラブの忘年会がありました。たくさんの保護者の参加でとても盛り上がり良い会だったと思います。特に二次会のカラオケには２０数名の参加があり、こちらが止めなければ朝まで終わらないもではないかと思うほどのお父さん達パワーに驚かされました。ほとんどのお父さんが、元気で明るく、弾けている姿をみていて、子ども達はなぜ、同じ血、ＤＮＡを受け継いでいるのにグランドで出来ないのか、不思議に思いました。段原クラブが目指している野球は「自分達で考え、自分達でやり、そして自分達が最高に楽しむ、そのためには勝った方が面白い」です。子ども達もしっかり声を出し、自分を表現し、弾けるように野球に取り組める素材は持っているはずです。それが思い切って出せないようにしているのは私かもしれない、そんな事をお父さん達を見ていて感じました。ふざけたり、いい加減ではなく、心から好きな野球を試合で楽しむ、楽しむためには苦しく厳しい練習が必ず必要です。その苦しさも厳しさも全て自分自身のため、自分が試合を楽しめる為にやることです。私は最近子ども達に「練習をしなくても、指導を聞かなくても構わない、君達の野球人生なので自分で責任を取りなさい」と言います。しかし、私を信用、信頼し、本気で練習に取り組んでいる子どもには少しでも長い、そして意味のある野球人生になるように私の全精力を傾けようと思っています。「本気でやっている選手のために１日の中で「監督が一番長くユニフォームを着ている」を続けていこうと思います。好きな野球、そしてそのユニフォームを長い時間着ていられるのは幸せなことですし、私を必要としてくれる選手がいる事に感謝し、彼らの役に立てる技術、練習方法、考え方、少しでもレベルアップ出来るように勉強したいと思っています。

第１８０話/2015.12.07

「チーム力は投手力」野球の勝敗は１００％投手の力だと思っています。段原クラブは希望者が投手をします。今、１、2 年生で８人が投手をやっていますが、小学校で経験のある選手はほとんどいません。経験が無いとマウンドさばきや牽制、バント守備などの時間が必要になります。私は出来るだけ投げる数を少なくして投手力を上げたいと思っています。俗にいう投げ込みは一切していません。なぜか？故障を防ぎたいからです。一番大事にしているのは正しいキャッチボールです。ピッチングはキャッチボールの延長だと思っています。土曜日の練習で一人ずつフォームチェックをしました。コントロールは正しいフォームで作るものです。そしてそれが故障を防ぐためにも大事な事です。あくまでもスピードよりコントロール、スピードアップは投げ方ではなく、体作りで上げるものだと思います。１４０ｋｍ／ｈのストレートを投げたければ１４０ｋｍ／ｈ投げられる体を作る事です。身体能力が無いのにスピードを上げようとすれば、必ずフォームが乱れ故障につながります。まず正しいフォームを身に付け、身体能力を上げ、コントロールとスピードをアップさせるべきだと思います。この事を投手を希望している選手達にしっか

りと伝えたいと思っています。１日フォームチェックしただけで日曜日には確実に全員が少しずつですが、ボールが変わりました。結果を急がず、この冬は徹底的に基本を大事にして投手を指導していきたいと思います。バッターも同じように飛距離を伸ばしたいのなら体を作る事です。体の力以上を求めると確率が下がります。フォーム、タイミングもちろん大事です。そして体の力を上げる事も同じように大事な事です。

この冬からタブレットＰＣをチームで購入し、子ども達の投げている姿、打っている姿を本人に見せるようにしました。私が言っている事、そして自分が頭で描いた事が正しく体で表現出来ているのか？自分の感覚と実際のプレーの形の違い、思っている形ができているのか？出来ていないのか？映像で見ることによって確認でき、より早くイメージと現実のプレーが近づいていけると思います。やっているつもりでも実は出来ていないことが子ども達にはたくさんあります。見ることで本人が納得でき、より素直に練習出来るようになると思います。投げる、捕る、打つ、走る、全て正しい形があります。理にかなった方法をとる方が確率は上がります。口で説明しても伝わらない事が、子ども達に少しでも伝わりやすくなって欲しいと思います。当然、数多く練習することは必要です。しかし、何も考えずにただ走っても、投げても、打っても技術の上達はあまり望めません。まず頭の中でしっかり理解し、それを体で表現するために常に意識し、数をこなす、練習とはそういうものだと思っています。ただグランドだけの練習では人より上には上がれません。ひとりの練習は絶対に必要です。

３月までの４ケ月、段原クラブの選手達が変われるのか、変わらないのか、君達の考え方しだいです。

第１７９話/2015.11.30

はじめに断っておきます。私はチーム名に「さん」などの敬称はつけません。なぜなら、日本語としておかしいと思うからです。それだけで他意はありません。あしからず。

１１月２９日（日）山本浩二旗の準決勝で広島スターズと対戦することが出来ました。野球人の目で冷静に見れば、今１０回対戦して１０回負ける相手です。先発メンバー９人で比べると１勝８敗、とても相手になりません。１０月１２日（祝）に広島スターズが県大会を１０日（土）、１１日（日）と戦った後、心も体も疲労困憊の状態でも勝てませんでした。今のチーム力はそれぐらいの差があります。段原クラブは正しい練習をしています。そして２年生も確実に少しずつですが、力はついてきています。しかし、そもそも１０ヶ月前にはカープジュニア（６年生）と試合して２試合連続で完封されたメンバーです。それでも新チームになり、甲山ジャガース大会で勝ち、県議長杯では決勝まで進み、今回はベスト４まできました。私は今「このメンバーでよく勝てるチームがあるな」と思っています。少し勝てる試合があった事で選手も保護者も勘違いしていたと思いますが、０対７これが現実です。（５回コールド負け）

私は広島市軟式野球連盟に入った時から常に広島スターズを基準に考えてきました。バッターなら広島スターズのピッチャーが打てますか？ピッチャーなら広島スターズの打線を抑えられますか？守備は、走塁は、どうですか？そしてチームとして勝てますか？なぜなら、広島で１番の子ども達が入部し、１番練習して、１番勝率の良いチームだからです。そのチームを基準にしなければ高校野球で活躍することは出来ないのです。私は高校時代、愛知県で野球をしていました。（愛工大名電高校）　愛知と言えば中京高校（現　中京大中京）です。中京に勝たなければ甲子園には行けません。練習の時から常に中京の選手を意識していました。そのせいかわかりませんが

３年生の時、３回対戦して全て勝ちました。決勝でまさかの東邦に負けて夏の甲子園には出場出来ませんでしたが、常にトップチームを意識し、自分がそれを超えてトップになるんだと思いながら練習したものです。それがプロ野球につながったと思います。今の段原クラブは最初に書いたように１０回対戦すれば１０回負けます。私が言いたいのは結果の話ではありません。言い方が悪いかもしれませんが、「スターズをいわしたる」ぐらいの気持ちで練習そして試合にのぞんでいる選手が見えないのが残念です。私は小さい頃から負ける事に慣れていません。負ける事が大嫌いです。最初から勝負しないやつ、向かっていかないやつ、しっぽが下がっているやつ、そして負けても悔しがらないやつ、全て嫌いです。どんなに努力しても頑張っても出来ない事、勝てない事はあります。持って生まれた身体能力、どうしようもない事もあります。そんな事は５０年も野球をやっていれば承知しています。グランドで大人しい良い子は必要ありません。熱くならないやつは段原クラブにはいらないのです。

勝った負けた結果ではなく、練習から試合終了までお前達は全てを出したのか？そして負けた後、その日からお前達は何をしたのか？私が言いたいのはそういう事です。

第１７８話/2015.11.25

１１月２１日（土）、２２日（日）、２３日（祝日）と３日間は久しぶりにしっかり練習出来ました。新チームになってから試合は多く中々時間をかけて練習をする事がなく、バント守備、牽制、中継プレー、ランダンプレーなど最低限チームとして出来なくてはいけない事を練習する時間をとれました。これらのプレーは１年生の時に覚えておかなければいけない、下半身を使ったスローイングなど基本的な考え方が出来れば、それ程難しいものではありません。本来２年生の時には、当然身に付けておくべき技術、考え方がまだまだの選手がおり、「本当に野球が好きなのですか？」と問いかけたくなります。バッティングに掛ける時間は誰でも沢山取ります。バッティング練習は自己満足のためですし、長い時間をかけてもそれほど疲れません。走ったり、捕ったり、投げたりする練習に比べればはるかに楽なものです。私の中ではバッティングはやって当たり前、やらない人間は野球の世界からなるべく早く身を引くべきです。

２２日（日）出島グランドにＯＢの高校生、大学生、社会人の選手が４人手伝いに来てくれました。バッティングピッチャーやノック、ティーバッティングの指導など１日子ども達のために動いてくれました。段原イムズを持った選手達は私やコーチ達と同じ考え方で選手に接してくれるので信頼して任せる事が出来ます。子ども達にとっても、同じ指導でも現役の先輩達と練習する事で新鮮な気持ちで受け入れられ良い刺激になり、有意義な１日になりました。比嘉、安達、島川、入江、本当にありがとうございました。君達の野球人生、そして人生にもプラスになってくれればありがたいです。ＯＢの皆さん、いつでも大歓迎です。現役の選手でなくても子ども達には必ず得るものがあります。力を貸して下さい。お願いします。３日間の練習を見ていて１、２年生の選手達がこの２ヶ月で確実に少しずつですが力をつけていることを見せてくれました。チーム力はまだまだ力不足の部分がたくさんありますが、今の取り組む姿勢を続けていれば君達は強くなります。

段原クラブの練習、考え方は君達の成長を見て間違っていないと改めて確信しました。指導者、スタッフ、保護者、選手の皆さん、お互いを信頼し「見ている人達の心を動かせる野球」が出来るチームを目指してこの冬、一層の競争を望みます。本当の力がつくのは自分で考えてやる平日練習、個人練習です。このところ集中して自分を追い込んでいる選手が多くなっています。楽し

みです。

第１７７話/2015.11.16

　１１月１４日（土）１５日（日）の２日間、府中オーシャンズ親善大会に招待され参加させて頂きました。１日目天気予報の悪い中、１試合、試合をする事が出来ました。２日目は２試合、計３試合２勝１分（抽選負け）でした。守備では先頭打者に四球、打ちとった打球を内野安打、中継がつながらない、ランダンプレーでは時間がかかる、打撃ではチャンスで１球目にスイング出来ない、ストレートを狙って遅れる。走塁では積極的なスタートが切れないなどミスはたくさんありました。いつも言っている「当たり前の事」まだまだ出来ない事がたくさんあります。しかし新チームになり、まったく勝てない試合が続き、故障者も出てチームとして大ピンチでした。その中で何人かの選手はもがき、苦しみ、努力を重ね少しずつ変わってきました。特に児玉はたったひとりで全てを背負い敗戦の責任を感じ、今までにない経験をしてきました。本来、新チームは２人で背負う予定がひとりになり全てのものを抱えています。彼にとってはとても良い経験をしたと思います。やっと２、３人、彼が背負っている物を少しずつ分担出来るようになりました。その為少し試合になるようになってきました。２日間で得たもののある選手は、初めての試合で先発し完封した富樫、大事な場面でファーストストライクをスイング出来た守内、ここ一番で一番のスイングが出来た西、試合の途中でピッチングを修正出来た橋田、そしてタイプレークになり何も言わなくても集中し、大きな声を出し本気で勝ちたいと思っていた選手全員、この２日間を忘れないで下さい。段原クラブは間違っていません。あきらかに身体能力に勝るチームに初めて試合に出るような１年生を出しても決して引けをとらない試合ができるようになるのです。私が予想していた内容よりは上の２日間でしたが子ども達を誉める事はしませんでした。なぜか？段原クラブだからです。段原クラブが目指しているのは、目先の勝利ではありません。監督がベンチで黙って座って、何もしなくても子ども達の力で広島県Ｎｏ．１になる事です。とても遠い道なのはわかっています。しかしそこを目指さなければ高校に行って、その先の野球人生において自分で考え、自分で練習し、自分で結果を出す選手になれません。監督の操り人形に先は無いのです。私はそう信じています。高校に行ってバットを振れなくなっていく段原クラブの選手を見る度にとても悲しい思いになります。みんな、自分がやってきた野球、段原クラブの野球を信じ貫く勇気を持って下さい。「段原プライド」です。１、２年生１９人、今までの段原クラブでは最も少ない人数です。この人数では結果が出ない選手でも試合に出る事が出来ます。チーム力、個人の力を上げるために競争が絶対に必要です。何十人もの部員は必要ありませんが、３学年で４０人。チームとしても子ども達にとっても最適な部員数だと思います。そのために段原クラブの魅力を全員で発信していきたいと思います。６年生の皆さん、ぜひ練習に来て下さい。１日で野球の本当の面白さを伝えます。１日で打球が飛ぶようになりますよ！！段原クラブの歴史で１番小さな４番バッターの大西、全ての練習、試合で１番声を出し、試合で結果が出ようが出まいが遠征から帰って来たその日も当たり前のように練習する、良い悪いなんてどうでもいい、ただただ感心しています。続けて下さい、私は君の努力に対して全ての力で答えます。くずくず愚痴を言っている奴ら、まず大西ぐらいやってみろ！！

第１７６話/2015.11.09

１１月８日（日）プレミア１２対韓国戦を見ました。日本の頂点にいる選手を見ることで自分自身の野球眼の曇りをとるためです。私がいつも言っている「今の選手が一番上手い」その通りの力を見せてくれました。２０代前半から中盤の選手達が堂々と持っている力を発揮するのを見て技術の高さはもちろんですが、精神力の強さにも驚かされました。自分が２０代の頃、技術はもちろん精神的に弱く試合で力を出せなかったのと比べて、今の選手達の強さに只々関心します。試合は５－０と日本が一方的に勝ったように見えますが、その中で２つのプレーにプロ（それも一流）の凄さを見ました。その２つとは、内野にとても良い当たりのライナーが飛んだ時のランナーの帰塁です。小・中・高校生の野球でよく見かけるライナーゲッツーになる打球です。打球の高さや、点差、イニングなどの状況をしっかり判断し飛び出さず帰塁する。アマチュアが中々出来ないプレーです。段原クラブでは走塁練習の中で打球の高さで判断できるように指導しています。年々ライナーゲッツーはなくなってきました。プロ野球選手は打つ、投げる、捕る当然凄いに決まっています。それだけでなく走塁だったり、状況判断（頭）がアマチュアと違います。プロ野球を見る時、配球や守備位置の取り方、打球方向など、プロの状況判断を意識して見るともっと野球が深くなり、面白くなります。小・中・高校生の皆さん、野球は頭と足でやるものです。

新入部員の勧誘の時期になり、保護者が話し合いその中で保護者同士が少し険悪になりました。私は代表の立場で両者ともいさめましたが、２人とも思いは同じ、段原クラブが好きでなんとか良くしたいと思ってくれています。だから熱くなるのです。私は新入部員を勧誘する時、部員や保護者が本気になれるかどうかは本人の思い次第だと思います。自分が１年なり２年経験して、本当にいいチームだと思えば素直に言葉が出るし、そうでなければ出来ません。卒団生の中にも様々な思いの人がいるでしょう。私は長い間、子ども達と保護者を見てきました。在団中に思い通りにならなかった場合、ほぼ自分の努力不足だと言いません。誰かのせいにしたいものです。野球チームの場合は、指導者だったり、チームの責任にして自分を正当化します。まあ、だからそんなものなのですが、私も結果が出せないことを人の責任にしたことがあるので良く判ります。話は逸れましたが自分の力を高めるためにはライバルが必要です。その為にもある程度、部員の数がいなければなりません。努力をせず、力もない選手が試合に出続けるのは間違っています。向上心を持ち、負けることが嫌いな野球大好き少年がひとりでも多く入部してくれることを期待します。

第１７５話/2015.11.02

１０月３１日（土）私は２０年ぶりに小・中学生時代を過ごした愛知県蒲郡市に帰りました。その日の夜に愛知県南知多町の民宿で高校野球部の同窓会があったので足を少し伸ばし、出身中学校をのぞいてみたくなったのです。土曜日という事で急に行って閉まっていてはと思い、前もって訪ねたい旨を校長先生に電話すると、なんと中学校野球部の２年先輩、お互いビックリです。折角来るのなら野球部の後輩を指導して欲しいという事になり、午前中２時間程でしたが初めて母校での野球教室が実現しとても楽しい時間を過ごす事が出来ました。中学校は私が通っていた４０年前とほとんど変わらず、記憶が次から次へと甦り中学時代の楽しかった頃の気持ちに少しなれました。あの頃は打っても届かなかったレフト側のフェンスがとても近く感じ、中学時代の力の無さと自分の成長を感じました。短い時間でしたが、本当に楽しく懐かし時間でした。蒲郡

市立三谷中学校の先生、生徒の皆さん、そして千葉先輩（校長）ありがとうございました。是非、また行きたいと思います。

私は名古屋電気高校（現 愛工大名電高校）出身です。高校卒業以来、４、５年に一度ぐらいのペースで野球部の同窓会をやっています。今年、４年振りに集まろうと話は盛り上がり、初めて当時のライバル校、中京高校（現 中京大中京）、東邦高校の同級生にも声をかけようという事になりました。愛知県私学野球校３強そして公立の雄、大府高校のエースも駆けつけ１８人集まりました。高校３年間、夢の甲子園を目指し、しのぎを削ったライバル達、５６歳になるまで一度も話をしたことのなかった者たちが３８年経ち一緒に風呂につかったり、酒を飲み、そして語り明かしました。思っていたよりも数十倍楽しく、面白く、人生の中で甲子園出場が決まった日、ドラフト会議で指名された日よりも興奮し、心の底からライバル達全員を大好きになれた良い一日でした。高校２年の夏に中京にサヨナラ負けし、中京が甲子園に行き、秋には中京、東邦に勝ち名電が春の甲子園に行き、最後の夏は決勝で東邦に負け、東邦が甲子園に行きました。３校の中で勝ったチームが甲子園という戦いをした当時は大嫌いなライバル、５６歳になって、まさかこんな日が来るとは誰も思っていませんでした。この同窓会を企画し、準備してくれ、そして集まってくれた仲間に感謝します。青春を野球に賭けた３年間、話は甲子園や勝った思い出より、練習や上下関係の苦労話ばかり、練習の苦しさは東邦が一番、彼らが甲子園で準優勝したことに納得しました。名電の練習がダントツで楽でした。甲子園で勝てなかった訳です。私は常々、甲子園はその県で一番練習をしたチームが行くべきだと思っていました。その通りの結果だった訳です。参加した全員が甲子園出場していますが、全員高校野球に悔いを残していました。「もう少し、あの時努力していれば」この思いはみんな一緒でした。

中学生の皆さん、愛知県の私学野球校３強全チーム甲子園の優勝経験があります。そして甲子園出場を果たした全員に残っている悔い、どんなに努力しても残るものかもしれませんが、まず今の一日を全力で、そして大きな夢に近づいていって欲しいと思います。次は６０歳、４年後の再会を約束して帰りました。みんなが次も思い切ってお酒が飲めるように健康で、今回よりも多くの仲間が集まることを願っています。本気で野球をすると本物の仲間が出来ます。

第１７４話/2015.10.26

段原クラブは今、苦しんでいます。新チームになり、ある程度苦労するだろうとは予想していました。レギュラーの捕手不在と２年生の時から試合経験のある投手が伸び悩んでいます。チームの中心が１枚抜けると全ての歯車が回らなくなってしまいました。小さくてスピードの無い体の選手達をどうやって結果を残せるようにするのか？私の持っている指導者としての力をフルに使ってなんとかしなければいけません。今までやっていた練習内容を見直す必要も含めて考えなければならないと思います。全体練習だけでは間に合わない選手達にはマンツーマンの個人練習が必要です。そのためにスタッフの出席率の向上、練習時間の確保など子ども達だけでなくスタッフの意識も変えたいと思います。部員の減少もあり、段原クラブは今、全員が本気にならなければいけない時だと思います。

私は野球人生であまり負けた事がありません。小学校の時はソフトボール、中学は学校の野球部、両方ともその地域では優勝しました。高校では甲子園、負ける事は本当に嫌です。「よく負けても楽しくやれば」と言っている人がいますが、負けて楽しかった事は一度もありません。しかし、やるのは子ども達なので彼らがどう思っているかです。今までの野球人生で負ける事に慣れ

てしまっていると変わらない可能性があります。自分が試合に出られれば満足、ヒット１本でも打てば大満足、試合の結果は二の次、三の次、まさかこんな考えの人はいないと思いますが？練習は個人の能力をひたすらに磨き、伸ばす事に集中します。身に付けた能力をチームのために試合で発揮する、持っている力を１００％出す事が勝利に近づきます。今年の選手達はまだまだ力は足りませんが、それ以上に自分の力を試合で出せない所が大きな問題です。メンタルの弱さ、私に何が出来るのか？練習の厳しさが必要なのか？それとも逆に甘くした方が良いのか？試合中にはどう接すればいいのか？今の子ども達に私は合わないのか？はっきりいってわかりません。

努力している選手に結果を出させてあげる事が出来なければ指導者として不適任だという事です。来春までの約半年、私と子ども達の野球人としての力量が問われる冬になります。

第１７３話/2015.10.19

先日ある大会の代表決定戦の日程が１０月２５日（日）だと連絡がありました。急な話ではあったが、ラッキーな事にもう一度チャンスがもらえる事に素直に喜びました。それがなんと１０月１７日（土）に都合の悪いチームがあるので抽選で代表を決めると電話が入りました。私は何をいっているの？大人がそんな事を本気で言っているのが信じられませんでした。大会とは？日程とは？そして参加するとはどういう事なのか。そんな基本的な事もわからず勝負の世界に関わっている大人がいる、なぜ？そもそも南部で県大会の欠場チームが出て、その枠が西部に回ってきたらしい、まず県大会を学校行事で欠場するチームは最初から予選に出るな！！無責任です。１日で終わらない大会に出る場合、最後まで出場で来る事が参加の最低条件です。誰にでもわかる常識です。そして大会は大会本部が日程を決めます。それに対応出来れば参加、出来なければ不参加又は棄権、これも極々当たり前の常識です。ましてや大会本部が参加チームの事情を聞き、それに対応するなどという事はあってはなりません。なぜなら、一部のチームに有利になるようなことは勝負の世界ではあってはならないからです。ましてや都合の悪いチームがいるから試合をせず抽選などという考えは明らかに不正です。当然段原クラブとしては抽選に反対を訴え、２５日（日）にグランドがないという大会本部に対し、その日のうちにグランドを確保し連絡しました。そして１０月１８日（日）なんとあった連絡は２４日（土）に試合をするという事でした。なんという茶番、こんな結果になるといろいろと詮索したくなります。そもそも誰か試合をしないで抽選に持ち込みたいの？なんて思われてもしかたありません。段原クラブには２５日（日）だとしか連絡がなく、グランドを押さえたのになぜ２４日（土）に変更になったのか、その返答とは２５日（日）は打診をしただけで決定ではないとの事、そして、では、どのチームが２５日（日）の都合が悪かったのかと聞くと段原クラブには関係ないから答える必要がないとの事、大いに関係ありますよ。うちが反対しなければそのチームの都合で子ども達にとって一生に一回の試合（大会）がくじで決められる所だったのですから。「くじを引いた方が勝ち残る確率が高いとでも考えた人がいるんじゃないの」なんて言葉が、どこかからか聞こえてきます。

私がこの件に関してここに書いた事、全て事実ですし、私の本心です。そして段原クラブの考え方です。異を唱える方がいれば、いつでも話をします。野球に限らず勝負とは、大会とは、日程とは、全てのチームに平等でなければなりません。決まったものに対応できなければ、不参加、棄権以外の選択はありません。一部のチームが利益を得る事は決してあってはならないのです。そして前からずっと言い続けていますが、次のステージがある大会の代表を決める試合が抽選は絶対ないのです。なぜなら子ども達はいろいろな事を辛抱し、苦しい練習に打ち込んでいます。

それは試合で自分達の努力を発表するためです。くじ引きをする為に頑張っているのではありません。大会本部の方々は日程を決めたり、グランドを確保したり、試合を運営したり、審判をお願いしたり、大変な仕事なのは重々承知しています。いつも感謝しています。しかし、私達指導者と同じで自分で選んだ道です。ちゃんとやって当たり前だと思います。私は思った事をはっきりと口にするので敵が多いと言われます。しかし、子ども達にもいつも言っていることですが、生物の中で人間だけが言葉を持っています。使わない方がおかしいです。正しいと思った事を堂々と発言する、なにが悪いのかわかりません。先ほど書いたように、私は他の意見を聞く用意もあります。自分の名前も隠していません。段原クラブの鈴木伸良です。ここに書いている事に責任を持っています。

第１７２話/2015.10.12

１０月１１日（日）卒団式がありました。２年生になる時に親の転勤で名古屋に行った政岡が来てくれました。彼は引っ越ししたことで２つのチームを経験しました。彼の「段原クラブの選手は自分達が恵まれている事に気づいていない」という言葉は私にとってとてもありがたいものでした。今の自分達の環境が野球をするためにどれだけ恵まれたものなのか、１つのチームしかしらいない子ども達にはわからないかもしれません。何人の子どもが政岡の言葉を受け止めてくれたかわかりませんが、気が付いてくれる子がひとりでもいればと思います。段原クラブが常に言い続けている３年の最後が一番上手い、そうなれるようにこれからの３年生の取り組みがとても大事です。本気で練習に集中する３年生だけが練習に来て、１、２年生の見本になって欲しいと思います。

１０月１２日（祝）県新人戦の西部予選がありました。文部科学大臣杯県大会で優勝した広島スターズと試合をすることができ、子ども達にとって練習ではすることが出来ない大きな大きな経験をする事が出来ました。個人の力、チームの力、今何か出来て、何が出来ない。本物のチームと対戦するしか知ることの出来ないもの、少し各自が見えることの出来た試合でした。私としても、大事な場面で何が出来るか、そして何が足りないのかありがたい試合でした。ありがとうございました。明らかに個々の能力に差があるチームに、これからチームとして個人として何をしていかなければいけないのか、これからの６ヶ月、彼らの野球人生において重要な時間になると思います。試合に勝った方が楽しいに決まっています。しかし、悔しい気持ち、それが子ども達を大きくしてくれると思っています。カープが負けた時、大瀬良投手が泣いていたようにサヨナラのミスをした選手は泣いていました。私はいつも子ども達に大きなミスほど早くした方が良いと言っています。よかった！！高校の夏の予選ではなくて。これからいくらでも取り返すことが出来ます。「ひとりで勝つ事は出来ないが、ひとりのミスで負ける事は出来る」私がいつも言っている事です。明日は我が身、他の選手も他人事だと思わずに努力し続けるしかありません。

卒団式でも言いましたが、段原クラブがやっている練習、考え方、指導方法、私も他のスタッフも自信を持っています。自分達とチームを信じて全員で目標、夢に向かっていきたいと思います。

第１７１話/2015.10.05

ラグビーのワールドカップが盛り上がっています。サモアとの対戦の前に特番（テレビ）がありました。その中で日本代表の中で一番小柄な１６８ｃｍの選手が紹介されていました。その選手はワールドカップに出発する前、奥さんにこう言ったそうです。「俺はこの大会で死ぬかもしれない、そのぐらいでやらないと勝負にならないから、その時は再婚して幸せになってくれ」この言葉を残して旅立ったそうです。私は 2 試合日本の試合を見ましたが、本当に言葉には嘘はないと思いました。１９０ｃｍ１１０ｋｇぐらいの外国人選手に立ち向かっていく、そして勝つためには半端な気持ちでグランドに立つ事は出来ません。ひと昔前ではテニスもラグビーも世界で戦えるなんて誰も思っていませんでした。長い歴史に中で努力に努力を重ね、何度も跳ね返されながらあきらめずやってきた事が結果に出ているのだと思います。私は野球しか知りませんが、日本の中で野球選手は本当に恵まれた環境にいます。今回のラグビーの試合は皆さん見るべきです。自分の甘さに気が付く事が出来ます。簡単に死に物狂いだとか、必死だとか、自分は努力している、頑張っているとか恥ずかしくて口に出来なくなります。今回の大会でベスト８に残れなくてもブームに終わる事なくラグビーの応援をしていきたいと思います。野球をやっている小学生からプロの皆さん、全ての選手、自分達の環境に甘えていませんか？段原クラブの選手達、軽々しく努力を口にしない方がいいです。ラグビーの選手に笑われます。

新チームになって６試合程しました。２年生１２人中２人怪我をしているので１０人、ほぼ毎試合出られます。たいした結果が出なくても、それ程努力しなくても大丈夫な感じです。

私は今感じています。とてつもない物足りなさを。もう少し我慢しようと思っています。しかしいつまで我慢できるか？？新チームになった時、子ども達に言ってあります。「新チームからは妥協しません」、同じ物足りないのなら下級生を使うかもしれません。一桁の背番号に値しないのならその番号を無くすかもしれません。段原クラブの歴史の中でプライドと責任を持って背番号を背負って戦った先輩に失礼は出来ません。チームスポーツという事をもう一度保護者を含め、チーム全員が心に刻んで欲しいと思います。

第１７０話/2015.09.28

シルバーウィークの１９日（土）、２０日（日）の２日間、島根県隠岐・西ノ島に関西独立リーグ兵庫ブルーサンダーの若者達とプロ野球ＯＢのおじさん達で町を元気にするイベントに参加しました。素晴らしい天気と空気、美味しい食事と景色、そして久しぶりの硬球での野球を心から楽しませてもらいました。ありがとうございました。木製バットでのホームラン競争でオーバーフェンスを打つことが出来、バッティングは健在な所を見せられましたが足はまったく動きません。１週間以上たった今も左膝の痛みがとれません。減量と下半身トレーニングの必要をつくづく思い知らされました。日曜日の夜遅くに広島に帰ってきましたが、あまりの疲れの為、このつぶやきを１週休ませてもらいました。人口３，１００人の島に中学校はありますが、野球部は部員不足でなくなったそうです。やりたくても出来ない子ども達が日本中にたくさんいます。出来る事が当たり前だと思っている中学生の皆さん、君達は恵まれています。まして段原クラブの選手達は打とうと思えばいくらでも打てる場所があります。理不尽な根性トレーニングはありません。負けたからといって罰のようなランニングやノックもありません。体を壊すような投げ込み、走り込みもありません。全力で取り組んで当然です。思い通りの結果を得られず、自分の努力不足を棚に上げて愚痴をこぼしている全国の選手の皆さん、何も身に付きませんよ。自分で選んだチームでしょ。全ての責任は自分自身にあります。チーム一努力すれば必ず試合に出られると思

いますよ。私は必ず使います。堂々と「一番練習しています」と言える練習をして下さい。その中から本物に見えるはずです。野球が出来なくなってからに人生が長いのです。その時、本気でやった人にはたくさんの仲間（味方）出来ています。

２７日（日）チームの総会で役員がかわり、新しいチーム（１、２年生）になりました。３年生はこれから高校進学の準備に入ります。私は是非、野球をやって欲しいと思っています。３年間きちっと最後までやり遂げる事により、人として男として大きくなれると信じています。そして一生の友と出会えます。試合は見るより出た方が楽しいに決まっています。いろいろな選択肢があると思いますが、努力が報われるチームを選んで欲しいと思います。１０月からの６ヶ月３年生が一番伸びる時です。そのチャンスを生かすか、殺すか、あなた達しだいです。私の力を必要としている選手はいくらでも使って下さい。望めば全力で協力します。これからの６ヶ月、卒業の３月に一番の力をつけて高校進学、私は毎年そのつもりで３年生に接しています。１、２年生に今まで自分が身に付けた技術・考え方を伝えるのも大事な責任です。これからの君達に期待します。

第１６９話/2015.09.15

段原クラブでは誰でも出来る三つの事、「大きな声を出す」「全力で走る」「ベースカバーに入る」を入部の時に話します。技術のいらない、思うだけで出来る事です。しかし入部してきたほとんどの選手が出来ません。小学校で野球（ソフトボール）をやっていたのになぜ出来ないのか？指導されてないからです。当然それ以上の事が出来るはずありません。誰でも出来る当たり前の事、私の中では送りバントもその一つです。体の大きさ、力の強さ必要ありません。足の速さも肩の強さもいりません。バットが持てれば誰でも出来る事。私は高校まで失敗した記憶はありません。たかが送りバントと考えています。中学野球では強烈なバントシフトもなければ、１４０ｋｍ／ｈのストレートもありません。出来て当たり前です。

９月１３日（日）リーグ決勝大会の決勝戦１点ビハインドの６回、７回無死一塁から二度ともバンド失敗しました。追い込まれて三振と内野フライ、人形が立っていても変わりません。段原クラブではクランドでバント練習はしません。なぜか？室内バッティング場が土、日何時間でも自由に使えます。その中で自分で考えてやるように子ども達にはいってあります。そしてわからなければ聞きにおいてとも言っています。バッティング練習は自己満足のため、守備や走塁そしてバント練習はチームのためです。失敗した二人は過去にも失敗があり一日だけ少し練習をしていたのを見ました。考えが甘いのです。２年生は３年生の足を引っ張ってはいけません。試合は一人で勝てませんが、一人のミスで負けます。役に立てなくても迷惑をかけない、社会生活と同じです。そのために努力するのです。自分の欲求（ヒットを打ちたい）のためだけでなくチームのための練習が必要だと思います。試合は結局一点差で負けました。送りバントが成功しても点が入った保証はありません。勝ち負けではなくいつも言っている当たり前の事を当たり前にやる。それをしっかりやって負けたのなら、また実力を上げるために練習を重ねればいいのです。

特別なことをやろうと思えば、まず基本（当たり前の事）が必要です。イチローや柳田だって最初から今の打ち方ではありません。きっちりと基本のスイングを身に付けてから試行錯誤を重ねながら作っていったものだと思います。良い思い（勝利や活躍）をしたければ楽しくないし単調で苦しい基本練習が必要だと思います。

話は変わりますが、リーグ決勝大会に１、２年生で参加したチームがありました。チームそれ

ぞれ考え方があり、他のチームの人間が言うのは筋違いを承知で言います。「面白くない」勝ち残った４チームでやる準決勝、決勝、勝ち残っていない選手が出るのは理にかなっていないと私は思います。予選は自由ですが決勝大会は内容のある試合にすべきです。それでなければ良い球場を取ってまでやる意味がありません。生意気を言って申し訳ありません。
　バントを失敗した二人、私も高校２年の夏の予選で中京高校相手に２点リードの最終回３点取られてサヨナラ負けをした経験があります。３年生のキャッチャーのサインに首を振って打たれて負けました。３９年たった今でも３年生に申し訳ない気持ちでいます。学生野球は最後みんな負けて終わります。大事なのは負け方です。やらなければいけない事はやっておこう。
３年生の選手達、今週中学最後の試合です。自分を信じて、チームを信じて持っている力を全て出して下さい。集中したら君達は力ありますよ！！

第１６８話/2015.09.07

　９月６日（日）８０’ホークスの招待試合が雨で中止になりました。招待試合を行うのには大変な労力が必要です。一年に一度の行事が中止になってしまい準備を重ねてきた人達、選手達の気持ちを考えると、とても残念に思いました。大会は抽選で順位を決める事になり、私は先輩（８０’ホークスの監督）山内さんに挨拶するのが野球界の常識なので会場に行きました。チームとしては中止というメールを流しましたが、福山までほとんどの選手が来ていました。とてもグランドでの練習は無理という事で、ほぼ初めて試合のメンバーの練習を中止にしました。
　段原クラブは私が広島フルスイング塾という室内バッティング場を経営しているので、雨が降っても打撃練習が出来ます。強制的な練習ではなく本当にやりたい子だけで練習をしたかったのであえて休みにしました。試合に行かなかった選手が午前中打っているので、午後何人か打ちに来るだろうと思っていました。大会メンバー１４人中１１人が打ちに来ました。私が思っていた人数よりやや多め、２年生は必ず全員練習に来るのは予想出来ました。３年生８人中何人来るだろうか？最低で一人最高で四人と思っていましたが五人でした。私は練習休みを指示したので来ない事は悪く言いません。自由です。３年生は残り２大会、２週間をどう使うのか自分しだいです。夢や目標を語っている選手達、口だけでは一歩も近づく事は出来ません。たった一日練習したからといって目に見えて変わるものではありませんが、しかしやらなければ変わる可能性は０％です。まして広島の高校野球をリードしている高校に進学したいといっている選手なら、家族中が野球一色にならなければ行って迷惑を掛けるだけです。
　３年生と試合をする最後のチャンスが雨に流れた事に何かを感じずにいられません。グランドでプレーをするのは子ども達です。自分の野球人生を長く意味のあるものにするのか、短く終わってしまうのか、あなた達が決めます。私には来年も同じように大会があります。３年生の子ども達、中学生として出来る試合、２大会です。是非、３年間を意味のあるものにして下さい。一日がとても大切な２４時間です。

第１６７話/2015.08.31

　「信頼」信じて頼りにする事。「信用」確かだと受け入れる事。「必要」なくてはならない事。辞書で引くとこう書いてあります。

先週、私は６歳の孫とプールに行ってきました。まだ泳げないので浮き輪につかまっています。しかし何があっても私がいる限り絶対安心だと思っています。１００%信頼しこの人は自分の事を守ってくれる、裏切る事はないと信用しているからです。そして彼女がプールで遊ぶためには私が必要なのです。そんな事が私にひしひしと伝わってきました。そして帰りには感謝の言葉をもらいました。自分を必要としてくれる、そして信頼、信用してくれる、とても気持ちのいいものです。私は指導者と選手、保護者の関係も同じだと思います。自分の力が本当に必要なのか、不要なのか？信頼関係はあるのか？やりがいとはそういうところがとても大事です。相手が望んでいないのに自分の理論を押し付けてもお互い不幸になるだけです。折角好きな野球を休みの日にやるのですから、良い１日にしなければ意味がありません。信頼してもらっている孫と過ごした日のように子ども達と野球が出来たら幸せです。

スポーツをしていると怪我をする事があります。私も現役時代、骨折、肘、肩、手首、足首、一週間程度のものから一年以上完治にかかったものまで色々な怪我をしました。突発的に起こるものから、継続的にストレスからくるものまで故障の原因はいろいろあります。まず大事なのは予防です。負荷の強さだったり、フォームだったり、トレーニング、練習後のケアなど指導者は一番気を使います。その中でも残念ですが故障者が出ることがあります。私はいつも言っている通り、中学野球は通過点なので無理する必要はないと思っています。早い発見、早い治療、そして早い復帰が子ども達のためになると考えています。そして二度と同じ事を繰り返さないためにトレーニングを含め専門家の指示に従うべきだと思います。その子がレギュラーであれ、そうでなくてもチームが勝つために無理に使うような事は考えたことはありません。段原クラブではチームトレーナーを決めています。プレー出来るか出来ないのか、その判断は私ではありません。本人でもありません。勝ちたいがために子どもにリスクを負わせてはならないと思っています。しかし、チームトレーナーからＯＫが出ればプレーさせます。私とチームトレーナーとの信頼関係です。ひとりでも多くの子どもに信頼、信用そして必要とされる指導者になりたいです。

第１６６話/2015.08.24

夏の甲子園が終わりました。ベスト８に残ったチームとそうでないチームは何なんだろう？特に中・四国のチームの低迷は深刻です。何がちがうのか？私はバットを振る力が圧倒的に違うと思います。ではなぜそんなに違うのだろう？そもそも選手の能力（素材）の差？中国地方にはバットを振れる選手がいないのだろうか？確かに私は軟式の子ども達を２０年程（中学生）見ていますが、今だにゴロを打てと指導しているチーム（小・中学生）が沢山あります。そしてフライアウトになると怒られるシーンをよく見ます。しかしその全てのチームで外野の頭を越す打球を打つと、どの指導者も「ナイスバッティング」と誉めています。なんだそれ？こんなバカな事がまかり通っています。よくそんなチームに子どもを預けていますね。フライでアウトになると怒られる、でもヒットなら誉められる。こんな理不尽な指導が子ども達から思い切ってバットを振る勇気を奪います。バットを強く、鋭く１球目から振れなくては上のレベルでの野球は出来ないのです。目先の勝ちにこだわるばかり、ノーアウトでランナーが出れば必ずバント、私は相手がバントしてくれるととても有難く思います。特に初回は特別に嬉しいです。子どもの能力の差ではなく、考え方と練習内容の差だと思います。体を作り、バットを振る、出来るだけ多く打つ。そしてどう打てば打球が上がるのか考える。変化球は泳いでもストレートには遅れない、速く強いスイングを身に付ける、これを３年間しっかりやれば変わると思います。バントとエンドラン

の守備練習では魅力のあるチームは作れません。
　８月２３日（日）のカープ対ジャイアンツを見ましたか？草野球です。ランナーが出ればバント、スクイズ、ことごとく失敗、少年野球のような走塁ミス、プロ野球とはアマチュアが出来ないプレーをお客さんに披露して喜んでもらうものです。バントやスクイズは高校生でも出来ます。そんな物は誰もわざわざ球場まで見に行きません。終盤１点を争っている場面で思い切ったバント守備を引かれた中で決める。これがプロの技術です。プロ野球より勝ち上がってくる高校野球の方がしっかりバットを振っています。これもプロ野球が勝ちにこだわっている弊害だと思います。野球ファンの方々ももっとプロ野球の原点、プロの技術を見て驚いたり、喜んだりして欲しいと思います。初回からのバントにはブーングが必要です。ヤクルトの山田や横浜の筒香、ソフトバンクの柳田など他チームには魅力的な選手が沢山います。ジャイアンツは？勝てば良い？勝てば正しい？少年野球も高校野球もプロ野球も？私はちがうと思います。

第１６５話/2015.08.17

　バッティングを良くするためには数多くの球を打つ必要があります。試合で投手の投げるボールをたくさん打てればそれに越したことはありませんが、１日に１００打席打つ事は出来ません。その為にフリーバッティングをします。それでも人の投げるボールを１００球打つのは大変です。その代わりにマシンを打ったり、ティーバッティングで数を補います。バッティングにはパワー（スピードを含む）とテクニック（技術）が必要です。子ども達のティーバッティングを見ていると、どちらを身に付ける為にやっているのか目的がよくわかりません。フリーバッティング前のアップのようだったり、休憩に見えたりします。ティーバッティングには色々な方法があり、それぞれ目的が違います。今までも数種類教えてきましたが、日曜日にヤクルトの山田選手がやっている練習方法を２種類新しく伝えました。後は彼らが自分の技術を高めるためにどれだけ意識して練習をするかです。自分自身の野球人生を長く楽しくするか、短くつまらなくするかは貴方達しだいです。私は指導者として上手くなる為の時間と考え方（練習方法）を伝えています。そこから先は自分自身の問題です。やるかやらないか、それだけのことです。
　今甲子園大会真っ最中です。私はあまり好きではないので好んで見ている訳ではありませんが今年は点が入りすぎだと思います。確かに年々打者はパワーアップしていますが技術的に素晴らしい訳ではありません。投手の力不足を感じます。どの投手を見ても色々な球種（ストレート、スライダー、カーブ、チェンジアップ、フォーク、ツーシームなど）を投げます。しかし、一番大切なボール、アウトコース低めのストレートが投げられません。そのため長打をくらいます。それが大量失点につながります。球種が増えると投手としてのレベルが上がったように思いますが、それによってストレートの質、精度が落ちては意味がありません。前にも書いたことがありますが、投手としての原点能力（アウトコース低めのストレート）を高める基本的な練習が必要だと思います。四死球、エラー、長打が無ければ大量失点することはないのです。その為に必要なのは基本です。

第１６４話/2015.08.11

上半身を鍛えてみようとトレーニングしてみました。たった４日間ですが少しハードにやりまし

た。日曜日の練習でボールを投げてみると肩が回らない、油が切れたような感じで腕が全くしならない。今まで感じた事がない違和感があり、ボールが指にかかりません。野球というスポーツは本当に難しい。パワーがあっても体や腕のしなやかさがなければ、質の良いボールは投げられません。バッティングも同じく確かにパワーは必要ですが、技術がなければそのパワーはムダになります。ウェートトレーニングする時には、強く太い筋肉ではなく、スピードのあるしなやかな筋肉をつけるようにしないと野球の成績につながらないような気がする。関節の可動範囲を広げ、柔軟な筋肉をつけるようにトレーニングする必要を感じました。プロ野球選手の良い投手、良い打者達もパワーだけで勝負していない。コンスタントな数字を残すのは、柔らかい頭と柔らかい筋肉です。

小・中学生の場合、体の大きさで技術の無さをカバー出来ます。高校野球も金属バットで飛ばすだけなら上半身の力で打てます。でもそれは本物ではありません。木のバットを持って打てる技術、野球とは本来バットは木製です。体のパワー、重さ、強さもちろんあった方が良いに決まっています。しかし野球でもっと大事な物、スピード、柔軟性、キレ、体と頭のしなやかさです。体に恵まれなくて悔しい思いをしている小・中学生たくさんいると思います。あきらめず、キレ、柔軟性、しなやかさそして頭で勝負出来ます。ありがたい事に野球はポジション、打順で役割が違います。たくさんチームに役立てる仕事があります。プロ野球を見ましょう！！。野球の神様達がプレーを見せてくれます。よくアマチュアとプロはちがうという人がいますが、同じルールでやっているスポーツです。終わった時、相手より１点多く取れば勝つ、まったく同じです。野球の手本はトップに求めるべきです。今、甲子園大会をやっています。最近、三振が多いと思いませんか？私は上半身のパワーに頼ってバットを振っている事が原因のひとつだと思います。あくまでもバットは強い下半身としなやかな上半身で振るものです。確率も上がりますし、足を使えば飛距離も出ます。

私は投手も打者も守備も頭も「しなやか」が大事だと思います。

第１６３話/2015.08.03

新チーム初めての公式戦文部科学大臣杯が８月２日（日）にありました。結果は１対０で負け、打てない事はある程度予想していました。現在の２年生は完全に身体能力不足で基本的なパワーとスピードが児玉と村田以外の選手は中学２年生の平均以下なので２人が打たない限り得点は難しいだろうと思っていました。特に走る能力がほとんどの選手に無いのが、とても苦しい所です。センスと言いますか、走塁のカンと言いますか、リードのとり方、リードオフの仕方、スタートどれをとってもスマートに出来ない。相手の投手にプレッシャーをかける事すら出来ない。ランナーに出ると自分がおどおどしている状況では勝負になりません。バットは良く振っています。でもそれだけです。パワーとスピードあった方が良いに決まっています。そして走塁にはスランプがありません。一番チームとして計算できる能力です。足が遅ければ遅いほど技術（判断力）を磨かなければいけません。私はいつも子ども達に言っています。当然バットは振らなければ打てるようにはなりません。しかし、バットを振っているだけでは打てるようになりません。良い投手はアウトコースにストレートを投げられる技術のある投手です。そして良い打者はそれをセンターから反対方向に打ち返せる打者です。入部した時からずっと言い続けています。真ん中の甘いボールを引っ張って遠くに飛ばすだけで満足しているような練習では試合に通用しません。試合でチームの勝利に貢献出来るバッティングを身に付けるために練習をするのです。もちろん

甘いボールは思いっ切り引っ張って構いません。しかしここ一番良い投手を打つ為にはアウトコースのボールをセンター方向に打てなければ良い結果を得られる確率は上がりません。野球は確率のスポーツです。確率の良い技術を身に付けそれを試合で発揮出来る精神力があれば良い結果を得られます。２年生はまだまだ身体的にも精神的にもとてもひ弱です。チームを背負うどころか、自分の事で精一杯。１年生にも数名からだに力のある選手がいます。入部が遅く経験がまだまだですが、これから来春までの競争が楽しみです。新人戦１回戦負けなのですからこれより下はありません。弱いチームが今までと同じでは変わりません。ひとりひとりが今の自分達の力をしっかり知り、一番下から這い上がらなければなりません。

負けた事により監督として色々な事を変える事が出来ます。打つ事はもちろん今まで通りにやりますが、それ以外の練習をしっかりやります。１回戦で負けた事により、お陰で８月、１，２年生はしっかり練習出来ます。今までより当然厳しくなります。体調管理をしっかりして出て来て下さい。休めばおいていかれますよ！！

第１６２話/2015.07.27

７月２５日(土)笠岡ドリームスの大会に呼んで頂きました。強いチームばかりで今の力をはかるのにとても良い試合をさせてもらいました。是非、来年も呼んで頂けるような良いチームになろうと思います。いつもと違う場所で野球をするだけで子ども達には良い経験になります。結果的にはベスト４に残れませんでしたが３年生にとって残り５０日、何をしなければいけないのか課題が見えた試合になったと思います。笠岡ドリームスの皆さん、本当にありがとうございました。

７月２６日（日）は太田川リーグに新チームで行きました。８月２日の文部科学大臣杯の前、最後の試合です。新チームなので打つ方はまだ期待出来ません。投手と守備がどの程度出来るのかを確認する試合です。２試合ともエラーが無く無失点、思っていた以上に投手と守備のミスが無く来週の試合も緊張することなく、持っている力を１００%出して欲しいと思います。色々な試合をある程度２年生も経験しているので自分のやってきた練習と身に付けた力を信じて思い切ってプレーして欲しいです。８月に新チームの試合があるの早すぎます。まだまだチームは出来ていません。これは他のチームも同じ条件ですが、それにしても早いですね！！最低限今年の全国大会が終わってからやるのが筋だと思います。

高校野球広島大会が終わりました。今年も点を取られなかったチームが勝ちました。私は甲子園は投手が連れていくものだと思っています。前にも書いたことがありましたが、チーム力は投手力、甲子園は投手を育てることが出来るチームが行きます。守備力があるのは当然です。しかし甲子園で勝つ為には投手力だけでは勝ち上がれません。そのため今年も広島代表は苦しいように思います。１回戦は相手にもよりますが、２つ、３つ勝つためには打力が厳しいと思います。ここ数年の広島の高校野球はずっとバットを強く振れるチームがいません。トーナメントを勝ち上がるためにスモールベースボールが確率良いのでしょうが、ガンガンバットを振るチームが広島にも出てきて欲しいと思っています。

段原クラブは、ずっとサインなし、スクイズ、エンドランなしで広島県一になろうと練習しています。まだ軟連の公式戦では実現していませんが、あくまでそういう野球で勝ちたいと思います。そのために他のチームの何倍もバットを振らなければいけません。２年生が今のままの努力を来春まで続けたら楽しみです。

第１６１話/2015.07.22

１年生のリーグ戦が終わり、いつものように決勝トーナメントには残れませんでした。１年生の時に勝てないのは毎年の事なのでこんなものだろうという感想です。段原クラブはこれからが他のチームと違います。正しい練習を重ねる事で３年生の時には勝負出来るチームになります。例年なら？これからの１年間、１年生が今までと同じではポジションを半分以上下級生に取られることになるでしょう。その時慌てても間に合いません。今日から変わる必要があると思います。段原クラブの監督としては誰が試合に出ても構わないのです良いのですが、自分の野球人生を長く楽しくする方法を段原クラブはわかっているのでやった方が良いと思います。

８月になると大会が多すぎて重なってしまいます。部員がある程度いればみんなが試合に出るチャンスが出来、とても良いと思います。しかし、新人戦（文部科学大臣杯）としまなみ大会が重なるのはどうかと思います。その後の県知事杯も他の大会と重なります。お金をかけて遠くまでベストメンバーでなく行く意味が私にはあるように思えません。どうせ試合をするなら思い切った本気の勝負が面白い。そんな意味でしまなみ大会西部予選で負けた事はたいした事ではありません。しかし、負け方が気に入りません。私は試合に行っていないので子ども達に理由を聞きました。すると「朝から気持ちが入っていなかった」、「ウォーミングアップがいい加減だった」、「集中力がなかった」など、はぁ～。

休めばいいのに！試合に出たくてうずうずしている子どもはたくさんいます。そしてレギュラーより何倍も努力している子どももいます。技術が無いのは罪ではありませんが、気持ちが無いのはグランドに出て段原クラブのユニフォームを着る資格がありません。折角、段原クラブで他のチームとちがう技術を身に付けても、発揮するためには頭が指令を出さなければいけません。結局思いがなければ体は動かないのです。だから心がないのならグランドに出ても良い結果は得られません。技術が少し劣っていても心のある選手と同じユニフォームを着てグランドに立ちたいです。

第１６０話/2015.07.13

私は今、自分自身にとても腹を立てています。全ての組織には規則があり、野球にはルールがあります。スポーツ選手はその中で技術を尽くし戦います。私は段原クラブを立ち上げ監督になった時からずっと、野球が大好きで私を信じ、ひたむきに努力する子ども達と野球が出来ることを心から喜び、その為に全力を尽くしてきました。試合の勝ち負けより、信じてくれる子ども達が 1 本でも多くヒットが打てるように、打球処理が出来るようになって欲しい、そして野球というスポーツの素晴らしさを体感して欲しいと思ってやってきました。しかし、ここ数年勝つ事が目的、目標になり段原クラブの本来あるべき姿を見失しなっていたように思います。確かに今年は県大会準優勝、そして日刊大会優勝など勝っています。

でもそれでいいのだろうか？中学野球、勝てば正解なのだろうか？力があれば全てＯＫ、ルールも規則も練習態度も関係ない、本当にそれでいいのだろうか？

私は教育者ではありません。野球の技術の勉強は今でも欠かす事はありません。練習内容も他チームには負けてないと思っています。それは入部してくる子ども達の人数、素材それがそして

３年生になった時の結果が証明しています。勝負の世界は確かに力が全ての世界です。「力無き者はされ」です。私も勝負の世界に身を置いていた人間です。身に染みてわかっています。それでも今の段原クラブが正しいとどうしても思えません。人ごとのように書いていますが、自分で決断できず、ずるずると先延ばし、あいまいな態度で勝つ事を優先してきた代表・監督である私の責任です。そんだ自分がとても情けなく思っていますし、しっかりきまりを守り、一生懸命努力しているほとんどの子ども達に心から申し訳なく思っています。本当にすみません。その子ども達のために私の全ての力を使ってサポートしていきたいと思っています。野球というスポーツは高校に行くと、突然楽しくなくなります。そして今書いたような我がままは一切通用しなくなります。今のままでは確実に高校野球はありません。我がままは全て自分に帰ってきます。そして甘やかした親にも帰ってきます。自ら練習したいと言ってくる子ども達と打っている土、日練習後のフルスイング塾が楽しいです。そんな野球がしたいな～。

第１５９話/2015.07.06

スポーツをする上で体格（身長・体重）の違いはとても大きなハンディになる事があります。野球も大きな体の方が、ボールにスピードがあったり、打球が遠くに飛んだりします。同級生でも１０ｃｍ以上身長に差があったりすることがあります。当然体の大きい子の方が早く良い結果が出たり、チームから期待されたりします。私は常に中学野球は通過点に過ぎないと言ってきました。結果を急ぐあまり無理して体や心を壊してほしくないからです。体格にハンディがあると筋力に差があります。大きな子のように投げたいとか飛ばしたいとか走りたいとか身の丈以上の結果を求めるとケガにつながります。他の選手と比べ少し手も早く、そして多く試合に出場し、良い結果を求める親の期待も負担になります。子ども達は人それぞれ持って生まれた力が違います。私はそれぞれの体、心、技術を見て試合での使い方、練習量を考えています。そして３年生になった時に一段ずつ確実に上がっていければ十分です。駆け上がったり、段を飛ばしたりすると転げ落ちる事があります。体に恵まれなくても野球は仕事があります。じっくりと体作りをすれば３年生で勝負出来るようになります。

１、２年生の子ども達と保護者の皆さん、一喜一憂せず、段原クラブのシステムを信じて下さい。３年生の４月からが本当の勝負ですし、それも野球人生の中では通過点に過ぎません。少々無理をしても壊れない心と体をじっくりと作れば、その上にどんどん技術は積み上げっていきます。

あわてない、あわてない！！

フルスイング塾の室内バッティング場を土、日曜日練習前後に開放している話は書いたと思います。今、控えの２、３年生が本当によく練習しています。とても感心しています。しかし、時々レギュラーが試合で結果が出なかったからという理由で打ちにきます。私は不思議でなりません。

野球の技術に頂点はありません。特にバッティングは失敗ばかりです。もっと打ちたい、一本でも打ちたい、もっと飛ばしたい、三割打ったら三割五分、４割と野球をやっている限り突き詰めていくものだと思います。毎日やって当たり前、どんなに打っても安心したり、満足するものではないと思います。なぜなら、全部打ちたい（十割）それを目指してやるものだからです。

試合で打てなかったから練習する？ハァーって感じです。

たかだか中学生のピッチャーから２、３本打って満足？

そんな選手はそのままです。夢を語る資格はないと思います。頂点のない技術をやめるまで追い求める。これが野球だと私は思っています。そして私はもっと上達出来る技術、考え方、練習方法があるはずだと毎日考えています。

第１５８話/2015.06.30

文部科学大臣杯（新人戦）まで約１カ月です。現チームでレギュラーを張っている３人を除くと残り６つのポジションを１、２年生１６人で争うことになります。私は年功序列という考え方はありません。ポジションを争うのは力のみです。今、目の前に大きなチャンスが全員にあります。チームいち練習するか、チームいち声を出せば簡単に取れます。１か月しかない今、１、２年生の心の迫力が私に伝わりません。今まで通り何も変わらず練習、試合をしている、とても不思議です。
３年生の何人かのように手を抜いたり、集中していなかったりではないが、可もなく不可もなく普通、飛び抜けた身体能力のない段原クラブの選手が試合で勝つ方法は野球頭や技術がもちろん必要です。そしてもうひとつ気持ちの強さ、闘志、つまり闘う心です。内に秘めた闘志など何の役にも立ちません。思いは人に伝わらなければ意味はないのです。そしてまず、チーム内での闘いに勝たなければ勝負のグランドに立てません。ポジションは与えられるものではなく、奪うものです。
監督の私にメンバー表にあなたの名前を書かす事が出来るかどうかは君達しだいです。各自が自分の良いものを見せて下さい。私がどんな選手が好きなのかわかっているはずです。同じユニフォームを着て一緒にグランドで野球をしたい選手、「がむしゃら（ほかの事を考えず、ひたすらにある事をすること）ってかっこいい」、何年か前のＴシャツの言葉です。技術はあることに越した事はありません。子ども達は未熟で失敗します。その度に前を向いて向かってくる選手が私は好きです。「試合に出たい」「俺を使え」そんな気持ちをプレーでどんどん私にぶつけてきて下さい。そんな練習や試合を見るのが私の喜び、楽しみです。折角の休日、グランドに出て良い気持ちで過ごしたいものです。
　３年生の皆さん、全軟が終わり、モチベーションが無くなったのならグランドに出ないべきです。あなた達の野球は中学程度のものだったのですか？私は常に言っています。たかが中学野球、こんなものは通過点でしかありません。高校野球をするための準備期間です。３月一杯いくらでも上達するチャンスがあるのに、それを放棄しているのならグランドに出る意味はありません。練習は自分の為、試合はチームのためにやるものです。体は心が動かすものですから、心が無ければ何も無いです。
　段原クラブのレギュラー程度で満足していたら先はしれています。

第１５７話/2015.06.22

　６月２１日（日）山本浩二旗という大会がありました。この大会は新チームの試合で例年は１０月、１１月にやっていた大会です。６月に新チームの試合、３年生を中心にしたチームの試合が、これから本格的になっていくこの時期にとても難しい、たぶんどこのチームも同じだと思います。文部科学大臣杯もそうですが、新チームの試合は本来、３年生の最後の全国大会が終わっ

てからやるべきだと思います。余る程選手がいるチームが圧倒的に有利です。高校野球で夏の甲子園が終わる前に新人戦は始まりません。小中学生の試合はいつも大人の都合が最優先されます。試合は勝ちましたが、野球のレベルはまだまだです。ポジションにしても打順にしてもいろいろ試して探っている状況です。１，２年生の選手全員にチャンスがあります。それを掴むために一番必要なのは守備力です。「段原クラブは打てないと出られない」そう思っている選手がいるようですが、ちがいます。一番大事な力は守備力です。守備はミスするとチームに迷惑を掛けます。打つ事は３人いればなんとか点は取れます。ピッチャーが打ち取った打球を確実にひとつアウトに出来る力があればレギュラーになれます。

選手の皆さん、打つ事に気を取られているようですが、チームのために必要なのは守備と走塁です。試合に出るためにはポジションがいります。自分の守る場所を探して練習をして下さい。

本気ならいつでもどれだけでも付き合いますよ！！

第１５６話/2015.06.16

６月１３日（土）にブライディングカップを行いました。段原クラブは他のチームがやっているような大会はやりません。なぜか？１年間で１０大会以上たくさん試合があります。私は小、中学校には試合よりも練習が必要だと考えています。レギュラーの選手は十分に試合経験が出来ています。しかし控えの選手は中々試合に出られません。その子達のために小さな大会を毎年数回しています。レギュラーが出られない大会、それがブライディングカップです。４チームだけの大会ですが普段１試合フルに出られない選手に最初から最後まで試合を経験してもらうために行います。野球というスポーツはルールで１度に９人しかグランドに立てません。部員が９人以上いれば当然控えの選手が生まれます。楽しい試合はレギュラーだけ、苦しい練習は全員一緒、おかしくないですか？会費も全員同じです。確かに勝負の世界は力が全てです。大会によっては私も勝ちたい大会があります。勝つための選手を使うようになります。しかし努力は力のある順ではなかったりします。精一杯努力しているのに中々上手くいかない選手もいます。そういう選手達に思い切って試合を楽しんでもらいたいと思って始めた大会です。試合は勝つ事もあれば負ける事もあります。勝つ事で選手達は自信も持ち、勝ち上がる毎に力をつけていきます。又、負ける事で変われる事もあります。私は試合によってはわざと負ける訳ではありませんが、負けても良いとか、負ければいいのにと思ってする事があります。ひとりの選手の力で勝つ事は中々出来ません。しかし、負けはひとりのミスで出来ます。そしてその時には、その選手にはっきりと君のミスで負けたと伝えます。とても厳しい口調で回りで見ている人が見ていられないぐらいの勢いで罵ります。なぜなのか？身に染みて忘れて欲しくないからです。人はミスをします。まして子ども達は当然です。その経験を次に生かして欲しいからです。たとえば試合の中でバントのケースに出来ない選手に回ってきました。勝たなければいけない大会では代打です。そうでなければミスすると思ってやらせます。そしてそれが原因で負ければ厳しく言います。大事なのはその後です。その選手が責任を感じ練習が変わってくれれば、そのミスはマイナスにならないと思います。ピッチャーが打たれる事も、キャッチャーがパスボールする事も野手がエラーする事も、試合の勝ち負けを左右する程の大きなミスをすればするほど、その選手が変われるチャンスです。中学野球は通過点です。大きなミスは早くした方が良いです。高校野球の県の決勝や甲子園でやらないために、身に染みて一生忘れない程のミス、そして練習に取り組む姿勢が変われば、中学の試合の負けなんてたいした事ではありません。私がいつも言っている試合に勝つ事が全てでは

ないと言っているのはこういう事もひとつです。野球は社会生活によく例えられます。人に迷惑を掛けない。ひとりのミスでたくさんの人達に嫌な思いをさせます。そういう意味でレギュラーが努力するのは当たり前です。今、段原クラブでは２年生の控えの選手がよく練習をしています。ずっとあきらめず続けてくれれば来春が楽しみです。私は今、その子達と練習をしている時間が好きです。自分がやっている事に自信が持てなくなっていた時に卒団生が私に書いてくれた手紙を読みました。もちろん自分が全てなどとは思っていませんが、元気が出ました。卒団生も今高校で心と体の両方が辛い時期だと思います。

段原クラブの野球を信じ、思い切ってやって下さい。君達は出来る！！

第１５５話/2015.06.09

私は厳しいと言われます。段原クラブは他のチームと比べて多くの人数がいるわけではありません。土、日の練習は基本、半日です。グランドでへとへとになるような練習はしません。試合のサインはありません。当然、スクイズ、ヒットエンドランはしません。何が厳しいかわかりません。何度も書いてきましたが、中学生の大会で勝つ為、試合に勝つ為のテクニックを練習しても意味がありません。高校野球で困らないための基本技術、野球というスポーツの本質、状況判断、考え方、取り組む姿勢これを徹底的にしつこく、うるさく言い続けているだけです。

先日テレビでプロゴルファーの丸山茂樹が言っていました。「小学生からずっと学校の友達が出来なかった」学校が終われば夜まで毎日練習、友達と遊ぶという時間は無かったそうです。又こうも言っていました。「何かを極めようとすれば、色々なものを犠牲にしなければならない」私も同感です。私はとても野球を極めていませんが、俗に青春時代に経験する色々な事を犠牲にし、甲子園とプロ野球を手に入れました。今でも家族や色々な人に迷惑を掛けていると思いますが優先順位の一番は野球です。家族でも仕事でもありません。中学生は当然勉強が一番なのでしょうが、野球も人としてとても役に立つ勉強のひとつだと思います。段原クラブの選手を見ていると野球が一番という選手もたくさんいますが、「何番目？」と聞きたくなる選手、保護者もいます。大事な場面（試合）になればなるほど、あなたにとって野球は何番目？が勝負を決めると私は思っています。出来たら野球が一番という子ども達のために私の時間を使いたいと思います。

今年の一年生は過去最高におとなしい親子がそろっているので、まず頭の中を変えてもらうところからやらなければいけません。私としては、今までスポーツをやった事がないような子ども達をクラブチームでスポーツをするという事はどういう事なのか、段原クラブとはどんな考え方でやっているのかから説明していかなければいけないと思います。どんなに素晴らしい体、身体能力があっても頭（考え方）が間違っていれば野球の技術は身に付きません。同じ失敗を繰り返す中心選手はチームの足を引っ張ります。一番の素質は毎日コツコツと努力を続けられる精神です。それがない身体能力は宝の持ち腐れ、上のレベルに上がる事は出来ません。厳しくて当たり前、高校野球をやりたいから段原クラブに入ってきたんでしょ。それに答えるのが私の仕事です私は保護者にも子ども達にも厳しい言葉を使います。うっとうしいと思われる事も嫌われる事も承知の上です。これから甲子園という勝つ事を求められる野球の世界に足を踏み入れるのですから。子ども達のためになると信じて言い続けます。

第１５４話/2015.06.01

５月３１日（日）段原クラブの全軟が終わりました。５回目の県大会出場で初めて決勝に進みましたが、４対１で負けてしまいました。たくさんのＯＢの方々、関係者の方々に応援を頂きありがとうございました。今年たまたま決勝まで進みましたが、段原クラブが強かった訳ではなく、過去４回の県大会と比べ、レベルが低かったと思います。参加８チーム全て見ましたが、私がもし、野球校の監督だとし、声を掛けたい選手は一人もいませんでした。ストレートに力のある投手がいませんでしたし、外野の頭上を遥かに越していくような打球を打つ選手だったり、目を見張るような足のスピードがある選手も見当たりませんでした。そういう中での決勝進出だったように思います。負ければもちろん悔しいのですが、私は終わって肩の荷が下りたようなホットしたような気持ちになりました。２０年前、段原中学校の野球部の中にスポーツ少年団を作り活動を始め、独立して軟連の大会に出だして９年、元々大会に勝つ事を目指してではなく、高校で野球を続けて欲しいという思いでチームを作り指導をしています。私はとても甘い人間なので勝負の世界には向いていません。勝たなければいけない、そのためにはメンバーを固定した方が確率が高い、チームの流れを止めないようになるべく選手を変えない方が良いだろう、そんな感じでやる試合はしんどいです。全ては私の心の弱さからくるものですが。

決勝で負けたチームの監督が言うと負け犬の遠吠えのように聞こえるかもしれませんが、準決勝、決勝をなぜ１日でやるのでしょうか？西部予選は代表が２チームなので決勝に大した意味はないので構わないと思います。しかし県大会は代表が１チーム、おかしくないですか？投手の投球回数制限、私は賛成です。本来いらないものですが、アホな指導者から子どもを守るために必要だと思います。（しかし、試合を制限しても練習でバカみたいに投げさせれば意味はありませんが）ある関係者に聞くと日程の都合だそうです。又大人の都合、中国大会は７月１１日、１２日。まだ１ヶ月以上あるのに？意味が分かりません。準決勝２試合目が終わって決勝開始まで３０分しか時間をもらえませんでした。なぜ？１日目は９時過ぎから４試合十分に出来ました。２日目は３試合、開始時間は８時３０分。これも意味が分かりません。子ども達の体を守るような事を言っていますが、３０度近い気温の中、インターバルも十分に取らせないで急いで試合をする。なぜ？また大人の都合、早く終わりたいから？またうっとうしい生意気な監督と思われるでしょうが、何度でも言います。子ども達の野球は子ども達のためにあります。子ども達のためにやるのです。関わる大人達も子ども達のために働くのです。私が厳しくするのも、それが子ども達のためになると思うからです。お金、労力がたくさんかかってもみんなで負担すればたいした事はありません。子どもの大会を大人が早く進行して、早く終わって、早く帰ろうみたいな事はして欲しくありません。代表が１チームなら準決勝、決勝は別の日にやるべきです。チームの関係者はみんなそう思っていると思います。それが子ども達のためなのですから。

「投手力がチーム力」代表を決める試合はエース同士でやるべきです。

第１５３話/2015.05.25

５月２４日（日）香川県の丸亀に日帰りで練習試合に行ってきました。今週末の県大会で使われるアクアスタジアムと同等の球場で良いピッチャーと対戦し子ども達にはとても良い経験が出来ました。県大会に出てくるチームのピッチャーは当然平均以上のレベルを持っています。過去の経験からも大量得点は望めません。その中でミスを減らし、競った試合の中で１点差で勝てる技術と精神力が求められます。そういう意味でも子ども達にも課題が見えたでしょうし、良い物

もあり、自信になった部分もあったと思います。自信を持って集中すれば今年のチームは良いチームです。

試合での私の仕事は子ども達の持っている力を１００%出す事が出来る環境をつくる事だと思います。足を引っ張らないように気を付けます。丸亀の対戦相手は公立の中学校の野球部です。どちらも熱心な先生がおり、若い外部指導者（野球経験者）がついています。前にも書いた事がありますが、本来なら中学校の野球部がしっかりやれば、クラブチームは要りません。本気で野球が出来る環境が学校に無いのでクラブチームが必要になります。

なぜ広島には出来ないのでしょう？無料で使えるグランドがあり、選手集めをする必要が無く、うらやましい環境です。なぜやらないのですか？

中学校の先生が出来なければ他県のように外部指導者を利用すればいいのに・・・。そこにチームがあれば期待して入部する子どもがいます。大人はそれに答える責任があると思います。素材のある子ども達はたくさんいます。努力しない子どもを上達させる必要はありませんが、頑張りたいと思っている子供がいれば大人は全力でサポートするべきです。野球部（野球チーム）の看板を掲げているなら、まず野球の技術を伝えるべきです。子ども達が求めているのは精神論ではなく技術論です。そしてスポーツは技術で勝負するものです。（当然、技術を身に付けるために体力、体の力は必要です。）住んでいる町の学校にたまたま熱心な先生がいる、いないでその子の野球人生が変わってしまいます。とても不幸な事だと思います。しっかりやっている地域があるのですから、広島でも出来るはずです。小・中学校の指導者のレベルを上げなければ、広島の高校野球の低迷は回復しないと思います。結果が悪いのは練習の質か量に問題があるからです。野球に頂点はありません。今よりもっと良い方法があるはずです。子ども達のために毎日が勉強です。

県大会は良い天気、環境の中で選手全員が段原クラブで野球をする喜びを感じてくれたら、とても幸せです。

第１５２話/2015.05.18

今週は大会の試合開始時間について書きます。ほとんど全ての大会と言っていいくらい、第１試合は予定時間より早く始めようとします。そして試合と試合の間も出来るだけ短くしようとします。

なぜ？大会関係者が早く帰りたいからです。私がいつも言っている大人の都合です。日曜日の大会でも１５分早く始めたいと言われました。私は断りました。段原クラブは子ども達のためにあるチームで、その大会も子ども達のために行われると認識していたので子ども達がしっかりと準備し、持っている力を十分に発揮出来る環境を作るのが大人の仕事だと思い予定通りに始めることを希望しました。ごくごく当たり前の事だと思います。その日は天気が時間とともに回復する予報でした。早く始める理由がありません。確かに１日グランドでお世話をする役員の方々は大変だと思います。心から感謝しています。しかしあくまでも子ども達の為にある野球の団体です。彼らが出来るだけ良い状態で試合に臨めるようにしてあげるべきです。不十分な状態で試合をさせ、持っている力を出せなかったり、ケガでもしたら試合の意味がなくなります。大人は子ども達に厳しい事を言うのですから、良い環境を作る責任があると思います。きっとうとましく思われていると思いますが、嫌われても子ども達の不利益になる事には、これからも声を発していきたいと思います。

県大会まで２週間となりました。昨秋の県大会では持っている力の半分も出す事が出来ず残念な結果でした。良い球場で良いチーム相手に試合が出来るのは幸せな事です。どのチームも努力を重ねて来ているはずです。子ども達が喜びだとか、ありがたみだとか、もちろん勝つ事の欲求だとか色々な思いを抱え、プレッシャーや責任を背負いながら、その中で自分の力を精一杯出し切って欲しいと思っています。昨秋に比べれば個々の力は数段大きくなっています。どんな相手でも勝負出来るはずです。緊張するでしょうが、その場に立てる幸せを感じて、思い切ってやって欲しいです。

あくまでも中学野球は野球人生の通過点でしかないのですから、ゴールはまだまだ先です。

第１５１話/2015.05.11

５月１０日（日）プロ野球ＯＢクラブの子どもの日野球教室に行ってきました。今年で２１回目、私は２０回は出ていると思いますが毎年同じ事を思います。野球チームに入部して何年か野球をやっているはずなのに、何も出来ない子がほとんど、投げ方も捕り方も打ち方も、とても毎週やっているようには見えません。段原クラブに入って来る１年生も毎年同じで身体能力が高いか、低いかだけで技術的には全員基本を知りません。言い方を変えれば技術的指導を受けていないのです。身体能力の高い子が中心で結果を出しているだけ、能力のある子がたくさんいる年は強いがそうでない時は弱い、それだけの事です。

なぜ野球チームと名乗っているのに、野球の技術を教えないのだろう？特に正しい投げ方、スローイング（ピッチング）はフォームです。正しく投げれば必ず正しいボールが行きます。そしてケガをしません（これが一番大事）。上達するためには数多く練習する必要があります。そのために故障しない体の使い方が必要です。段原クラブのピッチャーは一人も故障しません。私は野球教室で主にキャッチャーを指導しますが、サインの出し方も構え方も捕り方も、そして投げ方も全て出来ません。毎回本当にビックリです。ピッチャーとキャッチャーは経験した事の無い人には判らない事が沢山あります。判らなければ子ども達に伝えられる訳ありません。

ではどうするか？指導者が勉強するべきです。今、日本中で指導者講習会をやっています。指導書もたくさん出ています。私は野球、メンタル、栄養、トレーニングなど色々な本を毎月読んでいます。子ども達は間違った事を言っても「ハイ」と返事をします。大人（指導者）として子ども達より努力するのは当然だと思います。野球チームで野球の技術を教えてもらわなければ、子ども達が可哀想です。

小学生の指導者の皆さん、試合では基本的体力、走力、遠投力、スイング力など身に付きません。子どもの時にやっておかなければいけない事を数多くやって、体で覚える練習、それもつまらないような基礎練習をしっかりやるべきです。目の前の試合に勝つことばかりにこだわり、今やるべき事をおろそかにすると先（中学、高校、大学）に行って苦労します。まぁ基礎の無い子は大学まで野球は出来ないと思いますが。野球チームが一番やるべき事は、正しい野球の技術を子ども達に伝える事だと私は思います。プロ野球も高校野球も、小、中学生の軟式野球も同じ公認野球規則にのっとって行われます。正しい技術、基本は同じです。プロ野球の一流選手が本当につまらない基礎練習を繰り返しやるのですから、子ども達がやるのは当たり前です。プロ野球選手は一年間で１００試合以上しますが、その前後に必ず練習を何時間もします。１日試合だけで終わっている子ども達が上達しないのは当然です。野球人生は無限に続きません。ほとんどの子どもが１８才（高校３年）で終わります。一日でも大好きな野球が長く出来るように今（小、

中学生）がとても大事です。日曜日一試合だけで野球を終わった日刊大会に出た選手（段原の）、当然その後一人で出来る練習をしていますよね。練習はウソをつきません。そして野球の神様だけはいますよ！！

第１５０話/2015.05.04

全軟西部地区予選が５月３日に終わりました。ＯＢ、保護者、スタッフ、練習試合に協力して頂いた他チームの方々、全ての人達のお陰で優勝することが出来ました。ありがとうございました。

今年明けから正直チーム内では色々な問題がたくさんあり、子ども達、保護者に不安を与えていた部分があったと思います。私自身も大好きな練習が楽しく思えない時がありました。大人の都合で子ども達に迷惑をかけ、指導者として自信を無くしていました。そんな時、たくさんの方々が私を助けてくれました。私のやっている事が全て正しいとは思いません。もっともっと良い方法があるのかもしれません。いつも自問自答しています。今回、子ども達が段原クラブでやろうとしている野球、軟式野球ではなく野球を少し見せてくれて本当に感謝しています。いくら口で偉そうな事を言っても負ければ負け犬の遠吠えです。説得力がありません。広島の高校野球のレベルアップのためにもチーム力より個人の力が大事だと思います。中学生に大切なのは投手対打者の１対１の勝負に勝つ選手を育てる事だと思います。

段原クラブに入部してくる子ども達は小学校の時に中々良い結果を出す事が出来ず、大きな大会を経験していません。中学生に全国大会が必要だと思っていませんが、県大会の良い球場で野球をさせて上げたいと思っています。今回運よく出場出来るので自分達の力を信じ、思い切って楽しんで欲しいと思います。９年間で５回目の県大会ですが、まだベスト４の壁を破っていません。過去の大会は全て監督の迷いで子ども達に迷惑を掛けているので、今回は足を引っ張らないようにします。あくまでも子ども達のためにチームが勝つ事はとても大事ですが、彼らが夢に少しでも近づけるように全力を尽くしたいと思います。今回の大会にたくさんの方々に応援に来て頂きました。心から感謝します。本当にありがとうございました。

第１４９話/2015.04.27

前に書いた通り、４月は練習試合を多く組んでみました。全１１試合、練習ではある程度の打球を打てる力をつけてきました。それが対外試合の投手相手に出せるようにするためにやってみました。暖かくなってきた事もあると思いますが、ある程度の投手なら打ち返せるようになってきました。バッターは投手の投げそこなったボールをヒットにするので、もちろん本当に良い投手は中々打てません。プロ野球選手だってダルビッシュや田中将大は打てないのですから、仕方ありません。甘いボールをどれだけ確率良くヒットにする事が出来るのか、これが打者の仕事です。これから公式戦のプレッシャーの中で身に付けた技術を全て出せるか？発表会です。どこよりもバットを振り込んでいるのですから。自信を持ってピッチャーと勝負して欲しいと思います。十分に力は付いています。

卒団生が高校野球を始めて約１ヶ月、学校によって１年生の対応はちがいますが、私の耳に良い事ばかりが聞こえています。先日も瀬戸内高校と山口の岩国高校の監督さんに選手がお世話に

なっているので、挨拶に伺うと段原の選手の事、段原クラブで指導している事を評価して頂き、少し鼻を高くしました。

先週も書いた通り、段原クラブでは軟式野球をしていません。あくまで野球を指導しています。打つだけのように思っている人がいるかもしれませんが、一番大事にしているのは、予測と準備そして状況判断です。イニング、点差、アウトカウント、ランナー、打順この５つを頭に入れて、今何をするべきか？今出来なくても思い続ければいつか出来るようになると思い伝えています。こういう指導が高校に入学してそれほど身体的に恵まれていない選手でもチームのお役に立てるのだと思います。勝つ為だけにやる野球もある意味正しいのでしょうが、持って生まれ身体能力で勝負するのではなく、正しい技術と正しい考え方、そして正しい練習、時間が短くても体を壊すほどやらなくていいという事を子ども達の為にみんなが考えるべきだと思います。今週から全国大会に向けた予選が始まります。勝てるか勝てないのか、これはやってみなければわかりません。もちろん子ども達は勝ちたいのですから、そのために勝てれば良いと思います。私の思いは違います。野球を始めてから今までの練習、そして身に付けた技術、体力、精神か、持っている以上の事は出来ません。試合の中で全員が自分の全てを出して欲しい。心からに全力プレーを望みます。「勝つ事にこだわるあまりに緊張して持っている力が出せない」これだけなければ十分です。勝てば子ども達、負ければ監督の責任なのですから。選手達の力で私を喜ばせて下さい。

第１４８話/2015.04.20

４月１８日（土）、１９日（日）島根県出雲市と松江市に遠征試合に行きました。

土曜日はとても良い天気、日曜日は小雨の中でしたが、皆さんの努力のお陰で予定していた全ての試合が出来ました。ご協力頂いた各チームの方々、保護者の皆さんありがとうございました。良い結果の出た選手、そうでなかった選手もいつもと違う景色の中で初めてのチームとする試合の中で良い刺激になったと思います。私も指導者として子ども達との接し方、試合の運び方、試合での勝ち方などいろいろな指導者の方々を見て考える事がたくさんありました。

試合に勝つ確率が高い方法は？

約５０年野球に関わっていますのでもちろんわかっています。段原クラブは軟式のクラブチームです。野球と軟式野球は似ていますが違うスポーツです。私は野球が大好きです。そして子ども達に野球を伝えています。矛盾に思いますよね！なぜなのか？中学生だからです。中学生は高校生とは違います。もちろんしっかり健康、体の管理が出来、全ての子ども達の体を壊す事なく、高校に送り出している硬式のチームもあるのでしょうが、私の耳にする話は沢山の子ども達がケガに苦しんでいるようです。中学生なのです。当然練習の量も質も高校生のようにはいかないのです。絶対に体を壊してはいけないのです。私は中学生が硬球を投げているのを見ると、とても恐くなります。中学時代、軟式で十分に高校で通用する選手を育てる事は出来ます。それに一部の特別な素材の子ども以外は軟式の方が良いと思っています。だから軟式のクラブチームを運営しています。

しかし私は野球の指導をしています。軟式野球はやりません。軟式野球で勝つ確率の高いチームの野球を何年も見てきました。私の思っている中学生の野球とは違います。まずバッテリーを中心にした守る野球、当然守備練習を重視しています。バッティングはボールを遠くに飛ばすより、低い当たり、ランナーがいれば最低でも進められるバッティングをします（ゴロを打つ）。そして走塁、内野ゴロで一塁送球の間に二つの塁を取る走塁をします。ランナーが三塁にいればヒ

ットや外野フライで得点するのではなく、スクイズかエンドランで点を取ります。当然、選手は一球一球監督のサイン通りにプレーします。これが軟式野球です。勝つ確率を上げるためには必要だと私も思います。でも段原クラブは野球をします。野球で軟式野球の広島一番を目指しています。簡単ではありません。力のあるバッテリーが必要です。投手が打ち取った打球を確実にさばける守備力が必要です。走るだろうと思われる場面で盗塁出来る能力が、そしてそれを防ぐ能力が必要です。一本のヒットで二塁からホームイン出来る走塁技術が必要です。狙ったストレートは確実に弾き返し、ストライクを取りにきた変化球は思い切ってスイング出来、三塁ランナーを外野まで打球を運びホームに返す打撃技術が必要です。本当に簡単ではありません。現実には思うようには勝てません。

段原クラブはこういう考え方で練習、試合をしています。子ども達に求められているレベルはとても高いと思います。これを目指して努力する事が高校野球につながり、野球を好きになると信じています。

第１４７話/2015.04.13

今週は規則と罰則について書きます。どんな組織でも社会でも規則があり、守らないと罰が与えられます。しかし、罰はそれを与えられるためにあるにではなく、規則を守って欲しために抑止力として作られています。野球のルールやチームのルールも同じです。誰だって罰を与えようなど思っていません。野球のルールはとても考え方は簡単です。誤魔化したり、騙したりして勝とうとしなさんなという事が書いてあります。日曜日、練習試合をしましたが、相手のバッターがほとんどバッターボックスからつま先を出していたそうです。これは確実に指導者が指示しなければ子どもがするはずはありません。本来、主審が注意しなければいけません。広島のクラブチームにもそれに近い事をするチームがありますが。本当に子ども達の為になるのか考えればわかる事です。バッターボックスには基本的にヒットを打つために入るのです。それを伝えるべきだと思います。本当はチームにも規則、罰則は要りません。何故なら野球が好きで上手くなりたいから入部してきたはずです。そして私が監督をしている事も承知の上です。当然、チームのトップが決めた事は守らなければいけません。どんな社会、組織でも当たり前、当然の事です。ましてチームの監督は子ども達にマイナスになる事を決める訳はないのですから。今までの野球経験、指導者としての経験の中から判断して決めているのです。そして最初に書いたように子どもを罰したいと思っているのではないのです。練習も試合もみんなに沢山させてやりたいのです。全員が野球を好きになり、上手くなって欲しいのです。しかし、その為には厳しい事も必要です。嫌な事、やりたくない事も避けて通れません。心も体もダメージを受けて回復させて強くなると私は思います。サイヤ人と同じです。

今週末は島根遠征です。天気は良さそうで楽しみです。子ども達は全員しっかり試合に出られるのでいつもと違う景色とチームとやる事を思い切って楽しんで何かをつかんで欲しいと思います。

第１４６話/2015.04.06

理事長杯１回戦で完敗でした。ピッチャーが２本ホームランを打たれ打線がつながらず、後半

はエラーも出て負ける見本のような試合でした。全軟西部予選まで１ヶ月切りました。今年は昨年までと変えて２月に試合を組まず、数多くバットを振る事を試してみました。３月から数試合打てていません。やはり試合で投手の投げるボールを打っていないからか練習では昨秋より力強くなっている打球が中々試合で出ません。今週から全軟まで１０試合、試合を組みました。全て出来るか天気しだいですが、これからは冬の間につけた力を試合で出せるように、タイミング、状況判断、配球、気持ちの持ち方など勉強していって欲しいと思います。昨年も書いたのですが、ここ数年全軟に対して意識が過剰になっているように思います。当然試合ですし、まして全国大会までつながっているので勝てたら楽しいし、上に上がっていけば子ども達も良い経験にはなると思います。もともと私は他の大会とあまり変わらない感覚でした。その頃の方が勝てていました。勝ちたい気持ち、とても大切だと思います。その為に毎日努力を続ける事も大切です。でも段原クラブ（中学生の野球）は、あくまで夢を追いかける為の基礎（土台）をしっかりと作る時間で到達点ではなく通過点だと思います。その為に練習に厳しさが必要になります。練習で身につけた技術と自信を試合で発揮する。出して負けたらもっと練習する。出せない試合もあるでしょう、それでもまた練習する。その繰り返しで夢を追いかけるのです。中学生は１年、２年、３年と学年が上がれば野球から心が離れていく誘惑が色々と出て来ます。男の子から男に変わっていく、とても難しい年代です。その中でも常に野球が１番という気持ちを持ち続けて欲しいです。
今、段原クラブは良い状態ではありません。悪い時は変わるチャンスです。みんなが少しずつでも変わろうと努力する事、あきらめない、個人もチームも私は今が大事（チャンス）な時だと思います。特に３年生の変化を期待します。

第１４５話/2105.03.30

春の甲子園大会のベスト４まで決まりました。私の予想通り、中国地方のチームは全て１回戦で大敗しました、ここ数年、中国地方の高校野球は全国のレベルから置いていかれています。なぜ？広島は野球王国と言われていた時代があったのに・・・。
私は前から言っています。野球が古い。進化、進歩している技術、考え方についていけていません。これは小、中学校の野球についても同じです。勝つ事にこだわるあまり、基本的な練習をおろそかにし、試合ばかり、基本が無いので中学、高校で伸びる訳がありません。
勝つ為のサインプレーやトリックプレー、そんな事に時間を使う暇があれば１回でも多くバットを振った方が子ども達の為になります。まず、個の力を伸ばす事が１番大事な事です。ピッチャーとバッターの１対１の勝負、これが子ども達の野球の基本であるべきだと思います。その為に投手はストレートのスピードを上げ、それをアウトコース低めに投げる練習を徹底的にするべきです。アウトコース低め、投手の基本中の基本です。甲子園で大量点を取られる投手はこれが出来ません。変化球も確かに必要です。しかしその前に身につけなければいけない技術、困った時はアウトコース低めにストレートを投げる技術です。時代は違いますが私は高校時代、投球練習の９０％はアウトコース低めのストレートでした。大した投手ではありませんでしたが、それで甲子園に行け、負けはしましたが、失点は１点でした。夏に向けてスライダーを練習して投手としてレベルが下がったような気がしました。
前にも言いましたが、子ども達の野球は原点能力をしっかり伸ばす事が、先の野球人生を助けると思います。今年もたいして勝てないと思いますが、そこにこだわって段原野球をやりたいと思います。監督の力ではなく、子ども達の力で勝つ野球です。

第１４４話/2015.03.23

土、日曜日とても暖かくしっかりと練習が出来ました。一冬越してグッと伸びてきた選手とそうでない選手、秋の時点でのポジション、打順、レギュラーが変わりそうです。チーム力、個人の力を上げるためにチーム内で選手同士の競争が必要です。特にチームの中心にならなければいけない選手が安心しないようにしてほしいと思います。段原クラブでは高校に行ってから色々な状況に対応できるように、２つ以上のポジションを守れるように練習しています。子ども達の可能性を出来るだけ広げるためです。チャンスも広がります。その為にチームの勝つ確率は下がるかもしれませんが、クラブチームは今勝つ事より、先（高校）で良い思いをするためにあると思っているので当然だと思います。今、小学生が色々なチームに入部したり、体験に行っている時期だと思います。ここ３、４年私はとても不思議に思っている事があります。色々なチームを体験して比べで選ぶのは結構だと思います。しかし体験に来る子ども達に夢を聞くと、ほぼ全員プロ野球選手だとか、甲子園に行きたいと答えます。それも大いに結構です。

ではなぜ？誰よりも早く入部して野球をしないのですか？

小学校の練習や試合がいつ終わりましたか？

何か月遊んでいるのですか？

段原クラブは３年生の３月まできちっと練習でき、高校の練習に行く前日まで面倒を見ますが、ほとんどのチームが中学野球は２年半しかありません。その中で土、日の練習だけだと数えてみて下さい。３年間で何日練習出来るのか、小学校の野球が終わってから中学のチーム（学校部活、クラブチーム）に入るまでのロス、本当にもったいないと思います。プロ野球選手と夢を語っているわりには、考え方がとても甘いと思います。私なら１日も早く新しいチームに入り、１日でも多く同級生より練習しようと思います。それが夢を語るだけでなく、自分の物にする方法です。人と同じ事をやっていてトップに立てるわけありません。私はよく厳しいと言われます。全くわかりません。夢を語るのは子ども達です。甲子園もプロ野球選手も経験した私はその難しさを知っています。何をしなければならないのか知っています。子ども達の夢に協力するために、極々当たり前の事を言っているだけです。本当に厳しいのは選手を切り捨てる指導者だと思います。段原クラブは本人があきらめない限り、全ての指導者が全力で応援します。だからレギュラーも控えも同じ練習を同じ数するのです。小学生の皆さん、もう４月になります。すでに出遅れていますよ。夢を語るのは簡単です。こんな事を書くとまた嫌われるかな？

第１４３話/2015.03.16

３月１５日（日）３年生のお別れ会をしました。午前中試合をして午後から会館で食事をしました。１試合目に高校３年生のＯＢが３年生相手に投げてくれました。３イニングピシャリ、３年生はこの程度のストレートに反応出来ないようでは高校野球で通用するのに時間が少し掛かりそうです。しかし段原クラブの選手は正しい考えが出来るはずなのであまり心配していません。今まで通り取り組めば大丈夫なはずです。ただひとつ高校野球は段原クラブとちがってあまり楽しくありません。そこは頭に入れておいて下さい。その中で自分で目標、目的をはっきり決めてやりがい（楽しさ）を探して下さい。たくましくなって帰ってくるのを楽しみにしています。３

年生の選手が一人一人とても立派な挨拶をしてくれました。感謝の言葉をたくさん頂きました。とてもありがたかったのですが、言葉を聞いている間、私はずっと自分に問いかけていました。

「おまえは本当にこの子達のために全力を尽くしたのか？」

「感謝の言葉を頂けるだけの事を伝えたのか？」

もっと出来たんじゃないか？」

ずっと考えていました。野球人生がいつ終わってもおかしくない年齢になってきました。出来ることは全てやる。子ども達にではなく自分に妥協しない。３年生の言葉を聞きながら自分に言いきかせました。チームは子ども達のためにあります。そして練習も試合も彼らの為にします。今やっている事、そして自分の言っている事が本当に彼らのためになっているか、自分の都合になっていないか、もう一度よく考えようと思います。チームはいろいろな価値観を持った保護者と子どもが集まります。同じでないのが当たり前です。その中で全員が同じ方向（チームとしての成長）に向かっていけるようになりたいと思います。私が常々いている強いチームではなく「良いチーム」だねといってもらえる。そして部員も保護者も堂々と良いチームですと言える段原クラブになりたいです。

第１４２話/2015.03.09

３月７日（土）今春大学に進学するＯＢの保護者４人と食事をしました。その時私はとてもありがたい言葉をもらいました。その子供は小学生の時はチームの中心選手ではなく、なんとか上手くなりたいとベースボールアカデミーに入り私と出会いました。二人とも不器用で守るポジションが無く、バッティングも穴が多くとても苦労していました。６、７年前の私は今より数倍厳しく、教室では毎週涙を流していました。それを見て母親はそんなに辛ければ辞めた方が良いのではと何度も言ったそうです。しかし本人は「辞めない、続ける」と次の週には練習に来ていました。親子で毎日葛藤していたそうです。そんな時、練習を毎週見ていた父親が言ったそうです。「鈴木さんに任せておけば大丈夫だ」その一言で彼らの野球人生は変わりました。

段原クラブでの３年間はもちろんの事、高校でも３年間だれにも負けない練習をし、今春大学での野球人生をスタートさせます。この子達の小学生時代を知る人たち全員が大学までの野球人生を誰も想像出来なかったはずです。なぜ、ここまで彼らが成長し頑張ってこられたのか？第一に本人の努力、保護者の協力、そして指導者との信頼関係だと思います。「任せて大丈夫」私が指導者として関わった約５年間、親子共々私と段原クラブを信じ、ただただ一生懸命ついて来てくれました。私が子ども達を高校に送り出す時、いつも言う事があります。指導者に自分の事を好きになって欲しければまず、あなたが先に相手を好きになりなさい。全ての事があなたを少しでも良い方向に向かわせたいと思って言ってくれている事だと伝えています。保護者が指導者を信頼出来なければ子どもが付いていく訳ありません。私は信頼がどんな練習よりも技術を伸ばすために一番必要な事だと思います。ひとりでも多くの子どもに信じてもらえる指導者になれるように手を抜かず、常に向上心を持って子ども達と向き合っていきたいと心から思いました。

今年段原クラブのＯＢは国立大学に３人合格しました。学校生活と両立出来るクラブチームの証明だと思います。現役の部員達も成績が悪いのは段原クラブ（野球）のせいではなく、自分自身の問題です。高校受験にクラブチームが不利だなんて言う人は能力が無いだけです。段原クラブの子ども達は今年も全員第一志望校合格です。（すると思います）

第１４１話/2015.03.02

２月２８日（土）今シーズン初めての対外試合（山口ミラクル大会）をしました。紅白戦を３試合ほどしましたがユニフォームの違うチームとの試合は緊張感があり、この冬につけた力を出す事が出来るのか心配でした。新３年生でチームの中心として期待している選手の３人がそれぞれの理由でベンチに入れない状況なので勝つという事よりも新２年生や控えの選手がチャンスを生かしてほしいと思っていました。エースは少し球数が多いのが気になりましたが、それ以外は今の時期では言う事ない内容でしたし、冬の間努力を重ねてきた選手の打球が確実に強くなってきています。細かい所に色々ミスがありますが、初試合としては上出来でした。ただ２試合目、明らかに格下のチームに主審の判定がとんでもなかった事を差し引いても点を取られたのは、バッテリーはもちろん守備の反省は必要だと思います。本当は言いたくありませんが、主審のストライクゾーンがあまりにも高すぎます。ルールブックをしっかり見るべきです。高めは肩の上部とベルトの上部の中間、それも打つ姿勢で決定されるべきとあります。当然構えた時より低くなります。ほとんどの投手がそうだと思います、高めに抜けた（投げ損なった）球をストライクに取ると投手は成長しません。バッターもボール球に手を出さざるえなくなり上達しません。子ども達の成長のために大人もしっかり勉強するべきだと思います。学生野球の場合、子ども達はクレームを付けられません。だからこそ大人がしっかりする必要があると思います。横からカメラで撮って練習するべきです。試合の進行を早くするためにストライクゾーンを広げるのは絶対にあってはならない事だと思います。子どものスポーツに大人の都合は要りません。

３月１日（日）雨の為大会が中止になり、久しぶりにミーティング（勉強会）をしました。私がいろいろな講習会で勉強した事や、プロ野球選手時代のミーティングを参考にし子ども達に今考えて欲しい事、覚えて欲しい事を話しました。一番大事なことは「自分が今、なぜ野球をしているのか」、「なぜ段原クラブに入ったのか」この部分をはっきりさせる事です。理由は人それぞれ違って当たり前ですし、どんな理由でも構いません。そこがはっきりすればやる事は見えてきます。努力を続ける事はとても難しく大変です。その為に、しっかりとした「なぜ？」が要ります。全ての結果（良いも悪いも）にも「なぜ？」（理由）があります。幼児のようにいろいろな事でなんで？と興味を持って野球に取り組んで欲しいと思います。わからない時には私を使って下さい。私の持っている全ての力を使ってあなた達に協力します。

第１４０話/2015.02.23

今年の段原クラブはまだ対外試合をしていません。練習の数にこだわりたかったので試合を組みませんでした。全てのプレーのスピードとパワーアップをこの冬の課題に決めてやっているので、数多くバットを振る、ボールを捕るための練習にこだわりました。その中で１日練習出来る日は、朝、第一試合対策として３回ほど試合形式の練習をしました。

２月２８日（土）の山口ミラクルズさんの招待試合が今年の初試合となります。チームのピークを少し遅くらせても基本的、原点能力のアップを目指してやってきたので試合の結果にはこだわりません。今はチーム内で競争をする時です。気持ちを表に出して、気迫溢れるプレーをしてくれれば、それで十分です。２日間大会なので２２名メンバーを変えて、努力している選手はチャンスを与えたいと思っています。君達の全力を見せて下さい。

先日、福山８０’ホークスの山内さんと話をしました。山内さんはプロ野球界の先輩で最多勝を取った事のある大投手でした。そんな素晴らし実績のある人が監督をやっているチームなのに昨年、新入部員が２名だったそうです。なぜ？いろいろな理由があるでしょうが一番恐ろしいのは噂です。私も取得しましたが山内さんも学生野球を指導出来る資格を昨年取りました。その為、チームを辞めて高校の指導に行くという噂が流れたそうです。その他にもグランドが無いので練習場所が遠いなどｅｔｃ、全て事実無根です。段原クラブも同じような状況です。フルスイング塾に入らないとレギュラーになれないとか、監督はレギュラーしか指導しないなど色々耳に入ってきます。

山内さんと私は元プロ野球選手です。野球に人生を掛けて戦ってきました。その野球の世界で頑張っている子ども達の足を引っ張るような事をする訳がありません。私達は自分の経験してきた野球だけでなく、今も講習会や野球教室なので指導者として自分のレベルアップに努めています。中途半端な野球経験で古いままの理論を子ども達に押し付けている指導者とは違うプライドを持っています。野球は根性ではなく技術なのです。本物を自分の目で見て下さい。

段原クラブは平日週二回、１７時～１９時まで練習をしています。前々からこれはメリットでもあるが、デメリットでもあると思っていました。家が少し遠い子が出られないため入部出来ないと思われるからです。これもまた間違った噂です。練習、全て自由参加です。平日練習に来ていない選手もいますし、何時に来ても構いません。家も学校も違うのですから当たり前です。平日は自分のやりたい練習を自分で考えてする日です。休むことも自由です。正しい段原クラブを皆さんに理解して欲しいです。野球人は野球大好きな子どものためには全力を尽くします。私は野球人です。

第１３９話/2015.02.17

２月１５日（日）練習体験の子ども達が数人やってきました。その保護者の方から間違った情報を聞いたのでそれについて書きたいと思います。まず、一つ目は「クラブチームで野球をしていると中学校の内申書で不利になる」よく耳にする話です。これは全くのデマです。私は教育委員会の方と話をした事がありますが、中学校のクラブ活動と学校外のクラブチームの活動は同等に評価しなければいけないのです。もう、そうでなければ教育委員会に相談するべきです。高校受験で推薦をもらえないのはチームのせいではなく、本人の質の問題です。現実、段原クラブの選手は学校で不利な扱いを受けていません。二つ目は土日にある学校行事に出られないのでは？という事です。段原クラブでは各家庭の判断に任せています。グランドに来るのも自由、来ないのも自由、これは学校行事があろうがなかろうが全ての練習、試合、当たり前の事です。出席を強制する権利は誰にもありません。学校行事を休むか、練習、試合を休むのか全て本人、保護者が決めるものです。

昨年、秋の文部科学大臣杯の準決勝、決勝の日と運動会が重なった選手がいました。準決勝に勝つと県大会に出場出来ます。その選手が試合に出たいと言ってきました。私は中学校の校長先生と話し合い、１試合目（準決勝）だけ出場し、終わりしだい運動会に駆けつける事に決めました。試合に勝つ事も出来、運動会のリレーに出る事も出来、本人、保護者、学校の理解のお陰で良い判断が出来たと思います。私は今までこのような事で何度か学校へ行き先生達と話をした事がありますが、ちゃんと正直に理由を説明して話をすると全ての方々が応援してくれます。選手達の努力が一番大きいと思いますが、普段の学校生活が正しければ何も心配する事はありません。

段原クラブの子ども達はちゃんと進学し、しっかりとした高校生活を送っています。
　中学時代に勝った、負けた、確かに勝つ事も大事な事だと思います。私だって勝ちたいし、勝たせてあげたいと思っています。しかし、私の中にはもっともっと大きいと思っている事があります。それは個の力を伸ばす事、野球の技術は当たり前です。（野球のクラブチームですから）
　高校に行って困る事のない理論、考え方、体力、精神力、出来るだけ多くの事を伝えて送り出す事が責任だと思っています。
　私は今年５６歳になります。年々衰えを感じていますし、同級生の死の連絡を受けたりした時に明日に不安を感じます。今年に入ってから後悔しないように出来る事は全てやろうと練習の望み方を変えました。練習時間以外でもユニフォームを着て、個人練習をしている選手がいれば時間と体力の許す限り付き合うようにしています。選手にとって迷惑かもしれませんが、自分のものを一つでも多く、少しでも早く、伝えたいと思っています。今年の選手は良く練習をします。良い子達です。ルールで許されませんが、全員ベンチに入れて上げたい子ども達です。
　２月２８日（土）に招待試合があるので背番号を決めなければいけません。監督にとって辛い仕事です。

第１３８話/2015.02.09

　私は口が悪く厳しいらしい。言葉使いが悪いのは自分でも自覚しています。これは多分育ちだと思います。私の父はボートレースの選手をしていました。小学校の低学年の時には日曜日に湖でボートの練習をさせられていました。２年生ぐらいの時に、体が大きすぎるという理由で自転車の練習に変わりました。父は野球では飯は食えないと私が野球する事を快く思っていませんでした。一応、プロスポーツの世界を経験した人なので全ての事に厳しく、５年生の相撲大会で優勝した時以外誉められた覚えがありません。中学に入って本格的に野球を始めてから、反対していた父が全ての試合を高校卒業まで見に来てくれました。県大会で優勝しても、甲子園に出場しても、プロ野球に指名されても一度も誉めてもらえませんでしたが、母に後々聞くと色々な所で私の自慢をしていたそうです。中学、高校時代に何度も野球を辞めたいと思った事がありますが、父が恐ろしくて言いだせませんでした。私が今、何よりも野球が好きでこの歳になっても情熱をもっていられるのは父のお陰だと思っています。
　プロ野球の先輩である田野倉さんという方がトロフィーなどを扱う会社をされています。スポーツハウス鈴木もお世話になっています。今年送って頂いたカレンダーに毎月、言葉が書かれています。２月は「悪く思われたくない気持ちは、言うべきことを言えなくする」です。親が子どもに、指導者が選手に悪く思われたくないから言わない、それが本当に子どもや選手のためになるのでしょうか？その子をその選手をなんとか良くしたい、一本でもヒットを打てるように、一球でも捕れるように、一試合でも多く勝てるように、私の父は野球がわかってなかったと思いますが私を男として野球選手としてそんな思いで厳しく接してくれたのだと思います。結婚するまでずっとうっとうしくて恐かったです。寮のある高校を選んだのは家を出たかったからです。本当に親の心子知らずでした。そのカレンダーの５月は「苦労はさせたくないと思う親心は子どもを怠け者にする」です。私は口が悪いです。厳しいかもしれません。それに耐えられない親や子もいると思います。正しいとは言いません。優しい言葉で野球を上達させる事の出来る指導者の方もいるでしょう。優しくて、苦労なく上達して試合に勝てる、それが出来たらいいですね。今の私の能力ではまだ出来ません。私は自分の父親が厳しい人で本当に良かったと思っています。

今はもういませんが父の事が大好きです。そして心から感謝しています。

第１３７話/2015.02.02

今年に入り大学受験が終わった高校３年生のＯＢが、自分の練習の為もありグランドに来てくれています。この学年は努力する事が当たり前の選手が何人かいてチーム内の競争もあり、チームとしても強く一緒にグランドに出ている時間がとても楽しい年でした。そんな子ども達なので大学まで野球を続ける人数が多く、いつもでも野球に情熱を燃やしているのだと思います。チームの中学生にとってもレベルの高い先輩と練習する事で技術、取り組み方など見習うことがたくさんあり良い刺激になっていると思います。

中廣、西川、坂本、七田、好きな野球を長く続けられるように、ケガに注意して今まで以上に競争の中で精一杯努力して欲しいです。君達は勝負の出来る技術と気持ちを持っています。私の教え子なのですから自信を持って挑戦して下さい。

また１月２日のＯＢ戦で一段とたくましくなった姿を見せて下さい。楽しみにしています。練習に来てくれてありがとう。

その４人の中で七田という選手は中学生の時は広島を代表する投手でした。高校ではその力を十分に発揮する事は出来ませんでした。もちろん本人の努力が足りなかった事が一番の理由だと思いますが、この悔しさを返す為に国立大学に合格し野球をやるそうです。勉強と野球、今まで以上に苦しい道だと思います。その為に３月一杯、段原クラブで練習するそうです。中学時代の正しいフォームに戻せば正しいボールが投げられるようになるはずです。全力で協力したいと思います。今、彼は１、２年生のピッチャー達に彼の持っている考え方、技術、練習方法などを伝えてくれています。中学で好結果を残した事も、高校で結果を出せず苦労した事も両方大きな経験、財産です。この大切な経験を後輩達に伝えて欲しいと思います。人と人には相性があります。指導者と選手も同じです。私も中学から野球を始め、プロ野球を引退するまで何十人という指導者と接しました。結果を出せられるかどうかはあくまでも本人の努力による所が大きいですが指導者との出会いもとても大切だと思います。私は中学の先生、高校の監督もプレーしている時はあまり好きになれませんでしたが、確実に私の野球人生の恩人です。たいして努力もしていない私の事を見捨てることなく厳しく指導して頂き、我慢して使ってもらいました。本当に感謝しています。

たぶん段原クラブにも他のチームにも指導者に事を疎ましく思っている選手がいると思います。当然です。君達の事を思えばこそ、嫌な事を言わなければならないのです。私は段原クラブの選手全員、大好きな子ども達です。だからこそ、いやがられよと嫌われようと厳しい事を言います。必ず君達のためになると信じているからです。他のチームの指導者の方々も同じはずです。今まで段原クラブに入部してくれた全ての子ども達が良い思いをして卒団してはもらえてはいません。途中で退部した子もいます。次のステージでは相性が合う指導者に出会えるかもしれません。その為にも野球を続けて欲しいといつも思っています。強いチームより良いチーム、監督の評判は悪いですがコーチと選手は良いチームになってきました。これは自信を持っています。

第１３６話/2015.01.26

私は広島フルスイング塾というバッティング教室を運営しています。段原クラブとは全く関係のなく、私個人でやっている施設です。ここには小学生もいれば硬式チームの選手、少し前にはソフトボールをやっている女の子もいました。もちろん段原クラブの選手もたくさん入っています。私が段原クラブの代表・監督をしているので雨でグランドが使えない時や土、日の練習前、後に好意で段原クラブの選手に開放しています。

先日、チームの保護者からあり得ない話を聞きました。「段原クラブはフルスイング塾に入らないとレギュラーになれない」こんな事を言っている他のチームの人（小・中学生の保護者）がいるそうです。私はただただガッカリしました。一生懸命野球に取り組んでいる子ども達の成果を発表するチャンスをそんな事が理由で決まる訳ありません。もしそうだとしたら段原少年野球クラブ（段原スポーツ少年団）は２０年も続きません。私は野球に嘘はつきません。当然です野球が大好きなのですから。１０年前にベースボールアカデミーというバッティング教室をエスコム府中の三宅先生が開き、私がお手伝いをしました。その時にも子どもを使って金儲けを始めたと言う人がいました。皆さん考えてみて下さい。広島市内で３か所で打てて、Ｔバッティングが出来て、中２階で保護者が見学出来、簡単なトレーニングの出来るスペースがある、倉庫と駐車場、家賃でいくらかかると思いますか？その中に防音の壁、ネット、マシン、ボール（軟式、硬式）、バット、照明、土ｅｔｃ協栄電気工業（株）様をはじめたくさんの方々の協力を頂きましたが、私も銀行から何百万かの融資を受けております。儲かるのならカープのＯＢがとっくにやっていますよ。毎日１０時過ぎまでやってみて下さい。人の口には戸が立てられません。特に私ははっきりとものを言うので敵が多いのも承知しています。それにしてもいい加減です。ひがみとしま思えません。一度も段原クラブの選手をフルスイング塾に勧誘したことはありません。毎年、背番号はスタッフとの話し合いで決めています。そしてフルスイング塾に入っていない選手がレギュラーのポジションをとっています。キャプテンにしてもエースにしても同じです。そんな基準で決める程度の人間だと思われていた事に腹が立ちます。私はそんな程度の思いで野球をしていません。全ての生活サイクルを段原クラブとフルスイング塾、つまり野球を中心に回しています。子ども達に厳しい事を要求するのだから自分が野球に妥協する訳にはいきません。

何度も書いてきましたが、私は本気で上手くなりたいと努力する子ども達のお手伝いをしたいと思っているのです。やる気のない子を無理やりグランドに出し、ボールを投げさせたり打たせたりしてもお互いに楽しくないのです。出来なくても毎日頑張って少しずつ、本当に少しずつですが上達していく選手と一緒にユニフォームを着て練習をしている時が本当に幸せです。儲かっていたら軽自動車に乗っていませんよ！！

―追伸―

１月３１日（土）朝９：５５からＴＳＳの番組でフルスイング塾が取り上げられます。野球少年達は練習で見られないかもしれませんが興味のある方は是非見て下さい。木曜日の子ども達が映ります。

第１３５話/2015.01.19

１月に入り少しずつ６年生が練習の体験にやってきます。みんな大きな体をして恵まれた素材ばかりで驚いています。しかし、その大きな体の使い方が全く出来ていません。とてももったいなく思います。特にバッティングは全員が同じ指導者に教えられたように同じ間違いをしています。まずステップが広い、そしてそのステップは必ずベースよりに踏み込んでいます。バットは

体から離れ、ファールグランド方向にスイングしている。（ドアスイング）下半身は全く回らない。そのため打球はフック、ドライブがかかり、ファールになる。遠くに飛ばない。小学校のグラブチームで何年間か野球を経験し、指導もされているだろうに基本がまるで出来ていない。なぜだろう？野球は頭（頭脳）「状況判断による予測と準備」と下半身でするスポーツです。一番大事な下半身の使い方がわかっていません。そのため、せっかく持っている能力がボールに伝わりません。だから速く強い打球が飛ばないのです。下半身の使い方が上手くなればとても楽しみな選手達です。現実に１日体験に来ただけで確実に打球が変わりました。正しい体の使い方を習うだけでも段原クラブの体験の価値があると思います。６年生の皆さん、打球が遠くに飛ぶと野球は楽しくなりますよ。

１度練習に来てみてはいかがですか？１日で変わりますよ！！

前にも書いた通り、段原クラブでは今、全てのスピード強化月間です。形よりスピード、自分の１００％を伸ばそうと選手達は練習をしています。チームの原点に戻り個々の力でやる野球、荒々しくどちらかといえば雑な野球でも魅力のある野球をするために個人練習に時間を費やしています。体に恵まれていない選手も少しでも力を伸ばそうと頑張っています。簡単に結果は出せない、中学では出ないかもしれません。それでも努力し続けなくてはいけません。そういう子ども達が打つ１本のヒット、抑える１イニングこれが私の仕事であり、喜びです。信じて入部してくれた選手達、そして信じて努力し続けている選手達の練習が見ていて今年に入り少しずつ楽しくなりました。各自が持っている力、それぞれ能力は違いますが、良い頭で練習する選手が増えました。手を抜いている選手が恥ずかしくなるチームに少しずつ近づいてきたように思います。一つの技術を身に付けるには時間がかかります。しかし諦めなければ必ずたどり着きます。その可能性を今の選手達に感じています。楽しみです。練習中チームメイトは全員敵です。チーム内の競争に勝ち試合のグランドに立てるのです。

第１３４話/2015.01.14

インフルエンザが流行しています。段原クラブでも少しずつ出てきました。予防接種をしてもかかることがありますが、私は昨年だけ予防接種していなかったらインフルエンザにかかりとても苦しい思いをしたので絶対に予防接種すると決めました。子ども達は予防接種していない子が圧倒的に多いのには驚きました。それも野球に対する思いと通じているのかもしれません。

１月１１日に西協議会の理事会と新年会があり、本年度の日程がほぼ出ました。３月１５日の理事長杯の予選からシーズンがスタートします。ここ２、３年勝つ事にこだわり段原クラブらしい野球が出来ず、ベンチであまり楽しめていない自分にイライラしていました。

本年の段原クラブが目指している、子ども達個人個人の力で１対１の勝負に勝つ、見ている人達が心打たれるような野球が出来るように子ども達と努力していきたいと思います。雑でいいのです。子どもだから。あくまでも個人の力を最大限伸ばしていける指導にもう一度立ち返り、目の前の勝利にこだわるあまり、各自の個性、長所が小さくならないように、そして試合ではグランドの上で選手が持っている力を出す事の出来る環境を作りたいと思います。そのために私の心の成長が一番必要になってくると思っています。

１月に入り少しずつ小学生が体験に来てくれています。毎年思う事ですが、体験に来た選手が８割入部すれば間違いなく県で優勝出来ます。今年もまだ少ない人数ですが、全員が良いものを持っている選手ばかりで驚いています。しかし残念な事にその持っている能力の使い方がわかっ

ていません。正しく使うと投げるボールも打球も見違えるように速く、遠くに飛ぶようになります。実際半日の練習で結果が変わります。６年生の皆さん、打球を変えたければ１度体験に来てください。正しいスイングすると強く速い打球が打てる事を教えてあげます。バッティングは遠くに飛ぶと楽しいです。子ども達は全員、ホームランが打ちたいのです。小さくても夢は追いかけていいのです。強く、速く腕とバットが振れる。段原クラブの原点を思い出して今年は雑に野球をやりたいと思います。

今週はホームページにアップする担当者がインフルエンザにかかりアップが遅くなりました。失礼しました。

第１３３話/2015.01.05

１月２日に恒例のＯＢ戦がありました。今年は２０周年記念という事でグランドには２０４名、祝賀会には１８５名のＯＢ、現役の選手、保護者の方々が参加してくれました。グランドにＯＢの選手が６０数名集まったので６チーム作り３試合しました。どの試合も緊迫した好ゲーム楽しんでもらえたと思います。高校生、大学生のプレーを見て現役の中学生が少しでも刺激を受けてくれてより一層高い目標を目指して練習に取り組んでくれたらと思います。

祝賀会では懐かしい顔を沢山見ることが出来、私はとても楽しい時間を過ごしました。ＯＢから磁気ネックレスと時計を頂き両方とも着ける習慣はありませんでしたが、これからは大事に使わせて頂きます。ありがとうございます。参加してくれた全ての人が満足してくれたのか、とても心配です。来年の１月２日も同じようにＯＢ戦を行います。また沢山の参加を待っています。１日楽しく野球をしましょう。私はここ数年、体の衰えのため試合に出ていませんが、今年見ていてむしょうに出たくなりました。１年間じっくり体を作り直し、来年にはマウンドに立てるように努力したいと思います。やっぱり野球は見るものではなく、やるものだと思います。

先週頭髪の話を書きました。本来、私は野球イコール丸刈りという考え方には反対です。ルールを守り、しっかりやらなければいけない事をやり、チーム及びチームメイトに迷惑を掛けなければ問題はありません。実際、段原中学校の野球部でスポーツ少年団をしていた時は頭髪は自由でした。それで出来ていました。しかし今の段原クラブでは無理です。親が管理しきれない、そして確実にその行動がチーム及びチームメイトに迷惑を掛けています。厄介な連中との目撃情報が入っています。公園の隅の方でたむろしていれば喫煙を疑われても仕方ありません。グランドではもちろんの事、私生活、学校生活でも段原クラブの一員として責任ある行動が求められます。結局、私が言いたいのはそういう事です。チームスポーツをするという事は社会生活と同じで、自分のミスで他人に迷惑を掛けるという事です。野球が優先順位の一番だからクラブチームに入部したはずです。そうでないなら道を変えるべきだと思います。何度も書いていますが、私はただ野球が大好きな子どもと全力で野球がしたいだけです。ほとんどの段原クラブの選手はなんの問題もありません。楽しく野球出来ています。

今年も野球大好き少年が入部してくれる事を待っています。

第１３２話/2014.12.29

１２月２７日（日）で今年の練習を終わりました。小学校の時に大きな舞台を経験した事の無

い選手が努力を重ね少しずつ力がついてきました。特に体に恵まれていない選手が多いのでそれだけでハンデがあります。力で圧倒するような野球は出来ませんが、くらいついて勝負出来るチームになりつつあります。このまま努力し続けて欲しいと思います。心配な事もあります。２年生の一部の選手が髪の毛を伸ばし出した事です。段原クラブは丸刈りを強制していませんが、短く刈るように指導しています。理由は過去の経験から、髪の毛をいじりだした選手が道を逸れる可能性が高いからです。練習、試合中も集中力が途切れがちになり、練習量も丸刈りしている選手の方が確実に多いです。理屈でなく、今までのチームの歴史の中で結果として出ています。まぁ全員が本気で努力しない方がレギュラーを決めるのに悩まなくていいので私としては楽ですが・・・。今まで何度も何度も変わってくれることを期待して話をしたり、チャンスを与えたりしてきました。来年は甘さを捨て、厳しく接していこうと思っています。グランドで一緒に同じユニフォームを着てやりがいのある選手、楽しい選手と練習、試合をしていきたいと思います。

野球の技術なんて人として魅力のひとつでしかありません。それだけでは人として足りないのです。集中力の無い練習ではそれすら身に付ける事は出来ませんが、髪の毛なのでなびく女性はどうでも良いのです。野球が上手くなり、甲子園なりプロ野球選手になれば女の子はいくらでも寄ってきます。今やらなければいけないのは鏡を見て髪の毛をいじる事ではありません。私は嫌いです。どうしてもというなら他のチームを紹介します。

１月２日のＯＢ戦、２０周年祝賀会たくさんの参加ありがとうございます。寒いようですが、出て良かったと思える温かい試合、祝賀会にしたいと思います。現役の保護者の皆さん大変だと思いますが、宜しくお願いします。みんなで楽しみましょう！！

年賀状、皆さんの協力で目標達成することが出来ました。本当にありがとうございました。

第１３１話/2014.12.23

１２月２１日（日）カープジュニアという広島県軟式野球連盟に登録している小学生のチームから選抜された選手のチームと１年生が試合をしました。県内の６年生の選ばれた選手達だという事なのでとても楽しみにしていました。結果は２試合とも０－２で負け、ある程度予想通りの結果でした。段原クラブの１年生はまだまだ体が小さく、細く、スピードとパワーがありません。特にスピードがある選手は２人しかいないので１６ｍの距離で投げられたら間に合いません。相手の守備が雑で何度かチャンスがありましたが、３塁ランナーを返えすバッティングの力はまだありません。身長でも６年生より小さくたぶん走力も負けていると思います。しかしこの結果は段原クラブとしては当然の事です。１年生の時は毎年この程度の選手達です。ここから正しい理論と正しい練習で３年生になれば必ず他のチームと対等に戦える選手になります。それが私の仕事なのです。１年生の選手がこの結果をどう受け止め、何を思い、何を考え、何をするのか、これからの彼らにとってとても良い刺激になってくれれば幸いです。

今年の段原クラブの１２月、１月、２月、３ヶ月間の練習テーマはスピードアップです。走力はもちろん、投げるボール、スイング、守備の足の動き、カバー、捕球後の送球、全てのプレーのスピードを上げる事を意識するように伝えてあります。形（フォーム）もたしかに大切ですが、原点スピード、パワーがなければプレーとして生きてきません。１、２年生に特に足りない部分だと思います。食事、睡眠を含めた体作りからトレーニングが必要です。野球はスピードが一番必要なスポーツなのですから、ひとりひとりがどれだけスピードという事を頭に入れて練習する事が出来るかが大事になってきます。この冬で体を変えるぐらいのつもりで取り組んで欲しいと

思います。１人でも２人でも覚醒する選手が出てくる事を期待します。
　平成２７年１月２日に段原スポーツ少年団としての２０周年記念祝賀会を行います。出欠のハガキまだ出していない方、出して下さい。欠席でも出して下さい。人として常識です。お願いします。午前中のＯＢ戦も楽しみです。懐かしい顔を見て昔話に花を咲かせ野球を楽しみたいと思います。みんなで晴天を祈りましょう。現役の保護者の皆さんには苦労を掛けています。本当にありがとうございます。しっかりと全員の心に残る温かい１日にしたいと思っています。宜しくお願いします。２０年前の何もわからない中でスポーツ少年団に登録するまでの苦労や、段原中学野球部と離れて段原少年野球クラブを作らざるおえなくたったとても悲しい思い出などが思い出されます。しかし、２０年続けてこられて全てが結果として良かったと思っています。２０年間１日でも段原スポーツ少年団、段原クラブに関わって頂いた全ての方々に感謝致します。本当にありがとうございました。私が目指している強いチームではなく、良いチームになれるようこれからも子ども達と努力していこうと思います。

第１３０話/2014.12.15

　先週の廿日市大会で今シーズンの試合は終わり、来年の春に向けてチーム内の競争が始まりました。今まで着けていた背番号を全部回収し、全員横一線でポジションの取り合いです。レギュラーになるためにまず一番は当たり前のプレーを確実にこなす事、そのために必要なのは基本です。この冬のチームとして目指すのは基礎体力のアップ、スピードとパワーを上げる事、そして正しい基本の動きを身に付ける事です。全てのポジションそして全ての動きに理にかなった動作、体の使い方があります。いくらスピードやパワーをつけても使い方が間違っていてはそれが結果につながりません。逆に正しく使っても基本的な体力が無ければこれもダメです。１、２年生にとってとても大切な野球人生において重要な三ケ月です。本気でやると体は変わります。そして投げるボールが打球が変わります。一桁の背番号を背負うために、まずチームーの練習量そして質を各自が目指して個人のレベルアップ、そしてチーム力のアップへつなげて欲しいと思います。
　３年生は受験が近づいてきました。一人一人立場が違うので一言では難しいですが、高校受験で人生が決まる訳ではありません。合格目指して努力する事が大切だと思いますが、その為に野球が出来ないのなら、そもそも高校で野球をするのは無理です。高校野球は学校によってちがいはありますが、段原クラブにように甘くありません。中途半端にやって無駄な時間とお金を使うぐらいなら最初からやらない方が良いと思います。男の子は社会に出て一人で戦っていくための心と体を作るためにスポーツ（野球）をするのです。本気でやらなければ何も得るものはありません。厳しくて、しんどくて当たり前なのです。それが嫌ならさっさと逃げるべきです。どうせチームやチームメイトに迷惑をかけるだけなのですから。
　最近、土日の練習後にフルスイング塾で打つ子が増えているという事を書きました。私は日曜日、ためしてやろうと思い、練習の最後少しランニングを入れてみました。思った通り、打つ子が激減、なんと一人でした。あくまで自主練習なのでやろうとやるまいと構いません。要は結果の世界ですから。その選手は最近思い通りのプレーが出来ず大きな壁に当たっていました。いいチャンスなので一対一で一時間ほど指導出来ました。打てる（バットが振れる）方法は伝えたので後は本人です。忘れず続けて欲しいと思います。努力し続ける事で悩みが生まれる、工夫する、わからなかったら監督、コーチの力を借りる。頑張っている選手のために使う時間は私にとって、とても楽しい時間です。

第１２９話/2014.12.08

段原クラブだけなのか他のチームもあるのかわかりませんが、朝一番の試合で全く打てない。よく頭が起きるのに３時間、体が起きるのに５時間、起床してからかかると言われています。受験の時に先生がよく言っていたのを覚えています。その理論から何年か前の段原クラブは移動の車の中でグランドに着くまで寝ている選手がいるほどつまらないチームでしたが、最近は保護者も５時間前起床の話をし、やっていると思っていました。集合時間も今までより早くしてウォーミングアップの時間を長くしたり、プラスチックボールを打って、思い切ってバットを振ってみたりなんとか変えたいと工夫してきましたが結果は変わりません。

１２月７日（日）の廿日市大会準決勝もまったく打てず１－０で負けました。良い投手が相手なら打てない事もありますが、私の目には普通以下のストレートと普通のカーブを多く投げる投手にしか見えませんでした。中心打者ならカーブだけを狙って２本は確実に打てたと思える程度です。選手達に常に言っている「狙ったらカーブの方が打ちやすい」をやろうとする選手がいません。右打者はレフトに左打者はライトに意識が向かっているので３流、４流の投手しか打てません。なぜなら良い投手はアウトコースに投げてくるからです。

先日ＢＳ放送でプロ野球ＯＢの金本、古田、宮本の２０００本安打を打った３人が出ている番組を見ましたが、アウトコースを反対方向に打つ練習し身に付けた事が２０００本安打につながったと３人とも同じ事を言っていました。当然だと思います。レフト、センター、ライト３方向に打つ事が出来て３割という打率が残るのです。私は中学、高校時代、体が大きく中心を打っていたのでアウトコース、それも変化球が多くきました。ずっとセンターから右に打つ事を意識していました。それが５割という打率につながったと思います。すぐに身に付くとは思いませんが、野球を続けていくためには必要な技術です。練習するべきです。まぁ技術より先に５時間前起床をひとりも実践していない親子の甘さを変えなければ何も変わらないと思いますけど。

試合終了後、解散しましたがまだ１５時前、いつものように何人かがフルスイング塾で打つと言ってきました。渕崎のグランドも１２時から１８時まであり、３年生が練習しています。予定表に書いてあるので全員知っています。私は監督なので３年生の練習に行くのは当たり前です。無惨な試合の後のですから選手も全員練習に来るものだと思っていました。１、２年生２２人練習参加はフルスイング塾とグランドで１１人、これが段原クラブの現実です。この程度の親子でも段原クラブのスタッフと練習内容、そして正しい技術、考え方を伝えているのである程度勝てます。しかし、ここまでです。これ以上にはなりません。全ての引き出しを開け、全てを伝えようとしても無理です。本人（親も含む）がそこまで望んでいません。監督、コーチがグランドにいて、練習している選手がいるのに家に帰り、シャワーを浴び、遊びに行くのか、ゲームをするのか、テレビを見るのか、寝るのかわかりませんが、平気なのが私には理解出来ません。あきらめているならチームになぜいるのですか？それともそんなに自信があるのですか？結果も出せないのに可愛げがありません。私は渕崎で西、橋田、山藤にノックをしましたが、本人達がやろうとしてやっている練習なので打っていて楽しかったです。いつもやりたい子ども達と練習したいと思いました。この子達に私は必要だと思える練習はやりがいがあります。段原クラブは人数が減った方が良いチームになるように思いました。さみしい話です。

第１２８話/2014.12.01

１１月２９日（土）で２０周年記念のブライディングカップが一段落しました。日程の都合で参加頂けなかったチームも、もちろん参加して頂いたチームも感謝致します。ありがとうございました。これからも段原クラブを宜しくお願いします。

段原中学校野球部の中で段原スポーツ少年団を立ち上げ２０年が経ちました。私はクラブチームを作るつもりも、まして監督をしたいとも思った事はありませんでしたが野球部の考え方が変わり、クラブ化するしか方法がなく、段原少年野球クラブとなりましたが、学区外の子ども達にも本気で野球をする場所を提供出来るようになり、グランドの問題など様々な悩みはありますが、これで良かったと思っています。チームを作るのは易しい事ですが、続けて行く事は大変です。これからもチームと子ども達の役に立てる間は精一杯やっていきたいと思っています。

１月２日に恒例のＯＢ戦も楽しみですが、今回は２０周年の祝賀会も予定されています。数多くのＯＢ、保護者の方々にお会い出来る事を楽しみにしています。お酒を飲めるようになった（大人になった）ＯＢ達が堂々と私と昔話や近況を語る事が出来ればうれしいです。今シーズンも１２月６日（土）、７日（日）の廿日市大会が最後の試合になります。気温がグッと下がり寒いようですが、来春に向けての各自の課題がはっきりと見つけられるような試合になると良いと思います。新チームになり、控えの子ども達がよくバットを振っています。すぐに結果に結び付くものではありませんが、卒業の日まで今の気持ち、姿勢を続けていけば必ず良い事があります。私もスタッフも見ています。今レギュラー番号を付けている選手を来春には何人も蹴落とすことを期待しています。のんびりしている選手を一気に抜き去って下さい。変わりたい、出来るようになりたい、試合に出たい、そして打ちたい、そんな気持ちを全身で表現して練習して下さい。私はそんな君達と練習するのが大好きです。

第１２７話/2014.11.26

私は今悩んでいます。８月３１日の文部科学大臣杯の西部予選から新チームがスタートし、約３ヶ月弱２０試合程度してきました。その中で県議長杯優勝や、県少年部県大会準優勝などある程度勝てています。１年生が半分先発で出ている中で本来なら良くやっていると言えるのかもしれません。しかし私の中では納得出来ない部分があります。それは２年生で試合に出ていう５人の内容です。大事な場面ではほぼ打たない。守備で（送球も含め）イージーミスをする。走塁が消極的、そして一番の不満は１年生が半分出ている中でチームを引っ張っていこうという気持ちが見えない事です。私は常に子ども達に言い続けている事があります。「試合に出ている選手は打てなければ守備で、守りもダメなら走塁で、そしてそれでもダメなら声でチームの為に仕事をしなければいけない」要はチームが勝つために心を表に出さなければならないという事です。今、試合の中で私に伝わる物がありません。そして悩んでいます。「いっその事２年生は切ってしまおうかと」子どもは未熟です。ミス、間違いをします。そんなことは２７年子ども達と野球をしていれば承知しています。技術的なミスは良いのです。頭、心のミスは防げます。思うか思わないかだけなのです。私は思いのない子と一緒に野球をしても楽しくありません。せっかく大好きな野球をするのなら真剣に集中して本気でやりたいだけなのです。考える度に久野、西本、出口、黒瀬４人の２年生の顔が浮かびます。彼ら４人は体が細く、小さく、力がありません。練習をレギュラーの子達より沢山やっても中々結果に結び付きません。試合に出ている選手より、心を込め

て練習しています。スタッフ全員がわかっています。しかし、情だけで試合に使う訳にはいきません。勝負の世界なのですから、少ないチャンスしかありませんが諦めず努力し続けて欲しいと思います。２年生で試合に出ている５人、あなた達が切られないのは、出られない４人が頑張っているからです。試合でミスはします。誰でもします。試合に出られない選手が全員納得のいく練習、試合の取り組みをする責任があると思います。１年生で出ている選手も同じです。好きな野球を本気でやる。難しい事だとは思いません。なぜなら段原クラブで本気でやれば必ず上達するし良い結果が出るのですから、やらなきゃ損です。

１１月２４日（祝日）にあった県少年部県決勝大会の決勝戦で明らかに勝てる試合を私の判断ミスで負けてしまいました。マウンドに上がるっている投手の打者に向かっていく姿勢の無さに感情的になり、交代させた事により逆転されてしまいました。子ども達には本当に申し訳ないことをしたと反省しています。長くやっていてもまだまた心が弱く、監督として未熟だと痛感しています。まず自分自身が二度と子ども達の足を引っ張らないように変わらなければいけないと思っています。すみませんでした。

子ども達と一緒に成長して、誰からも良いチームだと言われるようにしたいと思います。

第１２６話/2014.11.19

今週は本当に忙しく書き込みが遅くなりました。
週末１１月１５日、１６日に府中オーシャンズの招待試合にＡ、Ｂ２チーム参加させて頂きました。Ａチームは４試合で３得点（タイブレークで勝ちＢクラスで優勝)、Ｂチームは４試合で３得点、新チームの秋は投手が有利だと思いますが、それにしても打てません。Ｂチームは１年生ばかりの１０人（１年生の主力はＡ）なのである程度予想通りでした。技術の無さを気力でカバーするような所も見られず、口では夢を語るのに行動しない不思議な選手達です。力が無いのは十分に承知していますが、心も無ければクラブチームで野球をやる意味はありません。負ける事に小学校の時から馴れているように見えます。私は負ける事に馴れていません。小、中、高とずっと強いチームでしたし、プロでも勝つ事を目指してやってきました。指導者になってからもずっとある程度以上のチームを指導してきました。負ける事が悔しいのは当たり前で恥ずかしくさえ思います。男は恥をかきたくないから努力するものだと思っています。残念ながら段原クラブの選手達は小学校の時、チャンピオンチームの中心だった子がいません。勝負での勝つ事に対する執念が親子共々感じられません。チーム内でポジションを得て試合に出る事が出来るだけで満足感、達成感を感じているようです。そんな事で満足しているような選手が将来の夢を語っても無駄です。近づく事も出来ません。私は常々選手達にわからない事は聞きにおいでと言っています。ほとんどの選手は来ません。私に近づきがたいものがあるのかもしれませんが、大した数字も残せないのに何の疑問もいだかない、そして同じ失敗を繰り返す、不思議でしょうがありません。
本当に野球が上手くなりたいのでしょうか？
土曜日の試合でボロボロだった１年生の二人のピッチャーをその夜、強制的にシャドーピッチングで指導しました。日曜日には前日とはちがった結果が出ました。

当然です。正しい練習をすれば良くなるに決まっています。では何故、私は選手達がくるまで教えないのか？本人が望んでいなければ（聞く耳が無ければ）身につかないからです。まず、自分で考える、試す、悩みに悩んでもがくべきです。自分で何かを掴めばそれにこした事はありません。最後の手段として指導者に頼るべきだと思います。それにしても段原クラブの選手は野球

の事を考える時間が少なすぎると思います。夢を語るなら、語るだけの事をするべきです。その為の協力は私はしたいと思っています。あなた達の答えを探すぐらいの引き出しを私は沢山持っています。是非、利用して下さい。チームが強くなるのは簡単です。中心選手が一番練習すればいいのです。その点では新チームはまだまだです。

第１２５話/2014.11.10

１１月８日（土）９日（日）県軟連少年部新人戦県大会がありました。前日、突然ショートを守る選手が足が痛いと言いだし、現在のベストメンバーから２人のレギュラーを欠いて試合に望まなければいけませんでした。確かに勝つという目的のためには大きなマイナスですが、チーム力をアップするためには他の選手にチャンスが増し、プラスだと思うことにしました。運よく２試合勝ちベスト４に残りましたが、試合内容は明らかにダウン、特にショートの代わりは務まりそうな選手がいません。守備力は５０％減といった感じです。スポーツをしていれば故障する事はあります。しかし今、段原クラブで怪我をしている選手はほぼ練習以外でしています。段原クラブの選手として責任を持った行動でチームに迷惑を掛けないようにして欲しいものです。今週の府中オーシャンズの招待試合はＡ、Ｂ２チーム参加させてもらえます。全員が試合に出るチャンスがあります。１日も早い回復を望みます。
９日（日）は雨のため順延になりました。今まで必ず抽選、初めての試合順延です。子ども達の為には当然のことです。今まで何度も言い続けてきた事が伝わったかどうかわかりませんが、とても良いことです。チームにとっても故障者が回復する時間があります。せっかく広島スターズと試合出来るのですから全員がベストの状態でぶつかっていきたいと思います。文部科学大臣杯西部大会決勝では手も足も出ませんでしたが、あれから２ヶ月子ども達は確実に少しずつですが力をつけています。勝敗よりも気持ちで負けない堂々とした試合をしてくれると嬉しいです。自分の力をはかるチャンスです。
今のチームのレギュラーでなく、二桁の背番号の選手達がいい感じになってきました。技術的にはまだまだですが、争うように練習する気持ちが出てきています。私はフルスイング塾という室内で練習が出来る施設も持っています。段原クラブの選手は野球教室として使用していない時間は時間無制限１日￥１，０００で開放しています。土曜日、日曜日、祝日の練習、試合の前後にいくらでも打つ事が出来ます。今までほとんど決まった３年生が使っていましたが、新チームになり、１、２年も積極的に利用するようになりました。バッティング練習は数多く打てば必ず打てるようになるとは限りませんが、打たなければ可能性もありません。本当に強いチームはチームの中心選手が一番練習するチームだと思いますが、段原クラブはまだまだそのレベルにはなっていません。あくまで中心以外の選手の努力が目立ってきているのですが、続けていく事によってレギュラーのポジションを奪って欲しいと思います。野球はバッティングが一番ラクで楽しい練習です。毎日打ってもそれが立派な努力だと思いませんが、それすら出来ない選手はそれ以上の厳しい練習をしている訳はありません。１年生で入部した時「毎日ストレッチをして下さい」こんな簡単な約束も果たせず卒団するまで体が硬いままの３年生もいるのですから。努力は本当に必要で大事な事ですが私はクラブチームの監督なので結果で選手を評価します。今頑張っている二桁の選手達、今週の土日たっぷりチャンスがあります。持っている力を全て出せるように、強い気持ちで試合に臨んで下さい。全力で応援します。
県大会でベンチに入れなくてもスタンドから本当に大きな声を出してくれた道下、ありがとう、

私は君が大好きです。だから厳しく接します。頑張ろう！！
みんな、のんびりしているレギュラーを引きずり降ろせ！！

第１２４話/2014.11.03

　せっかくの三連休、天候が不順なため十分な練習が出来ませんでした。その中で１１月２日（日）は太田川リーグという大人との試合に３年生と先週府中オーシャンズとの練習試合に行かなかった１年生５人が行きました。段原クラブでは試合の前の練習でバットをしっかり振る為に飛ばないプラスチックのボールを使っています。そのボール１１月３日（祝）の県議長杯の時１７球減っていました。私は数え間違いだと思っていました。どう考えてもそんなに失くして帰る訳がないと思っていました。コーチの指示で３年生に捜しに行かすと、なんと１１球出てきたそうです。信じられません。そこまでいい加減な子ども達だとは思いませんでした。まして捜しに行く指示を出した時、３年の保護者から１年生もいたのだから来るべきという声があったそうです。
３年生とは何？チームの顔で当然、人間としても野球の技術も全て１年生の手本とならなければいけないのではないですか。私の指導力が足らないのでしょうか？常々言っていますが、躾は親の仕事です。チームの道具も自分の道具も大切にする、当たり前の事です。監督がわざわざ言わなければいけない事なのでしょうか？そんな事は小さい頃からの育て方ではないでしょうか？３年生の皆さん、そんな事もわからない、出来ないのなら野球をする以前の問題です。３年生としての責任、１、２年生の手本、見本にならないのなら練習にくる必要はありません。まして高校で野球をやっても良い事にはならないと思います。中途半端な気持ちでグランドに出ても得る物はありませんよ。しっかりとした反省を望みます。
　県議長杯で優勝する事が出来ました。この大会はピッチャーがある程度持っている力を発揮してくれました。やはり野球は投手力です。優勝したことは良いことで自信を持って欲しいと思います。しかし野球の頂点はありません。勝った中にもいくつも当たり前のことが出来ないプレーがありました。コーチも私もしっかり伝えたので考え方の間違いや送りバント、盗塁、送球、ケース打撃、出来なければいけない事を確実にこなせるように各自がしっかり自覚して練習し、これからの年内残っている試合で変わった姿を見せて欲しいと思います。屈辱の県大会から投手の気持ちが少しずつ前に出るようになってきました。投手は投げるボールに心を込めてバッターに向かっていく。打たれたらもっと練習する、考える、そうやって成長していくのだと思います。たくましく、チームを任せられるエース、誰がなるのかわかりませんが、みんなで競争してチーム力をアップさせて欲しいと思います。勝ったことに満足することなく上を上を目指していきましょう。取りあえず今日だけはみんなおめでとう、そしてありがとう。

第１２３話/2014.10.27

　高校野球秋の中国大会で広島の３校全て１回戦で敗れました。これで来春の選抜大会に広島のチームは出場出来ません。私はこの結果を大会前から予想していました。全てのチームが１回戦で負けるとは思いませんでしたが、選抜に広島のチームは出られないだろうと思っていました。数年前からずっと言っていますが、広島の高校野球は全国レベルに比べ完全に遅れをとっていま

す。なぜなのか？技術や考え方の進歩、進化に指導者がついていけてないからです。全てのスポーツは今の選手が一番です。昔が凄いことはありません。しかし野球だけ昔の選手が凄かったと言う人がいます。極端に言えば王さんは今、ホームラン王になれないのです。当時の環境の中でＮＯ．１だったことは事実ですが、その実力のまま現代では同じ成績は残せません。野球も他のスポーツと同じく日々成長し続けているのです。それに広島はついていけてないのです。何度もいっています。ゴロを打っていては現代野球は勝てないのです。確かに小学生や中学生のたいしたレベルでない野球なら相手のミスで勝つ事があるかもしれません。しかし、全国のレベルでは通用しません。ましてプロ野球選手には一生なれません。高校野球の指導者の皆さん、ピッチャーはアウトコース低めにストレート、バッターはフルスイングで外野に飛ばす、上に上がるための基本です。守れることは当然のことです。野球で勝つ為に守備は出来て当たり前です。

１０月２６日（日）府中オーシャンズに練習試合に行かせてもらいました。文部科学大臣杯県大会優勝チームですので、段原クラブの選手にとって、今の自分達の力を試すこれ以上ない相手です。２試合とも２対２の引き分けでした。打撃では２試合でヒット１１本、エースから４本の２点、今の力通りだと思います。レギュラーの中心選手以外が力不足です。特に２年生は基本の振る力をつけなければ１年生に追い越されます。新チームになってから練習を見ていると１年生の努力が目立ちます。守備では投手を変えた時の内野守備がガタっと落ちます。ここでも２年生の奮起が必要です。能力のある投手を守備の都合で投げさせられないのは困ります。捕手は１年生ですが府中オーシャンズの捕手も１年生、現在の力では守備力は負けています。本人が何を感じ、何を思ったのか、段原クラブの２人の１年生キャッチャー頑張れ！！君達の可能性もかなり大きいです。投手は２試合で５人投げました。県大会でみじめに負けてから三週間、競争意識の中確実に進歩しています。今全員に言っていることは、しっかり腕を振って強いストレートを投げる事、変化球も同じように腕をしっかり振る事です。そしてバッターに向かっていく気持ち、姿勢をマウンドで出す事、バックのミスで２試合で４点取られましたが今やろうとしている事は全員が表現出来たと思います。これから春に向けて公式戦で投げる投手を絞っていきます。私の思うエースは７回投げきれる投手です。体と心に力をつけてエースを目指して下さい。

本年の残りの試合は、県議長杯、県少年部の県大会、府中オーシャンズ大会、廿日市シニア大会、段原クラブのブライディングカップが２回、チャンスはあります。チャンスをつかむためには練習しかありません。今、自分は何をどうしなければいけないのか、しっかり考えて練習して下さい。わからなければ聞きにおいで。

いくつかのポジションで良い競争があり楽しみです。

第１２２話/2014.10.20

新人戦（文部科学大臣杯）が終わり、３年生の卒団式も先週終わり、本格的に新チームになりました。運良く県大会に出たものの運だけでは勝つ事が出来ず、選手の力不足がはっきりして子ども達にとってこれからやらなければいけない事がわかり、全員でポジションを奪い合う気持ちが練習の中に少しずつ見えてきました。この秋は先入観にとらわれず本当にチーム力が一番上がるポジションと選手を探していきたいと思います。選手たちはチャンスが欲しければ、それを体で表して下さい。内に秘めた闘志など何の役にも立ちません。思いがあるなら、体で声で表現しなければ相手に伝わりません。そして私はそんな選手が好きです。

１０月１９日（日）太田川リーグが２試合あり、１、２年生で行きました。全員やって欲し

い事を伝えて打席に入るようにしました。バントは全て出来ましたし、大人の投げるボールをある程度打ち返すことが出来、競争意識が良い方向に出ているように思いました。投手もまだまだストライクの数が少ないのが不満ですが、逃げるような投球がなく、心が伝わったボールが少しずつですが、出てきたように思いました。みんな０という結果が欲しいのは良くわかりますが、まずストレートで打者に向かっていく！中学生にはこれが必要です。特に秋から来年の春までにコントロールはもちろんですが、体を作り、ストレートのスピードアップです。そしてエースになりたければ完投出来る体力です。新チームは試合で投げる人数は絞ります。競争です。

卒団式の終わった３年生、高校受験です。練習なのか、勉強なのかしっかり切り替えて気持ちの入らない時はグランドに来ないで下さい。誰のためにもなりません。自分のため、後輩のため、そしてチームのためにグランドに来て下さい。一番上達出来るこれからの５ケ月、大事にして下さい。

早いですが年賀状の季節がまたやってきました。皆さんの協力よろしくお願いします。電話でも結構です。目標６，０００枚、大変です。

第１２１話/2014.10.14

１０月１２日（日）卒団式がありました。今年の３年生は１８人入部し１６人卒団しました。入部者全員揃って卒団するのはとても難しいです。監督が信頼されてない事が原因だと思いますが、私も５０年野球をやってきました。その中でたくさんの指導者の方々に出会いました。考え方の違う人や野球理論の無い人もいました。辞めたいと思った事は中学、高校時代には何度もあります。でも辞めませんでした。と言うより辞められませんでした。中学生の時は父親が許しませんでした。自分で決めた事（野球をすること）を途中で投げ出すのは絶対、何があっても許さないというのが理由でした。高校の時は家の周りの人や同級生達が私が野球の特待生として進学していたのを知っているので辞めて帰るという恥をさらしたくないと思い我慢しました。もちろん先輩より恐ろしい父親がいるという事も辛抱出来た大きな理由です。そして何より大きかったのは夢をずっと持ち続けていたからです。「プロ野球選手になりたい」辞めたら終わりです。野球を始めた時にはみんなが持っている夢です。思い続けた選手が勝ちます。卒団生、１，２年生大きさや内容は人それぞれで構いません。野球の中に夢を持って下さい。勝負の世界は辛い事ばかりです。１本のヒットを打つために数えきれない程バットを振らなけらばいけません。そして、これで良いという頂上がありません。だからやりがいがあります、喜びがあります。とても難しい野球、最後まで正解がわからない野球、だからこそ長く長く夢を持って続けて欲しいと思います。

私は段原クラブの選手に高校野球を経験して欲しい、出来たらレギュラーとして夏の予選のグランドに立って欲しいと思い、中学生を指導してきました。その為、厳しくプレッシャーも与えてきました。技術はもちろん最後の夏は精神力が必要だし、まず３年間踏ん張る為に怒られる事になれる必要があると思っているからです。厳しい言葉を浴びせられ、はぶてる、落ち込む、悲しむ、逃げるこれでは勝負の世界で舞台に立つ事さえ出来ないと思っています。しかし今の時代、通用しない子がたくさんいます。チーム存続のために変わる必要があるようです。選手を選んで言葉を選ぶ、チームとして今勝つという結果を得るために必要な事のようです。やってみます。クラブチームとして何を子ども達に伝え、何を身に付けてもらう事が大事なのか、私はまず野球の技術、これが最優先だと考えています。

技術を身に付けるためにやらなければいけない事、この部分に妥協はしません。話がまとまりません、私の中で整理がついていないからです。何かを変えなければいけない事はわかっています。しかしそれが本当に何なのか。色々試すしかないと思います。楽しみです。

３年生のみんなありがとう、残り５ヶ月後輩の指導お願いします。必ず君達の力になります。

第１２０話/2014.10.06

１０月４日（土）文部科学大臣杯（全国大会）県大会がありました。試合前のシートノックと相手投手を見てコールドで勝てると思いました。思っていた通り初回１点をとってまだ無死満塁「何点入るのだろう」初回で試合は決まると思いました。なんとそこからフライ３つでチェンジ、目を疑いました。遅いストレート、入らないカーブ、甘い所にしか投げられないコントロール、打てない理由が見つかりません。ランナーが出ればクイック出来ない、キャッチャーはセカンド送球出来ない。でも４対３で負けました。なぜ？段原クラブの選手がそれ以下だったからです。出ているほぼ全員が緊張からか、当たり前のことすら出来ない。これほど心が弱い子達の集団だとは思っていませんでした。特にバッテリーがシッポの下がった犬では勝負になりません。前から何度も言っているように野球は相手があるスポーツです。相手を見て、それに対応します。相手を見て緊張する理由がわかりません。いくら練習して技術を身に付けても試合で出せなければ無いのと同じです。精神に力が無ければ、持っている技術は意味が無いのです。私から言わせてもらえば、たかだか県大会、何万人の観衆がいる訳でもテレビ中継されて何百万人が見ている訳でもないのです。この程度で力が出せなければ、これから先の野球人生はありません。上のレベルには上がれないのです。練習してどんなに力をつけても心が弱い選手には無理です。自分自身で強くなるしかないのです。試合後私は、明日この相手はコールドで負けると言いました。その通りになりました。段原クラブはそんなチームに負けたのです。失礼な言い方かもしれませんが、あれだけミスを連発して、まったく持っている力を出さないでちょうど良い勝負になる相手です。当然、次はコールド負けです。

私は踏ん切りがつきました。チーム事情に関係なく、本当に一番力のある選手がマウンドに上がるべきです。まずそこを最優先にして他のポジションを考えて行きたいと思います。そしてあくまで守備優先、今までの段原クラブの選手とは違うので自由に打っていて点はとれません。バントもする、盗塁もする、エンドランもする。打つだけしか出来ない選手はチャンスが減ると思います。

チームの方針の変更はスタッフと話し合いが必要ですが、今いる段原クラブの選手の能力（技術・精神力）では勝てない事がはっきりした訳ですから何かを変えなければいけません。それから保護者の方も子どもの野球に集中して下さい。寒い開会式に、そして雨の予報の日曜日に半袖のアンダーシャツ、バカですか？考えられません。指の爪は伸び放題、グローブのひもは切れる、伸びたまま、スパイクの歯は無い、バットはへこんでグリップテープは剥がれている。子ども達は未熟です。ほったらかしていて大丈夫な程しっかりした子どもですか？親の仕事、責任です。

私は変わります。チームのため、選手のために変わります。覚悟して下さい。私は負けるのが嫌いです！！

第１１９話/2014.09.29

９月２８日（日）総会も終わり新チームに移行しました。折角の機会なので保護者の意見、質問、考え方を聞いてみたかったのですが、私の前では言いづらいのか、ほとんどありませんでした。これからもなければいいのですが、言いたい事があれば影で言わないで直接、私に言って欲しいと思います。特にお母さん方、くだらない話はやめましょう。私の耳に入っていますよ。新チームは今の所１年生が多く試合に出ているので上級生から愚痴が出るでしょう。勝負の世界に身を投じたのですから、勝つか負けるかふたつしかないのです。チーム全員が理解している事を望みます。

１０月４日（土）、５日（日）文部科学大臣杯（新人戦）県大会です。抽選に恵まれて出場出来ます！！折角の機会なので１、２年生のこれからの糧になるような試合が出来たら良いと思います。自分達の今の力がどの程度なのか、力のある投手と対戦して、自分のバッティングで何が出来るのか？段原クラブの投手は県レベルで通用するのか？とても良いチャンスです。勝っても負けても得るものは沢山あります。その為にまず自分の持っている力を全て出さなければいけません。結果にこだわる事なく気持ちでぶつかって欲しいと思います。３年生が全員揃って最後試合をしたいと言うので１０月１１日（土）たくさんの方々の協力でなんとか出来るように努力しています。なのに日曜日の練習に塾で欠席が数名、何だそれ、言葉が出ません。ガッカリしました。試合本当にします？

第１１８話/2014.09.22

９月２０日（土）八幡大会で３年生の試合が終わりました。史上初めて学校行事が重なり５人が欠席の最後の試合になりました。２１日（日）にたまたま太田川リーグの試合があり、全員で試合をさせたいと思い、３年生で行きました。こちらの思いは子ども達にはあまり伝わらず、最後まで心を動かすような試合は出来ませんでした。エースと４番不在、チームにはやはり中心が必要だと痛感した一年でした。私は野球が上手い子どもが好きな訳ではありません。心を込めて懸命に努力し、やろうと思えば誰でも出来る「大きな声を出す」　「全力で走る」「カバーに入る」当たり前のことをする選手と一緒に野球がしたいだけです。

段原クラブには佐々木という若いコーチがいます。スポーツ少年団８期生のＯＢです。彼は国際学院高校から専門学校を出て、現在介護の仕事をしています。段原中学校の野球部から別れ、段原クラブとして独立し、部員９名でスタートした時から手伝ってもらっています。当時はまだ学生でした。休みの日、同級生達が遊んでいる中子ども達のために力を尽くしてくれました。今では社会人となり、結婚し、今年子どもが生まれます。仕事の勤務時間が不規則な中、チームのために頑張っています。夜勤明けにそのままグランドに来てくれたり、練習に出てから夜勤に行ったりしてくれています。彼は中学１年生で野球部に入部してきた時、身長１３８ｃｍ、遠投３８ｍ小学生の時の野球経験はありませんでした。３年間で１０試合程度しか試合に出ていません。それでも今も野球を愛し、子ども達を愛し、段原クラブを愛し、精一杯やってくれています。２１日（日）も午前中試合の後、３年生の何人かがフルスイング塾で打ちたいといえば、その日４時から夜勤なのにも関わらず、３時半までバッティングピッチャーをしてくれました。本当に頭が下がります。ありがたいです。段原クラブのコーチが心が良いと何度も書いてきましたが、本当にその通りなのです。

選手、保護者の皆さん、頑張るなんて当たり前です。手を抜いたら、自分の時間を削り、家族との時間を削り、遊ぶ時間を削ってチームのために力を貸してくれるスタッフ達に失礼です。スタッフの最大に喜びは、子ども達と保護者、そしてスタッフが心を一つにし、目標に向かって全力で努力をする事です。結果は良ければ越したことはありませんが、勝つ事だけが目的ではありません。出来なかった事が努力し出来たそれが大事な事だと思います。スタッフは子ども達の真剣な顔、喜びの顔、悔しい顔、あきらめない顔、本気で素敵な顔が見たいのです。

３年生の皆さん、野球人生の本番はこれからです。人生の中心に野球を置くのか、あくまで趣味として続けるのか、またはまったく別の道を選ぶのか自分自身で決める事です。ただグランドに出るなら中途半端は迷惑です。心を込めて野球をする人、大歓迎、ぜひ１、２年生にあなた達の技術、心を伝えて下さい。それがチームの伝統です。

第１１７話/2014.09.16

９月１３日（土）文部科学大臣杯（新人戦）西部大会準決勝、決勝がありました。本当に運よく決勝に進む事が出来、この大会で初めて県大会に進みます。昨年まではこの大会は 7 月にあり、部員があまり多くない段原クラブとしては、まだ３年生の大事な大会がある為、新チームの練習をする時間がなく、チームとして形を作れないままの大会で中々結果を出せませんでした。今年は１ヶ月遅くなってくれたおかげである程度の試合が出来ました。しかし、本当に強いチームと比べると明らかに力不足です。半分１年生という事もありますが、体が細い、小さい、ひ弱です。身長は努力ではなんともなりませんが、食事、睡眠、トレーニングによって強く、早く、太くする事は出来ます。野球というスポーツはスピード、パワーが必要です。バットを振るだけでは打てるようになりませんし、ボールを投げるだけで良い投手になる事も出来ません。体作りも大事な大事な練習です。しっかり食べてよく寝て、そして練習です。

９月１４日は西協議会リーグ決勝大会がありました。１試合目１－４で負け、３位決定戦はタイブレークで勝ち３位でした。今年の投手陣は安打の倍点を取られてきましたが、１試合目はいつものように２安打で４失点、段原クラブは６安打で１得点です。計算が合いません。今年のチームの選手は良くバットを振っています。バッティングの技術力はある程度のレベルにあると思います。しかし、試合の中で特にチャンスに力を出せません。なせか？考え方が間違っているからです。上半身に力を入れて強く引っ張る、何も考えずただ思いっ切りバットを振るだけではチャンスに打てるバッターにはなれません。状況をしっかり頭に入れてチームのためにどんなバッティングが必要なのか、長打がいるのか、ヒットを打つところなのか、バント、右打ち、絶対転がす必要があるのか、三振しても思い切っていく場面なのか、やらなければいけない事を考え決めます。そしてそのために、どのボールをねらうのか、どんなスイングが必要なのか、打席に入る前に頭の中でイメージを作らなければいけません。本能でバットを振るだけでは数字を上げる事は出来ないのです。あくまでバッティングは投手、状況次第で変化出来る能力が必要です。３位決定戦では選手達から少しその兆しが見えました。

９月２０日（土）、２１日（日）３年生にとって最後の八幡大会、３年間の努力で身に付けた折角の技術を正しい考え方で思う存分発揮して欲しいと思います。君達は正しい練習をしてきたのですから自信を持って下さい。

第１１６話/2014.09.08

今年は私の野球人生５０年で初めての経験を何度もさせてもらえる。９／７（日）福山８０ホークスの招待試合の決勝戦、最終回二死ランナー無しから同点に追いつかれタイブレークで負けました。今年初めてタイブレークで負けるまで（８／２３瀬戸内大会)、段原クラブはタイブレークで負けた事がありませんでした。今年のチームは負けます。何故なのか？ここ一番で力を出せる選手がいないからです。タイブレークといえば、無死満塁から始まります。攻撃としては最大・最高のチャンスです。これ以上ないチャンスです。なのにその状況を楽しめる選手がいません。自分のチャンスは相手のピンチ、楽しめない理由がわかりません。そして良い投手ほどピンチの時にはアウトコースに投げてきます。世界中の野球の常識です。１年生の時から試合、練習のたびに何度も説明しています。そしてその場面でセンター方向に打ち返せなければ、良い投手を打てるようにならない事も伝えてきました。しかし・・・。３年の最後になってもその考え方が出来ません。どんなに練習して技術を身に付けても考え方が間違っていては試合を決めるような場面で結果は出せないのです。最終回の二死ランナー無しから追いつかれる。なぜ？相手の打者は７番バッター、ヒット（ショート捕れた)、次の８番バッター、またヒットを打たれ１、２塁、ここまでは１００歩譲ります。次の９番バッターに四球、絶対あり得ない。そして１番バッターにヒットを打たれ同点。この間、投手の投げたボールは全てストレート、皆さん考えられますか？１５０キロでも出せると思っているのでしょうか？これもずっと言い続けてきた事です。「ピンチにストレートしか投げられないのは、バッティングピッチャー」キャッチャーは変化球のサインを出していました。でも首を振ってストレート、そして打たれる八百長です。

やはり私は子ども達に信用、信頼されていないのだと思います。練習で自分の体力、技術を高めなければいけないのは当然です。しかしそれだけでは試合で結果を出す事は出来ません。なぜなら野球は相手がいるからです。打者なら投手を知り、投手の投げるボールに自分を合わせる、そして状況に応じて対応を変え、チームが勝つために一番確率の高いバッティングをしなければいけません。投手も打者をよく見てイニング、点差、ランナーなどを頭に入れ、終わった時１点以上勝っているためにボールを投げなければいけません。本能でバットを振ったり、ボールを投げたりしていては平凡な選手にしかなれないという事です。その点で今年の３年生は頭を使う能力が低いように思います。ただ練習するだけではここまでです。練習しない選手は以前の問題ですが！！これは夜にあった１、２年生が出たスポーツ少年団の試合も同じです。相手を見て、自分の対応を工夫する。打つための第一歩です。コントロールは良いのか、スピードはあるのか、変化球はどうなのか、もう少し考えて準備すれば数字は上がるのにとてももったいないと思います。

最後に保護者の応援に不満があります。８０ホークスの大会の１試合目、先発は２年生、その時には全く声を出していなかった母親達が投手が３年生に変わった途端、大きな声援、我が子に対する大きな声、なんだあれは、恥を知れ、誰だって自分の子が可愛いのはわかります。しかしグランドで、試合でそれを出したらチームは終わりです。チームのＴシャツを脱ぎ、チームから離れた所から見て下さい。昨年あたりから感じていた事ですが、個人を応援しに来るのなら必要はありません。段原クラブはチームです。それが出来ないのなら二度とグランドに姿を見せないで下さい。試合は全て段原クラブの試合、学年など意味はありません。ここまで落ちたか段原クラブ、とても淋しいです。

選手達、私がずっと言い続けている「野球は一つのプレー、一球のミスで負けるスポーツ」だという事を体験出来ました。１、２年生の試合も同じです。チームが負けるという代償を払った

のですから、成長する必要があります。言葉より体験、これからの野球人生に生かして下さい。波多間、橋本、大塚、重く責任を感じて、生まれ変われ、大きくなれればチームが負けた価値があります。

第１１５話/2011.09.01

８／３１（土）文部科学大臣杯（新人戦）西部大会がありました。段原クラブは２回戦からで勝つ事が出来ました。まだ３年生の試合が残っている中での新人戦で、私はどうしても３年生中心のチームにつく事が多く、中々新チームを見ることが出来ませんでした。その中でブライディングカップや県知事杯、スポーツ少年団の大会などでチームはある程度試合経験をする事は出来ていました。内容としてもまずまず良い試合を続けていました。その中に入っていくのはとてもプレッシャーがあり、私がその良い流れやムードを壊す事だけはしないように気を使いました。前にも書いた事があると思いますが、段原クラブはスタッフ（コーチ陣）に恵まれています。７月、８月私が３年生中心のチームの試合にいっている間、コーチにそれ以外の選手の練習、試合を任せていました。正しい考え方で正しい練習、試合をしてくれて試合の形が作れるようにしてくれました。今回の大会はそのチームの足を引っ張らないようにコーチの意見にしっかりと耳を傾け、子ども達の持っている力１００%出せる環境を作っていこうと思います。１、２年生なので技術的には未熟です。レギュラーも決まっていません。１試合目は１１人中１年生が６人出場しました。２年生の奮起を期待します。３年生も屈辱の瀬戸内大会から１週間、全員ではありませんが何人かの選手の変わろうとする姿が見えます。その何人かの選手のために最後まで私も全力を尽くす責任があると思います。そもそも何の目的でどこを目指して段原クラブを選んだのか？

もう一度、入部した時の初心を親子共々思い出して終わり良ければ全て良しではありませんが、最後の大会の最終打席まで心を込めた野球を見せてくれる事を望みます。

話は変わりますが、高校軟式野球の延長５０回歴史に名を残した事は本当に素晴らしいと思います。選手達には心から拍手を送ります。しかし、５０回も攻撃して１点も取れない野球を正しいとは思いません。ランナーをゴロやスクイズでしか帰せないのは、はっきり言って間違っていると思います。バッティングはあくまでも球を外野まで飛ばす事を目的にするべきです。中学生でも正しく打てばスタンドまで飛ばせます。高校生の体力があれば正しい練習をすれば出来るはずです。選手達にはご苦労様、よく頑張ったと言いますが、指導者として考えなければいけない事があると思います。また偉そうな事を言ってしまいましたが。今週はとにかく、段原クラブのコーチ陣にお礼を言います。ありがとうございました。これからも心ある指導を宜しくお願いします。

第１１４話/2014.08.25

まず、皆さんにお詫びしなければいけません。私はこのスペースで今まで生意気な事を書いたり、批判をしたりしてきました。自分の能力を過信し、指導者として正しいと思い込んでいました。プロ野球を引退し、少年達の指導を始めて２６年、ずっとある程度の成績を残してきたし、卒団生達も高校、大学で活躍してくれて、ずっと自分が正しくて他はおかしい、間違っている。

結果も出ないのに勉強もせずいつまでも同じ事を繰り返している指導者を軽蔑もしていました。本当に申し訳ありません。私にそんな資格はありません。

２年間教えてもピッチャーにストライクを投げさせられない、バッターに向かっていく気持ちを持たせられない、平凡なゴロを捕れるように出来ない、まともなスローイングをさせられない、チームを引っ張るキャッチャーを育てられない、チャンスを楽しめるバッターがいない、アウトコースのストレートを打てるように出来ない、声の出せない選手はずっと出せるようにならない、教えられない事が数え上げたらきりがありません。結局何も指導出来ていない。自らのチームの選手をまともに育てられないのに、なんと偉そうな事ばかり言ってきました。本当に恥ずかしいです。ここ２年程私の言っている言葉が子ども達に伝わっていないような感覚が時々ありました。何度教えてもすぐに忘れてしまうと思った事もありました。ある講習会で聞いた覚えがありますが、「指導者が何かを伝えたいとどれだけ頑張っても、それを聞く側がそれを望んでいなければ何ひとつ伝わる事は無い」そういう事だと思います。信用出来ない者に何を言われても頭には入りません。そして何も身に付きません。私は野球が大好きです。そして段原クラブが大好きです。今まで関わってくれた全ての人々のためにも守っていかなければいけません。そのために何をどうするのが一番良いのか、私はチームの代表としての責任を果たさなければいけません。

私はクラブチームとして段原クラブを立ち上げた時、クラブチームを選んで入部している親子は、私と息子の関係のように生活の全てが野球、家族中がその野球中心という人達ばかりだと思っていました。中体連に比べれば指導は楽だと思っていました。でも現実にはそうではありません。鈴木家の考え方が特別なのかもしれません。世間的には変わっているのかもしれません。でも私は野球が優先順位の一番なのです。これはどこまでいっても変わりません。私はただ野球が好きで好きでたまらない。心をこめて見ている人達を感動させる野球、勝っても負けても敵も味方にも心から拍手をもらえる野球がしたいです。チーム全員で笑ったり泣いたりしたいです。

第１１３話/2014.08.18

８月１６日（土）県知事杯のチェーンリーグにＡ・Ｂ２チーム出ました。結果的には両チームともベスト４には残れませんでした。しかしＢチームは１、２年生ですが、自分達の持っている力を出せたと思います。ピッチャーもストライクが取れ、試合をつくる事が出来ました。新人戦まで２週間これから本当の競争です。守備がしっかり出来る選手から出るチャンスがあります。いつも言っている通り守備は１０割です。

Ａチームには少しガッカリしました。確かにある程度のレベルのピッチャーでしたが、ほとんど無抵抗、工夫も執念も勝つ事に対する執着、こだわりもない残念な試合でした。いつものように四球とエラーで点を取られリズムの悪いまま回を重ね負ける、一番悪い今年の段原クラブの試合をしました。最後の約２ヶ月２週続けて雨で大会が流れ集中し続けるのは難しかったかもしれませんが、３年生にはとてももったいない一日でした。野球人生はやり直せません。練習で結果を出すためではなく、試合で自分が身に付けた力を全て発揮出来るように心を強く持って欲しいと思います。自分の為にやっているのは当然ですが、今まで応援し続けてくれている両親、関係者、自分以外の人を笑顔にするためにも残りの大会、勝ち負けでなく君達の本物の力と心を見せて欲しいと思います。

試合後チームでバーベキューをしました。選手、保護者が楽しんでくれればそれでいいのでしょうが、私はあまり楽しくありませんでした。人数が多すぎるし、暑いし、夏はエアコンの効い

た室内で食事するのが良いです。たくさんの人数がいても結局いつものメンバーとしか話をする事もないので、みんなで集まる必要は無いと思います。特にバーベキューは後片付けが大変です。せっかくみんな頑張ってくれたのにすみません。

第１１２話/2014.08.13

また大会が雨で抽選になりました。代理抽選。私は前日から台風は必ず東に逸れる、日曜日雨は降らないと言っていました。その通りグランド整備の必要はありましたが、しっかり練習出来ました。言いたい事は、子ども達の為に大人は全力を尽くしたか？ということです。何度も言っていますが中学３年生の一年間は一生に一度、大会は来年もありますが今年の３年生は出られないのです。大人はそういう意識で子ども達と接することが必要です。

段原クラブの３年生残り約一か月、思い切って彼らが力を発揮出来るように指導者として全ての力をかたむけたいと思います。「段原クラブは最後が一番強い」をチームとして目指していきたいと思います。

高校野球　夏の甲子園大会が始まりました。まだ２日間ですが、点がたくさん入ります。なぜでしょう？高校生の体も大きくなり確かにバットを振る力は年々強くなっています。バットを振れないチームは勝てません。私は投手の原点能力が低いと思います。原点能力とはアウトコース低めにストレートをピンチの時に投げられる能力です。大量点を取られるのは四死球、エラー、長打です。困った時にアウトコース低めにストレートを投げる事が出来ればビッグイニングにはなりません。バッターがどんなに練習をしてもストライクゾーンの四角は打てないのです。確かにスピードは必要です。変化球もあった方が良いです。しかし一番大事な能力はアウトコース低めにピンチで苦しい時ほど投げ込める能力です。広島大会から思っていましたが、今の選手は試合をたくさんやっているようですが練習（基本）が足らないように思います。これは小・中学生も同じように感じます。試合が多すぎます。

私はまず、練習をきっちり、しっかりやり試合の応用に入る前に基本を身に付ける必要があると思います。

第１１１話/2014.08.04

８月２日（土）、３日（日）２日間、しまなみ大会が因島でありました。残念ながら強い雨で土曜日は中止、なんと抽選になりました。私は我慢が出来ません。又、嫌われるのを覚悟で言います。いつも子どもの大会は大人の都合で運営されます。なぜ日曜日に試合を順延しないのでしょう。グランド？ベスト４までを試合して決めて抽選をするべきです。その為に２日間グランドを確保しておくべきです。

私は抽選の時子ども達に勝つ必要は無いといいました。なぜか？そんな準決勝、決勝には意味がないからです。大人達には来年も大会があります。しかし子ども達の中学３年生は１回しかないのです。なんとかして試合をさせられるように最大限の努力をするべきです。出来なければ大会を運営しない事です。チームが行う招待試合とは違うのです。大人の都合は子ども達の世界に通用しません。チームやリーグや連盟は子ども達のためにあるべきだと思います。抽選しただけで参加料１５，０００円何に使うの？

久しぶりにある小学生のグラブの練習を１時間程見る機会がありました。上級生は試合をしていたのでたぶん下級生だと思います。内野のポジションに入りノックを受けていました。ただただ驚きました。何人かユニフォームを着た方がいたので指導者だと思いますが、本当にあの練習で野球の技術が上達すると思っているのでしょうか？各ポジションに３人から４人います。１本ずつ打つのでなかなか順番が回ってきません。とても効率が悪い。そしてノックの打球の８割は捕れません。捕ったとしてもまともな送球が出来ません。なぜ基本的なボールの投げ方、捕り方をマンツーマンでやらないのでしょう？九九の出来ない子に因数分解をやらせてどうするのでしょう。プロ野球選手でも手で転がすゴロを何百球も捕り基本を身に付けます。少・中学生にとって絶対にやらなければいけない練習、それは正しいボールの投げ方と捕り方、そして下半身を使ったバットスイング、この基本を身に付けなければどんな練習しても上達はしません。そして我流では頂上の低い山しか登れません。急がば回れです。

指導者の皆さん、子ども達のために勉強をしましょう。出来るようにならないのは指導者の責任です。これからもどんなに嫌われても子ども達のために言いたい事を言っていきます。

第１１０話/2014.07.28

高校野球広島県大会が終わりました。今年もアウトコース低めに投げる確率の高い投手がいるチームが勝ちました。当然です。投手として一番大事な事なのですから、低めに投げてゴロを打たす、すべてのプロ野球の投手が意識している事です。なぜなのか？ゴロを打たせていれば点を取られる確率が低いからです。なのにゴロを打てと指導している指導者がいます。点を取りたくないのだろうか？決勝戦、広陵の投手は低めに投げてゴロを打たす事を意識して投げたそうです。相手の新庄は内野ゴロアウト１５、思い通りです。点は入りません。８対０から最終回逆転した星稜高校、９回はゴロを打っていません。想像ですが勝ちたくて小さくなっていた時には打てず、あきらめて、開き直り思い切ってバットを振った結果どんどん外野に打球が飛び逆転につながったと思います。バッターは打球を外野まで飛ばす為にバットを振るべきです。試合の流れの中でどうしてもゴロを打たなければいけない場面も確かにあります。ゴロを打っていれば勝てる相手もいます。しかし高いレベルに上がりたければ外野に飛ばす練習をするべきです。

公認野球規則の１．０２に「各チームは相手チームより多くの得点を記録して勝つことを目的とする」と書いてあるのですから、金属バットを持って外野に飛ばない選手が大学、社会人、プロ野球、木製バットで勝負出来るはずがありません。

段原クラブの高校３年生のＯＢが練習の手伝いに何人か来てくれました。中学生にとって憧れの先輩です。３年間、高校野球を全うした選手は本当に良い顔をしています。甲子園に届かなかった全ての３年生、ご苦労様でした。貴方達の素晴らしい経験をぜひ後輩に伝えて下さい。２７日（日）も石田（瀬戸内高校)、足立（県立広島工業高校）２人が来てくれました。中学生は話が出来ただけでとても喜んでいました。いつでもだれでも大歓迎です。他人を指導する事で気づく事も沢山あります。後輩のため、自分のために経験して下さい。

８月になると段原クラブでは、しまなみ大会、日刊大会、県知事杯、瀬戸内大会、新人戦と３年生にも、１、２年生にもとても大事な試合がたくさんあります。私は今まで全て勝とうとはしてきませんでした。出来るだけ沢山の選手を出させてやりたいと思っていました。しかしここからは本年度、段原クラブの集大成の２ケ月です。全ての試合、私は本気で戦います。

選手達、目の色を変えて段原クラブのユニフォームを着てグランドに出なさい。「相手チームよ

り多く得点を記録して勝つことを目的とする」同じ方向を向いていない選手はグランドに立入りを禁ず！！

第１０９話/2014.07.22

７月２１日（祝）しまなみ予選で今年に入って一番の心のこもった良い試合を見せてくれました。選手個人的には不満な部分もありましたが、それは試合後に話をしたので次には変わろうと努力してくれると信じています。

段原クラブの選手は小学校の時に県大会や全国大会に出場したチームにレギュラーはいません。カープジュニアに選ばれた選手もいません。エースは子供会のソフトボールチームの捕手、ショートは外野手でした。５番バッターは弱いチームのライトで９番、２打席目には変えられていた選手でした。そんな子ども達が２年間、ひたむきに努力を重ね、監督の私に怒鳴られそれでも諦めず、段原クラブの練習と自分の努力を信じて頑張ってくれています。この試合で打った選手達のスイングの数は、どのチームにも負けていない自信があります。私がいつも言っている「正しい事を数多くやる」これが上達する道です。証明してくれています。まだまだ子ども達にとって中学野球などは通過点に過ぎません。結果に満足する事なくたまたま良かった子も悪かった子も野球の技術に頂点はありません。常に上を目指して夢に向かって頑張り続けて欲しいと思います。私はそんな選手のためにユニフォームを着ています。指導者として勉強しなければならない事は無限にありますが、私も子ども達に負けないように努力し続けます。

７月２０日（日）に練習に来てくれたＯＢの五百蔵（東京国際大学）、山藤（広島城北高校）、渡辺（安芸府中高校）、大野（広島工大高校）、暑い中で長い時間、打撃投手、ノック、Ｔバッティングの指導、本当にありがとうございました。高校で３年間頑張った君達の思いは確実に今の選手達に伝わったはずです。心からお礼を言います。時間があれば何度でも後輩達のために力を貸して下さい。それからまだ勝ち残っている高校球児のみんな、高校野球は人生の最終ステージではありません。負けたっていくらでもやり直せるのです。自分の持っている力を思い切って発表して下さい。

そんな君達を私は楽しみにしています。そして段原クラブに笑顔で戻って来て下さい。全員が私の自慢の選手なのですから。

大塚、努力は裏切らないだろ！！

第１０８話/2014.07.14

高校野球が始まりました。

私は高校時代が野球人生で最も苦しく野球を楽しむ事の出来ない３年間でした。時代は変わりましたが、今も高校野球はスポーツを楽しむというより、修行というイメージがあります。

全高校球児、３年生の皆さん、よく頑張りました。一番大切な３年間最後まで続けるという事が出来たあなた達は全員勝者です。最後の夏、野球を思いっ切り楽しんで下さい。野球はスポーツなのですから楽しまなければ意味が無いです。

毎年、夏のパンフレットを見て不思議に思っている事があります。人数が沢山いる野球校（甲子園出場経験校）と言われているレギュラーの中に１年生がけっこう入っています。なぜなので

しょう？たぶんそのような学校は毎年優秀な中学生を勧誘しているはずです。その選手達がその高校で２年間、みっちり練習しても中学から入学したばかりの１年生に勝てないということなのでしょうか、なぜ？私も中学生の時にはそこそこ自信があり名古屋電気高校（愛工大名電）に特待生として入学しました。しかし、１年生の時は３年生には全く歯が立ちませんでした。当然です。高校で２年間練習しているのですから上達するに決まっています。入部したての１年生に負けるはずはないのです。桑田、清原、松井レベルの選手なら別ですが、私は野球校で１年生の夏からレギュラーになるという事はドラフトに指名される選手になるのは当たり前だと思っています。しかし現実には何年も見ていますが、３年生になった時それほどの選手になっていない場合が多いように思います。つまり、その高校には選手を成長させるシステムが無いという事です。だって２年間そのチームで毎日練習しても入部したての１年生に勝てないのですから。なぜそんな事になるか、指導者はしっかり反省するべきだと思います。上達するのが当たり前の成長期なのですから。１年生がレギュラーにならなければいけないのは、勧誘してまで入部してきた素材を伸ばすことが出来ないのか、その１年生が桑田、清原、松井レベルなのか、どちらかしかないはずです。

またこんな事を書くと嫌われるのでしょうが、選手を指導するという事は練習をしない選手を上達させる事は出来ませんが、何を言っても全て「ハイ」と返事をして頑張る選手なら指導者は上達させて当たり前、出来なければ身を引くべきだと思います。

あ～また本当の事を言うと嫌われる！！

第１０７話/2014.07.07

７月５日（土）リーグ戦の後期２試合ありました。

なんとか勝つことができ、準決勝に進めそうです。沢山いたピッチャーを絞り、久しぶりに完投させました。まずまず良く投げたと思います。少しでも自信をつけてくれれば良いのですが。しかしバッティングの方は思わしくありません。特に中心になって欲しい選手の内容が悪いです。バッティングはとても難しいものです。いつも打てるものではありません。

それにしてもあまりに形が悪いし、２年間作り上げてきた自信という物が感じられません。私はその部分が一番気に入りません。私が求めているのは段原ブランドです。

１年生の時から下半身を使ったフルスイングをずっと練習してきました。そして試合の中では、その身に付けたスイングを相手のピッチャーに合わせてするのです。その為にまずピッチャーを観察しなければいけません。そして対応を考えます。打席に入って本能でバットを振って打てる選手は、ずば抜けた才能と素材が必要です。今の段原クラブにはいません。

この２試合の場合、相手のピッチャーを見ればすぐにどんなバッティングが必要か簡単にわからなければいけません。まず体が大きくない、フォームが中々まとまっている。その状態だけでピッチャーはアウトコース中心で当然カーブもまあまあストライクが入るだろうとわかります。欲を捨てれば一番打ちやすいタイプのピッチャーです。私なら迷わずカーブを狙います。そして２ストライク後は、少しポイントを後ろに下げて少し遅れてもいいからセンター方向に打とうとします。そういう考え方も話しています。しかし、中心打者から欲（長打）が抜けません。もう夏です。どこのピッチャーもピンチになればアウトコース中心に投げられるレベルには来ているはずです。チャンスでランナーを帰し、チームの勝利に貢献するために頭の中を変える必要があると思います。２試合で一死ランナー三塁で内野フライ４つ、三振１つ、今年のチームは自由に

打たせて点を取れるレベルではないようです。私の考え方に反しますが、勝つ為にはエンドランなりを使う必要があるかもしれません。それも選手次第です。練習では素晴らしいスイングで立派な打球が打てるようになっています。私はずっと言い続けています。「野球は足と頭でするスポーツ」です。

第１０６話/2014.06.30

久しぶりに土、日曜日２日間試合がなく練習が出来ました。土曜日、１ヶ所バッティングで１５０球以上投げて体がパンパンです。これからの２ケ月間、３年生はもちろん、１、２年生もたくさん試合があります。３年生はチームとしての勝利の為に、１、２年生は８月３０日の新人戦に向けてチーム内の競争に勝ちベンチ入り、レギュラーポジションをつかむ事を目指して努力してくれる事を望みます。

日曜日、ＯＢがお世話になっている島根県の益田東高校が広島に練習試合に来るというので監督さんに挨拶をしに行きました。久しぶりに高校野球を見ました。当然中学生と比べれば、スピード、パワーは上です。ただ技術的には少しがっかりしました。県立広島工業との試合でしたが、まず両チームとも内野守備がダメです。グローブでボールが捕れません。どんな練習をしているのかわかりませんが、足が動かないためバウンドが合わない、無理に正面に入って体で止めようとしていてグローブに入らない。ゴロはグローブで捕るもので体で止めるのではありません。学生野球では正面に入って体で止めるような指導を時々見かけます。私は何でもかんでも正面は間違っていると思います。ボールは正面からずらした方が捕りやすいのです。バッティングでは両チームともインコースのストレートを芯で打った打者は一人もいませんでした。全員が振り遅れていました。バッティングのいろはの「い」はストレートに遅れないスイングを身に付ける事です。金属バットでインコースをさばけなければ木製バットでは何も出来ません。上半身の力でバットを振っていてはインコースは打てないのです。下半身でバットを振る基本が必要だと思いました。ピッチャーは平均以上の力を持っているように思いました。益田東のピッチャーはフォームも良い、ストレートとスライダー、コントロールも良いものを持っています。ただ身長が低く、ボールに角度が無いので三振が取れません。特にスライダーで勝負に行く時、コースを外すので振ってもらえません。ベースの上で低いボールを使えるようになると三振も取れるし球数も減ると思います。県立広島工業のピッチャーの素材は素晴らしいと思いました。ただ、フォームが雑です。当然コントロールは悪くなります。正しいキャッチボールをしてボールを自分の視界の中で離せるようになると素晴らしいピッチャーになれる可能性があると思いました。今のコントロールだと四死球やワイルドピッチなどでヒットを打たれずに失点する事があると思います。トーナメントを勝ち上がる為にはコントロールが必要だと思います。

それにしても両チームとも沢山の選手がいます。あんなにいてみんな練習出来るのでしょうか？段原クラブは１年生から３年生まで基本的に同じ数の球を打っていますし、捕っています。そのためにも今ぐらいの人数が良いのだと思います。声を出して、ボール拾って、グランド整備していても、野球は上手くならないですもんね！！

第１０５話/2014.06.23

２２日（日）日刊大会１回戦がありました。
前夜から雨が降り続き試合は出来ないだろうと思っていましたが、大会関係者の努力のお陰で抽選という子ども達にとって不幸な選択にならずに良かったです。
段原クラブはやっと故障者がユニフォームを着られるようになり、５月の全軟の頃の８０%程度にチームの状態が戻ってきました。その間に試合経験を積んだ控えの選手が力を付けた事によりチーム力はアップする可能性も出てきました。３年生も残り３ヶ月、もう一度チーム内での活発な競争の中で個人の力を上げ「最後が一番強い段原」これを目指していって欲しいと思います。試合では３本のホームランが出ました。３本とも立派な当たりでした。３番、８番、９番のバッターが打ちました。これが段原クラブです。全員がしっかり下半身を使ってフルスイングする。１年生の時からそれを目指して練習してきています。特に８番バッターの選手は小学校の時にはライトで９番打者、２打席目には代打を出される選手でした。体も大きくありません。毎日毎日に努力の積み重ねがオーバーフェンスという素晴らしい打球を飛ばせる選手にしたのです。身体能力に恵まれて小学校の時から中心選手。そんな選手が活躍するのは当たり前です。段原クラブは違います。小学生の時レギュラーでなくても正しい練習をする事により勝負出来る選手になれます。これからも満足する事なく今まで通り努力し続けて欲しいと思います。本当に立派なホームランでした。
ところで今、サッカーのワールドカップをやっています。私はサッカーだけでなくプロ野球でも解説者という人達にずっと疑問を持っていました。解説を辞書で引くと「よくわかるように物事を分析して説明する事」と書いてあります。今回のワールドカップ勝敗予想、誰も当たらない。プロ野球の順位予想も当たらない。解説者というより応援団、ファンです。サッカーの世界ランクからして日本はリーグ３連敗しても何の不思議もないのに必ず勝つような事を言う。ベスト４だのベスト８だの夢を語るのは素人の仕事で、プロの解説者の仕事ではないと思います。本当の事をたとえそれがファンにとって嫌な事でもハッキリ言えるプロの解説を聞きたいと思います。どこかのテレビ局そんな放送をしてくれませんか？
ギリシャの記者のように悪いものは悪い、間違っていることは間違っているとはっきり言える人がプロだと思います。日本は本当に事をはっきり言うと嫌われる国ですから難しいですかね。私は野球もサッカーもレベルアップのためには、ファン（サポーター）の人達も記者も解説者も選手を甘やかさない事が必要だと思います。大きな報酬を得ているのですから結果が悪ければ批判、非難されるのは当然だと思います。
私もその覚悟で段原クラブの監督をしています。（報酬は得ていませんが）

第１０４話/2014.06.16

段原クラブと私は今、弱っています。
子ども達を指導するようになって２６年、ピッチャーがストライクを投げられない年は初めてです。何をやっても３年生のピッチャーは全員良くなりません。私の持っている引き出しを全部使って様々な練習方法、考え方を試してきましたが全部ダメです。本当に困りました。自分の無力を痛感しています。１、２年生のピッチャーはそれなりにストライクを投げられます。チームの為に切り替えるか？毎日悩んでいます。本人達はそこまで考えているのかわかりませんが・・・。そもそも自己申告でピッチャーをする事に無理があるのかもしれません。本当に投手としての能力を持っている選手を指導者が見極め育てていくのがチームのためには正しいのだと

思います。ただ、私の思いは高校野球での可能性にあります。
　身体能力の劣っている子供ほどピッチャーが出来るようになれば試合にでるチャンスがあります。野手はポジションにレギュラー１人でいいのです。高校野球でチャンスをもらうためにピッチャーが出来るという事がプラスになると思うのです。チームのため、個人のため難しいです。
　毎週土、日曜日の練習前もしくは後にほぼ必ずフルスイング塾で打っている選手が４、５人います。疲れている時には休む事も大事だと思う事もありますが打っています。私や親からの強制ではなく、上手くなりたい、打てるようになりたいという自分達の思いでやっています。当然チームの練習とは関係ないので私は行きません。しかし本当に良くやっているので、ここ何回かのぞきました。どうせバットを振るのなら正しく振った方が良いし、集中した方が良いと思い日曜日も練習後みました。ティーを上げて、スイングを見ましたが私は見ていてとても気持ち良くなりました。全員何も言う事はありません。とても綺麗な正しい打ち方を身に付けました。後は試合で出来るかどうかです。そして自分の打てるボールを振れるか、要は身に付けた技術を頭と心を使い試合で出すだけです。練習はウソをつきません。バッティング練習は野球の練習の中で一番楽で楽しいのですからやるのは当たり前ですが、本当に良くやっていると思います。私は君達に期待しています。
　話は変わりますが元気になりたいです。

第１０３話/2014.06.09

　皆さん、先週の週刊ポストを読まれましたか？
　私がずっと言い続けてきた野球の技術は日々進歩、進化している１０年、２０年、３０年前の指導者が経験してきた野球とは変わっています。自分の経験で指導してもダメですよ、その通り書いてありました。私はずっと言ってきました。「ポイントを前にしてダウンスイングやゴロを打ってはダメです。フライを打ちなさい。投手はテークバックを小さくしなさい。バントは点の入る確率を下げますよ。相手が楽になりますよ」全て書いてありました。全てのスポーツの記録は今が一番です。野球だけ昔の選手が凄い訳ありません。今の選手が一番力があります。当然です。日々進化、進歩しているからです。しかし、指導者がそれについていけません。いまだに上から叩け、ゴロを打て、投手はテークバックをゆっくり大きく、一塁にランナーが出れば必ずバント、こんなチーム、指導者を小、中学生の野球でよく見かけます。子ども達が可哀想です。指導者の皆さん、勉強しましょう。子ども達は間違っている事でも「ハイ」と言います。正しい技術、考え方を伝えなければいけないのです。私も含めて日々勉強です。
　８日（日）太田川リーグ（大人の草野球）がありました。１年生中心のチームで臨んでみました。草野球とはいえ大人です。１年生のピッチャーにはまだ変化球を禁止してあるので甘いボールはすっ飛ばされます。どこに投げると打たれるか、どのコースで打ちとれるのか、今しっかり覚えて欲しいと思います。そのために打たれる必要があります。打たれる事が自分自身の財産になるのです。４人のピッチャーが投げました。しっかりストライクを投げる事が出来ました。入部した４月、１か月前の５月、そして６月確実に全員進歩しています。ピッチャーについては大満足でした。しかし、内野と捕手の守備には不満だらけです。小学校のチームで当たり前の基本をやっていないので少し時間がかかりそうです。
　段原クラブでは今が一番を目指して練習をしています。意識と目標を持って練習することにより、確実に少しずつでも上達します。今より７月全員が何かひとつでも変わっている事を期待し

ます。
　試合は東広島の吉川グランドという所でありました。段原クラブには八本松から来ている選手がいます。３年生のピッチャーですが、１年生のバックに足を引っ張られましたが大炎上しました。試合後家までどの程度の距離かわかりませんが、走って帰っている姿を見ました。まだまだ力は足りませんが、本人が諦めていない内は私も諦めません。
　これからも本人の為に厳しく指導していこうと思いました。山吉、がんばれ！！

第１０２話/2014.06.02

　６月１日（日）県知事杯１回戦がありました。
　段原クラブはＡ、Ｂ２チーム参加し、両チームとも勝ちました。特にＢチームは先発９人中５人１年生で中体連とはいえ３年生を相手に立派な試合をしたと思います。エラーひとつの２対１。いつも言っている当たり前の事を当たり前にする野球が出来ました。
　私はＡの監督をして見ていませんが、コーチからの報告も全体に集中力があり保護者の応援も含めてとても良かったそうです。次のチェーンリーグは相手のレベルが上がります。新チームとしてとても良い経験になります。全力でぶつかって欲しいと思います。
　Ａチームはほぼ良い所はありませんでした。相手投手の変化球はストライクが入らない、ストレートは速くない、クイックや牽制はあまり上手くない、グランドは狭い、点はとれて当たり前です。ベルトから下のストレートを待っていれば、いつでも打てるレベルです。はっきり言って藤の木のグランドなら、狙ってホームランが打てます。段原クラブの３年生になればそのレベルになって欲しいです。投球練習を見た瞬間に打つべきボール、スチールが出来る、高いボールに手を出さなければ確実に投手は崩れるこれくらいの事は頭に入ります。常に言い続けている目で見える情報を頭で処理する、中学生として当然出来なければいけない事、何度言っても出来ません。目が開いているだけで脳と繋がっていない。いちいち指示しなければ動けない、考えない。
　ケガでベンチを外れている伊藤と波多間は外から見ていると私の言っている事が良くわかるそうです。でもそれでは意味が無いのです。試合に参加している選手が今何をすべきなのか、そのために何を意識するべきなのか、今までの練習、試合の中で言われてきた事を脳にインプットしなければいけません。本能でやっている内は何度も同じ失敗を繰り返します。「野球はボールが動いていない時間が長い、その時間に頭を使うスポーツである。
　話は変わりますが、お母さん達に厳しい事を言います。
　暑くなってきました。日に当たれば日焼けします。当然です。屋外スポーツですから。Ａチームの試合中、誰一人試合の応援をする訳でもなく、遠く離れたテントの中で傘まで差して、時々笑い声、野球はチームスポーツです。段原クラブは野球のクラブチームです。「チームです」練習も試合もチームのためにやります。私はチームのためにグランドに立っています。「チームのために」という思いのない人間はグランドに必要ありません。全員が同じ方向を向いて子ども達のために力を尽くすのです。当然試合中は全員が同じ場所で一つになってチームを応援するべきです。学年でかたまったり、離れている人がいたり人間同士なので合う、合わないもあるでしょう。考え方も違うでしょう。しかしチームの前ではそんな事は意味ありません。
　私の方針がチームの方針です。もう一度言います。練習も試合もチームのためにあります。あなたの子どもの為ではありません。試合はチームが勝つ為にやります。あなたの子どもがヒットを打つためではありません。親のレベルが子どものレベルです。まず、親がクラブチームの保護

者として、当たり前のことが出来るようにならなければ子ども達も今のままだと思います。
　これはスタッフ全員が今年度になってずっと感じていた事です。グランドは母親達の世間話をする場所ではありません。子ども達の為に野球をする場所です。そして保護者はそれを全力で応援するのです。ひとつになれないのならグランドに必要ありません。

第１０１話/2014.05.26

　子ども達にはいろいろな性格の子がいます。
　野球は広いグランドでやるスポーツです。当然明るく大きな声が出せ、元気な子が必要です。ボールが動いていない時間がかなりあるスポーツなのでその間に考え指示を出し、自分もチームも次のプレーの準備をしなければいけません。大きな声を出す事により自分とチームの集中力を増し緊張を解かすことができ、相手にプレッシャーをかける事も出来ます。スポーツとはいえ勝負なのですから戦いです。勝つために子ども達は試合にのぞむのですから姿にも声にも迫力が必要です。堂々とした自信に溢れた態度でプレーしなければいけません。自信を少しでも大きくするために苦しく練習が必要です。
　中には何度言っても声が出ない、いつもグランドでオドオドしている選手がいます。「性格だから仕方ない」と思っているのなら野球を辞めるべきだと思います。ヒットを打ったり、ゴロを捕ったりする事は技術が必要です。出来ない事もあります。しかし大きな声は誰でも出せます。
やろうと思うだけで出来ます。態度も同じです。誰でも出来ることすらしない選手はチームに必要ないのです。自分の事だと思っていないあなた、あなたの事ですよ。何度言ってもダメなら私はもう言いませんよ。
　私はよく野球は頭と足でするスポーツだと子ども達に話します。脳が常に動いていなければいけません。グランドには大切な情報がたくさんあります。まず相手の打順で誰が良いバッターなのか教えてくれます。イニングの合間のスローイングで肩の強さ、コントロールが、ピッチャーが投げればクイック、スピード、変化球が、クイック、牽制、コントロール、打順が一周りすればバッターの特徴、足の速さ、さまざまな事がわかります。
　せっかく教えてくれた相手選手の情報を使わない手はありません。野球は相手と対戦するスポーツです。相手を知る事で有利になる訳です。常に話しますが、今の段原クラブの選手達はなかなか脳が動きません。というより動かそうとしていないように思います。野球は明るく元気で脳がしっかり動く選手が上手くなります。そういう選手がひとりでも多くなってくれると楽しい野球が出来ます。

第１００話/2014.05.19

　私のつぶやきも今回で１００回目になります。
　野球を始めて約４８年、子ども達を指導するようになって２７年、その中で思った事、私の野球観、段原クラブの現状などを書いてきました。思い通りにならない事が多く、不満やグチも多くなりました。良かった事やうれしかった事、誉めたい事もたくさんありますが、私は人を誉めるのが苦手でヘタなので中々書くことが出来ません。
　今回も少し厳しい事を書きます。５月１８日（日）東広島八本松中学校に練習試合に行きまし

た。朝７時頃現地に着くと、八本松の選手達がグランド整備をしていました。まずグランドをレーキで掻き、トンボでならし、その後をブラシできれいにしていました。聞くと６時半からやっているとのこと、上級生もしっかり動きその上で下級生に指示を出していました。

私が着くと全員がしっかりと動きを止め、大きな声で挨拶をしてくれました。当たり前の事なのですが、段原クラブの選手には出来ません。同じ野球をしている中学生なのに、なぜこんなに違うのか。当然指導者がそういう部分を厳しく指導出来てないからだと思います。怒られれば段原クラブの子ども達も同じ時間に集まり、同じようにグランドを作り、同じように大きな声で挨拶をすると思います。でも１，２度です。そしてまた出来なくなりもう一度怒られれば又１，２度すると思います。それが野球の指導者の仕事なのでしょうか。グランド作り、先輩としての見本となる行動、挨拶、本当に監督、コーチの仕事なのでしょうか？親としての責任はないのでしょうか？

私は学校は勉強と団体生活のルールを学ぶ所、野球チームは野球の技術（個人・チームとして）を学ぶ所、躾は親の責任だと考えています。まして挨拶、時間を守る、準備、片付け、当然練習、試合に取り組む姿勢などは育ちだと思います。厳しく怒ってやっとやる「意味がありますか？」当たり前の事をするのにそれが必要ですか？野球が上手くなりたい、プロ野球選手になりたいと夢を持って段原クラブを選んだのではないですか？

親子共々全力を尽くす、私は当たり前だと思っています。グランドや道具を大切にする。親や指導者を信頼し感謝する。上手くなりたいのですから練習、試合に集中し、頭で考え工夫し努力する。全て当然の事です。

「うちのの子は頑張っています」という親がいたとします。当たり前の事なのです。口に出す程の事ではありません。やらない方がおかしいのですから。心と体を鍛えて夢に向かうために段原クラブに入ったのです。夢や目標にたどり着くために苦しい思いをするのも当たり前の事です。親も一緒に苦しい思いをするのも当たり前です。ピッチャーが一球ストライクが入ったら拍手するようなレベルの低い保護者や選手ではクラブチームとしての価値はありません。野球のことに関して、保護者の皆さん、子ども達を甘やかさないで下さい。特にお母さん方、我が子が可愛いのはわかりますが可愛いのならばなおさら厳しく接するべきです。

勝負の道を選んだのです。負け犬がどんなに吠えても惨めなだけです。まず親がクラブチームのレベルになる事を望みます。段原クラブはお遊び仲良しクラブではありません。

第９９話/2014.05.12

５／１０（土）新入団選手の歓迎会をしました。

本年度は１３名の選手を迎える事が出来ました。毎年たくさんの子ども達が体験にきます。チームのレベルが低すぎるのか、指導者の出来が悪いのか入部しない選手の方が多い中、入部してきた子ども達のために３年間、チームとして、指導者として全力を尽くします。小学生の時負けていたチームメイトや他のチームの選手達を３年間で追い越して高校に行けるようにお互い努力していきましょう。

あなた達はまずチーム選び（指導者選び）は間違っていないのですから。一歩リードです。１年生の自己紹介の中で段原クラブに決めた理由を聞きました。ほとんどの選手がバッティング練習での先輩達の打球の勢いや飛距離を見てヒットやホームランが打ちたい、速い打球、遠くに飛ばしたいと思い入部を決めたそうです。子ども達が求めているのはそういう事です。確かに試合に

は勝ちたい。しかしスクイズやエンドランで勝ちたいのではないのです。自分のヒットやホームランで勝ちたいのです。その欲求に答えるのが大人の仕事なのです。ただ野球というスポーツは団体（チーム）スポーツです。チームのためにやらなければいけない仕事もあります。それが守備・走塁です。

私はバッティングは自己満足のため、守備・走塁はチームのためだと思っています。あくまでスポーツは自分のためにやります。そのために打つ事に対する思いが高くなるのは当たり前です。ボールを遠くに飛ばしたい、ホームランを打ちたいと思うのもけして悪い事ではありません。しかしそれだけではチームとして良い結果（勝つ）を得るのは大変です。勝つという事を求めるなら、守備・走塁のレベルアップが打つよりも必要になります。楽しいのは打つ事です。そして楽です。守備練習と走塁練習はあまり楽しくありません。そしてきついです。でもチームとして勝ちたければ必要な事です。

平日練習の基本、ランニング、トレーニングそしてバッティング練習中の打球に対する集中、やれる事はたくさんあります。やるか、やらないかは本人次第、バッティングは自分のため、守備と走塁はチームのため、どちらもとても大切です。

第９８話/2014.05.05

全軟の準決勝で負けました。

この結果はある程度予想していました。私は前々からチーム力は投手力だと言ってきました。今年のチームは投手をやりたい選手は何人もいますが、投手は一人もいません。投手というものは、まずストライクを投げられる。チームを背負う精神力がある。この二つが最低条件です。これが無ければマウンドに上がる資格はありません。ですから今の段原クラブには背番号１を背負う選手がいません。当然大事な試合を勝つ事は出来ないのです。試合には負けましたが、段原クラブがやろうとしている野球の中で打つ事だけは出来ました。ヒット１０本。ちなみに打たれたヒットは２本。下半身を使って強く速いスイングで外野まで飛ばす。バントもエンドランのサインも無い。これが段原クラブの野球です。

１年生の時から徹底して練習してきた成果は十分に出してくれました。段原クラブは勝つ為、点をとる為の小細工はしません。それが子ども達の夢に協力する事になるとは思えないからです。

今回は投手を含め守備であまりに当たり前の事が出来ずに負けましたが、段原クラブの練習、目指している物は間違っていないと思います。全員がこれだけ打席でバットを振れるチームは他にありません。野球を始めた子ども達は全員、ヒットやホームランを打ちたいのです。そしてプロ野球選手に憧れるのです。バントをしたり、内野ゴロを打っていては、夢に近づけません。いつも言っている当たり前の事を当たり前にする。投手はストライクを投げる。野手は打ちとった打球をひとつアウトにする。送球は１００％。これが出来れば試合は勝つのです。指導してきたつもりでしたが、試合で出来ないのですから足らないのでしょう。もう一度チーム内の競争です。

明日から学年は私の中で完全に無くなります。実力のある者がベンチに入り、試合に出ます。３年生のみなさん厳しくなりますよ。

第９７話/2014.04.28

２７日（日）大人のチームと試合をした。
本気で投げてくれるピッチャー相手で、とても良い練習になった。私はいつもピッチャーがチームを背負っていると言っている。それは、技術はもちろんだが精神的に強い事が一番に求められる。バッティングは良い打者でも軟式で３割打つのは難しい、７割以上はアウトにとれるのである。圧倒的にピッチャー有利なのです。野球は確率のスポーツなのですから。
ピンチに心も体もピッチャーが逃げる理由はありません、どんどん攻めるべきなのです。相手投手のピンチになった時の絶対に逃げない気持ちの入ったボールを見て「中学生相手には絶対に負けない」という気持ちがひしひしと伝わってきました。プライドと責任感のある良いピッチャーだと思います。段原クラブの投手達に一番欲しい物です。とても良い見本を見て勉強になったと思います。私が何度も何度も話をするよりも実際に体験するのが一番です。
５月３日（土）から始まる全軟に向けてやる事はやってきました。選手達の技術は充分に付いています。後は試合でその持っている力を出すだけです。段原クラブは試合でサインが無いので監督の出来る仕事は、選手達が思い切って自分の力を出し切れる環境を作る事です。
勝ち負けより大事な、心を込めて力を出し切ることを選手達に期待します。

第９６話/2014.04.21

野球は選手９人が試合に出ています。
先発で出る９人がレギュラー、それ以外が控え選手という事になります。だいたい中、高校生の野球では背番号一桁１～９番がレギュラーです。１が投手、２が捕手というようにポジション別になっています。一桁の背番号を背負うという事はプライドと責任も一緒に背負うという事です。私も３０番という責任を背負っています。その責任を果たすために日々、野球の技術を追求し練習方法を工夫して選手の技術を少しでも伸ばし、それを試合で発揮出来るように全力を尽くしています。
今、段原クラブでは私が思うレギュラー（必ず大事な試合に先発で出る人）が５人います。２０日（日）の十日市との練習試合でその内の４人がまったくチームの為の仕事が出来ませんでした。
私は全ての試合でヒットを打つ事など求めていません。バッティングは水ものです。どんな選手でも打てない試合はあります。しかし同じ失敗を繰り返したり、守備に影響が出たり集中力がなくなったり、全力疾走しなかったり当たり前の事をせず、チームの足を引っ張ることは許しません。取り組む姿勢をいつ誰が見ても他の選手の見本とならなければいけません。それがレギュラーの努めです。
チームの中心選手は試合に数多く出ます。良い経験を控えの選手よりたくさん出来るのです。練習をその分多くするのは当たり前です。指導者が厳しくするのも当然です。プライドと責任も大きいのです。それを負えなければ自ら退くべきです。監督は選手に期待し、信じ、背番号を与え、メンバー表に名前を書きます。段原クラブのユニフォームを着て、堂々と自分とダメと誰よりもしてきた練習を信じ、身に付けた技術を試合で発揮して欲しいと思います。あなた達は力があります。
なぜなら段原クラブのレギュラーなのですから

第９５話/2014.04.14

４月１２日（土）１３日（日）生名島で合宿練習をしました。
毎年行っている合宿で今年で４回目、初めて１年生も含め選手３９名全員で行いました。今回は日曜日雨に降られ予定通りにはいきませんでしたが、例年通りバッティング練習だけはしっかり出来ました。土曜日昼間３時間、夜間２時間、日曜日３時間打ちました。１年生は土曜日の夜にミーティングで段原クラブ野球心得の説明も出来、目指していく技術、考え方を理解してもらえたと思う。日曜日の午後は体育館でバドミントンとソフトバレー大会をして楽しみました。投手が試合形式の練習が出来なかった事が少し残念ですが、５月３日（土）の全軟２回戦に向けてまだ練習試合が４試合、１日練習試合が２度あるので十分取り返せると思います。
日曜日のランチ特打でバッティング投手をしましたが、打った選手達はけっこう厳しいコースのボールもバットの出る角度が良く、スピードもつき、打球の方向、角度がとても良くなっていました。練習してきた物が技術として身に付いてきています。全員確実に格段の進歩をしています。
自分のやってきた努力を信じて自信をもって試合に臨んでくれれば必ず良い結果が出ると思います。２、３年生の体重アップも全員クリアし、１年生のストレッチ試験も１ヵ月で全員努力の後が見てとれました。今の気持ちを続けて欲しいと思います。きっと良いチームになります。

第９４話/2014.04.07

５日（土）大野シニアと練習試合をした。
天気はあまり良くなく寒かったのでお互いの子ども達は中々持っている力を出すことは難しかった。１年生から３年生まで大野さんのお陰で全員試合に出られたし、グランドが３面あったので練習も出来ました。大野さんありがとうございました。
１年生が初めての対外試合を経験しました。最後の試合で雨も降ってきて条件としてはとても悪い中でした。しかし私は一番楽しめた試合でした。１年生全員から勝ちたい気持ち、試合を楽しんでいる気持ちが伝わってきました。個人の結果ではなくチームとして勝つ「みんなで勝つんだ」という思いがプレーや声からよくわかりました。ベンチにいてとても心地良かったです。
２、３年生も１年生の時はこうでした。それがだんだん目の前の結果にこだわりだし、チームよりも個人の結果を欲しがり心からチームとして勝ちたいという気持ちが薄れ、チームメイトを心から応援しなくなります。そしてチームとして戦えなくなるのです。
１年生の試合をベンチで見て、本来の野球とはチームとはこういうものでなくてはいけないと思いました。練習ではもちろん、チームメイトもライバルです。ポジション争いの中で力をつけていくべきと思います。しかし試合になれば一番はチームが勝つ事です。そのために出ている人もベンチにいる人も全員で相手と戦わなければいけません。そして試合に出ている選手は喜びをプレーで表すのです。やる前から結果を気にして自分にプレッシャーを掛けて力を出せないような事は、絶対にあってはいけません。せっかく努力は身に付けた技術を堂々と発表するべきです。
段原クラブの選手なのですから自分のやっている練習に自信を持って下さい。

第９３話/2014.03.31

甲子園で新庄が負けました。

昨年の瀬戸内に続き、やはり広島代表は打てない、特にボールが遠くに飛ばない。今の高校野球は打てなければ甲子園では勝てません。岩国も同じです。投手力で予選は勝ち上がれます。特に中国地方は全国レベルと比べて打撃力が落ちます。投手力だけで甲子園に出場できます。

私は前からずっと言い続けています。確かに甲子園に行くためには投手力は最低条件です。しかし勝ち上がるためには打撃力が必要です。どんな練習をしているのか私にはわかりません。野球は守備力もちろん大事です。守備練習必要です。そんな事はわかっています。しかし、私は魅力を感じません。広陵が甲子園で勝ち上がったのは何年前でしょう。もっともっと打つ事、振る事、強い、速い打球を打てるスイングを身に付ける練習をするべきだと思います。

特に野球校と言われる高校は能力のある選手を選んで入学させる事が出来るのですから、中学生の時に打てた選手を集めてなぜ打てないのでしょう。

段原クラブは選手を選んでいません。力のある小学生を勧誘しません。ただ常にバッティング練習中心にやります。フォアボールを選んだりランナーを進めたりする練習はしません。ひたすらヒットを打つために練習をします。それがチームの勝利のためにはあまりなりません。なぜかというと、いくら練習をしても良い投手は打てないからです。プロ野球選手がダルビッシュや田中将大を打てないのですから。でもバッティング練習を中心にやります。なぜなのか、子ども達はヒットを打ちたいのです。ホームランを打ちたいのです。打つのが楽しいから野球をやっているのです。それに応えるのが指導者の仕事です。

でも、もちろん勝つためには投手力、守備力が大事です。そんな事はわかっています。広島の高校野球のレベルアップのためにはバッティングの力が必要だと思います。特に外野の頭を越えるスイングの力が必要です。ゴロでは点は取れないのです。

第９２話/2014.03.24

３連休、１日目は安シニアさんと練習試合を組んでいました。

突然の暴風雨、私が経験した中で一番の風で本当にビックリしました。同じ広島でこんなに天候がちがうなんて驚きです。安シニアさんには豚汁までごちそうになり、ありがとうございました。又、今度は天気の良い時にお願いします。

この連休は段原クラブとして、たぶん初めて３日間１日練習で、学年で少し時間をずらしましたが私は１日とても疲れました。中日には１年生の政岡の送別会もありグッタリです。土、日は天気も良く子ども達のモチベーションも最後まであり良い練習が出来ました。新１年生も１３名の入部がありひと安心、新２、３年生にも良い刺激になっているようです。

先週の敗戦により少し勘違いしていた事に気づき、練習の集中力が高まったように思います。何かを変えなければいけない思いが伝わって来るようになりました。過去に結果を出したチームがやっていた練習の雰囲気に近づいてきました。是非、工夫を重ね今の危機感を持ちそれでも楽しく野球をやって欲しいと思います。少し楽しみになってきました。選手と指導者両方で、上を目指して苦しんで楽しんでいけばいいと思います。土、日の集中続けて欲しいです。

第９１話/2014.03.17

段原クラブは今、とても弱い！！です。
まずピッチャーのコントロールが無い、キャッチャーが盗塁を刺せない、守備でイージーミスをする、盗塁に思い切りがない、そして一番の問題はバッティングです。段原クラブの方針であるストレートに振り負けない（遅れない）がまったく出来ない、バッターとして最も悪い。ストレートに遅れ、変化球に泳ぐというヒットが出る可能性の無い状態に全員がなっている。
バッターはまずピッチャーの一番速いストレートを遅れずに打てるかどうかが最も大事な能力です。それが出来なければピッチャーには勝てません。要は間に合わなければ打てる可能性は無いということです。　自分の体の中（ベースの上）にボールが入ってきたらバッターの負けなのです。そのためにコンパクトな速いスイングが必要になります。そしてタイミングの取り方がとても重要です。どんなに綺麗なフォームを身に付けてもタイミングが取れなければヒットは打てません。ここが中々指導で伝え難い所です。自分で考え、試し、工夫し構えからテークバック、ステップ、足の使い方など自分自身でどうすればピッチャーの速いストレートに遅れないタイミングでスイング出来るのか身に付けなければ打てる日はやってきません。ピッチャーでないような相手から大きな当たりを打ち勘違いし満足していては上達は望めません。とにかく速いストレートを打ち返せなければ始まらないのです。バッターとして成績を残すために最低限必要な事です。より一層の工夫と努力を望みます。特に昨年から試合経験を積んでいる中心選手（大事な試合には必ず先発で出る選手）はもっともっと練習で苦しむべきだと思います。試合に出られる分けですから当然です。
指導者としても選手の先の野球人生の為に、より一層厳しく接していく必要があると感じます。１４０㎞/h のストレートをしっかり打ち返せる、スピード負け、力負けしないスイングを身に付ける事が私は学生のバッターにとって最も大事な技術だと思っています。それが出来て次のステージに上がれると思います。ピッチャーのアウトコース低めに投げる技術と同じ、技術の基本だと思います。これからも段原クラブはその技術を 目指して努力していきたいと思います。

第９０話/2014.03.10

段原クラブは野球のクラブチームです。
保護者がグラブチームに求めているものは何なのでしょうか？最近わからなくなってきました。学校では勉強と団体生活のルールを学びます。塾でテストの点の取り方を学びます。グラブチームに礼儀や挨拶、言葉使い、精神的なものを求めたら親は何をするのでしょうか？お金と食を与えるだけですか？
私は野球のクラブチームはひたすら技術を身に付ける場所だと思っています。試合で結果を出すための技術、高校野球で通用する技術、もっと言えば本物の考え方と技術を少しでも多く自分の物にするための場所であり、指導者は正しい事をひたすら教えるのが仕事だと思います。礼儀が挨拶や言葉使いなどは、親の仕事だと思います。先生、親、クラブチームの指導者は役割がちがうはずです。それぞれが責任をもって自分の仕事を子供のために全うするべきです。それでも最後は本人の努力です。確かに持って生まれた能力には差があります。努力だけではどうにもならない差がある事もわかっています。しかし言い訳はチーム一練習してからするべきです。
私の経験ではチーム一練習した選手は必ずレギュラーになっています。大体たいした努力もしない選手や親がよくグチグチ言うものです。アマチュアで結果を出すのは練習です。それも小学

生の時からの積み重ねです。小学校の時、まともな練習をしていないとそれだけでハンディを背負います。チーム・指導者選びは大事だと思います。

第８９話/2014.03.03

小さい頃にかかった事があるかもしれないが、記憶の中では初めてインフルエンザに冒されました。

熱が３９，４度まで上がり体中が痛く本当に苦しい思いをしました。今までは予防接種を毎年していましたが、今年はサボったばかりにこんな事になりました。「誰でも出来る事を当たり前にやる」子ども達にいつも言っている私が手を抜いた罰が当たりました。反省です。

それにしても自分の体のポンコツぶりを今回つくづく感じました。自分が思っているよりは子ども達と野球が出来る時間は残り少ないように思います。次の世代に出来るだけ早く技術、考え方、練習方法など伝えておかなければと思いました。

３月１日（土)、２日（日）山口ミラクルズの招待大会がありました。２日間で４試合行い運よく優勝する事が出来ましたが、昨年秋からの各個人の課題はまったくクリアされておらず私の眼からだとチーム力は落ちているように思えました。不満だらけです。

相変わらず不用意に四球を出すしランナーが出るとオドオドする投手陣、投手をリード出来ず盗塁を刺せない捕手、イージーミスをする内野手、牽制球でアウトになるランナー、チャンスで内野フライ、三振を繰り返すバッター、ストレートを狙っていると言って振り遅れるバッター、明らかに変わった力を見せてくれた選手は２人だけでした。練習で出来ても試合で出せなければそれは身に付いているとは言えません。勝負は頭です。バッティングは打てるボールを打つかどうか、甘いボールを１球で確実に打てるかどうか、そして状況判断です。守備は予測と準備、ピッチングはボールに心を込められるかどうかです。練習で徹底的に技術を追求し、試合では思い切って自信を持ってそれを１００%出す。自分のやってきた練習を信じて堂々と胸を張って自分の力を発表するのです。段原クラブは正しい練習をしているので、それが出来れば負けるはずはありません。自分を信じられるまでひたすら練習するしかありません。オドオドするのは自分が納得出来るまで練習していないからです。グランドで誰に臆することなく正々堂々とプレー出来る選手になって欲しいと思います。

第８８話/2014.02.25

２月２１日（金)、２２日（土）私は大阪で行われた日本プロ野球機構のプロ野球公認指導者養成講習会に行ってきました。

法律・地域社会との関係・少年の体・心理・栄養・メディカルコンディショニング・フィジカルコンディショニング・野球指導者に必要な医学・ドーピングなど２日間で約１２時間の講習を受けました。今まで野球の事ならある程度わかっているつもりでしたが、初めて聞く内容ばかりでとても価値ある時間でした。今まで間違った事も多々あり正しい知識が指導者には必要だと実感しました。特に肘の故障は１００%近く、小学生の時に軟骨の骨折をした事が原因だそうです。小学生の指導がその子の野球人生を大きく左右してしますのです。前から思っていましたが小学生は試合が多すぎます。もっともっと先を見た育成が必要だと本当に感じました。

段原クラブでは入部時に肘の検診をし軟骨の状態を調べ指導につなげていこうと思います。プロ野球選手としてトップの野球を経験してきました。しかし子供達の指導は別の物です。長く野球人生を送るための手助けをするため、特に体を守ってあげなければいけません。私たちの時代は、とんでもない非理論的な練習をしてきました。たまたま体が大きく、強く、丈夫で上手く手を抜いて故障をせずにプロ野球選手になれました。しかし、１０年のプロ野球人生の中で肘、肩を故障し、最後に膝を壊し野球人生を終えました。ケガで野球が出来なくなる子供を出してはいけません。ケガはスポーツに付き物だとよく言いますが、防ぐ方法がたくさんあります。まず、小・中学生の時、勝つ事にこだわらない事です。食事、睡眠、正しいトレーニングで体を強く大きくし、正しく故障しにくい投げ方、打ち方を身に付ける事が大事です。練習時間も考える必要があります。「子供は大人のミニチュアではない」この言葉をしっかり頭に入れて目の前の結果にこだわる事なく、本来のスポーツである野球を１日でも長く楽しめるように子供達を指導していこうと思います。

小学生の指導者の皆さん、勉強しましょう。小学生の肘の故障は一生ついて回るのです。治ったように見えても必ずその後、選手を苦しめます。責任とれますか？

それから面白いデータがひとつ。アンダー１８才の日本代表投手の８割は中学生時代軟式野球経験者だそうです。このあたりにも故障との関係があるように思います。私も中学時代は軟式野球をやっていましたが、高校入学時、何のハンデも感じませんでした。逆に硬式野球は「なんと簡単だな」と思った記憶があります。高校で野球をやるために早くから硬式でやった方が良いという事はデータで見ても経験からも根拠はありません。問題は軟式か硬式かではなく正しい練習をして体と心を故障しない事が大事です。

第８７話/2014.02.17

よく伝統という言葉を野球チームに使います。

だいたい良い意味で使われているし、強いチームに使う事が多い。私の高校時代には名電は打力、ライバルの中京は守備力というようなチームの伝統がありました。ただ良い事ばかりではなく、例えば学校の食堂に１年生は出入り禁止とか、洗濯機を使えないなどくだらない伝統も多くありました。（本当にくだらない）チームや選手のために良い事は伝えて続けていくべきだと思う。しかし良くない事は出来るだけ早く改めるべきだと思う。

段原クラブでは、もちろんフルスイングする事、自分達で考えて野球をする事、一人で練習出来る事、出来るだけ全ての学年が同じ練習を一緒にし、上級生の技術、取り組む姿勢を下級生に伝える事などが伝統だと思っています。

３年生は９月に試合を終えます。もちろん受験もありますが、１０月以降は出来るだけ練習に出て下級生に今まで自分達が身に付けた技術、考え方を毎年伝えてきました。過去の卒団生達は全員とは言いませんが、本当に良くチームのため、後輩のため、そして自分にために練習に出て力を貸してくれていました。試合が終わりプレッシャーから開放され結果を欲しがったりしなくなり、本当に自分のために自分で思い、必要を感じてチームや後輩や自分のために練習すると上達します。１０月～３月までが３年生が一番伸びる時なのです。自分達が１、２年生の時には３年生にお世話になったはずです。受けた恩は忘れてはいけません。感謝の心がチームを強く大きくしていくものだと思います。そして自分自身も魅力ある選手、人間にしていくものです。

自分以外の誰かのために何かをする。野球に通じる何かを感じませんか。私はよくプレーには人間性が出ると子供達に言います。練習で技術を鍛える事はもちろん大事です。受験勉強も大事です。でもそれだけでは人を大きく鍛える事は出来ないと思います。

仲間のためにチームのために、そして自分のために、段原クラブの伝統だと私は思っています。

第８６話/2014.02.10

受験のシーズンです。

県立の選抜Ⅰと私立の推薦試験が終わりました。受かった人も落ちた人もいるでしょうが次もあるし、第一志望の高校に入学したからといって幸せな人生が保証された訳でもありません。私はここ数年、子供達の高校選びに疑問を持っていました。夢や目標や勉強したい事があって選ぶのではなく、３年生の成績でこの点数ならこの高校だとかそんな基準で選んでいるように見えます。

こんな野球がしたいからとか、こんな勉強がしたいとか、そんな思いで高校を選んでいないように思います。私は小学生の頃からプロ野球選手になる事が夢でした。そのために県内で一番強い高校に行こうと思っていました。愛知県なので中京高校（現 中京大中京）です。

中学２年生の担任の先生から学年２５０人の中でテストの成績が５０番以内でなければ受からないと言われたので、それまであまり勉強していませんでしたが３年生になった時には３４番までなりました。（本当はそれ程の成績はいりませんでしたが・・・）

中京で野球がしたいという目標があったから勉強をしました。現実にはいろいろな縁で名古屋電気高校（現 愛工大名電）に入学しましたがある程度勉強していたおかげで高校では野球に集中する事が出来ました。高校の授業についていくのがやっとでは野球どころではありません。出来るだけ早く夢や目標を持って、そのために勉強も野球も頑張って欲しいと思います。

クラブチームで野球をやっているからといって勉強をおろそかにしていいわけありません。練習の無い日もありますし、時間はあります。やる気があるのか無いのかの問題です。受験直前になってジタバタしても遅いのです。野球と同じで日々努力していなければ良い思いは出来ません。どちらもやった者勝ちです。そうはいってもまだこれから試験を控えている人は精一杯努力して下さい。

１、２年生は３年生になって慌てないように、今から目標を決めて１日１日それに向かって努力する事です。野球も勉強も「継続は力なり」です。選手の一番大事な素質とは、毎日毎日努力し続けられる精神力と体力だと私は思います。今年の段原クラブにはそんな選手がたくさんいます。練習に行くのが楽しみなチームになっています。

新１年生もそんな選手に入ってきて欲しいと思います。そして楽しく野球がしたいです。

第８５話/2014.02.03

冬季オリンピックが始まります。

先日テレビで女子のアイスホッケーチームの特集を見ました。長野オリンピックは自国開催のため出場出来ましたが、それからは全て代表決定戦で敗れていたため今回強化のため、２大会連続で金メダルを取ったカナダ代表の選手をコーチに招いたそうです。そのコーチが最初の練習の

時に「日本の選手はなぜ笑わないのか」と言ったそうです。「アイスホッケーが好きだからやっているのではないか？」「そもそもスポーツは楽しむためのものではないのか？」と、とても楽しんでいるようには見えなかったそうです。

日本のスポーツは学校体育が中心で発展・発達してきました。その中心には教育（修行）があります。野球も同じように学校や軍隊が体力の向上や精神力を鍛える手段として使われてきました。

今でも特に学生野球は、スポーツとして楽しむよりも修行をしているような部分が多く残っています。練習中や試合中の笑顔は不謹慎だと思われがちです。私も最近までは、そんな考え方が強かったように思います。当然集中せず、無駄話をしたり、手を抜いたりする中での笑顔はあり得ません。そんな状況で上達はしません。

しかし、考えて下さい。中学生は野球が大好きでほとんどの選手が小学生の時からやっています。まず好きな野球をしているのです。そして段原クラブは好きなポジションを自分で選んでやっています。好きな事をやっているのに楽しまないのはおかしいです。苦しい事も練習の中には当然あります。それも自分の技術、体力を上げて試合で楽しむためのものです。自分自身で選んだスポーツ、チームです。苦しい事も含めて楽しんで欲しいと思います。段原クラブはそういうチームを目指していこうと思います。そしてなれると思っています。

先週も何人か、６年生の体験が来ました。本当に取り組む姿勢の良い子ばかりでありがたいです。

こういう子供達なら ぜひ一緒に野球をしたいと思います。入部してくれたら強くなりそうで楽しみです。今の１，２年生もよくやっています。みんなで競争です。うまくなりますよ！！

第８４話/2014.01.27

先日、学生野球資格回復者に認定されました。

どういう事かというと今まで約５０年間プロ野球経験者は教員免許をとり２年間、教壇に立たなければ高校生の指導が出来ませんでした。私は高卒なので一生ダメでした。しかし、何年もプロ野球側と学生野球の関係者が話し合い、歩み寄りやっとプロ野球機構と学生野球協会両方の研修を受けレポートを提出し認定されれば一定の手続きの後、高校生、大学生の指導が出来るように規則が変わり、私は研修を受け認定されました。過去にいろいろな問題があり断絶していた関係がたくさんの関係者の方々の努力により修復された事を感謝し喜んでいます。

これからのプロ野球ＯＢの方々がお金のためではなく純粋に学生達のために力を尽くす事を望みます。今までの努力を無駄にする事のないようにしなければいけないと思います。

私は現実には段原クラブの監督をしているので、なかなか学生を指導する機会は無いと思いますが、なぜこの研修を受けたかというと、知らない事を勉強したかったからです。自分がプロで野球をやっていたのは２６年前です。それから理論も練習方法もケアの仕方も全ての事が進化、進歩しているはずです。子供達の指導に携わっている以上、最善、最上の物を提供する責任があります。今までもいろいろな講習会に出たり、先輩方にアドバイスを頂いたりして勉強してきたつもりですが、野球の技術に絶対はありません。子供達のために指導者は子供達以上の努力が必要だと思います。昔野球やっていたからとか、元プロ野球選手だったからという理由、ましてや時間がありから、野球が好きだから程度で子供達を指導していては失礼です。２月にもプロ野球機構の公認指導者養成講習会が２日間あります。法、心理、栄養コンディショニング、医学、ドーピングなどさまざまな講習です。信じて段原クラブを選んでくれた子供達のため、チームのた

めに指導者としてスキルを少しでも上げたいと思います。
　１月に入り少しずつ６年生が体験に来ています。みんな楽しそうに手を抜かず一生懸命練習してくれて好感が持てます。ずっと今の気持ちを持ち続けていけば、どのチームでやっても上達します。今体験に来てくれているような選手が入部してくれると楽しみです。これからも一生懸命練習する子は、いつでも誰でも来て下さい。歓迎します。

第８３話/2014.01.20

　寒い日が続いています。
　中々練習をするには厳しい中ですが段原クラブは相変わらずバッティング練習を中心にやっています。とにかく数多く強く振る事を意識しています。６年生の体験が毎週土日、週こど少しずつ来るようになりました。今年は動きが遅く感じていますが、今のところ本当に一生懸命にやってくれて気持ちが良い子ばかりです。私は前からずっと言っているように野球の実力はどうでもいいのです。心の底から野球が好きで、向上心があり、集中して頑張る子と野球をしたいと思っています。
　今、体験に来てくれた子供達とは是非一緒にやりたいと思います。とても気持ち良く楽しい練習が出来て、現役の部員達も刺激になっていると思います。今の気持ちで３年間取り組めば誰でも上達します。これからの中学校生活は色々な誘惑があると思います。それに負けてしまった選手も数多く見てきました。どんな素材があろうと身体を動かすのは心です。思いがなければ目標にはたどり着けません。
　段原クラブはやろうと思っている子はいつでも上手くなれる環境があります。１、２年生も今チーム内の競争をしています。誰が勝ち残るのか監督としてとても楽しみです。
　野球大好きな６年生、いつでも体験に来て下さい。待っています。

第８２話/2014.01.15

　１２日（日）西協議会の理事会及び新年会がありました。
　本年度の役員、大会日程などが決まり、今年も始まったなと思いました。私は理事会の席で保護者の方が審判をする事が多くありますが、各チームで練習して頂いてレベルアップをお願いしました。段原クラブでは練習の中に入って頂いて保護者の判定の練習を常にしています。なぜかというと子供達のためだからです。私達指導者は子供達に厳しく接します。そして子供達は頑張ります。大人も負けないように努力する必要があると思います。今まで何度も試合の中で子供達は辛い思いをしてきました。出来るだけそんな事のないように皆さん練習して下さい。
　日曜日は南原の中電グランドで練習でした。寒さはある程度予測していましたが、グランドが凍っていてそれが解けて大変でした。子供達の昼食時に指導者、保護者が少しでもと思い、砂を運んだり、水を取ったりしました。いつもの事ですが、チームのために動いて頂ける保護者の方々には本当に感謝します。それに引き換え一部の選手には毎度がっかりさせられます。昼食後のアップは各自でやります。次の練習メニューも開始時間も伝えてあるのにダラダラ、立ち話、ろくに動きもせず練習に入ればミスを繰り返す。野球が好きだとか、上手くなりたいとか言うのに努力はしない。不思議でなりません。あなた達が昼食を食べている間、グランド整備をしてい

る大人を見て何も感じないのですか？野球をする以前に人としてダメです。絶対上手くなりません。今、盛んに言われている体罰禁止それはあなた達を人間として認めているからです。言葉や態度で伝わると思っているからです。まず人として感じる心を持ちましょう。必ず野球につながります。もちろん自分のための野球ですが誰か他の人のために頑張るのも必要です。

第８１話/2014.01.06

２０１４年のシーズンが始まった。

１月２日に恒例のＯＢ戦があり、今年もたくさんのＯＢ、保護者の皆さんと１日楽しく過ごしました。現役の選手・保護者には準備から片づけまでお世話になりありがとうございました。練習は１月５日（日）スタートしました。休みの間、しっかり練習していた者とそうでない者の差がはっきり出ていました。私がいつも子供達に言っている事、自分の為に野球をするのです。手を抜けば全て自分に帰ってきます。痛い目に合うのは自分自身なのです。私の仕事は、全力で頑張っている選手を応援し、技術を伝え、上達させ次のステージに上がるお手伝いをする事です。頑張らない選手を上達させる力はありません。

段原クラブが目指している野球は、選手自らが考え、自ら行動し投手と打者の１対１の勝負を楽しむ野球であり、個人の能力を伸ばし次のステージ（高校野球）で堂々と野球が語れ、出来る選手になって欲しいと思っています。野球はよく団体スポーツ、チームプレーが大切だと言われます。それは勝つための野球にはある程度必要だと思います。しかし段原クラブではあくまでも個人の能力にこだわります。基本的能力である打つ、捕る、走る、投げる、この力を伸ばす事に今年も取り組みます。その中で自ら考えて、試合の中で野球脳を鍛えて欲しいと思います。

１対１の力勝負が出来る投手、打者がたくさんいる事を望みます。楽しみです。広島の高校野球も甲子園にでる野球ではなく、もっと基本的な力を付けるべきだと思います。今のままだと全国に取り残されます。

話は変わりますが、私が安佐南郵便局で午前中働いています。年末年始年賀状のシーズンアルバイトで高校球児が毎年来ます。Ｋ陽東の野球部の生徒のいい加減さに呆れました。時間は守らない、仕事中の私語が多い、本当にいい加減な生徒がたくさんいました。ここ数年勝てない理由がよくわかります。何のために野球をし、野球から何を学んでいるのでしょうか？お金を頂くのですよ。指導者は何をしているのでしょうか？野球も弱い、人間性もダメ、やりたくないのに無理やりやらされているのならやらない方がいいです。迷惑です。段原クラブの選手があのような選手にならないようにしっかり話をしたいと思います。

第８０話/2013.12.23

１２月２１日（土）２２日（日）の２日間、大阪で学生野球資格回復研修会がありました。

何かと言うと過去５０年間、元プロ野球選手は高校、大学生の指導が制限されていました。それを無くして出来るだけ指導出来るようにしようという制度に改正され、そのための資格を回復するためにプロ野球側の研修を１日、学生野球側の研修を２日計１５時間の研修を受ける必要がありました。高校時代以来の座学で少々大変でしたが、どの研修も興味深い内容で学生野球の考え方や関係者の思いが強く伝わり充実した２日間でした。

よく言われていたプロとアマの断絶は１００％プロ野球側に問題がありました。選手の引き抜きや裏金問題などです。やっと関係者の方々の努力のお陰で扉が開きました。しかし本当に大事なのはこれからだと思います。学生野球でお金を得ようとするＯＢがいない事を望みます。関わり方にもよりますがせっかく出来た制度です。キチッとルールを守って学生野球の発展のために協力していく姿勢で全員が取り組んで欲しいと思います。私達プロ野球経験者にとっても学生野球関係者にとっても歴史的な出来る事です。後は使い方です。長年尽力されて頂いた方々に心から感謝します。

本当にありがとうございました。私はもちろん出来る事があれば是非協力していきたいと思っています。

話は変わりますが、１月２日毎年恒例のＯＢ戦が渕崎グランドで行われます。ひとりでも多くの OB、保護者の参加を楽しみにしています。現在野球をしていてもしていなくても同窓会のつもりで来て下さい。懐かしい仲間と思い出話に花をさかせましょう。試合後はフルスイング塾で打ち上げも用意しています。

平成２７年度はいよいよ段原スポーツ少年団、段原少年野球クラブ２０周年です。来年度中に案内させて頂きます。その連絡先の確認のためにも沢山の参加待っています。

第７９話/2013.12.16

よく素質、素材という事を聞かれます。

「プロ野球選手になるためには、努力だけでなく素質がなければダメですよね」とか「鈴木さんは体が大きかったのでプロ野球選手になれましたけど、私は小さかったのであきらめました」などです。では、小さなプロ野球選手はいないのでしょうか？そして小さくてダメだった方、私より練習したのでしょうか？

野球はストライクゾーンが体の大きさでちがいます。ゴロは地面を転がります。たしかに投手は背が高い方がボールに角度が付きますので有利だと思いますが、小さい選手でもチームのために出来る事がたくさんあるのが野球だと思います。言い訳をしている人達は間違いなく大した努力もせず逃げています。最低限まずチームで１番練習してみて下さい。１年間毎日毎日１番多く、長く、そして内容のある練習をして下さい。必ずレギュラーになれます。人間は思い通りにならない事があるとたいてい自分の責任にせず他人のせいにします。野球で言えばチームだったり、指導者のせいにします。試合に使ってもらえないなどと言います。簡単な事です。チームで１番練習すれば良いのです。試合は使ってもらうのではなく監督に使わせるのです。大した努力もせず、苦しい事から逃げて他人のせいにして不平、不満を言っていてはとてもプロ野球選手どころか、チームのレギュラーにも当然なれません。

私が思う素質とは毎日毎日正しい練習を続けられる事「継続は力なり」です。体が小さいとかグスグス言っている暇があったら動け、考えろ、走れ、バット振れ、体を強くしろ、柔らかくしろ、スピードを上げろ、その他やらなければいけない事は山のようにあります。

私は２０年以上子供達を見てきていますが、チーム１練習した選手が試合に出られなかった事はありません。確かにプロ野球選手になれる確率はほぼ０に近いです。そしてその中で食べていける選手はもっと少なくなります。

野球は一生出来るスポーツです。そして日本の文化です。本気でやった者だけが次の世代に伝えるべきだと思います。長く長く野球に関わっていける選手がひとりでも多く段原クラブから出

てくれれば幸せです。

第７８話/2013.12.13

私は中学、高校の時、監督の事を嫌っていました。
プロ野球選手の時はトレーニングコーチの事が嫌でした。ずっと父親の事も嫌っていました。それは私の嫌な事、厳しい事をはっきりと言われるからでした。サボった時、手を抜いた時に怒られる、怒鳴られる、そして叩かれたからです。でも今は全ての方に心から感謝しています。野球を続けられたのも、プロ野球選手になれのも、私のために心から怒って頂けたからだと思っています。
野球を辞めたいとと思った時も本気で止めて頂きました。子供心とはいえ、反発していた事を申し訳なく思っています。
段原クラブを作り監督になった時から私は子供達に嫌われることは覚悟しています。子供達が嫌がる事うっとうしく思う事、厳しい事を言わなければいけないからです。それが監督の仕事のひとつだと思っています。親という立場も同じ事だと思います。
私と子供達は縁あって同じユニフォームを着る事が出来ました。段原クラブを選んでくれた子供達を高校に送り出す時に、困らない技術と考え方を身に付けてもらう責任があります。
当然それを望んで入部したものだと思っています。そのためには嫌われても言わなければならない事、しなければいけない練習があります。全ては選手のためなのです。コーチには子供達のクッションになってくれるようにお願いしています。指導者も親も子供達の敵ではありません。味方（仲間）なのです。嫌われてもうっとうしがられても言わなければいけない事は言います。なぜなら君たちが好きだからです。大切だからです。
この冬はチーム内競争です。勝ち残ってレギュラーを取りましょう。全員にチャンスがあります。とても楽しみです。

第７７話/2013.12.03

１２月に入りました。
今シーズンの試合も終わり、来春に向けてチームは再スタートです。３年生は２番手投手の故障からチーム力は半減してしまい、苦しい試合が続きました。今年のチームモットーである「チーム一丸　俺達は出来る」はずの力を全て出せずに不完全　燃焼に終わったように思います。私の思うチーム一丸というのは学年関係なく選手、保護者、　指導者が同じ方向に向かって協力し努力するということです。その点では物足りなさが残りました。もったいない一年だと思いました。
２年生は１０月から本格的に新チームに移行し短い期間にたくさんの試合がありました。予想を上回ったのは投手です。１イニングやっとだった投手がなんとか試合を作れるようになりました。今の時期、経験からすればよく頑張ったと言えます。バッターの方は力を出せていません。練習ではある程度のスイングは出来ます。しかし試合では出せません。力がないのか？あるのに出せないのか？どちらにしてもこの冬練習するしかありません。
私が子供達にいつも言っている事、当たり前の事を当たり前にやる。たとえば投手はストライ

クゾーンに投げる、バッターはストレートに遅れないで打つ、そして全力で走る、大きな声　を出す、カバーをする。まずこれが出来なければ次のステージには上がれません。試合に勝つ　テクニックはプロ野球選手になってから覚えれば良いのです。

アウトコース低めにストレートをいつでも投げられる投手、相手投手の一番速いストレートに振り遅れない打者、段原クラブが目指しているのはこの２点です。この２つが出来て状況判断が出来れば負けません。ストライクゾーンのストレートでバッターを抑える、そして速いストレートを打ち返せる。これが出来ればプロ野球選手になれるのです。逆に言えばこれが出来なければなれないのです。この冬は単純に個々の力をつけるための練習をしたいと思います。野球はチームプレーとよく言いますが、ピッチャーとバッターによる１対１の勝負の繰り返しです。その楽しさを選手達に伝えて行きたいと思います。

「３年生の諸君、先輩に伝えてもらった事を後輩に伝える事なく卒業していくのですか？私は人のために動けない人間が高校受験を勝ち残れるとは思いません。」

第７６話/2013.11.25

２３日(祝)三原浮城の１０周年記念大会に招待頂き２試合させて頂きました。

両試合ともサヨナラ負けをしました。負けることはかまいません。公式戦ではないのでいろいろな選手を試します。今出来る事と出来ない事を指導者と選手が確認するために練習試合や招待試合はあります。１１月に入ってずっと試合が続き、しっかりとした練習が出来ていなかった事や開会式から試合会場に移動し、まったくウォームアップする時間をもらえなかった事、主審が試合を急ぐあまりとんでもなくストライクゾーンが広かった事など力を出せなかった原因はいろいろと考えられます。また、大人の都合で子供達に迷惑を掛けました。

毎度毎度なぜ子供に関わっている大人達は子供達の都合を優先しないのだろう、なぜ試合を少しでも早く始めて、早く終わろうとするのだろう。まったく理解出来ない。用事があるのなら来なければいいのに。いつも思う事ですが、誰のために大会があるのだろう。大人の見学のため？子供達のためです。朝からとてもいやな思いをしました。しかし、そんな事を差し引いても段原クラブの試合は淋しい内容でした。失礼な言い方ですが、試合相手は明らかに格下でした。普通にやれば負ける事はありません。今の段原クラブの選手達は素材に恵まれていませんが、努力を重ねて少しずつ力をつけてきました。投手も小学校の時投げていた選手はいません。心を込めて集中するとある程度の力を出せるようになってきました。

今年のチームに一番必要な集中力！本気で勝ちたいと思う気持ち、これが全く伝わりませんでした。県大会で優勝した事で満足してしまったのか、理由は良くわかりませんが一日をもったいない使い方をしてしまいました。野球の技術に頂点はありません。いくらでも上があります。

勘違いしていた選手がいたとすれば良い勉強になってくれればと思います。少しでも気を抜くとどこにでも負けてしまう。まだまだ本当の力はついてないのです。二度と一日を無駄にしないで下さい。野球が出来る日数には限りがあります。８０％の選手が高校３年生で野球人生を終えます。少しでも長く続けるために１日を大事にしてほしいと思います。

失敗してもかまいません、それを力に変えましょう！！

第７５話/2013.11.18

１６（土）１７日（日）府中オーシャンズの招待試合がありました。
Ａチームは１日目２勝しＡクラスに残り２日目は準決勝大野クラブと１対１の引き分け抽選で負けて３位になりました。１年生中心のＢチームも４チームでの交流戦に参加させて頂き２日間で３勝１敗と大健闘しました。私はＢチームの監督をしたのでＡチームの内容は良くわかりませんが、スコアブックやコーチからの話を聞くとピッチャーは良く頑張ったようです。
今年の大野クラブのバッテリーの力が抜けています。この２人に勝てなければチームも勝てません。ピッチャーのストレートに力負けせず打ち返す、キャッチャーのバッティングを押さえる、この２点が選手として高校野球で活躍出来るための目安だと思います。その点では、まだまだ力を上げなければいけません。ピッチャーは６回２死まで０点に押さえてきて、ホームランだけ打たれてはいけない場面でホームランを打たれ引き分けました。絶対にあり得ない！！４番バッターです。私が見た中では今年広島で一番のバッターです。何度も対戦してピッチャーもキャッチャーも十分わかっていたはずです。それもカウント２ボールからストライクをとりにいって打たれています。極端に言えば四球でも構わない場面です。ストライクを投げるのならアウトローしかありません。絶対にホームランにならないコースに投げなければいけません。
今まで何度も状況判断を伝えてきました。状況判断とは終わった時どうしたら１点勝っているかを考えて野球をする事です。もっともっとしつこく言い続けなければいけません。残念ながら段原クラブには小学生の時トップチームでやっていた選手がいません。そのため緊迫した１点勝負の経験がありません。１球のミスで負ける事があるという試合をした事がありません。野球の怖さ本当の難しさを知らないのです。１対０や２対１の試合を数多く経験しなければ守備もバッティングもここ１番の力が付きません。５点も６点も入るような試合では上手くならないのです。１球の怖さ、ひとつのプレーの大事さを覚えられません。
秋のうちに経験出来た事はバッテリーにとってもチームにとってもプラスにとらえ財産にして欲しいと思います。お互い刺激し合って広島の少年野球のレベルが上がっていく事を望みます。Ｂチームは対戦相手に比べて体重が半分ぐらいの選手達が本当に良く食らい付いて頑張ったと思います。特に宮田の活躍は素晴らしく感心しました。Ｂチームに腐る事なく守備もバッティングもチームを引っ張ってくれました。たぶん２日間で４試合フルに試合に出たのは人生初だと思います。最後はバテていました。Ｂチームの選手、ひと冬越して体に力を付けＡチームの選手を脅かして下さい。それがチーム力のアップにつながります。私は勝つ事を目的にやっていませんが、勝つと楽しいのは事実です。いつも言っているように当たり前の事を当たり前にやれば終われば勝っています。しかしそれが難しい。
最後に府中オーシャンズの皆さん２日間２チームで８試合もさせて頂き本当にお世話になりありがとうございました。これからも宜しくお願い致します。

第７４話/2013.11.11

１１月９日（土）、１０（日）広島県軟式野球連盟少年部新人戦県大会がありました。
雨に恵まれて相手投手が崩れてくれたラッキーもありましたが全員の力を合わせて優勝することが出来ました。審判、グランド作り、応援、たくさんの保護者の方の協力がありました。ありがとうございました。特にケガをしていて試合に出る事が出来ない選手の保護者も協力して下さいました。私がいつも言い続けているチームの為にチームに協力する、チームを応援するという

事をして頂きました。選手、指導者、保護者が同じ方向を向いた時、チームは最高の力を出します。そんな大会だったように思います。

２年生のみんなは覚えているかどうかわかりませんが、あなた達がまだ６年生の時体験に来た日が雨でフルスイング塾での練習になった時に「今日体験に来ている子供達が段原クラブに入部したら県大会で優勝出来るよ」と私は選手に言いました。その日の選手が全員入部した訳ではありませんが、私はその日の選手から可能性を感じました。見る目が間違っていなかった事と、やっている練習、指導が正しい事を証明出来て良かったです。

サインが無くても、スクイズやエンドランを１度もしなくても試合に勝てるのです。もちろん勝つための練習、勝つための作戦をし、選手をベンチの操り人形のように動かした方が勝つ確率はいいのかもしれません。インコースのボールを避けないで当たった方が勝てるのかもしれません。しかし段原クラブではしません。あくまでピッチャーとバッターの１対１の勝負にこだわります。バントも盗塁も自分の意思で出来る選手を目指します。そしてピッチャーを壊しません。今大会も２日間で４試合全て違うピッチャーが先発しました。まだ２年生、無理する必要はありません。今大会はたまたま運よく勝つ事が出来ました。選手達も保護者もその事は素直に喜んでいいと思います。しかし、ピッチャーのコントロール、ベースカバー、変化球、体力、キャッチャーのスローイング、ショートバウンドのストップ、外野の守備、中心打者のチャンスでの打撃、たくさん課題があります。２年生は努力します。チーム内の競争もあります。もっともっと成長出来る環境です。特にピッチャー８人、背番号１を来年の春に決めます。。全員にチャンスがあると思います。レベルの高い争いを望みます。チーム力は投手力、楽しみです。

今大会でバント失敗なし、チームとして練習しなくても各自の意識で出来るようになりました。中継プレーでピンチを救ってくれた石飛、難波、竹田、ありがとう、最高のプレーでした。平日黙々と基本練習を繰り返し練習していた成果が出ました。これからも基本を大事に練習して下さい。

全員、奢ることなく上を目指しましょう！！

第７３話/2013.11.07

１１月４日（祝）山本浩二旗大会がありました。

マツダスタジアムで小・中学生のチーム約７０チームが集まり開会式、昨年と同様に前日の雨で試合をさせてくれないと思っていましたが、今年は大丈夫だったようです。当然です。市民球場なのですから、子供達のために少々無理してもグランド整備をしてジャイアンツ戦の時のように試合出来るようにするのが当たり前です。

もう一度言います。市民球場だし、市民球団なのですから。プロ野球界の先輩 80’ホークスの山内和宏さんと大先輩の山本浩二さんに挨拶させて頂き、開会式を終えました。

段原クラブは今年も渕崎グランドの当番で、朝早くから保護者の方々には、グランド作り（前日の雨で大変でした)、掃除、ホームランネット、駐車場案内、審判接待など協力を頂きました。

ありがとうございました。ホームグランドの責任が果たせました。

私は段原クラブを学年で区切るのは嫌いです。常にそういう話をしています。全てが段原クラブの行事で試合です。学年は関係ありません。何度も話をしているのに、この日３年生は半分の６人、保護者は３人でした。ホームグランドでの試合、手伝わないまでも、後輩の試合気にもならないのでしょうか？

結局いつも言っているようにチームより個人、自分の事しか考えられないのです。この考え方が今年の成績に表れていると思います。
今グランドに来ている子供達は、一生懸命にやっています。新チームになり少しずつですが力をつけています。レギュラー争いも白熱していました。この競争がチーム力を上げます。
一冬越した春、どのくらい伸びてくるか楽しみです。

第７２話/2013.10.28

そろそろ３年生も進路を決定する時期になってきました。
私は中学２年生の頃から愛知県に住んでいたので中京高校(現中京大中京)に行きたいと思っていました。理由は簡単です。一番多く甲子園に出ていたからです。そのために野球の力はもちろん必要だし、勉強もある程度頑張りました。
結果的には一番熱心に誘ってくれた愛工大名電に進学しましたが、甲子園にも出場出来ましたしプロ野球選手にもなれました。中学時代の努力が役に立ったと思います。
段原クラブの選手を見ていると夢や目標が小さく見えます。３年生になって成績を見て高校を考えています。それでは自分に妥協します。苦しい時に頑張るモチベーションがありません。
男の子は大きな夢を持って人から何を言われようとがむしゃらに向かっていく姿がカッコいいと思います。実現出来なくてもいいのですが、努力し続けていく過程が選手を技術的にも人間的にも大きくするのです。男は家を出て独立しなければなりません。
そのため野球というスポーツを通じて心と体を鍛えます。そのお手伝いを私はしていると思います。だから厳しくもなります。選手のためだと思うからです。野球で飯を食える人はほとんどいません。プロ野球選手になるだけでも、ほぼ不可能です。甲子園に出ることもとても難しくてもです。でも夢を追う価値があります。
野球は男の子を大きくする事が出来るスポーツです。とても難しく複雑です。これでいいという所がありません。だから楽しいのです。やりがいがあります。小さな体で大きな夢を持って努力し続ける選手と野球をやりたいです。私は精一杯持っている力を注ぎます。
段原クラブが夢を持った子供達で一杯になる日が来ると良いな～。

第７１話/2013.10.21

新チームとして活動して初めての大会がありました。
２試合勝って決勝で負けました。３試合出来た事でピッチャーを全員試す事が出来ました。段原クラブではポジションを自分で決めます。２年生はピッチャーを希望している選手が７人います。しかし一人は学校の水泳の時間にケガ、もう一人が１塁の牽制球でランナーと接触してケガ、今投げられる選手は５人です。なんとか打順一回りを抑えてくれるようにこの秋になって欲しいと思っています。
今のところこの基準まで来ているのは一人、なんとか試合を作ってくれるようになりました。後の４人はまだまだ四死球が多すぎます。投手はコントロール、スピート、変化球まずこの３つが必要です。自分はどれで勝負するのか、どんな投手になりたいか、なれるのか、目指している投手像が見えていません。まず自分をよく見て、はっきりしたものを決めることです。そしてそ

のための練習をするべきです。一段ずつでかまわないので確実に力をつけて欲しいと思います。自分でピッチャーを希望したのですから常にマウンド上で生き生きと嬉しそうに楽しそうに投げて欲しいと思います。

チーム力は投手力、あなた達の成長なくしては段原クラブの勝利はありません。１人だけがグランドの高い所に上がる資格はチーム一努力した選手に与えられるものです。みんなで背番号１を奪い合って勝ったものが春からマウンドに上がる事が出来ます。楽しみです。

バッティングは体に恵まれない選手が多いので、とにかく振る力をつける事が必要です。この秋、冬の段原クラブの決まり事！１日５００スイング！！

高校野球をやる気があるのならやるしかありません。普通の体、普通の素材の選手が結果を出す方法は、正しい事を数多く、それも全力で集中してやる、これしかありません。

勝ちたければやる、やらないのなら辞める、クラブチームとはそういう所だと思います。

第７０話/2013.10.15

９月末から本格的に新チームが始動して初めての大会が１４日（祝）にありました。

旧チームの失敗を繰り返さないようにまず私が変わり、本気で向かって来る選手だけでチームを編成して、ここ２年程甘くなっている指導者、選手、保護者の考え方を変えていこうと思い、まずは今まで最上級生になれば全員ベンチに入れていた事をやめ、試合の戦力にならない選手は練習に残すという事をやろうと思っていました。特に１日１試合しかない場合は、２０人ベンチに入れても試合に出る事のない選手が必ずいるので残って練習をして少しでも力をつけた方がその選手ためでもあると思っていました。

今、２年生は１８人います。明らかに力の差がある選手もいます。２日前までは残そうと思っていました。しかし結局全員ベンチに入れました。

何度も何度も考えました。私は勝負事にはやはり向いていないようです。今年の２年生は力に差はありますが練習は一生懸命にやります。土曜日も日曜日も本当に声を出し、活気のある良い練習をしてくれました。私の望んでいる野球の大好きな子供達と夢に向かって一途に努力する事が新チームになって少しずつ出来てきました。練習が楽しくなっています。選手一人一人の顔を見ていて、とても残すとは言えませんでした。何が正解なのか私には判りません。試合に出られなかった選手も出た選手も午後からの練習に集中してやってくれました。今の姿勢が最後卒業するまで全員続いてくれる事を望みます。チーム内の競争の中で必ず力がつきます。

３年生の中には野球から心が離れてしまった選手がいます。２年生は入部してからひとりも退部者がいませんし、是非今のまま私が楽しくてしょうがない週末を過ごせるように頑張って欲しいと思います。

第６９話/2013.10.07

今日７日（月）、たまたま休みだったので高校野球秋の県大会決勝を見に行きました。

まだ新チームになって経験が少ないのでミスの多い試合でした。私がいつも言っているように技術的なミスは未熟なので仕方ありません。しかし考え方の間違いはいけません。

新庄が４点リードしているのに、四球や死球を出してはいけません。０－０と同じようなピッ

チングをしています。点差があればダブルプレーもいりません。そういうミスで終わったら５－３になっていました。点差をしっかり頭に入れてプレーしていれば５－１のゲームでした。新庄と崇徳にはもう少し力の差があるように思いました。段原クラブのＯＢ達が中国大会で自分の持っている力を発揮してくれる事を望みます。

チームは土、日２日間４試合練習試合をしました。土曜日は小雨と久しぶりの試合ということでと投手陣は四死球が多くピリッとした所がありませんでしたが、日曜日は２試合で１失点ムダな四死球もなく前日の失敗を繰り返すことなく修正してくれました。タイムリーも出てチーム内のポジション争いが、良い方向に出ていると思います。内野、外野もちろん投手も全員が競争です。

私が望んでいるチーム状況です。仲良しクラブではなく、まずチーム内で勝ち、そして他のチームと戦う、２年生から試合に出ていた選手ものんびりしていられません。チャンスをもらった１年生も結果を出してくれています。ひとりとして安心する事なくピリピリとした練習、試合を続けていけば本物の力がつきます。楽しみです。

第６８話/2013.09.30

２７日(日)午前中に卒団試合を行い午後から卒団式をしました。

３年生にとってひとつの区切りの日になりました。高校野球を目指してこれから半年、より一層の成長するために自分の意志で自分のために練習が出来ます。一番技術を上達させる事が出来る半年間です。３年生全員が夢を追いかけて今まで以上に、自分に厳しく練習に取り組んで欲しいと思います。その姿が後輩、チームの良い刺激になります。

今年はチームも選手も指導者も苦しんだ１年でした。いろいろな事を試したり、工夫したりしましたが、それが中々チームの勝利につながりませんでした。個人打撃成績、投手成績を見ると打撃成績は例年と変わっていません。今まで以上にバッティング練習をした成果は出たと思います。しかし投手成績は過去最低でした。１試合平均失点が４点。去年より１点多く、一昨年より２点多く取られています。失点が４点ということは５点取らないと勝てません。いくら打って大変です。よく５割以上の勝率が残せたと思います。

前にも書いた通り、チーム力とは投手力、数字を見てもその通りだとよくわかります。新チームも投手希望の選手は７名います。しかし今のところ打順一回り抑える事の出来る投手はいません。来年の春までに背番号１を付けるに値する投手が現れる事を期待しています。

私は変わります。ここ２、３年甘過ぎました。もう一度厳しく子供達のためだと信じて嫌われ役になります。選手、保護者の皆さん、覚悟してグランドに来て下さい。

来年の卒団式に選手が半分になっているかもしれません。選手、保護者、スタッフ一丸となって段原クラブを再生させたいと思います。

第６７話/2013.09.24

時々試合の決着をつけるために抽選をする事があります。

封筒だったり、箸だったりを選手９人づつ引いて〇だったり、印がついている物が多い方が勝ちになります。結局試合はこういう事だと思います。たとえばポジションだったり、打順だった

り自分と対する相手に勝った数の多いチームが勝ちます。まれに投手が圧倒的に負けて、他の８人は勝てるのに試合は負けるという事もあると思いますが、私は学生時代、試合の度に自分と同じポジション、同じ打順の選手には絶対に負けたくないと思っていました。ピッチャーをする事が多かったし、打順はだいたい４番だったので私が負けると言う事はチームが負けること、そういう思いで試合をしていました。事実、高校時代の公式戦で負けた試合は私がノーヒットでした。

段原クラブのレギュラーの選手を見ていると、相手チーム、相手の選手に対する闘争心、競争心、そういう気持ちがあまり感じられません。もちろん野球で一番必要なものは技術です。練習はひたすら技術、体力を向上する為に行います。しかし試合では、その身に付けた技術を全て発揮出来なければ意味の無いものになります。そのために精神力、自信や闘争心や集中力などが必要になります。

私はＯＢの選手達から練習中や試合中、優しくなったと最近よく言われます。私の優しさの度合いが強くなるにつれチームに成績が落ちてきました。年をとるにつれて私は自分を守るようになり、嫌われるのを怖がっているのかもしれません。なにが本当に子供達のためになるのか、もう一度原点に戻る必要があるように思います。

２０数年前、子供達と初めて野球の練習をただひたすらに勝ちたいと思ってやっていた頃を思い出さなければ。

第６６話/2013.09.18

３年生の最後の試合が週末にあります。

今年のチームを私は期待していました。中心選手が２年生から経験を積んでいたし、ベンチに入っている下級生とのバランスも良かったのである程度良い結果がでると思っていました。しかし期待とは違った１年間でした。チームを引っ張ってくれるはずの中心選手が大事な場面では力を出せず、ことごとく勝負の試合に負けていました。

今年の初めにも書きましたが、私と３年生は相性が悪いようです。最後、選手には本来の力を出して欲しいので私は遠慮しようと思います。邪魔をする人間がいないので思い切ったプレーをして力を出し切って下さい。

中学３年生の１年間は一番上達すつ時期だと思います。肉体的にぐっと成長するとき、精神的に集中して正しい練習を数多くやれば必ず伸びます。 折角の良い時に野球に集中できない選手が毎年います。入部する時はみんな夢を持っています。それなのに３年生になると野球に集中出来ず、少しずつそれていきます。 まず髪、眉、服装が変わります。そして顔つき、眼つきが悪くなります。親が気づかないのでしょうか？それとも気付いても何もいえないか、言わないのか。

私は２０年以上子供達を見てきました。こうなった子供は、もう高校野球は出来ません。入部しても必ず途中で辞めます。自分の子供だけはちがうと思っている親が多いと思いますが、１００%続きません。なぜかと言うと高校野球は代わりの選手はいくらでもいるからです。２度も３度も手を差し伸べてはもらえません。

私はずっと人間は間違いをする生き物なので、立ち直るチャンスを毎年何度も与えてきました。コーチやスタッフから退部や試合から外すべきだという意見が出てもチームに残し、試合にも使ってきました。しかし、今私の判断は間違っていたかもしれないと思っています。甘すぎたのかもしれません。私はただグランドで打ったり、投げたり、捕ったりする子供達の夢や目標のお手伝いがしたいだけです。

今日もみんなと楽しい野球が出来た、いい１日だったなと、気の合う仲間と美味しいお酒が飲めたらそれで十分です。

第６５話/2013.09.09

日曜日は１日とても疲れました。
午前中に臨時総会を開きました。議題は賭け事についてです。保護者から一人のコーチと数人の子供達が高校野球の優勝チームを当てる予想をし、それに少額だがお金を賭けていたとのメールをもらいました。当事者から事情を聴いたところ、県予選が始まる直前にどこが勝つかを数人で話していて、みんなで予想しようという事になり盛り上がったので１００円を全員で出そうという事になったそうだ。コーチの話では、子供達が少しでも高校野球に興味を持ってもらって１試合でも多く球場に見に行ってくれれば良いという思いからお金の話を出してしまったそうです。実際にはお金のやり取りはなかった事もあり、スタッフも子供達も全く罪の意識はなかったという事です。法律に詳しい方に聞いたところ、金額の大小ではなく金銭を賭けることは法律で禁じられていると教えて頂きました。
この機会に子供達にしっかりと説明し理解してもらう必要があると思い、全員に今までチーム内外を問わず金銭を賭けた経験を聞きました。約８０%が経験ありました。保護者全員にこの事実を知ってもらうとともに、子供達に対して家庭でしっかりと指導して頂くために、そしてコーチに対してはチームとしてどのような対応をするべきか話し合うために集まって頂きました。
私はこのコーチを中学入学の時から知っています。とても野球が出来るとは思えないほど体が小さい少年でした。３年間続かないと思っていました。レギュラーにはなれませんでしたが、高校野球もしっかりと続け、本当に野球大好きな選手になりました。段原スポーツ少年団が段原中学校から離れ、段原少年野球クラブとしてたった９人の子供達とスタートした時から今まで、２０代の一番自由に遊びたい時にチームのために尽くしてくれています。毎週治療院に通いながら子供達のためにバッティングピッチャーとして何百球も投げてくれます。夜勤明けでも練習に出てきます。私とチームにとっては掛け替えのない存在です。
今回の事は良いか悪いかどちらですかと言われれば悪いことです。誰に聞いても悪い事です。そんな事はわかっています。総会での保護者の皆さんの考えは全員ではありませんでしたが、ほぼ１００%子供達には各保護者が説明、注意し理解させる、コーチに対しては私が責任を持って厳重に注意し、二度とこのような事の無いようにするということでした。保護者の皆さんのコーチに対する温かい言葉、心づかいに対して私は感謝の気持ちで一杯になりました。
本人はこの件が大きくなってから本当に心から反省しています。スタッフ全員で強く強く注意し二度と間違いを犯さないように話をしました。これは私も他のスタッフ、保護者、子供達全員です。
段原クラブは今回間違いを犯しました。しかし全員で反省しこれを糧とし今後、今まで以上に良いチーム、良い選手になれるようにスタッフ、保護者、子供達全員で努力していきたいと思います。
恥ずかしい事ですが、しっかりと反省し、より大きく強く、良いチームになるためにホームページに書くことにしました。

第６４話/2013.09.04

時々、体と当たりそうな投球を避けないバッターがいます。そしてそれを時々アンパイアはデットボールにします。私は考えられません。

まず野球規則には、打者が打とうとしなかった打球に触れた場合、安全に１塁が与えられると書いています。ただし、バウンドしない打球がストライクゾーンで打者に触れたとき、打者が投球を避けないでこれに触れたときには除かれると書いてあります。

私が問題にしているのはこの避けないでの部分です。これは「よける」又は「さける」と読みます。避難の避という文字を使います。困難から「逃げる」、「はなれる」という意味です。全力でボールからのがれようとしなかった場合、１塁は与えないという意味です。

子供達はヒットを打つために練習をするべきです。指導者の皆さん避けるなという指導は間違っています。高校へ行って硬球が当たったら大怪我をする可能性があります。アンパイアの皆さんストライクゾーンもそうですが、野球規則通り判断するべきです。あくまでも全力で避けようとしなかった場合はボールにすべきだと思います。

バッターボックスの内側のラインぎりぎりに立ちインコースのボールを避けずにデットボールをとり、投手にインコースのボールを投げにくくさせて真ん中から外よりに甘いボールを打つそんなチームがあります。規則通りに判定してもらえば、こんなチームもなくなり子供達の技術も伸びます。

高校野球でも故意にカット打法をファールを打つことはバントと同じ扱いにするという規則があるにも関わらず、準決勝まで見過ごされていました。そのチームは何年か前にも同じような選手がいたと記憶があります。規則を知っていてやらせたとしても、規則を知らなかったとしても指導者に問題があります。当然地方大会からやっていたでしょうから県高野連、アンパイアにも問題があります。広島県代表の投手の２段モーションも同じです。県予選ＯＫで甲子園はダメ、同じ規則でやっていないのですか？

私が聞いた話では強いチームやベテラン監督にはアンパイアが遠慮、萎縮していまう事があるそうです。あってはならない事だと思います。いつも犠牲になるのは子供達です。まず誰のためにやっているのかを指導者もアンパイアも一番に頭に入れておけば良いことです。

スポーツは確かに相手をゴマがしたり、隙を突いたり、だますようなプレーもありますが、少年野球には必要ないと私は思っています。投手と打者の１対１の勝負が原点です。

私はこれからもそういう指導をしていきたいと思います。

第６３話/2013.08.26

２４日（土）２５日（日）瀬戸内大会参加のため福山に行きました。

残念ながら雨の為、土曜日の２試合は抽選になり日曜日はＣクラスになりました。福山の連盟の好意で市立体育館で体を動かす事が出来ました。しっかり体を動かし汗をかけました。

本当にありがとうございました。

４時過ぎにホテルに入りましたが、私はとてもショックを受けました。なんと選手が誰ひとりとしてバットを持ってバスを降りませんでした。雨で試合は中止、体育館で動けたとはいえバットは振っていません。次の日試合はあります。私には考えられません。勝てないし、上達しないのは当たり前です。毎日バットを振る事が習慣になっていないのです。

それとも旅行にでも来たつもりなのでしょうか？夢や目標は無いのですか？野球が人生の一番ではないのですか。本当に勝ちたい、上手くなりたい、甲子園に行きたい、プロ野球選手になりたいとは思わないのですか。その程度でなぜクラブチームに入ったのですか。なぜ段原クラブなのですか。夢や目標のない選手に興味ありません。

２６日（月）スポ少大会の準決勝、決勝がありました。コーチが休みをとっていたので試合がなくても練習する予定でした。学校が始まる選手が何人かいて人数が心配でした。しかしなんと練習だったら学校に行くけど、試合なら出るらしく思ったよりたくさんの選手が来ました。それとも来ないと私に嫌われるとでも思ったのでしょうか？私が嫌いなのは練習なら学校に行きますけど、試合なら出ますという考え方です。学校行事で休むのは構いません。普段の練習態度、取り組む姿勢がしっかりしていればなんの問題もありません。自分の都合で良い所だけ欲しいという考え方が問題なのです。

勝つ事に飢えている選手、ギラギラした目で相手に向かっていく選手、とにかく野球が大好き１日中野球の事を考えている選手、負けることが大嫌いな選手と一緒に野球がしたいな！！

私より野球好きの６年生が入部してくれると良いな！！

第６２話/2013.08.19

今週は投手について書きます。

私は野球の勝敗はほぼ１００%投手の能力で決まると思っています。言い換えればチーム力とは投手力でもあると言えます。今年の高校野球広島県予選を見れば良くわかると思います。バッティングはいくら練習しても投手がキチッと投げれば打つ事は出来ません。バッターは投手の投げ損なったボールしか打てないのです。ですから投手は投げ損なわなければ点を取られないのです。では投げ損なうとはどういう事なのか、ストライクゾーンの真ん中に投げるもしくはストライクを投げようとしてボールゾーンに投げてしまう事です。投げ損なう確率が高い投手ほどダメな投手（勝てない）という事です。まずコントロールが一番大事と言う事になります。この場合のコントロールとはストライクゾーンに投げるのではなく、捕手の構えたミットに投げられるというレベルのコントロールです。ストライクを投げるのは投手として当たり前です。

ではミットに投げられなければどうするか？真ん中に投げても打たれないスピードを持つか、鋭い変化球を身に付けるかのどちらかが必要です。スピードが無い、ミットに投げるコントロールが無い、わかっていても中々打たれない変化球が無い、この場合はマウンドに上がらない事です。

なぜか、必ず失点して負けるからです。ボールは遅くより速い方が良いに決まっています。そのためには基本的身体能力を高めなければなりません。走るスピードを上げ、体全体の筋力を上げ、関節の可動範囲を広げる練習を続ければ必ずスピードは上がります。そしてコントロール、大事なのはフォームです。同じことを繰り返せば同じボールが投げられます。

そのためには下半身の強さが必要です。そして変化球、大事なのはストレートと同じように速く強く腕を振って投げることです。タイミングをずらそうとして腕が振れなければバッターから空振りは取れません。

いろいろ書いてきましたが、マウンドに上がればひとりでチームを背負いひとりで相手バッターに向かっていける精神力が勝負です。ピンチになればなるほど最高のボールを投げ込める、気持ちでバッターを攻められる投手、段原クラブにそんなマウンドでカッコよく堂々と立っている

投手が現れる日が来ると良いと思います。

第６１話/2013.08.12

今、高校野球甲子園大会真っ最中です。
私はバットを思いっきり振るチームが大好きです。浦和学院ＶＳ仙台育英はすごい試合でした。両チームとも高校生としては好投手ですが、それをものともせずフルスイング、素晴らしいバッティングを見せてくれました。まだ、瀬戸内高校は登場していませんが、中国地方の他の４県のチームは全て初戦敗退しました。それもほとんど点を取れずに負けてしまいました。私は常々言っている、現代野球に取り残されてしまっています。バッターのスイングが弱い、打球が遅い、当然遠くには飛ばない。トーナメントに勝つために投手を含めた守りの野球、バント、走塁、進塁打、少ない得点で競り勝つ確率は良いかもしれません。しかし楽しくない、そして本物のチームには勝てない。
最近はプロ野球が初回から送りバントをします。これはファンに問題があります。あまりにも勝つ事を求めすぎています。そして球団も長期的にチームを作ろうとせず、すぐに監督を交代させます。どんどん野球が小さくなっています。プロ野球はプロ野球選手にしか出来ない技術、プレーを見せてお金を頂くところです。高校生でも出来るバントは最後の手段だと思います。
土曜日の新人戦２回戦で段原クラブはやっと１点差で勝ちました。内容は良くありませんでした。まだ、３年生が残っているうちの新人戦なのでミスは仕方ないと思っています。５点取った中で３点を犠牲フライで取りました。チームとして目指している野球、３塁ランナーを「打球を外野まで飛ばして帰す」ことが出来ました。スクイズやエンドランではなく、打って帰すことで選手の力になる。コーチからの進言で私はスクイズとエンドランをやめ攻撃のサインを無くしました。
指導者の皆さん、自分の采配で勝とうとし過ぎです。私は選手の力で勝たせてもらいます。１年生の時から目指して練習したことが試合に出て勝てると楽しいですよ。
中学生の正しい技術はシンプルに強く、速くだと思います。

第６０話/2013.08.05

８月４日(日)日刊大会チェーンリーグが終わりました。
２チーム参加していたのでＡチームは３年生、Ｂチームは２年生と分けました。チーム力はダウンしましたが、たくさんの選手が試合を経験出来たことは良かったと思います。特に３年生でレギュラーではなかった選手にとっては練習試合とは違った緊張感のある打席、守備、走塁は身になってくれたと思います。
今回はレギュラー論について書きます。私が決める基準は守備力です。守れる選手から使います。今年のレギュラーもその守備位置で一番守れる選手が一桁の背番号をつけています。なぜか？守備のミスはチームに迷惑を掛けるからです。そして失点するからです。野球というゲームは失点しなければ負けることはありません。守備に不安のある選手を先発で使う時には２打席目までに打ってくれなければ困ります。たぶん選手や保護者の中には、あの選手は打たなくても変えられないのに、あの選手は変えられるそれはなぜ？と思ったことがあると思います。
理由は簡単です。守備力に差があるからです。試合の最後まで出たければ守れるようになること

です。そうでなければ圧倒的なバッティングで守備のマイナスをプラスに変えることです。
今の段原クラブの選手達は打たなければレギュラーになれないと考えている選手が多いように思います。そのためバッティングにばかり気持ちが向いています。たしかに打つ練習は守ることに比べ楽しみし苦しくありません。
段原クラブのチーム練習も打つ時間が圧倒的に長いです。でもその中でも考え方しだいで守備練習はいくらでも出来ます。いつも言いますが強制的にノックを捕らされてもダメなのです。あくまで自分から自分のために自分で考えて練習しなくては身につかないのです。バッティングは自分が満足するためですが、守備はチームが勝つために絶対に必要です。投手力を含めた守備力で勝つか負けるか決まります。チームとして勝利を味わいたければ、選手ひとりひとりがチームに役立つプレーとはどういうものなのか、何をしなければいけないのか、そしてそのためにどんな練習が必要なのか考えるべきです。そして取り組むべきです。チームとして勝ちたければです。
最後にひとつ、人数の関係で２人２年生を３年生のＡチームに入れました。その内のひとりの母親が試合中に一番、大きな声で３年生を応援してくれていました。我が子はチームの都合で３年生の中に入れられ、ほぼ出場するチャンスがないのにです。チームで戦うというのはこういう事です。私はベンチでとても温かく思いました。
本当に感謝します。そして必ずうけたものはお返しします。ありがとうございました。

第５９話/2013.07.29

高校野球広島代表は火曜日に決まります。
どちらが代表になっても好投手なので全国レベルのチームと対戦するのが楽しみです。しかし決勝再試合のコンディションが心配です。私は何年も高校野球を見に行きませんでした。理由は段原クラブ OB 全員を応援することが不可能だからです。よく中学のチームの選手や指導者が出身選手の応援をする姿を見ます。しかしそれはほとんど勝ち上がったチームです。準決勝や決勝だったりします。私には出来ません。応援に行くのなら出身選手全員の試合に行くべきです。１回戦で負けてもベンチに入っていなくてもＯＢに変わりなく、その選手も３年間努力した事も事実です。勝ち上がったチームの選手だけが頑張ってきた訳でも、えらい訳でもありません。勝つことが全てではないのです。高校野球を３年間全うした選手達全員を評価するべきです。これからも私はたとえ甲子園に出場するＯＢが出ても試合の応援に行くことはありません。もちろんテレビでは応援しますよ。
しかし、今年１試合、マツダスタジアムに行きました。広陵・瀬戸内戦です。なぜかというとまず出身 OB が試合に出ていない、そして今年プロ野球のＯＢが学生野球を指導出来るようになる資格回復研修があるので、広島県の高校野球のトップレベルと言われているチームを見ておきたかったからです。私は途中から４イニング程度見ただけですが、瀬戸内高校の投手以外は少しがっかりしました。トップと言われているチームの選手が当たり前の事が出来なかったからです。
指導していないのか、していても選手が試合で出来ないのか、わかりませんが残念なプレーが多すぎます。私がいつもいっている技術は未熟で当たり前しかし頭のミスはダメです。
広陵の２番手投手は変わった回の送りバンドで３塁ベースカバーに走りませんでした。私はそれを見て当たり前の事が出来ない投手では接戦を勝つことは出来ないと思いました。次の回のバンド処理のミスは予想された事です。その後の１、２塁の場面でも次の１点は勝負が決まってしまう１点なのに左バッターに引っ張られました。その時のライトの守備位置もありえません。ヒッ

トで２塁ランナーを絶対帰してはいけない場面です。キャッチャーからもベンチからも外野を前に出す指示はありませんでした。ありえない事です。とどめを刺されました。
瀬戸内高校も１、２塁からのライト前ヒットで広陵のライトは間に合わないホームに送球しているのに後ろのランナーが次の塁に進んでいないなどミスがありました。もっと楽に勝てた試合です。
結局、投手力の良いチームが勝つようです。広島はもっと野手のスイングの力強さをつけるべきです。この部分が一番全国レベルと差があるように思います。
３年間しっかり下半身を使ってバットを振り続ければ、横浜高校のように全国レベルの好投手をホームラン２本で攻略するような試合が出来ます。好投手の攻略はすぐに、右打ちだ、足だ、バンドだなんていいますが１番は１本で１点とるホームランです。花巻東の大谷投手もそれで夏負けました。
広島県にもそんなチーム出て来ないかな。

第５８話/2013.07.22

私は中学１年生の秋、左手を骨折しました。
野球部の練習をしばらく休んだのをきっかけに、心が野球から離れ、親のお金に手をつけるようになり、どんどん人生を転げ落ちていっていました。悪い事はバレます。父親の知る所となり、私の人生で一番殴られた夜がやってきました。今でもはっきりと覚えています。父の手が痛くなったからかギターで叩かれたギターは砕けました。次にバットを取ろうとした時、母が全力で止めてくれました。私は殺されるかもと心の底から震えました。そして二度と同じ過ちを繰り返えしてはならないと誓いました。
その夜から学生服を着せされ家を追い出され、家の店に勤めていた女性のアパートに２泊しました。殴られ過ぎて顔が腫れていたので学校も２日間休みました。その後、父にもう一度土下座をして謝り、家に戻る事を許されました。しかし野球部に戻る勇気はありませんでした。同級生からは辞めて欲しいと言われたし、まして先輩の前に出ていくのはもっと厳しいものがあります。そんな時、野球部の先生が我が家にやってきました。私は怒られると思いました。先生は「野球部に鈴木が必要だ。戻ってこい。つらいけど１ヶ月頑張れば何もなかったようになるから」と言って下さいました。泣きました。
私はその後、甲子園に出れたり、プロ野球選手になれました。本当に父と先生のおかげだと思っています。あの日、殺されるかと思うぐらい本気で殴ってくれた人が私の父親で本当に良かったと心から思っています。その日から高校の入寮までランニングと素振りは１日も欠かしませんでした。間違った時、本気で怒ってくれる人は恩人です。感謝。

第５７話/2013.07.16

硬式でも軟式でも中学生がクラブチームで野球をすればメリットとデメリットがあります。
メリットは練習の量と内容が濃く、高いレベルの技術指導が受けられます。１年の時から球拾いやランニングだけでなく、しっかり練習でき１年生同士の試合も出来ます。大会の数が多いため年間の試合数が多く色々な地域のチームとの対戦することが出来るし、レベルの高い選手をみ

ることが出来るなど選手として技術を高めるためには圧倒的にクラブチームに分があります。
しかし会費、遠征費などお金が掛かります。グランド作り、審判、大会運営など保護者の協力が必要です。学校行事、テスト週間などに関係なく試合、練習があるなどデメリットもあります。
両方をしっかり理解し受け入れてクラブチームに入部したはずです。自分に都合の良い所だけを利用するのは間違っています。
なぜがと言うと野球はチームスポーツだからです。個人の都合を優先するのはおかしいと思います。野球のクラブチームに入部したのならチームを最優先に考えるべきです。部員がみんな個人の都合で行動してしまえばチームは成り立ちません。練習は個人の技術を伸ばすためにありますが、練習を休む選手に試合のチャンスがある訳がありません。
３年生にとって集大成の７月～９月です。チーム全員（選手、保護者、指導者）の気持ちをひとつにして、３年生に少しでも良い試合をして卒団してもらいたい。残り少なくなった試合に１打席でも、１イニングでも多く出てもらいたいと全力をつくす時だと思っています。
メリットがあればデメリットもあります。良い所だけ欲しいは通りません。私は両方しっかり受け止めてチームのために全力を尽くしてくれる親子と一緒に野球がしたいです。
そしてチームの誰が試合に出ていようと、どんな試合展開だろうと最後までチームのためにチーム全員が必死に走る、投げる、打つ、捕る、応援する、勝っても負けても心地良い試合がしたいです。

第５６話/2013.07.08

今週は大人の都合について書いてみようと思います。
私は小学生のソフトボールから今年で子供の指導をさせてもらって２５年になります。その間いろいろな連盟、団体、組織の大人達を見てきました。昨年書いたマツダスタジアムの大人達、軟連の大人達、子供達の都合より、大人の都合を優先します。
今回は、試合が雨などで中止になった時の抽選について私の考えを書きます。
まず、大会をするのなら予備日を最低１日は用意するべきです。単独のチームでやる招待試合は別です。特に勝ったチームに次のステージがある大会は絶対です。試合をせず抽選で勝ったチームが上の大会に上がるのはありえない事だと私は思います。予備日がない場合は、当事者チーム同士でグランドを確保して代表を決めれば良いと思います。それでもなんともならない場合に限り、両チーム同意のもと抽選するべきです。
なぜかと言うと、子供達には中学３年生という１年は１回しかないからです。その年のどの大会も一生に一度なのです。それが、くじ引き！！私には考えられません。
大人達には何年も何度も毎年同じ大会があり、それほど重要だと思っていないように見えます。子供達に関わっている大人達はもっと子供達の１試合を大切に思って下さい。来年は無いのです。試合をしないで抽選をするのはやめて下さい。
子供達は大人を信じて練習をしているのだからお願いします。

第５５話/2013.07.01

６月２９日（土）福山８０ホークス、ＪＫＢクラブと練習試合をしました。

急に決まった試合でしたが私にはどうしても福山に行きたい理由がありました。今年の段原クラブはピッチャーが思うように成長していません。特に６月に入ってから計算できるピッチャーは故障者も出たりしていない状況になっていました。私にとって初めての経験で色々な練習方法を試してみましたが良くなる兆しがありません。

そこでプロ野球時代の先輩である山内和宏さんに助けを求める事にしました。私もピッチャーの経験がありますし、今まで色々なプロ野球ＯＢの方々の理論、指導方法も勉強してピッチャーの指導にもある程度、自信を持っていました。でも本物は違いました。まず、指導している姿や足を上げて立つ姿勢がカッコいい、一流選手ならではの姿です。２、３年生のピッチャーにとってこれからの野球人生においてとても大きな１日になったはずです。

私にとっても反省と勉強をさせて頂いた良い日になりました。つくづく自分がまだまだ指導者として力不足であり、野球というスポーツの難かしさや奥の深さを常に子供達だけでなく、自分がまず勉強し続けなくてはいけない事を痛感しました。指導者との出会いで今まで以上に成長出来る可能性のある子供達がたくさんいるはずです。段原クラブで本当に良かったと思ってもらえるように自分の引き出しを増やし、いろいろなタイプの選手に対応出来る指導者になりたいと思います。

１時間以上８人ものピッチャーを指導して頂き、本当にありがとうございました。チーム関係なく心を込めて指導して頂いている姿に本物の野球人を感じました。自分のチームの選手だけでなく、みんなが野球大好きになってくれる事を望んでいるのが野球人です。

私もその一人です。本当に心から感謝です。

第５４話/2013.06.24

私は段原クラブの監督の他に、広島フルスイング塾というバッティング教室を主宰しています。

協栄電気工業株式会社様をはじめたくさんの方々の協力と銀行からの融資で倉庫を借り、土を入れネットを張り、照明を付け防音の壁を取り付け、マシンとボールを用意しました。会員の方々の会費で運営しています。段原クラブとはまったく関係ありません。ただ段原クラブの選手が多く会員になっているので、お返しの気持ちで雨の日や数多くバッティング練習したい時など貸しています。あくまでも会員の方々の会費のおかげで段原クラブが使う事が出来ている事をお忘れなく。

チームの方はバッティング練習で工夫したり課題を持って練習し、試合で状況を考えている選手達は内容のある打球が打てるようになってきました。相変わらず頭を使わず自己満足のためだけにバットを振っている選手はチームの役に立つバッティングが出来ません。どんなに素晴らしい身体能力も脳が正しい指令を出さなければ、良い結果は出せません。確率は上がりません。

「予測と準備」野球はボールが動いてない時間の長いスポーツです。その時間でどれだけ予測し、頭の準備が出来るか、これが大事です。打ったと当たった、捕ったと入ったは違うのです。

２年生の方が内容のある野球をしている選手が多くいます。３年生の皆さん、本能だけで野球をやっても時間をかけたほどの結果は得られませんよ。もっと考えましょう、工夫しましょう、悩みましょう、そしてわからない事は聞きにくればいい。何度も何度も言っています。

野球は足と頭でやる先進国のスポーツです。

第５３話/2013.06.07

このコーナーも１年になりました。たくさんぼやいてきました。これからは出来だけ楽しい話が書けたら良いと思います。

土曜日の１年生のリーグ戦は雨で中止になり残念でした。小さい１年生が必死に食らいついていく姿を見てみたかったです。次が楽しみです。

日曜日は日刊大会、３年生が A チーム２年生が B チームで２チーム参加させてもらいました。両チームとも久しぶりに打つべき選手が打ち圧勝、失礼かもしれませんが、相手投手の力からしてこの程度は当然です。これくらいの力は段原クラブの選手は持っています。前から言っていますが、練習での力は先輩達と同等です。それが試合で出せないだけです。練習で身に付けた技術を頭と集中力と精神力で試合の結果に結びつける。それが野球です。

今年の選手は頭と心が力不足です。練習内容を変え基本に戻りつまらない練習を全力でこなす。少しずつ、投手も、守備も打撃も変わってきたように思います。ただ、はっきり言って明らかに力の無い投手から点を取っただけです。走塁ミス、バントミス、捕手の送球、配球ミスの長打、２年生の守備のミス、まだまだ当たり前のプレーを当たり前に出来ていません。

段原クラブがやろうとしている野球とは、技術のミスは仕方ないが、頭のミスはしない、ストレートに負けないスイング、自分達で考える野球、もっともっと自分に厳しく上を目指して欲しいと思います。私はあきらめません。これからもグズグズ言い続けます。段原クラブは最後の試合が一番強い、指導者はみんなそう思っています。

２年生も３年生も保護者の皆さんがよく声を出して応援していただきました。チームがひとつになった時も学年が違っても同じようにチームが勝つために応援してもらえるとありがたいです。

学年関係なくチームはひとつ、段原クラブはひとつです。

第５２話/2013.06.10

自分の体の衰えは感じていました。

しかし、チームで一番足の遅く選手より私の足が動かなくなっていたとは、ショックです。練習を見ていると本当に遅くて全力で走っているように見えないといつも思っていました。まさか自分があれより遅いとは信じられない、挙句の果て肉離れとは情けない。

今月で５４歳、若いつもりでいたのは気持ちだけで体は、特に足は確実に年相応に衰えていました。選手達に厳しくしているのに自分には甘い、今取り組んでいる減量と並行して下半身のトレーニングも少しずつやらなければいけない。子供達に見本のプレーを見せられるようにしたいと思います。まず、肉離れを治さなければ・・・。

先週は守備の基本をもう一度やり直しました。今週の土曜日には１年生のリーグ戦、日曜日は日刊大会、２，３年生２チーム出場出来るので、特に１，２年生は自分達の今の実力を測る事が出来、これからの課題が見つかるはずである。今持っている力を全て思い切って出して欲しい。そしてこれから何をしなければならないのか？高校で野球を続けていくために今、何を身に付けなければならないか早く理解して、努力を続けて欲しいと思います。

上達するためには、まずは沢山食べる、良く寝る、課題・目的をもってトレーニング、練習、試合をするです。３年生あきらめるな！１、２年生大きな夢を持て、そしてやるしかない。

第５１話/2013.06.03

今、段原クラブは段原スポーツ少年団として活動を開始してから１８年最も勝てないチームになっています。子供の指導を始めて２５年こんなに勝てないのは初めてです。指導者になってからずっとチームがある程度強かったので、私は自分の指導に自信を持っていました。技術の講習会に参加したり、プロ野球のＯＢの方々から教えて頂いたり、進歩している理論も勉強し、正しい指導をしているつもりでした。結果が出ないのは子供達の練習不足及び能力の無さだと思っていました。

はっきり言って、私が教えて上達しなければ野球に向いてないのだとぐらいに感じていました。今年のチームもこの春にはある程度の自信を持っていました。それが、まったく勝てない。なぜなのか？私の思い上がり、勘違いが原因です。日曜日の夜、月曜日の仕事中もずっと考えました。私のまちがいが練習の甘さにつながっています。基本をおろそかにした練習、厳しさのない練習、これが確実に試合の中で当たり前の事が出来ないミスとして出ています。

良く考えてみると去年から守備のミスが増えています。正しいキャッチボールから始まる基本、私の思い上がりがそれを疎かにしてしまったのだと思います。子供達も打つ事だけに興味を持ち、打てさえすれば試合に出られるという思いになり、守備の重要性を忘れていました。そして試合ではヒットの倍の点を取られ、当然負けるこの繰り返しです。守備のミスはチームの足を引っ張ります。全て私の責任です。初心に帰り段原クラブを作り９人で始めた頃、手取り足取り一生懸命に汗をかいて子供達と基本練習を繰り返していた頃を思い出し、謙虚にやり直したいと思います。本当にチームは監督の器以上になりません。３年生には本当に申し訳なく思います。最後まであきらめずチームを作り直したいと思います。

これから面白くない練習が多くなると思います。今までより厳しくなると思います。最後にはみんなで良いチームになりましょう。

あきらめない。

第５０話/2013.05.27

私は段原クラブを発足させ監督になってから今日までずっと３年生の控えの選手に気をつかってきました。試合の中で出来るだけたくさんの選手を出したいと思ってきたし、練習の内容、数に差をつけないようにしてきました。野球というスポーツはレギュラーは９人です。部員がそれ以上いれば、控えになる選手が出ます。１年生の時に１０人以上入部すれば、３年になった時必ず誰かが控えになるのは最初からわかっている事です。私は背番号の１～９は実力以外で付けるのは間違っていると思っています。１１以降はいろいろな思いや条件、理由で必ずしも野球の実力だけで決めなくてもいいと思います。そしてそうしてきました。選手や保護者にも伝えてあります。背番号を決め時には私だけでなくコーチの意見も聞き、練習、試合を一番長く見ている人間が話あって決めています。

他のチームの事はわかりませんが、試合を見ている限り、段原クラブが一番多く控えの選手を使っていると思います。そのような点から控えの選手、保護者から「気を使ってもらってありがたい」、「実力が無いのに試合に出場するチャンスがもらえて嬉しい」と思ってもらっていると思っていました。しかし大きな間違いだったようです。どうも今年の３年生の保護者は自分の子供

の実力を客観的に判断出来ないようで、控えになっている事に不満をもっているらしい。特に２年生がレギュラーをとっている事を良く思っていないそうである。なぜ？わからない、スポーツは実力の世界です。学年に何の意味があるのですか？私は入部の時、段原クラブには年功序列はありません。レギュラーは実力のある者がとりますとはっきり伝えました。わかって入部したはずです。

はっきり言います。昨秋の新チーム結成以後の打撃成績１～４位は全て２年生です。今、３年生で控えの背番号を付けている選手は全て１０位以下です。練習試合の１試合目と２試合目では投手の実力がちかうのにです。当然、野球は打つだけではありません。守備、走塁、全ての能力を考えて背番号を決めています。１試合だけを切り取れば１番力のある選手がミスしたり、打てなかったりする事はあります。野球はそういうスポーツです。しかし１年をトータルすると必ず力のある者が数字を残します。番付通りなのです。保護者は自分の子供は頑張っていると思っています。しかし他の選手がどれほど練習時間以外で努力しているか見たことがありますか？知っていますか？頑張っている、努力している当たり前です。それはスタートラインに立っただけです。やらない選手がおかしいだけです。みんなやっています。レギュラーの選手ほど練習は数多くやっています。子供達は、自分の実力をわかっています。チーム内の立場、位置を理解し少しでも上に上がろうと努力しています。３年生だから何ですか？そんなものに何の意味も価値もありません。勝負の世界で価値があるのは力です。それだけです。

ただ私は段原クラブを選んでもらい３年間頑張ってきた選手は好きです。なんとか勝って、喜んで欲しい、そして少しでも多くの選手をグランドに立たせたいといつも思っています。しかし勝負の世界なのです。力があるのに２年生という理由だけで出られない選手の気持ちはどうですか？力がないのに３年生という理由だけで試合に出て、その選手のミスで負けたらどうしますか。その選手の気持ちはどうですか？

良く考えて下さい。チームスポーツをやる限り必ずレギュラーと控えは存在します。みんなでお手てつないで仲良く頑張ろうなどというチームは勝負の世界に入ってくるべきではないと思います。ポジションは奪うものです。これが段原クラブの考え方です。納得出来なければ他のチームでやれば良いと思います。

私が目指している良いチームにはほど遠くなっています。残念です。

第４９話/2013.05.20

段原クラブ非常事態宣言です。

今年新入部員が１１名だった時、少し不安に思っていました。冬を越して春になり、練習試合が始まり公式戦へと移ってきました。例年より練習量は多いのに結果につながらない。

今まで以上にやっているのになぜ？いろいろな原因をずっと考えていました。私の中で結論がやっと出ました。バッテリーの力不足です。やっぱり野球は投手力そして捕手力。過去の段原クラブのどの年より、投手はコントロールがありません。そして捕手も投手に対して愛情、気づかい、相手打者の観察力、記憶力、リーダーシップそしてスローイング全て足りません。

結局野球はバッテリーの力がチーム力なのです。どんなに守備練習してもヒットは捕れないのです。四死球は防げません。先に点を取られるので打者は常にプレッシャーがかかっています。それも１イニングに２点以上取られるので１点づつでは足りません。今年の投手は、まずストライクゾーンに投げる事で精一杯、意識してボールを投げる余裕はありません。ファールを打たせ

てカウントをとる事も出来ません。追い込んでボール球を特に変化球を低く投げられません。ピンチの場面でボールから入る気持ちの余裕がありません。投手はコントロールと精神力！！つくづく痛感しています。今までの練習がバッテリーに甘かったと反省です。今までは選手に任せてきた事もこれからはベンチから指示しなければいけないと思います。私の持論に反しますが、今のままでは、他の選手に迷惑がかかるので、配球も任すわけにはいきません。本当に残念ですが、同じ失敗を繰り返すバッテリーでは仕方ありません。守備位置もベンチからいちいち指示が必要です。

野球というスポーツは打つだけではありません。ヒットを打つしか興味の無い選手の集団では、チームが勝つ事はありません。守備、走塁、戦略、状況判断、配球、守備位置の変更、野球で勝つためにしなければいけない沢山の事を考えられる選手になって欲しいと思います。

それが野球です。そして段原クラブの先輩達がずっとやってきた事です。

第４８話/2013.05.13

１２日(日)福山の鞆の浦でプロ野球ＯＢクラブによる全国こどもの日野球教室がありました。

３５０人程の小学生を相手に約 4 時間とても疲れました。段原クラブの１年生１０人も特別に参加させていただきました。プロ野球のＯＢの方々から指導していただき何かひとつでも、プラスになってくれれば良いと思います。同じ事を言われてもいつもと違う人から言われると新鮮で頭に入りやすいので意味があったと思います。毎回小学生を見て思う事ですが、はっきり言って何も教えてもらっていません。キャッチャーは正しいキャッチボールが出来ない、当然セカンドベースに良いボールが投げられる訳がない、ワンバンドは全く止められない。これは止める練習すらしていないと思われる。サインの出し方も、もちろん構えも出来ないのでピッチャーのボールは構えた所には来ない。

野球の形が出来ていないと思います。正しいキャッチボールを指導しないとケガをします。守備位置がないので上にいってレギュラーになれません。

捕る事より、打つ事より１番大事な事は投げる事、大切なのはフォームです。正しい投げ方をすれば正しいボールが行きます。フォーム、形が大事です。捕る事、打つ事は形も大事ですがそれだけでは結果は出ません。タイミング、捕る位置、打つ位置が大事になってきます。フォームが悪くてもタイミングがあえば打ったり捕られたりします。投げる事は間違ったフォームでは正しいボールは投げられません。

小学生の皆さん、正しいスローイング、自分を守るために１日も早く身に付けましょう。正しい投げ方を身に付ける練習方法がわかっている指導者に出会える事を祈ります。

バッティングはいつものようにゴロを打てと指導されているかわいそうな子供達ばかりでした。強く下半身を使ってバットを振り遠くへ飛ばす、子供達の可能性を消さない指導、勝つためのテクニックはプロ野球選手になってから覚えればいいのです。

強く速く基本の力を付けましょう。

第４７話/2013.05.07

３年続いていた県大会出場がなくなりました。

１－２での負け点数を見ると惜敗のように思いますが内容は完敗です。今年に入りバッティング練習ばかりに時間を使い、今までのどのﾁｰﾑより数多くバットを振ってきました。そして練習ではすばらしい打球を打てる力をつけました。しかし試合では出す事が出来ませんでした。今年に入りずっと同じ失敗の繰返しです。２日間、私は原因を考えました。結局は判りません。他チームの試合を２試合見ました。１０－９と４－２、負けたチームも中心バッターは打っていました。そして後半反撃し意地を見せていました。段原クラブでは６，７回ランナーを出すことも出来ず、まして７回は３、４、５番打者があっという間にあっさり打ち取られてゲームセット。私の思っていた中心選手は中心選手ではありませんでした。指導者として正しく選手の力を判断出来ていませんでした。完全に監督に力不足です。練習でのパフォーマンスにだまされ本当の技術、精神力を見ることが出来ず間違った背番号、ポジション、打順、選手起用になっていたのだと思います。

もう一度、原点に戻ってチーム内の競争の中で試合で力を出す事の出来る選手は誰なのか、本当にチームのためにプレー出来る選手は誰なのか、しっかり見きわめられるように私自身が努力する必要があります。対戦相手が決まってから２週間、左投手対策の為にたくさん投げてくれた東、橋本に感謝します。結果が出せず申し訳ありませんでした。そしてありがとうございました。

たくさんのＯＢ関係者の方々にも応援頂きました。ありがとうございました。同じ失敗を繰返さないために指導者としてしっかり反省し、練習方法、選手起用を工夫し勉強しなおしたいと思っています。

本当に申し訳ありませんでした。

第４６話/2013.05.01

先日ある中学校の野球部の選手がフルスイング塾に体験にやってきました。

段原クラブのどの選手より良い体格をしていますが、まったく打てません。話を聞いてみると野球部では全て反対方向(右打者はライト、左打者はレフト)に打たなければならず、それだけでなくフライはヒットでもダメなのだそうである。意味がわからない。わざとアウトになる練習をしているという事である。右打者の右打ちプロ野球選手でもとても難しい技術です。井端、内川、宮本一流選手の技術です。それを中学生に要求するとは、ましてゴロ、点が入るわけがありません。

指導者の皆さん、いいかげんゴロを打つ指導は止めませんか？なぜヒットを打つ練習、少しでも遠くに飛ばすための練習をしないのですか？相手がミスをして点が入ったり、勝ったりして楽しいですか？選手のためになるのですか？外野に打球を飛ばせない選手に次のステージがありますか？なぜ選手の可能性を伸ばそうとしないのですか？バントやエンドランも同じです。サインを出した瞬間、その選手はホームランを打つ可能性を奪われます。確かに試合の後半、点差がなければアリだとは思います。相手がミスしなければ勝てない野球では、選手に力は付きません。

まず個人の能力を伸ばしてあげるべきです。試合に勝つためのテクニックよりシンプルな力、速いボールを投げる、強く速くバットを振る、これがその先の野球人生では生きてきます。

正しい基本と強い力と速いスピード、これを子供達に伝えるべきです。レギュラーだろうと控えの選手だろうと同じです。みんなに可能性があります。

選手全員責任を持って同じように時間をかけて指導するべきです。出来なければ指導をやめるべきだと思います。勝てた方が指導者の鼻は高くなります。気持ち良いのはわかります。でも、

もっともっと選手達にとって必要な事があります。
　指導者の皆さん、まず選手達のために考えましょう。

第４５話/2013.04.22

　タバコを止めて体重が増えてきました。
　先週の合宿では１日グランドに立っているだけで下半身が疲れてしまいました。体重を落としグランドでもっと動けるようにするため自転車を注文しました。午前中の仕事の行き帰り２０ｋｍ程度自転車で走ってみようと思っています。ユニフォーム姿のカッコ悪い監督では、チームも強そうに見えません。目標１０ｋｇ減です。
　段原クラブのＴシャツが出来ました。その年の選手達に意識してほしい事を背中にプリントしています。今年は『チーム一丸、俺達はできる』です。今年のチームは練習をよくします。選手達は良い子達です。新チームになり半年、確実に力をつけています。課題はその実力を試合で出す事が出来るかという事です。自分達の練習と力を信じて思い切ってプレーして欲しいと思い、この言葉にしました。
　他のチームとはちがい保護者のＴシャツは自由に色が選べます。私はみんなが同じというのが嫌いです。野球というスポーツも各自の個性が集まり強くなると思っていますし、チーム内の選手同士がライバル心をむき出しにして競争し、個々の力を伸ばし、それが試合でひとつになり相手チームと戦う、そんなチームが良いチームだと思っています。
　子供達のＴシャツは紺色で揃えています。理由は、半袖のアンダーシャツの代わりになるからです。保護者の負担を少しでも減らせればと思っています。
　それぞれまったく違う個性が一丸となりひとつの目標に向かって進んでいけたら良い思い出が出来ると今年は期待しています。

第４４話/2013.04.15

　１３日（土）１４日（日）２日間、昨年の１１月に引き続き生名島で合宿をしました。
　晴天に恵まれて予定通りの練習が出来とても満足しています。いつものようにほとんどバッティングに時間を使いました。１１月の合宿の時にはとてもグランドが広く感じたバッティングでしたが、今回は全員の飛距離が出るようになり広く感じませんでした。半年間、バットを強く振る事をずっとやってきた練習が打球の強さに少しずつ出てきたように思いました。これが試合に出てくれれば良いのですが期待しています。
　２日目の午後は紅白戦をして合宿を締めくくったのですが、控えの選手がバッティングで何人も結果を出してくれました。レギュラーがのんびり出来ない状況になってきました。チーム内の競争が個人のレベルアップの為に一番必要です。とても良いチーム環境になってきました。ポジションは与えられるものではなく奪い掴むものです。段原クラブは全員同じ量の練習をし全員にチャンスを与えます。ぜひ掴んで下さい。
　２日間の合宿で準備、バッティング練習の球拾い、グランド整備、片付け、夜食など保護者の方々にはお手伝いいただきありがとうございました。特にお父さん達は体中が筋肉痛になっている事と思います。選手達も手伝う事が出来なかった保護者の方々も感謝の心を表してほしいと思

います。選手と指導者だけでは出来ない良い練習が出来ました。
本当にありがとうございました。

第４３話/2013.04.08

４月になりました。新入部員の体験も落ち着き今年は１１名の子供達を迎えることになりました。人数が少ない方がしっかり練習出来るし、試合に出るチャンスがたくさんあるので、選手にとって好ましい事だと思います。
今年もたくさん体験に来て頂きました。入部してくれた選手は１１名、段原クラブを選んでくれた事に責任を持ち全ての技術を３年間で伝えます。野球の難しさ、奥深さ、そして楽しさ必ず野球大好きになります。縁がなく他のチームで野球をする事になった子供達も是非、３年後野球大好き少年になり高校でも野球を続けていく事を望みます。
段原クラブの１１人は絶対に君達には負けませんよ。なぜかと言うと段原クラブで野球をするからです。たぶん他チームの１年生と試合をしたら今はどこにも勝てないと思います。これは毎年の事です。しかし、２年間でどこのチームと試合をしてもや勝負出るチーム・選手になります。今年の１年生もそうなります。ただ、彼らが今までの段原クラブの選手のように努力することが絶対条件です。新１年生のみんな、せっかくの出会いです。大事にしましょう。私達スタッフ・チームは君達のために全力を尽くします。卒業まで信じて努力し続けて下さい。
そして長く野球を続けていく選手になって下さい。全国大会も甲子園もどうでもいいです。目指すはプロ野球選手、夢は大きく段原クラブは大きな夢を持った子供達が全力で楽しく野球をするチームです。

第４２話/2013.04.01

中学生が野球をする事が出来る場所は学校の野球部、硬式及び軟式のクラブチームと３つあります。段原クラブは軟式のクラブチームです。財団法人軟式野球連盟に加盟しています。いくつかの中学校の子供達が集まっているので学校行事と試合、練習が重なる事があります。どちらに出るかは各家庭に任せています。部員数には余裕があるとので休む選手がいても試合に参加出来ないという事はありません。私はその時にグランドに出て来た選手で全力を尽くせば良いと思っています。しかしながら過去に試合の当日、学校行事を理由に休んだ選手はいません。当然だと思います。
なぜなら、学校は休んでも誰にも迷惑を掛けません。本人だけの問題です。試合を休めばチーム、チームメイト、チーム関係者たくさんの人に迷惑を掛けます。
野球はチームスポーツです。野球をさせている保護者もチームの中で人として成長していく事を望んでいるはずです。個人の都合よりチームを優先させるべきです。なのになぜ、他のチームでは学校行事を優先させる家庭があるのでしょう。最初に書いたように、学校に野球部があります。なぜ、クラブチームを選んだのでしょう。どちらにもメリットとデメリットがあります。良い所だけを利用するのはチームやチームメイトに失礼です。
チームは選手はもちろん指導者、保護者が思いをひとつにして同じ方向に向かって行かなければ良くなりません。まして勝つ事は出来ないと思っています。新２、３年生は良い方向に向かっ

ていきつつあります。新 1 年生の選手、保護者の皆さんも段原クラブの考え方を理解してもらって、高い目標に向かって努力しつづけて下さい。自分の意思で段原クラブを選んだのですから、そしてせっかく良い選択をしたのですから。最後までひとりも欠ける事なく、良い選手、良いチームになる事を楽しみにしています。

それにしても中学校もチームやチームメイトのために学校行事を休むのですから、心よく頑張って来いと言って欲しいです。教育ってそういう事だと思います。

第４１話/2013.03.25

２４日（日）から試合が始まり、いよいよシーズンイン

昨秋から取り組んできたバットを強く振る、これは中心の２人を除いて出来た。特に１年生の３人は気持ちでも負ける事なく力を出していたと思う。何度も言っているが野球はメンタルスポーツです。いくら練習が出来ていても、その力を試合で出すためには頭と心が必要です。

段原クラブで中心を打つという事は、力があるという事です。その力を私が認めているという事です。もったいない、本当にもったいないと思います。

試合になれば自信とプライド、そして頭の準備です。打席に入れば「いつでもおいで」です。チャンスは相手のピンチこんな楽な事はありません。

自信がなければ、倒れるまで練習するしかありません。そしてプライドがなければ段原クラブのユニフォームを脱ぐ事です。力があるから重要なポジションを任せています。もっともっと苦しんで、大きくなって欲しいと思っています。

１年生の成長は早いですよ！負けるな２年生（新３年生）

第４０話/2013.03.18

プロ野球はオープン戦とＷＢＣも終わり、公式戦まであと少しです。段原クラブも練習試合は１７日(日)で終わり、理事長杯、リーグ戦、全軟予選と本番が始まります。

毎年５月までに試合が出来るようにしたいと思い練習や練習試合で選手を試したり厳しくしたり、誉めたり、怒ったり、色々な場面を経験させて、技術的にも精神的にも強くしていきます。

昨年秋から見ると１，２年生全員、力をつけてきました。練習ではスピード、パワー、テクニックどれをとっても充分勝負出来ないレベルに来ていると思います。１年生は試合でも持っている力をある程度出す事が出来る子供達なりました。残念なのは２年生です。前にも書きましたが、せっかく練習で身に付けた技術を試合で出せません。

私がベンチにいると本当にダメです。弱い・・・・。理由は色々あると思います。先日ベンチ入り２０名を子供達に一人一人書いてもらいました。1 年生は学年関係なく実力を見て書いてきました。２年生は一桁のレギュラー番号ほとんど 2 年生を書いていました。こういう所です。甘い考え方、私は常々「１～９番は学年関係なく力のある者が付ける」と子供達に言っています。ポジションは競争に勝ってつかむものです。

２年生は１２名、１年生は１８名最初から競争という意識に差があるように思います。３年生になれば背番号をもらえる、試合に出られる、そんな保障はどこにもありません。チーム内の競争に勝った者だけが相手チームと戦う資格を得るのです。仲良しお坊ちゃんチームでは戦えま

せん。
　段原クラブのユニフォームを着てベンチに入り、試合に出るからには責任とプライドを背負って下さい。特に一桁の番号を付ける選手はより重くなります。覚悟がなければ付けない事です。私も責任とプライドを持って３０番を付けています。
力は付いています。負ける気はありません。
後はあなた達の心ひとつです。

第３９話/2013.03.11

昨日、３年生の卒業試合とお別れ会がありました。
高校入試も終わり久しぶりに野球の試合を楽しめたと思います。段原クラブで指導している内容は、高校野球でなにひとつ困る事はないので自信を持って堂々と進んでほしいと思います。
今の気持ちを大切に！！いい顔してました。
今野球はＷＢＣです。超一流の選手達がなかなか力を発揮出来ず苦しんでいました。特に今回は２回連続優勝しているし、メジャーリーガーが出ない為より大きなプレッシャーを感じているはずです。そして野球の恐ろしさ、トーナメントの一発勝負では、力のあるチームが必ず勝つとは限らないところです。投手の出来で勝敗は変わります。台湾に苦しみながら勝った事により、やっと自分達の力を出せるようになりました。私がいつも子供達に言っている「野球はメンタルスポーツ(頭でやる)である」まさにその通りになりました。プレッシャーに勝つ、そして自分の持っている技術を試合で１００％出す、そのためには何が必要なのか、私が今ずっと考えている事です。苦しい練習だったり、試合に勝つ事だったり、１本のヒットだったり自信を持てるきっかけは選手それぞれと思います。前にも書きましたが、今年のチームはよく練習します。そして確実に力をつけています。でもそれが試合に中々出ません。よくよく考えたところ、プレッシャーの最大の原因は私ではないか、私がベンチにいる事が選手のプレッシャーになっているのでは、打たなければ代えられる、ミスをしたら怒られる、今年の選手はおとなしい良い子達、私が同じ空間にいなければ力を出せるのではないか、今そのように考えている。
チームのために、選手のために私に出来る事「押してもだめなら引いてみな」結果が出なければ何か変えなければいけない、私がいつも選手に言っている事です。
自分自身も変えてみようと思っている。

第３８話/2013.03.04

３月２日（土)、３日（日）山口ミラクルズクラブの大会に行きました。
廿日市シニアクラブの大会とも重なっていたので３日（日）はＡチームに選ばれなかった１年生１３名で参加しました。試合になるのか心配していましたが、全員が集中し２試合勝ちました。私は勝つ事にこだわった試合をあまりしませんが、この日は全員にチームが勝つためにプレーをするように指示をしました。１年生だから負けても当たり前だとか、勝てなくてもしょうがないとか、やる前からあきらめたような野球ではなく、がむしゃらに食らいつく野球を求めました。そして選手達は集中し力を出しました。全員を誉めてあげたいと思います。
１試合目に対戦した地元の中学校の野球部との試合の後、多分その学校の関係者と思われるお

年寄りが、段原クラブの保護者に対して私の指導、言動が間違いであり、教育委員会へ連絡した方が良いような指摘があったらしいです。

その点について私の考えを書きます。先に書いたように、この日の試合の目的は力不足の１年生が気持ちを一つにして勝つために全員が全力で取り組む事でした。私が試合中に厳しく指導して選手は、自分のヒットが欲しいためだけにプレーをしました。当然それが間違っている事を話し交代さえました。言葉も厳しくしました。なぜなのか、まず野球がチームスポーツだという事を伝える必要があります。次に選手の保護者もいたので状況がわかってもらえます。そして選手達は野球が上達したいから段原クラブに入部しました。

私は監督として正しい野球の技術と考え方を伝える責任があります。その為に必要な事であり、当然の事です。そして厳しく指導した選手は次にすぐチャンスを与えます。２試合目は先発メンバーとして使いました。これが私の指導の考え方です。

前にも書いたことがありますが、技術のミスは構いません。選手達は未熟なのですから。しかし考え方は間違ってはいけません。意識すれば出来る事をしない。逆に言わせてもらえれば、教育委員会は問題にしなければいけないのは、毎日、無料で使えるグランドがあり、人数もしっかりしていて野球部という看板を揚げているのに野球の技術も正しい理論も指導しない指導出来ない先生、指導者として勉強もしない先生、仕事ですよ！そして１年生だけのチームに負けてします事だと思います。中学校のクラブ活動がしっかりしていればクラブチームは無くていいのです。

私達は野球の指導は仕事ではありません。しかし責任を持って心を込めて生活の全てをかけてやっています。子供達を上達させられないチームは無いほうが選手のためです。私のやり方が正しいかどうかわかりません。毎日悩みが尽きません。選手達に厳する以上の努力と勉強を私はしているつもりです。

意見があればいつでも直接どうぞ、しかしまず、人の事より自分の足元をしっかりした方が良いと思います

第３７話/2013.02.27

疲れました。日曜日は東広島市に１日いました。

気温が低く、試合内容も寒くて身も心も凍りました。寒さとまだ 2 月という事で、沢山のミスが出るのは当たり前です。特に投手のコントロール、守備の送球手が温まらないので難しいと思います。ただ、頭の準備をすれば防げる可能性があります。ポケットにカイロを入れるとか、内野の守備位置を少し前にするとか、中継の位置を近づくとか、攻撃中にも体を動かすなど色々な方法があります。試合中、そのような工夫が見えません。バッティングでも体が冷えていればバットをいつもより短く持ちよりコンパクトなスイングで低い打球を打つ事を意識するなどやれる事があります。

段原クラブの目指している操り人形ではなく自分達で考えてする野球とは、グランド状態、風向き、太陽の位置、気温など試合に入る前の準備も含まれています。監督コーチからいちいち注意されなくても各自が考えて動き出せるチーム、声掛け合えるチーム、頭の中のレベルが高いチーム、そして選手になりどんな指導者に出会っても自分の頭で考えて練習し成長していけるようになって欲しいと思っています。私が選手達に常に言っている結果を出すという事は、そこにたどり着くまでにどんな事を考え、どんな工夫をし、どれだけ努力をしてきましたか？結局それまでの過程がどれだけ見えているかと言う事です。

確実に１歩ずつ力をつけてきている選手がいます。1 年前より半年前より１ヶ月前より１週間前より昨日より今日は変わろうとしたか、そして変わる事が出来たか、その為に何を考えて、何をしてきたのか、私はそれを見ています。それが結果を出して見せてみろと言う事です。脳が動かなければ体は動かないのです。考えて分からなければ指導者に聞けば良いのです。

子供達だけに苦労させる訳にはいきません。私も何かしようと考えました。明日から禁煙に挑戦しようと思います。タバコに手を出したら注意して下さい。

しかし私は自信がありません・・・・。自分には甘いので。早く暖かくなって欲しいです。

第３６話/2013.02.18

昨年のシーズン終了から今年の冬の間とにかくバットを振ってきました。

練習は打つ事しかやっていないという感じです。選手達の打球の速さ・強さは明らかに昨年の秋に比べて変わりました。フリーバッティングでも１ヶ所打撃でも、今までの３年生の打球と比べて全体的には今年の方が力強さを感じます。しかし、先週、今週の日曜日に対外試合をしましたが２年生はまったく（特に中心として考えている選手が）結果が出ません。

対戦相手の投手が良くて打てないのではなく、打ち損じた打球ばかりです。確実に練習によって力はついています。しかし試合では出せない。能力の高い選手ほど出せない。

原因はどこにあるのか？今までの指導経験の中で練習と試合でここまで別人のようになる選手が多い年は初めてで困惑しています。１年生はだいたい持っている力が出ています。試合後、力を持っているのにまったく出せていない選手数人に自分達がとても恵まれている事、それに甘えている事、君達のプレーでは人に心を動かせない事、身体能力に恵まれていない選手が本当に頑張っている事など保護者にも聞いて欲しいと思いとても厳しい話をしました。

私は彼らに長く野球人生を送ってもらいたいと思います。その為には今がとても大事な時なのです。彼らは高校野球はもちろんその先のステージでも勝負出来る素材だと思っています。

私も身体能力には恵まれていました。しかし自分に対する甘さで中途半端な選手で終わりました。せっかくの環境、出会いを大切にして欲しいのです。「出来るのに！！」君達は自分の思っている以上に力がついています。段原クラブの選手なのです。責任とプライトを強く持って胸を張って堂々とプレーして欲しいです。そんな思いが爆発して厳しい言葉になりました。

今日、月曜日冷静になってみると試合で結果が出ない責任を全部選手にぶつけた事を恥ずかしく思いました。指導者としての責任の方がはるかに大きいはずなのに、試合に力が出せないのは色々な理由があると思います。１人１人ちがうのかもしれません。

私も謙虚に反省し、選手達と共に泥にまみれて本物の力を身に付けたいと思います。そして選手達を信じていきたいと思います。

第３５話/2013.02.13

クラブチームの運営は、選手達の会費とスタッフ及び保護者の労力によって成り立っています。当然お金は必要です。しかしそれだけでは出来ない事があります。

荷物車の運転、練習中のネット・テントの設営、修理、審判、子供達の応援などたくさんの協力が必要です。段原クラブでは、保護者の当番がありません。出られる人！もっと言えば協力し

たい人にやってもらっています。当番を作る事により、無理をしたり、手伝えないために選手が入部出来なかったりそういう事が無いようにしたいのでそうしています。

土・日・祝日、仕事の方もいるでしょう。弟、妹がいて中々出られない方もいるでしょう。自分の休み、趣味が大事な方もいるでしょう。我が子の野球に関心のない方もいるでしょう。それは人それぞれなのでかまいません。しかし、貴方の子供を誰が面倒を見ています？練習の時も試合の時も誰か他人が必ず世話をしています。何が言いたいかというと、チームにそして保護者に感謝の気持ちがありますか？あれば「中々お手伝い出来なくてすみません。いつもお世話になりありがとうございます」の一言が自然に出ます。毎回、休みのたびにチームのために働いてくれている保護者に言いましょうよ。前夜飲み過ぎていても朝から頑張っている人がたくさんいます。

私は心から感謝しています。子供達とスタッフと保護者がひとつになって成長し戦うのです。極端な事を言います。チームはお金と労力がいります。労力が出せなければ金を出せ、でなければ気持ちぐらい表せという事です。もう一度言います。貴方の子供を他人の誰かが無償で面倒を見ています。気になりませんか？感謝の言葉、当然いりますよ。

子供達は本当に良く頑張っています。今年も来年も必ず良いチームになります。その練習を見て応援してあげて下さい。試合なんてどうでもいいです。子供達の成長、苦しみ、頑張り、色々な所が見られるのは練習です。くどいようですが、グランドに出て来いと言っているのではありません。

一言あれば済む事だという事です。心の問題です。

第３４話/2013.02.04

今の時期、小学校 6 年生が体験にやって来る。

毎年のことですが、私にはこの体験が良くわからない。前にも書いたがチームの何がわかるのだろ？私達が中学生の頃にはクラブチームなどはなく、住んでいる中学校の野球部に入部するしかありませんでした。そこが良いか悪いか、熱心な先生なのか、野球の指導が出来るのかなんて事は何もわからず、疑問を持つ事も不安を感じる事もなく、ただ大好きな野球が出来るだけで大喜びで中学に進学し入部しました。3 年間テレビで見るプロ野球選手と先輩を手本にして自分で考えて練習したものです。極端にいえばどのチームに入ろうと誰が指導しようと本気な選手は上手くなります。そうでない選手はどんな環境でも上達しません。まぁそうは言っても少しでも良いチーム、良い指導者、良い環境で野球をしたい、やらせたい気持ちはわかります。でも入ってみなければ本当の所はわかりません。指導者と選手の出会いは運です。どんなチームもどんな指導者も全ての選手に合う訳ではありません。結局本人次第なのです。

段原クラブはとても良いチームです。最も良い所は指導者の心です。私は全ての指導者の心を信頼しています。優しすぎるために勝負弱い所があるかもしれません。私はそれで良いと思っています。たくさんの子供達が体験に来てくれるのはとてもありがたい事です。これからも興味がある選手は何度でも参加して下さい。

しかし前にも書きましたが、入部するかしないかわからない選手より今いる選手が私は大事です。参加する限りは真剣にお願いします。

それから、その後の連絡を必ずするのが常識だと思います。入部しなくてもかまいません。他のチームに入部するのもかまいません。入部する時にはもちろん連絡しますが、入部しない場合体験に来たまま何の連絡もない選手が毎年います。わざわざ今いる選手の練習時間をさいて練習

をさせてあげたわけです。体験に来て頂いた訳ではありません。まして、小学校のチームでは教えてもらった事もないような技術、考え方を指導してもらえます。保護者の常識を疑います。今年もいます。まぁそんな事も出来ない保護者・選手には入部してもらいたくないですが、小学校のチームで何をしてきたのかと情けない気持ちになります。Ｕ東小学校のチームあなた達の事ですよ。毎年です。強くも上手くもなる訳ありません。

保護者の姿勢、考え方、思いが子供のプレーに出ます。野球が何より一番で、段原クラブを信頼してくれる選手・保護者が入部してくる事を楽しみにしています。段原クラブが良いチームなのは歴史と卒団生が証明しています。

私はチームに自信を持っています。

第３３話/2013.01.28

体罰がどんどん出てきました。

高校のクラブ活動の指導者でどきどきしている方は沢山いるのではないでしょうか？

今回の問題が大きくなり、私は色々な本を読んでみた。メンタルとは試合で持っている技術を発揮するためにそして練習の中でその技術を身に付けるために必要な物です。

私の年代はスポーツの練習は怒られるのが当たり前、親にも当然で誉められた記憶がありません。本を読むと全ての本が誉める事の重要性と怒る事のデメリットが書かれています。その考え方でやっていたら私はもっともっと上手くなれたのでしょうか？

毎日、練習を嫌々やっていれば上達はしません。それはよくわかります。明確な目標(短期・長期)をたて、計画性のあるトレーニング、そのトレーニングの意味、必要性も選手がしっかり理解してやる。やみくもに押しつけられた練習より上達していくのは当たり前です。

体罰が悪いのは当然です。自分の経験からも良くわかります。本を読んでいると全ての選手が向上心を持って心を込めて練習を取り組んでくれている事が前提で書いてあります。

しかしやる気もなく他の選手の練習を妨げるような選手に対して指導者はどう対応していくのか、きれい事、机の上の考え方だけで出来ない事も沢山あります。指導者としては大きな課題だと思います。

おかげで今の段原クラブの 1、2 年生は、本当に心を込めて練習をしてくれています。私は今、とても期待でもって楽しみにしています。

何が本当に正しいのか、技術もメンタルも時代と共に変化・進化しています。

高校野球の指導者の皆さんも、もちろん私も時代遅れの指導者にならないように日々、子供達より以上の努力、勉強が必要です。

第３２話/2013.01.17

体罰が問題になっています。

私達は人間を相手に指導をしています。当然言葉を話す事が出来て聞くことが出来ます。書いた文字を読むことが出来ます。私は常に人間なのだから、言葉・文字で伝わるはずだと子供達に何度も何度も言い続けています。

それにもかかわらず、チームの決まり事、意識すればだれでも出来る事をやろうとしない選手

がいます。気の抜けたプレーでチームに迷惑をかける選手がいます。たった一人の選手のせいでその他全員の選手が集中し、懸命に努力してきたものを台無しにしてしまいます。やろうとして出来ないのではなく、やろうとしない選手がいます。

最初に書いたように何度も何度も言葉で説明してもです。その場合、私は今まで 1 年間に 2，3 度体罰をしました。平手で頬を叩きました。お尻を蹴った事もあります。良い事だと思ったことは一度もありません。その夜は中々眠れません。しかし私にはそういう選手が許せません。

段原クラブは本当にみんな良い子供達でまじめに練習をします。その子たちの足を引っ張られるのが我慢出来ないのです。野球というスポーツは一人勝つ事は出来ませんが、一人で負けることが出来ます。たった一人の心無いプレーで頑張ってきた子供達が嫌な思いをしなければいけません。それを防ぐために、当然何度も何度も人間の言葉で伝えようとします。それでも伝わらない時に手を出しました。もう一度言います。やろうとして出来ない選手ではなく、あくまでも最初からやろうとしない場合です。

今回高校にクラブ活動で問題になっている体罰、あれは教育ではなく調教です。広島の高校野球でも時々聞きます。人を何回も何回も叩く事が出来る人間は異常です。教育者以前に犯罪者です。学校の敷地の外でやれば傷害で逮捕されます。

スポーツは修行ではありません。楽しくないと意味がないのです。もちろんルールはあります。チームの中にもあります。精神論を語る指導者ほど叩いたり、負けたら走らせます。そんな事で野球は上手くなりません。あくまで技術の勝負です。指導者は技術力を伸ばすのが仕事です。練習は技術力の向上に努める場です。試合で出来ないのは指導者の力不足です。ですから選手達にペナルティーを与えるのは間違いです。

私は今度、体罰ではなく練習の場から排除し、チームと他の選手に迷惑がかからないようにしようと思っています。私が望んでいるのはチーム全員で心を込めて楽しく野球し技術を向上させる事、試合に勝てればなお良いと思います。せっかくの休日１日楽しくやりたいです。

高校野球の選手達、楽しくやろうよ、上手くなるよ。

第３１話/2013.01.07

１月２日、段原クラブ恒例のＯＢ戦が行われました。

なんとＯＢ、現役、保護者、スタッフ総勢１９４名が参加しました。まず、準備から片付けまでやっていただいた現役の選手、保護者の皆さんに心から感謝します。本当にありがとうございました。年末に書いたように、高校、大学の選手達が少しでも本来の野球の楽しさを思い出すきっかけになってくれればいいと思います。

社会へ出て野球から離れた選手も、とても楽しそうにプレーしてくれていて見ていて心地良く私も楽しめました。午前中、仕事を終えて駆けつけてくれた者や、東京など遠くから来てくれた者、奥さんや子供連れの者、全員に心からお礼を言います。

本当に楽しい１日を君たちのおかげで過ごせました。ありがとうございました。来年もぜひ来てプレーして下さい。全員が楽しんでもらえるように試合方式なども考えていきます。良いアイデアがあれば知らせて下さい。現役の選手達も特に大学、社会人の選手達の力強さ、スピード、見習う所がたくさんあったと思います。誰でも可能性を持っています。ＯＢも含めて全員で夢に向かって努力していきたいと思っています。

今年の練習も始まりました。２年生の皆さん勝ちたければ、肉食動物に変わりなさい。１月２

月の２ヶ月、別人になって向かって来い。君達の野球人生の大きな１年になると思います。
みんなで変わりましょう。

第３０話/2012.12.26

少年野球もオフシーズンになり 6 年生が、そろそろ体験に来たり入部したりする季節となってきました。
段原クラブは体験会のようなものはしません。なぜかというと入部するかしないかわからない選手のために現部員の練習時間をとられたくないことが一番の理由です。それからたくさんの人数でやる体験練習では、本来の練習とちがい(入部してもらうためにいつも通りの練習はしないのではないか？)意味がない。いつも通りの練習の中に入って(少ない人数で)はじめて体験練習といえると思う。そしてなにより多くの選手に入部して欲しいと思っていません。たくさん入部すれば、試合に出られない選手が増えるだけである。練習の数も少なくなる、部費が増える以外にあまり良い事はありません。
聞くところによると、良い選手がいると個人的に勧誘するチームもあるらしい、私には信じられない、そんな事をしてなんの意味があるのだろう、勝ちたいから？
指導者として声をかけた選手、そうでない選手、同じように対応出来るのだろうか。それでは高校野球と同じである。小学生の時からスーパースターで結果を出して来た選手！私にはどうでもいい事である。
段原クラブと私達の指導力を信じて、入部してくれればそれだけで充分です。野球の実力などどうでもいいのです。それこそが指導者として力の見せどころです。
以上のような事で段原クラブは個人的に選手の勧誘などはしない。ぜひ１度練習の体験に来て下さい。連絡をいただければいつでも結構です。　そして、心の底から野球大好きな少年、真面目に一生懸命に練習する少年、まゆ毛を剃ったり、学校生活がいい加減だったりしない少年、私は、そんな子供達と一緒に野球がしたいと思っています。
ある高校の監督が真面目で勉強が出来る選手はここ一番の場面で力が出せないと言っていた事がありますが、真面目でなにが悪い。私は指導者とはそういう選手の技術をしっかり伸ばして結果を出させるのが仕事だと思っています。
いよいよ 1 月 2 日は恒例の OB 戦です。みんなの元気な姿を見るのが楽しみです。原点に戻って高校生以上の現役の選手に野球本来の楽しさを思い出して欲しいと思います。

第２９話/2012.12.17

毎週書いているが、新チームになって打てない試合が続いている。段原クラブは、バント、エンドラン、盗塁、スクイズなどサインがありません。
とにかく打つ、フルスイングをする。特にストレートには遅れない。強く速くスイング出来る選手を育てる事を目的に練習、試合をしています。
今までその方針、考え方である程度結果を出して来ましたし、高校進学後の選手達も活躍しています。
しかし今年の２年生は打てない。土曜日２年生も２年生も１試合づつ試合をした。私はベンチ

をコーチに任せ、色々な角度から試合を見ました。
　私が思った１番の問題は、ストライクゾーンが間違っている事、ボール球を振りすぎである。特にインコースは来たボールは何でも振る当然ファールになる、そして追い込まれて又ボールを振って凡打、三振する。私は考えました。「押してもダメなら引いてみろ」です。
　強く振る、速く振る、ストレートに遅れない。これを子供達は右打者はレフト、左打者はライトに引っ張ると理解しているのではないか、その為に体重はかかとにかかりステップ、体が早く開き、インコースのボール球を打ちにいってしまう、外のボールを見逃す、こういう流れになっているように思う。
　そこで、日曜日の練習から、力を抜いて、グリップ、ひじ、ひざ、体中の関節を柔らかく使って打つという事をやってみました。少しいい加減に打つぐらいの気持ちで、いろいろなコース、高さにくるボールに対して柔軟に対応していく、バッティングを練習していこうと思います。
　バッティングは、これが絶対正しいという打ち方は無いと思います。前中日監督の落合さん教えても中日は打てるようにならなかったのと同じで、全ての選手の感覚が違うので色々試して、その中で選手達が自分で見つけてくれれば良いと思う。とにかく今は打てないのだから何かを変えなければいけない。柔らかく強く振れば、当然それが一番良いのですが。
　指導者は諦める訳にはいきません。この冬は子供達ともがきます。いい春を迎えるために。

第２８話/2012.12.10

　土、日曜日、本当に寒かった。
　グランド状態もあまり良くなかったが、みんなの協力で練習する事が出来ました。
　新チームになって打てない試合が続き、いろいろな原因を考えさまざまな練習を試みてきました。土曜日の練習で全員のスイングをじっくり見ました。
　そしてハッキリした事がひとつ！！
　完全にスイングのスピード、力強さが不足しています。
　今まで技術的な事、精神的な事いろいろと理由原因を探り練習をしてきましたが、一番の基本、根本、バットを強く速く振る能力が足りないのです。何をやっても結果につながらないはずです。
　この冬は体作りからです。たくさん食べて体重を増やしながら。しっかり練習してパワーアップとスピードアップを目指します。
　食事も大事なトレーニングだと全員が自覚して体重 5Kg アップして欲しいと思います。(3 月までに)
　そして数多くバットを振る事も大事だが、1 回 1 回心を込めて全力で振る事を心がけ内容も濃くする必要があります。1，2 年生の練習を見ているとがむしゃらさや、迫力は感じないが真面目に一生懸命に取り組んでいます。
　これがもう一つ心のランクを上げて後先を考えず、その時を全力でバカになって練習に向かって来るようになれば、彼らは殻を破り良い選手、良いチームになっていけると思う。
　これからの 3 ヵ月、選手達の野球人生のとても大事な 3 ヵ月です。自分に厳しく、春にはみんなで心も体も大きく強くなりたいです。

第２７話/2012.12.03

土、日曜日大会でした。
抽選に恵まれて４試合した。相変わらず打てなかったが、ベンチに入れた全員を試合に出す事が出来全員自分の課題がわかったと思う。
ピッチャーはコントロールが必要だし、野手は守備、走塁、打撃全て力不足な事が身にしみたはずである。この冬は相当な練習をしなければ勝負出来るチームにはならないだろう。選手が本当に勝ちたいのかは心の持ち方で練習が変わると思う。
私は３位決定戦に価値を感じないので全て控えの選手を使った。当然レギュラーがベンチにいる事になる。試合中ベンチにいる選手が何をするのか、何を言うのかいつもずっと見ている。
土曜日に泣くまで怒られたキャプテンが、本当に心を込めてベンチの仕事をしていた。嬉しかった。そして、他の選手の無さにがっかりした。
私はキャプテンの為に全力を尽くす。
寒い雨の中、やっと試合に出られたメンバーは力ないが心を込めて野球をしてくれた。それを見て感じるもののないレギュラー達、勝てる訳がない。
試合に出る喜びを無くした者は上達しない、当たり前ではないのである。
心のある選手と心を込めた楽しい野球がしたい。私は日曜日、雨の中つくづく思った。３位決定戦に出ていた選手達、そしてキャプテンに感謝！！

第２６話/2012.11.26

子供達の指導をするようになって２５年 最大の壁にぶつかっています。
今年の３年生は、それなりの取り組む姿勢の選手が多かったのでそれなりの成績であたり前でした。新チームになり１、２年生は、ほとんどの選手が真面目でよく練習しています。しかしそれが試合に結果として出ません。
特にバッティングです。練習を見ているとまずまずバットを振れる選手がいますが、試合なると別人のようなスイングをします。特に中心としてチームを引っ張ってくれると期待していた選手ほど内容が良くありません。精神的な弱さと簡単に片付けていいものか？それとも技術的に未熟だからなのか？プレッシャーをかけているつもりもありません。練習の内容が間違っているのか？しかしこれまでの選手は打っていました。色々試してみましたが変わりません。本当に困りました。
有難い事にシーズンオフになります。もう一度基本からやり直す時間があります。１２月、１月、２月、３ヶ月間、もがくしかないと思います。
ひとつ気になる事は、２年生の自己評価で長所は優しい事だとほとんどの選手が言った事です。ユニフォームを着てもおとなしくて優しい子は勝負に勝てません。グランドでは肉食動物の眼に変わって欲しいと思います。
自チームの監督やコーチの顔色をうかがいながらではなく、相手チームと戦う選手、堂々と自信満々な態度・表情で打席、マウンドに立つ選手と一緒に野球がしたいです。
いつも子供達に言っています。「試合に勝つ事はそれほど大事な事ではない。勝つ為に技術を向上させるために努力する事、そしてそれを試合という発表の場で全てを出す事、それが大事な事である」と段原クラブとはそういうチームです。だからサインはいらないのです。
選手のみんな段原クラブのプライド、自信、誇り、責任、体中にみなぎらせてギラギラした野

球をして下さい。

第２５話/2012.11.19

今週はとても怒っています。
日曜日に大会があり開会式がマツダスタジアムでありました。しかし予定されていた試合はさせてもらえませんでした。
私は前々から使用する事は反対でした。なぜかというと、野球場なのにスパイクを履かせてもらえない、靴で野球をさせられます。
意味がわかりません。ただただグランド整備をする人達がラクをしたいだけです。所有者は誰のでしょうか？広島カープではありません。広島カープは管理を委託されているだけで市民の財産を市民の好意で優先的に使わせてあげているだけです。
なにか勘違いしていませんか？
本来なら子供達のために雨が上がればなんとか試合をさせてやろうと、精一杯グランド整備をするのが当たり前だと思います。
それがプロ野球の球団として、まして地方球団が地元に密着して、愛され応援されていくために必要な事だと思います。野球をしている子供達のために、グランド整備などの仕事が出来ないなら野球に関わらない方がいいと思います。
日曜日は他にも沢山のグランドを使用しましたが、全て朝早くから保護者、選手がグランド整備をして、とても良いグランド状態で試合が出来ました。
なぜ一流のマツダスタジアムだけが出来ないのですか？底辺の少年野球があり、頂点のプロ野球があります。もし広島カープそして選手がグランドをアマチュアに使う事を嫌がっているとしたら、これからも優勝する事はないと思います。

甲子園はシーズン中に高校生に何週間も使わせますが、阪神タイガースはそして選手は何も文句は言いませんよ。今の姿勢のままなら私はマツダスタジアムで高校野球も少年野球もやるべきではないと思います。
球団の皆さん、ラクをしないで仕事しましょう。市民の球団でしょ。マツダスタジアムは市民の財産です。そして少年達は国の財産、プロ野球の財産です。
私は怒っています。
話は変わりますが、年賀状の協力ありがとうございました。個人のノルマを達成しました。皆さんのお陰です。感謝します。しかし班のノルマがまだまだあります。これからも受け付けています。

第２４話/2012.11.14

段原クラブ初の合宿を１１日（土）、１２日（日）２日間行った。
目的はバッティング、とにかく数多く打つ事。
日曜日の午前中は雨のため室内でバトミントンの羽根とプラスチックのボールを打つ事になったが、土曜日は約８時間、日曜日は３時間グランドでバッティング練習が出来ました。

とにかく練習するための環境が素晴らしく、久しぶりにプロ野球のキャンプ並みの内容でとても満足しています。子供達も最後まで集中していて、お金と時間と保護者の協力を使った甲斐のあった合宿でした。

１日目はスピードや力強さを感じなかったスイング、打球が、２日目の午後の練習では明らかに打球にスピードと強さが出来てきました。つくづくバッティングは本気で数多く打つと力がつくものだと思いました。

普段の練習では、なかなかそれだけの数を打つことは難しいのですが、今回の合宿のように集中してバットを振ると確実に上達していきます。

毎回、同じグランドで同じメンバーで同じ練習だと新鮮な気持ちを持てず、つい気を抜いてしまう事があると思います。

指導者としては、練習内容を工夫して子供達が常にワクワクして練習出来るようにする必要を感じました。初めての事で保護者の方々には金銭的な負担と労力の協力をして頂きました。ありがとうございました。

合宿に来て練習を見て頂いた方にはわかって頂けたかと思います。確実に子供達にとって有意義な２日間でした。私としては春にも合宿をやりたいと思っています。又、負担をかけるとは思いますが、協力お願いします。

しかし、本日私の体はボロボロ、クタクタです。久しぶりに心地良い疲れです。本当に良い練習が出来ました。施設の皆さんにもお世話になりました。

心から感謝します。ありがとうございました。

年賀状の協力ありがとうございました。しかしノルマ達成まで残り１５００枚、まだまだお願いします。

第２３話/2012.11.5

新チームになって点がとれない。

打てない、全く打てない、たぶん段原クラブ史上最も打てないと思う。

打球が外野まで飛ばない、バッティングの数は今まで以上に打っているのに飛ばない。普通の打撃練習では、段々バットが振れてきたように思うのだが、試合形式の練習になると前に飛ばない。

一番の問題は、ストレートを狙ってストレートに振り遅れる事である。

何故なのだろう。

変化球で泳いで三振してもかまわないので、とにかくストレートに遅れないようにと言い続けているが、ほとんど振り遅れて打ちとられる。投手のスピードに関係なく遅れている。

何が悪いのだろう？今まで中心選手まで全員がこんな状況になった事がないのでわからない。

単純に振る力、スピードがないのか？バットの軌道が悪いのか？タイミングをとる能力がないのか？ポイントがわかってないのか？ストレートを狙っているつもりでも出来ないのか？野球に向いていないのか？こんな事まで考えてしまう。

私なら打席の位置を変えてみる、バットを短く持つ、上半身を止めてバットを先に出す感じで打ってみる、振り出す時の力感をなくしコンパクトに振ってみるなど色々工夫して練習する。当然、ティーバッティングで速打ちをしてスイングスピードを上げる。

今書いた事は全て何度も話をしている。しかしやっているように見えない。いつも同じ位置に

立ち、同じようにタイミングをとり、同じようにバットを長く持ち同じように振り遅れる。そして同じ練習をする。理解出来ない。

わからなければ聞きに来なさいと言っているが、今年は誰も来ない、そして出来ない。野球が上達したければ数多く練習しなければいけない。それも身体能力がずば抜けていなければ、誰より数多くやらなければならない。しかし何も考えず意識もせずただバットを振ったりボールを投げたり、捕ったりしても時間がいくらあっても足りない。

まず考える、工夫する、色々な事を試す、質問する、意識する、私がいつも言っている事ですが、野球は先進国のスポーツです。頭の中身を使って練習、試合をした選手が勝ちます。

選手達、もっともっと野球の技術について考える時間を持って下さい。

第２２話/2012.10.29

何年も我慢して来ましたが、あまりにひどいので書きます。審判の話です。

当然アマチュアなのでミスをします。間違えます。そんな事は最初から分かって試合をしています。それにしても広島の西部地区は高いボールをストライクにとり過ぎです。私はルールブックを見直してみました。ベルトと肩のの上部の中間、決して脇の下ではありません。大体、打ちにいった姿勢のヒジの下のあたりだと決められています。

審判の講習会では高めをストライクにとるようにと指導されるとも聞きます。なぜなのでしょう。ストライクゾーンを広ければ、当然試合時間は短くなります。

ほとんどの試合は時間制限がある中でやっているのたから意味があると思えません。

私達は投手に低く投げる事を指導しています。しかし試合であきらかに投げそこない高めに抜けたボールをストライクに判定してしまえば投手は勘違いしてしまい上達を妨げます。

バッターも明らかにボール球を打ちにいかなければいけなくなりバッティングを悪くします。私には百害あって一利なしにしか思えません。

子供達のレベルを上げるためには、まずストライクゾーンをしっかり正しく判定してあげる事だと思います。自分の判定をビデオにとり、確認するべきだと思います。子供達は本当に真剣に練習・試合に取り組んでいます。それに関わる大人もボランティアという言い訳に逃げずレベルアップするため努力するべき（指導者を含め）だと思います。

父親たちが審判する事もあると思いますが、まず自チームの練習の中で判定の練習をして、子供達のため努力するべきです。そして間違いはあります。間違ったら素直に認め、謝り、判定を変えれば済む事です。間違えは正す、当たり前の事です。

アマチュアだから、ボランティアだからしょうがない、それは子供達と同じように努力してからの話です。まず自分の判定を映像で確認して欲しいです。心の底からお願いします。みんな子供達のためにやっているのですから。

きっとこういう事を書いたり言ったりすると快く思わないと思います。でも誰かが言わなければいけません。まず大人達全員が誰のためにやるのかしっかり考えるべきです。

大人の都合はどうでもいいです。子供達の都合が全てです。

第２１話/2012.10.22

緊張して自分の持っている力が試合で出せない。
相手チームと対戦する前にプレッシャーに負けてしまう。
１、２年生は本当によく練習していると思う。特に今は試合に出る前に自チームの中の競争に勝たなくてはならない時です。はっきり言ってレギュラーは１人しか決まっていません。
結果が欲しい気持ちは良くわかります。でも、今のような精神状態では身に付けた力を出す事が出来ず、毎日の努力がムダになるとは言いませんが、本当にもったいないと思います。
今、私が試合で見ている事は結果ではなく、もっと根本的な事です。
投手はストライクが取れるか、牽制、クイック、ベースカバーが出来るのか、そして一番はバッターに向かっていく気持ちがあるか。
バッターはまず強く速いスイングが１球目から出来るか、変化球が振れるか、ストレートに遅れないか。　守備は思い切って前に出てこれるか、強いスローイングが出来るか。
ヒットを打つとか、相手をおさえるということは、まだ望んでいない。見ているのは可能性であり、がむしゃらに前に出ていく気持ちです。そういう選手で戦いたいと思っている。おとなしい良い子は試合で戦えないのである。ユニフォームを着たら肉食動物のようになって欲しいと思う。
来年の春までは、みんなにチャンスを与えます。練習して力を見せて下さい。
話は変わりますが、今年も年賀状の季節になりました。大変なノルマを与えられています。電話でけっこうです。現役、ＯＢの皆さん協力をお願いします。

第２０話/2012.10.15

新チームになって約２０日、初めての新人戦が日曜日にありました。
結果は大野シニアに２−０で勝ち、広島スターズに０−１で負け、点が取れなかったのは私の思っていた通りでした。
失点が予想より少なかった。これは、投手が良かったのではなく相手のバッティングが悪すぎたためである。練習してきたバント処理、捕手のスローイング、ランダンプレーが出来ない。状況を考えた、投球、配球、守備、言い続けているがまだまだ頭が働かない。
いつも子供達に言っている「技術的なミスは未熟なので構わないが、考え方のミスはダメである。わからなければ聞きなさい」が出来ない。出来るまで言い続けるしかない。
点が取れないだろうと思っていたが、中心打者がここまで内容が悪いとは思わなかった。旧チームから試合に出ていた選手である。
原因はどこにあるのか？本人も指導者もしっかり考える必要がある。
私は新チームになりキャプテンを決める時に、この選手達がチームの中心として自分が引っ張っていくという気持ちが見えなかった時に精神的弱さを感じた。ここ一番であまり頼りにならないかもしれないと思いました。
野球はよくチームスポーツといわれます。しかし私は 1 人のスーパースターで小・中学校の野球は勝てると思っています。「自分の力でこのチームを勝たせてやる」、「俺が打って勝つ」、「俺が絶対打たせない」これぐらいの気持ちを持っている選手が私は好きです。
最後、試合はメンタル勝負、いくら練習しても、力をつけても、試合で出せる心、精神力です。自分自身で強くなるしかありません。楽しみであり、不安であります。
話は変わりますが、フルスイング塾がＲＣＣ中国放送の取材を受けました。「元就」という日曜

日の１１時４５分からの番組です。アンガールズの山根さんが練習しました。
　１１月２５日（日）の放送です。お楽しみに！！

第１９話/2012.10.10

　１０月７日 日曜日、３年生の卒団式がありました。
　今のところ一度も入部して選手全員が卒団を迎えられた年がありません。入部する時に最後までやりますと親子で約束するのに退部する選手がいます。
　親の責任です。退部するのには親の了解がいります。約束したのに親が破ります。
　皆さん、親としてしっかりしましょう。

　卒団式は毎年つらい日です。今年は想うような成績があげられず、選手達に申し訳なく思っています。卒団生の言葉はどれもありがたいものばかりでした。
　聞きながらずっと今の気持ちで野球に取り組んで来ればもっと良い結果が得られたはずです。今の気持ちを忘れないで欲しいと思います。
　これからの半年間が一番うまくなります！高校に入るまでに少しでも貯金が出来るように練習に取り組んでください。
　高校野球秋の中国大会にＯＢが２人出場します。他の先輩達も頑張っています。今しっかり力を付ければ高校野球のスタートで差がつけられます。
　もう一度言います！
　今の気持ちを忘れずに感謝の心を持って野球してください。必ず良い結果が待っています。

第１８話/2012.10.01

　９／３０（日）総会が終わり本格的に新チームがスタートした。
　今年のチームが６月をピークにチーム力が落ちていった原因をしっかりと考え、練習内容、指導方法をもう一度見つめ直し、同じ失敗をしないチームづくり、及び個々の能力アップをしていきたいと思う。
　特に１、２年生は守備のスピード、正確性に欠けるのでこの秋は守備の練習に時間を多く割くことになりそうです。私はあまり好きではありませんが、あまりにもレベルが低いので子供達のこれからの野球人生を考えた時、守備練習が必要だと思います。
　３年生はこれから高校選び、受験である。出来るだけ身の丈にあった（試合に出られる）高校に行って欲しいと思う。その為には選べるだけの点数が必要になる。
　どうなることやら。今年は試合内容と同じようにピンチがたくさんありそうです。出来るだけ力になりたいと思っていますが、進学後きっちりと３年間、野球及び高校生活を全うして欲しいと思います。それが段原クラブ及び後輩たちのためになるのだから。
　話は変わりますが、広島県には公立高校の普通科でしっかり野球が出来る高校がありません。島根県の浜田高校、大社高校、山口県の岩国高校、岡山県の城東高校、他県にはあるのになぜ？
　指導者の問題なのか？グランド環境の問題なのか？選択肢がたくさんある方が子供達のためになると思うのですが、とても残念です。

第１７話/2012.09.24

9 月 22 日(土)に 3 年生最後の試合が終わった。
やはり当たり前の事が出来ない 1 年間だった。初回から送りバントを 2 塁手の 1 塁ベースカバーが遅れオールセーフにし、3 塁・本塁ではさんだランナーを送球ミスで帰す。その後、キャッチーのパスボールで 2 失点。やっと 3 点とって逆転しても、5 回に 1 死から 1 番打者を歩かす、2 番打者のショートゴロの送球を 1 塁手が落球、またもエンドラン失敗で 3 塁・本塁にはさんだランナーをアウトに出来ない。2 死 2,3 塁から前の打席にストレートを打たれた 4 打者にまた 2 ボール 1 ストライクからストレートを打たれ逆転負け、全て何度も何度も練習してきた事が最後まで出来なかった。
今年はずっと、なぜわからないのか？なぜ覚えられないのか？そればかり考えてきた。考える力や覚える気持ちがないのかと思っていた。負けた日一晩考えてみた。もちろん今年の選手の能力に問題があった事は間違いない。
しかし、それだけではなく私の指導にも大きな問題があったように思う。最近、コーチがしっかり指導してくれる事と、私の体力、気力の衰えなのか、グランドに立ち子供達に 1 対１でじっくり指導する事をおろそかにしていたように思う。
イスに座って偉そうにふんぞりかえって指導していては何も伝わらないのだ。子供達も本気にならない。　もう一度、初心に帰って、子供達と一緒に汗をかき、口だけではなく体を使っていこうと思う。まずは自分が変わらなければチームは変わらない。
ちなみに昨日半日の練習で私の体はいろんな所がパンパンです。久ぶりに心地の良い疲れを感じています。

第１６話/2012.09.19

９月１７日（祝）海田運動公園で練習及び江波中との新チームの練習試合をした。
天候があやしかったが、なんとか１試合目は出来た。しかし２試合目の途中から強く雨が降り出し、２試合目は中止になった。その時点で３年生はフルスイング塾に移動してバッティングして練習を上がるように指示した。
１時間程けっこう強く雨が降りグランドは水びたし、それでも私は雨さえ上がればなんとか出来るような気がしていたので１、２年生は待つ事にした。雨が上がり、保護者の方の努力もあり、その後練習することが出来た。保護者に感謝！！
今週の土、日曜日は運動会の中学校が多く、休んだ選手が多かった。紅白戦形式の練習をしたが、休んでいた選手はまったく結果が出なかった。たった１日、２日でも練習は嘘をつかない。本当によくわかる１日だった。
１年生の中で入団した時は、ボールが当たるとバットがもどる程、力のなかった選手がいる。しかし、その選手はチームで１番バットを振っている。半年で外野まで打球が飛ぶようになっている。バッティングは振った数、打った数だとつくづく思う。
練習が終わりに近づいた頃、３年生３人が戻ってきた。何？と聞くと、もっと練習したいので戻って来たそうだ。１人でも２人でも本気の選手がいれば、指導者はそれに答えなければいけな

い。
　こんな事で私は今日１日一生懸命やって良かったと気分が良くなった。
　今週３年生最後の試合、彼らの力が全部出せる事を望みます。

第１５話/2012.09.10

　私は監督として選手にとても甘い。
　なぜかと言うと、人は失敗をすると思っているからです。その失敗の中から学び、成長してくれると信じているので何度もチャンスを与えてきました。
　口では使わないと言っても必ず試合に使ってきました。子供達はその事をわかっているのでなめていると言われた事もあります。
　それでも私は、必ず思いが伝わると信じてきました。今年も同じように何度も信じてきました。しかし今年のチームには伝わらなかったかもしれません。
　なぜのか？春からずっと考えてきて私なりに結論を出しました。
　結局私は子供達から信用、信頼されてなかったのだと。そのような人間が何かを伝えようとどんなに必死になっても、受ける側にその気がなけれは何も伝わりません。
　その結果、今年の段原クラブは春からチーム力が伸びる事が出来なかったのだと思います。聞く気がないのだから覚えない、やらない、そして同じ失敗を繰り返し負ける。そんな 1 年だったように思います。だから私から見ると考えられないミスが毎試合出たわけです。
　昨年までの段原クラブは最後の試合が一番強いチームでした。今年は 5 月がピークであとはチーム力が落ちてきました。練習しているのにあり得ない事です。
　その全ての原因に私が子供達(3 年生)に、必要な人間ではなかったからだと思います。
　指導者として同じ失敗を繰り返さないように、コーチ達ともしっかり話をして、新チームに望みたいと思います。
　3 年生は残り 1 大会(22 日、23 日)3 年間の集大成です。力の全てを出して欲しいと思います。最後、ジャマだけはしないようにしようと思っています。
　1 年間ひとりで全てを背負って頑張ってきた休のために勝ちたいです。

第１４話/2012.09.05

　9/2(日)試合形式（紅白戦）の練習をした。
　段原クラブは攻撃のサインも、投手の配球のサインもベンチからは出さない。自分達で考えてやるようにしている。分からない時は、聞きに来るように言ってある。
　状況判断の基準・考え方は、何度もミーティング・練習・試合の中で話している。しかし、今年は考えられないプレーがとても多い。
　１点差 2 死 2 塁の場合、四球を出しても構わないから２ストライクを取りにいかない事、まして２ストライク後はボール球で勝負する事、何度も何度も繰り返し言ってきました。
　それでも、２ストライク０ボールの場面で、ストライクゾーンにかまえる捕手がいた。
　なぜなのか、私には全く分からない。
　日本語（言葉）が通じないのか？覚えておくことが出来ないのか？最初から話しを聞いていな

いのか本当に理解出来ない。
　なぜかと聞くと黙っている。外野手の守備位置の移動も、間違っていいから思い切って動くように何度も言っている。
　自チームの選手相手なので、打球方向の癖は分かりやすいはずである。それでも、動かない。脳が停止している。何度も何度も、本当に何度も言っているのにである。全く分からない。
　私は、子供達の技術的なミスは、何とも思わない。ヘタなのだから当たり前である。しかし頭のミスはしてはいけないと思っている。それは教えているからである。
　なぜ、覚えらえないのか？それとも覚える気がないのか？本当に野球が好きなのだろうか？上手くなりたいのだろうか？勝ちたいのだろうか？
　今年は、本当に伝わらない。
　練習は変わるため、出来ない事を出来るようにするためにやる。そして、試合はその身に付けた事を発表する場所です。
　野球というスポーツは、脳を停止させてバットを振ったり、ボールを捕ったり、投げては良い結果が出ない。先進国のスポーツなのである。
　小学生の頃に全て指示されて、あやつり人形のように野球をやってきた子供達は、自分で考える・覚える・工夫する力がないように思う。野球は、頭と下半身でやるスポーツである。
　ある人から聞いた話で、「話しを聞く側にその気がなければ、何を話しても無駄である」がその通りだと思う今年である。

第１３話/2012.08.28

　段原クラブは広島市軟式野球連盟に登録している。
　連盟主催の大会は高校野球と同じように春と夏に２回ある。夏の大会は４月の終わり頃始まり８
月終わり頃の全国大会で終わる。
　春の大会は本来、秋から予選が有るべきなのに今年は７月７日から始まった。高校野球でいえば
夏の甲子園の前に新チームの大会があるという事である。
　おかしいと思いませんか。？
　なんでそんなに早くやるのか質問しました。グランドの都合だそうです。
　連盟は誰のためにあるのでしょうか？選手のためではないのでしょうか？
　いつも大人の都合が最優先。雨の中試合をさしたり、他の大会では中止になると抽選で代表を決
めたり、いつも大人の都合ばかり。投手の１日７イニングまでのルールなんて常識のある指導者な
ら必要ありません。
　１日２試合までのルールも一人の選手が２試合までにすれば簡単な事です。あまり試合に出られ
ない選手にもチャンスが出ます。
　なぜ本当に子供達の為に考えられないのでしょうか？
　みんなで誰の為なのか良く考える必要があると思います。新チームの大会は夏の全国大会が終

わ
ってからが当たり前だと思います。

第１２話/2012.08.20

段原クラブは入団の時に約束してもらう事がある。
まず、辞めない事、毎日ストレッチをする事、そして野球ノートを毎日書く事。
このノートは 1 日 1 回野球の事を考える時間を作る事が一番の目的です。もちろん、グランドで練習した中で出来た事、出来なかった事そして、それはなぜなのか、意識しなければならない事、覚えなければいけない事、技術的な事、精神的な事など、なんでも良いから書く事により、覚えやすくなります。そして振り返って読み返す事でまた、身に付けやすくなるなど、色々な良い効果があると思っている。
私も高校時代、プロ野球選手時代ノートを書いていました。今でも時々読み返す事で指導の参考にしています。
先週末 3 日間大会がありました。今年のチームは集中出来る試合とまったくダメな試合がはっきりしています。日曜日はまったくダメな日でした。
試合後のミーティングで「今日ノート提出」と言われたら出せる人を聞いたところ、3 年生はほぼ全滅でした。昨年の秋、まったく勝てなかったチームが、一冬越してなんとか全軟の県大会にも出場できて、どんなチームとやってもある程度の試合が出来るようになりました。本当に上手くなったと思います。
しかし今年のチームはここまでです。誰でも出来るあたり前の事、やろうと思えば出来る事、チームの約束事をやらない 3 年生は、結局この程度までしかなりません。段原クラブの組織の力で普通以上の力はつきます。ある程度は勝てるようになります。しかし今年はここまでです。
先週書いたように、親の責任です。一緒に約束したはずです。なぜ、ノートぐらいたった 1 日、5 分から 10 分やらす事すら出来ないのか、当然それ以上の事をやっているはずありません。
保護者の皆さん、しっかりして下さい。団体スポーツは一人で勝つ事は出来ません。しかし一人のいいかげんな人間で負ける事があります。段原クラブのユニフォームを着てグランドに立つのなら、親子共々プライドと責任をもって欲しいと思います。

第１１話/2012.08.14

野球ってなんで丸刈りなんだろう？
私は中学校の野球部に入部して強制的に丸刈りにされてからずっと疑問に思っていた。　しかし、指導する立場になって、なんとなくわかってきたような気がする。
段原クラブでは丸刈りを強制していない。スポーツするのにジャマにならないスッキリとした髪型にするように指導している。基本は私が判断している。
数日前、段原クラブ始まって以来「髪の毛を伸ばしたい」という理由で３年生が一人退部した。とても悲しくなった。
彼にとって野球は髪型以下のものだったのだ。そして両親もそれが彼のためだと判断したということである。確かに価値観は人それぞれであるので、それについては意見するつもりはない。

では、なぜ野球は丸刈りなのか？

私の２０数年の指導者としての経験から髪の毛や眉毛、私服などに時間や気持ちを使っている選手の特徴は、

１．練習中、試合中に集中力が続かない

２．練習時間外の一人でやる練習をしない、私語が多い

３．練習の準備、後片づけの手を抜く

４．指導者が見ていないとサボる

５．親が子供に遠慮して、親の仕事をしていない。

以上のようなことで野球が上達しないのである。

いろいろな事に気持ちがフラフラしていると子供は中々気持ちの切り替えが出来ず、野球に集中出来ないので丸刈りにした方が良いという考えのように思われる。

私は、精一杯、一生懸命、野球に取り組んでくれれば本当は髪型なんてどうでもいいのです。先に述べた通り、ある程度の基準がないと親が子供の管理を出来ないし、子供達も自己管理が出来ず歯止めが効かなくなってします。本来、必要がないのにチームで管理せざるおえないのです。

そんなルールが必要ないような選手達と一緒に野球がやりたいです。どんなに楽しい野球が出来るだろう。

ちなみに、先週のありえない敗戦の責任として私は丸刈りにしました。

第１０話/2012.08.06

この数試合、考えられない守備のミスが続いている。指導者として経験した事のないプレーばかりである。

内野フライ、外野フライを落球する。イージーな送球をミスする。外野手がヒットを後逸する。投手が簡単に四死球を出す。走ってくるとわかっている場面で盗塁される。

はっきり言って子供会の球技大会に出ているチームレベルである。20 年以上子供達の野球に関わっているが、こんなチームは初めてである。

なぜなのか？

毎日考えてもわからない。技術的な問題？平凡なフライの取り方、技術がいるのか。バッティングも同じである。平凡なストレートとコントロール。変化球はほとんどボールこういう投手からチャンスでストレートを空振りして三振する。

技術的な問題？中学生ですよ、何年も野球をやってきて、100 キロ程度のストレートをわかっていて空振り。

なぜ？

本当に今年は初めての事ばかり、本人が本気にならなければ指導者がどんなに必死になっても、何も身に付かないという事が良くわかった１年だったように思う。

それでも夢と目標を持ちグランドに来る子供達もいるので、その選手のためにあきらめず伝え続けるしかない。

心が体を動かすという事を痛感している。おとなしい良い子はグランドでは役に立たない。練習しない選手も同様である。

今週はグチばかりである。指導は本当にむずかしい。

第９話/2012.07.31

高校野球広島県大会が終わりました。
私がいつも言っている通り、一番正しい投げ方をしている投手、そして一番打球が外野に飛んでいったチームが優勝しました。
バントやエンドランやスクイズ、盗塁、出来るに越した事はありません。しかし全てはヒット以下でしかないのです。ヒットを打てるチームが一番強いのです。長打が打てればもっと強いのです。
今年もテレビ中継でフライを打ってアウトになると、ゴロを打った方が良いような事を言っている方がいました。
なんですか？野球は相手のミスを待つスポーツなのですか？悲しくなりました。相手が失敗しなければ勝てない野球、楽しいですか。私には考えられません。バットは下半身を使って強く振るものです。
全国で最近甲子園から遠ざかっている名門校と呼ばれている学校がたくさんあります。年々進歩している技術、考え方、練習方法に取り残されて結果です。
はっきり言うと古いのだと思います。
小、中学生の試合でもゴロを打つように指示している指導者を見かけます。
なぜ、わざとアウトになるのですか？何のためにバッティング練習をするのですか？強く遠くに打つためではないのですか。
指導者は子供達の夢をお手伝いするのです。
ぜひ、子供達の可能性を摘まないで下さい。

第８話/201207.23

高校野球の広島県大会が盛り上がっています。
結局、投手力が安定しているチームが勝ち上がっています。私は 90%以上投手の力で勝負がつくと思っています。
強いチームとは、まして甲子園に行けるチームとは、投手を育てる事が出来るチームだと思います。
30 年程前、池田高校が素晴らしいバッティングで高校野球を変えたように思われていますが、その時も畠山、水野という 2 年続けてドラフト 1 位で指名さるた投手がいたから勝つことが出来ました。バッティングだけでトーナメントを勝ち上がる事は出来ないのです。
私立の野球校と言われているチームが早々と県立高校に敗れていくのは、点をとられてしまうからです。
なぜ？
当然そういう高校は、中学生の時に力を持っていた投手を何人も引っ張って入学させているはずです。同じメンバーが中学生の時に試合をしていれば、間違いなく私立野球校のメンバーが圧勝する事でしょう。
それが 3 年間(本当は約 2 年間)の高校生活で負けてしまうのか。練習量も練習の環境にも差があるはずなのに野球とは本当に難しく、恐いものだと思います。

私は投手はフォームだと思っている。結局コントロールなのです。
正しいキャッチボールがピッチングの基本です。困った時にアウトコース低めにストレートを投げる事が出来る、これが投手の一番大事な能力だと思います。
正しいフォームを身に付け、体の力を強くしていくことにより、ケガをしないでスピードアップする事が出来ます。
結局、上手くなるためには、心と体を壊さないで練習する。こわさなければ必ず上手くなるのだから。特に心を壊さないで高校球児のみんな野球を楽しんで下さい。
それから段原クラブ出身の高校3年生のみんな、3年間本当にごくろうさまでした。特にベンチに入れなくても3年間頑張った選手達に頭が下がります。
ぜひ練習の手伝いに来て、後輩に心と技術を伝えて下さい。楽しみにしています。

第7話/2012.07.20

段原クラブの試合は監督からのサインが無い。
なぜかと言うと必要がないから。子供達は自分で考えバントが必要だと思えばバントをする。走れると思えば盗塁をする。わかなければ、指示を聞きにくる。
プロ野球選手にあこがれて夢を持って野球を始めた子供達のお手伝いをする。
それが指導者の役目である。
バント・エンドランが上手い、フォアボールを良く選ぶ、変化球を多投してバッターを打ちとる、プロ野球選手になれますか？
私は中学生がやらなければならない野球は、力強く、思い切ってバットを振る、積極的な走塁、アウトコース低目に速いボールを投げる事だと思っている。
それから操り人形ではなく自分自身で状況判断して行動する。間違ってもかまわない、大きなミスは出来るだけ早くにやらかした方が良い。そのために試合に負けてもかまわないと思っている。中学野球は通過点なのだからイニング、点差、アウトカウント、ランナー、打順を常に頭に入れて自分の判断でプレー出来る選手になって欲しいと思う。
そういう指導をしているつもりである。実際はとても難しいのでなかなか思い通りにならない。
操り人形はひもが切れると動かない。指導者は子供達の成長の邪魔をしないようにしなければいけない。親もしかりである。
上手くなりたいから自分で考えて、自分で練習して、自分で試合する。
そういう子供達を見ている時間が私は一番好きだ。

第6話/2012.07.11

7月7日（土）新人戦の1回戦で段原クラブはチーム史上初めて1回戦で負けた。
1対0
私はこの結果をまったく予想していなかった。
7 月の初めに新人戦というのは、私に言わせれば考えられない日程ではあるが、他のチームも同じであるので言い訳にはならない。特に 4 人ほどは旧チームから試合経験をしている選手がいるので、この 4 人で点をとる事は当然出来ると思っていた。もちろんそれだけの力を持っている

選手である。
しかし現実には、3,4,5 番バッターが何の役には立たなかった。なぜなのか？
3 年生を相手に試合の経験をして来た選手が同級生を相手に、力を出す事が出来ない、プレッシャー？小学校の頃からいやというほど試合ばかりしてきて今更プレッシャー、いくら練習しても、技術を身に付けても、どんな力があっても、それを試合のココ一番に出さなければ何もないのと同じである。
私は中高生の時、甲子園以外でプレッシャーを感じた事がないので、（打てないと思った投手にあった事がない）わからない。
指導者として技術を伝える事はある程度自信もあるが、心の問題はとても難しい。自分に経験のない事は勉強するしかない。
私の大きな課題である。

第５話/2012.07.02

ここのところ、週末の天気が悪く練習をグランドでするか、フルスイング塾にするか、決断がむずかしい。7 月 1 日の日曜日は南原の中電グランドで 1 日練習の予定。
新人戦が 7 日(土)にあるので 1、2 年生の今持っている力を見るためにも試合形式の練習をどうしてもやっておきたかった。しかしグランドに着いて見ると、思いのほかグランド状態が悪い。
そこへまた結構強い雨が降りあきらめかけましたが、必ず上がると信じて体育館でミーティングをして雨が上がるのを待った。昼前には雨は上がってくれたがグランドが心配だった。
しかし、父親達の頑張りのお陰で 2 面ともすばらしいグランド状態にしてもらい、ある程度思っていた練習をすることが出来た。
選手達には話をしたが色々な人達の協力、応援があり段原クラブは活動する事が出来ている。
この事を常に意識しながら感謝の気持ちを忘れることなく練習、試合に取り組まなければいけない。選手達に出来る事は、精一杯心を込めて野球をする事。それが感謝の心を表す事だと思う。
監督として子供達に全力をかたむけることで私は感謝の気持ちを伝えたいと思う。
本当にありがとうございます。

第４話/2012.06.25

6 月 23 日(土)瀬野川球場で試合があった。
私は 6 月になって試合ばかりで 1 日じっくり練習が出来ていなかったので、24 日(日)に 1 日練習が出来るように下級生と、普段投げるチャンスのない投手をつれて試合に行った。試合の経験の無い選手がどの程度力を出せるか見て見たかった。
1 年生は私の思いより堂々と出来て満足している。しかし 2 年生は結果にこだわり、思い切りと迫力がなく少し残念に思った。
それよりも私がもっと残念に思った事がある。
相手チームのショートの選手が、ランナー2 塁でケンセイのため 2 塁ベースに入った時、明らかに故意にランナーがベースタッチ出来ないように、体を入れあげくにお尻で押すようにしてベースを踏めないようにしタッチをしてアウトにした事である。段原のランナーは 1 年生で、遠慮す

るようにベースタッチ出来ずアウトになった。
　何が残念かというと、子供は自分の考えでそんなタッチプレーはしない。指導者からそうするように言われ、そんなプレーをするようになったのだと思う。もし指導していないのなら、私ならその場でその選手を呼び 2 度とそんな恥ずかしいプレーをしないように注意する。

　子供達に伝えなければいけないのは、試合に勝つためのテクニックではなく、本物の基本と速く力強いボール、スイング、走塁という個人の力をつけてあげることである。
　何が本当に子供達のためになるのか指導者はしっかり考えるべきである。
　もちろん私自身も常に考えていかなければいけないと思っている。

第 3 話/2012.06.18

　クラブチームってなんだろう？
　私が中学生の時は、学校のクラブ活動でしか野球をやれる環境がありませんでした。当たり前のように何も考える事も無く、中学校の野球部に入部しました。他になかったから良いも悪いもなく、野球をするためには、それしかなかったからです。
　今は、硬式も軟式もクラブチームがたくさんあり、強いチーム、そうでもないチーム、選手が多いチーム、少ないチームそして中学校の野球部、自由に選ぶ事が出来る。まして、小学校の時に何度でも何チームでも練習の体験が出来る。
　段原クラブも同様に何十人も体験にやって来る。チームを選ぶ基準は私にはわからないが、10 数人が毎年入部してくる。
　私はクラブチームに入部する選手は、親子ともども本気で、甲子園はもちろん、プロ野球を目指しているものだと思っていた。
　みんな 1 年生の頃は夢を持ち、それを目指して努力する。2 年、3 年となるにつれて気持ちが野球から離れていく子供が出てくる。
　私はクラブチームに入った親子は一生懸命やるのが当たり前だと思っている。
　なぜかというと、指導者は何の関係もない他人であり、報酬ももらっていない、大事な休日を他人のために使うのである。いい加減な選手のおかげで、その休日がつまらない一日になるのである。
　学校の先生は仕事である。報酬が発生するのでいい加減な子供も指導する義務がある。
　私の思いは本気で一生懸命やる親子と楽しく充実した一日を過ごしたい、それだけです。
　野球が上手い、下手は関係ないのです。
　私はグランドでは手を抜きません。当たり前です。選手も当たり前、親も当たり前だと思います。段原クラブに本気ではない親子はいりません。他にもたくさんチームがありますよ。
　指導者と考え方がちがう選手、親が同じチームでやるにはお互いに不幸だと思います。

第２話/2012.06.11

　またまた、全軟広島県大会準決勝で負けてしまった。３年連続である。
　３年連続で県大会に出場しているのは県内で段原クラブだけであるが、今年も監督の思い切り

のなさ、精神的な弱さが敗戦の原因をつくってしまった。
　３対１でリードされた５回表、無死１、２塁、バッター６番、今までの私なら当然ヒッティングでバントなどやらせる訳がない場面。なぜなら７、８番バッターよりも６番バッターの方が打つ確率が高いからだ。
　しかし、私は前日（１回戦）から６番バッターの覇気の無さにイラついていた。大事な試合中、自分の心をコントロール出来なかった事が選手交代、作戦の迷いにつながってしまった。
　今年も子供達の足を引っ張ってしまい、本当に申し訳ない。
　今年は例年に比べ、県大会の投手のレベルが低く、十分なチャンスがあったのに残念でならない。
　昨年 10 月に新チームのスタートを切ってから一冬を越し、確実にチームの力は上がっている。
　ケガ人が治り、３年生のチンピラの心が野球に集中し、監督がジャマをしなければ７月、８月の試合が楽しみだと思う。
　まず、私がしっかりしなければ！！

第１話/2012.06.07

　１年生の試合を何試合かしました。
段原クラブの１年生は結成以来毎年、ほとんど勝ったことがありません。
　なぜか？それは投手の変化球を禁止したり、３イニング以上投げさせないため、１試合で必ず３人の投手が投げます。当然、力のない投手も投げます。（投手希望者全員）そして試合では負けます。
　他チームの投手が変化球を投げたり、５イニング以上投げたりしているのを見ると、私は心配でなりません。練習試合の勝敗には全く興味がありません。
　３年生になった大事な試合で、そして高校野球で最高の力を発揮するために、練習そして練習試合があります。
　他チームの投手が故障しない事を祈ります。